教育・保育施設等における事故情報データベース【令和６年10月9日更新】

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7121	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	81				27	27	27			4	4	18. 6歳	2. 女児	
7122	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	10				6	4				1	1	17. 5歳	2. 女児	
7123	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	50				15	15	20			3	3	16. 4歳	2. 女児	
7124	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									1	1	18. 6歳	1. 男児	
7125	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42	3	9	9	7	7	7			16	13	15. 3歳	1. 男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7121	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	足関節捻挫	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1～2	1. 基準以上配置	－	危険個所の見直しと対策をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	－	－	引き続き定期的に点検を行う。
7122	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	雪面は状況が変わりやすく、また、場所によっても違う。事故当時もところどころが凍結して滑りやすく、気を付けていても転倒することがある、という意識が不十分だった。	気温や降雪による積雪や雪面の状況について、また、子どもたちの遊びの内容について保育教諭間で情報交換をし、安全面に関することは迅速に共通理解をする。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	－	やぐらに破損等はなく、今回の事故原因ではないため、改善策は無し
7123	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	1. 頭部	後頭部にヒビ	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	０～１	2. 基準配置	ひもの扱いに関する指導を、日ごろからしっかりすべきだった	各クラスでひもの扱いについて周知し、遊びの中でひっぱることがないよう目を配ると共に、子ども自身がそうした遊び方はしないよう意識していけるよう援助していく	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	各遊びのコーナーの間隔がもう少し広いとよかった	遊ぶ環境をより広くとれるような遊具の置き場所やコーナー設置に配慮して点検する
7124	2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	12	絵本棚の置き位置が子どもの動線上にあり、つまづきやすい状況になってしまった。	絵本棚の置き位置を変え、転倒防止に努める。
7125	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足甲骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1、2	2. 基準配置	保育者が畑や、砂場などそれぞれの場所にいた為、遊具に目が届く保育者がいなかった。	子ども達の動きに合わせて職員を配置し全体に目が届くようにすること。事前に職員間で動きを確認しておくこと。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園庭での自由遊びを楽しんでいた。利用人数も保育者の人数も少なく、好きな遊具で思い切り遊べる環境だった。近くに本児の行動をとめる保育者もいなかったため好奇心旺盛な性格の本児は高いところに上り柵を越え、自ら飛び降りた。	正しい遊具の使い方を日ごろから子どもたちへ伝えていき、保育者間でも共通理解をしていく。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7121	1. 集団活動中・見守りあり	坂道とコンクリートの境目に段差があったために起きた。	鬼ごっこなど走り回るものは園庭のような広い場所で行うよう指導する。	1. いつもどおりの様子であった	本児が走っている時、足をくねらせた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	足をくねった瞬間は職員はそばにいなかったので、本児が伝えに来るまで気付かなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児と別の遊びをしていたので見ていなかった。	－	その後の様子を見ていたが、いつも通り動いていたので骨折に気付かなかった。以前も怪我をした箇所だったので、こまめに経過を見るなどの対策をする。	
7122	1. 集団活動中・見守りあり	やぐら下の空間を生かした遊びを楽しむ最中に、やぐら下に置いたバケツを取りに行こうとし、足元に気を付けていたものの、凍結した雪面にて足を滑らせた。	陽が当たってザラメ雪になっている場所と日陰で凍っている部分があることなどを保育教諭間で確認すると共に、そうした場所による違いやそれに伴う危険性について子どもたちに知らせる。また、コーンを設置して注意を促すなど、子どもが安全に遊べるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	雪遊びを楽しんだり、寒さで水が氷る様に興味をもち、戸外遊びを満喫していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本児の姿は確認していたものの、転倒時は他児と関わっており見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちと共に園庭に出る準備をしていた。	園庭担当者2名のうち1名が、他児の援助をしていたことで予定より少し遅れて戸外へ出た。	・自由遊び時の園庭は保育教諭2名を配置しており、担当者は必ず定刻に出ることとする。・子どもへの援助等で定刻で出ることが難しい場合は、他の保育教諭へ依頼する。	
7123	3. 個人活動中・見守りあり	縄跳びひものコーナー近くに、平均台があったことも、ケガにつながる要因だった。	平均台を使用しない時は、壁側に寄せて設置し、遊ぶ環境をより広く安全に保てるようにすること。また、平均台付近は静的遊びのコーナーにするよう配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	普段通り、好きな遊びを見つけ、友達と楽しんでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	子どもたちの様子を気にかけながら、周囲の子どもたちと一緒に遊んでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子を気にかけながら、他の遊びをしている子どもたちと遊んでした。	危険な遊び方や、状況になっていないか、より目を配ると良かった。	危険な状況がないか目を配り、気づいた時には、すぐに環境を変更するなど、迅速な対応を日頃からしていけるよう職員間で改めて共通理解する。	
7124	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	少し慌てて鞄を取りに行く姿が見られた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	先に集まっている園児の対応をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他業務のため、職員室にいた。	特になし	改めて慌てて鞄を取りに行かないように伝える。（室内での過ごし方）	
7125	1. 集団活動中・見守りあり	保育者も声をかけていたが、収穫した野菜を職員室へ運んでいる途中だったため目が行き届いていない状況だった。	常に動きを確認しバランスよく職員を配置するよう声を掛け合う。	1. いつもどおりの様子であった	園庭で遊ぶことを喜び、野菜を収穫したり遊具に乗って遊んだり楽しそうに遊ぶ姿があった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	部屋へ入るよう全体へ声をかけ歩いていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員も４名で室内で給食配膳していた職員と園庭に出ていた職員とで分かれていた。	全体に指示を出していたため個々への配慮が手薄になってしまった。	保育者同士で声を掛け合い常に子どもから目を離さないようにする。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7126	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	34			20	14				3	3	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等の転落・落	2.なし	3.未実施	—	ホールでの遊びにおける所属職員の配置に工夫が必要であった。年中組がホールに行ったとき、ホールでは園に不少遊（21名）ほどの遊びを展開していたが、ボックスの遊びはテーブル●●●

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析　ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7130	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				9	6	8			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折（右腕）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全マットを全面に敷く	1.集団活動中・見守りあり	5歳児が遊んでいたところに、本児も加わった。保育教諭は補助についていなかった	・登り棒で遊ぶときには必ず保育教諭が補助に付く・合同保育中、保護者対応や職員体制が整わない場合は、登り棒で遊ばせない。遊ばない時の目印として、ポールを設置し子ども、職員が認識できるようにする	1.いつもどおりの様子であった	登り棒で遊んでいる５歳児がいたので、保育教諭に声をかけずに遊びに加わった	4.対象児の動きを見ていなかった	5歳児に登り棒の使用を許可したが、補助に付かず遊ばせたので、他の児童が遊びに加わった事に気が付かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応と子どもと一緒に遊んでいた為	登り棒の補助に付かなかった事や危険な状況がないか全体の状況を見る職員がいなかった	・全保育教諭にマニュアルの周知徹底を図る・全体をみる職員を配置する。そして、その業務に専念し、他からみても担当者が分かるように、ビブスを着用する	
7131	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				11	13	13			5	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右側橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	3.基準以下	—	職員体制、配置の見直しを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	195	1.定期的に実施	195	溝蓋に段差ができている。	・段差があることを全園児に周知する。・担当課に修繕依頼をする。	3.個人活動中・見守りあり	—	遊びを見つけ、楽しめるよう声かけや環境づくりを見直す。	1.いつもどおりの様子であった	・朝いつも通り元気な様子で登園してきた。・室内から、上靴のまま友達の所へ小走りで走っていた際に、インターロックで転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・室内で本児と他の園児らと遊んでいた。本児が室内から出ていくところを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・他児とインターロック付近で話し合いをしていた所に本児が、走ってきたため、転倒する姿を至近で見た。	本児は他の園児らが集まって話をしているのが気になり、上靴のまま走っていった。	外に行くときは必ず靴に履き替え、落ち着いて行動できるよう声かけをする。	
7132	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				16	15	16			4	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	職員数に余裕が出たら、基準以上の配置にする。	職員数に余裕が出たら、基準以上の配置にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	園庭の中央付近、何もない平な場所だったため、問題ない	安全な場所であるからと過信せず、常に子どもの動きに気を配る。	1.集団活動中・見守りあり	保育者の目が行き届かなかった	職員の強化	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友だちと鬼ごっこしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と別の場所で遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と別の場所で遊んでいた	—	注意して子どもの様子をみる	
7133	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	29									6	6	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	—	職員に対してマニュアルの周知・徹底を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	—	引き続き定期的な点検を行い、安全に使用できるよう確認する。	1.集団活動中・見守りあり	—	年齢発達における子どもの動きを改めて理解し、一人ひとりを視野に入れていくよう心掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	様々なことに興味があり、通過中のテラスにあった木の家に何気なく入ろうとしたところであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	戸外から室内への移動中であったため、子どもたち全体の把握はしていたものの、すぐ近くにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の子どもたちと順次移動しているところだった。	—	年齢発達における、興味や身体発達をより理解し、子どもたちの行動を近くで見守れるようにする。	
7134	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	39									2	2	17.5歳	2.女児		7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首の靭帯損傷剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	毎日	1.基準以上配置	慌てて移動をしたため、バランスを崩し足首を捻ってしまった。	階段は手すりを持ち降りること、落ち着いて降りることを徹底して指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	引き続き安全点検を行い、危険が無いように確認する。	7.その他	職員の配置	これまで以上に全体を見渡せるように職員の配置を改善する。	1.いつもどおりの様子であった	預かり保育の部屋へ歩いて移動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の移動を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の幼児の移動を見ていた。	—	これまで以上に全体を見渡せるように職員の配置を改善する。	
7135	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9				2	3	4			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	・左側下唇裂傷・左側上顎歯肉裂傷　・外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	子どもの特異な動きに対する危険度を改めて職員間で確認、周知。	室内の環境の再点検。箱椅子を踏み台として使わないこととする。踏み台を使う目安は、５歳児の目の高さに達した時、使えるのは５歳児のみとした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	—	ヒヤリハットの有効活用と分析。	室内においての細やかな点検と危険の周知。箱椅子の利用を限定し、５歳児の食事以外は使えないようにした。	1.集団活動中・見守りあり	椅子を踏み台に使おうとした時に、対応できれば良かった。	以上児、３クラスで子どもの転倒を防ぐ室内と園庭の環境設定について統一し、誰の見守りであっても同じ対応ができるように周知。	1.いつもどおりの様子であった	積み木遊びに集中していたが、先に踏み台(コンテナ)に上がった本児の兄に誘発され踏み台を使おうとしたようだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は他児の対応を.していたが、近くで本児の遊びの様子は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応について、もう一人の同室にいた職員は.担任から話をきいていた。	箱椅子を踏み台に使うことを、もう少し慎重に考えればよかった。	踏み台を使うタイミングや踏み台に使える椅子、年齢などを子どもと細かく話しあい、ルールの定着を図る。	
7136	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72					21	51			6	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	発生時、遊ぶ前に子ども達との安全な遊び方の確認・指導を行っていたが、その場にふさわしい遊び方を再確認していく必要がある。	子ども達の動きを予測し、どのような場面が考えられるか話し合い、援助・安全確認をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	日常的に利用している小学校運動場横の場所であるが、安全点検・その場での活動の内容を確認する。	安全点検の項目を見直し、子どもの行動を予測して安全点検をする。	1.集団活動中・見守りあり	全クラスの園児がその場にいる状態の時間で、走りまわっている子どもの動きが見えない場面ができてしまった。	自然環境の中での危険個所（樹木・根の張り具合等）きちんと把握して安全指導をする。活動の時間帯・利用人数の再確認をする。	1.いつもどおりの様子であった	ともだち6人で一緒に鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	その場に一緒にいたが、転んだ瞬間は見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い場所で、全体の動きを見ていたため、対象児が転んだ瞬間を見ていなかった。	広い場所で遊ぶ際の立ち位置、転びやすい場所の確認をする。	日常的に広い場所、目が届きにくい場所での子ども達の活発な動きに、どう対応するか、職員の立ち位置・分担を再確認していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7137	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3	1		2						1	1	15.３歳	1.男児	
7138	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	3	3	6	14	19	22			17	13	17.５歳	1.男児	
7139	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									3	2	16.４歳	1.男児	
7140	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									1	1	17.５歳	1.男児	
7141	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									2	2	16.４歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7137	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕ひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12/12	1.基準以上配置	３名の内２名と一緒に玩具の片付けをしており背後にいた本児の行動を見過ごした。	保育中は全員が視野に入る体勢と常に一人一人の行動を把握しておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	大型ブロックと段ボウルを組み立てた手作り遊具だったため油断し、安全の点検を怠った。	特に手作りの遊具や場の設定の場合、リスクが高いことを認識し細部にわたっての安全点検を怠らないこと。
7138	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	延長保育時間で対象児の担任ではない職員が保育を担当していて対象児の行動を予想できなかったことと、保育経験年数が浅く予見することも難しかった。	保育教諭は全体が見える場で危険を想定しながら子どもの行動を見なければならない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	鉄棒に破損や欠陥は見られない	気温も低く冷たくなっているので冬季の夕方延長保育時間は使用しない。
7139	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	順番に並び、自分の番がきたらラインに沿ってS字に走り、折返し地点のコーンをタッチする際に対象児が倒したため、そのコーンを立て直しているときに次の順番の他児が本児を抜いて走ったため、対象児が慌てて抜き返そうとし、二人が並走し接触した際に本児が転倒し事故となった。	順番とルールを整理し、子どもにもルールを理解させる。スタート地点、折返し地点に職員を配置し、プレイをしている子どもにトラブル等があった場合、次の順番の子どもをプレイさせない、同じコース内で二人以上プレイしないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	今回の事故には該当しない	今回の事故では特に該当しない
7140	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	中手骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	—	職員で点検計画を見直す。事故が起こった際の対応について話し合っておく、事故予防についても話し合う機会を設けてみる	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	—	園内の危険個所の見直しを行うとともに危険と思われる箇所は速やかに何らかの対応をする
7141	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折（全治３週間）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	職員配置は満たしていたものの、体育指導の際、跳び箱に１台につき職員が１名だった為、手厚い配慮が必要だったと思われる。	跳び箱１台につき職員配置を２名にする。	1.定期的に実施	296	1.定期的に実施	296	1.定期的に実施	52	こども達が成長している姿をふまえて跳び箱、ロイター板等の準備をしていたが、本児が強く踏み込んでしまい勢いがつき過ぎてしまった。	子どもの育ちにあったマット、跳び箱、ロイター板などを使用する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7137	1.集団活動中・見守りあり	大型ブロックに段ボウルを組み合わせた滑り台であるが、よく見ると土台になるブロックから２～３㎝ほど段ボールがはみ出ており、そこに足をかけてバランスを崩したと考えられる。	安全策のため床にマットは敷いていた。バランスを崩すと、どんな低いところから落ちても事故につながることの危険性を共通理解する。	1.いつもどおりの様子であった	本児はこの滑り台が好きで、よくここで遊んでいる。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は至近距離にいたものの、目を離し、本児の動きを把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	怪我の確認、原因が分からないときはビデオカメラで確認すること。 子どもの観察を十分にすること。	
7138	1.集団活動中・見守りあり	気温も低く柔軟な動きが出来にくい状態だった。	保育内容を見直す。報連相の仕方を統一する。子どもたちの話し合いの場を設ける。保育者の立ち位置は全体が把握できる場所でなければならない。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に乗り不安定な状況にある時に友達に押されバランスを崩して転落してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところで対象児を見ていたが、転落を予想できず転落を阻止することができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は昼寝をしていなかった。	当日は昼寝をしていなかった。	夕方延長保育時間には疲れも出て来ているので個々の状態にあった遊びをするようにする。	
7139	1.集団活動中・見守りあり	折返し地点に準備したコーンに子どもがタッチする際、コーンが倒れやすかったために、対象児にコーンに戻って立て直す作業をさせてしまい、次の順番の他児が追い抜くという状況を発生させてしまった。	スタート地点、折返し地点に職員を配置し、プレイをしている子どもにトラブル等があった場合、次の順番の他児をプレイさせない、同じコース内で二人以上プレイしないようにする。また、倒れにくいコーンを用意する。	1.いつもどおりの様子であった	倒れたコーンを元の位置に戻し、他児に追い抜かされそうになた為抜かそうと身体が少し接触してバランスを崩し転倒した	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで他児のトラブルがあっていた為対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	反対側のグループの対応（指導）を行っていた	事故発生前に順番待ちの所で「抜いた、抜かされた」のトラブルがあっており、プレイ中もその様な雰囲気があったのかもしれない。	・職員は全体が見える位置に立ち、他の職員としっかり連携をとる（他職員が個別対応している時は必ず一人は全体を見る）・トラブルが多いと感じた時や子どもの落ち着きがないと感じた際には、一時活動を止めるなどして落ち着く時間を作る。 ・プレイ中に何かあれば、次の子どもがプレイしないようにする。	
7140	1.集団活動中・見守りあり	—	見守り体制に問題がなかったか職員会議で話し合う	1.いつもどおりの様子であった	友だちと走って元気に遊んでいる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ソリをもって雪の上を他の子と歩いて転ぶ瞬間を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもと遊んでいて対象児、担当者の動きを見ていなかった	—	遊びの見守りの仕方等を見直す、雪遊びを仕方の見直し	
7141	1.集団活動中・見守りあり	安全面から前と左右にマットを敷いていたが、跳び箱に慣れてきていたことと跳べるようになったことで張り切って取り組んでいた。	子どもの育ちにあったマット、跳び箱、ロイター板などを使用する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱が跳べるようになり、張り切って練習に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安全確保のため職員の立ち位置、取り組み、援助の仕方を方を職員間で確認。事故発生時も確認した位置で安全確認・指導をしながら跳び箱を見守るが、対象児が着地して前に1回転してしまうのを救うのに間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の担当の跳び箱で園児を見守っていたため、対象児の行動把握までは難しかった。	こども達の次の行動や動きを予測して指導、援助をする必要性を感じる。	・体育指導の安全確認を再度徹底する。 ・体育指導時の職員配置の再確認を行う。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																							掲載
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生場所 時間帯	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ハード面 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7142	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34			18		16			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨遠位部骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	特になし	子どもの特性に合わせて、側についてのの見守りを実施しているが、引き続き注意していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	不備・不具合はなかったが、再度危険箇所がないか確認する。	1.集団活動中・見守り	特になし	今後も活動に注意する。	1.いつもお様子でもりあった	散歩に出かけようと出発したところであった。	3.対象児の離れたところで対象児を見ていた	散歩に出かける列の児の一番前で見守っていた。	1.担当者・対象児をいつでも見ていた(至近距離にいた)	散歩に出園の列の一番後ろで見守っていた。	特になし	児童の特性や身体能力などに留意した上で見守りを行う。	
7143	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	20								5	5	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	安全面には注意をしながら保育しているが、子思いがけない動きをすることが十分でない。	子ども達様子の注意みだがわってしまったり、特に抱っこしたり体を支えたりしている子どもの動きには十分に注意する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	テラスから保育室に入るに少し段差がある。	気をつけるよう知らせるが、必ずが見ていて通るように必ず保育者が見ていることを確認する。	3.個人活動中・見守り	保育室にいることを拒んだが、後から入ることを拒んだが、後から入ることを拒んだが、後から入

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7149	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	年1回程度	2.基準配置	小さめの低い滑り台だから大丈夫という誤った甘い認識があったのではないか。	滑り台等遊具の構造、子どもの動きの分析を全職員で行う、遊具使用時の安全確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	毎日	移動式の滑り台であるため、職員が子どもを把握できないのであればしまっておくこともできたのではないか。	一日の保育の流れを全職員が細かく把握し、遊具の位置を配置すること。	1.集団活動中・見守りあり	午後は子どもの動きが多少鈍くなるため、静かに過ごす環境構成が必要だったと考えられる。	おやつの後の活動の見直しを全クラス行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの元気な男の子であり、午前中も普段通り過ごした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り台は遊戯室前の広いスペースに設置しているが、遊戯室で遊んでいる園児が1名いたため、両方見れていなくて、一瞬目を離した際に事故が発生した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で他の園児の保育を行っていたため。	子どもの遊ぶ範囲が広く、職員の目が行き届かなかったのではないか。	滑り台を外しておくか、保育室等1か所で活動するようにする。	
7150	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	108			18	30	30	30			6	6	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1	2.基準配置	危険箇所の気づきに対する、日々の職員間での情報共有ができていなかった。(職員会議等での確認)	「ひやりはっと」ノートを作成し、気づいたことを皆で記入し、全職員が毎日目を通す。職員会議で配置と見守りについて再度周知し、確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	遊具周りの土が固いと、落下時の衝撃が大きい。	園庭前面および遊具下にやわらかい砂を補充した。(3/●)	3.個人活動中・見守りあり	個人活動(自由あそび)中は、異年齢児がおり、動きが更に活発になる。(人数が多い状況で確認しにくい状況になる)	異年齢児と遊んでいる場合は、園児の身体能力や理解度の違いなどが発生するため、遊びの様子を確認しつつ臨機応変に配置の工夫を行う。また、職員のみだけではなく、年長児が下級生の安全に注意をはらうなど、異年齢児との遊び方等の教育も行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	慣れ親しんだ遊具で、怖がる様子も無く、いつもどおり活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	視界に入る範囲には立っていたが、落下の瞬間は視線をはずして見逃しており、落下直後の泣き声で気づき、救助した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他にも視界に入る位置に立っていた職員もいたが、落下の瞬間を見ていた者はいなかった。	職員配置の位置に問題があり、遊具などによる死角があった。	立ち位置を決め、職員が重複しないように園庭全般を見守るようにした。	
7151	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									20	20	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		3	1.基準以上配置	手に羽子板を持って木登りをしていた	物を持って木に登ると危険なことを再度子ども達に伝え職員間でも共有した	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	地面が硬かった	マットを敷いた	3.個人活動中・見守りあり	木から離れた場所から見守っていた為、左手で持っている羽子板に気付かなかった	木に登っている子どもがいる時には手に何も持っていないか確認をする	1.いつもどおりの様子であった	羽根つきと木登りが本児にとって夢中になっている遊びであったため、同時にやりたいと考えやろうとした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	木の斜め右後ろの少し離れた場所から見守っており、木から落ちる瞬間は見ていなかったがその後本児が痛がる様子にすぐに気が付き対応した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には5歳児クラスしか出ていなかったため、担任職員以外はいなかった	本児はいつも木登りは安全に登ることができていた為、遠くから見守っていたが、本児がやろうとすることを予測しながら見守っていく必要があった	子どもと危険なことを確認しながら、子どもの動きを予測して見守っていく	
7152	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	36									6	6	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施		1	2.基準配置	子どもの行動について予測ができなかった。	子どもの行動パターンによる危険性を職員間で共有し対応策を検討する。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし。鉄棒等確認したが、不備が見られなかった。	子ども達の安全を考え、危険な箇所があったら直ぐに見直す。	1.集団活動中・見守りあり	周りの子が、鉄棒をしている状況を見て、ぼくもやってみよう、という気持ちになった。	周りの子につられて、遊び始める子がいるので注意して見る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒に飛び乗り、勢いがついてバランスを崩したのか、前方に回ると同時に手を放して転落した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・鉄棒から少し離れた所で見ていた・他の遊具の介助をしていた・ぶら下がって遊んでいる様子をみていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具に5人子どもとかけっこ1人給食の配膳に1人	危険度の高い遊具の方に介助に行けなかった。	鉄棒等、危険度が高いと思われる遊具には、できるだけ保育士を配置する。	
7153	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	現時点で報告なし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施		12	1.基準以上配置	—	防犯カメラの映像から、滑り台周辺の見守りについて話し合った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	310	—	開園当初から設置されている固定の滑り台で起きた初の事故であり、事実を共通理解し、危険が潜んでいることを再認識した。	1.集団活動中・見守りあり	—	滑り台に手をかけることについての危険について話し合った。	1.いつもどおりの様子であった	多動傾向がある児で、いつも通り落ち着かない様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	防犯カメラの映像から、事故直前までは、見ていたが、事故の瞬間は、他児と関わっていたため見ていない状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員もいつも気にかけて見ている児ではあるが、防犯カメラの映像から、事故直前までは、見ていたが、事故の瞬間は、他児と関わっていたため見ていない状態であった。	—	人的面での配置や配慮等を見直し、よりきめの細やかな保育を遂行していく話し合いを行った。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7154	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	113	6	16	23	25	24	19			16	16	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	ヒヤリハットの検討が足りない。	屋外活動などの際、必要に応じ職員室職員などが担任の補佐をし、安全確保を図る。 ヒヤリハットの検討内容等の充実と検討回数を多くする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	—	保育終了後、固定遊具や死角になりやすい場の確認と翌日の活動への留意点など朝礼にて周知。 毎週環境整備の日を設定し、園内の危険個所の改善や消毒、掃除、整理・整頓などを行う。	3. 個人活動中・見守りあり	リレーごっこの活動直後で疲れがあった。	毎日、体を動かすような活動の前には、ラジオ体操など準備運動をして体をほぐす。 個々の運動能力を見極め、体力の消耗具合・汗のかき方や表情などから判断し、活動を打ち切る等も考慮する。	1. いつもどおりの様子であった	熱もなく、元気な様子で登園。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故直前のリレーごっこについては対象児らの動きを見ていたが、リレー終了後には、動きのある他児の方に目をやる。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の動きの見守りをしていた。	全般が見られていなかった。	状況に応じ、クラス間で活動する場所のゾーニングを図り、職員間・園児とも遊ぶエリアーの認識及び危ない事・危なくない事の意識を共有し活動に入る。 活動内容に疑問や感じたこと等は声に出して職員間の連絡を密に取る。	
7155	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13				4	2	7			2	1	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	脛骨骨幹部不全骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	—	事故の要因となった遊具近辺に職員を配置する。	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	—	1. 定期的に実施	—	—	トランポリンから降りたときの衝撃を緩和するためマットを敷く。	3. 個人活動中・見守りあり	—	日常的に子どもたちと遊具の安全な遊び方について確認する。	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児に折り紙を教えていた。室内全体が見える場所に配置していたが、当該児の事故発生時は気付かなかった。 当該児の泣き声で事故に気付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルに対応していたため、見ていなかった。	事故発生までは年長児と一緒に遊んでいたが子ども同士のトラブルが起こったため遊びが中断されていた時に事故が起こった。	こどものトラブルが起きたときは預かり保育担当職員以外の職員が対応する。	
7156	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	27									4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右ひじ関節内骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	安全面には十分留意していたが、想定外の事故が起こる可能性を常に考えておく必要があった。	今回の事故内容を共通理解し、子どもの想定外の動きにも対応できるように努力する。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	毎日	遊具に不具合はなく、定期的な点検も行っていた。地面は人工芝であり、クッション性がある。	今後も遊具の定期点検を続けていく。	1. 集団活動中・見守りあり	保育を担当していた人数、園庭に出ていた園児数共に適切であった。	園児の予想外の動きを想定しながら保育に当たり、怪我の際には状況を確認し、怪我の見落としなどないようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	おにごっこ中で、早く逃げようと焦っていたため、注意散漫になった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	おにごっこの様子を見守っていたが、対象児の動きが速く、転倒時に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児と関わって遊んでいたため。	担当職員は全体を見守りながらも対象児を動きを把握していた。	今後も全体把握、個別配慮が必要な子どもの見守りを徹底していく。	
7157	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	22									2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節外踝剥離骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	0	1. 基準以上配置	園庭で遊んでいる際、タイヤ付近に保育教諭は配置していたが、当該児の乗っているタイヤの後に並んでいた園児がバランスを崩し、その拍子に当該園児を押すかたちとなった	タイヤの上で遊ぶ際は、間隔をあけて、ゆっくり渡るように事前に話す	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	タイヤの上での遊びだったので、落下リスクを配慮して遊ぶ必要がある	落下の仕方によっては、骨折のリスクも考慮して遊ばせる	1. 集団活動中・見守りあり	園児の落下後の確認をするが、本人の訴えも異常もなく発見できなかった	落下の仕方によっては重大事故になるので、十分な確認が必要である	1. いつもどおりの様子であった	友だちと一緒に楽しく遊んでいた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近で見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	周囲の遊具で遊ぶ園児に対応していた	園児の落下後の確認をするが、本人の訴えも異常もなく発見できなかった	落下後は、これまで以上に園児の様子を確認する必要がある	
7158	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	35									4	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		1. 基準以上配置	—	危険な箇所を確認する。遊べる箇所を職員で確認し、園児へ伝える。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	日々危険な箇所を確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	—	危険な箇所に近づかないよう徹底して声掛けをし、見守りをする。	1. いつもどおりの様子であった	登園時から普段と様子は変わらない、いつも通りの動きの中で、遊びに夢中になり、声掛け・注意からそれてしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	職員が注意しなければいけない箇所が複数あったため、注意が散漫になってしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が注意しなければいけない箇所が複数あったため、注意が散漫になってしまった。	—	声掛け・注意からそれてしまい、気が付いた時には落下していたので、遊ぶ範囲を縮小する。	
7159	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	30				15	15				4	3	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	前腕骨折全治4週間	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	研修内容の見直し。	日常保育の中で事故につながる可能性がある状況を常に話し合っていく。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	職員が安全に関する意識を高く持つ。	1. 集団活動中・見守りあり	活発に遊びたい時間帯であった。	年齢に応じた遊びの更なる工夫。	1. いつもどおりの様子であった	外遊びが好きで、いつも通り園庭に飛び出して遊んでいた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児と共に遊んでいた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子を見守りつつ、本児も視野に入っていた。	—	本児の運動能力等も配慮した遊び方等。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7160	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60			20	22		18			9	6	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊ぶ範囲が見守りできる範囲を超えていた。	ジャングルジムは３面あり全体を見るには人数が必要。職員の立ち位置とその時使用する面を決めて十分に見れる範囲を設定する。	1.いつもどおりの様子であった	他児とジャングルジムでいつも通り元気に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童の登っている面の近くにいたが、他児が泣いたので、その児童の対応をしていたため落下の瞬間を目撃していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具のローラー滑り台に1名ブランコに1名ジャングルジム1名の配置で見守りを行っていた。	見守りの不十分。	園庭に出る子どもの人数、職員数を職員間で確認し、遊ぶ範囲や配置をする。	
7161	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	76				22	24	30			3	3	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施		2.基準配置	園庭が広く、基準配置の３人では園庭すべてに目を配るのは難しい。	学年や時期に応じて、クラス担任が使用できる遊具を決め指導を行っているが、確認の意味で遊具指導の回数を増やすこと。また、職員全体で使用可能な遊具や使い方等の共通理解を図ること。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	特になし	遊具の安全点検を引き続き行う。また、落下した場合を想定して、遊具下の砂の量を日常的に気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	異年齢児の戸外あそびでは、遊びの幅が大きいし、年長児の真似をして能力以上の動きに挑戦してしまう年少児もいるため、遊具遊びに注意すること。また、職員の目が離れがちな状態の時は、使用遊具の制限もすること。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり活発に園庭を走り回り遊具にも登っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	一番近くにいた職員は、他の園児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれに離れた場所で、別の園児と遊んだり対応したりしていた。	特になし	担当職員同士の動きにも気を配り、ひとりは全体を見るようにする。	
7162	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47									3	3	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左11肋骨骨折　全治3週間	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故のあった遊具には人員配置はしていたが、他児の対応をしていたため、事故の瞬間は見ることができなかった。	遊具の危険個所の園児への周知のための子ども用注意表示の掲示と人員の配置個所の見直しを行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	遊具の注意個所の把握が十分でなかった。	注意個所での安全使用方法の改善(遊具では走らない 複数からの出入口を制限する鎖やコーンポストの設置 遊具では走らないとまれ登らない飛び降りない等カーやシールを直接張り園児が目に見える方法で知らせることにした。	1.集団活動中・見守りあり	園児の姿が死角にならないような見守りの位置を考える	遊具の安全な使用方法を園児へわかりやすく周知し徹底する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	全体が遊び始める前に保育者Yが地面がぬかるんでいて転びやすくなっている事を伝え、走ることを禁止していたが、Aくんは衝動的に走ってしまうので個別で保育者Zが注意を何度かしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者Xは遊具の階段付近でずっと子どもの遊びを見守ってはいたが、向かいの木のお家で遊んでいた子どもたちに声を掛けられ、振り向き対応していた。その最中、Aくんと当該児は追いかけっこをしていたと思われる	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時の職員配置：保育教諭Y→ピロティ付近にて他児の怪我の手当て中 保育教諭Z→園舎裏側から遊具の方にかけて見回り中 保育教諭X→ピロティから園舎正面、遊具の方にかけて見回り中	危険行動の予測と園児への注意を徹底する	園児の見守り専用係を決め、見守りだけに専念する	
7163	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33					15	18			4	4	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	保育場面での留意がされておらずマニュアルの周知が不十分だった。	リスクマネジメントにて検討を行い、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	36	なし	床面における欠陥はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	友達と前後の間隔が十分に取れていなかった。	走る際に友達との距離を十分に取りながら走ることを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	マラソンをしている際に前を走っている子が転倒。転んだ子の足につまずき転ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・異年齢でマラソンを行っているため、走らない時は輪になって子ども達と座って見ていた ・もう1人は先頭を走っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	危険な箇所の近くに立ち、ぶつからないように注意を払っていた。	走っている子の様子を見る担当者が曖昧で転ぶ瞬間を止めることが出来なかった。	危険な箇所の近くに立つだけでなく、走っている子どもの様子を見て危険を回避する。	
7164	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	19									1	1	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	慌てて上履きを履き、履きながら歩きだして躓いた。	落ち着いた生活をするよう全体に呼び掛けた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	転んでぶつけた部分に緩衝材をつけた	3.個人活動中・見守りあり	—	分担監視体制を再確認	1.いつもどおりの様子であった	次の遊びに気を取られていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	保育体制の再確認	
7165	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31				6	12	13			3	2	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折、右手関節褥瘡	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	職員の立ち位置をこどもが全員目にはいるように注意する	職員同士声を掛け合い、立ち位置を確認。また、子供に背を向けない	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	3	遊具事態は安全。使い方を子どもたちに伝える	各学年にあった伝え方で、遊具の使い方を再確認	1.集団活動中・見守りあり	職員の立ち位置を考える	職員同士声を掛け合う	1.いつもどおりの様子であった	大好きな滑り台を楽しんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	いつも、滑り台を楽しんでいるので、大丈夫だと思った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の周りの子の保育をしていた	大丈夫だろうという思考になっていた	大丈夫だろうではなく、危ないかもしれないと考える	
7166	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	27									5	5	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特に無し	職員間での事故発生対応研修や、事故後の周知徹底を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特に無し	これからも定期的な施設の安全点検を行い事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特に無し	すぐに駆け寄る事ができるように職員の立ち位置場所を決めどこで誰が遊んでいるか把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から渡って遊んでいる丸太でバランスを崩し転落した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	１メートル離れた所で周辺一帯の見守りをしながら、他児の対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の職員の立ち位置場所で子どもの見守りと関りを行っていた。	特に無し	職員の立ち位置を十分確認するとともに、園児の転倒、転落が発生する場面を予期し、可能な限り事故が防げるように注意を払う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7167	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73				28	19	26			5	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	左足関節外側靱帯損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	自由保育中で、●組、●組、●組の園児、各クラスの職員が園庭に出ていた。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため特になし。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため。	1.集団活動中・見守りあり	朝の自由保育の時間であったため、多くの園児が園庭に出ていた。各クラスの担当職員が園庭に出ていたものの、事故発生を防止するのは難しい状況であった。	・転倒防止のため、靴を正確に履けているかなどを確認する。・職員は分散して子どもの行動に目を配る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、友人たちと楽しく鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児が園庭に出ており、他の園児の対応中であったため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児が園庭に出ており、他の園児の対応中であったため、見ていなかった。	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため。	
7168	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	32									2	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員の配置は決まっているが、子どもの行動によって、臨機応変に配置は変わるようにしなくてはいけなかった。	園庭での遊び方、ルールを再度確認し、全職員に周知した後、子どもたちにも伝えた。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	点検は毎日実施していたが、より丁寧に点検をしなくてはいけなかった。	園庭での職員の配置、子ども達の見守り方を全職員で再度検討した。	1.集団活動中・見守りあり	よそ見をして走った為。	園庭を走る時はしっかり前を向いて走るように伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	職員の近くで遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで様子を見ていて、声を掛けたが出合い頭にぶつかった為、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていたため、様子を見ていなかった。	園庭にいる職員は、自分の配置だけではなく全体も常に気にしていないといけなかった。	園庭での過ごし方を事故防止の係と再度検討し、全職員に周知し改善した。	
7169	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	32		5			27				4	4	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	保育者が危険個所を見ている意識がなかったとしても、児童から見れば「いるから大丈夫」との意識が働いてしまうことを考慮していなかった。	児童がどのように考えるかを意識し、職員の立つ位置および気を配るべき点などを考え、職員の共通認識として周知する。	3.未実施		3.未実施		3.未実施		日頃利用する公園だったため、本来であれば危険だと感じる場所で遊ばせてしまっていた。	事故発生場所で遊ぶことができる年齢を定め園内で共有するとともに、子どもたちへの注意喚起を園外保育の度に行うこととした。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちに対して保育士がいれば滑り台で滑ってよいと説明していたが、保育士がその場面を見ていなかった。	滑り台の下で、滑り台等を専門に見る保育士がいないときは遊ばないというルールを作り、保育士と子どもたちとに周知する。	1.いつもどおりの様子であった	特に病気やケガ等もなく、健康であり、また多事とトラブルがあった様子もなく、精神的にも安定している状態であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	●●公園の広場で他児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台の上にはいたが、他児を見守っており対象児が滑り台で遊んでいることは認識していなかった。	保育者がいる場合は滑り台で遊んでよいとしていたが、滑り台の上にいる保育者は滑り台を見るという意識はなく、上部の砂場で遊んでいる児童を見守っていた。しかし対象児から見れば、近くに保育者がいるから遊んでよいと考えてしまう位置であった。	滑り台の下に保育士がいる場合のみ滑り台で遊んでよいということを、保育士及び児童に対して周知徹底する。	
7170	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	ヒヤリハットマップの見直しを年1回行っているが、活用が薄かった。	職員会議や幼児会議等で、その都度ヒヤリハットの事例を報告し合いながら事故防止に努めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	逆上がり補助器具の設置場所が他の遊具と近く、その周辺が狭かった。	危険個所に対する環境の見直しを行い、逆上がり補助器具の設置場所が不適切と判断し器具を撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	狭い場所を急いで走り抜けようとしたため事故につながった。	クラスで園庭での遊び方を考える機会を設け、安全に遊べるよう指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から追いかけっこをして遊ぶことを好み、当日も友達と一緒に遊び始めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で追いかけっこをして遊んでいる姿を把握していたが、大型ブロックで遊ぶ幼児を見ていたため、対象児が逆上がり補助器具に躓いた瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ジャングルジム付近にいる加配児の動きを見守っていたため、本児の動きを見ていなかった	担任ではなくても、周りの幼児が安全に遊べているか、職員全体で幼児を見れると良かった。危機管理意識が薄かったのではないか。	園庭で遊ぶ際に、保育者の立ち位置や職員間の連携も密に図れるよう、再度クラスや学年で動きを整理していく。	
7171	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	新しい靴を履いており、履き慣れていなかった。	子ども達の体調や卒園前の高ぶった気持ちを受け止め、遊ぶ時間や場所に配慮していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭に溝ができやすい。	引き続き、定期的に安全点検を行っていく。	3.個人活動中・見守りあり	危険性を考え、保育内容や場所を考える必要があった。	子どもの体調を把握し、遊ぶ場所や時間に配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ中に他児が走っているところに立ち尽くしている姿があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	片付けの時間を知らせるために、離れたところにいた子どもの基から本児の所へ向かっている途中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育教諭1名で保育していたため、他保育教諭はいなかった。	保育教諭一人に対し、遊ぶ範囲が広かった。	子どもの体調や活動によって、保育に入る職員の人数を調整していく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員												ソフト面					ハード面								環境面				人的面							
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他													マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7172	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26		6	20				5		5	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手指)	左肘上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員配置は基準をしているが、進級により環境が慣れ多くなることを、園児を保育教諭が見守ることを考え、園児の立ち位置が適切でなければならない。また、危険箇所の立ち入りに対する注意深く見守り関わる必要がある。	園内の危険箇所を見直し、危険と思われるところは事故が起きないように改善するとともに、職員共有意識を持つ。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	普段からベンチの上に外遊びをしている子どもが、窓からベンチの上に足を外すあるため、15cmという段差を足を外すあるため、15cmという段差を足を外すあるため、15cmという段差を

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7177	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	70									5	5	18. 6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	着座し、足を入れ手すりをつかんで揺らすルールだったが、発達に即した遊び方について、遊び方の変化（地面に付くほど大きく揺らす）に対応ができていなかった。	マニュアルだけでなく、職員間で遊び方の変化を読み取り、情報交換を行い、適切に対応する。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	職員の情報共有はもちろん、保護者を含め、危険箇所を日常的にチェックし改善する。	1.集団活動中・見守りあり	ドッジボールの審判をしている背後で事故が起きたため、担任が見られていなかった。	それぞれの遊びをする子を見られるよう、視野を広げ、死角にならないような立ち位置をとる。	1.いつもどおりの様子であった	ウサギの遊具を勢いよく揺らしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は、ドッジボールの審判をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場とウサギの遊具の中間で見守っていた。	ドッジボールの審判をしている背後で事故が起きたため、担任が見られていなかった。	足を入れて乗る、揺らす加減を調整するなどの声かけが必要であった。保育者がそれぞれの遊びをしている子への見守りの意識を高める。	
7178	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	25									1	1	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	本児が最近サッカー遊びに興味を持ち、気持ちが先走り行動が伴わなかった	ボールを蹴るときは、落ち着いて蹴るよう声をかける	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	―	遊びの状況により、空間を確保する	1.集団活動中・見守りあり	―	子どもの遊び方について、安全であるかの確認を行う	1.いつもどおりの様子であった	―	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭の中央に立ち、子どもたち全体の遊びを見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には、担当職員一人が子どもの様子を見ていた	3歳児の担当職員は、通常2名の配置であるが全員4歳の誕生日を迎えており、子ども達も落ち着いて遊んでいたため、1人で見守っていた。	子ども・保育者の状況によっては、もう一人職員を配置する	
7179	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									4	4	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	日々のミーティング等で安全管理について共通確認を行うよう努めているが、全職員に対しての周知が不十分であった面がある。	全職員で安全な遊具の遊び方を再度確認し、園児にも再度指導を行う。戸外遊び時には、危険な遊び方をしている子にはその都度、丁寧に遊び方を指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	（数）回/年	遊具に破損等は見られない。パイプが滑りやすいことも無かった。園児の動きを見て、配慮する必要があった。	園児が事故を起こしそうな場所、状況においては、職員を配置し安全管理を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	他のクラスとの交流はなく、広場の見通しはよく全体を見ることは出来た。しかし、園児が落ち着かない等の様子が見られた際には、見守り担当者の人数を調整する必要があった。	園児の動きを見て、見守り担当者の人数を調整する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児は、雲梯ができるようになったばかりで楽しくなり、太鼓橋の下でも雲梯のように棒から棒へ渡ることを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばで対象児の動きを見ていたが、本児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていたため、担当者と対象児の動きを見ていなかった。	園児のそばにいた担当教諭はフリー保育教諭で、日頃の本児の様子を把握できていない面もあった。	フリー保育教諭に引き継ぐ際、園児の様子を伝える必要がある。また、対象園児の動きを見て、遊び方の注意喚起を再度行う必要があった。	
7180	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48				26		22			4	4	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4～5	1.基準以上配置	マニュアルに載っているような遊具の事故の可能性だけでなく、園が有する遊具でどのような事故が起こりやすいかの検討も必要。	職員会議等で定期的に事故防止マニュアルについて読み合わせを行う。自園で起きたヒヤリハットや事故について、職員会議で共有する。外部講師による研修を増やし、専門的な知識を身につける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	該当遊具は、懸垂運動系遊具である。遊具下にラバーマットを引いている。	ラバーマットの厚さが適しているか再度確認し、劣化が認められる際は交換する。	1.集団活動中・見守りあり	新学期初めであったが、対象日までに全園児向けに園庭の遊具の遊び方に関するお話を行っていなかった。	新学期始まってすぐ全園児向けにお話と、クラス毎に外遊びへ行く前に遊び方の注意や確認事項のお話を行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り園庭で友達と元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象遊具のうんてい付近でクラスの子と関わっていた。対象児が落下する瞬間も見ていたものの、対象児が静かに手を離して降りたように見えたため、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場や滑り台付近で各担当クラスの園児の様子を見守っていたため、見ていなかった。	―	遊具には必ず職員を配置した上で、転倒や転落に備えた位置に立つ。	
7181	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50	3	5	10	11	8	13			12	11	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	新年度初めの保育であることもあり、今年度の研修等実施はできていなかった。	・保育をする際は、常に全体を見渡せるよう職員を配置する。・研修以外でも、定期的にミーティング等で安全確認について共有する。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	約３	2.不定期に実施	約３	ある程度高さのある遊具であるため、見守りの職員を配置するべきだった。	遊具の撤去は現在検討していないため、子どもたちの状況を見ながら職員配置を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	進級当時の子どもたちの状況や体力を把握しきれていないまま外遊びをしてしまっていた。	・遊具付近に砂を盛り、落下の衝撃を和らげる。・状況により子どもの様子が変化することを念頭に置いて子どもの観察を注意深く行い、その子に合った遊びを提供する。	1.いつもどおりの様子であった	体調等いつもどおりの様子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	落下したはしごの近くで対象児含め活動中の園児の見守りをしていたが、別の遊具で遊ぶ園児の見守りをしていた際に対象児が落下し、手を差し伸べられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる園児の見守りをしており、対象児の動きを見切れなかった。	対象児に遊具で遊ぶ際の注意喚起(声掛け)をしきれていなかった。	遊ぶ前と遊んでいる最中に、遊具の使い方や遊び方をしっかりと伝え、安全面に考慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7182	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)											0	0	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	2	2.基準配置	保育時間以外だったため、シューズを履くよう配慮できなかった。	保育時間以外も園舎内ではシューズを履くよう指導する。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	待ち時間があったためお遊戯室に入って遊んでしまった。	保育者が配置できない場合は、使用しないようにする。	7.その他	保育時間外だったため、保護者任せしていた。	園内での子どもの安全な過ごし方を保護者に周知するとともに、子どもにもシューズを履く・お遊戯室等、靴下で走らないなど指導する。	1.いつもどおりの様子であった	保護者、姉と一緒に個人懇談の順番を待つ間、お遊戯室で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	個人懇談を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	個人懇談や保育の準備等をしていた。	保護者が一緒にいたため、職員を配置していなかった。	お遊戯室を使用する場合は、職員を配置する。	
7183	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	54				15	23	16			2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	職員は配置していても降り口から飛び降りる場面を阻止できない	遊具を開放する場合降り口に担当職員を配置し、声かけ見守り、飛び降り前に止める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	パーテーションを設置していなかった	パーテーションを登り口と降り口に置くことで、走って降り口に近づいたり、飛び降りたりする機会を無くす	1.集団活動中・見守りあり	飛び降りるかもしれない状況を予想できなかった	・職員間で安全に使用できるルールを確認する ・遊具の使い方を改めて子どもたちと確認し、降り口から飛び降りて怪我をする事故を予防する	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友達がいなかったので、一人で遊んでいる認識だった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	入り口側で見ていたが、降り口側には職員がいなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う場所の担当をしていた	遊具を開放した職員が、降り口側の職員に声をかけなかった	遊具を開放する場合、必ず声を掛け合う	
7184	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第５指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	—	園庭に異常はなかった。ボールも日頃使用しているもので特に異常はなかった。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	対象児がボールを投げあうことを担当職員（担任）に提案した。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児がボールを受け取りやすいように、担当職員（担任）は意識してゆっくりとボールを投げた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発生時に、４歳児担当職員が同じ第１園庭で4歳児と靴取りゲームをしていたが、担当職員（担任）と対象児の動きは見ていなかった。	担当職員（担任）は対象児のボールの扱い方などを知っており、配慮しながらボールを投げあっていた。	比較的やわらかい幼児用ボールを使用し、対象児に対して取りやすいようにゆっくり下からボールを投げており特になし。	
7185	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24				12		12			1	1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	乳歯外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	マットを出す時も子ども達に注意事項等の声掛けをする	全体に目を配り、子ども達の行動を把握する	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	マットは2枚しかなかった為せまい	マットを増やす	1.集団活動中・見守りあり	マットでジャンプをしている時、転んで顔を打つ	遊ぶ前に注意点を話し、保育者も全体把握をする	1.いつもどおりの様子であった	マットでジャンプをした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体把握をしながら、子ども達の活動にも目を配る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人て保育を行っていた	子ども達の活動により職員の配置を行う	職員の人数を増やす	
7186	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	マニアルの確認を行い、事故防止につなげる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	安全点検を全職員で確認し、園庭環境を整備する。	1.集団活動中・見守りあり	なし	遊びの場所の確保など、再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	元気に登園している。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから対象児の遊びの様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を把握しながらの保育で、本児が転んだ時点では、本児の動きを見ていない。	園庭の安全点検を毎日、これからも引き続き行って行きたい。	何もない所で、歩いていての怪我なので、今後も怪我をしないような体つくりの環境や指導の工夫を行っていく。	
7187	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64				24	23	17			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右第5指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	職員がドッジボールを行う準備をする際に、園児が手持無沙汰になりボール遊びが始まったと考えられる為、待ち方の工夫が必要だった。	座って待たせる。ボールを先に持たせない。周りをよく見て行動するように指導。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	（園庭に出る都度）	1.定期的に実施	12	遊び始めてボールが転がり、プランター付近まで二人で追いかけて行き衝突してしまった為。	幼児の特性を理解していく必要がある。また、二人で慌ててプランター近くに行かないように気をつけるよう指導する。	1.集団活動中・見守りあり	職員が準備している際、手持無沙汰になると、別のことで遊び出すこどもの特性に配慮していなかった面がある。	待っている園児に対して的確な指示を出す事。	1.いつもどおりの様子であった	日常と特に変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近距離で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭に他の職員が２名いたが、他の園児の対応をしていた為、事故を見ていなかった。	全体を見ながら他児を見ていたが、職員が分散して配置していた為、事故現場付近には１名の職員のみとなった。	全体を見ながら、近くの園児と関わるようにしていくことで、遠くにいる園児の危険も察知できるようにする。	
7188	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左手親指骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	220	1.定期的に実施	220	1.定期的に実施	220	なし	タオル掛けの転倒防止および交換を検討する。	4.個人活動中・子どものみ	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	ー	4.対象児の動きを見ていなかった	給食の片付けを行っている為、見ていることは困難である。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の片付けなどを行っている為、見ていることは困難である。	なし	なし	

No	初回掲載年月日	概要: 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期: 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制: 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳: 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの: 年齢	性別	特記事項	事故状況: 発生時状況	事故の転帰	死亡: 死因	負傷: 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面: マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面: 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面: 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面: 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7189	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	39				11	15	13			5	5	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	上腕骨顆状骨折（ぶつけた場所と折れた場所が違う）のような骨折についての知識が浅かった。	研修について、子どものけがについての内容を増やし、様々な可能性を考える。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	歩道での事故	歩道を現場検証したが、突起物等見受けられなかった。また、スペース的にも十分であった。	1.集団活動中・見守りあり	・友だちの足がひっかかった、歩道のちょっとしたくぼみにつまずいたなどの要因が挙げられるが、特定出来ていない。・友だちと手をつないでいたため、転倒時にうまくバランスをとることが出来なかったのかもしれない。・上腕骨顆状骨折は骨が未発達の乳幼児に多い骨折であると医師からの説明があった。	・様々な可能性を考え、出来る限りのリスクを減らせるよう、今後も散歩コースの下見や研修を行う。・危ないときにはつないだ手を放して受け身を取るなど、子ども達にも伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	散歩からの帰り道、友達と手をつないで歩道を歩いていた。体調・機嫌など普段と変わりなし。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもが列になって歩道を歩いており、担任は列の先頭付近で引率していた。職員が５名で間隔を取って子ども達の列に付き添っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒の瞬間は見ていないが、すぐに転倒したことに気が付いて様子を見に行った。自分で起き上がったが、腕を痛そうにしていたため声を掛けた。	腕に外傷がなかったため、肘内障や脱臼を疑った。	上腕顆上骨折のような骨折もあるという事を知り、様々な可能性を考えて対応する。	
7190	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	117			22	33	32	30			41	29	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下顎部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	8	1.基準以上配置	—	事故が起きないように、危険なところがあった場合はすぐに職員間で把握し、日頃から子どもの遊ぶ姿を予測し、事故防止に努める。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	—	施設や遊具、玩具の安全点検は必ず行っているので、今後も実施していく。	1.集団活動中・見守りあり	ジャングルジムで遊んでいる時に手が滑った。肘でジャングルジムを掴んだが、顎部を打ち、出血し、切り傷ができた。危険なことはしていなかったが、手が滑り、怪我をした。	遊具の遊び方を改めて確認し、遊具で遊んでいる時は手を離したり、危険なことをしたりしないことを改めて伝えた。また、保育者も子どもが遊んでいる様子を把握するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃と変わらず、元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムで遊んでいる様子を離れたところから見ていたため、手が滑った時の状況は確認することはできた。手を差し出す距離ではなかったがすぐに駆け寄り、対応ができた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で職員で見回る箇所が重ならないよう行っているため、他の遊具で遊ぶ、他児の様子を見回りしていた。	—	遊具の遊び方や約束事を確認して、子ども達が怪我をせずに遊べるように見守る必要がある。	
7191	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	15									3	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	職員会議で再度確認をする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	裏山での危機管理について職員間で確認し振り返りノートに危険場所を記入	1.集団活動中・見守りあり	慌ててしまった。	慌てないように声掛けをする。靴のサイズを確認、足腰を鍛える。	1.いつもどおりの様子であった	集合の呼びかけであわててしまい転んでしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集合場所に一人、全体を見渡せる場所に一人下に一人	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	裏山には3人他の職員は園庭、園内にいた。	—	裏山での危機管理について職員間で確認している	
7192	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6									4	4	9.8か月	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	右後頭部陥没骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故防止に関する研修内容の充実を図る必要性があると考察する。（新年度、新体制時等に見合った内容にする等）	ヒヤリハット、軽度事故報告、日々の振り返り等で現状を常時把握し、職員間で共有する。また、事故防止において、日常の様々な場面やその時期ならではの危険を想定し、対応策を検討する機会を作る等、研修内容の充実を図る。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	０歳児クラスは、発達過程上、転倒や衝突の多いクラスであると考察する。また、入園して間もない児童は、行動の予測がつきにくい為、保護者からの聞き取りを丁寧に行う等、児童の発達や癖、特徴をより注意深く認識しておく必要性がある。	子どもの発達にあった環境及び安心安全な環境になっているか物品等を常に見直し、改善ができる体制を整える。また、常に子ども一人ひとりの発達・成長過程について理解を深め、職員間で共有していく。	3.個人活動中・見守りあり	慣らし保育期間中の入園して間もない８か月の児童であった為、危険や突発的な行動を予測してより慎重に抱き上げる必要性があると分析する。	子どもを抱き上げる際や抱き上げて移動する際は、周囲の状況を注意深く確認したり、危険や突発的な行動を予測して安全に抱き上げることを意識する。	1.いつもどおりの様子であった	翌日から家庭保育で経過観察中。嘔吐や食欲不振等も特になく、あまり変わった様子はないとの報告を受けている。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児とマンツーマンの状態で接しており、転落後すぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の保育にあたっていた。	入園直後の児童はより一層の配慮が必要であると同時に、常に危険が伴うことを認識しておく必要性があったと分析する。	入園前に保護者から児童の様子を詳しく聞き取る等情報を共有し、新入園児に対する危険事項を再確認する。また、職員間の連携や子どもの発達状況を把握するため、日々の振り返り等を大切にし、安全意識を高めていく。	
7193	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					16	14			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	マニュアルや研修を定期的に職員で確認し周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	事故再発防止のため、事故が起きた場所の確認、職員への周知。	1.集団活動中・見守りあり	—	子どもたちにとって一日を過ごした疲れが出る時間帯であり、特に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず活発に戸外を走って遊ぶが、遊びに夢中になり周りが見えなくなることもあるため、注意が必要だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見守るほか、衝突などの危険が予想される場合は、状況に応じて声かけや制止が必要だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	普段の様子から怪我などのリスクが起こりやすい子に対しては、職員間で連携をとり、担当を決めるなどして見守ることが必要。	人数基準の範囲ではあったが、年度最終日の夕方であったため、卒園児、保護者への挨拶や次年度準備で落ち着かなかった。	子どもの安全対策を最優先にし、特に夕方の気忙しい時間帯の安全への配慮について職員一人ひとりに周知する。	
7194	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	33									3	3	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右足小指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2	1.基準以上配置	マニュアルの整備および周知・徹底の必要性。	職員に対してマニュアルの周知・徹底を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	定期的な点検をしっかりと行う。	引き続き定期的な点検を行い、安全に使用できるよう確認する。	1.集団活動中・見守りあり	午睡後の本児の状態。	午睡後、完全に目覚めているか等本人の状態の確認をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	寝起きにぼーっとすることがある。	4.対象児の動きを見ていなかった	布団から出て歩き、足をぶつける瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	着替え等、それぞれの場所で子どもたちと関わっていた。	職員間の連携の確認。	子どもたちの様子が全体的に視野に入るような職員同士の声掛けを行っていく。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																							掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事 うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7195	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									3	2	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	3.子どもどうしの衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	担任保育教諭2名のうち1名が振替休日のため、他保育教諭と保育補助の3名で保育していた。	2.基準配置	・担任保育教諭同士だけでなく、他保育教諭間でも連絡を密にする。 ・ヒヤリハット研修の回数を増やして、職員間で事故防止への共通理解を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	ロッカー角ていの縁が張った。 ロッカー角ション性保護材を装着する。	3.個人活動中・見ありり	園児テーブルのロッカーにあるロッカーにあるロッカーに近く、遊ぶ場所が狭い状況にあった。	テーブルの数を少なくし、置き場所ロッカーから離して遊びの場所のスペースを広くする。	1.いつもお様子であった	朝、登園して準備をし、遊びい始めた。	2.対象児の至近で対象児を見た	担任は他園児の準備物整理の見守りや連絡帳の確認をしながら、本児も様子も見ていたが、他園児との衝突を回避できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育教諭1名は、本児や他遊び園児の状況守りながら、遊びの環境を整備していた。	なし	担任、他保育教諭、保育補助と連携を密にし、部屋全体の園児の動向を把握し危険回避に努める。	
7196	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	54			14	15	25				11	7	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自転車・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	12	2.基準配置	どのような状況で危険があれば遊具で遊ぶのか、子どもの想定される行動の確認をきちんとヤッとした場面で遊具の検証が足りなかった。	遊具で遊ぶ子どもと関わってはいるが、周囲で遊び中の子どもを見渡せるように、子どもの様子を確認できる位置に立ち保育するようにする。 ・マニュアル今ころは整備は予定はいが、職員で検討する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	乾いた雨上がりで芝が濡れていたことで、滑って転ぶ可能性がある。 滑り止めの靴下を履いていない子どもが多くいるため、靴下を履いていない子どもに対して、滑り止めの靴下を履いていない子どもに対して、滑り止めの靴下を履いていない子どもに対して、滑り止めの

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7206	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3					2	1			2	2	17.5歳	2.女児	
7207	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	240	3	8	10	71	76	72			19	19	17.5歳	2.女児	
7208	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	240	3	8	10	71	76	72			19	19	18.6歳	1.男児	
7209	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									4	4	14.2歳	2.女児	
7210	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									3	3	15.3歳	2.女児	
7211	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					17	19			20	20	16.4歳	2.女児	
7212	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	17.5歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
7206	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	職員配置は基準に沿っていたが、ひとりが園児の至近距離にいれば走り出しを防止することが可能であったかもしれない。	園児が屋内を走らないよう指導を徹底する。そのような状況になった場合には、職員が間に入って止めるなど防止に努める。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3
7207	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	—	現在、研修の頻度が少なく、学期内で起きた事故内容を取り上げて研修を行っているため、事前に予想される事故を想定する機会を設けるようにする。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—
7208	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	2.顔面(口腔内含む)	打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	—	現在、研修の頻度が少なく、学期内で起きた事故内容を取り上げて研修を行っているため、事前に予想される事故を想定する機会を設けるようにする。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—
7209	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯牙打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	園内に緩みがなかったか考察する必要性を感じた	園内での事故予防に関して、職員間での共有を図っていきたい	2.不定期に実施	2～4	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	2～3
7210	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首とう骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12
7211	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	保育中に気が付いたことや、子ども達の動きから予測できる事故について話し合う。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4
7212	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕橈骨・尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	今後も子供の運動発達に応じた運動遊具の設定、介助についての研修、職員配置を継続する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7206	残っている園児の人数に対して、保育室が広い状況だった。	今回は物にぶつかったり滑ったわけではなかったが、今後も園児の活動の支障になったり事故につながりやすい物品を置かないなど、安全な環境作りに努める。	3.個人活動中・見守りあり	残っている園児の人数に対して、保育室が広い状況だった。そのためふざけて走り出すことが誘発された可能性はある。	今回は物にぶつかったり滑ったわけではなかったが、今後も園児の活動の支障になったり事故につながりやすい物品を置かないなど、安全な環境作りに努める。また、人数や時間帯によっては、２部屋の間の仕切りを閉めて、面積を区切る（適切な範囲で、狭くする）ことで落ち着いた環境を作るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から屋内、屋外ともに活発であり、この時もそうであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児3人の動きを視界に入れ、把握をしていたが、距離が数メートルあり、走り出しを止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児3人の動きを視界に入れ、把握をしていたが、視界を手元に落とした瞬間に転倒した。	園児にさらに近い位置にいれば、走り出しを止められた可能性はある。	今回は物にぶつかったり滑ったわけではなかったが、今後も園児の活動の支障になったり事故につながりやすい物品を置かないなど、安全な環境作りに努める。	
7207	—	平坦な道（コンクリート）や園庭等の障害物がない場所も子どもが転倒した時にどのような怪我に繋がるか予想して点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり	—	子どもが遊ぶ場所だけでなく、移動する道、子どもの動線を見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	室内で過ごす子どもたちを見守っていたため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭での自由遊びを見守っていたため。	—	子どもの姿を予想しながら常に全体把握を心掛けて見守る。また、必ず複数の目で見守るようにする。	
7208	—	平坦な道（コンクリート）や園庭等の障害物がない場所も子どもが転倒した時にどのような怪我に繋がるか予想して点検を行う。	3.個人活動中・見守りあり	—	園庭で見守る職員の立ち位置を細かく決めておき、職員間で連携を取りながらその日の状況に合わせて見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	室内で過ごす子どもたちを見守っていたため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、他の子供の対応をしていたため。	—	子どもの姿を予想しながら常に全体把握を心掛けて見守る。また、必ず複数の目で見守るようにする。	
7209	—	改善策なし	1.集団活動中・見守りあり	見守りのある中での活動ということで、事故の予測を遅らせてしまった可能性が考えられる	より適切な見守りを考慮する意識を持てるようにしていきたい	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故発生時、子ども達全体を見ていたため、対象児童の細かな動きまでは把握できていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	保育活動中、対象児の行動を十分に把握できていなかった可能性がある	職員の配置等、常に事故の危険性を考慮しながら保育にあたるようにしていきたい	
7210	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	動きはゆっくりでマイペースである。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	降園準備の全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をしていた	特になし	慌ただしい時間ではあるが、子どもの様子をしっかり見守り、連携をとりながら対応していく。	
7211	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	—	定期的に環境整備を行い、十分なスペースのある園庭なので環境的な改善は必要ない。	1.いつもどおりの様子であった	他児と園庭や築山にて追いかけっこをしていた。築山奥に設置してあるタイヤから飛び降りた際、他児の足の甲の上に乗ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児が安全に遊べるように見ていたが、対象児と距離があり見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の園児が園庭で遊んでいるのを見ており、対象児は見ていなかった。	築山は園庭の奥の方にあり、保育士からは見えにくい場所にあるため、対象児の動きが把握しにくかった。	保育士は、子どもたちの安全確認をしっかり行う。本児には、周囲に目を向けられるよう声をかけるとともに、全体にも遊びの約束を確認する。	
7212	特になし	今後も安全点検を継続する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も子供の運動発達に応じた運動遊具の設定を実施する	1.いつもどおりの様子であった	跳び箱３段が跳べるようになり、事故当日も意欲的に取り組んでいた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	跳び箱着地点すぐ横に位置していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の跳び箱を跳んでいる子供の介助を担当していた	特になし	子供の動きから目を離さないことを今後も周知、徹底する	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7219	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	45				21		24			5	4	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	—	事故の状況を共有し、危険を察知できる意識付けを行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	ほぼ毎日	鉄棒下のゴムマットだけでは怪我をを防ぎきれない。	ゴムマットの下に、砂を多く敷くようにする。	3. 個人活動中・見守りあり	友達の真似をしたいという本児の心の動きがあった。	一人一人の心の動きにも目配りして活動に関わることを徹底する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児が出来たことを自分も同じようにやってみたいという気持ちが強かったので、片付けを呼びかけられても活動を止めなかった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	片づけて園内に入る時間となり、周りの子ども達に声を掛けていたので、気持ちが本児に集中していなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一番近くにいた職員は、道具の片づけを行っていた。	—	先に園内に入った複数担任クラスから一人、外の片づけの見取りを行う。	
7220	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	95				32	33	30			9	9	15. 3歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨幹部骨折及び左橈骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	—	禁止している遊びや、ルール等を定期的に見直してマニュアルに盛り込み、職員全体研修にて再度共有徹底していく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	付近にある踏み台になるようなものを撤去する。	1. 集団活動中・見守りあり	塀に登らないというルールが転園後まもなく、当該園児にも周知されていなかった。	遊べる場所遊べない場所、危険な場所等明確にルールを決め、園児に共有する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	活発な性格であり、4月より園庭のある当園に転園されたことから、朝から活動的であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	見守りの配置職員は満たしていたが、塀に乗っていることを確認後、下りるよう呼びかけたが実際に近寄って抱き下ろすには間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守りの配置職員はいたが、他の場所をみており、怪我の現場を見ていなかった。	—	呼びかけに留まらず、必ずそばに行って抱き下ろす。職員同士でもこまめに声をかけあう。	
7221	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15				3	10	2			2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第5中足骨骨折、右母趾(第1)中足骨骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	子どもたち・職員間ともに土間は遊ぶ場所では無いところだという周知徹底が不足しており、遊んでいる子がいた場合はどのように関わるか、職員間でも話し合いが足りなかった。	職員間で話し合い、遊ぶ場所ではないということを共通認識し、マニュアルを改善した。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	本来、外(園庭)と中(室内)をつなぐ通路として使用中であり、自由に行き来が出来る状況であった。	本来遊ぶ場所ではないが通路としても使用していることで、不意の転倒に配慮し、柔らかい素材のマットを敷いた。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもの主体性を尊重しつつも、環境面の配慮が出来ていなかった。	遊んでいた場所は通路として子どもが出入りできる場所ではあるが、遊ぶための場所ではないという共通認識を教職員に周知し、今後この場所で遊び始めた場合は声掛けし、環境を整えていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ごっこ遊びをして押される前にも本児が作った玩具の取り合いが起こっており、その後のトラブルが発生しやすい状況だった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児を見取れる環境ではあったが、他の子どもの様子も合わせてみていたため、その瞬間は背を向け、目を離していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしていたため、対象児は見ていなかった。	子どもの前後の言動から次の行動を予測したり、子どもの興味関心や土間での遊び方を見取ることが不足していた。	遊び方等の見取りに関して、現場に関わる保育教諭で共有できるように話し合う。危険が予想される子どもに声掛けするタイミングや危険な場面の共通認識をもてるよう配慮する。	
7222	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	24									2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	特記事項なし	研修も職員配置も十分に行っていた為改善点なし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	12	特記事項なし	点検は十分に行っているため改善策なし	1. 集団活動中・見守りあり	本児が遠くを見ていたため、足元を見ていなかった可能性がある	遊びに夢中になっていても立つ位置などに気を付けられるように声を掛け、自分自身でも気を付けられるように指導を行う。	1. いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、普段と変わらない様子であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場全体を見ていた為、園児が落下する瞬間が見れず、補助に間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動場で他児の対応を行っていた	見守る園児の優先順位の見極めが出来ていなかった。	年長児だから大丈夫と思わず、遊具などの危険が伴う場所を重視して見れるようにする。	
7223	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	10									2	1	14. 2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	5. 下肢(足・足指)	左拇趾／第２足趾間裂創左母趾剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	—	園で発生した事故内容を振り返り、事例に基づいた研修を取り入れていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	安全点検内容を再検討し、必要箇所等を追加していく。 (今回の事故現場は安全点検箇所に含まれていた)	1. 集団活動中・見守りあり	—	活動に入る前の環境の確認や、職員の配置箇所など、事前確認を徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	おとなしい性格で、ブロックあそびは集中して遊ぶ。歌ったり、指遊びでの模倣を楽しむ。一人おしゃべりが止まらなくなる一方、聞き返すと小さな声になったり黙ってしまう事も多い。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が走ってくるのを待っていた。転倒箇所がちょうどカーブになっており、死角となる場所だったが、立ち位置からは約１～２メートルの範囲内だった為、泣いていることに気づくことが出来た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育者の視界から死角になる場所での転倒だった為、見えなかった。	—	活動内容に応じて、靴を履かせるなどの対応をしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7224	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				26	25				5	5	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折（全治2か月との診断)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数	1.基準以上配置	ジャングルジム様の大型遊具からの転落事故。これまでも当該遊具を「近くにいる職員が監視担当をすること」としていたが、誰が担当か、あいまいな部分があった。	・今回の事故を受け、大型遊具専門の担当者を配置。担当者はビブスを着用し、誰にでも一目で分かるようにする。・子どもにも「ビブスの先生がいない時は大型遊具は使えない」ことを徹底、子どもと大人の両面から安全対策を図る。・上記の件を安全管理マニュアルに追記、職員に周知する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	1	事故後、大型遊具自体を点検してみたが、安定性・ゆがみ等、不具合は見当たらなかった。	大型遊具担当職員は、遊具使用直前にも遊具自体の安全確認（雨で濡れてないか・安定しているか等）を行う。	1.集団活動中・見守りあり	事故当時、多くの子ども・保育者が園庭に出ていたが、明確な担当者がいなかった。	・大型遊具には必ず担当職員をつける。・すべての人から担当者が誰かわかるよう、専用ビブスを着用する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で園庭で元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	大型遊具周辺にいたが、他の子どもの所に行き、少し（数メートル）離れた際に落下事故が起きてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスごとに園児を見ており、担当者・対象児を見てはいなかった。	それまで特段問題がなかったことから、職員全体に大型遊具の危険性への認識が低かったことが考えられる。	事故後、各種会議（以上児職員会議・責任者会議・全体職員会議）で事故を検証。対策案（大型遊具担当職員の配置等）を講じた。	
7225	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	職員間の連携を密にし、安全面に見落しのないよう職員配置に配慮する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	園庭に出る階段付近に障害物や破損等がないか毎日点検する。	1.集団活動中・見守りあり	午後の時間帯は集中が切れやすく、足元の階段に注意が向かず、ぼんやりしていた可能性。	注意散漫になりやすい時間帯の戸外遊びが事故につながりやすいことを確認したうえで、戸外での職員配置・活動内容を考慮する。	1.いつもどおりの様子であった	下足置き場で長靴に履き替え、戸外に出る階段を降りようとする。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	（担任が先に園庭に出て）階段下で本児が階段を下りてくるのを見守っていたが、本児が階段を降り始めた時、一瞬で転倒し手を出したが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊んでいる子全体を見守っていた。本児が階段を下りてくる様子も見えたが、一瞬で転倒し、すぐ本児に駆け寄る。	本児が長靴をしっかり履いていたかどうか。（靴の中が不安定だった可能性）	下足置き場周辺で声掛け指導・安全確認をする。	
7226	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	34									3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	事故予防マニュアルを作成し、職員への周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	丸太遊具の高さを半分に切る。(約100cm➡50cm)	1.集団活動中・見守りあり	—	職員を丸太遊具などの段差のある遊具周辺に配置し、安全指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも自分で丸太遊具に登ったり降りたりして遊んでいたので、特に変わった行動はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が丸太の上に座っている姿を見守っていた。降りる際も立ち上がらずに足から降りたが、着地の際バランスを崩した瞬間すぐに手を伸ばしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見守っていて、本児が丸太に座っている姿も確認していたが、降りる瞬間気づかなかった。	本児が足元を見ずに降りた可能性。	戸外に出る前の安全点検。園児に安全な遊び方を指導。	
7227	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13				1	8	4			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	足腰を鍛えていくことが必要なため、教諭も体操等に興味関心をもつことが必要と感じる	いろいろな体操、足腰を鍛える運動を当園の体育講師に助言をいただくようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	障害物等ない場所であるため原因となるものがない。	ハード面での改善策はないと考えます。	1.集団活動中・見守りあり	当日、入園式であった。この日より前日まで行っていたお昼寝を終了していたので、疲れが残っていたと思われる。	お昼寝がとれない日は、活動の内容を考え、室内にもゆっくりと休めるような場所をつくり、身体を休ませることができるようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	前日、休みで病院に通っていたため、万全の体調でなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当日保育した子どもたちと一緒に過ごしていたが、トイレに行きたい子、お迎えに来た方への対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4月7日当日は、入園式のため、入園式を行い、片付け、次の日の準備にあたっていた。	体調不良・疲れが残っていたかもしれない。疲れ等なかったか、もっと確認すべきであった。	体調不良で欠席の次の日、長時間預かりの子どもには、15：30頃体調をもう一度確認するようにする。	
7228	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	14									1	1	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	マニュアルにのっとり、日々リスクを認識しながら業務に臨んでいるが、より意識づけが重要であると考える。	今回の事故を参考に、より充実した研修を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	鉄棒の下は土で比較的柔らかいと認識していたが、落下の仕方や部位によっては危険であると再認識している。	土ではなく、ゴムチップや芝生を敷き、鉄棒からの不慮の落下の際にもより安全対応できるようにする。業者と検討中。	1.集団活動中・見守りあり	環境面に関しては特になし。	活動内容や活動環境は適切だった。	1.いつもどおりの様子であった	体調に変わりなく登園していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の遊具の近くにポジションをとり、全体を見ていたため、鉄棒の近くにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年中クラスを担当職員が一人で見ていた。	鉄棒が好きな児が多く、瞬間的に児が鉄棒にたくさん集まることも多くある。	鉄棒遊びのルール（一人ずつ、鉄棒の上に座るために登らない。）を明確にし、園児も理解しやすいように保育教諭から伝える。	
7229	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6		3	3						3	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	送迎時で出入りが激しかった。	送迎時の人事体制を見直す。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	おもちゃ箱の配置	箱の撤去	3.個人活動中・見守りあり	遊具の置き場所	遊具の撤去と環境設定の見直し	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	子どもが背後にいてしまった。	子どもが背後にならないような人的配置を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7230	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	22									1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	A AB 外傷性亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	こども達の活動移行の際の職員の動きの見直しと、こども達への廊下の歩き方を再度伝えていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	長い直線の廊下は心理的に、こども達の走りたいという気持ちを生む	廊下の中央にマーカーコーンを置く等走りにくい環境を検討。また、翌年度の教室配置の変更も視野に入れて考えていく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	15：00頃おやつを食べ終わり、うがいへでかけた。うがいが終わり、教室へ戻る為、廊下を歩いている時に、後ろ向きに歩いていた子と衝突した。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつ後の清掃・片付けを行っており、本児の怪我をした瞬間を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当クラスは一人担任であった為、他の職員はいなかった	進級間もない時期でもある為、うがいや排泄に向かう際の、廊下の歩き方の伝え方の不足や保育教諭の配慮の不足	日頃より、全職員が廊下を前を向いて歩くことや走らないことを徹底して伝えていくと共に、保育教諭も十分配慮する。	
7231	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59				18	20	21			5	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕部外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	大型遊具の職員配置１名のマニュアルの内容が不十分だったと考えられる。	大型遊具の職員配置を１名→２名に見直し、マニュアルに記載する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		特になし	遊具提供会社とケガの情報を共有して、対応を仰いだ。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員間で対象遊具に起こりうる危険性について再度検討し、共通理解した。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	別の危険個所（トリックラダー）を見ており、対象児の動きを見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の個所を担当していた。	大型遊具に職員を１人配置していたが、別の危険個所（トリックラダー）を見ていた。	大型遊具使用の際は、職員を２名配置し、クライミングウォールとトリックラダーの危険個所２箇所を見るようにする。	
7232	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	63									4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	事故発生時転倒の瞬間を見ていなかった。	職員間で連携し、子どもの活動の把握を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12回以上	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	転倒しやすい場所や怪我につながりやすい場面を子どもたちと確認し合う	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は近くにいたものの、他の園児の対応していたため、本児が転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配担当者は加配児を見ていた。	対象児が転倒する瞬間を見ていなかった。	他の職員と連携し、園児の細やかな観察を行う。	
7233	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	101					42	59			9	9	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕尺骨骨折、橈骨脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	本児が他児の様子を見て、鉄棒をやってみたいという気持ちが高ぶっていた。	やってみたい気持ちを受け止めながらも、気持ちを落ち着けるように言葉をかけていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	本児に対して鉄棒の高さが高かった。	固定遊具を使う際は、園児の発達や体の大きさに合ったものか確認する。	3.個人活動中・見守りあり	危険性を考慮し、保育内容を考えたり使う固定遊具を制限する必要があった。	子どもの発達をよく把握し、発達に合った遊び方を提案していく。	1.いつもどおりの様子であった	他児が鉄棒をしている様子を見て、興味をもっていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	保育教諭が本児の脇を支えて、前回りをさせるため鉄棒に乗せた。回ろうとしている際にも、近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスの園児の遊びを見ていた。	保育教諭1人に対して、3人の園児が鉄棒で遊んでおり、他児も見ていた。	鉄棒の内容によって、個別に見れるように、園児の人数を制限する。	
7234	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52				26	26				5	5	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首ひび（全治1か月程度との診断）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数回	1.基準以上配置	ジャングルジム様の大型遊具からの転落事故。これまで、当該遊具の近くにいる職員が安全確認することとしていたが、誰が担当か曖昧な部分があった。	・この事故を受け、大型遊具専任担当者を配置。担当者はビブスを着用、だれでも存在の有無を確認できるようにする。・子どもにも「ビブスの先生がいない時は大型遊具で遊べない」ことを徹底。子どもと大人の両面から安全対策を図る。・上記の件を安全管理マニュアルに追記し、全職員へ周知する。	1.定期的に実施	576	1.定期的に実施	576	2.不定期に実施	288	事故後、大型遊具自体を点検してみたが、安定性・ゆがみ等、不具合はなかった。	大型遊具担当職員は、遊具使用直前に遊具自体の安全確認（雨で濡れていないか・安定しているか等）を行う。	1.集団活動中・見守りあり	事故当時、大型遊具周辺に明確な担当者がいなかった。	・大型遊具使用時は必ず専任職員を配置する。・専任職員の有無をすべての人が確認できるよう、当該職員は専用ビブスを着用する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気な様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	大型遊具の近くにはいたが、大型遊具だけに注目してはいなかった。（園庭全体を見ていた）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員もまた、自分の周辺または園庭全体を見ており、大型遊具だけを注視する職員はいなかった。	前年度まで、特に問題がなかったことから、職員全体に大型遊具の危険性への認識が低かった。	事故後、各種会議（以上児会議・責任者会議・全体職員会議）で事故を検証。対応策として、大型遊具使用時は必ず担当職員を配置することとした。	
7235	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5				3	2				1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘亀裂骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし。	勉強会や安全委員会を通して事故の検証を行い改善・予防に努めているため、特になし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし。	破損等今回の怪我につながる原因はなし。	3.個人活動中・見守りあり	待つことに飽きて遊び始めてしまった園児へ注意の声掛けが不足しており、近くで立って待っていた本児に衝突するという危険予知ができていなかったこと。	待っている時間が長くなることが予想されるときは、座って待つ声掛けをするなど、園児が落ち着いて待てるように言葉掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	身支度を終え他の園児の身支度が終わるのを待っている時間だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を含め当時5名の園児の降園準備の様子を見守っていた。		他の職員はいなかった。	ほかの園児が身支度を終えるまで並んで待つことになっていたが、おんぶをして遊んでいる園児への注意の声掛けができていなかった。	遊ぶ時間、準備時間、待ち時間などその時々のルールを子どもたちへ伝え、けじめある態度がとれるように指導していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況						事故誘因	事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名		ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7236	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	—	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		—	特になし	3.個人活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	転倒による事故で防ぐことはできなかったが、担任が本児の様子に気づいていたら、もっと早い対応が取れたと考える。	園児の様子にもっと気を配る、また何でも話せる関係づくりに努める。	
7237	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				10	10	10			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	—	全職員に事故の報告をし、状況や検証内容も伝え、危機意識を高めていった。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	鬼ごっこをする安全なスペースの保証。	今回は走ってきた三輪車との衝突であったが、乗っていない三輪車につまずくケースもあるので、速やかに片付けるよう、職員同士で徹底した。	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをしているところに三輪車の通り道があった。	いろいろなあそびがそこかしこで行われているので、三輪車の通り道での鬼ごっこなどは、職員の配置を変更したり、よく見ていられるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	しっぽ取り鬼ごっこで、鬼に追いかけられて必死で逃げていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところから、見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他クラスの職員が衝突の現場を見ていた。	—	あそびの見守りと危険の察知について職員の配置を見直す。	
7238	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50					20	30			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	人工呼吸器ユニット１１８番を設置し、定期的に園内研修。	園内研修にて全職員で事故防止マニュアル、事故発生時の対応の再確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	玩具の破損は、その都度、修理している。	全職員で、子ども達の安全心、安全について考慮し、連携していく。	1.集団活動中・見守りあり	—	園内研修、職員会議にて子ども達一人ひとりの発育や発達状況を把握し共通理解を深める。全職員の見守りの意識改革に取り組む。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	日頃は、虫探しや砂場遊びを好んでしていた。３歳児クラス時は、一歩橋に興味を示し手前に座ることを繰り返し楽しんでいたが，４歳児クラスになってから挑戦する姿は見られなかった。今回、関心を示し一歩橋の途中から座ったが、転倒して今回のけがになる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	Ａ職員：１５時30分頃からの園庭遊びは、お迎え保護者の対応もしつつ、全体的な見守りを行っていた。また、対象児が一歩橋に挑戦している姿も把握しており、離れたところから見守っていた。Ｂ職員：園児の着替えで、園庭にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	Ｃ職員、Ｄ職員は園庭全体の子ども達を、見守っていたが、Ａ職員の位置は、対象児が見えたが、他の職員からは見えていなかった。	—	保育教諭が子ども達一人ひとりの日常の言動、生活などの状態や家庭との連携を通して、発育や発達状況を把握共有し、園内外活動を見守り、場合によっては制止する。	
7239	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	116				38	34	44			13	9	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	—	木登りを行う際、落下防止の為、1対1で対応をしていく。その体制が難しい時は木登りを禁止する。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	—	引き続き点検を行っていく	3.個人活動中・見守りあり	—	園庭が広い為、見通しが更に良くなるように園庭整備を進めている。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に過ごしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くに居たが、転落時駆け寄ったが間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	木登りを行う際、落下防止の為、1対1で対応をしていく。その体制が難しい時は木登りを禁止する。	木登りを行う際、落下防止の為、1対1で対応をしていく。その体制が難しい時は木登りを禁止する。	園庭で活動時の職員の人数により使える範囲を決めていく。	
7240	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	1.基準以上配置	今年度、職員会議等で危機管理マニュアルの共通理解ができていなかったため、職員の危機管理に対する意識が薄くなっていた。	危機管理マニュアルをもとに園の危機管理について会議を行い共通理解をする。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園児のサーキット遊びの経験の差があることから、保育教諭は全体にも目を向けていたため、本児が巧技台から飛び降りまだマットから降りないうちにすぐ次の児が飛び降りると危険ということの指導、援助ができなかった。	保育者の補助が必要であったはしごや平均台を保育教諭が付かなくても遊べる遊具に組み替え、全体を見て対応する保育教諭を増やすことで巧技台に付く保育教諭は巧技台ジャンプの指導と安全に集中する。	1.いつもどおりの様子であった	サーキット遊びを繰り返し楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	巧技台の近くにはいたが全体の園児の様子を見ていて巧技台を巧技する本児に注目して見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	はしごと平均台のところで1名ずつ補助を行い、１名は危険な遊び方をしていたり、走り回る児を遊びに誘ったりしていたため見ていなかった。	巧技台に付いていた保育教諭は、サーキット遊びに慣れていない園児のことが気になり、安全に巧技台ジャンプができるよう園児を指導、援助できていない時間があった。	保育教諭は担当している巧技台で安全に遊ぶ補助を行うとともに、かつ全体に目を向ける意識を持つ。また複数の保育者のそれぞれの役割を見直し、必要であればサーキット遊びの組み合わせ内容を見直す。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7241	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	3	18							8	8	13. 1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上口唇部裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	予測しきれない事態への対応を心がける必要がある	子どもの発達に応じた動きを職員間で確認し、危険性を事前に共有する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	床が滑りやすい場所でなかったか、事前に確認する必要がある	滑りやすい部分には、処置を施す	1.集団活動中・見守りあり	一人一人の歩行の発達状況にあわせた動きを予想できていなかった	一人一人の見守り方を周知する	1.いつもどおりの様子であった	本児が好きなところへ行き、探索を楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	各所に配置していた遊具に保育教諭は配置していたが、本児に手を差し伸べることができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	離れた場所の遊具についていたので、手を差し伸べられなかった	保育教諭の人数は揃っていたが、事故が発生してしまったので見直しが必要と考える	子どもたちの行動や事故予測に対し、日頃から職員間で話し合い安全に遊べるように心がける	
7242	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	93									10	10	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環小指中手骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1〜2	1.基準以上配置	園外保育はいつも以上に子どもの様子を見ていく必要があるという意識が低かった。	公園下見の際、予測出来る行動を詳細に割り出していく。遊具に付くだけではなく、危険な箇所を把握して重点的に見ていく。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	2.不定期に実施	12	特になし。	遊ぶ前に点検をしたが異常なく、遊具に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	いつもより興奮気味の子ども達を落ち着かせる声掛けが不足していた。	事前に子ども達全員へ向けて、約束事の確認を行い安全に遊べるように見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外保育でいつもと違う環境に少し興奮しており急ぐような行動が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	滑り台で遊んでいたことは認識しており、本児がいつもより興奮気味で、急いで滑り台を登ったことは見ていたが、転倒の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具には最低1人の保育教諭がつき、その他の保育教諭は公園の中をそれぞれ見回っていが、転倒の瞬間は見ていない。	2方向のすべり台に対して1名の配置だった。1名では死角があり見守りとしては不十分であった。	2方向、それぞれに付くよう2名の配置にする。遊具に適した人員配置にする。	
7243	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				7	5	7			4	4	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	今回の事例をマニュアルに明記するとともに全職員にも周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	戸口付近に遊具を置かない。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	気温や園児の状況を見て、早めに扉を閉めて冷房を入れる。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでおり、これまでに事故は全くなかったので、今回の事故の予測がつかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の組の園児を中心に見守りを行っていた。	特になし	高い所等危ない場面になりそうな子どもへは早め早めの声掛けを行う。	
7244	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5									1	1	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	事故発生の場所、時間などを記録し、共有化する	職員環境(場の配置人数)を整える	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	子どもの人数確認、保育教諭の配置	1.いつもどおりの様子であった	普段通り元気に登園してきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	隣にある鉄棒を使っている園児がいたので、そちらの補助と見守りをしていたため、該当児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他にも園庭で遊んでいる園児がいたため、そちらを見ていて該当園児は見ていなかった。	特になし	雲梯を利用するときには必ず保育教諭がその場につくようにする。滑りやすくないか点検する。	
7245	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27									2	2	16. 4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	園庭での過ごし方を再度検討し、職員にも伝えた。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	園庭が滑りやすい箇所があった。	園庭の砂の部分は小石があったりして、滑りやすくなっている所もあるので、日々の点検でも注意するようにした。	1.集団活動中・見守りあり	—	園庭での子どもたちの見守り方も再度検討した。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと同じように園庭で遊んでいた。友達を追いかけていき転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で遊んでいたので、他の子ども達をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	園庭での過ごし方なども話し合いをし、改善した。	
7246	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	95				32	31	32			9	9	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	保育教諭が片付けなどを子どもたちと一緒にしているが、他の箇所まで目を配らせていなかった。	総合遊具等怪我をするリスクがある箇所で遊んでいる場合は、保育教諭が見守る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	雲梯の使用時の落下を考え、地面にはマットを敷いている。本児の発達状況も運動面も特に問題はなく、好んで日頃より雲梯遊びをしている。雲梯使用時にぶりがついていた為と落下時に体のコントロールがうまくいかず肘をついた形で落下してしまった。	園児の落下を考え、地面にマットを敷いており、ハード面では特に問題はないと考える。	1.集団活動中・見守りあり	全体を見ながらではあるが、各コーナーに保育教諭が分散していた。	子どもたちがそれぞれの部屋へ入るまでは、全体を見る保育教諭を配置する	1.いつもどおりの様子であった	雲梯で2本とばしをしようとぶりをつけていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	各コーナーの片付けを子ども達としていたため、雲梯をしていた本児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各コーナーの片付けを子ども達としていたため、雲梯をしていた本児を見ていなかった。	各コーナーの片づけをしていたため、総合遊具などで遊んでいる子を見ていなかったため。	子どもたちがそれぞれの部屋へ入るまでは、全体を見る保育教諭を配置する。また、雲梯遊びの方法についても、子どもの力量にあった活動かどうか確認し、危険なようであれば声掛けをして行動を抑止をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7247	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49					20	29			4	4	17.5歳	1.男児	
7248	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105				52	53				8	8	15.3歳	1.男児	
7249	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	63				39	24				3	3	16.4歳	1.男児	
7250	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									3	3	16.4歳	1.男児	
7251	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21		1	20						3	3	15.3歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7247	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	園庭で遊ぶ子どもの監視、保育者の配置を改善する（危険な遊び方に気付ける配置）	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	—	特になし
7248	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	戸外遊び中の遊具の監視における危険察知の甘さが要因であると思われる。	職員の立ち位置、見守りの方法を再確認	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	戸外遊びの際、園児の年齢や配置職員の状況により危険が予測される遊具には、使用を禁止の掲示を行い注意を喚起する。
7249	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨幹部骨折らせん骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特記事項なし	研修も職員配置も十分に行っていた為改善点なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特記事項なし	点検は十分に行っているため改善点なし
7250	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	—	事故発生時の職員配置は十分に配置されていた。担任全員が本児の走っている状況を確認していた。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	—	ホールの柱などの危険個所にはマットを置き衝突しないように環境構成を行っていた。ホールの広さもあり、十分なスペースでリレーを行っていた。
7251	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2〜3	2.基準配置	園児が自由に好きな遊びをするのを見守るのも大切だが、安全面にもっと配慮が必要だった。	園児の遊びの行動範囲や職員配置を常日頃から決めておく。	2.不定期に実施	数回	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	未満児には危険と思われる高い方の雲梯のステップに園児が自由に登れる状況であり、園児の予想される危険な行動が認識不足だった。	高い方の雲梯のステップに小さい園児が登れないような工夫をする。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7247	3.個人活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	遊具から隣にある砂場テントの梁を目掛けて高くジャンプする遊びをしようとしていた。ジャンプした際、体勢を崩し、左腕から着地する状態になった。	4.対象児の動きを見ていなかった	・本児からは離れた場所の遊具で遊んでいる園児の見守りをしていた ・他の職員に呼ばれ、本児のケガを確認した ・保護者に連絡し受診を依頼した	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・本児が転倒した音に反応し、すぐに状況把握に努めた ・担当職員を呼んだ	—	子どもたちが死角に入らない位置、全体を見渡せる位置に職員を配置し、監視をする	
7248	1.集団活動中・見守りあり	戸外遊びの時間と給食配膳の時間が重なり、園庭配置の職員が午前11時30分より2名減っていた。	午前11時30分からは危険が予測される遊具の使用を取りやめ、ブランコも取り外すこととする。	1.いつもどおりの様子であった	●●によじ登り、滑り降りようとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ジャングルジムと●●の2か所を見守っていたが、他の遊びをしている園児に気を取られていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが側にいる園児を見ており、該当遊具を見ていなかった。	比較的低い遊具で事故の事例がなかったことから、危険性の認知度が低かった。	不自然な動きをしている園児をすぐに見つけることが出来るように、少し離れた位置より全体を見渡す役目の職員を配置する。ヒヤリハットマップの内容をさらに精査する。	
7249	1.集団活動中・見守りあり	年齢的にまだ危険かどうか判断できない部分があり今回の行動をとってしまった	どのようなことが危険行為になるのかその都度伝える	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく普段と変わらない様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児がいる場所は把握していたが、全体の見守りも行っていた為、落ちる瞬間には気付かず落ちた後の声気が付き間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	運動場で他児を見守っていた為気付かなかった。	全体を見ながらも、個々の動作で危険要素がないか確認できていなかった	危険行為だと分からずに行動することがあるので十分に気を付けながら見守りや声かけをする	
7250	1.集団活動中・見守りあり	—	担任全員で運動会練習を見守り、転倒の際はすぐに駆け寄った。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの練習が行われていた際転倒し手を床にぶつけた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	リレー競技練習中だったのでフィールド内で子ども達の様子をみていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リレー競技練習中だったのでフィールド内で子ども達の様子をみていた	—	担任がすぐに駆け寄り、負傷部分を確認。その際手の動き、痛みを確認し、在中の看護師にも負傷個所を見せに行き、手の動き、痛みなどを再確認した。	
7251	1.集団活動中・見守りあり	以上児向けの高さのある雲梯の側で、園児だけで遊んでいた。	固定遊具の側には必ず職員がつき、以上児向けの遊具には、小さな園児は行かないような配慮・工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの片づけが始まり、担任に声をかけられたが、姉（年長児）と一緒に遊んでおり、そのまま姉と一緒に大きい方の雲梯の側で遊び続けた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	片づけと同時にグループごとに園児を入室させるため、順番に数名ずつテラスへと誘導していた。ほとんどの園児が入室をした為、職員1名を残し、他の担任はクラス内へと入っており、事故が起きた時間は、園庭には担当職員は1人だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの園児たちも園庭遊びをしていたので、園庭には数名の職員がおり、雲梯から数M離れた滑り台の場所には年長の担任がいた。その際、雲梯の側で2名が遊んでいるのは、視界に入っていたが、本児が雲梯のステップから足を踏み外した瞬間には、間に合わなかった。	片づけからの入室の時間で、グループごとに園児を入室させており、ほとんどの職員が園児と一緒に園舎内に入ってしまい、園庭には十分な人数の保育教諭がいなかった。	入室の際は、クラスの園児をグループごとに入室させるのではなく、全員をテラスに集め、揃ったことを確認し、みんなで入室する。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7252	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	3	14. 2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	後頭部打撲傷 後頭骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	2.基準配置	寝起きの児を背負った状態から降ろすときの配慮が十分ではなかったのではないかと考えられる。	危険事項について、何が危険なのか具体的に見直しをして、保育の中で生かせるようにする。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	事故があった場所の床面が固いことから、２歳児が使用する幼児便所として、もし転倒した場合を考えると、マットの敷き方が不十分であった。	床面全体に屋内用マットを敷き詰め、危険と思われる場所を覆う。	1.集団活動中・見守りあり	午睡後、子どもを起こしたり排泄を促したりする中で、少し注意を怠った。	排泄指導時の職員連携や他学年との便所利用方法他再検討する。職員連携や危機管理について、全職員に周知を図る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	自分から背負われることを好む子どもであったため、午睡後背負って便所に連れて行き、排泄を促そうとした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人は同じ便所内にいたが他児の排泄指導をしていたため、見ていなかった。もう一人は、午睡の部屋でござを巻いたりするなど、午睡後の片付けをしていた。	完全に目が覚めていない子どもは、後から誘いに行くなど、職員同士声を掛けながら個々の状態に合わせて対応をすることが必要だった。	午睡後、いろいろな状態の子ども達がいるので、背負うのではなく、完全に目が覚めるまで待つなどの対応をする。	
7253	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									2	2	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	スタート、ゴール地点に職員を配置したが、子どもの状態について職員間で声掛けが不十分だった。	ゴール地点での子供の動きを予測し、声をかけ、安全にゴールできる走る速さを伝える必要性がある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	地面が乾燥していた。	地面が乾燥していた場合は、適量の水をまき、地面の様子を確かめる。	1.集団活動中・見守りあり	ゴール地点で足がもつれ転倒につながった。	安全にゴールするため、スピードを下げながら走ることを伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	4人1組でランニングしていた。3番手で走っていて、前にいた児童の後ろをついていくように走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育教諭はランニング出発地点に1名、ランニング終了地点付近に１名がいて、走っている子どもたちを見守っていた。終了地点にいた保育教諭を通り過ぎたところで転倒した。あまりにも急だったので支えるなどの対応ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスの職員がテラスにいたが、４歳児の行動の見守りを行っていたので、対象時の動きは見ていなかった。	ゴール直前でバランスを崩し、足がもつれて転倒した。	その日の子どもの気持ちの高揚の度合いを把握し、早めに声掛けし、無理なく取り組めるよう配慮していく。	
7254	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				3	7	5			1	1	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	遊び自体に極端に危険な要素はなかった。	遊戯室の環境、遊び方を再度検討する。	2.不定期に実施	２～３	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	木製の長椅子に破損部分は見られなかった。	無し	1.集団活動中・見守りあり	ベンチ型の木製長椅子は、普段から子どもが遊びの中で使用していた。	環境の構成、椅子の使用方法の見直しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	本人は、日頃から活発で小さなけがが多い傾向にある。6月●日には、鉄棒遊びをしている最中、ピョンピョンと跳び上がり前歯を強打。前歯は、指で押すと揺れる状態だったので、●●歯科を受診。レントゲンの結果、永久歯が乳歯の下にみられたため、ぶつけた衝撃で少し揺れた。生え変わる時期に重なっただけで問題はないとのことだった。処置は無し。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの近くで全体を見ていた。対象児が警察ごっこをしていることは認識していたが、けがにつながる様子はないと判断し特に注意する状況はなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	けが当時は人数も少なく一人で担当していた。	普段からけがの多い対象児の行動をもっと観察すべきだった。	今以上に対象児の行動、遊びの内容等を注意深く観察する。遊ぶ場所・保育士の配置等を見直す。	
7255	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58				17	21	20			4	4	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左肘)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	太鼓橋についての記載なし。	事故防止マニュアルに、太鼓橋について追加記載。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	事故が起きた場所（太鼓橋）が、コンクリートと石で出来ている。	太鼓橋で転ぶと危険なため、「走らない、気を付けて渡る」ということを伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちは、砂遊び、虫探し、ままごと遊び、集団遊び(かくれんぼ)等、思い思いに遊ぶ。職員の人数の少ない時の遊びとして、かくれんぼは適さない。	かくれんぼは、職員も隠れてしまうので、子どもの把握ができないので、やらない。子どもたちに、太鼓橋では走らないで渡る事を約束する。安全教育。	1.いつもどおりの様子であった	担任と10名ほどの園児とかくれんぼをしていたが、抜けてしまう。一人で走り回ることが多い。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は、園児らと一緒にかくれんぼを楽しんでいたが、本児が遊びから抜けた直前で視野から抜けてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名、●●川付近で虫探し。1名はおままごとをしていて本児に気が付かなかった。	時差出勤であり、この日の休暇の職員がいたため、職員の人数が少なかった。その人数での連携が取れていなかった。	園庭での配置、役割等、職員間での連携を取る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7256	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	48									2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2～5	2.基準配置	遊具の遊び方のルールの徹底の不足、目を向ける職員の立ち位置の配置不足	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン・園児を事故・災害から守る安全対策手引き	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	220	2.不定期に実施	12	滑り台の着地地点と中間地点には衝撃を和らげる素材にはなっていたが、転落した場所には、衝撃緩和が出来る地面にはなっていなかった	遊具の安全マットを滑り台の両サイドに敷き、転落時の衝撃の緩和が出来るように改善した	1.集団活動中・見守りあり	コーナー全体に職員の目が向けられるようにしていたが転倒を防げるような立ち位置には職員はいなかった	遊びのルールが定着するまでは、滑り台の傍には見守り職員を配置する	1.いつもどおりの様子であった	9時から通常保育	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見える位置のはいたが、他の遊具についていたため、そばについていることができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭にいたが、他児に目を向けていた	園児に遊ぶ時の約束を周知徹底出来ていなかった事、鬼ごっこの直後に遊具を使用した事で、他児に押されたことにより転落してしまった。活動の切り替えが出来ていなかった。	違う活動に移る際には、活動を一度止めてルールについて園児に伝える。ルールが定着するまではすぐそばで職員が目を向け見守りを行い、その都度、繰り返しルールを伝えていく事で、ルールの定着させる。	
7257	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									3	3	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	3名保育者がいたが、担当の列しか見れていなかった	全体を把握したうえで担当の列の補助を行う。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	マットの上で行っていたが、勢いがついてしまった。	エバーマットを使用しやわらかいマットの上で練習する	1.集団活動中・見守りあり	担当列の保育士が普段関わりのないこどもだったので、子供の状況判断が適切に行えなかった。	こどもの言葉だけではなく、担任の保育士に補助方法を聞く。	1.いつもどおりの様子であった	一人でできるという自信があり、保育士の補助を本人が拒否した。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	態勢が崩れそうになった時などに補助しようとしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児以外の園児をみていた	態勢が崩れた時にとっさに補助の手が出なかった。	こどもの言葉を信じきらずにこどものレベルを見て判断する	
7258	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				9	4	6			3	3	15. 3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	発生当時迎えが相次いだことや園児のトイレ対応があったが、職員同士のお互いの動きが十分把握できていなかった。	迎え等の対応があって離れる場合は必ず声をかけあう、フリーの職員にヘルプを求める等職員同士の連携を密にする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	おもちゃの取り合いが事故発生の前段階に起きていたため、おもちゃの種類や数も検討すべき。	おもちゃの取り合いが事故発生の前段階に起きていたため、おもちゃの種類や数を適切になるよう配慮する。	3.個人活動中・見守りあり	室内にコーナーを設け自由遊びを行っていたが、必ずしも職員が目を通しやすいコーナー配置となっていなかったと思われる。	コーナー配置について、職員が目を通しやすいように改善する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであったが、最近自己の主張が強くなりつつあり、他児とのトラブルも見受けられるようになっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	複数名で担当していたが、発生当時迎えが相次いだことや園児のトイレ対応が重なった中で、職員同士のお互いの動きが十分把握できおらず、結果室内の子ども全体の動きを十分に見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者以外の職員は隣の職員室等で作業をしており、見ていなかった。	目の前の対応に気をとられ、常に子どもの動きに注意を払うことが必ずしも十分ではなかったことが考えられる。	担当職員同士の声かけ・指示を徹底してお互いの動きを把握して園児管理を徹底することともに、園児全体の動きを見るように努め、トラブルが起こりそうな遊び等が見られる場合には事前に注意を促す等、園児への声かけも徹底する。	
7259	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	ひだり上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1～2	2.基準配置	—	今後もヒヤリハットはその都度提出し、当月には対策、翌月には検証の会議を実施していく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	280	雲梯の掴む鉄の棒の部分が滑りやすい状態にあったのではないか。	公共施設にある遊具で遊ぶ際には保育教諭が先に使用し、安全性を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	よく遊んでいる複合遊具であり、園児たちも遊び慣れていた。遊び方のルールなども伝えていたが、楽しい気持ちが高ぶっていたのではないか。	落ち着いて遊ぶことが出来るよう小休止を設けたり、他の子が遊ぶ様子を具体的に見ながら、危険のないような遊び方を園児たち自身で確認していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児自身雲梯が出来る事が得意である。雲梯の棒に右手でつかまり左腕を勢いをつけて後ろに振り上げた時につかんでいた右手がその勢いで離れた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児は雲梯が出来る事が得意であり、保育教諭が補助するのを嫌がるため傍で見守っていたが、落下する瞬間手を伸ばし受け止めようとしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	反対側の遊具で遊ぶ園児たちについていたため、見ていなかった。	本児が雲梯が得意なこともあり、保育教諭自身“出来るだろう”という過信があった。	本児自身のやりたい気持ちを認めつつもどの子に対しても危険な事が起こりうるという事を常に考えていく。	
7260	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26									2	2	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手拇指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	都度	2.基準配置	—	事故予防等の研修を受講する	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	靴箱の角辺りを斜めから強い力で押すと不安定になる	並列に3台並べてある靴箱を留め具でぐらつかないように固定	1.集団活動中・見守りあり	—	保護者が保育室前テラスに迎えにくるまで保育室内で待つことを徹底	1.いつもどおりの様子であった	迎え時間が時間が近づいてきたため落ち着かず保育室と廊下を行ったり来たりしていた。また、母がいつもより少し早めに来た姿を確認したため気持ちが高揚してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室内で待っている他の園児の対応に追われていたため廊下に出ていた児に気付くことができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で他児のトラブルの対応をしていたため	—	保育室内で迎えを待つことを徹底	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7261	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48				17	14	17			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節部骨折(上腕骨下部骨折)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	子ども達には、安全指導の中で鉄棒の遊び方についての指導を行っているが、鉄棒を目の前にした具体的な指導は行っていなかった。	・どこまでの遊びを可能とするのか、遊具毎に職員間で取り決めし、共通理解を図る。・子どもの遊んでいる状況に応じ、その時に必要だと思う遊び方の指導を具体的に行っていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	鉄棒の下に安全マットは敷いていたが、劣化が進み固くなっていた。	マットをより安全性の高いものに変更する。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの興味や関心による主体的な活動を行っていた。鉄棒の上に座って遊ぶ姿は、年長組の子ども達に以前から見られていて、運動機能の発達に伴い、そのような遊びにも挑戦したいという気持ちに共感してあげたい反面、危険が伴うのではと感じてもいて、子どもにどこまでの遊びを保障してあげたらよいのか悩むという段階での事故だった。	色々な固定遊具があるが、子ども達に年齢によってどの段階までの遊び方をさせるのか、させるとしたらどのような点に気をつけるのかを職員間で話し合い、共通理解をする。	1.いつもどおりの様子であった	戸外に出て友達と一緒に繰り返し鉄棒で遊んでいた。鉄棒でずっと遊んでいた中での出来事であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達の全体の様子が見られるような位置に立ち、見守っていたが、鉄棒から落ちる瞬間には気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子ども達の様子を見守りつつ、登園してきた子どもの対応や、環境を整えていた。	ずっと遊んでいたので鉄棒を握る力も、転落への注意力も落ちてきていたと思われるが、それに気づくことが出来ていなかった。	運動機能の発達と共に、色々な遊び方へチャレンジする意欲を大切にしながら遊び方に応じ、子どもに適切な働きかけができるようにしていく。	
7262	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	都度	2.基準配置	—	事故予防等の研修を受講する	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	—	安全な遊具の使い方について子どもたちと話し合うと共に職員間でも共通理解する	1.集団活動中・見守りあり	—	芝生の上に設置してあり、環境的には問題なしのため	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友達と2人で鉄棒に腰掛けおしゃべりをしていたが、鉄棒を握っていた手を離したためバランスを崩し鉄棒から落下してしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒をしている園児の安全を確保していたが、他児の補助をしていたため咄嗟に手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の遊びを見守っていた。	—	遊具を使う際の約束事を子どもに再度確認し、職員間でも周知する。	
7263	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6				3	2	1			6	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	乳児用遊具ということで、本児と共に保育教諭も無条件に安全であるという心理が働いていたのではないか。	園庭での活動の際、全体を把握する職員を一人確保することとした。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		落下防止マットを敷いているが、このことにより段差ができ、その箇所で手をついた可能性がある	落下防止マットが必要な高さではないが、設置していることで段差が生まれている。地面に埋め込む形にすることで段差の軽減を行った。	1.集団活動中・見守りあり	活動の切り替えのタイミングであり、同時に保護者の方の迎えの時間と重なるので、人の動きが活発になる状況であった。	時間に余裕を持ち、早目に園庭に出ることで保護者の方の迎えの時間と少しタイミングをずらし、落ち着いた雰囲気の中で活動の切り替えを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	午前中の遊び、給食もいつも通り活発に過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭に出てすぐのことであり、他児の靴の着脱や衣服のチェックを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員も自クラスの児童の靴の着脱をみていたり、迎えの時間ということもあり保護者対応にあたっていた。	園庭に出るタイミングと保護者の方の迎えのタイミングが重なることの多い時間帯であること	出来るだけ時間をずらすこと、また全体を見る職員を確保することの2つを行っていく。	
7264	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24									2	2	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	今回、クラスの中でも運動神経の良いこどもの事故でもあり、友達とぶつかったことで骨折してしまうということは、クラス全体の運動の方法や乳児からの転倒時の受け身の仕方等、身に着けていないことが考えられる。また、職員2名がたまたま、衝突時を見ていないということは、職員の外遊びでの立ち位置や子どもの様子を見守る点など職員同士で話し合わなければならないと思う	職員の外遊び時の配置のルールを決め、マニュアルを作る。また、乳児期から受け身の仕方身に着け、運動量を増やす	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	—	子ども同士での死角の事故のためハード面での改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	—	保育士の立ち位置により死角を作らないようにする	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく元気で活発的に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコの見守りをしていたため本児に対して視界に入っていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	門扉を開けるため視界から外れたため	—	園庭での外遊び時の保育士の立ち位置を考える	

| 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
7269	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55				24	31				5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
7270	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	31									5	3	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	(1) 左脛骨骨折 (2) 左足打撲傷	2.自らの転倒・衝突によるもの
7271	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	36	2	7	8	7	6	6			15	15	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
7272	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	110	4	9	19	25	19	34			17	16	16.4歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右環指中節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下
7273	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4		1	3						2	2	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右親指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
7274	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	47									3	3	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7269	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	転倒等の子どもの動きは常に予測され、転倒したピロティ付近は死角もある為、職員が意識的にピロティ付近に配置となるようにする。	転倒時の処置や、連絡・報告の仕方などについて共通理解を図る。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	転倒した場所は、軒下の柱があり、死角が多く、出会い頭にぶつかりそうになったりつまづいて転倒する危険がある。	危険が予想される場所について、掲示物などを通して子どもたちに知らせたり、どのように行動すればよいか、日ごろから確認したりする。
7270	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	ヒヤリハット予防を徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全点検簿にて、毎月確認
7271	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	ままごと道具やぬいぐるみが床に落ちていることが多い。	職員も整理するよう気をつけるほか、遊び方についての話し合いや問いかけを子どもたちに行う。子どもたちとも日ごろから約束事を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	5	ままごと道具やぬいぐるみが床に落ちていることが多い。	ままごと道具などが床に落ちた状態にならないよう、テーブルを準備するなど対応する
7272	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	—	子どもたちと遊具の使い方を再確認しながらも、常に保育者が見守れる環境づくりや、職員配置をしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子どもの動きや遊び方を見ながら安全であるか、また、遊具が危険ではないかの確認を常にしていく必要がある。
7273	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	マニュアル、研修、職員配置等の状況は適切だった	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	施設、設備等の状況は適切だった
7274	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	保育教諭の役割と配置について、配置基準上は満たしていたものの、子どもたちの特性に合わせた役割が明確になっていなかった。	再度KYT研修の実施とマニュアルの周知、保育教諭の役割分担と配置についての検討、登園後の保育内容を検討した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	特になし	ハード面に起因する事故ではないため、記入事項なし

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7269	3.個人活動中・見守りあり	園庭の砂が風により、ピロティに流され、床のレンガ素材が少し滑りやすくなる可能性がある。毎日、職員が掃いているものの、今後新しい職員とも連携して継続して行っていきたい。	園庭の環境にも慣れてきている時期だが、危険な場所や行動について、適宜話し合ったり、掲示物などで注意を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友だち数名と保育教諭一名と一緒に鬼ごっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と一緒に鬼ごっこをしていた。たまたま本児の近くにいたため、事故発生直後、ぶつけた箇所をすぐに確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で子どもたちと一緒に砂場で遊んだり、固定遊具の傍で見守りなどをしていた。	子どもに起こりがちな行動を予測して、安全面の点検を引き続き行っていく。	危険が予想される場所では、こまめに声掛けをする。	
7270	1.集団活動中・見守りあり	—	集団活動中は、全職員で全園児の安全を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	リズム室で避難訓練後、排泄をするため順番を待っていた際、走って転倒してしまい左足を痛めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を至近で見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助の職員も配置しており至近で、見守っていた。	—	園児が走ったりしないよう呼びかけ、ケガの防止に努める。	
7271	1.集団活動中・見守りあり	遊び方の説明やルールにおいての指導不足。	その日の状況に合わせて、見守り教諭の人数を増やしたり責任者を決めたりする。	1.いつもどおりの様子であった	ままごとセットやぬいぐるみを使って大好きなままごと遊びを友達と一緒に楽しんでいた。時々走り回る様子が見られた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を把握するよう見守りを行っていたため、マンツーマンの状況ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を把握、また事務作業中であった。	特質をもった子どもであると認識が欠けており、とっさの行動に対応できなかった。	保育教諭で特質をもった子どもであるとの認識を共有し、行動に注意する。	
7272	1.集団活動中・見守りあり	遊具を回すことで遠心力がつき、子どもが飛ばされてしまうことがある。	遊具を回しすぎないよう、子どもたちにも伝えながらも、保育者が分散して、子どもを見守るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り本児は活発に友だちと会話しながら遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の近くにはいたが、ちょうど保護者のお迎え時と重なり、保護者との連絡や報告時で、本児から目を離していた際に事故が起こってしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	泣き声とともに、数名の保育者が駆け寄り、すぐに手当、病院へ受診した。	保護者対応に気を取られすぎてしまった。	保護者対応の際、他の職員が全体に目を向け対応していく。または、職員の人数を増やす必要がある。	
7273	1.集団活動中・見守りあり	まだ運動機能が未熟な年齢でカウプ指数上太り気味だったため、気を付けて見る必要があった。	運動機能を高める遊びを取り入れ体を鍛える。	1.いつもどおりの様子であった	ホール内を一方向にぐるぐると回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体を動かしている園児全体の見守りを行っていたが、転ぶのは防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の職員は他児の対応をしていた。	—	特になし	
7274	1.集団活動中・見守りあり	保育教諭等の配置場所と役割分担が不十分であった。	KYT研修をもとに、保育教諭等の配置場所と役割分担を徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	特に状態の変化もなく、普段通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が死角になる場所で保育しており、他の保育教諭が連絡帳の確認をしていることに気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園時の保護者の対応や連絡帳の確認をしており、対象児の動きを見ていなかった。	保育教諭等の役割や配置について不明確であった。	保育教諭等の役割や配置を明確化する。また、配置から離れる場合には、他の保育教諭へ伝わるよう声をかけるよう徹底した。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7280	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	45	2	7	7	9	7	13			13	9	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	50	1.基準以上配置	今回の事故の発生時間帯における廊下の仕切り扉は通常は閉まっていて、残っている園児達は動き回れる場所・スペースが限定され、保護者のお迎えまで、限られたスペース（扉の内側）以外へは自由に出入り出来ず、担当保育者等の見守り等も機能するよう、保護者や教職員の出入りの際も"扉の施錠・開錠"を徹底する"仕組み"としていたが、たまたまスペースに入ろうとして開いたタイミングに対象児たちがエリア外に出てしまい、同時に3名が走って戻って来たときに起こってしまったもので、結果的には"仕組み"の機能が十分に働かなかったケースと考えられる。	預かり保育の時間帯だけではなく、廊下に設置している"仕切り扉を閉めている"場合の目的や使用方法等について、今一度、教職員に対して確認・共有するとともに、お迎えの保護者等へも告知し、事故の再発防止を図る。	2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施		特段なし	仕切り扉の使用方法を徹底。	7.その他	保護者のお迎えが集中する時間帯の見守り等の不徹底。	仕切り扉を閉めている場合の見守り等の強化。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	対象児及び一緒に遊んでいた園児は年長児であり、活発に動き回っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	閉めていた"観音開き"の扉が半分開いていて、対象児たちが出て行ったことに気付いていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時の半分開いていた扉の内側に対象児たち3名が走って入ってきて、対象児が転倒した場所の傍には担当保育士がいたが、転倒するまで対象児たちの動きに気付いていない。	特段なし	保護者のお迎えが集中する時間帯は、これまで以上に見守り等を徹底する。	
7281	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	19									2	2	17. 5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左拇指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	担当保育教諭が周りの事に気を取られ、机の脚を折り曲げるのに困っていた子ども達に対し、注意喚起の声をかけることや援助することができなかった。	事故が起こった要因や予防策について職員間で共有し、それぞれのクラスで予想できる危険因子について認識を高く持ち、対応していけるようにする。クラス全体を見守る意識を持つ。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	折りたたみ式机の脚のバネが硬くなっていることに対し、子どもの事故につながるとは予想できず、対策ができていなかった。	机の脚のバネの固いものは子どもが片づけることのないよう、職員が机を片づける年齢のクラスのものと交換した。	1.集団活動中・見守りあり	机を片づける前に本児は絵本を読んでいたため、遊びに戻りたい気持ちから片付けに集中できていなかったのではないか。	子どもが遊び始める前に机を片付けることができるように活動を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	健康面に問題もなく、情緒も安定しておりいつも通りであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	机を拭いたのち、他児に話しかけられ応答していた。視線の端に本児の姿は入っていたが、十分に見ることができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ室内の少し離れていたところにいたが、支援の必要な子の対応を行っていたため、本児の事は視界に入っていなかった。	机を片付けている時子どもの動きに注意を向ける意識が薄くなり、両手で支えることが望ましい机を本児が片手で支えていたことに気づかなかった。	机の片付け方をクラス全員に丁寧に指導し、確認をする。片付けている時は、常に見守り、危ない様子が見られたら、すぐに注意するようにする。	
7282	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	20									4	4	15. 3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1～2	1.基準以上配置	—	職員配置は基準を満たしていたが、職員は常に事故がおこるかもしれないという意識で子どもの動きを見ていくよう、職員研修を強化していく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	毎日	今回ぶら下がっていたバーはジャンプすれば足がすぐつく高さではあったが、バーの太さがあり親指をかけて握れないため滑りやすかったとも考えられる。	遊具の点検は毎日行なっており破損箇所などはなかったが、遊び方によっては危険も伴うということを全職員が意識して使用するよう改めて確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	—	安全なように思えても危険が伴うということを念頭に置くことが必要であると職員間で周知していく。	1.いつもどおりの様子であった	活発な本児で運動神経もよく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ近くにおり本児の遊びも見守っていた。本児なら大丈夫という思いで見てしまっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ遊具内に別の職員がいたが、すぐ近くではなかったため担当者・対象児の動きは見ていなかった。	立体的な遊具のためそれぞれの職員が離れて近くの子どもを見合っていた	職員同士で連携をとりながら全体の動きはどうか、危険はないか確認しあうことが必要。園内で事故を検証し遊具で遊ぶ際の見守りについて確認した。	
7283	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									2	2	14. 2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	玩具が何種類も出ていた為、床に散らばったブロックで足をとられたのではないか。	遊びの種類を考えて出し、室内を広く使用するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	床に座って一人でブロックで遊んでいた。他児とのトラブルもなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の近くで見ていたが、事故発生時は他の子どもと手遊びをしたり話をして遊んでいた為見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員は、他の子どもとままごとや絵本で遊んでいた為見ていない。	子どもたちがそれぞれに落ち着いて好きな遊びをしていた為、大丈夫だと思っていたこと。	落ち着いて遊んでいても全体に目を配り、一人一人が何をして遊んでいるかを常に把握しておくようにする。	
7284	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16				6	6	4			1	1	17. 5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	7.その他	日頃から保育の中で降園の挨拶後は園庭で遊ばずに降園するという園の約束をしているが、当日はしていなかった。	降園挨拶後は遊ばないことを重要事項説明書（入園のしおり）に掲載しているが、より保護者にわかりやすく掲示板等に掲示し、園児の安全への意識が持てるようにするとともに、園児への指導も行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りに過ごし、保護者の迎えが来たので担当の職員と挨拶をして降園しようとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室で降園前の児童の保育をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの保育室で保育を行っていた。	特になし	特になし	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7291	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	24									3	3	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3〜4	1. 基準以上配置	最初に転んだ時に、「手を動かすことができるから大丈夫だろう」と様子をみてしまった。	転倒や落下などで怪我を負ったときは軽視することなく、医療機関を受診し、医師の判断を仰ぐようにする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	—	怪我の報告の際、慌てて靴を脱いでしまい、二段の段差につまづいて手をついてしまった。	二段のあまり高さのない段差であり、修繕する対象ではないと思うので、声掛けで対応していく。	1. 集団活動中・見守りあり	ごっこ遊びなどの室内遊びのため床の上にござが敷いてあったので滑りやすくなっていた	フローリングの上にござを敷くことで滑りやすくなってしまうので、ござを敷いての活動はしない	1. いつもどおりの様子であった	フローリングの上に敷いたござの上を歩いたり走ったりしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにはいたが、他の園児を見ていたので、どのようにして転倒したかは見ていない。対象児が痛みを訴えてきた時に、指を動かすことができた為、すぐに対応せず様子を見てしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の2名の保育教諭とも に、他の園児の活動を見ていたため、対象児の動きは見ていなかった。	フローリングの上に敷いたござの上を走ったりしているときにすぐに制止させなかった。最初の転倒の際、様子を見てしまった上、再度段差につまづき手をついてしまった。	転倒する前に、ござの上では走らないことや慌てずゆっくり靴を脱ぐことなど、声掛けをするべきであった。	
7292	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	1. 朝(始業〜午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	25									2	2	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	着地した所にマットを敷くべきだった	着地した所にマットを敷く	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	毎月１回安全点検を行っている。改善策なし。	1. 集団活動中・見守りあり	３歳児の為、自分の思いが相手に上手く伝えられず、トラブルになることが予想された	遊戯室での遊びコーナーを何ヶ所か設け、子どもたちを分散して少人数でゆったりと遊べる環境にするべきだった	1. いつもどおりの様子であった	遊戯室で走り回ったり、サーキット遊びをする	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の場所で他児のトラブルに対応していたため、見ていなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が落下する瞬間、至近距離ではなかったため間に合わなかった。	担任間での連携が取れていなかったことが考えられる	担任間で連携をとる	
7293	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	1. 朝(始業〜午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									1	1	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2	2. 基準配置	特になし。	特になし。全園児が見渡せる場所に職員が配置していた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし。	特になし。毎日点検を行っており、子供が遊んでいた遊具に異常はなかった。	1. 集団活動中・見守りあり	気温が高く子供が汗をかきやすい環境だった。	手拭きタオルやロジンバックを準備しておく。日中の暑い時間を避けて遊ばせる。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	参観日が近く、本児も活発に遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が落下する際に手を差し伸べたが、間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では4歳児クラスのみしか遊んでいなかった。	対象児がいつもより興奮状態であった。	子供が興奮状態の時には一度遊びを中断させ落ち着かせてから遊ばせる。	
7294	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	9									1	1	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左尺骨骨折・左上肢打撲傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	5	1. 基準以上配置	—	事故防止、危険予測に対してグループワークを行った。（8月）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	今回の事故に関しては、施設や設備が原因ではないため特になし。	1. 集団活動中・見守りあり	夏休み初日ということで、普段と違う保育の環境(異年齢保育中心となり、活動のみクラス単位となるなど) であった。	普段と違う環境のため、1日の流れを丁寧に話したり、夏休みの生活に馴染めていない子を見極め声掛けや援助をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	—	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ホールに園児9名だったため他の職員はついていなかった	走る子がいる中で他児がしゃがみこんでいることに気が付き、危険を感じたが移動させることが出来なかった。	危険な動きをしている子を見つけたら、止める。止められない場合は、周りの子の動きを止める。	
7295	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	1. 朝(始業〜午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	29									4	4	15. 3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	左眼瞼裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	10	1. 基準以上配置	—	全職員に事故報告を周知し室内環境の安全徹底を図る。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	教室内の遊具の位置や子供たちの動きを観察し、常に危険のないようにしていく。	点検結果に応じ、修繕を行っている。	1. 集団活動中・見守りあり	—	教室のコーナーの配置を整える。	1. いつもどおりの様子であった	慣れた環境の中で起きた不注意による。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	教室内での動きに注意を促したものの、一瞬の出来事で間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応を行っていた。	教室内で遊んでいる子供たちの状況に常に気を配っていく。	子ども達に教室内での遊び方や動きについて、再注意を促す。	
7296	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	24									2	2	18. 6歳	2. 女児		8. その他	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	10	1. 基準以上配置	—	全職員に事故報告を周知。遅番対応における、子どもの位置確認の徹底。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	—	点検結果に応じ、修繕を行っている。	7. その他	—	子どもと、遅番での過ごし方の約束を再確認、職員へも周知徹底を図った。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	環境が変わることで落ち着きのなさが見られた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	切り替えの時間で他児の対応を行っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応を行っていた。	遅番への移動時間であり、職員数も減り子供たちへの気配りが足りなかった。	遅番での過ごし方の約束を再度徹底した。	
7297	令和3年12月17日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	8. 夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	45		6	9	10	12	8			7	7	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	特になし。	外部の事故防止のための研修への参加などを積極的に取り入れていく。	2. 不定期に実施	不定期	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	不定期	特になし。	遊具の安全性について、職員内で話し合い、情報を共有していく。	1. 集団活動中・見守りあり	夕方、幼児クラス合同の時間帯だったため、本児にも一日の疲れがあったのか、油断で手が離れてしまった。	合同の時間は特に、保育者同士で声を掛け合い、怪我の起こりうる場面について予測を立てながら対応していく。	1. いつもどおりの様子であった	特に興奮していたわけではなく、いつも通りであった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	隣についてみていたが、落下の瞬間に手が間に合わず、落ちるのを受け止めきれなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具につくなどして、その他の園児をみていた。	特になし。	改めて事故防止の意識を高めるため、職員内で注意喚起を行う。鉄棒に関しては、「手を離さない」などの約束事を改めて、子どもたちに伝える。	

No	概要						発生時の施設・事業体制														事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7298	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし。	職員の研修を定期的に行っていく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	1	特になし。	点検を継続行う。	1.集団活動中・見あり守り	特になし。	玩具の使い方や配置が分かりにくいので伝えていく。	1.いつもおお様子であった	活動中に子どもが来て置いて持って置いた手押し車に足が引っ掛かり転倒した。(対象児の状況説明による)	4.対象児の見ていなかった	職員は近くにいた子どもの登園後の物の片付けが見ていたように倒したかは見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に1人(室内子どもの登園後の物の片付けについていたため)	特になし。	子どもの遊びや活動を予測しながら、職員の配置(立ち位置)や動きを変化させ、職員同士で声を掛け合っていく。	
7299	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17			8	6	3				1	1	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕顆上骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1～	2.基準配置	職員間の連携及び対応不足	不足や発生時の知識	事故の転倒・落下の防止マニュアル作成を行う	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	●●、サーキットには用マットが敷かれた状態であった。	保育提供前に事前に保育環境の確認を行う。	1.集団活動中・見あり守り	遊びの内容やサーキットの環境構成を考慮すると、保育教諭1名で保育を行うといった状態であった。しかし、現場の職員が判断することができなかった。	サーキットなどの使用前に複数の職員で環境確認をし、必要に応じて再度の環境構成を行う。	1.いつもおお様子であった	児童ではとはいっても変い様子あった。	4.対象児の見ていなかった	活動全体を見守っており、本児童に注視できていないタイミングでの事故であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋(1Fホール)にて保育が起こった部屋には担当職員一人での見守りであった。	保育教諭1名で保育を行うことが難しいとしにも関わらず、10の子どもの遊びの安全を考えると、大丈夫だろうとしたこと、大丈夫だろうと考えまった。	職員間での密接な連絡報告を密に行うことで事故の可能性の低減に努める。	
7300	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19									5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	事前に見て、安全確認をしている内容が十分でした。	下見、安全確認を行ったが、活動内容に合わせて安全範囲や対応知識が不足していた。(危険はないものとして対応する内容が十分でした。)	活動の内容に対して、事前に活動内容に合わせて、どのような事故が想定されるかを複数で検討し、安全に活動できる範囲や職員の配置、配慮点について事前に合わせて、事故防止のチェックリストを作成し、事前に合わせて、事故防止のチェックリストを作成し、事前に合わせて、事故防止のチェックリストを作成し、

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7302	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28			7	8	13			4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2.基準配置	本児とのトラブルがあったわけではないが、友だちとのトラブルやこだわりがあり、ルールを守れない。	4	こぼれ話をきっかけに、鬼ごっこの捕まえ方、捕まった時の捕まえ方、手を掴む・タッチ・すなどの鬼はるまるか

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7312	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	39				14	12	13			5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肩骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	落下した瞬間を誰も見ていなかった。	片づけ班と子どもの遊びを見守る職員に分かれて死角を作らないよう人員を配置する。	2.不定期に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	登り棒の下（地面）に人工芝がありクッションがわりになっていた。	必要に応じて体育マットを敷く。	7.その他	砂場の片づけに夢中になり、登り棒で遊ぶ姿を見守っていなかった。	園児に今一度、登り棒の正しい登り方や降り方を徹底指導する。	1.いつもどおりの様子であった	登り棒の上まで登った後、降りる途中で落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が落下した後に職員が気づき対応する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員室に連れてきて怪我の状態を確認する。	落下する瞬間を見ていなかったため怪我の把握ができなかった。	細かく人員配置を徹底し、見ていない空白の時間を作らない。	
7313	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	226		9	12	60	72	73			30	29	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼（A｜A）および歯槽骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	２～３	1.基準以上配置	事故予防マニュアルの適切な運用が行われていなかった。	・全職員が事故予防マニュアルを再度把握する。 ・事故予防に限らず事故発生後の職員の動きや連携について再度が把握し,改善点を見つけマニュアルを刷新する。	1.定期的に実施	１～２	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	施設としてのホールに問題はなく、保育者が配置されていなかったことに大きな問題があった。	・保育者の配置を適切に行う。 ・防犯カメラをホール内に設置する。	4.個人活動中・子どものみ	・子どもたちが、様々な場所で遊んでいる状況があった。 ・保育者がその場に配置されていなかった。	・本園の保育内容において、子どもたちが思い思いの場において遊ぶ状況は日常的なところではあるが、怪我事故防止の観点から保育者の目が届く配置を適切に行うのと同時に園児へ遊び方、過ごし方の指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	異学年の友だちとの約束をして、事故発生場所（ホール）に向かったが、約束をした友だちが現れる前にその場所にいた子どもたちと前触れなく、あそびがはじまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室にて子どもたちの受け入れを行い、保育室内の子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・事故発生場所（ホール内）に職員が配置されていなかった。 ・事故発生場所周辺の園庭には職員が配置されていたが、子どもの見守りや保育環境整備を行っていたため当該事故を目撃することができなかった。	・共有スペースである事故発生場所（ホール）において、見守り体制が徹底されていなかった。 ・自由遊びの時間帯における教職員の配置が適切ではなかった。	・集会や食事の場として使用する際は職員の配置が適切にされているが、自由遊びの際には子どもたちの動きに合わせて流動的になっている部分があった。今後、自由遊びの時間においては子どもたちの状況に応じた人員配置を行っていく。雨天時など子どもたちの数が増えるときには人数に応じた職員配置を行う。 ・ホールという場においての過ごし方、遊び方について危険がないように指導ができるよう共通見解を持ち、保育を行う。	
7314	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40				19	21				5	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨ひび（左尺骨遠位端骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	普段は保育教諭等と一緒に遊んでいるが、本日に限り本児一人で雲梯に登り、発見に遅れ補助が出来なかった。	急に手を離さないように繰り返し声掛けをし、そばで見守る。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	毎日	—	雲ていの下に人工芝を敷く	7.その他	周りをよく観察し、固定遊具に保育教諭等が必ずつく。	職員の意識を上げる。怠慢にならないよう常に緊張感を持ち子ども一人一人を見てあげる。（声掛け、行動）雲梯の下にマットを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	朝から通常通りの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	2クラス一緒に園庭で遊んでいた為、いろいろな場所へ行き子どもと過ごしたことで目が行き届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2クラス一緒に園庭遊びを楽しんでいた為、雲梯に一人で登っていることに気が付かなかった。	職員が子ども達に対する意識が低かったと考えられる。	いつどんな時も子ども達を一人にする状態をつくらない。必ずついていく。	
7315	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10									1	1	15.3歳	2.女児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	指挫滅創	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	演奏後、ピアノ鍵盤の蓋を閉めない事がもたらす結果を推察できなかった。特に支援の必要な園児であることは認識していたが、行動を予測するところまでは至らなかった。	職員会議において、事故の状況を説明し、対応策を話し合い、共有を行なった。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		アップライトピアノの構造と重量などの認識が足りなかった。	アップライトピアノをやめて、蓋のないキーボードに交換をした。 存在する他のピアノ鍵盤にダンパーを取り付けて、ゆっくり閉じるよう衝撃を緩和する処置をした。	6.食事(おやつ)中	支援の必要な園児に対して、一対一で付くなど出来るだけ手厚い支援を行い、かつ、事故防止につなげていく。	現在も補助者を配置しているが、時間に制限があるので加配の保育士を配置できるように申請を行う。	1.いつもどおりの様子であった	発達支援センターに保護者が相談していて、発達に1年の遅れがあると保護者より連絡を受けていた。対象児は皆と同一の行動を取るのが難しいところまでは認識していたが、行動までは予測できなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	３時のおやつの時間で、他の園児に対応していて、背を後ろにしていたため対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時は部屋の中で、１０名の人数でもあり一人であった。悲鳴を聞き、他の保育士が駆け付け、止血、応急処置を行った。	直接のきっかけとなった鍵盤の蓋を閉めないことにより起こり得る事態等を推察する力を身につけるための研修を行うとともに、保育環境の危険な場所について改めて見直した。	配慮の必要な園児に対し、手厚い支援が出来るように加配の保育士等の配置を申請する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7316	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	17．5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	1.頭部	脳出血	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	今年度４月からは頭痛があった（昨年度は時々）。身体検査の結果で令和３年２月で保護者に肥満指導面で伝える。当日水分補給を促す声かけを担任がしていたが、本児に適切な摂取量であったのかは不明である。令和３年度春、定期健康診断事前調査票で頭痛ありの記録をする。	頭痛があった時には保護者には伝えていたが、受診はしてもらっていなかった。個々の水分量の適切な量を確実に摂取しているか確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	当該事項に関連無	当該事項に関連無	1.集団活動中・見守りあり	朝の登園時受け入れ時に保護者から家庭での様子についての連絡はなく、当日の情報がなかった。プール可の保護者からの記録（プール可）あり。登園時での検温は平熱であった。※登園時・・・園児の検温、消毒、保護者からの申し送り事項確認を実施。	毎朝登園時での検温と体調確認の視診はしているものの、何か変わった様子がある時の些細な点についても連携をとっていけるように保護者にも、もう一度周知していく。	1.いつもどおりの様子であった	登園時から食事時まで普段通り、元気いっぱいの様子であり、頭痛を伝えから検温と水分摂取を確認を行った。食事時に机を叩く、体調悪化の変化までが短時間であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	朝登園時からの特に変わった様子の引継ぎはなく、普段通りの保育を行うが、プール内での様子には個々の姿を注意深く見て過ごし、プールの中にも一緒に入っていた。監視員はプールサイドにて監視。保育室内では担任の他に加配対象児もいたため、加配保育者と二人での保育を行っていた。保育室内で頭痛を伝えてきた時に検温と水分補給の摂取確認を行う。食事の量も本児に食べられる量を聞き様子を診ていた。様態変化に気が付き、職員室に内線を入れる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	加配対象児の保育にあたっている保育者も一緒に保育を行っていた。本児が担任とのやり取りを行い、検温と水分補給時を知っていた。	園児・子どもの頭痛を伝えに対して季節上、熱中症をすぐに思い浮かべて対応しがちである。	園児・子どもの頭痛の訴えに対して季節上、熱中症をすぐに思い浮かべて対応しがちであるが、体調変化の確認の中でいびきをかく様子や唾液をたらす様子の他、日頃からの本児の頭痛の訴えがあったことから他の病状の予測を瞬時に判断し、いち早く救急車の要請をする事の大切さを感じた事から、頭痛を訴えていた時に保護者に病院への受診をお願いする事を改善策とする。	
7317	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									3	3	17．5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部・尺骨骨幹部骨折（観血的整復固定術）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	十分な見守りの中で、運動遊びを行っていた。	引き続き、十分な職員配置と個々の子供の様子を確認し、必要に応じてその都度やり方などを確認し、見守りを担当間で徹底していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	運動用マットの固さは適切であり、状態も良かった。	遊びの前後で運動用具の状態を確認し、安全に使えるようにしておく。	1.集団活動中・見守りあり	事前の準備体操を行い、対象児もしっかりと行っていたことを確認済である。	準備体操をしっかりと行い、子供や職員間で遊び方の確認をし、引き続き安全に遊べるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当日は、保育参観で母が参観しており、いつもより気持ちが高まっていたと同時に恥ずかしさもあった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の動きを見ていてバランスを崩したことに気が付いたが、補助が間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のグループの子供の運動遊びを側で見ていたため、別グループにいた対象児と担当は見ていなかった	母親の保育参観中であり、気持ちの高まりと恥ずかしさがあり、いつもより手足が上がらずバランスを崩した。	対象児の気持ちの変化をくみ取り、普段と比べて高揚している時には、一旦落ち着かせてから取り組むようにする。	
7318	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	1	17．5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第５趾骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	不定期	2.基準配置	—	午後の子どもの動きについてヒヤリハットの回数を増やし、予測がたてられるようにする。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	複数	やわらかいマットの上で同じ姿勢をとっていた事で姿勢が変わった時にバランスを崩した可能性がある。	今回の怪我をうけて、マットでの子どもの様子を十分に観察し、裸足で過ごす時には、予測をたてた声掛けを行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	裸足でいたため、バランスを崩した時、小指に体重がかかった可能性がある。	子ども達に裸足でいる時の安全な過ごし方を指導すると同時に、保育士が裸足の危険性を意識して過ごす。	1.いつもどおりの様子であった	他の子どもと同様静かに過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同じマットの空間にいて子ども達を見たり、話したりしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じマットの空間にいて子ども達を見たり、話したりしていた。	—	個々の対応に集中せず、全体監視を意識する。	
7319	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16									1	1	16．4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折 右上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	適正な基準で配置し、保育を行っていた。	職員の見守りの仕方や、体制を手厚くするようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	遊戯室の広さも適切であり面積基準も満たしており問題ないと考える。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	部屋の広さと人数を考え、混雑をさけるため間隔を開け裸足でかけっこを行ったが、始まる前に十分な準備運動を行っていれば防げたのではないか。	活動前に身体をほぐすための運動や、走り方の説明を行うよう改善していく。	1.いつもどおりの様子であった	長期雨天のため、家庭でも園でも室内遊びが続いていたため、遊戯室での活動を喜んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	かけっこを行う際、子どもたちと同じ方向にたち、声掛けを行う。子ども同士の間隔や人数に配慮していたが、対象児が転ぶことを防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数担任ではあるが、遅番だったため活動終わりからの出勤であった。	—	活動内容に応じ、危険を伴う場合には複数配置で園児を見守るよう改善する。	
7320	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48				10	18	20			3	3	16．4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	保育教諭に園児の危険な行動に対する予測が不十分だった。	個々の園児の特性を知り、子どもの行動に対しての予測を深める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	特になし	遊具の破損や故障はなかったため、今回の事故に関しての要因にはならないと考えられる。	1.集団活動中・見守りあり	身近な遊具で子どもがとる危険な行動に対しての危機知識が足りなかった。	いつも通りの動きや行動でも、大きな怪我につながる場合があることを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	●●の雲梯で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	●●で遊んでいる子ども達に声を掛けながら見守っていた。雲梯にぶら下がっている状態から降りる様子を見ていたが、着地に失敗した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	●●に園児4名がいたのに対し、職員１人が見守っていたため、近くに他の職員はいなかった。	普段の子どもの行動から、危険につながる場合があるという予測が不十分だった。	遊具内でも、危険が予測される箇所の近くで見守るようにする。	
7321	令和3年12月17日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17				10	7				2	2	15．3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	後頭部創傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	降園するこどもと、まだお迎えに来ていない子どもが入交、人が多かった。	入口近くは人が多くならないように見通しをよくする。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	雨上がりの為、靴についた土が滑りやすかった。	円柱はしご使用禁止	3.個人活動中・見守りあり	夕方は滑り台なしで、園庭で遊ぶ約束だったが、迎えが来ていても遊んでしまった。	遊ばないように声をかける。円柱はしご使用禁止	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	お迎えがきて、喜んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の様子を見ていた。対象児はお迎えが来ていた為、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢児の活動だったため、担当クラスを見ていた。	—	降園後は遊ばないように声掛けを徹底	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

| 初回掲載年月日 | No | 概要 | | 事故発生の施設・事業体制 | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7334	令和3年12月17日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				3	7	4			2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	事故予防マニュアル（園内で事故が予想される物、遊び）について配慮が足りなかったと考える。	子どもの運動能力や予想できる子どもの行動、怪我について職員間で共通理解し合える場を設けるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	低い位置からの落下でも骨折をするという職員の配慮が足りなかったと考える。	遊具の点検をしていても使い方で怪我をするため、教師も子どもも安全な遊具の遊び方を日々確認していくようにする。	1.集団活動中・見守りあり	年齢別に遊んでいたり、異年齢児が遊んでいる場面でも遊びが続かずトラブルになるなど、場面に応じて遊びや関わりがさまざまである。	合同保育ということで、一人ひとりの特性を理解した保育が必要になってくる。また、通常とは違う様子に注意して見守っていくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	担任の話によると午前中通常保育の時とは違い、気持ちが高ぶっていたとのことだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びにかかわり、遊びのルールを理解できずに泣いていた子に援助していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びにかかわっていた。	2名の職員で担当していたが、事故発生時は他の園児を世話しており、対象児に対して背を向けていた。危険を察知できていたら事前に声をかけることができたと思う。	広い遊戯場など子どもの活動が活発になる場所では、全体が見渡せる場所で他児とかかわるようにする。対象児が通常とは違う様子に注意して見守っていくようにする。	
7335	令和3年12月17日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	22									2	2	16.4歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	前歯2本の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置		職員が給食中も広い視野を持つようにする。また、給食中の離席や教室での過ごしかたについて指導していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12		今回の件は、施設の設備の不具合から起こったものではないが、これからも変わらず安全面の徹底に努めていく。	6.食事(おやつ)中		万が一転んだときの為にも子どもがティッシュを取りに行くなどの動線には子どもの席を作らないようにする。また、つまずきそうな物がないか常時確認する。	1.いつもどおりの様子であった	歩いてティッシュを取りに行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	教室の前方に他の職員と一緒に座って給食を食べながら子どもたちを見ている状態だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じく座って給食を食べながら子どもたちを見ていた。		給食を食べながらも子どもたちの状況を把握できるように座る位置などを工夫して連携を図り見守っていく。	
7336	令和3年12月17日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									25	22	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左側上顎乳切歯;歯根破折･外傷性亜脱臼右側上顎乳切歯･乳側切歯;外傷性亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	子どもの登園後の身支度への取り組み方への言葉かけ不足	巡視の徹底・園児への言葉かけの強化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	特になし	特になし	4.個人活動中・子どものみ	登園後の身支度中遊んでいる子どもに対しての言葉かけ不足	約束事の再確認をクラスや園全体でしっかりと伝える。	1.いつもどおりの様子であった	登園してから15分間友達と戯れて遊び楽しんでハイテンションになっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭・園児の迎え入れ・園バス・園内巡視等に分かれて保育に当たっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭・園児の迎え入れ・園バス・園内巡視等に分かれて保育に当たっていた。	巡視時危険に関して把握や言葉かけができなかった。	「水筒は座って飲む」「ウッドデッキは走らない」「ウッドデッキで水筒を飲まない」などを全園児での朝礼で園長から、また各クラスで担任から子ども達に促し、再発防止の徹底に務めた。	
7337	令和3年12月17日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動き等普段と変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が危険な遊びをしていなかったため、離れた場所から全体の園児の把握をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたため、見ていなかった。	なし	子どもの遊びに応じた配置場所について、職員間で声を掛け合い、連携を取り合い進めていく。	
7338	令和3年12月17日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					13	12			3	3	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左頸椎骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	春季休業中で異年齢構成の保育であったため、通常保育とは異なっていた。	長期休業期間中や教育時間後の預かり保育では、保育の進め方や危機管理について再度共通理解を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動き等普段と変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が危険な遊びをしていなかったため、離れた場所から園児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたため、見ていなかった。	なし	なし	
7339	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	51									16	14	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置		ケガの応急処置の再確認。園内のヒヤリハット確認。もっと気軽に救急車を呼ぶなど受診時の確認。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3		鉄棒下に、クッションとなるものを敷く。	1.集団活動中・見守りあり		遊具での遊び方を、今以上に丁寧に見ていく。高いところにいる子が危なくないか、何かあったらすぐに駆け付けられるように、心づもりをしておく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの健康状態で、最近特に興味をもった鉄棒をしていて、担任の先生に見てもらおうとしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児の「鉄棒を見てて」「逆上がりやりたい」という言葉に寄り添い、傍で援助していた。本児が手を放してしまった時に、受け止めることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児と関わりながら、庭全体を監視していた。本児が落ちたのを見て、すぐに駆け寄る。ケガの状況の確認と観察、職員室へ連絡。		今回は、とっさに体を受け止めて助けることが出来なかったので、落下するかもしれないという危機感を常に持つようにし、保育者自身の立ち位置も気を付ける。	

No	概要					発生時の施設・事業体制														事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事士・放課後児童支援員	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7340	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	8								2		1	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨顆上骨折	2.自ら転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置		1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	-		1.集団活動中・見守り			1.いつもどおりの様子であった	捕まえたいために、逃げてバランスを崩し右肘を右に倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は、一緒に遊びに入りながら他の園児の動きを見ながら対象児の動きを守りも見ていたが、対象児が転んだ瞬間に手を差し伸べる等の対応には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きをていつもなかった	支援員は、支援が必要な子についていたが、転倒子の様子ていた時には見ていなかった。	転倒時に手をつくことができなかった。	転んだときには手を地面につくように活動内容を工夫し指導をする。	
7341	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54								4		4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	研修等、初めて年度に行う園内の場所で起事故が起きやすいか、予想かされる（すべり台、三角タワー、ジャングルジム、地球儀など）の確認が足りなかった。	この場所はどんなことが起きるのか、どんな配慮が必要なのか、子どもに遊び方伝えるのルールを改めて全職員で確認。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	雨があがりてやすい雨は滑りやすい。下にはマンホールがあり固い木のもの、落ちた際の危険性が高くなること、登った後からは人の振動がめまいすること。	雨があがり注意して見ると十分に注意した場合は、下に木の葉を積もった際に、先ての人の考えは、「わらとは、子どもに登ってみることに登いることに、ざらしくこどもとえ、ざらしくこどもとも再度伝えた。	3.個人活動中・見守り	人見あり	子どもたちに危険に巻きこまれて高ろがあったか、意識が薄れてしまっていた。	今一度、子どもたちに「木登りは必ず大人を呼びましょう」「登る際、降りる際はゆっくり動くこと」「木の上でのルールを見ようる。」「登るときは、降りるときは、ゆっくりしたりしたりしたりしたりしたルールを確認した。	1.いつもどおりの様子であった	木に登った高さまで登る途中に少しあるところから飛び降りることを。	2.対象児の近くで見ていた	側でぬかるんだ地面の入れるとこれを足をかけて児童童が下に。	2.担当者・対象児の動きをていつもなかった	今回は合同であったため人数も多く注意した。	合同で子人の多くは見る範囲が広がった。	弁付かの児ラブ応した。屋外の片が他の見た。	保育中、職員同士で、職員どこにいるか認識できるようにしている「木登り人はいるかどこまで！」「私は当番の場所にいるか～」「木登り人はいるかどこまで！」「私は当番の場所にいるか～」「木登り人はいるかどこまで！」「私は当番の場所にいるか～」

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7345	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	13									2	2	15.３歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置			1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200			1.集団活動中・見守りあり	幼児の状況を危険がないか全体的に目を配りながら保育する。	幼児の行動を多方面から予測して、見守ることが必要。	1.いつもどおりの様子であった	固定遊具や、滑り台で意欲的に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の遊ぶ場所から、3メートルほど離れた場所で、他児の滑り台を滑る様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の近くで、他児と関わりながら、本児の様子を確認していた。	入園間もない年少児のため、体幹がしっかりしておらず不安定な面がある。しっかりと前を見ていないで走り出したり、ぶつかってしまうことによる、衝突の危険は考えられる。	危険を察知して行動するよう、危機管理について幼児と日ごろから話し合うようにする。また、危険な行動には、あらかじめ声を掛けられるよう、全体を見ていくようにする。	
7346	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	25									3	2	15.３歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	前歯強打による破損	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	安全教育の全体毛画・年間指導計画に基づく計画・実践・評価・改善のサイクルによる見直し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	15	特になし	定期的な点検に加え、施設・遊具・玩具など保育活動で使用する前には必ず点検するようにしているが、今後一層の徹底を図る。	7.その他	男児Aが初めてのお誕生会に参加して気持ちが高ぶり、周りの状況を考えずに自分の場所に座ろうとして勢いよく滑り込んだことが要因と考えられる。	園児に、室内での過ごし方や集合の仕方などを定期的又は随意に指導する。	1.いつもどおりの様子であった	本児（女児）は、自分のことは自分でできる子であり、誕生会後も早めに着替えを済ませて自分の場所に座り、みんなの着替えが終わるのを待っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	入園当初は衣服の着脱など未熟なため、個々に制服から運動服に着替えの支援をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同様、それぞれが個別に衣服の着脱の支援をしていた。	３人の職員がそれぞれ個別に支援をし、全体の園児の把握が不十分であった。	個別指導者や全体指導者など、担任と補助教諭との役割分担を明確にする。	
7347	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	8									2	2	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折外顆亀裂骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	担任２名のうち１名は新任ということで、見守りや危険を察知して声がけするなどの対応が不足だった可能性も考えられる。	事故防止マニュアルを令和３年度中に見直し、再作成するとともに、職員間で様々なケガ事例や危険な状況を想定した共通理解を図る為の研修を重ね、ケガ・事故防止に努める。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	240	今回は環境における要因は挙げられず、あくまでも人的環境から発生したケガであるため、特になし。	ハード面については特になし。	1.集団活動中・見守りあり	遊び環境における玩具などの配置が適切であったかが要因と考えられる。	遊び環境における静と動の遊びの配置、子どもの動線を意識した環境作り。	1.いつもどおりの様子であった	床に座り、レゴブロックで遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園児の受け入れ、視診などを兼ねながら、自由遊びの姿を見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園後のうがい、手洗いを促しながら、自由遊びの姿を見守る。	保育者の見守りの位置取りについて適切ではないと考える。ケガに繋がりそうな行動を予測または察知できるように見守る必要があった。	発達状況や自由な遊び空間等における見守りの視点や適切な位置等、経験・担当に関わらず全職員が同様の意識で共有を図る為、学期末の振り返りを基本とした研修を実施し、改善に努めたい。	
7348	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									3	3	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左こめかみ部の裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	ケガを予測した子どもへの声掛け（注意喚起）の不足	令和３年度中にケガ・事故防止マニュアルの見直し及び作成し、室内外における遊びの種類や内容について話し合い、指導についても予め子どもに注意を促す等の声がけの必要性や保育者の配慮について共有していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	240	丸太の上部が固く、完全に角が無い状態ではないことから、今回の様なケガに繋がると考えられる。	園児のぶつかった丸太の支柱について、業者による春の点検では危険な状態とは判断されなかったが、丸太の上部にゴム製のカバーをかぶせてケガ防止の対策を図る。	1.集団活動中・見守りあり	様々な遊びが入り混じり十分なスペースが無かった、他の遊びをする子どもが障害となっていたか等話し合ったが、１クラスのみであったことやその場に見ていた保育者がいたことから状況確認ができ、要因となる状況は考えにくいという結論に至る。	保育者が子どもの行動やケガを想定した状況を考慮し、関わりや遊びを展開する上での見守りの仕方が課題であり、様々な子どもの姿から共有し注意していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこを友だちと行い、追いかけられる側となり園庭中を走り回る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１名は鬼ごっこを共に行う。１名は遊具で遊ぶ子の見守り。１名は砂場で園児と共に遊ぶ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいたのはケガをした園児の学年のみであったため、他の職員は室内（クラス）において園児と遊びの時間である。	ケガを予測した子どもへの声掛け（注意喚起）の不足	今回のケガを受け、外環境における遊びの種類や内容について話し合い、指導についても予め子どもに注意を促す等の声がけの必要性や保育者の配慮について共有した。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7355	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				10	9	17			4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右すね骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	今までも行っていたが、確認する頻度を増やしていく	遊具一つひとつの約束事を全職員で再確認する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	高さがある所だけではなく着地する地点での確認を行う	グライダーの着地地点に厚めのマットを置く	1.集団活動中・見守りあり	各クラス月１回遊具の使い方の確認をおこなう	滑り方、降り方について園児と再度確認をする	1.いつもどおりの様子であった	はじめてのことに対しては慎重である。外の遊びでは、友達と走ったり砂場でのごっこ遊びや鉄棒を行うことが多い。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児たちは砂場・遊具・おにごっこで遊んでいた。担当職員は全体を見ながらサッカーを行っていた。該当児がグライダーから降りてくるのは視界に入っていた。グライダーの滑りだしの位置には担任がいて、降りる様子は見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記職員以外の2名については、1名は砂場での遊びを展開、他1名は該当児の場所とは反対方向を向き遊びを展開していた。	至近に職員はいたが、着地地点に職員がいなかった	グライダーを降りてくる場所に職員を配置する	
7356	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	306				98	104	104			28	22	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	2.基準配置		担任が交代で欠席確認などを行い、職員が不在になる場面や時間を無くす体制を作りを行なった	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	159			2.集団活動中・子ども達のみ			1.いつもどおりの様子であった	通常通り元気に登園し、朝の自由遊びを楽しく過ごしていた。その後保育開始後も、いつも通り絵本を読みながら静かに待ち、絵本の出し入れも歩いて行えていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達に絵本で待つように指示をだし、待ち方や安全面への注意点を確認してから保育室を離れた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	順次各部屋を回って安全確認を行なっていた		欠席連絡の確認など交代で行ない、見回りの職員と入れ替わるなど職員が不在の時間を作らないような体制を強化する。また、声を掛け合いながら全体で取り組み日々実践の中で改善・見直しを行ないながらこまめに検証していく。	
7357	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	日ごろ、ちょっとしたヒヤリハットの事項を安易に考え、見過ごしてしまうことがある。	小さな事故、ヒヤリハットの事項も見過ごさず、職員で共通理解を図り、日ごろ起こりうる事故を未然に防ぐ。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	施設、遊具、おもちゃの点検を的確に行う必要がある。	点検の機会を増やし、活動前にも使用する物のチェックをする。	1.集団活動中・見守りあり	活動内容を把握し、また、もし事故が起こった時スムーズに対応できるかどうかを考慮した人員配置であったか？	その日の活動内容を、事前に把握、吟味し適切な人員配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	本児は跳び箱に自信があり、家庭（体操教室）・園で何度か経験したことがある内容だった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	担当職員（外部体操講師）が対象児とマンツーマンで跳び箱運動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	二人体制での運動の時間。二つのコーナーに分かれて活動していたため、担当職員（外部体操講師）以外対象児を見ていなかった。	通常はもう一人補助教諭が保育サポートにあたっているが、当日はサポートにあたっていなかった。	状況により活動時の人員を考慮し、見守りの目を増やす。	
7358	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	外遊び後入室時、子どもの移動とお漏らしの対応などで事故現場が手薄になってしまった。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	120	当該園児が太鼓橋遊具の上で、鉄棒のように前回りをして手を離してしまい、転落した。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	1.集団活動中・見守りあり	外遊び後入室時、子どもの移動とお漏らしの対応などで事故現場が手薄になってしまった。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	複数人のお友だちと一緒に太鼓橋で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	様々な遊具がある場所なので、見通しの良いところから職員が見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が見ていたが至近距離にはいなかった。	太鼓橋遊具の上で、鉄棒のように前回りをしていたこと。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	
7359	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	24	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	7.その他	遊戯室には職員がいない状態であったため、クラスの幼児の様子を他の職員と連携し確認するべきだった。	活動と活動の合間の時間帯は、職員間で連携し、一人一人の幼児の様子を把握するよう努める。	1.いつもどおりの様子であった	登園時から落ち着いて過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	弁当準備のため、保育室で他の幼児とかかわっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスで保育をしていた。	本児の様子を気にした職員がいたが、思い込みにより担任に報告せず、担任との連携が十分とはいえなかった。	思い込みをなくし、少しでも知っていることや気になったことは、すぐ担任と情報を共有するようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7360	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				16	19	18			7	6	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	特になし	遊具の遊び方の見直しと、園児への指導を行う。	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	5	近年の幼児全般の体力低下にもかかわらず、遊具が古いため幼児個人の危険回避が難しかった可能性がある。	8/● 遊具業者Bにより安全確保のための改修等の提案を受ける 9/● 遊具業者A（事故遊具設置業者）より遊び方指導を受ける 9/▲ 理事会にて安全確保策のため安全チップの埋入、遊具の改良のため¥2,000,000程度の支出を決定、業者に工事を依頼した	1.集団活動中・見守りあり	対象園児を見ている職員が一名だけだった。	定期的な職員研修で改めて事故回避の指導を行う。特に園庭遊びでは園庭中央で遊ぶ園児を、複数の職員が園庭側面から見ている体制を基本を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	元気に積極的に遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にて他の園児に対応しながら、対象児の動きに注意を払っていた。遊具の最上段に登っていたことから、危険回避の指導をするために園児に近づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にて他の園児に対応していた。	保育者は対象児に近づいたものの、対象児が背を向けていたため表情が見えず、緊急性を把握できなかった。	遊具の使用法について見直す他、異常時に園児からも容易に声出しが出来るよう指導する。	
7361	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上B外傷性歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置			1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	40	床に支度をしている子たちが座っていたり、身支度したものが各所に置いてあることが要因として考えられる。	片付けの際に、支度をする場所を定位置として決める。	1.集団活動中・見守りあり	手助けしている際、個々にかかわっているため、全体を見渡せていない時もある。	一人が個に関わる際は、もう一人の職員は全体を見渡す。	1.いつもどおりの様子であった	特に帰り支度の際も、ぶつけたり痛みを訴えてきたりする様子は見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時、全員が帰り支度をしているため、他に助けを必要としていた支援を要する園児についていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な園児が多数いるため、それぞれに対応していた。	担任に言いづらい状況にあったことも予想される。	困ったことや痛かったことなどは、すぐその場で伝えることや、職員が帰りの際に、個々とやりとりして怪我などの状況を確認して帰ること。	
7362	令和3年12月17日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	26									5	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置			1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	巧技台の周囲にマットを敷いていなかった。	落下の可能性があることを考え、周囲にマットを敷き、安全面に配慮する。	1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	他児と共に楽しんで活動に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	巧技台の場所で安全にのぼれるよう見届けたり、順番を待つよう指導していた。対象児の体勢が崩れて落下した時、他の職員と場を交代しようとしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	巧技台の担当職員と交代しようとしていた。	職員が交代する時に、対象児や、次にのぼる子を制止しなかった。	職員が交代する時には、職員が交代するまで子供に待つよう指示・指導する。	
7363	令和3年12月17日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9		6	3						6	4	13.1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3回/年	2.基準配置	職員の立ち位置、役割分担の確認不足	全体が見渡せる位置を考え、怪我につながらないようそれぞれが立ち、声掛けをしながら園児の安全を見守る	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	毎日	複数の遊具を出してしまい子どもの行動範囲が広がってしまった	目が行き届く遊具を限定し、遊ぶ前に遊具の使い方などを皆で確認、約束をして遊び始める。日頃から環境整備は勿論、危険と思われる個所は対策し年齢や発達を踏まえて、保育環境を安全に整える	1.集団活動中・見守りあり	・集団遊びでの自由遊び中でそれぞれが遊ぶ中、近くで見守っていた ・安全に遊べていると過信、他児に気を取られていた	常に人数把握をしその日の子どもの様子など報告し合い危険防止の確認をする	1.いつもどおりの様子であった	活発な子どもで、室内で元気に歩き回っていた。園庭に出ると落ち着いた様子で座って皆の遊ぶ様子を見たりしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台のステップにつかまり立ちをしているのを確認。近くで遊んでいた子に気を取られ目を離した間にその場から転倒。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が泣いて立ち上がらないため近くにいたもう一人の職員が抱き抱えウッドデッキにもたれながら、抱きあやしていた	他児の行動に目が行き、本児の傍で見守ることが出来なかった	子どもの特性の理解と周囲の環境整備により事故防止できるため、少しの変化でも伝え合い対応できるようにする。そのため遊具の使い方なども指導する必要がある	
7364	令和3年12月17日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27	5	4	3	11		4			10	7	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		1.基準以上配置	新しく開園し、子どもたちも気持ちが高まった。見慣れない遊具に興味があった。	事故予防マニュアルの作成。研修に参加する。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	開園直後の為	トンネルの上から飛び降りないように両脇に柵を付けた。定期的に安全点検をする	1.集団活動中・見守りあり	降園前の戸外活動中	トンネルの頂上からジャンプするとケガをする、下のトンネルをくぐったお友達にもぶつかることを子どもたちに説明し、トンネル出入り口ではジャンプしない約束をする。柵には鍵を付けた。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	見慣れない遊具に興味があり、いつもより気持ちが舞い上がっていた	4.対象児の動きを見ていなかった	鍵がついていない柵でお友達が開閉する姿があった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していた為、見ていなかった		トラブル対応の際もこまめに様子をみる。保育士同士、声を掛け合い連携していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7365	令和3年12月17日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45	7	11	9	11	4	3			11	9	14.２歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折		右撓尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3回/年	2.基準配置		職員の立ち位置を考え、視野を広げて遊び（活動）を見守る。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	12回/年		危険個所はないか、遊び（活動）の前にも常に行う。	1.集団活動中・見守りあり		今回の事故の直接要因ではないが、転倒した場所近くにブロック壁があるため、事故防止予防策として、角にスポンジクッションを設置する。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内に片寄らないように立ち、園児の遊びを見守っていた	対象児がやせ型。日頃から転びやすく、わざと転んで遊ぶ様子もあった。	表情や泣き声等で見えない傷に、いち早く気付けるように対応する。	
7366	令和3年12月17日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	10									2	2	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	下前歯破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	1.基準以上配置	テーブルが隅に寄せられ配慮した環境ではあった。しかしクラスルームについては、ストレッチだとしても幼児クラスの運動遊びに対して狭い環境だった。	クラスルームの使用方法、対象年齢を見直し、それに合ったマニュアルを作成する。	1.定期的に実施	1回/月	1.定期的に実施	30回/月	1.定期的に実施	30回/月			1.集団活動中・見守りあり		全体を把握する意識を持てる様にする。	1.いつもどおりの様子であった	動きが活発な幼児Aが、保育者からの指示が出される前に動き出し、それにつられた本児が立ち上がった後フラフラと動き出した。	4.対象児の動きを見ていなかった	お子様から目を離さない様に、必ず1人以上配置している。発なお子様と、気持ちが不安定なお子様へ保育者の意識が集中してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	気持ちが不安定なお子様が、他のお友だちに手をだしてしまう為、そのお子様を中心にみていた。また事が起きた際は、気持ちが不安定なお子様に留意しながら、髪の毛を踏まれた幼児の話を聞いていた。	担任ともう一人の保育者が、連携を取って全体をみる意識が足りなかった。	状況を見て自身の役割を確認し、保育者同士が声に出して連携を行う。	
7367	令和3年12月17日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				9	8	5			4	4	16.４歳	1.男児	発達面や持病等は、特にない。	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢（足・足指）	左脛骨骨折 左足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2回/年	1.基準以上配置	施設環境の安全面を確認する資料がない、ケガ対応の際の流れを園全体でできていない状況がある。	施設環境の安全面や注意点、チェック箇所の確認できるものを作成し、園全体で確認をする必要がある。	2.不定期に実施	約12回/年	2.不定期に実施	約12回/年	1.定期的に実施	週1回程度	屋上の日除け（タープ）が、段差の上に立ち子どもたちが手を伸ばすと触れられる高さだった。子どもたちとぶら下がらない約束をしていた。	日除け（タープ）の高さを高くし、タープに触れられないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	屋上の全体の様子を把握ができる位置で保育士は見守っていた。人工芝部分は、小さな空間や空調設備を囲う柵があり、死角や見えにくい部分がある。	子どもたちの人数により、屋上の遊ぶスペースを制限する（環境調整）や玩具や遊びの提案をして保育環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、友だち4，5名と一緒に人工芝部分で身体を動かし、まねっこ遊びをしていた。ぐるぐると円を描きながら走り、20cm程度の段差をジャンプして飛び越える遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は、屋上の中央にある遊具付近で、屋上全体を見守っていた。対象児は、屋上の奥（人工芝部分）で遊んでおり、走り回っている様子は把握していたが、転倒した瞬間は目視できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋上には、保育士1名で対応をしていたため、他の職員は対象児の様子は見ていない。屋上から連絡を受け、対象児のケガの状況確認、ケガの処置の対応をした。	夕方の過ごし方。保育士の体制について再度確認をする。	子どもの人数、遊びの様子等を考え保育士を2人体制が必要となる場合は、屋上の体制を2人体制にする。	
7368	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	18									2	2	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	雨天の為室内遊びが続いていたことで発散されていなかった。普段から使用しているものではなかった為、気持ちが高揚していた。	粗大運動の前は準備運動とルールの確認を行い、一度落ち着いた状態でスタートをするように声を掛ける。	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	250	1.定期的に実施	12	テンポよく飛んでいた事で勢いがついてしまっていた。	気持ちが高揚した際、ダイナミックな動きになる事を想定し、一度気持ちを落ち着かせてのスタートをする。	1.集団活動中・見守りあり	見守りをする保育教諭が１人だった	粗大運動の際は、見守り・補助を含め、2人で対応する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段身体を動かす遊びには参加することは少ないが、この日は時々使う跳び箱に興味をそそられ、友だちの誘いを受けて意欲的に挑戦していた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	跳び箱の横につき、走行方向の右側についていた。着地までは見ているが、左手側は死角になっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室に１人、ホールに１人の体制のため、対象者を見ていない。本児から訴えがあったのは、保育室にいた保育教諭。	若木骨折は子どもに多い骨折である。生活習慣も関係している。	バランスのいい食事と健康な身体作り。	
7369	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									1	1	18.６歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認を行う。	1.定期的に実施	252	1.定期的に実施	252	1.定期的に実施	252	特になし	室内の環境の見直しをし、動線を考えた環境設定に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	室内では走らないように声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、所持品の始末をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	登園時間だったため、園児の所持品の始末をしている様子を見ながら、運時の受け入れをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園時のため、保護者対応をしていた。	特になし	室内でもいつどんな時でも怪我をすることがあることを念頭に置き、保育に努める。室内では走らないように園児に伝える。	
7370	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				11	9	10			4	4	16.４歳	1.男児		7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	遊び方の見極めやその日の様子など各園児の状態の把握。	園児の状態の見極めを確実にし、適切な補助体制と環境整備を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具には不備はなかった。	遊具自体には不備はなかったが、使用している安全マットをより効果の高いものに変えるなどする。	1.集団活動中・見守りあり	使用頻度の高い雲梯であり、マットも敷いてあることから大きな危険性を認知していなかった。	ソフト・ハードでの対応に加え、児童に対しても遊び方の指導などを行う	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中、複数の園児と一緒に複合遊具の雲梯部分で遊んでいる時、うまくつかめず落下。手を着いた時に肘辺りを骨折した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていた為、すぐそばには居れなかったが、近くにいて全体を見るようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応するなどし、全体を見るようにしていた。	降園前の外遊びであったので疲れなど体力面の不安や、園児の様子等の状況把握	今後は当該遊具での遊びの際は職員を近くに配置するなどし、他の複合遊具のような高さのある場所での遊びでも特に配慮する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7375	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	(右脚)脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	クラスリーダーが欠勤で不在だった為、保育に主幹保育教諭を代理で配置していた。	配置人数に問題はなかったが、こども及び職員の個々の状況把握も必要。新しい遊具を使用する場合は、正しい使い方、留意点、設定の仕方を全職員に周知、理解してから実施することとする。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	今回使用したマットは乳児用のマットではあったが、使用方法に理解不足な点があった為検討し、今後は這い這いマットとして使うように職員に徹底した。	事前に保育教諭が体験、問題点はないかの検討を行ったうえで遊びの提供を行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	山型マットを使っての遊びは初めての活動であった。成長段階に合わせた環境設定をより細かく個々に合わせて検討する必要があった。	初めて体験する活動については事前に設定し、職員間で成長段階に問題はないか、危険な箇所はないか、職員の配置等しっかりと検討したうえで行うことにした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	広い場所、初めての体験に興奮した様子が少し見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は対象児の近くにいたが、一瞬他の子に気をとられて目をはなした。密を避けるため広い場所で遊ばせたので、他の子が広がり目がいった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具を多く設定し、グループになっていたので全体の把握はできていなかった。	多くの遊具や広い場所を子どもや職員の状況把握をしないまま安易に提供した。初めのグループ(8人)は遊び方や約束を伝えてから遊び始めたが、後から参加した本児ともう一名の子は楽しそう、やりたいという気持ちですぐに遊び始めてしまった。誘導の方法に問題があった。	個々の子どもの心身状況を的確に把握し、また職員の状況等も考慮し計画性をもって提供する。今回、後から加わった二人は使い方や約束を聞かないで遊び始めてしまったので、一人ひとりが活動を始める前に、落ち着いて話をしてから活動を始められるようにする。また、後から加わった二人を引率した職員が、職員の安全に引き渡しを行う。	
7376	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	59				20	19	20			6	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	本園では「戦いごっこ」は暴力に繋がる危険な遊びと捉え、園内では誰が見かけても叱るのではなく別の遊びに誘うようにしている。4・5歳児になると「戦いごっこ」は危ない遊びと認識するようになっている。	4・5歳児になると「戦いごっこ」はルール違反だと自覚している為、遊びの中で擦り傷や痛い所があっても先生や親に黙っている場合がある。原因が何であれ子供達には異常がある時は必ず先生に知らせるように指導する。また、見守っている職員同士は連携や声かけを密にし大きな事故に繋がらないようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	固定遊具については職員配置ができない場合は使用禁止にしているが、園庭での自由遊びも職員が見通せる範囲を決め危険がないようにしている。	その日の職員配置で死角になっている所はないか常に確認しながら見落としのないとうに注意する。	1.集団活動中・見守りあり	帰りの会の後は室内、園庭、保護者対応など広範囲の見守りが必要な為、職員間で役割分担をして見守っているが、突発的な事が起きた場合は職員間で常に連携を意識し安全な見守る必要がある。	突発的な事が起きた場合は職員間で声を掛け合っているが、お互いに状況を確認安全な見守り体制が取れてから動くようにした。	1.いつもどおりの様子であった	―	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児の怪我の手当てをするために室内に入っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来た保護者の対応をしたり、遊具付近の見守りをしていた	広い範囲で遊んでいた	遊びの場所の制限をして、見落としや死角になるような場所は職員が注意をしておく。	
7377	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	1			5	5				5	5	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節脱臼骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	保育教諭の役割と配置について、受け入れ時間帯、または職員数に見合った遊具の選定が必要だった。	受け入れ時間帯の遊具を選定し、安全に活動が実施できる体制になってからは遊具の設置をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	365	1.定期的に実施	365	特になし	引き続き、鉄棒使用時は、落下時のケガ予防のために、鉄棒下にマットを敷き、見守りが出来る環境で実施していく。	2.集団活動中・子ども達のみ	受け入れ業務と重なり、本児の見守りが不十分であった	保育活動の実施にあたり、現状の環境で可能な活動か不可能な活動か具体化して判断できる環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	登園児の受け入れやお便り帳の確認をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園児の受け入れやお便り帳の確認、他児を見ていた。	異年齢での受け入れを実施している時間帯であり、役割分担や保育内容の判断が不十分であった。	安全に配慮した環境の設定と役割の明確化を徹底する。怪我のリスクが高い遊具などを分類できるよう、可視化に努める。	
7378	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16				4	7	5			3	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし。	事故の要因となった遊びに、必ず職員を配置する。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	特になし。	ジャンプした時の衝撃を穏和するマットを徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	マットを敷いて、職員1名の配置をして見守りしていた。	日常的に、子どもたちと遊具の安全な遊び方について確認する。	1.いつもどおりの様子であった	午後の遊びの時間で、本児も落ち着いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャンプの遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びに配置	特になし。	ジャンプする時に、落ち着いて着地できるように声をかける。	
7379	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	2.基準配置	特になし	ヒヤリハットの事例を出し合い、その都度確認し、改善策を考える	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	日々の点検を確実に行い、その都度問題点の共通理解をする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	役割確認の徹底	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊具の鉄棒で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で他児とかかわっていた。園庭全体を見ていたため、本児の動きを側で確認できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊ぶ子どもたち全体を見ていたため、本児の動きは側で確認できていなかった。	特になし	役割確認の徹底	

概要					発生時の施設・事業体制									事故にあった子どもの		事故状況							事故発生の要因分析											
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	発生時期	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者	事故にあった子どもの		事故の種類	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析	ソフト面	事故予防研修実施【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	ハード面	施設の安全点検【回/年】	遊具の安全点検【回/年】	玩具の安全点検【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	掲載更新年月日
									異年齢						年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡事故の転帰					マニュアルの有無										
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																	
7380	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢保育	54				13	18	23			11	17. 5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手指）	右前腕橈骨骨折	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1. 遊具等から落ちての転・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基礎知識
7381	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	4	8. 夕方（16時頃～夕食後保育園）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6. 5歳以上児クラス	24									2	17. 5歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	上顎歯肉挫創	1. あり	1. 定期的に実施		1. 定期的に実施	1. 定期的に実施		1. 定期的に実施	2. 自らの転・衝倒・突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1. 基礎知識
7382	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	2. 1歳児クラス	16									4	13. 1歳	1. 男児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手指）	骨折	2. 自らの転・衝倒・突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	1. 基礎知識
7383	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	7. 午後	3. 施設敷地外（園外保育・公園等）	5. 4歳児クラス	30									4	17. 5歳	2. 女児	1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	3. 体幹（首・胸部・腹部）	右鎖骨骨折	2. 自らの転・衝倒・突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施		1. 定期的に実施	1. 基礎知識

| 概要 | | | 事業体制 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7384	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	33									7	7	17．5歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕　上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	基準以上の職員を配置はしているが食事の片づけや個々の対応等で一時的に人員が割かれてしまうことがある	出来うることならさらに多くの職員を雇用したいところだが、現在の予算規模ではそれも困難である。資金面での改善が必要	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	逐次	手すりなどに構造上の破損等もなく、当該児も手すりを持って降りていたことから、安全を確保する構造が仇となった可能性もある。	手すりを外すなどの案もあるが、それによるリスクが想定できない。また床にマットを敷いても、動線の廊下であることから躓き転ぶリスクが新たに発生する。対策が難しいところである	7.その他	基準以上の職員を配置はしているが食事の片づけや個々の対応等で一時的に人員が割かれてしまうことがある	出来うることならさらに多くの職員を雇用したいところだが、現在の予算規模ではそれも困難である。資金面での改善が必要	1.いつもどおりの様子であった	食後、室内の搭状遊具で遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	食後の片づけ及びランチルームの清掃を、子どもたち（当番）としていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの子どもと職員は午睡のため2階にいた	昼食終了から午睡までの接続時間ということもあり、子供たちも各々で行動している上、大人は食事の片づけや個々の対応等で一時的に人員が割かれてしまうことがある。	出来うることならさらに多くの職員を雇用したいところだが、現在の予算規模ではそれも困難である。資金面での改善が必要	
7385	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	25									5	5	14．2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足前足部趾骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	—	該当なし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	子どもの遊んでいる様子を見て数を調整したり、遊び込めるような環境を設定できていなかった為、間違った遊び方をし怪我に繋がった。	怪我に繋がるような遊びをしないよう安全に配慮し環境を整える。	1.いつもどおりの様子であった	登園から昼食後まで変わった様子はなく、普段と変わらず歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を見ながら他児の着替えを援助しており、すぐに本児の異変に気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣いている子の対応、給食の援助や、かたずけ、おむつが脱げてしまった子の対応を行っていた。	遊びを見ながら、他児の着替えを行っていたため、すぐに動けなかった	子どもと一緒に遊ぶ職員は着替えを他の職員に任せて遊びに専念する	
7386	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				8	4	7			2	2	16．4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	思いがけないことが起きる	関連の記事を読むなど研修を重ね、職員間で事故を未然に防ぐよう周知徹底をはかる	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	—	施設や設備の状況は適切だったため改善点なし	1.集団活動中・見守りあり	転ぶ	子どもに慌てずに落ち着いて行動するよう園児に指導する	1.いつもどおりの様子であった	水を飲みに外水道に走って行った際に転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	泣いて痛みを訴えたので、職員がかけよった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	水道の場所まで走っていってしまった	慌てて行かないことを事前に子どもに伝える。全職員が同じ対応をする。	
7387	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	39									2	2	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左柵骨患部骨折・左モンペジア骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見直しを行う	1.いつもどおりの様子であった	動きはゆっくりでマイペースである。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をしていた	特になし	職員間で連携を とりながら子どもの様子をしっかり見守り対応していく。	
7388	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	144		10	42	32	29	31			19	19	16．4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	リスク会議の内容を全職員に周知し、危機管理意識を高める	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	落下位置の地面に安全対策を施す	3.個人活動中・見守りあり	—	子どもへの安全指導を繰り返し実施する	1.いつもどおりの様子であった	—	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	子どもの動きを予測して、危険な箇所への見守りについて職員間で連携を徹底する	
7389	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	2									2	2	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	職員間でのマニュアルの確認を怠っていた。	職員間でマニュアル確認を定期的に行い、遊具の安全な使い方が意識できるようにする。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	240	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	滑り台の階段を上から降りてきたことで、バランスを崩し転落してしまった。	滑り台の使い方をクラスごと話をしてもらい、安全に遊べるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に滑り台の階段を上から下っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本日関わりたい遊びにかかわっていたため、遊具で遊んでいる子どもの様子を把握していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を要する子にかかわっていたため見ていなかった。	遊具で遊んでいる子どもの周りに職員が配置されていなかった。	職員間で連携を図り、遊具周辺で子どもの様子を見る職員を配置する。	
7390	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	34									2	2	18．6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	6.その他	5.下肢(足・足指)	脊髄梗塞	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	落下の危険もあるという意識の欠如があった。	落下時のことも考慮に入れた補助をする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	使用していた運動用具　鉄棒・マット 製造元●●	使用していた運動用具に破損・不具合はなかった。落下対策のためマットを2枚重ねて使用していた。特に改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒を2カ所設置し、担任と講師が1人ずつ補助についていた。	鉄棒の設置を1カ所にし、講師は落下時にも対応できるように補助に専念する。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒の活動も経験を重ね、自信がついてきた様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の側で指導していたが、対象児が落下する瞬間、補助が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の鉄棒の補助についていた。（2カ所鉄棒設置）	補助が出来る位置に着いていたが、指導の声掛けと出来ない子への援助を重点にしていた為、落下時の配慮が足りなかった。	手が離れて落下しても支えられるよう常に手を添えた補助の仕方を考え、職員と講師とで共通理解する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7391	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	21									3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	24	1.基準以上配置	特になし	公園など園以外の場所では、職員の人数に応じた範囲の設定を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	●●に付属している公園のため、園が改善を行うことはできない。	1.集団活動中・見守りあり	松の木の下は、砂地であり、高さもなかったため事故につながると考えることができなかった。	どのような場所であっても、事故が起こる可能性があることを職員間でもう一度共有する。	1.いつもどおりの様子であった	クラスの友達が松の木に登っていたので、自分もやってみようと思った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	松の木には2名が登っており、上部の1名を抱いて降ろそうとした時、下にいた本児は、四肢を使い松の木につかっていた。本児が落下するときに間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	そのほかの場所で遊んでいる子どもたちに対応していたため、そこで遊んでいることは認識していたが、動きをずっと見ていることではなかった。	特になし	園庭以外の場所で遊ぶ際には、職員同士が声をかけやすい位置であそびを展開することができるよう、職員間で確認する	
7392	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ軟骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	そり遊びについてのマニュアルや特別の研修を設けていない	本事例を会議の中で共有し、そり遊びの危険についてKYTを行う	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		2.不定期に実施		自作の遊具を用いて遊んでいたが、その安全性を確認していなかった	自作遊具について、遊ぶ前には必ず安全確認を行う	3.個人活動中・見守りあり	自作遊具を用いて遊んでいた	自作遊具を用いて遊ぶ前には大人がその安全性を確認する	1.いつもどおりの様子であった	自作そりを用いて遊ぶことに意欲的ではあったが、興奮状態にはなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りはしていたが、安全性への気づきはなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	昼食後の時間なので、担当職員以外は食維持の解除や片づけを行っていた	—	児童の遊びは時にダイナミックになることがあるため、常に頭の中で危険予知を行えるよう、職員に対して周知を行う	
7393	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35				19	16				3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	単純骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	事故防止に対して、職員全員に対しての周知が足りなかった。	事故防止マニュアルの一部は正職員に配布していたが、改めて職員全員に配布し再発防止に努める。研修も順番に正職員は受けるようにする。	2.不定期に実施	6	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	老朽化のため、遊戯室の床面に硬いところや、少し盛り上がっているところがある。	施設、玩具の安全点検表の作成。不備があった時や、すぐに修繕などできない場合は職員に周知し使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びで体を動かしていた後に、遊戯室へ行き、また体を動かして遊び、動の活動が続いていた。	遊戯室も広いため、目が届かないと感じたら、保育室に場所を変える。外遊びから室内遊びへ移る場合は、保育室内で遊ぶ等、動の遊びから静の遊びに移るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	積み木で遊ぶことはなく、走ったり体を動かして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	３歳児担任は私用のため年休。４歳児担任は個別配慮の必要な子がステージにあった運動会の道具を触ろうとしたため抱っこでおろしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	未満児職員が補助に来ていたが、手を出し合っていた子どもを止めに入っていた。もう一人の職員は、排便で服を汚した子どもの片付けをトイレでしていた。	運動会の練習の補助、急な担任の年休等で、職員の人数は余裕はなかった。３人がそれぞれ個別の対応をしていたため、ケガをした時見ていなかった。	全体を見ている職員が必ず必要。トラブルの対応の時も周りをみながら対応する。職員が足りない時は、園長や事務職員にも声をかけ誰かを呼ぶ。遊ぶ前に役割分担を決める。場を離れる時は声をかけ、その場を離れても大丈夫か確認する。離れられない時は、汚れ物の片付けは後にする。	
7394	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	40	8	9	5	5	10	3			17	8	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足親指第一中足骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	マニュアルの見直しを行う。	事故予防の研修回数を増やす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	月に１度は安全点検を行っているので継続して行っていく。	継続して安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	子どもも職員も朝の受け入れで落ち着いた状態ではなかった。	受け入れ職員と見守る職員の分担を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	前日休んでおり、いつもより気持ちが高ぶっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が遊ぶ様子を見ていたが、けんかを止めるのに間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を抱いていた為気づかなかった。	対象児と会話やスキンシップを増やし気持ちを落ち着かせるべきであった。	園児の特性を再確認し、発育、発達の段階等を配慮した指導を行う。	
7395	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32						32			3	3	17.5歳	2.女児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部割創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	室内での安全な過ごし方や子どもが事故を起こしがちな状況について検討し，どのような指導を行ったらよいかを研修する。	発達段階に応じた安全指導，室内での安全な過ごし方の指導の徹底。事故事例を基にした具体的な事故防止策の検討	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	保育室への出入りや廊下の安全な歩行の仕方等について検討し，どのような指導を行ったらよいかを研修する。	発達段階に応じた安全指導，保育室への出入りや廊下の安全な歩行の仕方等の指導の徹底。事故事例を基にした具体的な事故防止策の検討	1.集団活動中・見守りあり	歯磨きのため手洗い場付近が混雑したり，保育室内や廊下を走ったりする園児がいる。	保育室内や廊下では，走らないようにすることや，混雑する場面では譲り合うことを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	給食後歯磨きをするために，廊下の手洗い場に向かっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	給食指導を行いながら，子どもを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	給食指導を行いながら，子どもを見守っていた。	園内の事故が発生しやすい所の理解や安全に行動しようとする意識が低い。	室内での安全な過ごし方や事故を想定しての指導・支援の在り方について具体的に研修する。	
7396	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	4	9	11						6	5	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	—	転倒しやすい年齢でもあるので常に気を配るようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子どもたちにとって危険箇所がある場合はすぐに報告していく。	1.集団活動中・見守りあり	—	動き回らず遊びに集中できる環境をつくる。	1.いつもどおりの様子であった	普段どおり部屋を歩いていたので見守りをおこなっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児と関わりながら見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と関わりながら見守っていた。	—	転倒や他児とぶつかることも多いので常に声をかけながら見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7397	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	33				13	11	9			1	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	声をかけ園児たちが集まってきていれば「来るであろう」ではなく「来ない子がいるかもしれない」という意識を持つことが必要であった。最後の園児が遊びを終えていることを確認するための職員配置が不足していた。	園内における保育安全マニュアルの周知徹底と見直し、安全教育や応急手当に係る研修の受講を実施する。常時、配置基準を下回ることがないよう園内における職員配置の見直しを実施する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	なし	落下の恐れがある遊具や建物の箇所を点検し、全学年担当職員での安全対策会議を行った。結果として、落下の危険性がある遊具を撤去し、年齢に添った遊び方を再度確認するとともに遊具に頼らない戸外保育の内容としていく。	1.集団活動中・見守りあり	学年混合の時間においては、年上の子の真似をしたがり「できる」という錯覚で思いもよらない行動をすることがある。	園内における保育安全マニュアルの周知徹底と見直し、安全教育や応急手当に係る研修の受講を実施する。時間的に子どもも気が緩む時間帯なので、定数の保育教諭ではなくやや増して勤務にあたる。	1.いつもどおりの様子であった	この遊具を使うのは本児にとって3ヶ月ぶりであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児に対し一度「この遊具は使わない」と下ろした。再度のぼっていたことには気づいていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お帰り前の遊びから帰りの支度に活動を移行する間であったため注意に隙が生じた。	声をかけ園児たちが集まってきていれば「来るであろう」ではなく「来ない子がいるかもしれない」という意識を持つことが必要であった。最後の園児が遊びを終えていることを確認するための職員配置が不足していた。但し、事故発生の瞬間においては配置基準を下回る結果となった。	落下の危険性がある遊具を使う場合は保育教諭が手を出せる位置で見守る。遊びを終わらせるときは全員が遊具から降りていることを必ず確認する。保育教諭を増員させ、各園児の状況を情報共有し、保育教諭間の立ち位置を決める。常時、配置基準を下回ることがないよう園内における職員配置の見直しを実施する。	
7398	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	38									3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	不完全脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	保育者が研修のため、一人不在であった。	普段に比べて保育者の数がたりないときは、学年間で保育補助の先生を配置するなど人数を確保する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	―	なし	7.その他	保育者がいつもより一人足りない状況で広いホールに行き、追いかけっこをして遊んだ。	保育者の人数がいつもより足りないときは、保育室など目が届く範囲で遊ぶことができるような場で過ごす。	1.いつもどおりの様子であった	広いホールに行き、先生や友達と追いかけっこをして遊んでいたが，楽しさからテンションも上がり、周りがよく見ずに走り回っていたため、同じく側を走っていた男児に気付かず、ぶつかってしまう。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児や子どもたちが担当職員を追いかける形で走って遊んでいたため、走っていた本児や側を走っていた男児に前を見て走るように声をかけるのが遅れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の近くにいる子を中心に見守ったり、一緒に走って遊んでいたため、見ていなかった。	ホールで自由に走らせるには人数が多かったことと保育者が事前に遊ぶ約束事を確認しなかったため子どもたちは様々な方向に走って遊んでしまったこと	事前に遊ぶときの約束をし、走る方向を決めたり、人数制限をしたりする。保育者の位置を再考し、役割分担をして全体の様子を見たり、子どもたちと一緒に遊んだりしながらも子どもたちの様子を見守る。	
7399	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14									1	1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	マニアル確認を行い、事故防止につなげる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	安全点検を全職員で確認し、施設や園庭環境を整備する。	1.集団活動中・見守りあり	部屋では、暴れない。よく見て歩くなどの指導を行う。	通常の保育の中でも、場所が狭くないかなどの確保を行う	1.いつもどおりの様子であった	元気で登園している。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	テラスから対象児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児がカバンを取りにロッカーに歩いている場面を見守りはしていたが、ロッカーにあたる動きは、見ていない。	怪我のないように教室の環境や指導の工夫を行っていく。	狭い教室では、よく見て歩くよう、暴れないよう指導する。痛いことや困っていることがあれば、すぐ先生に話すように指導をする。	
7400	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	56									17	15	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	予想を上回る暑さとなった。	柔軟に、プログラムを変更し短縮する等の対応をする。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	園児席、待機場所、給水場などにテントを設置していたが、待機する時間が十分ではなかった。	テントの位置、数、時間配分等状況に合わせて配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	気温や日差しの強さにより、念入りに健康観察を行い子どもの状態を把握すべきだった。	子どもの状態を把握した上で、時間短縮等の措置を検討する。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	活動はいつも通りできていたが、怪我をする数分前より表情が少しかたくなっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	閉会式に他の子ども達と一緒に整列している対象児を、少し離れたところから見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	閉会式に参加し、子ども達と一緒に整列し、全体を見ていた。	閉会式で保護者から子どもが見えるよう、職員の多くが子どもの後方に配置していた。	子どもの様子が見える位置に職員を配置するなど配慮する。	
7401	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	18									3	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足の脛のひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	―	高さから考え、手を取る等の介助して行う運動メニューの実施等、体格や情緒面で必要な園児がいないか、より慎重に介助の必要性を（園児毎に）判断する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施		怪我の原因となった運動遊びを中止することは、遊びのメニューの減少につながる。また、高さも特別高すぎたとも考えにくい。	怪我に繋がった点を考慮し、より低い高さから初めることとする。	1.集団活動中・見守りあり	ホール内で複数の遊びが平行していたが、遊びごとに区画を決めていたので、種類の違う遊びがぶつかりあうといったことは無かった。	運動量が減少しても、運動遊びのメニューを減らすことも現場で慎重に判断をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	高揚していた点も見受けられたが、順番や遊び方が守れない状況では無かった。高揚して受け身が失敗した可能性も多少考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで園児を見れる位置にいた。手が届く範囲では無かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の保育教論は他の遊びを見守っていたので、対象の園児を見れていなかったが、問題は無いと考える。もう一人の保育従事者は全体を見守っていた。	保育従事者がもう一人いると見守りにより余裕があった可能性がある。	保育教諭採用を努力している。	

初回掲載年月日	No	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生月	事故発生時期・時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制人数	事業体制 異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者 うち保育士・幼稚園教諭・保育教諭・保育士・幼稚園教諭・養護教諭・保育補助者・児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の死亡原因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故ソフト面マニュアルの有無	事故予防研修実施【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	ハード面 施設の安全点検【回/年】	遊具の安全点検【回/年】	玩具の安全点検【回/年】	その他要因・分析・特記事項	環境面 教育・保育支援の状況	その他要因・分析・特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	職員の動き 理由	担当職員の動き 何をしていたか	他の職員の動き 何をしていたか	その他要因・分析・特記事項	改善策	再発防止策実施年月日
令和4年3月16日	7402	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10 7. 午後	1. 施設敷地内(園庭)	4. 3歳児クラス	20									1	1. 3歳 1歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右橈骨遠位骨端骨折	1. 遊具等から転・落下	1. あり	2. 不備 定期に実施	3～4	2. 自らの転・倒・衝突によるもの	1. 遊具等からの転・落下	1. あり	2. 不備 定期に実施	3～4	1

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7407	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	17. 5歳	2.女児	
7408	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	76									10	10	17. 5歳	1.男児	
7409	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				6	6	8			9	9	16. 4歳	2.女児	
7410	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57	0	0	0	18	20	19			6	6	15. 3歳	1.男児	
7411	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				5	10	12			6	5	16. 4歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
7407	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	様々な場面での、事例検討をしていく	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12
7408	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	48
7409	2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頸部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	3	2.基準配置	鉄棒の使い方について再度指導・確認をする。（手を離さない）	特になし	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	48
7410	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨ひび	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	1.基準以上配置	砂場には数名の園児がおり、落ち着いて過ごしていた。少し離れた場所に保育教諭がいたため事故の瞬間は見えず、砂場で倒れている状態で気付いた。	幼児の職員5名がおり、保育教諭の配置数や配置箇所にについては問題ないと考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12
7411	1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上　歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7407	園外活動の際に遊具を使用する際は、園児が使う前に職員で瑕疵等がないか確認している。	気が付いた時に遊具の確認を行い、その都度報告しあうことで、事故の発生抑止に努める。園外活動の際に遊具を使用する際は、職員で瑕疵等がないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	公園の広さ、遊びの想定を考慮し、職員の人数を配置する	状況により、遊具での遊びを制限する	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に活発に遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具のそばで、他児と順番を守って遊具で遊ぶ姿を見ていた。ぶら下がり・降りるを繰り返していた。降りた時にバランスを崩したのか、転んだ。すぐに駆け寄ったが、既に怪我をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で、鬼ごっこなどで遊ぶ子たちを見ていた	他児と笑いあいながら遊び、楽しくて集中力に欠けていたかもしれない	遊具で遊ぶ時は場合により、気を付けるよう声かけをかける	
7408	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	跳び箱に挑戦中、いつもより助走のスピードが速かったため、勢いがつきすぎてしまった。	跳び箱に手をつくと良い場所に印をつけ、手をつくことを意識できるよう子どもたちに話をし、保育者は助走のスピードに気を付けるよう周知した。	1.いつもどおりの様子であった	いつもより助走のスピードが速く、手をつく時手が滑りにバランスを崩した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたが、スピードが速く、マット上に落下する習慣に手を出したが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れた場所にいたため、見ていたが間に合わなかった。	なし	保育者は、園児の助走スピードが速いと思ったら跳ぶ前に止める。	
7409	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒本来の遊び方とは違う遊びを行っていたこと。	鉄棒の遊び方や、やってはいけない遊び方の指導を行う。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段から鉄棒でも前回りや足掛け回りをして楽しんでいる子どもであり、鉄棒の保育も行っていたことから、十分に能力を有していた。　しかし鉄棒の上でバランスをとるという本来の使用方法と違う遊び方を始めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室では３名の保育士が見守りの担当をしていた。そのうち１名は降園子どもの対応をし、また１名は保育室の子どもの様子を見に行っており、遊戯室の見守り体制が１名になった瞬間の出来事だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内にいる子どもの見守りを行っていた。	事故の要因は子どもが鉄棒本来の遊び方とは違う遊びを展開したためだが、見守り保育士が遊びの変化に気づかなかった。	見守り保育士が見守り以外の業務に気を取られ、子ども達から目を離さないような配置や仕組みを見直す。	
7410	砂場の枠が見にくかった。	砂場の枠がしっかり見えるように整備を行なう。	1.集団活動中・見守りあり	砂場には数名の園児がいたが、危険な遊び方はしていなかった。ぶつかった園児は本児よりも年齢が高く体格も大きかったためぶつかった衝撃に本児が耐えられなかった。	園児全てが自分の周りの状況などを気に掛けながら遊んだり、周りと適切な距離を保って遊んだりすることを意識できるよう日頃から指導する。	1.いつもどおりの様子であった	砂場の傍に立っていた。砂遊びや他の遊びを行なっている様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が走りまわっているなど危険な状況ではなかったため、職員はそばにはいたが転んだ瞬間は見れなかった。転んだことに気付きすぐに駆け寄り状況の確認をした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には幼児の職員（5名）がおり、それぞれが園庭の危険な箇所についたり、必要な引き継ぎを行なったりしていた。	特になし。	同じ遊びを行なっていても子供によって怪我に繋がる可能性があるため、遊んでいる子供に合わせて職員配置を変える。	
7411	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	階段の上り下りの際は近くで職員が見守り、ゆっくり上り下りできているか確認する必要があった	階段は慌てず落ち着いて上り下りするよう声を掛け、職員が階段のそばについて見守るようにする	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	階段でつまずいた瞬間を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にはいなかったが、様子を見守っていた	園庭を走り、そのままの勢いで階段を駆け上ろうとしていた	階段の上り下りはゆっくり行うことを再度子ども達に指導し、また、慌てると怪我につながることを知らせるようにする	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
						発生時の体制																					ソフト面					ハード面									環境面					人的面								
							人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事						死亡	負傷			事故	予防研修																											
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生時間帯	発生場所		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死因	負傷状況	受傷部位	診断名	誘因	マニュアルの有無	事故	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7412	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	42				14	15	13			3	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1.基準以上配置	看護研修にて、改めて事故発生状況の状況見直しを行なう（年間事故案件）。	看護研修内容について、看護師と再度検討	看護研修にて、改めて事故発生状況の状況見直しを行なう（年間事故案件）。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	水給台が登ることに適した形状ではなかった。	上に登らないルールを設定し、ルールを再設定	1.集団活動中・守りり	考える因は、事故活動用したれ用のゴ事前に使ってい事故として事前に使っていた、玉入カ用のゴが出たままになった。台のルに曖昧さがあったその乗ぶ子がいた為、玉入カ用のゴが出たままになった。台のルに曖昧さがあったその乗ぶ子がいた為、水給台ルールを職員で話し合い、検討する（現在、園庭裏に収納済み）。・活動後の備品片づけを徹底する。	・水給台ルールを職員で話し合い、検討する（現在、園庭裏に収納済み）。・活動後の備品片づけを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭にある、玉入カゴに、玉入れ用のゴが入れたくなりくそのあった為	3.対象児の近くで見ていた	・全体を俯瞰的にみるために、少し離れたところから見守っていたため・その場の近くに児童担当職員室に直接連絡して行った。	2.担当者・対象児の動きを見なかった	当児のをいつ対ク全守ることと、保護者対応を必要とする	延長担任が、クラスもの見守りを一度子どもの方に話し合い、子どもたちに遊び方を再度話をする。	
7413	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	37				15	22				6	5	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不期実施	2.基準配置	自らの転倒による事故であると思われる。コロナ禍において身体を動かす機会が減った事も一因と捉える。	運動能力の低下や自己調整力の低下を懸念して、毎週1回の運動遊びの計画を練り直し、運動場を活用した走り競争や、運動遊びゲームをたり、運動チャレンジに毎日挑戦する等、身体が自由にそして動かせるように活動を取り入れている。保護者には、園便りで運動遊びの重要性を伝えている。	運動能力の低下や自己調整力の低下を懸念して、毎週1回の運動遊びの計画を練り直し、運動場を活用した走り競争や、運動遊びゲームをたり、運動チャレンジに毎日挑戦する等、身体が自由にそして動かせるように活動を取り入れている。保護者には、園便りで運動遊びの重要性を伝えている。	1.定期的に実施	15	1.定期的に実施	18	1.定期的に実施	18	転倒した箇所は、固定の遊具の曲がった所で、カーブの際にピードが緩かった事から、カーブの際に、ピードを緩かった事も想定される。	固定遊具の庭には、ピードを出らないおにこの園共園児共出遊具で、スピードを走らない、ごっこは央用等を体で、有し、利事体で、利事全体で、利事共出する。	1.集団活動中・守りり	遊び方は年前の比年の遊び方は年前の比年の遊び方は年前の比年の

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7417	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65				20	19	26			6	6	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	職員間での事故発生対応研修や、事故後の周知徹底を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	丸太が太い為子どもの手ではつかみきれない。	丸太の隙間をなくす柵をすることでそこでの跳ぶ遊びをなくし、これからも定期的な施設の安全点検を行い事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	すぐに駆け寄る事ができるように職員の立ち位置場所を決めどこで誰が遊んでいるか把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友だちと日頃から遊んでいるアスレチックで順番を守りながら遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	アスレチックの２階で遊んでいる子ども達を下から全体を見渡し見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の受け入れを行っていた。	特になし	アスレチックの２階に職員を配置する	
7418	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	56									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1〜2	2.基準配置	特に本児は、活動中は集中しているが、活動のあい間は気が緩み、待つことが苦手でもある。	勝負のあい間の休憩中である時間の過ごし方に気を配り、走ってしまいそうな本児には事前に声をかけて注意をする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		園庭が芝生であるため、つまづきやすかったことも考えられる	常に短く刈って管理はしているが、今後も定期的に管理していく	1.集団活動中・見守りあり	年長児２クラス合同で鬼ごっこを行い、混雑した状態だった	クラスごとに行う等、人数を制限して行う。遊戯室を使用するクラスを決めたり、活動を分散して行うようにした。	1.いつもどおりの様子であった	当日の健康状態に問題はなかった。鬼ごっこの２回戦を行う説明を担任がしている間に本児は話を聞かず走ってしまっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体に目を向けて説明をする。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一方のクラスの担任(説明する教師の横に立っていた。）が走っている園児に対して注意を向けるべきであった。	２回戦目の笛の合図より先に走ってしまっている子がいることを把握していたがそのまま説明を進めてしまった。	全体を落ち着かせてから次の活動に移るように、メリハリをつけた指導をする。その後園庭で毎回、遊び方や走る時のルールを確認している。	
7419	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									5	5	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	競技練習が終わった後に、痛い所がないかこどもの体を確認する。	その都度使い方を伝え、使用中はしっかり見る。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	落ち着いて練習できるような配置を考える。	運動具を点検する。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱が跳べるようになった子が、油断も出てきて、跳び方が雑になっていたので、こどもたちに注意喚起する必要があった。	怪我に繋がる事を再度こどもたちに伝えるとともに、運動具の使い方をもう一度丁寧に教える。	1.いつもどおりの様子であった	勢いよく跳んでいたが転倒や落下はしなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	マット・鉄棒・跳び箱のすぐ横で危険がないよう見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任は待機中のこどもの所に付き、他の保育者がマット、鉄棒、跳び箱を至近距離で見ていた。	練習中から跳び方が雑になっている子には危険な事を伝える。	運動具を使用する前にその都度使い方を確認する。	
7420	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				8	7	9			3	3	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	特になし	事故防止マニュアルの点検と職員への周知徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	随時	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	園庭には、2名の職員が出て、見守りをしていたが、雲梯のすぐそばにはいなかった。	雲梯を使用するときには、できるだけそばにつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と特に変わった感じはなかった。時間的に少し疲れてきていたのかもしれない。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2名の担当職員は、対象児からは、少し離れたところで、様子をうかがいながら、それぞれ他児の対応をしていた。（喧嘩・お迎え）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	部屋の中で掃除や、翌日の保育の準備を行いながら、部屋にくる子への対応を行っていた。	ひとりで雲梯ができるようになり、得意になってきており、緊張感が薄れてきたのかもしれない。また、できることが嬉しくて、何度も繰り返すうちに、腕が疲労し、力が入らなくなってきたのではないかと考えられる。	常に声をかけ、注意を促す。	
7421	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									2	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の損傷(前歯)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	—	マットの上以外はシューズを履くことの指導を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	座って遊ぶようにしっかりと約束をし細目に声掛けを行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	マット以外の場所で遊んでいる時にシューズを履いていなかった為。	マットに座って遊ぶか、シューズを履いて遊ぶかを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	子ども一人一人の行動に目を配り、声掛けを行っていく。	
7422	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	88				34	27	27			9	9	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1〜2	1.基準以上配置	—	遊具の使い方や職員配置の見直しと対策をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		—	引き続き定期的に点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	●●から飛び降りることにまだ慣れていなかったため。	戸外での職員配置を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の練習に他児も●●から飛び降りることをしていたので、本児もそこに向かっていった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が着地に失敗した瞬間は職員はそばにいなかったので、本児が泣くまで気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他児と別の道具を使って運動遊びをしていたため見ていなかった。	—	子どもが道具を用いて遊ぶ場合はそこに職員が見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7423	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	54									3	3	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	安全管理マニュアルにのっとり職員の危機意識をもって関わっていた。	引き続き安全管理マニュアルにのっとって関わっていきたい。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	遊具の設定の際に床及び遊具の確認をしたが劣化・破損等はなかった。	安全に遊ぶための安全点検を今後も徹底していきたい。	1.集団活動中・見守りあり	十分な空間をもうけ、遊びが安全に展開できる工夫をしていた。	走り回って衝突が無いよう遊具等で空間を仕切ったり、遊びが混在しない工夫をしていたので、今後も環境や空間を配慮した保育を心掛けたい。	1.いつもどおりの様子であった	「はい！どうぞ」の保育者の声掛けで一斉に自分の好きな玩具の元へ走っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	全体の子ども達の動きを確認しており、目の前で倒れた子どもに追随した子どもが覆いかぶさる形になるのを見ていたが止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児のトラブルに対応していたが、話をしながら本児が怪我をする状況を見ていた。ジャングルジムの子ども達を見ていた職員も本児の動きの不自然さに気付き注目していた。	子ども達が焦らず落ち着いて、遊具の場所まで向かえるような言葉掛けが不十分であった。	子どもが落ち着いて移動し、安全に遊びだせるように、子どもの気持ちをクールダウンしたり、少人数で区切って移動出来るよう促すなど、子どもへの声掛けの工夫をしていく。	
7424	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									2	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指の関節部「基節骨」の骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	「危機管理マニュアル」にある安全管理について、「状況に応じて遊ぶ範囲や使う道具などを調整する」ことへの配慮に対し、今回は改善の余地があった。	全職員対象で園内研修を持ち、「危機管理マニュアル」について再確認し、事故再発防止の徹底を図る。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	ボールを蹴っていた子が、本児へパスを送る際に近距離から蹴ってしまった。	安全な遊び方やルールについての約束事を子ども達と確認する。	1.いつもどおりの様子であった	サッカーを7人の友達同士で楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サッカー遊びが見える位置で、他児の運動遊びの対応をしており、ボールが当たった場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の運動遊びの対応をしており、ボールが当たった場面は見ていなかった。	園庭にて数種類の運動遊びが活発に広がっており、フリー保育教諭1名もサポートに入り安全管理をしながら保育を行っていたが、サッカー遊びは子ども達だけで行っていた。	職員の立ち位置や活動の整理について、職員間で確認や見直しを行いながら連携して安全管理に努めていく。	
7425	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67				23	23	21			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	スクーターの正しい使用法を園児に伝える。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	245	特になし	点検には一層の注意を払っていく	1.集団活動中・見守りあり	特になし	降園時は、気持ちが緩みやすいので見守り強化する	1.いつもどおりの様子であった	友達と楽しそうにスクーターを走らせていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	足を滑らせ転倒するのがわかり、直ぐに駆け寄るが防ぐことはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒した園児の周りに集まってくる園児に安心させる様、声を掛け遊びを続けるように促した。	特になし	いつものように遊んでいても、滑ることもあるので今一度、園児に気を付けるようにお話をした。降園児の見守りを強化する。	
7426	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)													15.3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	階段からは飛び降りない（ジャンプ）しないよう園児に声をかける。	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	245	1.定期的に実施	245	特になし	今後もしっかりと点検を続けていく	7.その他	手すりを持つ又は、母親の手を繋いで階段を下りるべきだった。	手すりを持つ又は、母親の手を繋いで階段を下りるようにする	1.いつもどおりの様子であった	2階の保育室でいつものように遊んですごす	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後でした。階段付近には保育者はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	泣き声に気付き、近寄った	特になし	階段からは飛び降りない（ジャンプ）しないよう園児に声をかける。階段では、手を繋ぎ下りるよう保護者に伝える	
7427	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	活動の後、走ってもどる際に滑ってバランスを崩して転倒	たいそう教室の外部講師には状況を説明し、注意喚起をお願いした	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	12	園庭の環境として若干の傾斜があるため。	活動以外の園庭あそびの際など、十分気をつけて遊ぶように注意喚起を行った。	1.集団活動中・見守りあり	若干傾斜がある園庭を走っていて足を滑らして転倒した。	活動以外の園庭あそびの際など、十分気をつけて遊ぶように注意喚起を行った。	1.いつもどおりの様子であった	たいそう教室の活動中。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	逆上がりの練習を順番に行っている時、自分の順番が来て演技を行い、元の場所へ戻る時に転倒。すぐに事務室に来て様子を見たが、本児との話の中で様子を見ることになった。昼食を普通に取り、午睡入眠したが、午睡明け、再度痛みを訴えたため、通院することにした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外部講師の活動中であったため、園庭には、外部講師と担任の2名だけであった。	—	本児とも話をして、しばらく様子を見ることにしたが、体の中については、見えないので、気になる時には、早目の通院判断をする必要がある。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7428	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21				7	7	7			31	24	16．4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨断裂骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	走っている際に園庭にある植樹用アーチに掛けてあったネットに足を取られた。	ネットは取り除いた。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	子どもを取り巻く環境がいつも安全であるかの確認不足	特に園庭においては箇所ごとに管理責任を決め、管理を実施している。	3.個人活動中・見守りあり	植樹用アーチに掛けてあったネットのたるみに気づかず、対処が遅れた。	日々危険がないか、意識をする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	9：00　園庭で転んで泣いている本児を発見し、声を掛ける。本児は、泣いていて「腿が痛い」と言い、立てないとの事。事務室に報告し、保健室にて様子を見る。（保冷剤で冷やす。）安静に過ごし、遊ぶが、右手を使うのを痛がり、横になったため、保護者へ連絡を入れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	６名中３名各グループ室内へ入室。残りの３名は園庭にいた。	転んだ際に、大人が把握できていなかった。	大人の配置、役割を明確にした。（全体を把握する人・個別対応する人）	
7429	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	103		16		28	41	18			12	12	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨内顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	普段通りかわりなく過ごし、総合遊具に連結しているネット式太鼓橋で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	通常の活動であり、担任はクラスの子どもの様子を見ながら、砂場で子どもと遊んでいたが、他の子ども同士がトラブルになり、個別に対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ていた他クラスの担任は、担当クラスの子どもたちの遊びを見守っていた。	担任が他児のトラブル対応を行っており、クラス全体の様子に目が届かなかった。	担任が個別対応を行うときは、周りの職員に声をかけ連携を図り、子ども全体の様子を常に確認するようにする。	
7430	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									1	1	18．6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨末端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～5	2.基準配置	目を向ける職員の立ち位置の配置不足	教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン・園児を事故・災害から守る安全対策手引き	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	220	2.不定期に実施	12	子どもが密集する状況があり、適正な人数での活動ではなかったことが考えられる	グラウンドでのマラソン時は、走る子どもの人数を8名までとし活動を行う	1.集団活動中・見守りあり	全体に目を向けながら活動を行っていたが、一瞬背を向ける状況があった	子ども全体が視界に入る立ち位置での活動の見守りを行っていく	1.いつもどおりの様子であった	9時から通常保育	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見える位置にはいたが、背面へ子どもが移動した際に死角となってしまったため、転倒時に目を向けることができなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グラウンドとホールで分かれて活動をしていたため、ホールで他児の活動の見守りを行っていた	全体が見える位置にで見守っていたが、グラウンド内で見守ることで、背面に子どもが移動した際に、死角となってしまい一瞬目を話すことになってしまった。	グラウンドでのマラソン時の職員の立ち位置は、フィールド外に立ち、死角を作らない立ち位置で子どもの見守りを行う事を職員周知し徹底していく。	
7431	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	8									3	3	13．1歳	1.男児		8.その他	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	子どもの行動予測が不十分であった。	職員相互の連携を図るとともに、子どもの動きを予想して対応していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	―	危険な箇所や障害物となるものがないか常に確認する。	5.睡眠(午睡)中	本児への見守りが不十分だった。	危険を回避できるような保育者の立ち位置を常に意識していく。	1.いつもどおりの様子であった	―	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の衣服の着脱補助をしていて本児の動きから目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の排泄補助、食事の片づけ等をしていた。	―	常に全体の様子を見ながら、危険な時には声掛け、注意をしていくことを心がける。	
7432	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	14									4	3	14．2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	低年齢児はバランスを崩すと大きな事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	12	幼児用のサッカーボールを使用していたが、2歳児には大きかったのかもしれない。	ボールの大きさを検討する。	3.個人活動中・見守りあり	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をする場合､子どもを見守る職員が手薄となる。	職員全員の目が届く場所で活動するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	ボール蹴りが好きで保育者を誘ってボールの蹴りあいをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育者の蹴ったボールを本児が右足で思い切りキックをしようとしたが蹴りそこない、その足（右足）がボールの上に乗ったためバランスを崩して左に転倒した。本児に「もっと離れて」と言われ、５メートルくらい離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員の背中側にいた子たちと関わったり遊んだりしていた。お迎えに来た保護者や園児への対応をしていた。	職員（保育者）がお迎えの時間帯に保護者対応をする場合､子どもを見守る職員が手薄となる。	子ども全体の動きを見る保育者が一人必要である。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7433	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	1	14.2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	24	1.基準以上配置	特になし	職員同士の連携やあそびかたの工夫についてクラスミーティングで話し合いを行った。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	ミニカーなど硬いものを持っている時には、より注意して見守る。	1.集団活動中・見守りあり	床には何も落ちておらず、本人は歩いている状態であり転倒するとは考えていなかった。	どのような状態であっても、事故が起こる可能性があることを、職員間でもう一度共有する。	1.いつもどおりの様子であった	両手にミニカーを持ち、円を描くようにゆっくり歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故が起きた瞬間は、3人の職員のうち対象児以外の子と遊びを展開していたのが2名、降園の準備をしていた職員が1名であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故が起きた瞬間は、3人の職員のうち対象児以外の子と遊びを展開していたのが2名、降園の準備をしていた職員が1名であった。	特になし	子どもの遊びは常に変化していくので、その都度声を掛け合い、動きを見ていないことがないように気を付けていく。	
7434	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	23									3	3	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	BA┘ 外傷性歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	他児が遊んでいる間を走り回らない様、静かな遊びの設定を取り入れるべきだった。	遊び始めに絵本の読み聞かせ等を行い落ち着いて遊び始められる様設定する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	毎月一回安全点検を行っている。改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	楽しい気持ちから遊具の間を走り回る等予想された。	ホールへ移動し遊び始められる時は絵本の読み聞かせ等から始め、落ち着いて遊び始められるよう設定する。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで滑り台・絵本で遊ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台のマットを直していたので、対象児の近くにいたが、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所で他児のトラブルに対応していたため、見ていなかった。	担任間での連携が取れていなかったことが考えられる。	担任間で連携を取る	
7435	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	85				29	27	29			9	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	マニュアルの再認識が出来ていなかった。	危機管理マニュアルを再確認。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	子どもの安全を考え、危険な状況を予測して保育をする。	2.集団活動中・子ども達のみ	異年齢での集団遊びは、遊び方が異なる。	園庭で子どもの人数が多いときには、担当職員が子どもの安全を考え遊び方を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもとおりに遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体的には見ていたが、そのクラスの女児に声をかけられ対応をしていたので、その瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場で、加配の子どもを含め、クラスの子どもと遊んでいたので、本児の様子をみていなかった。	視診が園庭で遊んでいる子ども達の全体を見ることになっているが、保護者対応に重きが置かれ全体を見ることが難しい状況があった。	視診の保育教諭以外に、9時15分勤務の職員が全体を見て子どもの遊んでいる状況を見る(危険な状況が無いか把握する)	
7436	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	109				32	39	38			13	10	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	8	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から気分がやや高揚していた。友達の刺激を受けて鉄棒で前回りができるようになってうれしくなり何度もしていた。次の遊具に移動する際、人工芝で足を滑らせ転倒したが手が出ず肘から落ちてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見守っており、すぐに駆け付けた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の活動は見ていなかったが、すぐに駆け付けられる距離にいた。	特になし	気分を落ち着かせるため、必要に応じて休息をとらせる。咄嗟の時に対応できるよう、日ごろから体を動かす遊びを積極的に取り入れる。	
7437	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56				17	19	20			9	9	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折の疑い(レントゲンの所見はなし、痛みがなくなるまで固定)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	—	職員会議、各種ミーティングで検討を加える	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	—	遊具や物の配置・管理を改善する	1.集団活動中・見守りあり	—	安全確認と子どもたちの見守りを強化する	1.いつもどおりの様子であった	園庭遊具(雲梯)の下のバー(地上40cm)の上に立っていて友達と接触しバランスを崩し落下する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもと関わらず、園庭全体の見守りをする役目を担っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の子ども達と関わり、共に遊ぶ。	—	周囲をよく見て遊ぶように促す	
7438	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	62				19	20	23			5	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘尺骨肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	2.基準配置	死角を作らないようにしながら、全体が把握できる体制で見守っていたが、対象児がおにごっこしていて、単独で転倒してしまい補助ができなかった	子どもたちとおにごっこやかけっこをする時の注意点について話し合った	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	石や枝葉など怪我の要因になる物が落ちてなかったか見直す	再度安全点検をしその都度危険な物や不衛生な物は取り除くようにする	1.集団活動中・見守りあり	園庭の遊具や砂場のある付近でおにごっこをしていた	走ったり、体を動かして遊んだりする時は運動場など広い場所で遊ぶように配慮する	1.いつもどおりの様子であった	友だちとおにごっこをしていて走り回っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	死角を作らないように、子どもの動きを見て移動したりしながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭も広く、子どもの人数も多かったので離れて見守っていた	対象児も普段からあまり活発な方ではないが、その時はおにごっこということもあって気持ちが高ぶっていた	子どもの特性を理解しながら成長に伴って子ども自身が安全や危険を認識できるように伝えていく	
7439	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7		1	1	1	3	1			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	—	職員配置に問題はなく、園全体で事故の研修を行っている為。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	全職員で安全点検を定期的に行っている為。	1.集団活動中・見守りあり	—	自ら練習できる環境を作っている為。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から遊具の使い方を指導しており、事故発生時もいつも通り遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	職員が滑り台の上と下から見守っており、遊具の使い方の指導もしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り台を滑る園児を一人ずつ見守っていた。	—	職員は近くで見守っており、遊具の使い方も指導していた為。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7440	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	24									5	5	14.２歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨わけぎ骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	遊具での安全な遊び方や子どもが事故を起こしがちな状況について検討し，どのような指導を行ったらよいかを研修する。	発達段階に応じた遊具での安全な遊び方の指導を徹底する。事故事例を基にした保育士の見守りや支援のあり方等を検討する。	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	発達段階に応じた遊具の安全な使い方等について検討し，どのような遊具をどのように使わせたらよいかを研修する。	発達段階に応じて使える遊具を選定し，安全な遊び方の例や予想される事故事例等について示す。	1.集団活動中・見守りあり	遊具での活動技能が未熟で，個人差が大きいため，転んだり落下したりするなど，重大事故につながりやすい。	園児の技能を考慮して使える遊具を限定したり，園児一人一人に目を配り，危険な時はすぐに援助・支援したりする体制を整える。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台の階段を上ったり下りたりして，一人で活動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近くにはいたが，対象児から目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児とともに活動し，他の園児を見守っていた。	遊具で発生しやすい事故事例や発達段階に即した安全な遊具の利用のさせ方，保育士同士の連携・分担した指導のあり方等についての理解が不十分である。	遊具で発生しやすい事故事例や発達段階に即した安全な遊具の利用のさせ方，保育士同士の連携・分担した指導のあり方等について具体的に研修する。	
7441	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									2	2	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	1.頭部	急性硬膜外血腫 頭頂骨骨折 左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	—	遊具での遊び方を園児に指導	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	—	遊具周りにゴムチップ製のインターロッキングで厚み5cmを敷設した。	3.個人活動中・見守りあり	—	遊具での遊び方を園児に指導	1.いつもどおりの様子であった	元気に遊んでおり、突発の事であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で遊ぶ園児を安全を確認する為、職員を配置していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び全体を見ていたが、事故の瞬間は、見られなかった。	—	保育教諭が戸外遊びを見守り、遊具で遊ぶ際には、子どもの動き、行動を予想し、危険な事をしている場合は、注意して止める。	
7442	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	67									4	4	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	左第４指爪下血腫、受傷後の化膿	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	『入室時間は事故が起きやすい時間』という認識で、改善や大人の目を増やすなどの対策をしていた。大人の目が届かない場所のコントロールなど、引き続き改善に取り組む。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	園庭改造により、夏は虫探しコーナーで石を動かすとすぐに虫が見つかる環境になっていた。季節が秋になり、虫がいないことで、石を動かす遊びに変わった可能性がある。	子どもが一人で持ち上げて動かす事が危険な岩は、土を掘って埋め、動かせないような状態にして、虫を探せる環境で動かせるものは厳選する。	7.その他	入室に伴い、大人も固定した位置からの見守りにならず、2人の場所は死角になっていた。	見守りが難しい場所は入室時間より前に使用を終了し、大人の目が届くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	入室時間であり、他の園児は遊びを終了して自分の水筒を持って並び、2階保育室に移動を始めている。当該児は、隣のクラスの園児とともに、虫探しコーナーに残っていた。けがの発生直後は、泣いていて状況をうまく説明できなかった。そのため応急手当てを優先。繰り返し発生状況を聞かれるうちに、記憶が曖昧になっている。	4.対象児の動きを見ていなかった	入室の時間のため、当該児の担任は先に外階段から２階保育室にあがっていた。また、関わった園児は隣のクラスで、担任は泣いているところを気付き看護師のところに見せた後、そのまま先にクラスにあがる。看護師は応急処置後、通常であれば発生現場で状況の確認をするが、寄らずにそのままクラスへつれて上がり、担任に処置の状況を伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	けがの発生現場は、入室の時間以外にも大人の目が届きにくい場所だった。遠目でいることに気付いていても、何をしているかは把握していなかった。	受傷当日は、降園後サッカー教室に参加している。	・入室時間の前に、死角になりそうな場所の使用を終了し、切り替えの準備をする。 ・発生後時間が経つと記憶が曖昧になるため、可能な限り発生直後に現場を見る、担任が話を聞くなどして、事実を確認する。	
7443	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									1	1	17.５歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	・活動前に学年で設定や見守り方法の打ち合わせが行われなかった。 ・『跳び箱』は事故発生リスクの高い活動という認識が共有されなかった。	・跳び箱・鉄棒など、転落の事故の発生リスクが高い活動をする時には、大人が１名固定でついて見守れる方法をとる（職員手配または優先順位をつけて順番に行うなど。）マニュアル・安全マップに事故発生リスクの高い活動を追記し改定予定。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	跳び箱の周囲に敷くマットが、簡易的なものとなっていた。	体育用品の安全な使用方法・配置は、活動実施前の学年の打ち合わせで、経験のある職員が意味・方法などを情報共有する。	1.集団活動中・見守りあり	参観に合わせて、鉄棒・巧技台・跳び箱・縄跳びの４種を設定して選ぶ方法をとった。しかし、担任1名で初めての活動を安全に見守る事が難しい設定。	複数の活動がある時、特に初めての内容がある時は、活動の優先度をつけ、子ども達と安全な遊び方の約束をする。	1.いつもどおりの様子であった	設定されたものからやりたい運動を積極的に選んで取り組んでいる。週末に習い事の体操教室で発表会をひかえており、跳び箱の発表も予定していた。担任が指示した内容とは違う方法で、飛べる経験があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	事故があった跳び箱の他に、巧技台・鉄棒が設定されている。担任は巧技台・鉄棒の方についていた。離れたところから、時々跳び箱に行く園児の様子を見守っている状態であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配担当の非常勤職員1名が同じ場所で活動に参加していたが、加配児についていたため全体の見守りは行っておらず、当該児の様子を見てはいなかった。	職員により『跳び箱』の活動に対する危険度と安全対策の認識が異なる。	体育用品の安全な使用方法・配置は、活動実施前の学年の打ち合わせで、経験のある職員が意味・方法などを情報共有する。	

| 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | |

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期・月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7449	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	1	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	事故予防のマニュアルについて、全職員に周知する必要がある。	全職員が周知できるよう、定期的に最低年2回は行う。	1.定期的に実施	12	3.未実施		1.定期的に実施	12	園庭が狭く大きな柱が3か所に立っていて死角になりやすい作りである。	狭い場所には、園児が走り抜けないよう遊具や水筒かけなどを置く	1.集団活動中・見守りあり	園庭には大きな柱があり、柱側に隠れていた子と本児がぶつかってしまった。近隣の工事等もあり、現在は、思い切り走れるスペースが限られている環境であるため、全職員と園児でこの場所での遊び方や約束ごとは共通理解している。しかし、改めて再確認する必要があると考える。	園庭では、保育教諭は常に子ども全体が見える位置に立ち、安全を確保する。園庭での過ごし方について子どもたちも一緒に再確認し安全に過ごせるよう援助していく。	1.いつもどおりの様子であった	おやつの後、園庭に出て鬼ごっこをして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこを見守りしていたが、柱の陰から出てくるのを瞬間的に止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児に対応をしていた。	園庭で遊ぶ場合、保育者が2人以上いるが、立ち位置について確認が必要であった。	個の幼児に関わり、その他の幼児に背中を向けることがあるのでなるべく大勢を背にするのを避けなければならない。	
7450	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													18．6歳	2.女児		8.その他	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	—	お迎え後におきた事故であるが、職員に周知する。園庭開放のルールを保護者に周知する。	1.定期的に実施	数	1.定期的に実施	数	1.定期的に実施	数	—	注意喚起の張り紙をする。	7.その他	—	遊具で危険な行動をしないように遊び方の指導をする。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎え後におきた事故のため、対象児を保護者がみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎え後におきた事故のため、対象児を保護者がみていた。	—	園庭開放のルールを保護者に周知する。	
7451	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									1	1	17．5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	①左手関節捻挫 ②左橈骨頭骨折 ③左橈骨近位骨端線損傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	５歳児で遊具に慣れていて、少しの油断が大きな事故につながる。	今回の事例を周知し、危険予知及び安全管理に対する意識を高める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	鬼ごっこをしながら、遊具で遊んでいた。	遊具での安全な遊び方を知らせていく。	3.個人活動中・見守りあり	園庭で３．４．５歳児が遊んでいて、子どもの行動範囲が広く目が届きにくい。	常に子ども全体を見る保育者がいるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしながら走って来て、遊具に登ったり、ぶら下がったりしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児から約２メートルのところにいたが、別の園児の竹馬の補助をしていて、その時は対象児に背を向けていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの職員２名も園庭にいたが、違う場所にいる園児と遊んでいた。	担任１名のため、すべての子どもの様子を把握できないことがある。	他クラスの職員と連携していく。	
7452	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	1	1	2	3	2	3			16	15	16．4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	園庭に職員は２人おり、鉄棒で遊んでいることを把握していたが、そばについていなかった。	鉄棒や遊具で遊ぶときは、必ず職員が傍につくことを徹底する。子どもたちにも遊具で遊ぶときは必ず職員に声をかけて職員がそばで見ている状態で遊ぶよう話をする。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	4	鉄棒の周りの骨組みにクッション材をまいたり、鉄棒の下にマットを敷くなど転倒転落防止の対策をとっていなかった。	鉄棒の周りの骨組みにクッション材をまき、ぶつかった際の衝撃を和らげるようにした。鉄棒の下に転倒転落防止のためのマットを敷いた。	1.集団活動中・見守りあり	—	異年齢児で活動する時は、同年齢児だけで活動する時とは想定していない動きをする可能性があることを意識して見守りを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段の保育中では、鉄棒を積極的に行ったりする姿はみられなかったが、異年齢の園児が鉄棒で遊んでいるのを見て、いつもより活動的になったと考えられる。鉄棒で一人でまわったことはなかったが、異年齢の他児から刺激を受け、前回りに挑戦したところ、初めて行ったため驚いてしまい、鉄棒から手が離れて転落してしまったと考えられる。	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒で遊んでいる対象児を含む園児たちを目視で確認していたが、砂場で遊んでいた他児に対応していたため、対象児のいる鉄棒のところにはついていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じく、鉄棒で遊んでいる対象児たちを目視で確認していたが、園庭の小高い丘のところで他児の対応をしていたため、鉄棒のところにはついていなかった。	降園後でバスに乗る職員、お迎えに来た保護者に対応する職員と、職員の動線が大きく、園庭での外遊びに対応する職員の人数が少なかった。	園庭での遊びに対応できる職員の数が少ないときには、遊ぶものを決めて、職員が見られる範囲の中で遊ぶようにする。	
7453	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業〜午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	194	10	25	32	35	45	47			23	21	16．4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	人中部挫創（診療明細書に記載なく、負傷部位等から記載）	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	—	これまでのヒヤリハット事案を見直し、各事例において職員がとるべき行動を認識する研修を実施する。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施	数	—	引き続き安全点検を定期的に行う	3.個人活動中・見守りあり	—	特別な支援を要する園児への目配りの度合いを高める必要があるため、グループ職員で対応策を協議し実行している。あわせて、保護者に療育機関の利用を勧め、●月中旬に第１回受診の予定。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	加害行為の1分前に当該グループの机に近づいて声掛けしているが、その時点で異変はなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の職員が近くにいたが、他のトラブルに対応していたため当該事案への関与は困難だった。	—	特別な支援を要する園児への目配りの度合いを高める必要があるため、グループ職員で対応策を協議し実行している。あわせて、保護者に療育機関の利用を勧め、●月中旬に第１回受診の予定。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7454	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	21									6	4	14.2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	今後もマニュアルに沿った研修や話し合いを通して職員の知識・判断力を高めていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	・子どもたち全員が密接にならないような環境構成を行う。 ・気持ちが昂っている子どもの側に保育者が必ずつく。	1.集団活動中・見守りあり	・リズム感のあるDVDだと跳んだり踊ったりする。1歳児で身体のバランスが未熟であるため速やかに見守る体制をとる。	走ったり立ち歩く子どもがいたらすぐに座らせたり落ち着かせる。	1.いつもどおりの様子であった	リズムに合わせているうちに気持ちが昂りジャンプを始めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	離れた場所にいたため本児の気持ちを落ち着かせることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ジャンプをしていた子どもを見ていた職員が速やかに側に行って対応することが出来なかった。	保育教諭がスペースから出る際、保育補助が入る前に出てしまったため子どもから目が離れた。	保育者間で声掛けをし連携を取りながら行動する。	
7455	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右親指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	毎日使うタオル掛けに対し、いつもと違った掛け方をしようとしたことが今回のケガにつながっている。 園生活に慣れ、様々な経験を積み重ねる中で自信を得ていく一方で、過信から慎重さに欠ける姿が多く見られる時期（園全体が）だったため、毎日の打ち合わせで子どもの遊び方や行動に気をつけていこうと話し合ってはいたが、防げなかった。	子どもたちの園生活への“慣れ”が、集団生活における規範意識の低下や、自身の育ちを過信した行動になってしまうことがある、ということを改めて保育教諭間で共通理解する。特に毎日繰り返し行う行動についてこそ注意することを改めて意識する。	2.不定期に実施	使用時	2.不定期に実施	使用時	2.不定期に実施	使用時	無し	タオル掛けに破損等はなく、今回の事故原因ではないため、改善策は無し。	1.集団活動中・見守りあり	無し	タオル掛けは可動式で、自由遊びや設定保育中は保育室の端の方（水飲み場近く）に置いたり、登降園時はタオルを掛け外ししがしやすいよう保育室の中央付近に置くなど、子どもたちの動線を考慮して設置していたもので、環境構成に問題はなかったと考える。	1.いつもどおりの様子であった	すでに登園していたが、登園時に出し忘れたタオルをタオル掛けにかけようとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	自由遊びから戻ってきた子、排泄に向かう子、朝の身支度を行う子などへ目を配りつつ、登園してきた子へ対応をしていたため見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室以外の場所で遊ぶ園児と片付けを済ませ、保育室に戻る途中だった為見ていなかった。	子どもたちの園生活への“慣れ”や自身の育ちを過信した行動が目立つようになる時期であることを意識して保育にあたっていたが、タオルを掛ける際の行動については大丈夫だろうと子どもを信じ、特別な注意をしていなかった。	園生活の中で繰り返し行うものに対し、子どもは違ったやり方を試そうとすることがある。しかし、違った行動（扱いを変えるなど）をとることで、危険が生じ、思わぬケガにつながることがあることを繰り返し伝え、子どもたちの危機管理能力を育んでいく。 また、タオル掛けのような扱い方によっては思わぬケガにつながる物については、子どもたちの様子（慎重さに欠ける行動が目立つなど）に応じて注意を払うようにする。	
7456	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	58	4	7	7	10	9	16	5		13	10	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	歯槽骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数	2.基準配置	—	日頃から部屋では走らないことの習慣化。	1.定期的に実施	遊ぶたび	1.定期的に実施	遊ぶたび	1.定期的に実施	毎日	—	今後も床にものが散乱することのないよう部屋の状態を整える。	1.集団活動中・見守りあり	—	怪我はどんな時でも起こり得ることを再認識し、常に一人ひとりの子どもの様子に目配りをする。	1.いつもどおりの様子であった	担任からもう少しで片付けをする声掛けがあった為、塗り絵をすすめようと急いで席を立ち、ケースに入った色鉛筆を持って色を替えに席を立った。（共用の色鉛筆を使用しており、ケースには3本までというきまりがある。）	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	特定の子どもにつくことなく全体を見回っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見ながら他児に関わっていた。 備考：対象児の動きをみていたが、担当職員同様離れたところに座っていた。	片付けの声掛けにより本児が急いでしまった可能性。当日上靴はしっかり履いていた。	職員の立ち位置・連携仕方の再確認。	
7457	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2～3	1.基準以上配置	遊び初めは１グループだった鬼ごっこが２グループに分かれたときに、職員から全体への声かけ・安全対策をとっていなかった。	遊びが変化していく場合、予測される危険が増えた場合は必ず対策を講じた上であらためて子どもたちに遊びのルールを知らせる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし(遊戯室に異常はなかった)	特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこが２グループに分かれたときに遊戯室内を区切らなかったため。	鬼ごっこは１スペース１グループにし、２グループに分かれるときには平均台等でスペースを区切るなど、視覚・障害物ではっきり分かる区切りをする。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ステージ近くで、お手玉をしている子たちと関わりながら、全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	支援が必要なお友だちを中心に、ミニボルダリング付近で遊戯室全体を見ていた。	鬼ごっこが２グループに分かれたときに一旦止めて、遊びの約束をしていなかった。	遊び初めの安全確認だけでなく、遊びの様子の変化に対して必要な安全対策をとるよう、日頃から危険予測を職員間で共有し、情報を更新していく。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7463	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38					20	18			2	2	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	—	職員配置基準は満たしているが、子どもの降園に伴う保護者対応のため保育者が動くことが多いので、可能な範囲で職員が配置できるよう配慮する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	定期以外でも危険認識を持ち、気づいたときに報告し迅速な対応をする。	3.個人活動中・見守りあり	—	日頃より、運動遊びを通じて子どもの運動能力や柔軟性、体幹を鍛え、転倒時にうまく手をつくなどして怪我を最小限にとどめることが出来るよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	普段のとおりであり、特記事項なし	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段のとおりであり、特記事項なし	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	普段のとおりであり、特記事項なし	—	子どもたちをよく見て、遊びに集中している子どもの動きを予測し早めに声をかける。	
7464	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	52			9	13	13	17			5	5	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	—	転倒することも多いので常に気を配ったり声かけを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子どもたちにとって危険箇所がある場合はすぐに報告していく。	1.集団活動中・見守りあり	—	滑りやすいなど注意が必要な箇所の確認を行い、気をつけながらあそぶように声かけ・見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段どおり遊んでいた（走り回っていた）ので見守りをおこなっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児と関わりながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各場所に分かれ、他児と関わったり、見守りを行っていた。	—	転倒や他児とぶつかることもあるので声をかけながら見守っていく。	
7465	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	18. 6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施		2.基準配置	戸外活動の遊び方における、事故予防マニュアルがない。	事故予防マニュアルを作成し、定期的な研修。また、園外活動の際は活動内容により、保育士複数名配置とする。	2.不定期に実施	数	1.定期的に実施	数	2.不定期に実施	数	なし	施設・設備に関して改善点は認められない。	1.集団活動中・見守りあり	個人の活動量や技量を想定した鉄棒の取り組みが必要であった。また、怪我のリスクを回避するため、園外活動の際は保育士複数名配置をする必要性があった。	鉄棒や雲梯などの活動場所によっては、保育士1名または複数名による見守りをする。	1.いつもどおりの様子であった	普段鉄棒を飛び越えるような指導はしていないが、本児の好奇心から鉄棒を飛び越えてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士2名とも、本児と距離があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は本児を背に向けており動きを目視できず。またもう1名は本児が視界に入る状態ではあったものの他児へ声かけ等をおこなっていた。	—	個人の活動量や技量を想定した鉄棒の取り組みが必要であった。また、怪我のリスクを回避するため、鉄棒や雲梯など、園外活動の中でも特定の場所は保育士1名または保育士複数名配置をする必要性があった。	
7466	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									3	3	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	適正な基準で配置し、保育を行っていた。	職員の見守りの仕方や、体制を手厚くするようにしていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	固定遊具の下はクッションマットや人工芝があり、問題ないと考える。	特になし	3.個人活動中・見守りあり	遊具の遊び方や遊び方を約束しての自由遊びだったが、遊んでいる時の声かけをもっと行っていれば、防げたかもしれない。	子ども同士の遊びで夢中になると、気づかず転倒などがあるので、落ち着いて遊ぶように見守りつつ、声かけを増やしていく。	1.いつもどおりの様子であった	気の合う友達と仲良くごっこ遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具の反対側にいたため、対象児の転落を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外を複数人で見ていたが、対象児ではない児を見ていた。	—	活動内容に応じ、危険を伴う場合には複数配置で園児を見守るようにする。	
7467	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	15. 3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	事故(防災)防止委員会を開催し、事故についての職員の意識を高める	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	240	特になし	施設・設備には問題は無し	7.その他	通路の歩き方	通路の歩き方を見直し、園児に走っても良いところと走ってはいけないところがあることを伝え職員全体で、危険箇所を把握する	1.いつもどおりの様子であった	お支度をする時間に外へ出て走って遊んでいた。その際、躓いてしまい手が出せず全体重乗ってしまう形で転んでしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	お部屋で他の園児のお支度を手伝っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のクラスで保護者対応をしていた。	他の園児の受け入れを行っており、保育者の目がいきわたっていなかった	受け入れ時等、保育者の目が偏りがちな場面での配置を見直す	
7468	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9		6	3						4	4	14. 2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	—	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施		机の配置等子どもの人数等を考慮して考える方がよかった	今後合同保育になった時は、机の位置等を考えて移動する	1.集団活動中・見守りあり	保育教諭の人数はいたのに、目が行き届いていなかった	保育教諭の人数がいるからではなく、しっかり子どもの様子を見るように気を付ける	1.いつもどおりの様子であった	別段通常の様子と変わりはなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どものことに気をとられ、ちょうど本児を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どものことに気をとられ、ちょうど本児を見ていなかった	保育教諭の人数がいるからではなく、しっかり子どもの様子を見ていなかった。	保育教諭の人数がいるからではなく、しっかり子どもの様子を見るように気を付ける	
7469	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12									1	1	16. 4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	1.意識不明		てんかんの疑い	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	—	特になし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		—	特になし	3.個人活動中・見守りあり	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は同室にいたが、片付け等をしていて、クラスの子の声で倒れ掛かっていた本児に気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助の職員は清掃等をしており、同室に居なかった。	—	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7470	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	11									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	1. 意識不明		てんかんの疑い	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	—	特になし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		—	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	—	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助の職員は同室に居なかった。	—	特になし	
7471	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	1. 意識不明		てんかん	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	4	1. 基準以上配置	—	特になし	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施		—	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	—	特になし	1. いつもどおりの様子であった	特に変わりなし	4. 対象児の動きを見ていなかった	職員は同室にいたが、倒れた音で気が付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助の職員は同室に居なかった。	—	特になし	
7472	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50				17	14	19			5	5	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2〜3	2. 基準配置	行事（保育参観）において、園庭担当の職員2名で、保護者対応と他の危険が予測される遊びへの見守りに気を取られ、全体への注意が不足していた。また、遊ぶ時のルール（鬼ごっこ等スピードが出る遊びの際はすべり台には登らない）が守られていないことに職員が気付けなかった。	職員は、研修や会議を通し危機管理意識を高める。行事の際は職員配置に余裕をもたせ、常に職員間での情報共有の上で配置を検討する。遊びのルールを職員間で共通理解し、子どもたちとルールの再確認を行う。	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	適宜	すべり台の高さや滑るスピードに注意し、見守る必要があった。	引き続き、点検を怠らず、複数の職員で多くの視点をもって遊具・設備の管理を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	保護者対応をする必要があり、普段と異なる環境だったため、見えていないところがあった。	職員の立ち位置、見る視点を考え、意識して子どもを見守る。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこなどスピードが出る遊びはすべり台に登らないようにに子どもたちと約束していたが、しっぽとりという別のあそびだったためすべり台に登ってしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園庭には二人の保育者がいたが、それぞれが別の対応をしていたため目を向けられず対応できていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	令和２年度はコロナ禍のため、行事が出来ず、当日はようやく開催した保育参観日で、密にならないように、日程を分けて実施していたため、いつもより保護者対応に時間がかかり、保育室担当に３名で、園庭担当に２名配置となり、園庭担当が少なかった。	環境がかわると、事故が起きる可能性がある。	環境の変化により、児童が予想外の行動をとることがある。また、「しっぽとり」など動きにスピードが出る遊びは児童が興奮することもあり、危険につながる可能性もある。その点を、再度職員間で共通理解をする。また、子どもたちが何の遊びに興味を持ち、何の遊びが流行っているかを職員間で情報共有をする。	
7473	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	28					12	16			2	2	16. 4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施		2. 基準配置	—	改善点なし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	乗り物（三輪車等）の動作確認を含め安全点検を実施する	1. 集団活動中・見守りあり	—	転倒時に受け身を取れるよう、運動機能を高める活動を検討する	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児との遊びの輪に入り、他児の遊びを見守っており、本児が転倒する瞬間を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児数名とサッカーを行っていたため、本児が転倒する瞬間をみていなかった。	—	遊びのルール確認や動作確認をクラス全体で行う。現場での全体の見守り強化を行う。	
7474	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	27									2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	・体育教室の講師に補助の仕方を教わっていたが、保育教諭も積極的に研修などに参加して正しい補助を学んでおくべきであった ・手首を回すなどの基本的なウォーミングアップはしていたが、時間が不十分だったのかもしれない	・跳び箱の安全な補助の仕方を研修などで習得する。補助の仕方が分からない時は経験のある保育教諭や体育教室講師に、教わり正しい補助をできるようにする ・しっかりとウォーミングアップができるように広いスペースで十分な時間を設けて行っていく	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	十分に設定してある	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特に問題はなし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	—	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	２台跳び箱を出していてそれぞれ保育教諭が補助についていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一台で跳び箱の補助をしていたため見ていなかった	・運動会の発表を想定して、普段の補助の向きと逆側からの補助となってしまった。　すぐに手を差し伸べたが支えるまでの力が入りきらなかった ・子どもたちも慣れてきたことで気が緩んでいたのも原因にあげられる	・補助の利き手があるので、職員間でよく話し合いながら補助の仕方や担当を考えていく ・子どもたちにも緊張感をもって取り組めるような言葉がけを繰り返ししていく	
7475	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	9									2	2	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	事故予防の意識を職員で統一する。	事故予防に関する研修を実施する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	遊具の対象年齢が幼児用だったので、転落した上り梯子は２歳児が遊ぶのには危険性があった。	転落した箇所の上り梯子を撤去した。	1. 集団活動中・見守りあり	前日の雨上がりだったので、滑りやすい状況であった。	雨上がり時での遊具は滑りやすいので使用しない。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で、園庭遊びをしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで見守っていたが、他の園児の対応をしていて、転落に間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児からは離れた場所で他の園児に対応していて、対象児が転落して周囲の様子があわただしくなって気付く。	職員配置は適正であったが、こういう事故が起きるであろう意識がなかった。	遊具は危険箇所を改修したが、園庭内に危険箇所が他にないか見回り、対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7476	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15					5	10			4	3	18. 6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	—	毎月の職員会議で「ヒヤリ・ハット」や「リスクマネジメント」の報告の際に、保育の具体的な場面について、全員で確認して改善する機会を持つことを徹底する。	1.定期的に実施	313	1.定期的に実施	52	1.定期的に実施	313	—	引き続き点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	—	・高い段を跳べる子どもは、跳べる段に近い段数の跳び箱から跳ぶようにする。 ・子ども達い低い段のジャンプや着地の足の踏ん張りや勢いがつきすぎることのないように等話をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で特に変わりはない。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	適切であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	適切であった。	—	日常的に体操教諭が、子ども達へ向けて指導を行っている。保育者へも合わせて指導の仕方、補助の仕方を指導している。その中で、着地まで幅広く補助できるように、また朝の子ども達の気持ちや体の動き等も考慮する等、朝の雰囲気づくりも改めて見直していく。	
7477	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	3	11							4	4	13. 1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面擦過創	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	保育教諭同士が連携をとり死角のないように立ち位置を考える。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	—	引き続き、怪我につながる恐れがないか十分に確認する。	3.個人活動中・見守りあり	—	安全に過ごせるよう、環境構成を見直す。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好。ひとり遊びをする。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	すぐに声をかけられるよう見守っていたが、手の届くところにいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐに声をかけられるよう見守っていたが、他児と遊んでおり、手の届くところにいなかった。	—	保育教諭同士が十分に連携をとり、咄嗟の時にも止められるようにする。	
7478	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				17	16	17			5	5	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨通顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	再発防止に向けて、今後の安全管理の役割について話し合い、職員間で共通確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	乳児用の滑り台の配置を見直す。	1.集団活動中・見守りあり	—	前方を見ていない時は特に注意する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わらずいつも通りだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	幼児組3クラスが遊んでいて、園児全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ固定遊具についたり、全体を見守っていたり、登園児を受け入れたりするなど役割分担をして配置していた	—	人的には特に問題なかった。	
7479	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47				15	16	16			4	4	17. 5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	再発防止に向けて、今後の安全管理の役割について話し合い、職員間で共通確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊びごとに空間を分けていなかった。	ボール遊びのスペースや時間を決めたり、大型遊具で遊ぶなど、遊びが分散するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	—	登園児を受け入れている時間は、遊ぶ内容を考える。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わらずいつも通りだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	幼児組3クラスが遊んでいて、園児全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれ固定遊具についたり、全体を見守っていたり、登園児を受け入れたりするなど役割分担をして配置していた	—	担任もその場にいたので人的には特に問題はなかった。	
7480	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	36									2	1	17. 5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	—	ヒヤリハットを作成し、職員会にて全職員に周知。園内外の危険な箇所について話し合う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	2.不定期に実施	48	—	危険箇所については、職員間で共通理解をする。修繕については●に相談する。	1.集団活動中・見守りあり	—	危険を予測する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	片付け中でダンボールの仕切りを運んでいたため、大きな動きではなかった。ゆっくり歩いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室には2名の担任が居た。片付け中で全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	大きなものを片付ける時には必ず保育者が付き添う。	
7481	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	66				21	23	22			7	7	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	—	高所で遊ぶ児童に対しての監視位置の改善	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	渡りロープから踊り場へ危険な体制で移動しようとしたことが原因	落下の可能性のある地面部分にさらに5ｃｍ（合計10ｃｍ）の厚さでゴムチップ舗装を施した。	1.集団活動中・見守りあり	保育教諭が遊具の至近距離にいたが、事故発生時は他児の体を支える補助対応をしており両手がふさがっていた。	特に配慮が必要な児童の保育体制についてできるだけ1対1の環境をつくる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	指示を聞き入れず、自身の興味優先の傾向が顕著に表れている時間帯であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の至近距離にいたが、他児の補助をしている最中であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具へ移動した児の対応をしていた。	保育教諭が減る段階で危険を予見し、遊具遊びを止めさせるべきであった。	高所で事故に繋がる危険が多い事を再認識する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7482	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	31			3	5	14	9			8	8	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	第４指の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	—	研修会報告は全体会議の時に行っているが、会議に参加していない職員への周知が不十分であるため、伝達や会議録の確認を確実に行っていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	なし（安全な設備環境を保つための点検は確実に実施されているため）	4. 個人活動中・子どものみ	５歳児クラスは遠足の日だった。当該園児も遠足に行って、３時半ごろ帰園した。	時々廊下で追いかけっこをしている姿があり、その都度子どもに話しているが、止め切れていなかったので役割を決め、事前に防ぐ。また子どもたちに話をして約束事とする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保育を行っていたクラスではなく、廊下で他児と追いかけごっこになっていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	２名の職員が保育実施中のクラスで複数の子どもを見ていたため、受傷時は誰も見ていなかった。一緒に追いかけごっこをしていた子が『泣いてる』と報告に来て、ケガが判明した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児クラスの担当職員は、この時間帯は３名。他の１名は別の幼児クラスの最終清掃をしていた。また、５時に勤務が終わった職員も１名、まだ残っており幼児クラスを回って残務をしていた。	危険予測が甘く、周りを見、他の事に気付く視野になっていなかった。	保護者に連絡する担当の者が、子ども全体も見て、危険を感じたり視野に入らなくなりそうなときに他の職員に言葉を掛け、子どものそばにつく。	
7483	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	60					32	28			2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓出血	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	正しい遊具の使い方や遊び方の徹底した指導が不足	正しい遊具の使い方や遊び方の徹底した指導と監視職員の増員強化	2. 不定期に実施		1. 定期的に実施	48	2. 不定期に実施		今回遊具そのものに欠陥や不備があったものではないと考えています。	遊具全体では落下防止策は講じているが、ゴムマットをさらに厚いものへ変更することをメーカーへ要望している。	1. 集団活動中・見守りあり	遊具も多く、広範囲にわたっている中、注意するべき視点が定まりにくい点	時間帯による使用遊具や場所（環境を限定）を決め、見守り視点を集中させる	1. いつもどおりの様子であった	遊具のうえで体制を変えようとしてバランスを崩して転落した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故の瞬間は他児童の手当（擦り傷）にあたっていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	年齢毎に活動も分かれているので、園庭や保育室などに職員は分散している。	対象エリアが広範囲であり、見守る視点が分散していたこと。	児童の活動エリアを見守り人数によって調節する	
7484	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	11									3	3	15. 3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	骨折（右足 脛部）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	４～５	2. 基準配置	日々の保育の中でも活動内容や遊びの環境について評価・反省を行っているが、危険の予測・安全管理についての具体的な配慮・指導に不十分なところがあった。	個々の子どもの姿から力量を見極め、行動を予測しながら、活動内容と具体的な配慮・指導を考えていく。また、日々の保育の中で見直しを図り、職員に周知する。	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	遊具に破損はなく、滑り下り口から地面までの高さはないが、カーブしていることもあり、滑ることはある。	定期的な安全管理を行うとともに、子どもの姿から遊具の遊び方や使い方の指導や安全の見守りなど安全に配慮する必要がある。	1. 集団活動中・見守りあり	遊び場所を限定していなかったこと、他学年が他の場へ移動したことで、子どもの活動範囲が広くなりすぎてしまい、安全に遊べる環境ではなかった。	個々の発達や力量から子どもの行動や危険を予測し、安全な範囲で活動できる内容や指導を検討する。また、活動の合間には危険が増しやすいことも自覚し対応する。	1. いつもどおりの様子であった	園庭を走ったり、築山を上り下りしたり、池周辺を歩いたり、総合遊具で遊んだりしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	2歳児クラスの保育者3名は子どもたちの動きに合わせて砂場・築山・総合遊具等を見回っていた。総合遊具で遊びを見守っていた保育者が子どもが誰もいなくなったため、その場を離れ違う場所へと移動した。しかし、その後、本児が別の場所から走って遊具の方に向かう姿を確認したが、5歳児の砂場で他の園児の見守り中であったため、すぐには動けなかった。隣の4歳児の砂場で遊んでいた同クラスの保育者が他の場に移動した時にうつぶせに転んでいる本児に気づいて駆け寄った。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には他学年の職員もいたが、片付け中で、本児の動きに気づく職員はいなかった。	遊びの回数を重ねることで、慣れによる危険性も出てくる。子どもの動きに対する理解が不足していた。また、クラス担任同士の声掛け、遊びの見守り場所等の連携も不十分であった。さらに他学年への安全配慮に対する声掛けなどの連携も必要であった。	戸外で遊ぶ際の見守りの仕方や全体把握するための連携の仕方を十分に検討する。戸外活動の怖さや危険性について具体的に把握し、自分が対応できない時の対処（応援・協力要請等）子どもの動きや危険を予測した具体的な対応方法を考え、共有する。	
7485	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	50			17	11	11	11			7	7	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	粉砕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	子どもの異変を重要視しなかった。速やかな報告がなかった。	どんな小さなことでもまず報告する。大人の全体把握。（子どもの異変に気づけるように）	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	240	1. 定期的に実施	240	—	環境整備は毎日怠りなく行う	1. 集団活動中・見守りあり	大人の園庭の見守り、報告が不十分	園庭あそび中の子どもの怪我への大人の意識向上。速やかな報告。子どものあそび、動きを把握する。	1. いつもどおりの様子であった	友だちと追いかけっこをして走っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	出入り口にいた。保護者対応をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	７名園庭遊びの見守り、おもちゃ片づけ等 １名事務仕事	くじいた時に大人がそのことを把握できていなかった。	大人の配置、子どもの見守り等、連携をする	
7486	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	21									1	1	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左尺骨骨折、左焼骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	環境設定	子どもが設定した場合、今後も必ず確認の徹底。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	環境設定時の確認	1. 集団活動中・見守りあり	環境設定	子どもが設定した場合、今後も必ず確認の徹底。	1. いつもどおりの様子であった	スポンジ積み木で迷路を作りその上を歩いてあそんでる時に転倒、手をついた時に痛がり泣いた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	直ちにナースに連絡、冷やし様子をみるが、涙が収まらず母親に連絡その後病院受診。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補佐の職員も見届けていた。	—	環境設定時の確認。	
7487	令和4年3月16日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									2	2	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脚くるぶし骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	特に考えられない	子どもたちへの注意喚起。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	床の確認。	1. 集団活動中・見守りあり	—	床の確認と、子どもたちへの注意喚起。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任も園庭にでて行動を待っていたが、転倒のタイミングは確認出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスでの移動であった為、対象児のうごきを確認できた職員はいなかった。	—	床の確認	

| 概要 | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7494	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				11	11	19			1	1	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	0	2.基準配置	—	異年齢による体力差を鑑みて活動の内容を配慮する必要があった	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	特になし	1.集団活動中・見守りあり	向かい、両手繋ぎでサイドステップでの競走を提案をしていた	年齢差のある中で同じ活動や競走を取り入れるべきではない	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登園して来てグランド遊びに参加していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園人数増加のため自由遊びより目の届きやすい集団遊びに変更し、スタートとコーン間の競走をして保育者一人で見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていて本児のみ見ていたわけではないが、転ぶ様子は目に入り見ることはできた	活動の様子は確認できていて保育者は特に危険を感じてはいなかった	異年齢による体力差を鑑みて活動の内容を配慮する必要があった	
7495	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	23									2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左鼻骨骨折・眼底出血	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	ヒヤリハットの報告書や事故報告書が上がってきたら、職員会議にて状況を報告し改善策について検討している	今回の事故についても、職員間で情報を共有し、改善策について話し合う。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	園児２６人に対して、机は５台、椅子は２９脚設置。机同士の間隔も広くとってあった。	机の配置や部屋の環境には問題は見られず、椅子もしっかり机に入っていた。椅子の数も適切だった。	7.その他	—	荷物を置いた子も廊下で待ち一緒に部屋に入ればよかった。	1.いつもどおりの様子であった	部屋の移動で遊びを見つけるまでの間飛び跳ねていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	部屋の移動の時間だった為、移動している子の様子を廊下で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児に目の充血がみられたので連絡を入れる為事務室へ行っていた。	—	本児の普段の行動を理解していながら、飛び跳ねていることを止めることが出来なかった。いつも以上に声掛けをすればよかった。通常であれば２人体制のところ、他児の対応で保育士が部屋を離れており、一人で対応している状況だったが、通常どおりの動きをしてしまった。状況を見極め、子ども達から目を離さない動きを行うべきであった。	
7496	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				6	12	11			2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	—	遊具周辺の狭い場所を走らないことや走って遊具の乗り降りをしないことを全職員で周知徹底していく。	2.不定期に実施		1.定期的に実施	—	2.不定期に実施		—	引き続き毎日安全確認・点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	—	園児に対し、遊具周辺の狭い場所を走らないことや走って遊具の乗り降りをしないことを普段の保育や自由遊びの前に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	事故が発生したことのある遊具の近くに職員や監視員を配置する。	
7497	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									6	5	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右瞼部裂創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	事故発生を予測できず、発生の可能性に対する意識と配慮が足りなかった。	職員間の連携を図り、子どもの行動を予測し、思いもよらない事故が起こってしまうかもしれないことを念頭におき、意識して保育にあたる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	遊戯室で30人の園児に加えて数人の消防士が一緒になって遊び、遊びの場の十分な安全が確保されていなかった。（遊びの場が狭かった。遊びの場の動線が重なっていた。）	場所の使い方や動線が重ならないように考え、場所を区切るなどし安全が確保されるようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり	直前の防災教育の学びの時間が終了し、自由に体を動かして遊べる解放感から活発な動きが見られた。衝動的な動きを予測できなく、安全への声かけが不足していた。	遊びの前の約束事を確認し、落ち着ける時間をつくったり、活動の間に休憩できる時間をつくったりして安全確保に努めていく。	1.いつもどおりの様子であった	直前の防災教育の時間に積極的に参加し、様々な場をめぐりながらいつもと変わらず体験を重ねていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊びが始まる時間で、遊びの場の設定をしながら子どもの動きを見守っていた。リレーのコーナーを設置して、スタート地点で子どもにバトンを渡し、ゴールの場所を示すためにその場に向かい目を離している間の出来事である。スタート地点を確認したときには、既に子どもが走り出していて、その子どもに斜めから対象児が走り込み衝突したところを確認している。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒遊びの場所、野球遊びの場所、絵本のコーナーに向かうなど、それぞれの場所を見守っていた。また、追いかけっこをしている子どももいたため、ぶつからないように声をかけていた職員もいた。十分な数の職員がその場にいた。	衝動的に動き出す対象児の動きを予測できなかった。大勢の人がいて衝突する可能性があることを対象児に伝えることができなかった。	常に、事故が発生する可能性があることを意識して声をかけ見守っていくこと。また、場の設定の際は、動きを予想した設定を行い安全面に留意していく。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7498	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	14									3	3	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	舌の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～	2.基準配置	—	職員間で今回の事故の情報を共有し、事故の分析を行い、再発防止に努める。	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	1.定期的に実施	開園日数	—	今回の事故に関しては、施設・設備の影響はなく、改善の必要なし。	1.集団活動中・見守りあり	段ボールが固定されていなかったこと/周囲にも段ボールが設置されていたこと 段ボールに高さがあり、転倒した際に手をつくことが出来ない高さであったこと	段ボールを床面に固定する/転倒を想定し、周囲のものとの距離をあける 高さの低い段ボールを使用する。	1.いつもどおりの様子であった	もともと活発な姿がみられる 積極的に遊びに関わる姿	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1m離れた箇所から、他児と関わりながら、本児も視界に入っている状況であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていた	段ボールが転倒することを予測できていなかった。それによって、段ボールのすぐ近くに職員を配置できていなかった。もしくは、段ボールが転倒しないような環境を用意できていなかった。	危険を予測した保育環境の設定。職員の配置位置の確認を行う。	
7499	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	不詳	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	具体的に事例により検討することが、今後必要である	今回のケガについて職員連絡会で話し合いをする	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	定期的に安全点検を実施しているが、活動前に改めて運動場の安全点検を実施する	1.集団活動中・見守りあり	1つのボールに対しゲームを行う人数は合っていたか	当日の流れ、補助の仕方について、丁寧に打ち合わせを行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ドリブルや講師の話に意欲があり、ミニゲームでは積極的にボールを追いかけていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人数が集まりボールを追いかける時には声かけし、広い場所へ誘導するようにしていた。接近し友達の足がすねに当たった時には、止めることが出来なかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	友達と接触し転倒した時、すぐに駆け寄り対応した	職員の配置人数には、問題がなかった	ゲーム中の立ち位置、人が密集する場合の配慮の仕方について、サッカー指導者と密に打ち合わせを行う	
7500	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				16	18				3	2	15.3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		1.基準以上配置	当日看護師が欠席していたこと、処置後に本人の「部屋（保育室）で遊びたい」という申出があったことやお迎えまで1時間ほどだったことで病院に連れて行かなかった。	・園庭遊びの際は全体見渡しの職員を配置する。 ・職員会（月1開催）時にその月のヒヤリハット報告と共に安全ハンドブックの読み合わせを行う。 ・16:12時点で保護者への連絡をすべきであった。今後はすぐに保護者への連絡を取り、本人が大丈夫そうであっても念のために受診をお願いする。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	3.未実施		—	滑り台が死角になるところがあるので職員で共有理解しておく	1.集団活動中・見守りあり	・午前に身体を動かして遊び、午後には制作等落ち着いた活動を取り入れる等、遊びの内容を変えるよう対応しているが、遊びがマンネリする事で集中できずふらふらしている子も出てくる。 ・現在では外遊びに関しては子ども達の遊びたいものをそのまま行っている。例えば鬼ごっこ、縄跳びやボール遊びなどが一斉に行われているので、園庭の広さも鑑みて遊びを選択して行えるようにする。	・玩具や遊具の入れ替えを行うなど、午前と午睡後の遊びの環境を変える。 ・園庭でのコーナー保育を実施して、活動内容によるゾーン分けを検討する。	1.いつもどおりの様子であった	もともと活発で、走り回ることを好む傾向にある	4.対象児の動きを見ていなかった	事故寸前までは対象児も視界に入っていたが、他児と関わっている数分の間で起こってしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故寸前までは対象児も視界に入っていたが、他児と関わっている数分の間で起こってしまった	—	子どもの動きや職員の配置に偏りがないよう監視する職員を1名配置する。	
7501	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	51									8	8	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	発表会の衣装を着用して、子どもたちの気分が高まっていた	落ち着いた雰囲気で過ごせるよう、注意喚起や声かけを行う	3.未実施		1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	2～3	—	今回ハード面では改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	実際に衣装を着用したことで、子どもたちの気分が高まっていた	落ち着いた雰囲気で過ごせるよう、注意喚起や声かけを行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段よりも動きがダイナミックで、多少落ち着きがないように見られた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	衣装の乱れがないか、ステージ下で全体を見ていた為、転倒の際に助けに入ることは出来なかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の衣装の着付けやチェックをしていた為、ステージに目を向けていなかった	—	衣装を着けていつもより張り切っていた様子だったので、落ち着いて踊れるよう声をかけるべきだった	
7502	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24				10	4	10			1	1	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	配置基準は満たしていたが、異年齢の状況に1人の保育者では難度が上がることをふまえて改善をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	—	危険個所に対するチェックだけでなく改善案と時期を明確にする。	1.集団活動中・見守りあり	—	人数と面積と活動内容が適切であったのかを検討する。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	遊びを展開するときには周囲の状況をふまえ、危険性を判断できるように研修を重ねる。	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7503	令和4年3月16日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30								2		2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	思いがけない場面でも骨折につながることを周知し、安全につて再確認していく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	—	危険個所に対するチェックだけでなく改善案を提示し時間確認する。	1.集団活動中・見守り	—	ステージ下とりすりをとりすきにはマットを設置する	1.いつもお様子でもり子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	—	階段など段差のある場所を移動するときには子どもが焦ることのないように特に気を付けて保育を行う	
7504	令和4年3月16日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2								1		1	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷	0.負傷	2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	3.個人活動中・守り	スキーとキャターのボードのサイドとその横にいるお友だちの間を抜けようと通った。	キャスター付きのサイドボードやピアノの保育室の入口に置かれ、子どもの通ればならないように改善した。	1.いつもお様子でもり子であった	特別教室終了後の降園準備	特別教室終了後の降園準備をしている園児2名を見ていろと守ったところ。	2.対象児の近で象見た	特別教室終了後の降園準備をしている園児2名を見ていろと守ったところ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えにて来られる保護者のお来いる保育教諭と送迎に出ての対応として保育教諭と送迎に出ての対応として保育教諭と送迎に出ての対応として

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7520	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	1	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	5歳	2.女児		8.その他			1.意識不明		てんかん	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			5.睡眠(午睡)中	午睡中だった為、当該園児の変化に気づいている人数が少なかった。また以前にも同様の事故が発生していた為、当該園児をみて動揺したり、騒ぎ驚く様子がなかったのだと考えられる	職員の目が届きにくい場所（屋外など）での活動中に、発作をおこしてしまうと危険が高まること（大型遊具使用中に落下など）を意識した対応が必要である。また、意識が消失した状態の当該園児を他園児が動揺して、体や頭を揺さぶってしまうなどの二次災害が起こらないように、速やかに職員以外は近づかせない声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		てんかん	睡眠時の嘔吐の際は、吐物で窒息しないように、体幹ごと横に向け用手的に口腔内の吐物を除去する。 診察時に医師よりてんかん発生時の動画撮影依頼と発作時にどのような動きがどのくらいの時間続いたかの記録をして、大きな声で呼びかけたり、頭や体を揺さぶったりしないよう指示があり、対応することとなる。低量内服治療から薬を増量して、2週間後に治療結果を報告するとの事。 てんかんが原因で当該園児や家族が周りから差別や偏見を受けないよう、職員はてんかんに対して正しい知識を理解し、対応することが重要である。	
7521	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58				20	19	19			5	4	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため。	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びの時間で、対象児童も含め、砂場や築山、土管、虫探し等をそれぞれ楽しんでいた中での事故だった。職員の配置も配慮はしていたが、他の園児も多く、今回の事故を未然に防ぐのは難しかった	遊具や障害物等での衝突ではなかったが、ケガにつながる行動等がある際はその都度声掛けをしていく。遊ぶ時間の前に危険なことなどは伝えていくことが必要。	1.いつもどおりの様子であった	お友達と走り回ってあそんでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児がいて、全的的に子どもをみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外にも園児がいて、全的的に子どもをみていた	特になし。	今回の場合は、障害物等との接触はなく、園児自身の要因のため。	
7522	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	15									10	8	1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明	2.顔面(口腔内含む)		8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.基準以上配置	対象児（職員右側）と他１名（職員左側）計２名を職員１名がおやつ対応。職員の両サイドに園児が座り、左側の園児への援助を要した為、対象児には背を向けた状態であった。	食事・おやつの際は、職員間で連携を取りながら、援助する園児に対して、可能な限り集中できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	机を囲む形での椅子の配置、その椅子の間に職員が付く、という援助の仕方が慣習となっていた。	園児と職員が常に対面になる配置に変更する。	6.食事(おやつ)中	銀紙包装を取り去り、対象児にベビーチーズその物の大きさのまま手渡した為。	給食室と連携し、食べ物によっては、一口大に切る、大きさや食べやすさ、提供の仕方、食材の入れ替えなどを考慮し、園児の発達に応じた個別対応を行うようにする。また事前に献立表を確認し、気になる食材については、その都度検討する。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子でチーズを食べ、おかわりを催促するような表情が見られた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の咀嚼の様子や口の中を確認したところ、普段の様子から「チーズを食べ終えるだろう」という思い込みがあった。その後も職員の左側の園児の援助を行っていた。お茶を取りに立ち上がろうとしたところ、対象児の異変に気付いた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も対象児がチーズを口の中に入れている様子を見ていたが、それぞれ役割分担をしていた為、対象児を継続して見ることが難しかった。	８月３日に幼児食に移行し、好き嫌いなく食欲旺盛な対象児であったことから、「チーズも普通通り食べられるだろう」という意識があった。	思い込みせず、常に、咀嚼や表情など食べる様子を確認しながら援助を行うようにする。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7528	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18									6	6	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（２　　）回/年	1.基準以上配置	園庭にて「あぶくたった」の鬼ごっこをした際に逃げ、階段で転び、右目尻横を切ってしまった。	逃げる範囲を指定し、階段へは行かないよう注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	階段では走らない	階段の淵に安全なゴムのすべり止めをつける	1.集団活動中・見守りあり	子ども達が四方に一斉に逃げた為、担任が全員を一度に見守ることができなかった。	外あそびでは担任以外でも全員が見守る	1.いつもどおりの様子であった	元気で遊びに夢中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	クラス全体をみて遊びの中心にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にて各担当園児の見守りをしていた。	他の園児と違う方向（階段）に走ったので、職員がいない場所で怪我をしてしまった。	分散して見守りを行う	
7529	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19				8	7	4			4	2	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左右上前歯急性外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（３～６）回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度（２　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（３００　）回/年	3歳児のクラスの環境配置にしていたが長時間の子どもの環境設定ではなかった。	室内の棚の配置をその都度長時間仕様にする。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童にあう遊びを用意しきれなかった。	気持ちが落ち着く遊びや、好きな遊びを用意しすぐに対応できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童の様子は見ていたが、止められる場所にはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児のトイレの援助や保護者対応をしていた。	遊びに集中できなくなった時に近くに行って言葉をかけたり、その都度室内あそびのルールを確認する必要があったができていなかった。	リーダーの保育者が全体把握しながら、他の保育者の配置を指示し、連携を密にする。また、他の保育士も個々にかかわりながらも全体の子どもの様子を気にかけて対応する。長時間の対応について会議で話し合いを持つようにする。	
7530	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園		2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19						19			1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	【診断名】	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２　）回/年	2.基準配置	行事があったためウオームアップをしないでそのまま園庭で運動遊びをしてしまった。	運動遊びをする前には必ずウオームアップをする。	1.定期的に実施	実施頻度（年１３回）	1.定期的に実施	実施頻度(年１２回)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	当日は気温が低かったために体の動きも硬かったと考えられる。	気温が低い日はよりウォームアップを十分に行い体をほぐしてから運動遊びを行う。	1.集団活動中・見守りあり		運動遊びをする前には必ずウオームアップをする。	1.いつもどおりの様子であった	。縄を足にかけて回す遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台の整備をしていた。	本児が「足を捻った」と言ったので、担任が確認したが異常は認められなっかった。「くるぶしがちょっと痛い」というので冷やして様子をみた。	見た目は異常がなくても、本人が痛いと言った時はすぐに受診する。	
7531	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18							0		28	25	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前額部打撲・挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/年	1.基準以上配置		事故防止チェックリスト等を活用して職員間で検証、安全面での意識を強化する。 また、異動した職員がいるので早急に園内点検や確認を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	年度末にポーチの安全点検を行っていたが、陶器製の植木鉢を除去していなかった。	ポーチに陶器製の植木鉢があり危険であった。	1.集団活動中・見守りあり	陶器製の植木鉢を使用しており、その把握ができていなかった。	活動の切り替え時は事故が起きやすいので、安全に移動できるよう子どもに指導していく。	1.いつもどおりの様子であった	進級して間もなく、やや気持ちが高揚していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内からポーチへ移動するときで、十分に子どもの状況を把握できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内での保育（制作活動）を実施していた。	活動の切り替え時で事故が起きやすい状況だった。	安全に移動できるよう子どもに指導していく。保育士同士が声を掛け合う。	
7532	令和4年3月16日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上右中切歯歯髄失活	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.基準以上配置	事故当日は担任1名が週休のため、1名で保育を実施していた。（基準配置）	職員会議にて、事故の問題点・改善策について意見交換を行う。全職員で確認することにより、安全面での周知徹底を図り、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１　）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）		引き続き、活動前に必ず点検を行い、発達年齢にふさわしい扱い方について、職員全体で確認する。不備があった場合、使用可否の判断と修理等の対応を行い、全体周知する。	3.個人活動中・見守りあり	既に友だちと丸太を2つ運んでおり、３つ目を本児一人で運ぶことはできたが、地面に置く動作は当該園児ひとりの力では扱えない重さであったと考えられる。	普段から可動遊具は子ども達で持ち運び自由に使っていたため、過信して子どもも任せになっていた。今後は無理がないかそばで見守るとともに、扱い方を子どもと再確認し、全職員へ周知する。	1.いつもどおりの様子であった	当該園児はひとりで遊んでいたが、他児が至近で同様に可動遊具を使った見立てあそびを楽しんでおり、男児数名で遊びを共有していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭遊びを始めて10分程度経過していた。可動遊具で遊ぶ様子を確認しながら、鬼ごっこや栽培物の観察している他児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は園庭にいない		どの遊びに保育者の援助が必要か見極め、必要な子のそばにつく。特に可動遊具類を扱う際は、子ども達の力を過信せず無理がないようそばで見守ったり、援助したりする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7533	令和4年3月16日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	4	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32	0	1	5	12	9	5	0		9	9	4歳	2. 女児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	雲梯で遊んでいる児に対し、職員がついて、手が離れたときなどとっさの対応がとれる位置に職員の配置がなかったこと。危機管理の甘さがあった。	こどもの遊びと、職員の人数、立ち位置等、様々な状況を想定し、危機管理を持ち、職員が共通理解と連携を取っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	雲梯・滑り台・クライミングの総合遊具であり、職員の立ち位置によっては死角となる場所ができてしまった。	遊具、玩具等の安全点検を今後も実施していく。高さのある遊具、落下の危険がある遊具の下に引くマットについて、厚さのある物にする。	3. 個人活動中・見守りあり	保育者は、それぞれ自分の担当する年齢の園児を見ていたので、全体に目が向いていなかった。	園全体での見守りが必要なので、常に周囲に目と意識をむけていくと共に、職員間で声を掛け合い、誰がどこで遊んでいるのかを把握していく。	1. いつもどおりの様子であった	普段から好んで遊んでいる雲梯をしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任保育士も直前まで一緒に遊んでいたが、「やめる」と本児がその場を離れたので、担任保育士も離れ、他児の遊びに対応していた。本児が雲梯に戻ったことに気がつかなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	各保育士は、自分の担当する年齢のこどもに対応していたため、見ていなかった。	園児を園の職員全員で見ていく事、危機意識が薄かった。	園児の動きを確認し、落下の危険がある遊具使用の場合には、職員間で声を掛け合い共有し、園児から目を離さないようにする。	
7534	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	136									10	10	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	移動の際バランスを崩して転倒してしまった。	周りをよく見て気を付けて歩くよう指導する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	引き続き安全点検を行い、危険がないように確認をする。	1. 集団活動中・見守りあり		園児の行動を観察し危険予知に充分に配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	歩行中バランスを崩した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所で他の園児の世話をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の水筒の片付けを手伝っていたため、見ていなかった。	練習を再開するために慌ただしい雰囲気になっていた。	園児に対して必要以上に急がせる言葉がけや雰囲気をつくらない。	
7535	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20					8	12			4	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	大腿骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	45	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	ぶつかることを想定した上での見守りやアクシデントが発生することへの意識不足	ぶつかることを想定した上での見守り強化。幼児自身が危険を察知できる力を育てていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に登園し意欲的に活動に参加していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	お祭りごっこの活動を楽しんでいるので、至近で本児の姿を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も同スペースで本児の動きを観察しており、ぶつかりそうになったことに気づき、声をかけた。	園庭を走っていてぶつかりそうになり、互いに安全回避はしたものの、後方を走っていた幼児がいてぶつかってしまうというアクシデントが発生した。	本児への見守り関わりを強化する。職員間で、今一度安全強化について、共通理解を図る。	
7536	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	13									3	2	17. 5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	対象児の特性と危険箇所について、職員間の共通理解が十分でなかった。	対象児の特性と危険箇所について共通理解を図った。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	240	段差がある。滑りやすい。	走ったまま、昇降口に走り込まないように見届けと呼びかけをする。	3. 個人活動中・見守りあり	次の活動が控えており、急いで室内に戻る必要があった。	ゆとりのある日課の設定を考えると共に、対象児の特性を考慮し、片付けの予告を効果的にする。	1. いつもどおりの様子であった	気持ちの切り替えがうまくできず、戸外遊びを終えることを渋っていた。支援者の「よういどん」の言葉に反応し、走ってそのまま昇降口に走り込もうとした。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の園児に関わりながら、室内に戻ろうとしている対象児の様子を見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	気持ちを切り替え、友達と一緒に戻れるように「よういどん」と声を掛けて、後ろから見守りながら、昇降口に向かっていた。	昇降口前は段差があり、砂利も他に比べて多く、滑りやすいが、昇降口手前でよ止まるよう見届けられる位置に職員がいなかった。	子供が戸外遊びを終えて室内に入る時は、昇降口手前に職員を配置し、昇降口に走り込まず、一旦、止まるよう見届ける。	
7537	令和4年3月16日	1. 認可	5. 幼稚園	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23									1	1	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷	0. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	—	—	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	2. 不定期に実施	24	—	—	3. 個人活動中・見守りあり	水筒の入れ物を多人数で使用するようになっていたため、人数が集中した。	人数が分散するよう、入れ物を複数用意し、間を空けておくなど人数が分散するようにする。	1. いつもどおりの様子であった	運動会の練習が終わり水筒の置き場所まで走っていき、友達と接触した。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長児全員に指示をして子どもの後ろから追う形で見守った。対象児が転んだので、すぐに駆け寄り、怪我の様子を確認した。年長児全員に指示をするのではなく、グループや少人数で動くように配慮が必要であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ年長組は先に入室しており、ちょうど担任教諭が一人のときに怪我をした。近くにいる職員に報告や相談をしなかった。			

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7545	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13	1	7	5						5	2	1歳	2.女児	
7546	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	27									2	2	4歳	1.男児	
7547	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									2	2	6歳	1.男児	
7548	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	6	3	3							11	11	1歳	1.男児	
7549	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29									3	3	6歳	1.男児	
7550	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	5歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7545	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	安全管理についてのマニュアルはあるが、事故防止マニュアルは整備されていない。	事故防止マニュアルを整備し、研修の実施により職員に周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	他にパーテーションがなく、段ボール製の仕切りを使用していた。	ダンボール製の仕切りは使用しない。
7546	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		定期的に事故防止マニュアルの確認や、事故事例について、職員間で共有し、対策を検討する。また、子どもの個々の活動や、行動の特性を把握し、職員間で共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日		施設内の点検を継続し、危険箇所を発見した場合は速やかに報告・共有を行う。
7547	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（右足指付け根）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		事故発生後、「見る」「触る」「動きの確認をする」「休ませる」といった対応・処置等について再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		活動内容・人数による活動スペースの適切さを検討する。
7548	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆状骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故予防について職員研修を行い、共通理解を深める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/使用時		点検時以外でも、職員間で気づいたことは共有しているが、今後も徹底を図る。
7549	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手上腕の骨格骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	特になし	会議で事故の様子と支援が必要な本児の様子について伝える。本児が興奮しているときは特に注意し、突発的に危険な行動をとらないよう見守ることを全職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	落下した鉄棒の高さは（105㎝） 下は人工芝が敷かれている。	高い方の鉄棒を意識して補助するようにする。
7550	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	職員が担任一人だった。	個別対応が必要な時は全体を見る職員も配置する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	ハード面については事故発生要因/改善策はないと考えられる。	安全点検を行っていて、特に問題はない。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7545	3.個人活動中・見守りあり	ダンボール製の仕切りを使用していたが、先が見えず倒す可能性があった。	園児の状況を見ながら人数の多い時には0，1歳児と2歳児を分けて保育する。	1.いつもどおりの様子であった	トンネル遊びの所にいたが段ボール製の仕切りの近くでボール遊びを見ていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者からダンボール仕切りの付近がよく見えず、全体の様子把握が十分ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ボール遊びをしている園児を見ていて、仕切りの反対側に対象児がいる事に気づいていなかった。	それぞれの場所に職員はついていたが全体の様子を把握している職員はいなかった。	延長保育担当保育士は必ず全体の様子を把握し一人一人が安全に遊んでいるか見届け必要に応じて対応する。	
7546	1.集団活動中・見守りあり	保育者の注意が当該園児に伝わりやすい状況でなかった。	園児個人だけでなく、クラス全体に向けて落ち着いて行動するように伝える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故直前も廊下を走っており気持ちを落ち着かせる必要があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	絵カードを使って廊下を走らないことを伝えた。気持ちを落ち着かせたため列に並んで待機させていたが、順番が来ると勢いよく飛び出してしまい制止が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		気持ちが落ち着いたと判断して列に座らせたが、突発的な行動が出てしまった。	特に注意が必要な園児には行動の仕方を繰り返し伝える。園児の様子は職員全員で観察し、必要に応じて共有する。	
7547	1.集団活動中・見守りあり	コロナ感染症により活動内容が今までと変わってきている。	十分に体を動かす遊びを新たに取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	ハンカチ落としをしている際に走っている友だちを追いかけていた。その友だちが座ったので本児も止まろうとして転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び全体の進行を見ていた。		危ない動きがないか、遊びに楽しく参加できているかを見ていた。		・一度に遊ぶ人数の制限 ・場を離れての処置	
7548	1.集団活動中・見守りあり		戸外での安全確認を保育士間で連携し、徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	水遊び,砂遊びをしていたが、２歳児が先に船型の滑り台に上っていたため、自分も上ろうと滑り台途中35㎝くらいの高さから足をかけた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が遊んでいた砂遊びの様子を見守っていたが、入室時間の確認を担任間でする際目を離した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児園庭で０．１．２歳児が遊んでおり、本児の落下後、２歳児クラス担任が先に気づき抱き起した。		子どもが見える立ち位置を常に意識し、保育士間の連携に努め、目を離さないようにする。	
7549	1.集団活動中・見守りあり	特になし	固定遊具で遊ぶ時には保育士がそばにつくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒に来る直前まで友達と鬼ごっこをして園庭を走って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	２か所ある鉄棒のうち低いほうの鉄棒で遊んでいる子の補助をしていたため、被災児が鉄棒の所にきてすぐに飛び乗り回ろうとする様子が見えたが、低い鉄棒にいることもあり補助が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の起伏の反対側で子どもたちの遊ぶ様子を見守っていた。	直前まで鬼ごっこをして走っていたので、その勢いのまま鉄棒をしようとしていたと考えられる。また、高い方に子どもが来た時にはそちらの補助に素早くつく必要があった。	鉄棒など固定遊具を使用するときは保育士がそばにつくようにするとともに、子どもたちとも鉄棒を含めた固定遊具の約束を確認する。より危険が予測される、高い方に注意を向けるようにしたい。	
7550	3.個人活動中・見守りあり	15名が一斉に大きく走り回っていた。	大きな動きが予想される活動の時は人数を制限したり、時間を短縮する等の配慮をする。	1.いつもどおりの様子であった	「周囲の様子を見ながら」と「鬼から逃げる」という動きを同時に行うことが難しかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	危険な動きをする他児に注意をするため個別に話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故当時、職員が担任一人であった。	担任が個別対応中であった。	保育士が一人の場合は鬼ごっこの動きを中断して、個別に対応する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7551	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	57					30	27			6	6	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～3)回/年	1.基準以上配置	特になし。	特になし。４.５歳児に新入児はおらず、保育士も新規採用ではなかった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12～)回/年	天気良く、公園の遊具は濡れておらず、破損も無かった。遊具下は常に砂や雑草が生い茂っているため、砂でスニーカーが滑る可能性もある。	公園遊具が破損等していた場合は管理自治体に連絡し、濡れた遊具には登らない。登る遊具に砂をのせたりかけたりさせない。	1.集団活動中・見守りあり	公園の遊具に３名、広場に３名保育士が配置されていた。園児は全員保育士の目が届く範囲にいたが、とっさに助けられる位置にはいなかった。	登る遊具には２名の保育士を配置し、人手が足りないときは一部の遊具を制限するようにした。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	進級して初めての戸外活動で、クラス全体がはしゃいでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児が遊ぶ遊具のすぐそばにいたが、手が届く位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場や、ブランコや滑り台等危険な遊具のそばに立ち、全体を見守る。	公園の遊具に３名、広場に３名保育士が配置されていた。全園児が保育士の目が届く範囲にいたが、とっさに助けられる位置にはいなかった。	登る遊具には２名の保育士を配置し、人手が足りないときは一部の遊具を制限するようにした。	
7552	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16					11	5			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位部若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	無し	できる限り転ばないように気をつける様に声掛けして周知する	1.定期的に実施	実施頻度(年２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週１)回/年	園庭がコンクリートの為	転ばない様に声掛けする	1.集団活動中・見守りあり	見守り強化する（３人態勢であった。）	遊びの最中も声がけする	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と１メートル以内での出来事	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児と１メートル以内にいた	転んだ時の転び方が悪かった	活動前に怪我のない様に話し合いをする	
7553	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	1	2	6						9	8	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置		定期的に園内研修として実施していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		点検を定期的に行っているが、危険個所については周知していく。	1.集団活動中・見守りあり		遊戯室での提供する遊びの見直しをする。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、機嫌も悪くなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のすぐ近くで一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と遊んでいた。		子どもたちの普段の遊びから動きを想定し、必要な遊具のみ提供する。	
7554	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10									1	1	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左側足関節捻挫右側足関節挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	ホールで遊ぶ際は、ステージに駆け上がらない事を園児に約束をする。全体を把握して見落としのないように保育をする。	全職員に周知し、安全対策の徹底を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(約280)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約280)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約280)回/年	ホールのステージは30㎝高さがあるので、登降の際は注意が必要であるが、その周知にかけていた。	環境設定した遊び（ままごと等）はステージ上で遊んで良いことにするが、走って遊ぶときは、ステージへの登降はしないことにする。遊びによって上がらない約束を事前に知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	ステージへの登降は、急いでいるとどのくらい足を上げたら良いか判断が鈍る。	追いかけっこに夢中になり、転んでも遊び続けたことから、転んだり、怪我をしたら必ず職員に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	追いかけっこを友達と楽しく遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任がホールで遊ぶ子ども達の様子を見ていたが、別な事をして遊んでいる園児と関わっていたときその現場を見落としてしまっている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者のもう一人は、保育室にて加配の子の保育についていた。	夕方、自由遊びの際は動きや注意が散漫になるので、注意して保育することが大事である。	自由遊びの後、リズム運動をすることにしていたので、リズム運動に向けた柔軟体操等、導入を大事にし落ち着いて過ごせるような過ごし方の工夫や注意が必要だった。	
7555	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	3.昼食時・おやつ時	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	保育室から園庭に向かうとき、玄関から園庭に向かう時に友達と先を競ったこと	移動時の保育士の声掛けと職員配置	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		各年齢における事故防止チェックの活用	1.集団活動中・見守りあり	玄関から園庭までの園児の行動を把握する	園児が移動する際、見守りと声掛けをする	1.いつもどおりの様子であった	体調も変わりなく朝、登園時から元気に活動していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	給食終了後、食べ終わった園児が一度揃って保育士と共に園庭に行った。その後、給食を食べ終えた園児２人が急ぎ競い合って走り、身体がぶつかったため保育室テラス前で2人共転倒した。（本児は両手足、友達は片足に傷あり）	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊んでいる園児と後から来た数人が見える園舎の角に職員が１名。見守りと声掛けを行っていた。		先を急いでしまう園児に対して、危険が無いよう声掛けし落ち着いて行動できるよう促す。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳										年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	負傷		診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7556	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18				5	13				3	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	・担任が2部屋(静的遊び、動的遊び)を行き来しながら保育を行っていた。動的部屋には補助(保育士以外)職員を配置していた。・職員間での声掛け、情報の共有が不十分だった。	・担任が動的部屋にて活動を見守る配置をし、遊び方について園児に声をかけながら行う。職員間での声掛け、情報共有を行いながら行う。普段の活動ではない事も考え職員配置数を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	・遊び方の安全性についての確認。ソフト積み木であるためバランスを崩しやすい物であることの把握が不十分だった。	・子ども達と保育士とが遊ぶ際に気を付けるべきこと、意識するべきことを共有・確認する。また、遊びの発展の流れに気を配る。	1.集団活動中・見守りあり	普段、遊び慣れていないものを使って遊んでいた。雨天時の安全を考えた遠足の計画が不十分だった。	遊び方の確認(落ち着いて渡る、足元を見ながらバランスを取ってわたる等)実際渡って見せながら危険な部分を知らせる。 計画を全体の流れを把握しながら立てる。(ホールの活動の時間を区切る等)	1.いつもどおりの様子であった	楽しい気持ちから、渡るスピードが出ていた(早歩きの状態だった)。バランスを崩した後の転倒の仕方が悪く、肘に全体重がかかる状態となった。	4.対象児の動きを見ていなかった	２部屋を使用して遊んでおり、別な部屋の子の様子を見ていた為、転倒の場面を見ていなかった。(泣き声が聞こえ、何かあった事に気付いた)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	●トイレに行った子が戻って来なく、入口から様子を伺っていた為、転倒の場面を見ていなかった。(振り向いたら転倒後で床に座っていた)●他の子の様子(３歳児)を見ており転倒の場面を見ていなかった。	遊びの見守りがおろそかだった。転倒するかもしれないという意識、事故につながるかもという意識が欠けていた。担任が動的活動の場所にいて子どもにすぐ手を差し伸べられるようにすべきだった。	事故につながるかもしれないという意識を持って保育を行う。子どもの動きに気を配る。声をかけ合いながら全体が見渡せるようにする。危険な場合にすぐに手を差し伸べられるような場所で見守る。	
7557	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26			13		13				4	4	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	事故当時、４歳児担当保育士１名の他にも保育士が３名、実習生１名園庭におり、配置基準は満たしていたが、遊具の側に職員がついていなかった。	園庭に出た際は、遊具に必ず職員がつくようにする。又は、見守りが出来ない状況であれば、遊具を使用せず遊ぶよう設定する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	登り棒の下に敷いている人工芝は、園庭専用のものを敷いている	園庭の遊具全体の安全性について、再度検討していく	1.集団活動中・見守りあり	直前まで本児は園庭を走っており、そのまま遊具に登り始めた。他の子も走りながら遊具に登ったり降りたりしていたが、保育士は長縄跳びを補助しながら全体を見守っていたため、遊具の側にはついていなかった	園庭遊びをする際は、保育士が安全を見守れる範囲を定めて設定する。一人で見守る際は遊具で遊ぶ時間を定める、側についてから他の遊びを行うなど、遊びの設定を工夫していく。	1.いつもどおりの様子であった	普段から活発で、この日も元気に園庭を走りながら滑り台や登り棒に登るなど活発に動いていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体的に子どもたちが走ったり、遊具に乗って遊んでいることは把握していたが、長縄跳びの対応をしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	２歳児は砂場を中心に遊んでおり、２歳児担当職員は遊具から離れた場所で見守りを行っていた。	全体を見守ってはいたが、遊具に見守りがついていなかった。また、他の保育士も自分の担当クラスについており、遊具の側には誰もいなかった。	職員は全員で全園児を見守るようその都度確認し、見守り箇所を分担する。	
7558	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	0		0	13	20	20	0		5	5	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		近くにいた保育者が声を掛けたり危険予測をしながら見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		段差をなくし安全マット上の砂等を取り除く。	1.集団活動中・見守りあり		個別の様子をよく見て危険予測が必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒の近くで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	固定遊具周辺で他児を含めて数名の動きを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具以外で遊んでいた児（砂場等）の動きを見守っていた。		疲れや体力など、子どもの姿を予測しながら関わりを見る必要があった。	
7559	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	37					18	19			2	2	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左側肘関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育者の気付き、遊びへの配慮が欠けている部分があったと考えられる。	子どもたちの状態を把握したうえで遊びを考え、環境を整えていく必要があることを職員間で共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	折り畳み式鉄棒（約８０ｃｍ）にマットを敷いた。保育者も側に位置付いていたが、援助、配慮に欠けていた部分があったと考えられる。	子どもの状態を把握するとともに安全面に十分配慮し、遊びを考えていく。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒の他にもスクーター等で遊んでおり、他にも目を向けなければいけない遊びの設定だった。遊びの組み合わせの考慮が必要があった。	遊びの組み合わせの考慮、時間帯、子どもの人数などを考えて遊びの設定をしていく。安全面に配慮した遊びの工夫をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒ができるようになってきて、意欲的に遊ぶ姿があった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	ホール全体を見ながら、鉄棒の側に位置付いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ホール全体を見ながら、他の遊具の所に位置付いていた。	鉄棒の側に位置付いていたが、他にも目を向けなければならない遊びの設定、状況になってしまった。遊びの組み合わせを考慮する必要があった。	危険を防ぐための保育者の援助、配慮、言葉かけをしていく。遊びの組み合わせ、遊具の出す時間帯を考慮する。	
7560	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	19									1	1	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右大腿骨内顆軟骨不全損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	担任は、４時３０分までの勤務。４時３０分からは、補助の常勤保育士が保育をしていた。	事故防止マニュアルの整備をし職員に周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	本児が転倒した場所は、水道前の床材を一部張り替えた所であった。	転倒時、床は濡れたり滑りやすい状態ではなかったが、水道前での遊びの設定については、十分注意する。	1.集団活動中・見守りあり	当園幼児は６月から８月まで中ズックからせったに移行し履いている。ござの上での遊びはせったを脱ぎ、裸足となるため、脱ぐ、履くの動作がある。ござを敷く場所、通路確保が不十分であった。	危険箇所を職員間で把握し、遊びや移動スペースを十分確保する環境設定する。	1.いつもどおりの様子であった	片付けまではいつも通りの様子であった。転倒時、両手に玩具を持ちながら泣いて立っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は全体をみていたが、片付け中の本児の転倒の瞬間場面は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内にある保育士室で保育記録業務を行っていた。	担当保育士の見守りが不十分であった。日頃から職員間で声掛け、情報共有が十分でなかった。	活動中の予想される危険な要因を再認識しながら見守りをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項
7561	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	1	4	8	3	10	9			12	9	4歳	2.女児	
7562	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	5歳	2.女児	
7563	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									2	2	4歳	2.女児	
7564	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	17									3	3	3歳	2.女児	
7565	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12									2	2	1歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7561	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	夕方の遊具遊びは危険と思い追いかけっこ等は良いと思っていました。	毎日の夕方の職員配置票がありますが、その日の園児数で未満児クラスからもう１人職員をプラスしたり、遊びの種類ももっと考慮した方が良かったと思いました。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	園庭全面を使用していました。	一部分のみの使用にした方が良いと思いました。
7562	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折、右橈骨頸部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		遊具の正しい使い方を説明する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		遊具の点検を常に行う。
7563	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	園外保育での、子どもの動きに対しての保育士の安全管理の意識チェックがなかった	施設設備の安全点検のほかに、保育にあたる時の安全意識をもてるようなチェック項目を作って、職員で確認していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	該当なし	該当なし
7564	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(５)回/年	1.基準以上配置	職員配置の人数は十分だったが、立ち位置や担任同士の連携を図るべきであった。	子どもの動きを予測しながら、担任同士の連携を図る必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		子ども達が安全に過ごせるように、園内の怪我が起こりやすい場所を再確認し、職員間で共通理解をする。
7565	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	裂傷 (額)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	転倒しやすい月齢の動きとして予測される危険性について。安全面の配慮に欠けていた。	子どもの動きを予測し、危険個所を保護しておく。職員間での危険個所の確認、保護するなどの安全配慮。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1歳3カ月でありまだ歩行が安定していない為、転倒することを予測し保育する必要があった。	転倒を予測し、角には保護するものを設置しておく。また、手に玩具を持って歩かないように注意していく必要があった。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7561	1.集団活動中・見守りあり	遊びの種類を変えたり、注意事項を話す。	遊びの種類を変えたり、事前に注意事項を園児に分かりやすく伝える。	1.いつもどおりの様子であった	おとなしい、他児にいじわるをされることが多い	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。遊具の死角で見えなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	押す姿を見てそばに行き状況を聞いた。	夕方の遊具遊びは危険と思い追いかけっこ等は良いと思っていました。	毎日の夕方の職員配置票がありますが、その日の園児数で未満児クラスからもう１人職員をプラスしても良かったのかもと思いました。	
7562	1.集団活動中・見守りあり		近くにいる他クラスの保育士にも協力して見守る体制を作る。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に足をかけ上に座ろうとしたが、バランスを崩し転倒し手を地面についた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士も対象時の様子は見ていたが、少し離れた所にいたため転倒を止めれなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のクラスの保育士も近くで遊んでいて様子も見ていたので、転倒したとき、対象児に近寄より様子を聞いたりしていた。		担当保育士は鉄棒のすぐ近くにいるようにする。	
7563	1.集団活動中・見守りあり	該当なし	該当なし	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	散歩の列の先頭と最後尾に一名ずつ職員がおり、監視していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園外保育のため、他の職員は園内にいた。	該当なし	散歩では子どもが急に走り出さないよう子どもの位置に配慮して保育士が進む。また、手にものを持ったり、手をつないで走らないよう子ども達に話しをし、保育士も気を付けて見ていく。	
7564	3.個人活動中・見守りあり	安全面の約束について、まだ徹底できていなかった。	廊下は走らないことなど、安全に生活するためのルールを理由と合わせて分かりやすく子どもたちに伝えると共に、廊下にその上を歩きたくなるような足型などを貼った。	1.いつもどおりの様子であった	はりきって登園し、かばんの用意をしているところだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	朝の用意をする時間で、子ども達一人一人の様子に合わせ援助していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の用意をする時間で、子ども達一人一人の様子に合わせ援助していたため、その瞬間の動きを把握できていなかった。	進級して間もなく、子ども達もまだ生活に慣れていないことを踏まえて配慮する必要があった。	子どもが廊下に出た時には、職員が保育室の入り口付近に立ったり、保育者も一緒に出たりする。	
7565	7.その他	職員2人配置ではあるが、排泄の片付けや子ども用の帽子を取りに行き1人抜けていたことや、角を保護していなかったことが要因としてあげられる。	排泄の片付けは後にし子どもを優先に保育にあたる。転倒しやすい事も予測して傍についておく。当日の設定遊びに必要な準備を事前にしておくべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	手に玩具を持って小走りしていた時に足がからまり転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒しやすい為近くで見ていたが止めることは難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄後の片付けと園庭へ出る為に保育室へ帽子を取りに職員が1人出ていた為見ていなかった。	排泄の片付け、帽子の準備は事前にしておくこと、転倒しやすい事を把握し保育者が近くで見ておく必要があった。対象児と一緒に片付けや帽子の準備をする等の対応も考えられた。	保育者が抜けることがあれば座って遊べる玩具を出し、落ち着いて過ごせるような環境を作ることも方法として考えられた。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7573	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2.5	2	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘内症橈骨頭軟骨損傷	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	トイレ誘導衣服の着脱トイレ動作手洗い手拭きの流れを職員一人でしていた。	トイレ側で見守れる職員配置にする。もしくは職員一人で対応するときは園児２人ずつ誘導する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	便座の前に洗面台があり便器横からまたがって座っている。手すりがない。トイレの高さが身長に対して高め。	足台をおきトイレに座りやすくする。	7.その他	床や便器はぬれていなかった。急がせるような声かけもしていない。	便器の横からではなく前から座るように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	自分で便座に手をついてまたがろうとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任はトイレ以外の園児をみていたためその場にいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレ動作は自立しているため見守る程度で他の園児の衣服の着脱を手つだっていた。	複数人同時にトイレ誘導しており衣服着脱トイレ動作手洗い動作一人の職員でみていた。	衣服着脱の職員とトイレ内で見守る職員が必要園児２人につき職員一人の割合でトイレ誘導する。	
7574	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	25									2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年			1.集団活動中・見守りあり	落ち着いて遊べていなかったことによるもの	落ち着いて遊ぶよう再度声かけ徹底し、毎回約束事をし、動と静を大切にしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)		2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の支援をしていた。		落ち着いて遊ぶよう再度声かけ徹底し、毎回約束事をし、動と静を大切にしていく。	
7575	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28	0	0	0	12	9	7			2	2	4歳	2.女児	現在の歯（乳歯）については神経に損傷があった可能性があり黒くなってしまっている。このことについては保護者からも了承をいただいているが、今後生え変わる永久歯についても神経に損傷がある可能性があり生え変わりまで経緯観察を要する。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	前歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年			1.集団活動中・見守りあり	逃げる際に遊具の狭いスペースを通っていこうとしたため、コントロールが効かなくなりそのまま転倒する。	遊具等の狭いスペースにはいかないよう、事前に声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	年少児に追いかけられ逃げていたところ、そのまま前に転倒する。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児と一緒に遊びの提供をしながら、一緒に遊んでいた為、見てはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいる全園児を見守っていたり、登園時の園児の受け入れを行ったり、園児と一緒に遊び保育していたこともあり見ていなかった。	衝動的に行動する園児への目配りがなされていなかった為、起こってしまう。	保育士間で連携を取り、注意が必要な園児への目配りを更に徹底して今後は行っていく。また、保育士は、園庭全体を見渡せる立ち位置を更に意識していく。	
7576	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	5	4	10	13	12	11			9	9	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	登園後の自由遊びの時間帯で、それぞれが好きな場所で遊んでおり、危険な行動へ危険の予知が甘くなった。	予想される危険行動を職員で共有し合い、近くで遊んでいる子どもの行動をしっかり見て、危険予知をしながら安全に遊べるよう見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ブランコ周辺の地面が少しへこんでいるところがあった。	朝の庭掃除の際は凹凸がないように整地をする。	1.集団活動中・見守りあり	ブランコをこいで、勢いをつけてジャンプして降りたことにより、バランスを崩し転倒につながった。	ブランコから降りるときは、必ずブランコが静止してから降りる事を子供達にも知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	友達とままごととブランコを交代で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は園庭・室内どちらも見渡せる場所で製作活動の子どもを見ていた。しかし、事故の瞬間は見ていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くの砂場で異年齢の子どものままごとの相手をしながら、ブランコの交代を促したり、危険のないよう見守ったりしていたが、危ない乗り方をすることもなく、事故の瞬間は、痛がったり、泣いたりすることがなかった為、気が付かなかった。	近くに保育士はいたがブランコのところにはいなかった。	ブランコを出すときは危険のないようしっかり見守りできる職員がいるときのみ設置するようにする。	
7577	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60				23	14	23			5	5	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	本児の行動の特徴をしっかり把握し、遊んでいる時に個別の対応が必要だった。	ヒヤリハット等を活用し職員間で情報の共有を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(５４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５４)回/年	低年齢児対象の高さの低い滑り台ではあるが、年齢が高い子が遊ぶ時にも職員を配置することが必要だった。	遊具の安全な使い方について、子ども達といっしょに再確認する。	3.個人活動中・見守りあり	新年度の初日ということで、子ども達の気持ちも安定していないことを配慮し、いつも以上に気をつけて見ておくことが必要だった。	いつもとは違う、新年度での子どもの行動を予測し、職員間の連携を図る。	1.いつもどおりの様子であった	登園して母親と離れたばかりの時間で、友達と一緒に遊ぶことが嬉しそうであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児がいた滑り台の下で職員が見ていたが、滑り台の上で対象児が腕をぶつけた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児が遊んでいる近くで子どもの安全を見守り、登園時の母子どもの受け取りをしていた。	滑り台の昇降口、滑り下りてくる位置の近くに職員がいなかったので危険な行為を止めることができなかった。	滑り台で子どもが安全に遊ぶための見守る位置を再確認し、職員全体で情報の共有を図り事故防止に努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7578	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	13				6	3	4			2	2	3歳	1.男児	・当日の本児の体調はいつもと変わらず安定していた。	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左側頭部挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置	・ヒヤリハットや事故報告の資料を基に、全職員でけがに至るまでの過程を分析する。	・保育士同士の声かけや、発達に応じて付き添う。またクラスで階段の上り下り時の危険について改めて話をする。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	・普段の保育の中で危険予知し、小さなことから記録して研修等につなげる。	・保育士同士の声かけや、発達に応じて付き添う。またクラスで階段の上り下り時の危険について改めて話をする。	1.集団活動中・見守りあり	・子どもたちの気持ちがたかぶると行動が大きくなることが予想されるので、落ち着かせて行動できるようにする。	・階段の手すりを握り、ゆっくり一段ずつ歩くことを日々伝えていく。また大人がその見本を見せていく	1.いつもどおりの様子であった	・普段と変わらず元気だった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・他児の足を洗いながら、階段を上がっていく姿を見守り、本児の先に保育士がいる姿もみえた。見守っていたが他児とおしゃべりしながら上っていくのが見えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・ほかの職員も他児と手をつなぎ階段を上っていた。階段でつまずいたのが一瞬だったため、助けることができなかった。	・普段と変わらない様子であっても危険を予知することが大切である	・危険予知は日ごろの研修等でもしているが年度初めには特に子どもたちが進級した喜びがあることも踏まえ意識する。	
7579	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				12		13			2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		マニュアルを再確認し、事故防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		引き続き施設や遊具等の安全管理に努める。	3.個人活動中・見守りあり	戸外には２クラスだけで人数的にはそれ程多くはなく見守りはできていた。	今後一層、園児の見守りの強化に努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	５歳児担任が休みで代替職員ということで少しはめをはずしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	代替の５歳児担当職員は本児に対し、すべり台の手すり部分に乗らないよう注意は促していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	３歳児担任は少し離れた場所で他児の見守りをしていて2人の動きは気にならなかった様子である。	本児(５歳児)男児の遊びに加わりたくて、他児(３歳男児)がふざけ半分で突発的に本児を押してしまった。	園児へ遊具の使い方の指導をしっかり行う 気になる危険な行動がみられた場合は、近くで見守り注意を行い、安全に遊ぶよう指導する。 代替職員の場合の見守りについて、他職員との協力体制をとっていく。	
7580	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84	1	12	20	20	19	12			15	12	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	児童の各箇所での動きの想定がもっと必要であった。、危険が伴う動きへの事前の言葉がけが必要であった。	園庭での遊びを始める前に、注意が必要な場所や動きの確認や言葉がけを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	固定遊具のある場所での児童の動きの予測を立てる。	固定遊具のある場所での児童の動きの予測をたてる。園庭のくぼみや石ころ等危険箇所の排除。	1.集団活動中・見守りあり	ジャングルジムの間の狭い場所を走って通り抜けようとしたため。	遊ぶ場所には，危険が伴わないか，安全確認に努める。	1.いつもどおりの様子であった	走って転んだ後は，特に痛みを訴えてくることはなかったが，追いかけごっこを途中でやめた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走って転んだ際，「大丈夫？」の保育士の声掛けに「大丈夫」と返事し，特に痛がる様子もなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で他児の活動に対応していたため，見ていなかった。	見守り体制　危険と安全の意識	多方面で活動する子どもたちの全体の動きが確認できるよう，保育士の見守る位置や，一人一人の子どもの行動が把握できるよう保育士間の連携を図る	
7581	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	0	8	13	0	0	0	0		4	4	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	室内で、靴下を履いたまま遊んでいて、滑りやすかった。	室内では、靴下を脱ぎ、滑らないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	靴下を履いていると、歩いていても滑りやすいことがある。	室内では靴下を脱ぎ、滑らないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	走ってはいなかったが、靴下を履いていて、滑りやすかった。	靴下を室内では必ず脱ぐようにし、滑らないようにする。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	普段と変わらない様子で友達と一緒に遊ぶ様子が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと関わりながら見守っていて、転倒後に気付き、対応をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	お迎えに対応している保育者もいたが、他の保育者は、全体が見えるようそれぞれ配置し、子どもたちと関わりながら見守っていた。	気の緩みやすい時間帯	安全な環境を整え、子どもたちを見守る。	
7582	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27						27			4	3	6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５趾基節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子ども同士の接触をできるだけ少なくなるような工夫	ケガ等に配慮した人数の運動遊びと見守る位置の確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		使用前の事前の点検	1.集団活動中・見守りあり		自分の安全とともにお友達の安全にも心がける。遊びの中でもケガをしたときの報告をする習慣付けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	足を踏まれた。夕方も跳び箱遊びをしている。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	足を踏まれた時は、園児は痛がらなかった。夕方の跳び箱遊び後、足の痛みを訴えたので、冷やすなどの対応を行う。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	足を踏まれたことは気づかなかった。夕方跳び箱遊びをするときに足の痛みを訴えたので、すぐに対応をする。		園児により近い場所での見守りとケガ防止の指導	
7583	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27						27			2	2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子ども同士の衝突ができるだけ少なくなるような工夫	けが等に配慮した人数の運動遊びと見守る位置の確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		使用前の事前の点検	1.集団活動中・見守りあり		自分の安全とともにお友達の安全にも心がける。けがをしたときの報告を習慣付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	２人が衝突したことに気づき、２人の様子を尋ね、冷やすなどの処置を行う。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	衝突したことに気づき、様子を尋ねる。他の園児も同様なことにならないように注意を喚起する。		園児により近い場所での見守りとけが防止の指導	
7584	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32				11	9	12			3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		職員配置を充分満たしているので、改善策はなし。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ホッピングの劣化等による事故ではなく、改善策はなし。	3.個人活動中・見守りあり		ホッピングなどの遊具を使った遊びは、遊ぶ場所を決めるなどして安全に配慮する	1.いつもどおりの様子であった	ホッピングで遊んでいる５歳児の様子を止まって見ていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体が把握できる場所で、子どもたちの遊びを見守り、転んだ瞬間に本児に駆け寄る	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内の他の園児の遊びを見守る。事故にはすぐに気づく。		職員の危険予測に繋がるように、今回の事故を職員で共有する。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7591	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員全員が危機意識を高めていけるよう研修を深めていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年		職員間で意識統一を図り、危険個所を見逃すことのないよう努めたい。	3.個人活動中・見守りあり		赤土山は、乾燥すると滑りやすくなるため、その上を走らないよう子ども達に伝え、事故や怪我のないよう気を付けていきたい。	1.いつもどおりの様子であった	9：00過ぎから運動場に出て遊んでいた。普段と変わった様子は特にはなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	5歳児クラスでは、朝の支度の終わった子から順次外に出て遊んでいた。クラス担任と加配保育士1名は、運動場に出て子どもの様子を見守ったり一緒に遊んだりしていた。また、加配保育士１名は、保育室で、朝の支度をしている子の見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で自分の担当の子ども達の朝の受け入れをしたり見守ったりしていた。		担任をしている子どものみならず、全職員で全園児の安全を見守るよう連携をとるとともに、危険個所については全職員で共通理解していきたい。	
7592	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折（足指）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	本児が痛がらなかったため、特にけがはないと考え、処置をしなかった。	子どもが痛がっていなくても患部の状態を確認し、変化に気づくべきだった。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	足の洗い方、足洗い場の設備状況	今のホースが少し長めだったため、足が引っ掛かったことが要因の一つであり、安全に洗えるように改善する。	1.集団活動中・見守りあり	足洗い場が狭くて、子どもたちが密集してしまうとつい慌ててしまう子どももいる。	今後は、もう一箇所の足洗い場も使い、分散して洗うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	保護者引渡し時は少し、歩き方に変化があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児の様子を安全に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		降園時に少し歩き方に変化があった。その事を問題視するべきだった。	朝の状態と変化がないか確認する。	
7593	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20									2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節部分骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	事故発生時において、「転倒して骨折する」という事態を想定できず、子どもたちの主体性の中で「遊び」を選ばせていた。	安全管理マニュアルの改訂（ボール遊びの危険性について付記）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊戯室内で、「跳び箱」「鉄棒」「ボール」を設定中であった。担任保育士2名は、跳び箱と鉄棒の安全見守りを実施しながら室内を監視していた。	遊び環境の多様性を可能な限り排除する。	3.個人活動中・見守りあり		可能な限り、見守りの保育士数を増員する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	より危険性が高い遊具の近くで安全を見守り、本児の遊びは遠方より見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内には、他クラスの児童・担任はいなかった。	保育士は「この遊び方によって転倒し、骨折するかもしれない」という見通し・予測を持てていなかった。	遊具をあそびの環境として与える場合の、児童に対する「安全な使い方」のレクチャーのマニュアル化とその実施の徹底	
7594	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	32				13	11	8			3	3	5歳	2.女児	天候　曇り	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5　)回/年	1.基準以上配置	子どもの行動を予測し、事故を未然に防ぐ保育力の強化	KYT研修,4S活動（整理・整頓・清掃・清潔）などを通じ、安心・安全の意識を高める。	1.定期的に実施	12回/年	1.定期的に実施	約50回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時　)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	対象児は、3歳児の時に、ドアに手を置いていたために指を挟み、受診したこともあった。排泄の自立なども含め、行動の先読みの弱さがある。	対象児の危険回避がしにくい面を、保育者が予測し、細やかな声掛けを行い支援する。	1.いつもどおりの様子であった	土曜日保育利用が少なく、かつ当日のお迎えが早い事から、いつもより気持ちが高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	話し声を聞いており、保育室から廊下へ向かおうとしていることを確認していたが、行動は凝視してはいない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児と保育者との距離は、約3mであった。	年に2回実施している体力テストにおいて、筋持久力・バランス能力が非常に弱い面が数値化され、保護者も危惧されていた。	体幹など、運動能力をアップできるような活動を、保育の中でも取り組む。保育者一人一人の意識が資質の向上につながり、その保育の質の向上により、子どもの安全が補完されているという図式を保育者が目にする場所に掲示する。	
7595	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	10						10			1	1	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（３~４）回/年	2.基準配置	特になし	問題はないと考えられるが、再度マニュアル等確認をして事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	床面に突起や段差などなく、特にハード面での要因は無し。	ハード面に特に問題はないと考えられる。今後も点検等を丁寧に行っていきたい	1.集団活動中・見守りあり	特になし	各部屋の年齢構成や人数、活動内容などを担当保育士間でよく共有していく	1.いつもどおりの様子であった	ボールを使って一人でつくなどして遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室の入り口付近から全体を見える位置に立っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は隣の部屋で机上遊びの子どもを見たり、お迎えの保護者の対応をしていた。	足元に予期せずボールが転がってきた為、よけることが難しかったと推測される。	日頃から運動面を発達させる遊びの工夫や、様々な体験を積極的に取り入れて子どもの感覚的な発達も目指す。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7596	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9						9			2	2	5歳	2.女児	左目（遠視・弱視・外斜視）右目（近視・乱視）眼鏡使用（平成30年5月～）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	左第３趾基節骨（若木）骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（３~４）回/年	2.基準配置	特になし	問題はないと考えられるが、再度マニュアル等確認をして事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	床面に突起や段差などなく、特にハード面での要因は無し。	ハード面に特に問題はないと考えられる。今後も点検等を丁寧に行っていきたい	1.集団活動中・見守りあり	教育研究所の職員3名が発達支援児の様子を見に来ていた。	部屋の広さに対しての活動内容等を担任保育士間で共有していく。	1.いつもどおりの様子であった	しっぽ取りゲームで走って逃げ回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゲームの進行をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもの様子が見渡せる位置に立っていた。	本児が逃げることに夢中になり興奮して 周りの状況の把握が難しかった。	興奮しやすいゲームは屋外で実施、または少人数で行う。	
7597	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									2	2	2歳	2.女児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	年度当初、新職員も含めて全員で事故対応マニュアル、安全チェックリストの内容等を確認する。園外の事故予防研修に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	特になし	ホール内で走っているとき何もない所で突然転んだ。施設・設備に関しては特別改善はない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	身体は大きいが走り方がスムーズさに欠けるのでスピードを抑えたり至近距離で見守るべきだった。	1.いつもどおりの様子であった	後ろから追いかけてくる保育士を見ようと振り返った時足が絡まり転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	何もない所で突然転んだので止めることはできなかった。対象児は頬を押さえて泣いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	先頭で転ぶのを見た。	午前の保育活動としては、リズム遊びのあと、続けておいかけ遊びをしたので時間が長すぎた。	保育活動の前に必ずタイムスケジュールを確認する。	
7598	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38				11	13	14			4	4	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	右の鎖骨の骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2　)回/年	2.基準配置	園全体ではマニュアルで周知し職員間での報告作業を忘れずに行う事になっていたが、対応がその場の職員だけの判断になってしまい、上司への報告が漏れてしまった。	どんなに小さな事でも必ず上司への報告を行うようにし、その場だけの判断や対応にならないよう、マニュアルを周知し直したり会議で確認をするようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	転倒に繋がるような凸凹は当日は無かった。	毎日遊ぶ前に園庭全体を必ず点検をし、つまずいたりする要因になるような凸凹等が無いか等これからも定期的に安全の確認を行って行く。	1.集団活動中・見守りあり	色々な遊びが展開していた中で、鬼ごっこをしている危険性を感じていながら、安全に遊ぶ為の働き掛けが足りていなかった。	園庭での遊びのルールを根気よく子ども達にも伝えていく。鬼ごっこの際は慌てたりして通常の動きでは無い動きになる事が考えられる。山を使って走っている子ども達にも注意を促すような働き掛けや、声掛けを行って行く。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で友達と鬼ごっこをしていた際に山に逃げ、中腹から駆け下りた時にふもとでつまずいて転ぶ。	4.対象児の動きを見ていなかった	転倒した瞬間は目撃できなかったが、転んだ直後に気が付いて駆け寄り対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は他児の排泄援助の為トイレにつき、２名の保育士は他児と関わっていた為、転倒した際に確認が出来なかった。	保育士1名は、園庭全体の遊びを把握し、他の職員はそれぞれ危険と思われる遊びや場所に流動的に動くようにしていたが、子ども達の遊びの展開が広がる事によっての対応や見守りが不足し、それぞれの持ち場の把握が不十分になってしまった。	目の前の子ども達との関わりだけにならないように、一人ひとりの保育士が意識して自分の責任範囲を広げ、安全に遊びが展開される様に見守りをする。また、子ども達の遊びの危険予測も徹底し、保育士間でも危険個所、危険予測の声掛けを行っていく。	
7599	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17				4	4	9			1	1	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（３～５）回/年	1.基準以上配置	遊びを設定する際のマニュアルに職員が持ち場を離れる際の内容が不足していた。	職員交代の際、代わりの職員が来るまで持ち場を離れないということをマニュアルに盛り込んだ。	1.定期的に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度/毎日	なし	危険個所はなく、ハード面での改善策なし	1.集団活動中・見守りあり	進級してから初めて使う遊具だったが使い方の周知が徹底されていなかった。	４月は、新職員も入ることから、職員・子どもに向けて戸板の使い方を事前に伝えていく。子どもに遊び方を周知してから遊び始める。	1.いつもどおりの様子であった	他のお部屋での遊びを終え、サーキット遊びを見ていたが、保育士が離れた間に戸板に上っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	常時戸板の介助にはついていたが、事故発生時サーキットの中の子ども同士のトラブルに対応していたため、対象児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応や職員間の入れ替えの時間で伝達を行っていたため、ホール内にはいなく、対象児の動きを見ていなかった。	９：３０で担任が揃う時間帯のため、職員の動きが繋雑だった	・戸板の介助の場から保育士が離れるときは、子どもだけで遊具を使用しないよう、待ってもらう声掛けを徹底し、マットをたてかける等して目視でも使用できないことがわかるようにする。・伝達等は部屋・ホール全体を見渡せる場所で実施することとし、手短に行う。・子どもの対応等により、部屋を飛び出してしまった子への対応や、排泄失敗の子への対応等で一時的に保育士が手薄になる場合は、職員室にヘルプを出す。	
7600	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	0	2	3	4	4	4	0		3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　　)回/年	2.基準配置	遊びに夢中になり捕まえたい一心で力加減せずに押してしまった。	普段の生活場面でも叩いたり、押したり、キックしないように注意喚起をしっかりとする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	早帰りが多く、いつも出ていない、1歳児が出ていたことで、小さい子に目がいっていた。	おしっこの失敗や、保護者のお迎え時の対応は室内の職員に対応を任せる。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	お迎え時の保護者対応と保育士の連絡で、目を離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１歳児を見ていた。	戸外に出るときには必ず３人いっぺんに保育士が出る。	夕方の戸外遊びは子どもをしっかり見るため、０．１歳児は戸外に出ずに室内で遊ぶ。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

概要					発生時の施設・事業体制								事故に遭った子どもの	事故状況							事故発生の要因分析								掲載更新年月日
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	発生時期	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故発生時状況	事故の転機	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	うち保育士					死亡					ソフト面				
7605	令和4年3月16日	認可	6. 認可保育所	8. 夕方（16時頃～夕食後休前）	1. 施設敷地内（室内）	7. 異年齢構成	10	0	0	2	2	4	2	0	4	4歳	2. 女児	4月17日・24日受診し、2週間ギプス固定。5月18日完治。	2. 蛍内活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢（腕・手・指）	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転・倒・衝突によるもの	1. 定期的に実施	実施頻度（0回/年）	1. 基本以上配置	特になし	遊具移動に伴う事故。全職員で事故位置に集合する	特になし	特になし	特になし

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	概要 施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7609	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	0	0	15	19	16	17			11	9	2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	・左股関節捻挫 ・左脛骨遠位端若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	斜面にうっすら乾いた砂があると滑りやすくなるという認識不足だった。	自然現象により、日々園庭の土の状況が変化していることを再認識し、安全点検をしっかり行う。	2.不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(必要に応じて)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	強風が続いたことで斜面に砂があり滑りやすくなっていることを見過ごしていた。	転倒する恐れがある箇所を、保育士自身がしっかり認識し、事前に声掛けすることで子ども自身にも危機認識を持ってもらう。	1.集団活動中・見守りあり	斜面は転倒の恐れがあることから特に注意深く見守る必要があった。	斜面が滑りやすくなっている時にはスコップで掘り起こして滑らない工夫をする。	1.いつもどおりの様子であった	ままごとコーナーで土あそびをしていたが、一旦砂場道具を片付けて皆の所に集まろうとしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	皆が集まっている事を伝え、本児と一緒に玩具の片づけを行った後手を差し伸べたが、本児が立ち上がった時に不意に足を取られた状態となった為防ぎ切れなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の合同保育で異年齢で園庭遊びを行っていたが、次の活動に移る為にお集まりをしている状態で、他10人の保育士はそれぞれ本児以外の子どもたちについていた。	特になし。	安全点検を行う際、斜面にも目を配り、状況を確認する。	
7610	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		0	3	3	4	5	0		3	3	5歳	2.女児	なし。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾基節骨々折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4～5)回/年	1.基準以上配置	危険な場面がなかったため、予測できなかった。	合同保育中や組の活動等、様々な場面で予測できないケガや事故があることを職員間で周知し、職員の配置・見方を再度確認し、事故予防に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	床やマットに破損箇所がなかった。	改善すべき点がなかった。	1.集団活動中・見守りあり	なし。	滑り込んで座らない。静かに落ち着いて座ることを園児に指導しているが今後も周知していく。	1.いつもどおりの様子であった	足の痛みについては、保育士には伝えていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	各遊びのコーナーと全体の様子をみていたがケガをした瞬間はみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各遊びのコーナーと全体の様子をみていたがケガをした瞬間はみていなかった。	園児から痛みなどの申し出がなかったことと、普段と変わりない様子だったため、ケガをしたことに気付けなかった。	ケガをしたときや痛みがあるときは、そばにいる大人に伝えることを指導する。	
7611	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									3	2	5歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	事前のコース確認不足が考えられる。	事前確認及び、危険箇所の共有を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	転倒箇所には路面状況等の破損や小石等の障害は特に無かった。	なし	1.集団活動中・見守りあり	運動会の練習の初日のため、長い距離を走ることに不慣れな状況であった。また、転倒後、後方の園児が覆いかぶさる状態で当該園児と接触があった。	長い距離を走らせる際には、距離を段階的に増やすなどの配慮をするようにする。また並走の際には、園児同士の間隔を空けることを周知及び徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	気分が高揚している等の変わった様子は特に無かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該園児の前方の離れたところで他児とともに並走していたため見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該園児の後方で他児とともに並走しながら様子を見ていた（後方の保育士）当該園児の前方で走行の様子を見ていた（園長）	要所要所で園児の様子の確認が不足していた。	担当の保育士はそれぞれ前方・後方の様子を随時確認し合い、子どもの疲労度や様子に合わせ、必要に応じて声掛けをしたり、ペースを落とす等の配慮をする。	
7612	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12	0	0	0	0	0	0	0		3	3	3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	特になし	重大事故につながらないようにするために、毎月の職員会議（研修会）においてヒヤリハットを確認し、職員の意識付けを図る。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	戸が完全に閉まらないようにするストッパーがなかった。	ストッパーを用意する。	7.その他	保育室ベランダの戸の近くに保育士がいなかった。	戸の開閉時は保育士が戸のそばに立ち、目配りを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	児童の健康状態はいつもと変わらず、活動等に特異な点は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室内の職員は、対象児童から離れたところで、他児が屋外（園庭）へ出るための誘導を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ていた職員は、園庭にいる児童を見守っていた。	特になし	特になし	
7613	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30	0	0	0	13	7	10	0		2	2	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.基準以上配置	なし	今後も、ヒヤリハット等を活用し、事故予防に関する研修を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	地面が滑りやすかったり、つまずいたりする凹凸はなかった。	使用前には、地面に凹凸がないかなどの点検、環境整備を継続して行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	なし	保育状況に問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り戸外遊びを楽しんでいたが、日頃から転びやすく、遊びに夢中になると危険を回避できない姿があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	４、５歳児10名で鬼ごっこを楽しむ園児を見守っていたが、本児が転倒することを止めることはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場遊びの見守りをしていた。離れていたため転倒を防げなかった。	本児は、逃げることに夢中になり、周りが見えなくなっていたと考えられる。	本児の遊びの様子を把握し、危険が予測される場合は声をかけていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7627	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	31	0	0	0	15	0	16	0	0	3	3	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	手のつき方が悪かったと思われる。	腕で体を支える遊びや雑巾がけを取り入れて、腕の力をつけていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	鉄格子のような排水口の所で転んでいた。前日に雨が降っていたため、少し滑りやすくなっていたと思われる。	雨が降った翌日は滑りやすくなっているので、そのような場所は避けて通るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	人数が多い状況で走り出してしまった。	走りたいときは広がってから走るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	A公園沿いの歩道を丘に向かって走っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢の合同保育中、散歩の列の最後尾を走っていた。対象児と離れていたため、転ぶ瞬間は確認出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先頭に1人と、中間に１人、(後方に担当)子どもたちと一緒に散歩をしていた。対象児の一番近い所にいた保育士は、転んだ瞬間は見ていないが、倒れている姿を見て後ろから本児のところに駆け付けた			
7628	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/月	2.基準配置	事故防止マニュアル・ヒヤリハット等の確認	保育活動等の職員の配置をしっかりと行う	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	ヒヤリハットの確認	園庭・園庭遊具の確認を怠らない	3.個人活動中・見守りあり	遊びの活動内容の認識	一人一人の園児の活動の様子を把握し見守る	1.いつもどおりの様子であった	友だち・担任との関わりを楽しみながら，木製大型遊具で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児も含めて、近くで遊んでいた園児達の動きを見ながら、声を掛けながら一緒に遊んでいた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	戸外遊び中（自由遊び）の活動では、鉄棒・ブランコ・滑り台・大型遊具『スカイタワー』・虫探し・ごっこ遊び等で遊ぶ中、危険の無いように見守りながら園児に声を掛けたり、一緒に遊ぶ等をしていた	遊具のはしごを乗降する際に、気を付けるようにとの声かけや下から見守る職員の配置も必要であった	園児の動きや運動能力面にも考慮し、声掛けや補助などをしてケガに繋がらないように指導する	
7629	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27						27			4	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		今回の事故を受けて、原因と対策を職員会議で話し合い、職員間で共有することで再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年			1.集団活動中・見守りあり	スペースを広くとって、普段より多い人数で鬼ごっこをしていた。	遊べる人数に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	普通に鬼ごっこをしており、特に危険は見受けられなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこの場所に付き子供たちを見ていたが、転んだ瞬間に手を差し伸べることは難しい。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の怪我の対応する保育士1名、体育遊びにつく保育士1名、砂場遊びにつく保育1名で各々の場所に配置していた。	事故発生時は、職員の配置基準は満たしているものの、日中と職員構成が異なる時間帯だった。	児童数や職員数、時間帯に応じて鬼ごっこの人数や遊び方を対応するなどの工夫が必要である。	
7630	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12		12							4	4	1歳	2.女児	当日は朝から大雨警報が発令していて戸外遊びができなかったので、休園となっていた隣接している幼稚園のホールで、身体を動かして遊んでいた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	1歳児２クラスの合同保育中で経験年数の少ない保育士とパート保育士の配置になっていた。	その場で正しい判断ができるよう、経験のある保育士と配置を組んだり、繰り返しの研修により、経験年数が少ない保育士も適切な判断ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	エアーマットで遊んだ後、保管場所としてホールの壁に立て掛けていた状態だったので、使用後も同じ状態に戻そうとした。	大きなマットで保管場所が立て掛けるしかなかったようだが、すぐに幼稚園に連絡して改善してもらった。平置きにする、又は立て掛けた前に倒れないように鉄棒を置く。	1.集団活動中・見守りあり	気象警報発令により幼稚園が休園となり、幼稚園のホールや遊具を借りて遊んでいた。エアーマットが立て掛けていることは知っていた。	１年間同じ場所で保管されていて怪我もなかったことで、危険を見通す気持ちが薄れていたと思う。ヒヤリハットとしてその感覚を改めて持つようにする。	1.いつもどおりの様子であった	元々活発に行動するタイプではないので、広いホールでも走り回ってはいなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子どもの見えるところにはいたが、倒れると思っていないマットが倒れたことで、気づきが遅く間に合わなかったと思われる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	消灯、泣いている子の対応など、同じ場所に居ながら、違うことをしていたため気づけなかった。	職員間での役割分担や声かけなどの連携ができていなかった。子どもがいるところで準備や片付けをした。立て掛けたマットを触りにいく子どももいた。	子ども達を安全なところに集めてまとめる人、保育室に連れて帰る人など、それぞれの役割を決めて、活動片付けは子どもがいない状況で行う。	
7631	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				8	6	1			1	1	異年齢構成	1.男児	異年齢保育の為、被害園児を抱きかかえた園児は５歳児で被害園児より体格が大きかった	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右けい骨骨折	8.その他	1.あり	3.未実施		2.基準配置	新園で子ども同士のかかわり方がまだうまくわからず、力加減や友達の行動の予測も難しかった。	保護者対応中であってもまずは園児の遊びの見守りを第１に考え、保護者対応が長びきそうな時は、他の保育士に声をかけるようにする。	1.定期的に実施		1.定期的に実施		1.定期的に実施		保育室には玩具も片付いていたし、床面もクッションフロアで柔らかい素材であったが、着地の仕方が悪かった。	ハード面においては特に事故の要因は見つからない。	1.集団活動中・見守りあり	保育室内での適切な遊びを見つけられなかった。	個々の遊びを行っているうえで、遊びが見つけられなかったり、保育室で活発に動きだす園児についてはしっかりと把握し、遊びに導けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室の出入り口付近で保育の様子を見ながら、保護者対応を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室には、保育士１人しかいなかった。	園児の行動の予測がついていなかった。	保育士が１人の場合は、全体が見渡せる位置につき、保護者対応を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7632	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	9						9			1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	先生は注意をしたが、危険な行為をしたため	人数制限、遊具に異常があれば使用を禁止し、業者に点検・修理を依頼	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）回/年】	遊具の大きさに対し、園児の人数が多い	人数制限、遊具に異常があれば使用を禁止し、業者に点検・修理を依頼	1.集団活動中・見守りあり	友達がうんていに足をかけてぶら下がっているのを見てまね、他園児と競いながら遊んでいた。	利用人数制限をする。競争をさせない。	1.いつもどおりの様子であった	友達がうんていに足をかけてぶら下がっているのをまね、他園児と競いながら遊んでいた。		園児全体の動きが見られるような場所にいたが、対象園児が落下する瞬間、他園児の陰で見えなかった。		担当職員が1人であった。	園児の動きが早く、全員の動きが把握できなかった。	遊戯私用人数の制限、職員配置の増加	
7633	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	49	0	0	0	18	18	13			4	4	5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯（乳歯）損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12回/年	1.基準以上配置	隙間時間に室内を走ったり、友達とじゃれ合って遊ぶ子の姿は認識していたが、静止や具体的な過ごし方の提示と見守り方が不十分だったことが要因と考えられる。	食後や午睡後の時間（活動と活動の間の隙間時間）を自主的に過ごすことが困難な子や苦手とする子に対しては、具体的な過ごし方の提示を行い、職員の見守りを強化する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ハード面において問題はなかった。	3.個人活動中・見守りあり	午睡を選択しない5歳児のおやつ開始時間が早く、帰りの会が始まるまでの隙間時間が長いことで、手持ち無沙汰になる子同士のじゃれ合い行動が増えてしまっていた。	おやつの配膳開始時間を遅くし、隙間時間を短くする。また、過ごす場所と遊びの選択を（提示）を具体的にし、職員の配置も見直した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	常にフラフラしていることが多いが、この日は友達から注意を受けた言葉や静止行動が刺激となったと見受けられ、追いかけ合ったり、じゃれ合ったりする行動へとつながったと考えられる。また、倒れ込んだ場所がゴミ箱という不安定な場所だったため、手は出たがうまく体を支えきれなかったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くを通った際に声をかけ一度は静止をしたが、他児の身支度援助に入っていた為、行動を追うことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4名の職員がそれぞれの配置（午睡後の着替え、おやつの配膳下膳、アレルギー除去食対応、身支度援助）についていた。１名の職員は休憩時間で職員室にいた。	いつもより午睡の目覚めが悪い子がおり、着替えに時間がかかっていた為、おやつを食べ終わった子への見守りの目が不十分となってしまった。	職員1名の休憩時間をずらし、午睡後の着替えに時間がかかるしばらくの間は、5名体制での見守りを行うこととする。	
7634	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		土手のぼりの際の危険性を職員間で共有し遊びを経験させられるようにする	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年		園外では年齢発達にあった経験ができる場所選びを行う	3.個人活動中・見守りあり		子ども達に危険に繋がる事を遊びの前に具体的に知らせる	1.いつもどおりの様子であった	ふざけている様子もなく土手の登り降りを楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	土手下部にて子どもの動きを見守り声かけ	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	土手上部より子どもの動きを見守り声かけ		子ども達の動きを予想して見守り、声掛けができる配置を心がける	
7635	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	2.基準配置	遊具の使い方における危険性の認識、こどもの体調面の視診の判断の甘さがあったと考えられる。	遊具の使い方、安全性を職員間でまず再度見直すと共に、友だちへの関わり方等保育の中で伝えていく。また怪我に対する視診、判断、連絡を速やかに行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年 毎日		ハード面の問題は特になかった。	1.集団活動中・見守りあり		環境面の問題は特になかった。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと会話をしながら遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は他児の鬼ごっこの姿等、全体が見られる場所から把握していた。本児が遊具の柱にまたがった様子は見ており、声掛けの前に他児が背中を押し転落し、すぐに側にいった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラス職員は園庭に出ておらず、状況を確認できていなかった。	遊具の安全な使い方の提示が統一されていなかった。	遊具の使い方を明確にし、危険なく楽しめるように職員、園児に周知徹底していく。	
7636	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		2	4		5	4			5	3	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	中指先端剥離骨折擦傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年			1.集団活動中・見守りあり		人の動きに敏感な本児が落ち着いて遊べる環境設定や働きかけが必要であった。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	(具体的内容記載欄 声掛けをしたり、加配児と部屋を分けるなど対応を行ったが、受け入れや健康観察カードの確認等があり職員も動いていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)				
7637	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手第3指中節骨不全骨折、左第３指中節骨骨端線損傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	卒園式を終えて気持ちが解放し、事故につながりやすい時期であることを認識して保育する必要があった。	職員間で子どもたちの遊び方、様子をみんなの目で見守ることを再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		見通しの良い園庭であるが職員一人一人の意識が大切であると確認する。	1.集団活動中・見守りあり		遊び方について子ども達にも周囲の状況で気を付けていくことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で鬼ごっこをたのしんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1名の担任は、近くにいて様子をみていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、全体の様子を見守っていた		担任だけでなく職員みんなで全体を見る意識をもつように改めて確認する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7638	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	卒園期で練習など緊張感を持った活動のある時期のため、自由遊び中の解放感から事故につながらないように留意する必要があった。	職員間で子どもたちの遊び方、様子をみんなの目で見守ることを再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		見通しの良い園庭であるが職員一人一人の意識が大切であると確認する。	1.集団活動中・見守りあり		遊び方について子ども達にも周囲の状況で気を付けていくことを伝える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で鬼ごっこをたのしんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	1名の担任は、近くにいて様子をみていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、全体の様子を見守っていた		担任だけでなく職員みんなで全体を見る意識をもつように改めて確認する。	
7639	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30				10	10	10			3	3	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置		・想定外の事もあるため、事故予防について再度確認する。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年		・施設の点検も定期的に行う。	1.集団活動中・見守りあり	本児のクラスで身支度できたら、5歳児クラスで遊ぶことになっているが、同じクラスの他児が登園してくると、クラスに行って遊ぶ傾向がある。	職員の目が届くように改善する	1.いつもどおりの様子であった	本児のクラスにお茶を飲みに行って戻る際に、朝の支度をしていた他児の足につまずき転倒。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児がクラスにお茶を飲みに行ったところはみていたが、転倒したところは見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員は正面の子ども達の様子を見ていたため。	・登園後の身支度は、職員がそろってから行う。 ・部屋から出る時は、必ず職員に声を掛けることを徹底する。	・クラス活動が開始してから、身支度を一斉に行う。 ・水分補給のための水筒は、目の届く所で行う。	
7640	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	15									4	4	1歳	2.女児	身長81cm 体重13.1kg アレルギー・鶏卵、甲殻類	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	今回は園庭で走っていての転倒。他児との接触や玩具を持って走るということもなかったので改善点はありませんでした。今後の事故防止として靴のサイズをより丁寧にチェックしたり、より丁寧に履かせることで事故防止につなげていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	今回は園庭で走っていての転倒。遊具との接触や段差もなかったので改善点はありませんでした。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今後も事故防止として靴のサイズをより丁寧にチェックしたり、より丁寧に履かせる。遊ぶ前に今一度子どもたちと約束の確認をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	受け入れから機嫌もよく、食欲も旺盛。いつも通りに活発に活動していた。本児は体を動かすことが好きで園庭では基本的に走っている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	お友達と園庭で走って遊んでいた為、気を付けるよう声掛けしながら保育。本児が転倒したためすぐにその場に駆けつけ様子の確認をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も園庭の子どもたちを注意深く観察すると同時に、必要な声掛けをしながら保育にあたっていた。本児が転んだのをみて担当職員が駆け付けた後、本児の様子に違和感を感じ、もう一人の職員も対応に入る。	特になし	今回は園庭で走っていての転倒。他児との接触や玩具を持って走るということもなかったので改善点はありませんでした。今後も事故防止として靴のサイズをより丁寧にチェックしたり、より丁寧に履かせる。遊ぶ前に今一度子どもたちと約束の確認をしていく。	
7641	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	1	6	4	1	2	1	0		2	2	2歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	額（右）の裂傷 ２針縫合	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	早朝保育に関して保育士の準備のマニュアルはあるが事故防止に関してのマニュアルはない	早朝保育に関して話しあいを行う	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	ロッカーに衝突すると、かなりの衝撃になるので緩衝材を付けていたが勢いがあり、ケガになってしまった。	緩衝材の素材をもっとクッション性のあるものに付け替える	1.集団活動中・見守りあり	以前は様々な玩具を子どもが選べるように棚に沢山の玩具が置いてあったが、感染症対策で消毒のできたもののみをその都度出していた	感染症対策と保育環境とで難しいが、室内に置いておく玩具の種類を増やす	1.いつもどおりの様子であった	いつも、玩具で遊ぶより走りまわる事が多く、この時も保育室を走り回っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走ると危ないため声掛けをしていたが、泣いている乳児を抱いていたため動けなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じく泣いている乳児を抱いていた	早朝保育の受け入れで担当保育士でない事から泣く子が多かった	一名は早朝保育担当の保育士なので、慣れるよう触れ合いを増やす	
7642	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	55	0	0	0	18	16	21	0		6	6	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	不明	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	保育士人数は基準を満たしていたが、園庭の隅まで保育士の目が行き届いていなかった。	園庭遊びの際の保育士人数を増やした。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	・開園以来初めての出来事であり、これまで園児1人で本件排水溝の蓋を開けることが出来るという認識がなかった。	事故発生後すぐに業者に見てもらい、蓋を金網で覆い、子どもには開けられないようにした。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の大型遊具があったため、当該遊具の裏側の様子が見通しづらかった。	園庭全体の視界を広げるため、遊具を移動した。	1.いつもどおりの様子であった	園庭の隅で側溝付近で友達と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体が見渡せるような位置で、全体を見守っていた。しかし、本件事故現場は、大型遊具がある裏側だったため、対象児の動きがよく見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体が見渡せるような位置で、全体を見守っていた。	今まで起こったことがなかったということは考えず、何が起こるか分からないという思いで子どもたちを見守らなければならないと改めて保育の大切さ、重要さを知った。	子どもの言動等は予測不可能だということが改めて分かった。今後は、いつ、なにが起こるか分からないと意識して、子どもたちを見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7643	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	10									2	2	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（３～４）回/年	2.基準配置		職員の意識向上に向け研修への参加及び職員会議での共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		固定遊具の下には全面セーフティーマットを敷き詰めてあるが、正しく遊んでいても、着地の仕方によっては怪我に繋がることを職員全体で共通理解する。	1.集団活動中・見守りあり		担任間だけではなく、職員間での共有を図り意識を高めていく。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の動きに対して回転時までの補助をしたが、着地後に本児がよろけてしまったため、すぐに手を差し伸べ様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台の補助についていたため、対象児の様子は見えていなかった。		園児の行動をよく観察し、適切な行動がとれるよう声をかける。固定遊具の危険な事例を把握し、十分注意を払う。	
7644	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	・職員配置は基準を満たしていた・職員の連携が取れ、すぐにアイシング等の対応がとれた	・親しみがある遊びや活動前にルールや約束事を確認し、安全への意識を高める。・日々丈夫な体づくりや安全な体の動かし方を知らせていく。	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	・ボールは子どもが持ちやすい大きさであった・面積基準は満たしていた	今回の場合該当なし	3.個人活動中・見守りあり	特に問題なし	今回の場合該当なし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	・ゲームを進めるため、本児がボールを投げるところを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は現場にいなかった。		・親しみのある遊びでも遊び始める前にはルール、約束事を確認し安全への意識を高めていけるようにする	
7645	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	4	2	2	1	1	1	1		13	13	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（２)回/年	2.基準配置	特記事項なし	行事を前に、自信を持ち、張り切っている子ども達に対して、励ましの声掛けをすると共に、高揚する気持ちを落ち着かせるための声掛け等はしていたが、今後より一層配慮をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	環境的に、大きな問題はなかったと思われる	行事を前に、自信を持ち、張り切っている子ども達に対して、励ましの声掛けをすると共に、高揚する気持ちを落ち着かせるための声掛け等はしていたが、今後より一層配慮をしていく。	1.集団活動中・見守りあり	お気に入りのダンスで、仕上がりも良く、本児も楽しそうに踊っており、特に何かに大きな原因があったとは思われない。	行事を前に、自信を持ち、張り切っている子ども達に対して、励ましの声掛けをすると共に、高揚する気持ちを落ち着かせるための声掛け等はしていたが、今後より一層配慮をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	体を動かす事や体操が大好きなので、練習も喜んで参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	舞台練習をしている子ども達の正面の位置で、最終確認をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他のグループの子ども達が練習を見ている見守りをしながら一緒に見ている職員がいた。	人的に大きな要因はなかったと思われる。	人的配置にゆとりがあると良いと思われるが、基準内なので限られた人数で、協力体制を整えていく	
7646	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									2	1	5歳	2.女児	2歳半健診で右足の動きが気になるため、療育センターを受診したところ異常なしだったが、何もないところで転ぶことが多い。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右薬指亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（３　)回/年	1.基準以上配置		全職員での情報共有及び注意喚起を行う。	2.不定期に実施	実施頻度（２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度（１０～５０)回/年		走り込みやすい動線にコーン等の目印を置き、視覚的に園児に理解しやすい工夫を行う。	1.集団活動中・見守りあり		三輪車置き場の床はセメント塗装になっており、砂が上がっていると滑りやすいので、砂を掃き出す。	1.いつもどおりの様子であった	移動のため、三輪車置き場を通過していたと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭へ出ており、他園児と関わっていた。				個別対応案件が起こった場合、必ず他の職員に声をかけ、他児の全体の見守りを強化する。	
7647	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									1	1	5歳	1.男児	事故発生当日は、園行事の為、田植えを行った。田植えも終わり、着替えなども済ませ活動もひと段落ついて、みんなで稲を植えた田んぼを見に行き、その帰りの園庭にて転倒。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（２　)回/年	2.基準配置	教室へ戻る際走って行ってしまった。	慌てずに行くよう指導、見守りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度（毎月　)	1.定期的に実施	実施頻度（毎日　)	1.定期的に実施	実施頻度（毎日　)	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	大きな行事を終え、保育士も子どももほっと一息した気の緩みも原因の一つと考えられる。	行事等の際は嬉しさ等で子ども達もテンション等高く浮き足立っていることが多いので行事中はもちろん、終わった後の活動も気を緩めないで指導・見守りを行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活発な子だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児以外も見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食の準備。	特になし	保育室に入るまでは複数の保育士で確認を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7648	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	26					3	23			2(サッカー教室講師1を除く)		5歳	2.女児	R3.6.15受診開始 R3.7.17受診にて完治	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足くるぶし下じん帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	1.基準以上配置	支援の必要な子どもの補助に担任がついていた。	担任保育士のうちの１名は競技補助ではなく、活動全体を見るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	広場での位置取り範囲が活動に夢中になって狭くなってしまった。	全体を見守る保育士は子どもの動きを見ながら危険を防ぐという事を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	足が痛いと訴えて来たが、冷やして少し休むと「良くなった。サッカーがしたい」と活動にもどった。活動にもどさず、安静にしておけばひどくならなかったかもしれない。	更に痛める場合があるので、必ず安静にさせる。	1.いつもどおりの様子であった	サッカー教室が好きなので朝から楽しみにしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児とは少し離れたところにいる子どもと一緒にボールを蹴ったり走ったりしていた。その際、違うグループの蹴ったボールの方向と重なってしまいボールを追っていた友達とぶつかって転んでしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の所にいた子どもが泣いていたので声をかけていた。	競技に夢中になると、あちらこちらで、小さなトラブルが起こりその都度対応が必要になる。	今後、サッカー教室の際は職員配置を１人増やすようにする。	
7649	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	1	0	2	1	3	2	0	0	4	3	2歳	1.男児	延長保育時間中のため、異年齢合同保育中であった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	1.基準以上配置	予測しがたい案件にも感度が必要	園の事故防止マニュアルによる職員研修、応急手当研修	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	マットの高さ15cm、購入して年　経年劣化などはみられない。マットから降りた先の床材はフローリング。玩具は散乱していなかった。水濡れ等もなし。	段差を降りることができない子どももいるので、異年齢保育である延長保育時間中はマットを撤去する。	3.個人活動中・見守りあり	比較的広いスペースがあるため、動きが活発になりやすい	異年齢保育中の環境設定（コーナー遊びを増やす）	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は同年齢で遊ぶことが多いが、異年齢保育中の室内であったため、いつもより活発に自由遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	異年齢保育中であり、見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見守り	当該児はジャンプはできないため、15cmの段差から片足ずつ降りた。しかし、いつもより慎重さに欠けて上手く降りることが出来なかった。ジャンプが出来ない事からも、段差を降りることが難しい身体能力であった。	保育士がそばにつき見守り声掛けを行う。該当児には少しの段差であっても手を添える。	
7650	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	ロフトの段差を背中にし座っていた為、リスクが高かった	本児の危険予測への意識も考慮しながら、危険性がある場所にいるときは、こまめに声をかけていく必要がある	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)　回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	活動場所や内容、使用する遊具が、年齢や状況に対して不適切なことはなかったと考える	3.個人活動中・見守りあり	特になし	自由あそびの中で保育士が全体を把握することはしていたが、ずっと本児を見続けることは難しく、年齢的には適切な環境づくりだったと考えるが、本児の危険への意識の薄さを考慮して危険に対する声掛けをしていく必要がある	1.いつもどおりの様子であった	変わりない様子だったが、本児の危険に対する意識が普段から少し薄かった	4.対象児の動きを見ていなかった	本児がロフト付近で遊んでいたことは把握していたが、本児とは違う遊びをしていた子どもと関わっていた為、転落した瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的に子どもの様子が落ち着いていた為、他の保育士は保育準備にあたっていた	特になし	本児の危険に対する意識の薄さを考慮し、こまめに声掛けをし伝えていく	
7651	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	24	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	園内を利用するにあたり、気を付けて欲しいポイントの周知が甘かった。	保護者へ引き渡した後の園内外の利用の仕方を再確認する。危険が予測される場所は特に具体的に周知をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	駐輪スペースは、完全にフラットな環境でない為、安定していない。	駐輪スペースは不便である為、予測できる事故や怪我のパターンを伝え、注意を促す。	7.その他	送迎時は自転車を園の敷地内に入れる必要があり、利用する側からは開閉の手間があり、子どもを自転車に乗せたまま門扉の開閉を行う姿が見受けられる。掲示やお便り等で、注意喚起を行っていたが、油断があったと考えられる。	保護者に対して予測できる事故の具体例を挙げながら注意を促し、園内を安全に利用してもらう様にする。自転車の乗り降りのタイミングで危険なポイントを周知する。	1.いつもどおりの様子であった	母親が自転車から離れ、門扉を開けた際、自転車が倒れた。本児は自転車の後部座席に座っていて、倒れた自転車とコンクリートに腕を挟まれた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	玄関内に、送迎に訪れた保護者の受け入れを行う職員が1名いた。事故現場の周辺にいたため、母親から助けを求められ、用務員と共にすぐにそれに応じた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	用務員は事故現場の周辺で園舎周辺を清掃していた。母親から助けを求められ、玄関にいた職員と共にすぐにそれに応じた。	送迎時の余裕の無い時間帯で、保護者の安全に対する意識が薄かった。	お便り、掲示等での注意喚起と共に、懇談会等でも周知し保護者に意識をもってもらう。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7658	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	40	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	５歳児春に自由に使用する遊具としては不適切であった。	鉄棒として特に不具合は無し	1.定期的に実施	実施頻度(５０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50　)回/年	鉄棒下には衝撃を弱めるマットやゴムチップが無かった。	鉄棒を使用する際には外用マットを使用する。	1.集団活動中・見守りあり	該当鉄棒、３台中の１台に保育士が見守っていた。	鉄棒を行う際には必ず職員がついたうえで行うルールとした。	1.いつもどおりの様子であった	自由遊び開始時からすぐに鉄棒で遊び始めた。鉄棒では数人で交代し前回りをしていた。落下した際も前回りをしていた。親指でもしっかりと鉄棒を握っていたが、途中で手を離してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒３台中の１台に担任保育士は見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他遊具（すべり台）付近から全体の見守りをしていた。	本児が前回りがとても上手になり、落下の危険性の予測を誤った。	落下の恐れがある遊具の使い方の再点検と再確認をした。	
7659	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41	0	12	14	0	15	0	0	0	2	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	担任判断で、小さなケガ等でも報告することが欠けていた。	どんなことでも子どものケガについては報告することを確認。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	階段はコンクリート、降りたところはバリアフリーのゴムマット	改善策は無し	1.集団活動中・見守りあり	特になし	あそぶ前にテラスでは遊ばない、飛ばないことを確認する。	1.いつもどおりの様子であった	かくれんぼをしていて、隠れるところを探していた	4.対象児の動きを見ていなかった	かくれんぼのオニになっていたので、見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	おにごっこをしていなかった子を見ていたので、見ていなかった	あそぶ前に子どもたちにテラスには上がらないことを話している	テラスでは遊ばないことを日常も子どもたちに話をしていく	
7660	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	22	0	0	6	6	4	6	0	0	3	3	6歳	1.男児	高さ30ｃｍのうんていの足掛け台から落下	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.基準以上配置	事故当日に事故防止委員会を開催し、事故の起きた原因の究明と再発防止策を立てた。又、散歩先の公園のハザードマップの見直しと遊具で遊ぶことが必要なのか、保育内容の見直しを行った。	遊具がなくても子どもが遊び込める準備と公園を環境と考え、目的やねらいにあった散歩先の選択を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	遊具の点検時異常はなかった。遊具の下は砂に砂利が混ざっているような状態	特になし	1.集団活動中・見守りあり	異年齢での活動であること、対象児以外にも危険予測のしにくい児童がおり、保育者は個々の配置で目を配っていた	気持ちの切りが替えしにくい、気持ちを抑えるのが難しい児童であり、都度安全に遊べるよう配慮はしていたが、気持ちが高揚している時は遊びを止めてでも安全配慮の必要があることを認識、共有する。	1.いつもどおりの様子であった	うんていが得意なこともあり、くり返して行う中では手本を見せようと張り切っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	興奮気味な様子もあり、声を掛け止めようとしていた。又、端的な言葉掛けが伝わりやすい児童という事もあり、声掛けは端的でわかりやすく伝えていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児以外にも配慮の必要な児童がおり、それぞれが分担して目を配っていた為、対象児の動きは見ていなかった。	対象児の様子から必要と感じ、声を掛けていた。	危険を感じるようであれば、遊びを制してでも止めるべきであった。	
7661	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨端線離断	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	2.基準配置	今年度は危機管理に関する研修を行っていたが、幼児クラスは別内容の研修をおこなっていた。	乳児クラスで行った研修内容の掲示はしていたが、実際に幼児クラスも危機管理に関する研修をする時間を設けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	園庭で何かつまずきそうな物が落ちていたのかもしれない。	園庭で遊ぶ際には事前にきちんと担任が危険物が落ちていないか確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	本児曰く、戸外で友だちと一緒に鬼ごっこをしている時に転んでしまった。	転んだ場面が見られたら本児の足を見て様子を見る。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で遊んでいる際は友だちと一緒に砂場で遊ぶ姿があり、特に走ったりしている場面は見られなかった。部屋に入室する時にもいつものように歩いている様子があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に出ていた為、全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	基準配置内の為他職員はいなかった。	特になし	職員がプラスで見守りができる時は、積極的に人をいれ複数の目を増やす。	
7662	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34	0	0	0	0	16	18	0	0	3	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨端線損傷、左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	1.基準以上配置	マニュアルの整備・職員の研修に関しては、適切に行っている。	マニュアルの整備・職員の研修に関しては、適切に行っている。それぞれの改善策については、ミーティングで保育者全員に周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	クライミングの下はマット等無。地面（土）やクライミングは濡れていなかった。	該当遊具の下にマット等、転落した際、大きなケガに繋がらないような備品の設置。備品は、現在業者との調整中。施工が終わるまで、クライミングの使用を中止している。	1.集団活動中・見守りあり	当日、鬼ごっこの際、なぜクライミングに逃げたかは不明。	鬼ごっこをする際は、砂場以外の遊具は使用せず、遊具を使用する際には鬼ごっこはしないように、遊び方を分けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	片付けの時間になったので、該当遊具の近くにはいたものの目線を外してしまった。その為、鬼ごっこをしながらクライミングに上る本児に気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当箇所（砂場・鉄棒）についており、クライミングは見ていなかった。	片付けの時間になったので、該当遊具の近くにはいたものの目線を外してしまった。その為、鬼ごっこをしながらクライミングに上る本児に気付かなかった。	片付けの指示は、砂場等危険の少ない保育士が指示を出すようにし、遊具で遊んでいる児から目線を離さず、全体を見るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7663	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	0	0	11	11	0	0	0	2		5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左前歯（乳歯）骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	４歳児クラスの行動把握と安全な遊ばせ方（園庭の広さや活動人数を踏まえたルール）を保育士が危険予測をして活動する必要があった。	子どもの行動予測（事例）、ヒヤリハットの共有、保育日誌に安全チェック欄を追記して書面の共有を行う。配置基準は満たしており、安全な環境での遊びではあったが今後も同様のけががが起こらないように事例を職員共有して危険予測と再犯防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度（2） 回/月	1.定期的に実施	実施頻度（24） 回/年	1.定期的に実施	実施頻度（2） 回/日	天候は良く土も乾燥していて一部凹凸のある園庭での活動 保育園のリスクマネージメント研修の内容を京急キッズランドマニュアル中の安全な環境を整備していく中で地面の凹凸や土の状態や段差のある場所に注意喚起掲示等）の周知が不足していた。	日々活動前に行っている安全点検を園日誌だけでなく保育日誌に担任が追記し、地面の土の状態や凹凸よって転倒の危険性が無いかを再確認する。 不可抗力による事故を含んだ事故にに対する危険予知、ヒヤリハット等を保育事業部会議にて本部と園長で徹底共有する。	1.集団活動中・見守りあり	園庭で砂場遊び・鉄棒・鬼ごっこと複数の活動が行われていた。 子ども成長過程で活動の規制を回避する為に、年齢ごとの行動予測や安全対策を事故報告の事例を共有して職員会議等で話し合っていく。	複数の活動が行われていたので一つ一つの遊びの安全な環境の確認を他のクラスにいた保育士とも連携を取るべきだった。事故が起きた経緯とけがに至った原因と要因を共有をして再発防止に取り組む。 ＜今後具体的に行うこと＞ ・園庭共有をするクラスや年齢を考えて活動する。 ・複数クラスで園庭活動をする時の内容を見直す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこに参加していたので鬼の動きと逃げることに集中していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	４歳児クラス11名を保育していたが、それぞれが好きな遊びをしている活動時間時間だったため、動きの激しい鬼ごっこを特に至近距離で見守りながら参加していた。安全の為、走らずにスキップの鬼ごっこを提案して遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3歳児１１名と担任1名砂場や鉄棒付近で活動をしていた。	年齢に応じた園児の行動予測や危険予知の情報共有してより徹底して安全対策に努める必要があった。	園庭の広さ動きを園児の年齢ごとに考えて遊び方を工夫したり、危険に対する職員同士の声掛け等、危険防止に努めて保育活動を実施していく。	
7664	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	6	1	1	1	0	2	1	0	0	2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足　人差し指付け根　亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	帰園後、通常時と異なる動きも見られたが、負傷箇所を自ら動かしたり、痛がらなかったので、病院の受診に至らなかった。	職員でマニュアルの再確認。午前中の怪我の赤みが午後になっても引いていない場合は、病院へ受診する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	雲梯の遊具の対象年齢は3-12才で地面は砂地。持ち手部分は劣化によりやや錆つきありだが破損はなかった。	公園の遊具の使い方を職員間で話し合い、共通認識を図る	1.集団活動中・見守りあり	該当児童の体格が重度肥満であり、自身で全体重を支えることが難しかったのではないか。	落下の危険性がある場合、該当児童の体格や様子を見て腰元を支えて行う。	1.いつもどおりの様子であった	本児が雲梯に挑戦したいと訴える	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	高さがあるため本児を抱え雲梯の棒につかまらせる。本児から手を放すが、手の届く距離（30cm程度）で見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢保育だったため、他児と砂場で関わっていた。	保育士の配置は問題なかった。	保育士の配置は問題なかった。今回の事故について職員間で話し合う。	
7665	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	11	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6　)回/年	2.基準配置	危機管理意識の向上	職員間の連携と危機意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度(12　　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	施設設備、備品の見直し	備品の見直しと保育環境の改善点を出し合い共通認識していく	1.集団活動中・見守りあり	声掛けの配慮が足りなかった	声掛けを工夫し、子ども自ら気が付けるような働きかけも考える	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	絵本を見ながら飛び跳ねる動作を楽しんでいる最中、本児と他1名が走り出した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任1名は絵本の読み聞かせ、1名はおむつ交換、2名は子どもたちと絵本を見ながら動きを見守る。走り出した本児を止めようとした際、置き畳につまずき転倒する。止める時、担任の膝の上に一人ほかの子どもが座っており、本児の動きを安全に止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任1名は絵本の読み聞かせ、1名はおむつ交換、1名は他の子どもたちと一緒に飛び跳ねる動作をしていた。	保育士間の声掛けの不足	室内の置き畳を撤去する　室内での静と動の活動の工夫保育士の連携の見直し	
7666	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	6歳	1.男児	保育後、体育クラブで体育指導を受けた後、クラスに戻り通常通り保育をした後の降園となりました。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	今回は園児自身が大丈夫という言葉を信じたため残念な結果になりました。	小さい事故と思わず、その都度病院に連れて行くなど対応することが必要と痛感しました。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	床が柔らかいフローリングのホールで、体育クラブを行った。広くこどもたちの間隔も開けていた	体操クラブ開始前に、安全点検を行い、異常がなかったため、改善点は特になし	3.個人活動中・見守りあり	5歳児10名が座り鬼ごっこをしていた。	丸い柱にも、柔らかいマットをまいたりして対策をしていたので、特に改善なし	1.いつもどおりの様子であった	元気に座り鬼ごっこに参加していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	体育指導をしている指導者、補助者がいたので、見学していたこどもたちの様子を見ながら、指導を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	怪我の無いように見ていたつもりだが、見る位置を改善しました。	床が柔らかいフローリング。5歳児なので、見守りが必要とあまり考えていなかった。	多角面から見守るべきだった。	
7667	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	28	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	5歳	2.女児	日常生活に支障はないが、斜視のため、視点を合わせるために、顔を横に向けたりする姿が見られる。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	急性外傷歯根破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5　)回/年	2.基準配置	保育士の数は、国の配置基準を満たしていた。	子どもの様子を見ながら、歩く速度に配慮し、焦らないで歩けるように声の掛け方に気を付ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	日々、散歩をしている道で起きた。道が狭く、凸凹していた。	狭い道や凸凹道では、より一層、歩く速度に気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	日々、散歩をしている道で慣れているが、転んでしまった。	転んだ際に、手を付くように、日々の保育で伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	道が狭く、対象児の近くを並行していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	２人担任なので、声を掛け合い、散歩をしていた。	手を繋いでいたため、転んだ際に手を付けなかった。	狭い道や凸凹道では、一列になって歩くなど配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7668	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	11	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎前歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(５)回/年	2.基準配置	保育士❶は⑥と⑦の園児、保育士❷は⑨の園児と手繋ぎをしていた。③と⑧の園児は歩行が安定していたので❷の保育士が見守りながら歩行。（様式2-1の活動状況の頭参照）	急遽ミーティングを行ない再度散歩の仕方の確認と怪我させてしまったことの情報の共有	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	平坦なコンクリートの道	歩行の安定しない園児に対して配慮し、歩く順番等にも気をつける	1.集団活動中・見守りあり	歩行が安定しない園児と手つなぎをしなかったこと	急遽ミーティングを行ない再度散歩の仕方の確認と怪我させてしまったことの情報の共有	1.いつもどおりの様子であった	歩行に安定感があるわけではない。でも他児と手を繋いで歩行していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス責任者から「子どもと手を繋いでください」と助言があったにも関わらず手を繋がなかった。危なかったらつなごうと思った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児たちと手を繋いで歩行していた。	保育士と手繋ぎするのを歩行に安定感があまりない本児にしなかったこと、クラス責任者や他の保育士のアドバイスを受け止めなかったこと。	保育に大丈夫はないことを常に頭に入れて保育をすること。今は4月進級したばかり。３月の延長だということを全職員で確認した。	
7669	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	0	0	0	4	3	1	0	0	1	1	3歳	1.男児	日頃は保育士の問いかけには、応じられる事と応じられない事がある。今回は、一階の合同保育への移動のため片付けましょうの声掛けに強く拒む反応となった。	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	本児に片付けを促したことに対して走るという行為が一瞬にして予想できなかった。本児がまだ遊びたいという気持ちに対して気が付いていたが、合同保育に向けての行動を優先してしまった。	日々のヒヤリハット等を通して職員間で話し合い、様々な場面でどの職員も対応できるように努めていく。時間にとらわれることが無いような保育をし、保育士に余剰がある場合には本児の遊びたい気持ちに寄り添っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	廊下は基本的に物を置かない。避難経路確保のためでもある。子どもにとって走りたくなる気持ちを抑えるには難しい状況である。4，5歳児の保育室で活動中、廊下への扉が解放されており、子どもが自由に出入りできる状況であった。(扉を開放してあったのは、感染症対策として風通しを考えていることもあった。)	・子どもの目線に入る場所に「廊下は歩く」ということを促せるイラストの掲示をする。・2階に保育士が一人になる状況が発生する場合には、内線を近くにおいておくようにし、外部との連絡手段を確保する。	1.集団活動中・見守りあり	・本児の遊びたい気持ちを考慮し、4，5歳児保育室と廊下に分かれて保育する状況となった。その際、本児が保育室にいたが、保育室から廊下へ出る扉が解放されていおり、子どもが自由に出入りできる状況であった。	・活動が切り替わるときに安全を確保したうえで次の活動への声掛けをしていく。・保育士が1人で対応している場合は子どもの様子によって活動場所の検討(子どもの活動場所を統一する)、保育士のフォローをお願いする。・いままでは廊下と保育室の2箇所に分かれて保育をしていたが、保育室内で掃除と保育をする場所を分けて対応していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児はやりたい遊び(ままごとコーナー)をしていた。保育者の片付けの声掛けがあったが、まだ遊びたい気持ちから片付けをせずに立ち上がり、室内から廊下へ走って飛び出した。その後転倒した(事故発生)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	廊下を遊び場に指定していたが、本児のままごとコーナーでの遊びたいという思いを察し、そのスペースでの遊びを見守ることにしたので、廊下で遊ぶ子と本児が遊んでいるスペースの間に立ち、遊びを見守った。合同保育に移行する為、全体に声を掛けたが、ままごとコーナーにいた本児は遊びに夢中で反応がなかった。その為、ままごとコーナーに近づき、片付けの声掛けをした。本児が室内から飛び出したため、後を追った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	廊下で2～5歳児が合同保育をしていた。2歳児は3～5歳児より先に玩具を片付けをし、保育者2名先導のもと、合同保育のため1階の保育室に移動した。	2～5歳児で合同保育をしていたが、2歳児と3～5歳児とで片付けのタイミングが異なり、活動が別となった。2階には3～5歳児が遊ぶ場所が2箇所に分かれているにも関わらず、職員が1名という状況になってしまった。他の職員は1階に降りていた為、本児のまだ遊びたいという気持ちに寄り添うことが難しかった。	・保育者が本児に対応できるよう、他の職員にフォローを頼むか、本児としっかり話をする時間を設けて落ち着いてから移動できるようにする等の判断をしていく。	
7670	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	6歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	時間外保育者との引継ぎ時間、戸締り分担の時間であったため職員の目が足りない時間であった。	保育士、交通誘導警備職員とともに保護者へ速やかな降園を促すようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	縁石の高さが低く子どもが登りやすい場所がある。	縁石内側の植え込み部分にプランターを置き張り紙での注意喚起。速やかな降園の声掛けをする	7.その他	降園時だったため、事故現場が保護者や園児で混在していたため、保護者も園児の様子を把握しきれていなかった。	保護者、園児に対して保育士が速やかに降園できるよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	登園から降園まで園児はいつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時門外での出来事であったため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	時間外保育者との引継ぎ時間、戸締り分担の時間だった。	降園時で事故現場が保護者や園児で混在していたため、保育士や駐車場の警備誘導員も状況を把握しきれていなかった。	保護者、園児に対して保育士が速やかに降園できるよう促す。	
7671	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29	0	0	0	12		17	0	0	5	5	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	園庭から担任が離れるときに、配慮が必要な児Ａのことを伝えて離れるべきだった。	その場を離れる際は、必要なことをしっかり伝えてから離れるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(30)回/年	簡易滑り台（移動式）が子どもでも移動しやすいものであること、大きな力がかかれば倒れる可能性があることが要因と考えられる。	すべり台は倒れないように固定をした。すべり台の使い方、危険性について再度保育士間、子どもたちにも知らせ、危険のないよう注意していく。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が遊んでいる状況を見守っていた。配慮の必要な児Ａを含め、楽しそうな雰囲気だったことから、場を離れる際、児Aのことを伝えずに離れてしまった。	どんな状況であれ、目を離さないように担任、保育士間で声をかけあっていく。	1.いつもどおりの様子であった	配慮が必要な児Ａを対象児とする。思い通りにならないと癇癪を起こしたり、怒った気持ちを相手を叩くなどで表現することがあるが、この日は落ち着いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	転んでケガをした児がいたため、手当のためにその場を離れた。園庭には早番保育士がいたため、「離れます」と声をかけたが、具体的に「配慮が必要な児Ａを視野に入れておいてください。」と伝えるべきだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と落ち葉を集める作業を行っていた。具体的な配慮を聞いていなかったため、視野に入れてなかったと考えられる。	遅れて登所してきた児、保護者の対応のため、園庭から離れていた担任もいた。園庭から担任が離れ、配慮が必要な児Ａに対する配慮がない状況になってしまったことが要因の一つでもあると考えられる。	担任が常についていられない状況はあるため、その際の声かけをしっかりとその場の保育士に声をかけられるように注意していく。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7677	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	0	0	0	0	9	11	0	0	2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕通顆骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	個々の興味や発達状況を把握する。	遊びがエスカレートしていたら声掛けが必要。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	乳児向けのプラスチック製の低い滑り台からの飛び降り事故。飛び降りを２名で始めた。	乳児向け遊具で遊びがエスカレート。このぐらいは大丈夫との過信があったのではないか。早めの声掛けをする。	3.個人活動中・見守りあり	本来滑り台は滑るもの。遊び方の注意が必要。	遊びのルールを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段は静的な遊びが多い。主に室内では女子とお人形遊びをすることが好き。戸外では気の合った男児と同じ遊びをしている。活発に動く男児に「面白いこと考えた」と言われ、飛び降りの遊びをする。交互に繰り返す。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れたところから様子を見ていた。見ていた子どもがそばに駆け寄り、「落ちた」と知らせに来た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	４歳児担当で少し離れたところから見ていた。	本児の行動はいつも以上のことをしていたため、そばに行き対応をすることが必要だった。	個々の行動をしっかりとみる。遊びのルールを知らせる。	
7678	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	0	0	0	8	8	10	0	0	3	3	6歳	1.男児	いつものように３・４・５歳児合同で夕方の園庭遊びをしている途中だった	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	担任はお迎えの保護者に対応をしており、子どもの遊びの動きの変わったこと（ボール遊びからかくれんぼ）に気付かず他の保育者にゆだねてしまった。	夕方の保育については担任同士で連携しておこない、起こるであろう事故を予測して配慮していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	タイヤは子どもが主体的に遊べるように置いてあり、使用していないときには登らないように教育しているが今回は遊びの延長として咄嗟に登ってしまった。	子どもの動きをよく観察していて、約束が守れていないときや危険が想定される場合の子どもへの声掛けや寄り添い方を話し合い共有する。	1.集団活動中・見守りあり	日頃の子どもたちの動きや興味関心などを保育士間で共有をしておく必要があった。	その時間帯は保護者対応に追われる時間なので、合同保育中の遊び方を考え、遊具の使い方、設置の仕方を再度確認していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夕方のボールあて鬼ごっこからかくれんぼに変更してさらにエスカレートして遊んでいたように思われる。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	夕方の合同保育であり、担任は他の保護者の対応を行っていてその場から離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任がその場から離れた時の子どもの遊びの変化に気付かず、他の保育者との連携が行えてなかった。子どもの動きは他の子どもとのかかわりをしていてちょうどそのときは見ていなかった。	日頃の子どもたちの動きや興味関心などを保育士間で共有をしておく必要があった。保育士の立ち位置について一瞬死角になっていた。	毎日のミーテングで子どもの様子を伝えあい合同で保育するときの配慮点を明確にしておくようにする。	
7679	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	7	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯根出血（上左１番）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	玩具の提供の仕方の知識不足 職員間の連携不足	保育士の立ち位置の検討 子どもの成長、発達の特徴、玩具、遊びの環境作りの見直し	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	室内遊びの環境設定の誤り、知識不足	絵本棚を玩具の棚から離して配置する（事故発生日は隣に配置）	1.集団活動中・見守りあり	玩具の提供の仕方、環境設定、保育士の立ち位置	絵本の使用時は子どもの成長、発達を考えて机上にする	1.いつもどおりの様子であった	室内で過ごし、対象児は絵本を見る。 ブロックがしたくなり、絵本を方付ける為立ち上がる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	絵本を見ている子の側に1名 色水ペットボトル、ブロックで遊んでいる子の側に１名	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	0.1歳児クラスの担任４名は各クラスの保育を継続 対象児に担任1名がついている間、フリー保育士が１名２歳児クラスに入る	戸外とは異なり室内で過ごしていた為、子どもの動きに対しての意識が薄かった	どのような場面でも緊張感をもって、子どもの動きに注意を払う。また、見通しをもって保育（設定保育）にあたる	
7680	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19	0	0	0	4	4	11	0	0	2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	当法人の保育運営マニュアルには、『遊具使用の際に配置しなければならない保育士の人数』にあわせて、その日に使用する遊具を決めるとなっているが、遊具の対象年齢確認を失念したことに加え、事故のあった遊具の使用に不安がありながらも実行してしまった。	当法人の保育運営マニュアルを再確認すると共に、徹底を行う。 園長・主任が散歩同行を更に増やし、職員の配置が適切か確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	事故のあった遊具の対象年齢が6～12歳。事故が起きた遊具（可動式雲梯）で遊んでいた3名（当該園児含む）は、6歳または5歳。対象年齢に達していない子もいた。子どもを常に補助ができる距離に職員を配置するべきだった。ただし、事故のあった遊具は、補助の職員を配置しても危険を防ぐことが難しいことが予想される。	ハザードマップに遊具の対象年齢を記載し、全職員に周知し、ハザードマップの確認を行う。園外保育リーダーが遊具の対象年齢を都度目視確認する。本事故があった遊具は今年度は使用しない。来年度は、子どもたちの身体発達に応じて使用するかを検討する。使用する際には、１対１で関われるように職員を配置する。１対１での配置ができない場合は使用しない。	1.集団活動中・見守りあり	場所を移動する際に、総合確認をしていなかった。子どもが挑戦したいという気持ちと当該児童の身体発達が見合っていなかった。	活動の最中であっても子どもの動きが変わる際には職員同士の声かけを徹底する。散歩や戸外活動に園長・主任が同行し、職員同士の声かけの有無を確認する。 子どもたちの身体発達を園全体で見直す。	1.いつもどおりの様子であった	友達の影響で挑戦しようとする姿はいつもどおりであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童が挑戦する姿を近くで見守っていた。挑戦させて大丈夫か不安だったが、当該児童の気持ちを尊重した。落ちた際に抱えられる距離（雲梯横）で見守っていたが、落下する瞬間のみ他児に手を引かれ、1m程度雲梯から離れてしまった。目視は出来ており落下の瞬間も見ている。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該園児の様子、周囲の他児や担当職員の動きは把握していたが、落下する瞬間を目視することはできていない。	当該園児の身体発達について、問題ないだろうという過信があった。職員が不安な状態でも続けさせてしまった。	挑戦する気持ちを尊重するのは、事故のあった遊具でなくても養えることから、事故のあった遊具は今年度使用をしない。	
7681	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22	0	10	12	0	0	0	0	0	6	6	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ関節部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	その時その時に発生したヒヤリハットの研修はできるが過去に発生したヒヤリハットなどが伝達されづらい。	安全チェックシートだけでなくマニュアル、玩具・遊具の点検票の作成	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	園庭が凸凹している箇所があり、修繕を素早く行う。	園庭の構造をよく知る。修繕が必要なところは避け、素早く修繕を行う。	3.個人活動中・見守りあり	傾斜のある園庭だった為滑りやすかった。	滑りやすいところでは抱っこをせず手を繋ぐなどをして対応をするべきであった。どのようなところにどのような危険があるのか把握しておく。	1.いつもどおりの様子であった	健康面では良好で部屋に戻ることを嫌がっていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	部屋に戻るのを嫌がって逃げている本児に職員が抱っこで対応していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の園児の遊びを見守ったり、部屋へ戻るよう促していた。	嫌がっている時は無理に部屋へ連れていかず本児の気が向くまで待ってもよかった。	片付けや移動の際は子どもたちの行動もいろいろな場所へ散らばるため広い視野であらゆる場所を見ていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7682	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	0	0	0	2	3	1	0	0	2	2	4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	顎の内出血と左下犬歯上部の欠け歯のエナメル質の欠け	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	事故予防に関する研修は行っているが、園として危ない箇所のチェックや子どもの予想される危険行動の分析等をしていなかった。	園内のヒヤリハット地図を作成し危険個所を職員で共有し改善していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	保育室内の机やロッカーの配置（子どもが走ってしまう環境）	部屋の出入り口までの動線に,机や視野を妨げる壁があったので、部屋を区切ったり机を配置して走らない環境に変更する。	3.個人活動中・見守りあり	他児が降園するのを見送ろうとして、出入り口まで走っていったことが原因である。	室内では走らないよう注意喚起を徹底する。走っている子どもにはその都度声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	夕方の降園までの自由遊びの時間は、いつも他児と一緒に、おままごとやブロックをして遊んで過ごす。怪我当日もいつもと変りなくおままごとをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	壁側のロッカー前付近で、机上あそびをしている子ども達の見守りをしていて、対象児の動きは把握していなかった。	1.対象者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児が降園するとき、いつも対象児がお見送りに来るので、対象児がおままごとコーナーから来るのを出入り口から見守っていた。	二人の職員の立ち位置や把握する子どもの担当を決めていなかった。	夕方の自由遊びの時間は、職員が一人降園対応をするので、もう一人の職員が立ち位置を考えて全体をみるようにする。	
7683	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾中骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	部屋遊び中の職員の配置場所にも気を付ける。	マニュアルを読み把握しておく	1.定期的に実施	実施頻度(1) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(20)回/月	日々の安全点検実施を職員間で共有し、事故に繋がらないようにする。	点検時だけでなく、常に安全点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	全体が落ち着いて過ごしている状態だったので怪我が起こると思っていなかった。	危なくなるようなことはないか気にかけ、見守る	1.いつもどおりの様子であった	周りの事が気になっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見ていたが、ケガを止められなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児を見ていた	まさか怪我をするとは思わなかった。危険予測ができていなかった。	子どもの特性を理解し、危なくないよう声掛けし、見守るようにする	
7684	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35	0	0	10	10	8	7	0	0	6	5	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨･尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	異年齢での保育中は、年齢の小さい子どもに手を取られがちになるので、職員間でしっかりと声を掛け合い連携する配慮が不足していた。	職員同士で、危険個所や、園庭での職員配置など、事故防止のヒヤリハットや事例を参考にしながら、再確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度（毎)回/年	遊具で遊ぶ際は、正しい使い方をしていても、常に事故が起きることを想定する。	遊具の使い方、遊び方なども職員同士で共有すると同時に、子どもたちにもわかりやすく発信していく。	1.集団活動中・見守りあり	年度替わりで、子どもたちの気落ちも高揚していることなどを十分に配慮する。	子ども一人ひとりの動きや予想される行動を、職員間で共有しながら、遊びを見守り、事故を未然に防ぐようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りをしていたが、転倒することを予測できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の固定遊具で遊ぶ子どもの見守りをしていた。	毎日使用している遊具であったが、慣れから生じてしまった結果であったことも考えられる。また、そのことを職員も見逃してしまった。	園庭遊びでは、行動範囲も広いので、職員同士の連携と、全体をよく見て、子どもの動きを把握することを徹底する。	
7685	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	0	0	0	0	10	10	0	0	2	2	5歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	マニュアルの読み合わせ、事例について読み返しを行っているため、考えられる要因はなし。	継続してマニュアルの読み合わせ、系列園でアクシデントが起こった時等事例の読み合わせは今後も継続して続けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	園庭遊具や玩具について毎朝チェックリストをもとに確認をしているため、その他の要因は特になし。	園庭遊具や玩具について、毎朝確認をチェックリストをもとに行っているため、今後も継続して行く。	1.集団活動中・見守りあり	園庭でボール遊び・鬼ごっこと注意する必要がある活動が重なっていたため対人数+１の配置を行っていたが、活動に対しては不足していた。	複数の活動を行う際には、対人数+１で配置を行っているが、場合によっては活動を選定するか更に活動時に人を補充する。	1.いつもどおりの様子であった	追いかけっこを行っていたため、鬼を気にしていてあちこち余所見をしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場付近で遊ぶ子ども達と遊んでいた。他職員から入室について声を掛けられたが、自身の持ち場は離れていないため、該当児が園庭右側にて転倒する姿は見えていたが手が届く位置ではない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭中央にて、サッカーをするグループと鬼ごっこをするグループを見守っていた。入室の流れについて担当職員と話を行うため、持ち場を離れ、職員がいる砂場の方へ移動した。（職員同士の距離は1ｍ程）	事故発生時、職員同士が次の流れについて話し合いを行っていた。	子どもの動きの流れについて、子どもの活動中に話し合うのではなく、活動が始まる前に決めておき、活動中は子どもの近くで見守りを行う。	
7686	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27	0	0	0	9	10	8	0	0	3	3	3歳	1.男児	普段から3～5歳児ｸﾗｽで戸外遊びをしている。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	保育士が１人、５歳児と水やりをしていて園庭は３～４歳児と保育士２人がいた。1人は全体を見ていて、１人は一緒に遊んでいたので転倒を防げなかった	園庭にある固いものは埋めるかなくすかその付近で遊ばせないかする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/月	点検はしているものの転倒する場所を特定して点検はしない	点検をしている際にもここで転倒したらと考えるように点検する	1.集団活動中・見守りあり	３歳児から５歳児の保育中でほぼ自由に園児だけで遊べるようしている	サッカーをする場所や自転車を乗る場所を決めていく	1.いつもどおりの様子であった	他児より活発で動きが多い	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児と花に水を上げていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１人は全体を見ていて1人は園児と一緒に遊んでいた	異年齢児保育を行っているが水あげは担当保育士がするべきだった	普段から動きが多いため、担当保育士がより注意深く見る。遊ぶ場所を決めて安全に遊べられるようにする。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項
7687	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	3. 2歳児クラス	25	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5	3歳	2. 女児	
7688	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	9	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	3歳	1. 男児	特に無し
7689	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	15	5	10	0	0	0	0	0	0	5	4	2歳	2. 女児	水遊び前の準備で1歳児保育室で0歳児ｸﾗｽと合同で体操を行っていた。
7690	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	104			18	26	29	31			11	11	3歳	2. 女児	身長、体重など発達は良好。持病なし。当日の天気は晴れてよい気候だった。

No	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
7687	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	剥離骨折、打撲、切り傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2. 基準配置	進級に向けて大きくなった自信と探求心から大きな石を持ってみたのだと思う。	子どものやってみたいと気持ちを受け入れ「一緒にやろうね」と促す。
7688	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第一趾中足骨基部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	全体を見渡せる所に保育士等が配置しており、配置人数等においては特に問題はなかった。	明明後日、園長、総主任、主任のミーティングにて事故について共有し、直後に主任が各クラスへ報告伝達し注意喚起した。同日、リーダー会議にて詳細を伝達共有後、事故検証を園長、総主任、主任、看護師、担任とで行い、その内容を職員に紙面にて周知徹底した。●日乳児会議にて、事故の詳細やその後の本児への対応などを伝達共有し、乳児全体での協力体制を整えることが出来た。また、改善策を具体的に伝えた事で、乳児全体で再発防止策を共有することが出来た。●日の職員会議にて、再度園全体への周知を行った。
7689	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創･裂傷等)	2. 顔面(口腔内含む)	顔面挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置	なし	職員配置は問題なく、事故予防についての認識もあったが、さらに認識を強く持ち、理解を深めるために「事故防止と事故対応」資料、または過去の事例を参考に園内研修を行っていく。
7690	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	腕骨遠位端骨折(左)	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	見守りの保育士を多く配置する。	戸外に出た場合に、連携を取り全体の子どもの把握に努める。

No	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7687	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	大きくなった喜びと自信と探求心からの行動、実際に砂場の中では上手く歩けなかった。	公園内の安全点検。危険物を撤去できない時は子ども達に伝え、保育士がその場所に立ち子ども達から目を離さない。	1. 集団活動中・見守りあり	砂場が柔らかだったか、本児の歩き方が不安定だった。	危険物の撤去。	1. いつもどおりの様子であった	探求心たっぷりで活動的であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が砂場で遊んでいたので様子を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園の固定遊具や他児を見ていた。	本児が大きくなった喜びと自信と探求心から行動をとったのだが、砂場の中では上手く歩けず石を手から離すことができなかった。	危険と思われる場に留まり、声がけをする。	
7688	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	施設、設備の状況としては、破損個所は見られず特に問題はなかった。	引き続き、遊ぶ前に点検を行い安全対策に努めていく。	6. 食事(おやつ)中	対象児は、一番になる事に対して嬉しいという気持ちの高ぶりがあった為、小走りになったのではないかと推測される。	日頃より室内ではゆっくり歩く事を伝えている為、継続した声掛けを行っていく。また、広いスペースがある事により走りやすい状況を防ぐ為、①子どもの動きに合わせて職員を配置し落ち着いて過ごす事が出来るような時間を作る。②レジャーシートを使ってピクニックを想定した保育などいつもと違う環境設定をした際には、保育室の半面にテーブルを配置するなどして気持ちの昂りを抑えるような工夫をしていく。	1. いつもどおりの様子であった	受け入れの際の視診や保護者からの引継ぎにおいて、特に健康面および精神面で変わった点は見られなかった。活動中も変化は見られず、落ち着いて過ごしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	3名の内の1名の職員は、他の子どもの検温を行っていた為、少し離れた所から全体を見守っていた。もう1名は、手や口拭きの援助を行いながら、対象児が見える位置に立ち全体に目を配っていた。また、もう1名は、床のモップ掛けを行いながら、子ども達の様子に気を配っていた。職員間で声を掛け合い、子ども達の流れに合わせた対応を行おうとしていた矢先であった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員3名は対象児に対して上記の通りの立ち位置で対象児の動きや全体を見守っていた。付近には実習生が1名おり、おやつの介助をしていた。	当時の状況において保育士等は全体の見渡せる位置に配置はしていたが、検温や拭き掃除など他の業務も同時に行っていた。	落ち着いておやつを食べていた事によって、そのような業務も並行して行っていたが、おやつを食べ終わった子どもが移動した際には子どもの動きに合わせ職員を１名配置する。検温はおやつの摂取時間と同時進行で行う事がないようにし、拭き掃除については職員の人数に応じて行う。	
7689	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	体操をしている場所の広さは問題なく、つまづきそうな物や遊具の散乱等もなかった。ぶつかった建付けのロッカーは角は丸かったが、転んだ際の勢いがありロッカーへの衝撃も大きくなった。	転んだ際など、ロッカーに直接ぶつからないように段ボールの仕切り等を利用してカバーする。	1. 集団活動中・見守りあり	A→見学予定の子どもと水遊びを行う子どもと分かれる時間に考慮が必要であった。B→0歳児が一緒に体操に参加したが年齢差で動きも違うため一緒に行う活動には適さなかった。C→0歳児が睡眠をとるには適さない空間だった。D→体操に飽きる子どももおり、水遊び前の体操としての時間が長かった。	A→見学予定の子どもが少ない場合は水遊びを始める時に別空間に移動する。また見学予定の子どもが多い場合には体操前に別部屋に移動する等、それぞれの活動を落ち着いて行える空間を作る。B・C→0歳児は発達や行動・動きが1歳児と違うため、体操などで個別に見守ることが難しい時は合同の活動はしない。D→水遊び前の準備体操の必要性を考え、最低限の体操にするなど子どもが飽きない活動を取り入れていく。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	今年度初めて水遊びが「可」になり、体操開始前から喜んで気持ちが高ぶっている様子が伺えていた。体操中、普段よりも動きが大きく、小走りやジャンプも多かった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	0，1歳児10名を囲むようにしてスタッフが配置されていたが、担当保育士は子ども全体が見える位置にいたため、すぐに対象児の動きを止められる位置にはいなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当1名は子どもの動きが大きくなっていたため、他児の対応をしており、全員を見守る状況ではなかった。0歳児担任は子どもを抱っこしながらの見守りであったため、転んだ瞬間に手を差し伸べることが出来なかった。	A子どもが飽き始めている様子を感じていたが、「この曲が終わるまで」という気持ちで体操を続けていた。B子どもを抱っこしながらの見守りではいざという時の保育士動きが十分ではなかった。	A→子どもの様子や状況を考えて、体操を中断する、子どもが落ち着ける活動にするなどの判断を行う。B→抱っこが必要な状況の子どもがいる場合は活動を分ける。	
7690	1. 定期的に実施	実施頻度(２４７)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	子どもの数に対して園庭が狭い。砂場が２つあり活動が制限される	子どもたちが、遊びやすい空間と動線を考え遊具を配置する。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもの数が多かったため、遊んでいる様子の全体把握が難しかった。	ダイナミックな遊びをするときは、年齢により遊びの時間をずらすようにする。	1. いつもどおりの様子であった	いつもの様子であったが、前方に気を取られ、足元に注意がなかった	4. 対象児の動きを見ていなかった	クラス園児の排泄介助についていたため。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	戸外で子どもと過ごしていた	他児も本児もお互いに動きが視界に入っておらず、他児の手押し車につまずいた。	全職員が、きめ細やかな情報交換をすることで、共通理解をはかり保育に当たるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7691	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	19									5	5	1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯の陥入	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度3～5回/年	1.基準以上配置		全職員で共有している事故予防マニュアルを改めて見直し、保育の安全管理に対する意識を高める。職員一人ひとりが事故防止チェックリストを活用し、適切な対応が出来るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(280)回/年	平均台が木製で、安定感がある分、堅い素材であった。	平均台の角に衝撃緩和のクッション材を貼る。	1.集団活動中・見守りあり		平均台が現時点での一人ひとりの子どもの月齢や発達段階に合っているか見極める。1つの遊びに保育士の見守りの範囲を超えて子どもが集中しないよう、他のコーナーももっと子どもが興味を持てるよう充実させる。	1.いつもどおりの様子であった	平均台を、保育士と片手をつないでいる状態で渡っていたところ、あと少しで渡り終わるところに来てバランスを崩し、保育士の手を持ったまま体をひねるように反転して落ち、平均台の端に右の前歯をぶつける。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	平均台を渡る対象児と他児の手を片手ずつつなぎ、ついて前へ進んでいた。対象児が渡り終わる寸前に手をつないだままバランスを崩した際、何とか立て直そうとしたが、対象児は平均台の端に右の前歯をぶつけてしまう。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1歳児クラス室内には4名、屋外に1名の保育士がいた。平均台には、対象児と他児の手をつないでいた保育士の後ろから、もう1名保育士が他児2名の手をつないだ状態でついてきていた。あとの保育士はマット山に1名、ミニカーに1名ついていた。屋外の保育士は戸外遊びの片付けをしていた。	保育士が対象児と他児の手を片手ずつつないでいたことで、対象児がバランスを崩した時にフォローしきれなかった。	対象児は新入園児で、平均台に慣れていなかった。平均台を渡るにあたっては、子ども1人に保育士が1人手をつなぎ、ゆとりを持ってつく。	
7692	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				8	15	17			2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		子どもの動きを先読みし、予測して行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		壊れている等が要因でなかったので改善策としては特になし。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの色々な行動を予測し、子どもの様子に一層の注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び中、ステージへ向かって走っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児から至近で対象児をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児のみではなく全体を見ていた。		子どものいろんな行動を予測して保育士が子どもの姿をしっかりと把握する。	
7693	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				10	19				3	3	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	特になし	活動の為の準備中であっても子どもたちの様子を注意して見守る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(56)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	室内設備から離れた場所だったので改善策としては特になし	1.集団活動中・見守りあり	離席していた	活動の為の準備中であっても子どもたちの様子を注意して見守る	1.いつもどおりの様子であった	離席していた	4.対象児の動きを見ていなかった	次の活動の机を片付け・掃除	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの保育中	特になし	活動の準備に1人と見守りに1人の配置	
7694	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20									2	2	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	頭部打撲傷・顔面裂創	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		事故報告書にて職員に周知し、全体把握を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		再度遊具等に不備・破損等、ないかの点検をする。	1.集団活動中・見守りあり		職員の配置を直し全体が把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達とゲーム（追いかけっこ）をしており前を向いておらず遊具にぶつかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた為、動きを見る事が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児のみではなく全体を見ていた。		職員の配置を直し全体が把握できるようにする。	
7695	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	急性単純性歯髄炎・外傷性歯の打撲	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		今後も、園内研修等を開き、改善点があればその都度マニュアルを見直していくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		日頃から危険な箇所がないかを点検時以外にも意識をして確認し、危険個所が見つかった場合には、報告・改善するようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	本児の椅子の両側に園児が居たため、おもわず後方より座ろうとした。	生活や遊びのﾏﾅｰを身につけ、危険な行動をしないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児をみていた				椅子の座り方を再度クラスで確認しあい、危険な行動をしないようその都度声掛けをしていく。	
7696	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	創傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		今一度、研修等で職員間で周知し、危険個所を把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回は壊れている等はなかったが、低い段差でも怪我につながる事を認識し、今後気をつけていくよう心掛ける。	1.集団活動中・見守りあり		全体把握に努める。	1.いつもどおりの様子であった	ホールの階段をのぼっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため見ていなかった。		他児の対応をしながらも全体を把握できるようにしていく。	
7697	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									4	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右目瞼切創・皮脂欠乏性湿疹・細菌性結膜炎・擦過創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（２～３）回/年	1.基準以上配置	特になし	特に活動が切り替わる時は、子どもの動きを先読みし予測して行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	ロッカーのふちにぶつかり防止クッションをつけた	3.個人活動中・見守りあり	特になし	遊びから片付けなど、活動が切り替わるときは、特に気を配り子どもの動きを見守る	1.いつもどおりの様子であった	ままごと遊びを終え、玩具のを片付けを行っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具の片づけをしていたため、つまずいて倒れた時に間に合わず危険回避が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具を片付けたり、トイレ介助を行っていたため動きを見ていなかった。	特になし	遊びから片付けなど、活動が切り替わるときは、特に気を配り子どもの動きを見守り、職員の立ち位置等を見直す。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7698	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				13	10	14	0		2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折、右有頭骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	鬼ごっこにて総合遊具を利用した。	総合遊具の遊び方を、こどもと共に再度確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	劣化や破損だけでなく、滑りやすさ等の確認も行い、情報を共有する。	点検内容以外の部分も目視だけでなく、手足で触れて確認する。	1.集団活動中・見守りあり	天候等の遊具への影響も把握する。	定期以外で、天候不良後等も点検を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で、他の園児と総合遊具で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをしていることは把握していたが、園庭内の他の園児の対応をしていたので、事故発生時の様子は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の動きは把握していたが、園庭内の他の遊具にて園児の対応をしていたので、事故発生時の姿は見ていなかった。	可能な限り、配置基準以上の状況に応じた職員配置に努める。	個々の特性に応じた配置の確認を再度行う。	
7699	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73		10		17	22	24			7	6	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		保育士が子どもの様子をしっかりと把握するように再度、確認する。また、鉄棒などでは保育士が側にいない時は遊ばないように子ども達に知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(25)回/年		遊具などの点検、また遊具で遊んでいる様子が見えにくくないか等気をつける。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの色々な行動を予測し、子どもの様子に一層の注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りで好きな遊具であそんでいた。この時は5才児の兄のあとをついていっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達の方の様子をみていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子どもを中心に見ていた。		子どものいろんな行動を予測して保育士が子どもの姿をしっかりと把握する。	
7700	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									2	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		対象遊具の最上部横棒にはぶら下がらない事のルールを決め園児・保育士への周知、確認の徹底	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		最上部にはぶら下がらないように指導	1.集団活動中・見守りあり		子どもの色々な行動を予測し、子どもの様子に一層の注意をする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	オリンピックの鉄棒競技をみて真似をした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象者をみていたが、一瞬目が離れていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	うんていで遊んでいた園児は1人で、他の園児を見ていた。		撤去も考えたが、上り棒遊具は子供の体発達に効果があるので、遊ぶ際のルールの徹底及び見守りの徹底を指示する	
7701	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11				3	6	2			2	2	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘部骨折疑い右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	なし	転倒やケガについて起こりやすい場所、時間帯の把握	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	なし	環境での危険個所を再度チェックする	3.個人活動中・見守りあり	なし	子ども達にも行動面において危険が少なくなるよう伝えていく	1.いつもどおりの様子であった	砂場で遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭内で他の子と関わりながら見守りを行っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	仕事分担の為、他児の入室の声掛けをしていた	なし	人員を増やす、急がず行動出来る時間配分を心がける	
7702	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									4	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右目瞼切創・皮脂欠乏性湿疹・細菌性結膜炎・擦過創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	1.基準以上配置	特になし	特に活動が切り替わる時は、子どもの動きを先読みし予測して行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	ロッカーのふちにぶつかり防止クッションをつけた	3.個人活動中・見守りあり	特になし	遊びから片付けなど、活動が切り替わるときは、特に気を配り子どもの動きを見守る	1.いつもどおりの様子であった	ままごと遊びを終え、玩具のを片付けを行っていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具の片づけをしていたため、つまずいて倒れた時に間に合わず危険回避が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に玩具を片付けたり、トイレ介助を行っていたため動きを見ていなかった。	特になし	遊びから片付けなど、活動が切り替わるときは、特に気を配り子どもの動きを見守り、職員の立ち位置等を見直す。	
7703	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	14									7	7	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	トンネルがつぶれやすい状態であった。	補強予定であった。補強するまで外しておくなどの対処をするべきであった。	3.個人活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	・普段から気に入った場所であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・トンネルの側に居たが、走ってきた子に気付かず対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・それぞれ近くにいた子どもに対応していた。	走っていた子どもがトンネルにぶつかると思わなかった。	子どもの性格等把握したうえで行動を予測し保育をする必要がある。	
7704	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	2	2	5						3	3	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	マニュアルや研修について職員と共通理解を図る。	マニュアルや研修について職員と共通理解を図り、日々意識しながら保育する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	怪我をした時の応急処置についてマニュアルを参考にした。	安全な環境構成の工夫。	1.集団活動中・見守りあり	本児がワイドパンツの裾につまずいて転んだ。両手に玩具を持っていた。	子どもが動きにくい服を着ていた場合は着替える。両手に玩具を持っていた場合、声かけをし、危険のないように見守る	1.いつもどおりの様子であった	興味、関心のあるままごと遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人一人の姿をよく見ていたが他児を抱っこしていて転んだ時にすぐ防ぐことができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	０歳児、１歳児との混合保育をしていたことと、他児を抱っこしていてすぐに防ぐことができなかった。	混合保育なので、低年齢に意識が向いてしまった。	子どもの動きをよく見て、連携を深める。	
7705	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				5	13	7			4	4	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	片付けに気を取られて、目くばりが足りなかった	片付け時の保育者の位置配慮の確認	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	落下した箇所にはマットを敷いていなかった	危険と思われる場所にはマット等敷くようにする	1.集団活動中・見守りあり	異年齢合同で片づけや手のかかる子に目が行っていた	遊戯室では常に子どもの動きに対応できるようにする	1.いつもどおりの様子であった	片付けと聞き急いで大型ブロックから跳び下りようとした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	片付けを子ども達に呼びかけながら、目を向けてたが、離れていたため間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ保護者の周辺の子ども達と一緒に片付けをしていて全体には目を向けていなかった	片付けの時間になり保育者も大型ブロックから離れてしまった	片付けの時間は大型ブロックに乗らない事を約束し、子どもがいなくなるまで側につくようにする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7706	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	14					8	6			2	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	遊具に立ち上がらない約束を常にしており、遊び慣れている遊具だったため、このような怪我や事故につながることを予測していなかった。	子どもの発達や遊び方について職員間でしっかり把握し、常に怪我や事故につながることを想定して職員の立ち位置や環境を整えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(100)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(100)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	遊具は点検、修繕済みで安全だったが、遊び方の把握ができていなかった。	普段遊び慣れている場所でも大きな事故につながる可能性があることを常に意識して保育する。	1.集団活動中・見守りあり	靴を履き替えてから再び園庭で遊ぼうとして、一番になろうと急いで駆け出し、遊具に向かった。一番になった気持ちの高ぶりが遊具に立ちあがる行為になってしまった。	日々の活動の中で行動を予測して、遊び方について子ども達に事前に知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	午後のおやつ後、野菜や花の水やりをした後、運動靴に履き替えてから、再び園庭に出た。一番先に動物の遊具に行こうとして急いでしまう。遊具にまたがって遊んでいたが、気持ちの高ぶりから、普段は立ち上がったりしない遊具に立ち上がってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者1は玄関先で水やりのジョーロを片づけたり、運動靴に履き替える子どもに付き添っていた。対象児が走って遊具に向かっていく姿を見て、声をかけていたが、遊具に立ち上がり転落する瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育者２は、先に園庭に出ていた子ども（４人）についていた。対象児の近くにいたが、他の遊具で遊ぶ子どもに声をかけていて、遊具上に立ち上がり、転落した瞬間は見ていなかったが、地面に転んで泣いているのに気づき、園庭に他の子ども達と来た保育者１に知らせた。	職員配置は十分であったが、予測できなかった。	活動前に心の余裕を持たせるためにも、一旦子ども達を集めて約束事項を確認する。	
7707	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23					10	13			4	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左環指基節骨々折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		子どもたち一人一人の活動を、今まで以上に責任を持って見守っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		十分な広さの活動スペースを確保する。	1.集団活動中・見守りあり		戦いごっこをしている時は目を離さず、危険な場面を想定して早めに声がけをする。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで同年齢の女児と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ホールで別の遊びをしていた子どもたちをみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	女児を抱っこしながら、対象児が５歳児男児と戦いごっこをしているところを見ていた。一緒に遊んでいた女児が、対象児と男児とのトラブルを伝えに来た。		土曜日の保育は、平常保育と異なる人員配置となるため、子どもの情報提供をより密にする。	
7708	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	30									4	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	安全委員会で園外の危険について確認していたがマニュアル化していない。	園外マニュアルを追加する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	足場の悪い場所でかけっこをした。	足場の悪い場所ではかけっこしないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	園庭ではなく公園の野原（砂地）でのかけっこのため走りにくかった。	運動会練習は園庭で行うようにした。	1.いつもどおりの様子であった	応援されたことで、頑張ろうという気持ちになったと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	かけっこの練習中でスタート地点でスタートの合図を出し、走っている姿を応援していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ゴールした子どもや、スタート地点にいた子どもと一緒に応援していた。		園児の動きに注視し、ケガをした場合は適切に対応できるようにする。	
7709	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	新入園児であり、まだ遊具の使い方に慣れていなかったかと思われる。また、見ていた保育士の立ち位置が適切であったかということもある。	保育士は全体が見渡せる位置にいるよう連携を取りながら見守ること、また、遊具の使い方の確認を子どもたちとしたいと思います。	1.集団活動中・見守りあり	入園して以来の動きを考えると、活発なので担任が、見守りの保育士に特に注意してみてもらうよう声をかけていたらよかった。	見守りの保育士の立ち位置・目線を考える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	新入児であり、まだ遊具の使い方に慣れていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は職員朝礼に出るためその場を他の保育士にまかせて離れた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見守っている保育士は遊具側ではなく園舎側を向いていた時の事であった。もう１名の保育士は他の子どもの様子を見ていた。	見守りの保育士の立ち位置・目線を見直すことが必要。	遊具の使い方の確認、子どもたちの遊んでいる様子を見て、危険な遊び方をしていないか見直す。	
7710	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									2	2	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節捻挫、左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	地面が乾いていて、園庭の砂で滑った可能性がある。	園庭の地面が乾いている状態なら、しっかりと水を撒く。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に走り回っていた。１６：３０からの担任保育士以外が保育する当番保育の時間においても元気でいつも通りであった。母親が迎えに来るまで、誰にも足の痛みのことを伝えていなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が鬼ごっこをしていたことは知っていたが、足をひねったところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の降園準備の対応をしていて、本児の動きを見ていなかった。	遊びを見守る保育士と降園準備を補助する保育士との連携が不十分な面があった。	複数の保育士が連携して視野を広げ児の動きを細かく把握するように努めるとともに、当番保育に移行する前に、児の様子を把握できるようクラスで集いをしたり個々に声をかけたりし担当保育士に児から発信できる場を設ける。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7711	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61	3	9	10	13	13	13	0		8	8	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨近位端亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	個々の発達に応じた実践が出来ていなかった。人工芝に慣れていなかった。	個々の発達に応じて運動等を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	人工芝に慣れていなかった。	人工芝に慣れるよう、外遊びの機会を増やした。	1.集団活動中・見守りあり		個々の状態を把握し、子どもから目を離さないように見守り、危険なことは声掛け等を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、機嫌もよく好きな遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具や、築山、砂場等、危険が予測される場所で遊んでいる子どもを見たり、危険な行為が見られた際には、声かけ等をしていた。				予想外のことが起こることを想定しながら保育を行う。	
7712	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15					4	11			2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右膝脛骨遠位部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	園庭で遊ぶ11名の4，5歳児に３名の有資格保育教諭を配置していた。ブランコを「止めて」と言った対象児は、実習生が止める前に飛び降りてしまい、勢いがついたまま着地し、足を捻った。	実習生に任せず、保育教諭の立ち位置をしっかりと確認し合う。またブランコの乗り降りの注意事項（動いている時には、乗り降りしない、飛び降りない等）を園児と確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		本児が乗っていた遊具については、安全が確認できている。今後は、遊具の使い方、保育教諭の援助の仕方を再確認し合うことが必要である。	7.その他	動いているブランコから飛び降りてしまった。	しっかりと遊具の安全確認を行い、遊具の使い方、降り方などについて指導する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	実習生を独り占めできたことが、嬉しくて気分が高揚していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	周りに有資格保育教諭がいたが、気付いた時には、遅く、対応が、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	十分な人数の保育教諭が配置されていたが、他の園児の遊びを見ていたため、実習生に任せ対象児と実習生の動きを見ていなかった。	実習生は、保育経験不足で、十分な補助、対応ができなかった。	実習生に任せるのではなく、保育教諭の配置を確認し合い、適切な援助ができる環境の下で園児が遊べるようにする。	
7713	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									4	4	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	降園前で園児が落ち着かない中、棒雑巾での掃除をしたことと、衝動的な行動をする子も多い中で、今回の姿を予測できなかったことが事故の要因。	園児がいる中では棒雑巾を使っての掃除はしない。衝動的な行動しやすい園児に対して、様々な行動パターンを考え対応していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり		掃除の時間を危険のない時間帯にする	1.いつもどおりの様子であった	本児は興味があるものに対しては危険だと分かっていても動きを止めることができないといった衝動性が日頃から強い。本児がおやつ前の手洗いをするためのタオルをロッカーに取りに行こうとしたところ、掃除中の棒を見つけ衝動的に飛んでしまった	4.対象児の動きを見ていなかった	掃除をしている時は本児の走ってくる姿が目にはいらず。担当職員の視界に本児がはいってきた時には間近にせまっていたので本児の動きも自分の動きも止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室内は担当職員以外の保育士が3人いた。１人降園前の準備ができた子の確認とおやつのコーナーを見ていた。1人は寝起きで期限が悪い子の対応を廊下でしていた。1人は降園準備が終わった子を見ながら、降園準備が遅れている子に個別に声掛けをしていたため、本児の動きを見ていなかった。		・掃除の時間を園児が降園したあとにする ・降園準備ができた園児が集う場にはゴザを敷くなど視覚で分かりやすいようにする。	
7714	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	80		9	12	21	16	22	0		2	1	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上骨腕外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		園内全体での既往の怪我やヒヤリハットについて話し合ったが、各クラス内での怪我や対応の仕方についても話し合う機会を持つ。	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１３)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年		毎月の点検の点検と共に、危険か所や必要な修繕等についても職員間で共通理解をする。	1.集団活動中・見守りあり		クラスの状態や個々の性質に沿った遊び方の工夫や制限等を話し合う。	3.いつもより活発・活動的であった	勝負性のある遊び（ドッジボール）をしていたので、体もよく動き、ボールや人の動きにも敏感になっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	年長児22名のうち、10名が2チームに分かれて、ドッジボールをしており、近距離で保育士も声をかけながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記以外の子どもと遊んでいた。		子どもの気持ちの状態にも苦慮し、遊びの制限やボールを取りに行った際の対応を工夫するとよい。	
7715	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	23									1	1	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		定期的に遊びから繋がる事故についての話合いをしていく。		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり		子どもたちが駆け回るには十分なスペースだったと思うので、環境的な改善は必要はない。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで他児と一緒に走り回り、鬼ごっこを楽しんでいた。駆け回る際、勢いよく走る互いの姿が目に止まらず衝突した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ていたものの、対象園児から離れた距離で見守っていた為、子どもたちの行動を止めることができなかった。			子どもたちが走る際、危険意識が薄れていた	保育者が遊びの中で危険を事前に回避していけるよう声掛けをしていく	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7716	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１５)回/年	2.基準配置	発達・年齢を踏まえると、活動量が増え動きも活発になり、転倒や衝突をすると大きな怪我に繋がることが考えられるため、子ども達にも活動前に十分注意喚起をし、約束事項を確認すべきであった。また、大きな行事前で子ども達も落ち着かなかったり、興奮している様子も見られ、特に本児はそういった傾向の強い子でもあったので、より注意すべきだった。	活動前に子ども達と注意点を確認すること、子ども達一人ひとりの特性を踏まえ、行動を予測しそれに合わせて全体を見ていくようにする。また、子ども達の様子を踏まえて活動内容を考えたり、行い方を考慮するようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	年齢・発達段階も高く、活動が活発になることが考えられるため、活動の場所の広さに合わせて人数を調整することも必要であった。	今後は子ども達の状況に合わせて活動を安全に行えるよう環境を整えていく。また、子ども達自身にも危険に繋がる行動を避けることができるよう働き掛けを促し、習慣付けられるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	常に活発な子どもであり、突発的、衝動的な行動が多く見られていた(ADHDとの診断あり)。家庭とも共通認識していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	事故が起こる瞬間を見ていたが、勢いが早すぎて止めることはできなかった。			特になし	特になし	
7717	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24		10	14						5	5	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘　骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置		職員配置数については、基準通りで特に問題なし。	1.定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年		施設整備等、環境面には特に問題なし。	1.集団活動中・見守りあり		遊具点検等も行っており、園庭の環境面には問題なし。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなく、元気いっぱいだった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児が危険な行為を行っているところに気を取られて、本児に背を向けてしまい、本児の動きを見落としてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は、他児と関わっていて、本児の動きを見落としていた。		職員間で声を掛け合いながら、連携を図って配慮する必要があったので、今後は子どもに背を向けることなく、見落としのないよう見守っていく。	
7718	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				16	17	17			8	6	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕　肘の骨折・脱臼	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6　)回/年	2.基準配置		ガチャポンプ遊具の周りに柔らかい砂を入れ、衝撃を吸収できるよう環境を整えた。また、園全体で今回の怪我について周知し、戸外遊びを安全に楽しむために、保育者の立ち位置や子どもの発達や育ちに見合った遊び方の提案等が出来るようにしていくことを話し合い、保育を実践していく。	1.定期的に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎　)回/年		引き続き２カ月に１回施設内・遊具の安全点検チェックリストで点検を行い、遊具の周りに危険な物を置かない。	1.集団活動中・見守りあり	園庭には死角が多いため、無線を使い保育者の立ち位置を工夫するようにしているが、事故当時はガチャポンプ遊具からの転落に至るまでのトラブルを止めることができなかった。	引き続き無線を使用し、保育者の立ち位置を工夫し、子どもの遊びや姿を情報共有しながら保育を行っていく。今回の怪我について話し合い、どのような環境でも大怪我に繋がる意識を持って保育し、環境への配慮に十分気を付けていく。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で気の合う友達と海賊ごっこをして遊んでいた。ガチャポンプ遊具の上からジャンプすることはできるが、他児に押され転落する。	4.対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びには子どもの人数に応じて2人の保育者がついていた（他子ども園、小規模保育園、学童保育職員も戸外についていた）。新しくオープンした砂場環境があり、その砂場についていたため死角となり、子どもの姿を把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の戸外遊びについており、ガチャポンプ遊具の上で遊ぶ子どもの姿を把握できていなかった。		保育者の中でも「年長児だから遊び方が分かっているだろう」という意識があり、遊びに介入しないことも多いが、子どもの遊ぶ姿や動きを保育者間で必ず把握できるような連携を図っていく。	
7719	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	16									3	3	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度１回程度/年	2.基準配置		今後も継続して保育環境を整え、保育にあたる。		実施頻度()回/年		実施頻度()回/年		実施頻度()回/年			1.集団活動中・見守りあり		床におもちゃの散乱がないように今後とも気を付けてみていく。	1.いつもどおりの様子であった	室内を歩いていて自分の足がもつれて転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の遊んでいる様子を見守り、転倒した時にすぐに駆け寄り、左腕を痛がる姿があった為、看護師に診てもらう。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラス全体を見ながら保育していた。		子どもの遊ぶ姿を把握し、職員がその都度、安全確認をする。	
7720	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				11	18	11			3	3	4歳	1.男児	利き手が骨折のため、生活面（食事や着脱等）で保育士の介助を要する。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	年齢によって運動機能が異なることへの理解を職員ができていたか。新生活に馴染んできた子どもの過信や不安を職員が感じ取ることができていたか。	定期的に職員間で安全管理マニュアルを読み合わせ、再発防止に向けて職員間で検証、周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０　)回/年	手を滑らせる以外にも転落の可能性があるかの検証ができていなかった。	子供が手に触れる前に保育士が雲梯のバーや掴んだ感触等を確認しておく。	1.集団活動中・見守りあり	おやつを食べ終えた児から園庭で遊ぶので、園庭にいる保育士全員がクラスや子供の把握ができていたか。	園児の在籍が一目でわかりやすい登降園児チェック表を必ず常備する。	1.いつもどおりの様子であった	この日の対象児の体調は良好。最近、固定遊具を好んで遊ぶことも多くなり、この日も同じように雲梯で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が雲梯で遊んでいたことは確認しており、落下した直後に対象児の異変に気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	３名で遅番保育をしているため、担当職員と異なる子どもの姿や場面に目を向けていた。	対象児の事故を事前に予測できる保育士の配置になっていたか。	保育士が全体へ目を向けられるような配置、見守り方を考える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7721	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25				9	9	7			2	2	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕尺骨及び橈骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	夕方の合同保育となり、職員の人数も減った際の声掛けの配慮不足	日中保育よりも職員数が減ることを理解し、職員同士の動きや役割を把握し合う	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		事故発生時、保育園の設備に不備はなかったと考える	1.集団活動中・見守りあり	いつもとは異なる部屋での合同保育で好きな遊びが見付からず、立ち歩きながら遊んでいた。対象児の好む、体を動かす活動の選択肢がなかった	保育室内の使い方や遊び方、約束を確認し、丁寧に伝えていく。又、保育室内を分けて、好きな遊びや静と動の遊びを子どもたちが選べるように環境を整えるようにする	1.いつもどおりの様子であった	興味を持って集中して遊べる玩具がなく、立ち歩きながら遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び全体を見守る為に対象児とは離れた位置にいた。全体を把握しなければならなかったが、近くの子どもたちの遊びに入り込んでしまい、対象児の動きに気付くのが遅くなってしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体を見ながら遊びの準備をしていた為、動きを止めることができなかった。全体を見る保育士の近くにいたことで、子どもを見る範囲が狭まった	職員同士の立ち位置に対して配慮が不足していた。その為に、お互いに声を掛け合わなかったことも1つの要因と考える	子どもの動きを把握した上で、声を掛け合いながら、互いの動きや職員の立ち位置を注視し合う	
7722	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17				9	4	4			3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	鬼ごっこの時には遊具や砂場には逃げ込まないというルールであったが、エスカレートして入ってしまった。	一緒に遊びながらも子どもたちの動きを把握し、動きがエスカレートしてきたことを察知するよう意識し、再度ルール確認を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	砂場の枠が高く、つまづきが大きくなってしまった。	砂場の枠を改善すること。	1.集団活動中・見守りあり		一緒に遊びながらも子どもたちの動きを把握する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	足の速い職員や他児との鬼ごっこで、周りを見ることなく、逃げることに必死になってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊びの中には入っていたが、他の転んだ子の対応をしていて、全体から目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこを行っていることは認識していたが、職員も入っていたことで、意識して見ることはしていなかった。			
7723	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	0	0	0	3	6	6	0		2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	若木骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	園庭の大型遊具の上（地面から約１８０センチの高さ）から飛ぶことに挑戦しようとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていたため、大型遊具の上からジャンプしようとしていた本児の状況に気付くのが遅くなってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいる職員の役割分担として、大型遊具から離れた場所にいる園児をみていた	大型遊具の下にマットが敷いてあり、ジャンプをしても安全な場所もあるが、今回はそこではない場所でジャンプしてしまった。５歳児年長ということから、挑戦しようとした意欲的な心情もあったが、普段から遊具での安全な遊び方を伝える方法や園児自身で考える機会をもつことが必要だった。	その時々の状況に合わせて、職員間で声を掛合い、大型遊具のまわりを巡回するなど意識していくようにする。また、園児全体にも裸足で地面に飛ぶことの怪我のリスクやどのくらいの高さから飛ぶと危険であるかを意識できるような声掛け、伝え方をしていくようにする。４・５歳児は、午睡前に話し合いの場を設けているので、その際に話題にできるようにしていく。	
7724	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	74				26	24	24			7	6	3歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左下腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（4）回/年			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	本児の活動場所が建物の裏になり見えにくかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった				
7725	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									3	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５趾基節骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5～6)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊びの中で気持ちが崩れている子が数人いて、クラス全体的に落ち着かない雰囲気もあり、その中で担任間の情報共有が十分にできなかった。	どのような状況であっても、子どものいつもと違う様子が見られた時には担任間で伝え合い、状況を把握していく。	1.いつもどおりの様子であった	ホールで他児と一緒に走って鬼ごっこをしていた。他児に足を踏まれたと訴える。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員も一緒に鬼ごっこをしていて、本児は足を踏まれた時は泣くことも転倒することもなかったため、踏まれた瞬間には気付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと一緒に鬼ごっこをしていて、対象児からの訴えを聞いて足の状態を確認したが、腫れなどの症状がなかったため様子を見た。	外傷がなかったため担任間で確認せずに一人の職員の判断で対応してしまった。	外見で傷や腫れがなくても安易に大丈夫だと判断せず、担任間で情報を共有し、所長と看護師にも必ず報告をし、複数人で対応方法を考えていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7726	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	120	0	0	0	38	46	36			9	9	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	開放骨折に準ずる左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	他児が砂遊びをしている、不安定な砂場の中で走ったためと考える	園庭での遊び方について、再度こども達に指導する	1.集団活動中・見守りあり	複数のクラスの子どもたちが過ごす中であった為、子どもの動きの予測がが不足していたと考える。	園庭での遊び方について、再度こども達に指導する	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	怪我をする少し前には本児の側にいたが、他児とかかわるため砂場から離れたため、事故の瞬間の動きを見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児にかかわっていた。		園児に対する職員の人数は十分であったと思われるが、一人一人の動きを十分予測し保育にあたる。	
7727	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	0	0	0	27	29	0	0		10	10	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨(尺骨)骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		年齢発達に応じた運動遊具を使った遊び方の確認・共通理解を職員間で行う	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年		今後も今までどおり点検を行う	1.集団活動中・見守りあり		５月の３歳児の戸外遊びの方法、３歳児の鉄棒の使い方を検討し共通理解する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			個々の力量を把握している保育士が傍らで介助する。	
7728	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0		3	3	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２～３)回/年	2.基準配置		・床材なども見て、新たに考えられる危険を見つけて対策を丁寧に考え、子どもたちに保育の中で伝えたり、危険が及ぶことが予想できるときは必ず職員がつく	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年		・床材なども見て、新たに考えられる危険を見つけて対策を丁寧に考える	1.集団活動中・見守りあり	・トイレに行ったり、廊下に出たりしている子どもたちの姿をしっかり見守る	・日常の中で子どもの行動を丁寧に見守り、危険な行動がないかしっかり見ていく	1.いつもどおりの様子であった	・友だちと一緒にトイレに行こうとして廊下にいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・戸外から園の中に入ってきている状況で、トイレに行こうとしている子どもの様子は遠くからのみ把握していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・重度の支援の必要な子どもについていたり、戸外にまだ遊んでいる子どもの保育にあたっていた	・保育の中で時間差ができ、保育者の見守りが充分ではない場面が出来る	・担任以外の保育者も子どもの動きを丁寧に把握し、保育者間の子どもの姿の共有を行う。（ヒヤリハットも含めて）	
7729	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24									3	3	3歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	研修などを実施しており、子どもの特性も把握していたが、危機予測が不十分であった。	常に危機管理意識をもち、子どもへの関わり、事故や怪我への対応の仕方を職員で共通にし、確実に対応できるようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４　)回/年	容易にロッカーに上ることができないよう、足場になるようなものは排除しておく。	日頃から、危険個所がないか複数の目で確認する。	6.食事(おやつ)中	日頃の環境や保育内容と変わりない状況であり、本児も食事をしていたため、怪我が起こるという危機意識をもてていなかった。	職員同士で声をかけ合い、本児の動きを予測し、常に危機意識がもてるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	椅子に座り食事をしていた。食事の途中であったが、走ってロッカーまで行き上に登った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がいつもより落ち着いて食事をしていたため、職員は他児の食事指導をしていた。ロッカーに登った際に声をかけるが、本児が飛び降り、泣いて痛みを訴えたため、異変に気付いた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の食事指導、食事をしながらクラス全体を見守っていた。	危険な行動があったときは、してはいけないことをその都度本児に分かりやすく伝えていたが、不十分であった。	危機管理意識を常に持ち、日常の些細な動きや行動でも、時には事故や怪我につながることを常に念頭におく。	
7730	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12	0	2	1	3	3	3	0		3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置		マニュアルを基本にしつつ、異年齢児が集まっての保育など、実際的な想定をして研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(２５　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２５　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年		鉄棒のしたに簡易な敷物を敷いていたが、しっかりしたマットを敷くなどする。その環境を見て、子ども自身も危険があるかもしれないことを予測できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり		鉄棒遊びを安全に出来るように遊び方を子どもと共に再確認し、より安全面を意識しながら遊ぶようにする。普段の様子をクラスを越えて保育者が共有し、配慮点を明らかにしておく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であったが、普段には鉄棒に座ることはまだ不安定なことがあった。土曜保育で、園庭でゆったりと遊べる時間に友達とやりたいことに挑戦しようとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	３歳以上児複数人を見守っていた。複数の固定遊具で子どもが遊んでおり、すべり台に付きながら、他の様子も見守っていた。鉄棒で遊んでいる本児が落下する姿を見て、すぐに様子を確かめ、他の職員に様子を伝えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では３歳以上児と未満児が分かれて遊んでいた。未満児は砂場で遊んでおり、保育者が１人ついていた。もう１人は全体を見守り、合間に園庭の片付けもしていた。		複数の固定遊具で遊ぶ際には、子どもの状況に合わせてリスクの高い遊具を見極めて付くか、それぞれの遊具に保育者が１人ずつ付ける様に配慮する。	
7731	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	7				2	3	2			1		3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	職員の危機管理に対する認識が不足した為、活動前に十分な下見を行なえず、安全確認が足りなかった。	引き続き活動前には十分な下見を行い、安全確認を行うようにする。	1.定期的に実施	月1回実施	1.定期的に実施	月1回実施	1.定期的に実施	月1回実施	園外活動の事前安全確認が不十分だった。	園外活動においての事前チェックを行い職員内で共有を図る。	1.集団活動中・見守りあり	足元が砂で滑りやすく、転ぶ危険性があるという認識がなかったこと。	下見を行い、危険箇所を確認し、その近くで見守る。	1.いつもどおりの様子であった	お友達と楽しそうに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	帰園の準備中であったため、他の園児を見ながらの対応だった。			少人数により、近隣でもあった為、一人で見守っていたので対応が遅れた。	今後は、少人数の園外活動においても複数の保育士が見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7732	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	6	1	5							3	3	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	不明	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置		子どもの行動についての観察の重視、普段の様子の把握	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		子どもが転倒した際の危険物の撤去、棚等の角のガード	1.集団活動中・見守りあり	机等出ていない状態で、自由に体を動かせる広さはあった。その中で、走って遊んでいて転倒。すべらないように靴下は履いておらず裸足だった。	保育士の見守りの中で、遊び方、危険な行為ではないか確認する。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から友だちと追いかけあそび等は好きで、楽しんでいた。当日も同様に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した時にすぐに近寄ったが、おでこをぶつけ、泣いていたので、抱き上げてベットに横にする。意識が飛ぶ、眠るといった異変に気付き、近くにいた職員を呼ぶ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の別コーナーで他の子どもと遊んでいたので、その場面は見ていなかった。		歩き方や転びやすさなど家庭での様子も含め、気になることはなかったか確認をする。保育士の立ち位置はどうであったか再確認する。	
7733	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10		7	3						3	3	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.基準以上配置		マニュアルに沿った研修や基準に合った保育士の数を配置していた。今回のような事故が起こることも考え、研修をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年		定期的に、また、不良か所があった場合はその都度修理・改善を行っている。今回はどこで骨折したのか不明であった。	1.集団活動中・見守りあり		転びやすいので足元にある玩具に気を付ける。こどもの動きが確認できる保育士の位置に留意する。	1.いつもどおりの様子であった	歩きまわることが好きで、転びやすい	2.対象児の至近で対象児を見ていた	長時間保育時は保育士3人で保育を担当していた。保護者の迎えがあるときは、保育士１人が対応し、2人の保育士は保育を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	長時間保育時は保育士3人で保育を担当していた。保護者の迎えがあるときは、保育士１人が対応し、2人の保育士は保育を行っていた。		言葉で伝えることができない子に普段と違った様子があれば、どこか異常がないか全身の視診を行う。	
7734	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足人差し指骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		・裸足保育の時は、ＫＹＴをして安全な遊ばせ方を職員で共通理解する。 ・家庭用ミニワゴンを使用する時は、ズックを履くようにする。 ・移動する時は、ぶつかることなど避けるために保育士がついて声をかける。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	・家庭用ミニワゴンは子どもが安全に使えるサイズと思い作りや素材、硬さなど子どもがぶつかった時の危険予知ができなかった。	・移動時は、骨組みにクッションを巻いて衝撃を和らげて使用する。 ・家庭用品を園児が遊びに使う時は、職員間で扱い方を確認し子どもに安全な使い方を知らせる。	3.個人活動中・見守りあり		移動販売ごっこに保育士等がついて遊ぶようにする。	1.いつもどおりの様子であった	移動販売ごっこは何回か経験していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	これまで何回移動販売をしていたので、側についていなくても大丈夫という思い込みがあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で折り紙コーナーで遊んでいる子の遊びを見ていた。		どんな活動をしていても大丈夫という思い込みをなくし、起こりうる危険を予測して対応できるようにする。	
7735	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	3	0	1	2						1	1	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（4）回/年	2.基準配置	保育士1名で保育していた。	保育士配置を複数体制にする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(13)回/年	1.定期的に実施	実施頻度随時	汗をかく時期で、滑り面が滑りやすくなっていた。	遊具の状態を確認し、必要に応じてすべり面等をタオルで拭く等する。	1.集団活動中・見守りあり	マルチプレイジム周辺に部分的にマットを敷いていた。	年齢や子どもの発達の適した遊具を準備し、危険が予測される箇所全てにマットを敷いておく。	1.いつもどおりの様子であった	マルチプレイジムの階段が上手に登れず、いつも遊んでいたように滑り面の下方から四つん這いで登り始めた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の横で対象児ともう一人の園児を見ていて、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。			滑り面下方から登る遊びを容認していた。	担任している中で一番年齢が低い対象児に合った遊具や安全面への配慮を十分行い、常に保育士が瞬時に対応できる位置で見守る。	
7736	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	1.基準以上配置		・ヒヤリハットの報告を細かく行い、職員間で共有し、危機管理意識を高める。 ・転倒から身を守ることにつながるような運動遊びを、日頃から意識して取り入れる。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年		点検を確実に行い、異常があれば速やかに対応する。	3.個人活動中・見守りあり		・棚や机の角はクッションでガードする。 ・午睡布団は、食事が終わってから準備する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			・保育室では衝突しやすいので走らないように声をかけ、見守る。 ・子どもが遊んでいる位置や人数を確認し、安全な遊び方を知らせる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7737	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	12									3	3	3歳	1.男児	・多動、衝動的、注意欠陥等の特性がみられるので、危険が予測できない。	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯　破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	・給食後、各自片付けをしトイレに向かう流れになっていた。走って移動する子が多く、危険だと感じていたがトイレに職員がいることから声掛けをしなかった。	・給食後→ズック、靴下を脱ぐ→各自トイレへ行くという動きを、給食後→着替え→絵本タイムとし、給食後の子どもの動きを変える。	1.定期的に実施	実施頻度(４　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８　)回/年	・机の脚が出っ張っており、そこに躓いたのではないかと予想される。	・机の出っ張っている脚は壁側に寄せる。	1.集団活動中・見守りあり	・配膳台や子どもの机等が入り口付近に密集していた。	・机の配置や、着替えや本棚の場所を変え、食事後の子どもの動線を整理する。	1.いつもどおりの様子であった	・落ち着きがなく、保育士の声掛けも耳に入らず、衝動的に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・副担任が欠席のため、いつもの職員体制ではなかったが、大丈夫だろうという迷いと思い込みがあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・本児がトイレに行ったことに気付いていなかった。	・お互いに分担していたので、大丈夫という思い込みがあった。	・代替えの職員が保育に入ったときは、職員配置を主担任が指示を的確に出し、役割を確認する。	
7738	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	17	4	3	4	2	2	2			31	19	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		危険を回避できる位置で見守る	1.定期的に実施	実施頻度(50　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(50　)回/年		鉄棒の正しい使い方を確認する	3.個人活動中・見守りあり	高い場所を好んで遊ぶことが多い	子ども達と鉄棒の正しい使い方を再確認し、ルールを決めて使用する	1.いつもどおりの様子であった	日ごろから高いところを好んで飛んだり飛び降りたりするスリルを楽しんでいる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び方としては制限をしていないので見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子ども達と遊んだり見守ったりしている		本児の特性を把握し、すぐに危険を回避できる場所で見守る、または制止させる	
7739	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置		鉄棒などの遊具を使用する際には、職員が必ず側につき安全確保に努める。事故後の対応等について、職員間で情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1　)回/日		安全点検は定期的に実施できているので、継続して行う。	1.集団活動中・見守りあり		職員は安全確保のため、子どもたちをより一層注意深く見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒に意欲的に取り組んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒を2台出しており、職員は一つ向こう側の鉄棒で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年長組（11人）で、職員は一人体制で保育していた。		鉄棒を2台出すときは、職員は間に立って見守るようにする。	
7740	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									1	1	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節内骨折・右肘関節血腫	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		リトミックなどで幼児二人が手をつないで歩いたり、走ったりしている時は注意して見守るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年			1.集団活動中・見守りあり	まだまだ足元が不安定な2歳児が、手をつないで走り、相手のペースに合わせられずにバランスを崩してしまい転倒した。	友だちと手をつないで歩いたり走っているときは、注意深く見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	リトミックの時間で、二人組になり手をつないで音楽に合わせて歩いたり走ったりを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から少し離れたところで見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児から少し離れたところで見ていた。	まだまだ足元が不安定な2歳児が、手をつないで走り、相手のペースに合わせられずにバランスを崩してしまい転倒した。	友だちと手をつないで歩いたり走っているときは、注意深く見守るようにする。	
7741	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21				12	9				2	2	5歳	1.男児	天候は良かったが、朝の気温は低く雪面は固い状態であった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	雪山からすべり下りてくる様子が見える位置に保育者がついていた。	雪の高さ、角度を鑑みて雪山の上、下に保育者がつくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	2M位の高さと急傾斜のある雪山だった。	転落する危険があるところには、コーンを置いたが安全に楽しむためには、滑る範囲を決める、人的配置を考慮する。	1.集団活動中・見守りあり	おいかけごっこに夢中になり、雪山の上のほうまで走ってきたことが高さのあるところから滑り落ちた原因だと思われる。	雪山の上での約束を再度確認する。	1.いつもどおりの様子であった	友達に追いかけられた事で慌てて滑り落ちた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が雪面を滑り落ちる瞬間は見えたが手を差し伸べられる距離にはいなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が雪面を滑り落ちる瞬間は見えたが手を差し伸べられる距離にはいなかった	雪山からバランスを崩して滑り落ちる危険予知不足。	危険個所（雪山上下）の職員の見守り強化。	
7742	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２０　)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年		これまで以上に安全面の配慮を行う	1.集団活動中・見守りあり		園庭で走り回るときは、周りをよく見るように声をかけて注意していく。	1.いつもどおりの様子であった	卒園式前日と言うこともあって、気持ちが浮かれている感じがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員2名が、間隔をあけて子ども達の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)			職員間の連携や立ち位置を見直し、安全保育に努める。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7747	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									3	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度２回/年	2.基準配置	報連相の徹底がなっていなかった、判断の基準確認が必要	毎月の職員会議などでの検討会を随時おこない意識づけの強化を図る。また、保護者の方への初めの受傷時間の報告を誤って告げて不安を与えたため、しっかりと状況確認をしてから報告をする。	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	1.定期的に実施	実施頻度１２回/年	ゆうぎ室の見通しも良く障害物などの要因は考えにくい	この度は設備的なものの要因の検討はない	1.集団活動中・見守りあり	走り回る人数が多く、見守る対象も増えぶつかる危険性が強まった	走り回る遊びに対し、人数を分けるなど分散化する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	別紙現場状況報告書のとおり	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別紙現場状況報告書のとおり	報連相の意識不足、ゲームに参加する人数が多かった	報連相の強化、判断する人数を増やす。早急な判断をおこなうため	
7748	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8	0	0	0	5	2	1	0		2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（３）回/年	2.基準配置		各年齢毎に確認したことを徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		安全点検を引き続き行う。	1.集団活動中・見守りあり		玩具（ブロック）を使用する時は、走らずに遊ぶことを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、他の園児の様子を見ていた。		玩具（ブロック）を持って走らないように、職員の声掛けを徹底する。	
7749	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42					16	26			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	事故は保育士の予期しない様々な状況下で起こることへの認識を持って、一層危機意識を強く、注意深く見守る必要がある。	痛みを長く訴える場合は、最悪のことを考え早めに保護者に連絡し、受診してもらう。必要ならば救急車を呼ぶなど対応していく。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年	天候や気温・風の強さ等自然環境による状況の変化	さらに、状況の変化による危険発生の項目を設け、安全を図っていく。	1.集団活動中・見守りあり	天気が続き、土が乾いていていつもより滑りやすくなっていた。	その日の状況を把握するとともに事故を予測し、その状況にあった注意を事前に行う。	1.いつもどおりの様子であった	仲良しの友達といつもどおり活発に活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	楽しそうに手をつないで跳ねていたのを見ていたそばで転倒してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の組に子どもをお部屋に入れるため支援していた。	友達と手をつなぎ楽しいそうに跳ねていたが、本人も一緒にいた子どもたちも予期せず転倒してしまった。	落ち着かせて行動するよう、日常的に指導・訓練をする。	
7750	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	5歳	2.女児	鎖骨固定帯の装具を着けて治療全治1ヶ月は静かに過ごすよう、医師より指示を受ける。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保育士の配置基準が国基準を下回ることがない保育体制で今後も保育を行う。また、遊びへの導入方法や子どもの保育環境に十分配慮する。	休み明けの事故に繋がった。活動前の導入や方法は子どもたちと丁寧におこない、未然に防ぐ配慮が必要だと感じた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(-)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	園庭に遊具は無	引続き、取組前に危険な物がないか点検、目視を行う。	1.集団活動中・見守りあり	他クラスの遊びの邪魔にならないように、園庭の端の狭いスペースでドッチボールを行ったため安全な環境ではなかった。	運動遊び集団遊びを行う場合は、十分な保育環境スペースが改めて必要だと感じた	1.いつもどおりの様子であった	（具体的内容記載欄）転がしドッチボール最中、ボールのある方を見ながらコートのなかを逃げている時に友だちとぶつかり転倒。地面に左肩を打ちつける。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	(具体的内容記載欄)保育士も一緒に集団遊びを行っていた。全体の子どもの動きや遊ぶ様子を見ていたので、本児が友だちとぶつかり倒れそうになった時、手を差し伸べようとしたが間に合わず倒れてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	(具体的内容記載欄)無	思いもよらない行動や動きに対応できるように常に子どもたちやの動きや声掛けに配慮する。	園庭に出て遊んでいるクラスの保育士同士が、お互いの活動や保育環境に関心を寄せ声を掛け合うことが大切だということを改めて感じた。	
7751	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12						12			1	1	5歳	1.男児	体重２９．８kg　身長１１７．６cm 両親外国籍の為、日本語の理解力が不十分	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	午睡に入る保育室に5歳児が全員入り、4歳児の誘導をする際、職員1人で対応していたこと。該当児の転倒を把握していた職員の、過信、自己判断、その後の報告、連絡、相談に至らなかったこと。	４，５歳児が一緒に午睡を行っている状況から、４，５歳児クラス職員でお互いにクラスの現状を伝え合い連携を取る。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(日々)回/年	コットの両脇の部分の強度が強く硬い。該当児は外国籍。	コットの素材について職員全員で、体感を通して把握する。	7.その他	職員の体制について、4歳児職員との連携を取り、保育室内を把握する職員と誘導する職員との体制を取れていなかった。	４，５歳児が一緒に午睡を行っている状況から、４，５歳児クラスの職員で声を掛け合い連携を取る。大丈夫だろうと自己判断をするのではなく、もしかしたら〇〇になっているかもしれないという思いで視診をする。	1.いつもどおりの様子であった	自分のコットから離れてた場所にいることを、5歳児担任に戻るように声をかけられた。戻ろうとし転倒した際にコットの横枠に右腕をつくように倒れる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	5歳児が午睡室に入り終わり、保育室の出入り口で4歳児をコットへと誘導していた為、該当児が転倒するときにすぐと行くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡に入る前に4歳児を廊下からトイレに行くように促していた。	午睡に入る時の流れについて４歳児の職員とと連携をとる。	5歳児、4歳児のトイレからの午睡に行く動線について職員の位置も含めて見直す。	
7752	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	0	1	2	1	1	0	0		2	2	2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右親指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回／年	1.基準以上配置	ボールが沢山あり足場が不安定であった。	遊びの内容を見直し、転倒した際手がすぐつくように体操などの活動に力を入れる	1.定期的に実施	実施頻度(最低6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(最低６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		危機管理をいつも持っている。	1.集団活動中・見守りあり		場所にあった遊びの内容をふまえていく。	1.いつもどおりの様子であった	楽しくなりすぎて興奮状態であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	（具体的内容記載欄）周りにいた子とも関わっていたのですぐに手を添えることができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びながらボールが多いと片づけながら見ていたのですぐに手を添えることができなかった		遊びの内容を確認をし転倒した際手がすぐつくように体操などの活動に力を入れる	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7753	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				15	17	19	0		7	7	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈尺骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	・個別対応を行う際、声掛けがなかったため、お互いにその状況を知らずに保育が行われており、全体把握をする職員がいなかった。・その遊び方がどのような状況につながるかを想像することができなかった。また、職員の人数が多いことに安心し、「誰かが見ているのでは…」という心の隙があった。・固定遊具で遊んでいる子を見ても「年長だから大丈夫」と介助につかないことがあった。	・お互いに声を掛け合い、全体把握、保護者対応など役割分担を明確にする。・個別対応をする際は、必ずその旨を周りの職員に伝える。・年齢で対応を区切るのではなく、一人一人の発達、その日の状態、遊びの様子に合わせて介助につく。・子どもたちが自分たちでどのようにしたら固定遊具で楽しく遊べるかを考える機会を持つ。（安全教育）	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(291)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(291)回/年	・滑り台の斜面の枠が１５ｃｍと浅めのため、体格の良い年長児が使用する場合は落ちやすいことを職員全員が十分理解した上で使用する。	・各固定遊具の危険性を職員一人一人がが把握した状態で使用する。	1.集団活動中・見守りあり	・TVの「逃走中」を真似た追いかけっこが子どもたちの中で盛り上がっていて、最近では固定遊具に駆け上ったり下りたりする姿が見られていた。その都度個別に危険なことを伝えてはいたが、その様子を職員全体に周知しなかった。	・気づいたことは小さな事でも全職員に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	耳鼻科受診のため１１時に登所した。すぐに年長児の活動遊具や木に隠した文字を探し、文章を作るゲームに参加し、いつもと違う活動に興奮した様子が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	・それぞれが個別対応を行っていたが、お互いに声をかけあわなかったため、その状況に気づかず、全体把握をする職員がいなかった。また、職員配置が所庭の片側に偏っていたため、落下に気づいたが、固定遊具にすぐにつくことができず、落下を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・それぞれが個別対応を行っていたが、お互いに声をかけあわなかったため、その状況に気づかず、全体把握をする職員がいなかった。また、職員配置が所庭の片側に偏っていたため、落下に気づいたが、固定遊具にすぐにつくことができず、落下を防ぐことができなかった。	・一人一人の子どもの動きを把握している職員が誰もいなかった。・職員の人数が多いことに安心し「誰かが見ているのでは…」という心の隙があった。	・一人一人の子が何をしていたのか保護者にきちんと様子を伝えられるように丁寧に見守り、動きを把握するよう心掛ける。・お互いに声を掛け合い役割分担を明確にする。（全体把握、保護者対応など）	
7754	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	16									2	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕橈骨と尺骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	年1回	1.基準以上配置		年齢に即した体育遊びを選定し、それに伴う危険を予測し、環境設定を整える。特に保育士の配置（人数）には重点をおくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５２　)回/年		跳び箱の段数が年齢にそぐわなかったことと事前の計画に多少の無理があった。体育遊びなどの場合、保育士同士で計画の見直し、環境整備を徹底させる。	1.集団活動中・見守りあり	対象児を見守っていたが、感情面の起伏（普段よりもテンションが高かった）に気づかなかった。	色々な場面の危険予測を事前に保育士同士で話し合い、留意、見守りが必要な子どもを把握し、保育士の配置、安全面を徹底する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱からジャンプして着地するところ、バランスをくずし、手が先にマットについた為、左腕を負傷してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児のそばで見守っていたが、危険的行動を予測することに欠けていた。また子どものテンションの高さに気づくべきだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた。		跳び箱の使用時に対してのマニュアル（危険予測、環境整備、人員配置、年齢に見合っているか）を作成し、職員全体で共有し、周知する。	
7755	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									3	3	3歳	2.女児	発育及び発達状況は良好で、アレルギー等もない。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(約１５)回/年	1.基準以上配置	職員が近くで見守りをしており、特に園児に無理のある活動も行っていなかった。	子どもの体調や年齢、個々の体力等を考えながら遊びを提供していく。	1.定期的に実施	実施頻度（５５）回/年	3.未実施	実施頻度(０　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８　)回/年	事故の際、長縄の破損等はなかった。また、周囲に障害物は無く、安全領域は確保されていた。	今後も安全点検を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	他園児も遊びに参加はしていたが、順番に１人ずつ長縄を跳んでおり、跳ぶことを阻害するほど近い位置にもいなかった。	体調や体力、月齢に合わせた遊びの内容等を考慮しながら活動を提供する。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	体調不良で欠席（5日間）していての久しぶりの登園初日であった。また、登園前２日間は体調が回復したため家族で外出をしたとのことで、受傷日は疲れている様子があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士１名が、対象児が跳んでいた長縄の端を握り、横に揺らしていた。至近距離で様子が見守れる位置にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は長縄を実施していた位置から約４ｍの位置に立ち、全体を見守っていた。もう１名は、園庭遊び後に実施予定であったシャワー浴の準備を行っていた。		子どもへの声かけ、職員間での声かけを徹底し、安全な保育環境を整える。	
7756	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64			16	16	19	13			10	10	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	ハザードマップを作成し、リスク管理していたが、子どもの活動に対して保育士の危険予測が甘かった。	マニュアルのみに頼らず、自園、個々の成長発達に応じた遊具の使い方を考えること、安全点検確認・共有をする。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年 実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	クライミングロープに関しては、日々、点検を行っており、安全面を考慮して制作した遊具であった。使い方に対しての危険予測が足りなかった。	遊具の安全確認・使用方法の再確認・保育士のポジション・年齢と個々の発達に応じた関わりを見直していく。	3.個人活動中・見守りあり	保育士の配置はされていたが、本児の状況把握や危険予測が足りなかった。	遊びの見守り等、視野を広く持ち、いざというときに動けるような体制をとること。遊具の扱い方等ヒヤリハットなどで共有し適年齢の判断や危険予測の共有をし高めていく。	1.いつもどおりの様子であった	普段からこの遊具で遊ぶ姿が見られており「足が地面につくんだ」と自信を持っている発言もあり、過信していたことが考えられる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士がそばにいたが、高いほうを使用している子に目を向けていたため、使用方法をしっかり確認できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいたが、ほかの遊びを見守っていた。	保育士がそばにいたが、高いほうを使用している子に目を向けていたため、使用方法をしっかり確認できていなかった。本人より1本のロープを持ち足掛け周りのようなことをしようとしていたと聞く。危険予測が足りなかった。	保育士一人一人の危険予測の質を高めるために事故の手前のヒヤリハットに気付き職員間で共有し改善策や様々な危険予測を行えるようにしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7757	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25					9	14			2	2	6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	・使用に際して正式なルールがなかった。・正しい使用方法、教え方を職員が把握していなかった。・使用方法や教え方が人により異なっていた。・発達段階表のフォーマットに、鉄棒・巧技台等の項目がなかった。	・鉄棒やマット、巧技台に関するルールを決め、共有する。・発達段階表の項目を、発達に合わせて定める。	1.定期的に実施	実施頻度（ 300 ）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	なし	設備の点検は毎日実施しており、鉄棒自体に不備はなかった。今回の事故の直接的な原因とは考えられないため、ハード面での改善策はなし。安全点検は継続する。	1.集団活動中・見守りあり	・"前回り"はその日の活動計画にはなかったにも関わらず、子どもたちからの要望もあって、保育者が1人補助につくという条件の元、急遽組み込んでしまった。・前回りを行う上で、段階があることを把握しておらず、出来そうだと安易に判断してしまった。	・発達段階表を確認しながら、子どもへの教え方、声の掛け方、保育者の付き方、援助の 仕方を共有する。・その日の活動内容に予定していなかった項目は行わない。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で、当初計画していた、手でぶら下がる動作を10〜20秒行い、続いて手と足をかけてぶらさがる動作を10〜20秒行った。その後、前回りもやりたいと要望があり、保育者が手を添えながら実施した。一回目の前回りに成功し、本児の希望で2回目を実施。まわりきったところで、本児は両手を鉄棒から放してしまった。足がまだ地面についていない状況であったため、背部からマット上に落下した。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児の右側に付き、本児の体に手を添えながら前回りを援助していた。2回目の前回りの際にも同様に手を添えていたが、本児が回りきったタイミングで手を放したため、転落を防げなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同室にいたもう1名の保育者は、巧技台についており、鉄棒の方にも目を配ってはいた。	なし	園児が安全な状況で活動を行えるよう、保育者は対象児の発達段階に応じた補助をする。鉄棒で前回りを行う際は、足をついて鉄棒から手を放すまで、保育者は補助している手を離さない。日常の保育の中で危険を予測する練習を積んでいく。鉄棒や巧技台を使用する際のルールを、保育者全員が同様の動きができるように共有する。	
7758	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	48			12	11	12	13			6	6	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	進級したばかりだったこと、戸外遊びから入室となる活動の切り替え、お迎え等で、落ち着きがなかった。	3歳児と5歳児では身体、運動面においても活動量に差がある、進級当初は情緒面において落着かなかったり、不安に思うお子さんがいるので、個別に対応し、手を繋いだり、椅子に座る、早めの入室等をしていく。送迎時には子どもから目が離れないように保護者の方に側まで来てもらう。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	周囲に遊具等はなかった。	今後も遊具配置場所を確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	活動の区切りであり、お迎え時間とも重なっていた。	お迎え対応している最中に他の子の保育に支障が出ることが予想される。お迎えの際は速やかに対応できるよう今後も保護者、職員と協力をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	進級したばかりであったので、少し周囲の雰囲気や子ども達の気持ちも落ち着きがなかったのではないか。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	保育者の側にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周囲の様子を見ながら、片付けやお迎えの対応をしていた。	雨が降り始めたことで、全体がいつもより落ち着きがなかったかもしれない。	天候や活動の区切りは特に子どもの動きに注意していく。	
7759	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46			11	11	16	8			5	5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	普段は大人しく活発なお子さんではなく、集団遊びに慣れていなかった。	保育記録等を確認し、どのようなお子さんか把握する。集団で遊ぶ際は広い場所や危険物がないか確認し、人数などを考慮したうえで発達に合わせた遊びを楽しませていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	集団遊びをしていた園庭には固定遊具等はない。	今後も危険物がないか確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	個別や集団の発達に応じた遊びの提供。	参加人数や周囲の人数にも配慮しながら楽しませていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は割とおとなしく、2〜3人で鉄棒などの活動を好んでいた。当日は仲の良いお友だちや4・5歳児一緒になって遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に保育者も当該園児と走って遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団遊びに参加していない保育者も周囲におり、見守っていた。	普段そのような集団遊びに参加していないため、動く止まる等の運動面においてまだうまく運動できない。	生活や遊びの中で運動面の発達を促し、見極める。	
7760	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				11	12	13			4	3	6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折(左肘)	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	職員配置に関しては問題はなかったものの、事故予防マニュアルの整備がされていなかったこと、また事故予防に関する研修内容をもう少し深く学ぶ必要があった。	1.定期的に実施	実施頻度（ 6 ）回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	要因として挙げられることは、通常の木よりも百日紅が滑りやすい性質であった。	園庭に植えてある木であることから改善策は特になし。ただ、性質上滑りやすい木であった為、子どもが木に登る時はより気を付けて見ていく。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	毎日の日課の中で起きた事故であり、職員配置もしっかりとなされ、環境面も危険がないように整備されていたことから、改善策は特にありません。	1.いつもどおりの様子であった	本児と保育士が色水遊びをしており、百日紅の花を取って色水を作ってみようということになり、百日紅の木に登り、降りようとした際に足を滑らせて転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	木から降りる姿を見守っていた保育士が、本児が足を滑らせた際、手を差し伸べたが間に合わなかった。本児は左肘を押さえ、なかなか起き上がれない状態だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が百日紅の木に登っていることは知っていたが、近くに保育士がついていた為、他の子どもたちと一緒に遊んでいて見ていなかった。	本児が日頃から木登りを楽しんでいたこともあり、「大丈夫だろう」と思う気持ちがあった。	滑りやすい木であったことから、保育士が気を付けて見守るだけではなく、本児にも滑りやすいこと、気を付けて降りることを伝えるべきであった。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制														事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
							発生時の体制																							ソフト面						ハード面								環境面				人的面							
								人数	異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事																																						
			施設・事業所種別	事故発生時期月	発生場所				0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員													マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7768	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	92					48	44			4		4	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右前腕橈骨・尺骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2年	1.基準以上配置	戸外遊びの時は、遊具等があっても出入口に職員を配置していたが、転落するまでだっと死角がある為、問題なかったに合わない。	今回の事故に関する内容の検証を行い、職員へ周知徹底した。又、再発防止及び、安全保育に十分配慮するように努め、危険性の高いさのある遊具には定期的に巡回しなるべく近く配置し安全を確保する。	1.定期的に実施	実施頻度(1回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1回/日	遊具の安全点検は全点検は毎日行い、遊具備はにて不備はない。	引き続き、日々の安全点検を行い、安全努力に保育に努める。	1.集団活動中・見守り	定期的に遊具の使い方について指導を行っている。又、今年度に初めてもいろ事例にんんを上げ、園児たちに指導を行った。	今回の事故の内容を子ども達に伝え、再度遊具の使い方について指導をし、又階段等で乗降する遊具は、ゆっくりと行うように指導する。	1.いつもどおり様子であった	いつもとおりとなんわらず変わらない様子でいる遊んでいた、不意に手が滑って落下した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	複数の担当職員で無当職員で無角の様に、子ども達を全体的に見守っていた。				子ども達を見守る際、危険性の高い及び高さのある遊具には定期的に巡回しなるべく近く配置し、事故やトラブルが無い様にしていく。	
7769	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17	0	0	0	0	0	0			2		2	5歳	2.女児	身長103.4cm 体重15.3kg、既往歴、持病、アレルギーなし。発育・発達状況問題なし。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	転倒時の打撲により上顎前歯がぐらつく	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回程度/年	1.基準以上配置		「全体を見渡せる保育位置で育する」等を、会議等を通してしっと共有し取り組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		これまでクラス以上に内を見渡せるよう、家具（園用のロッカー等）の配置を工夫する。	1.集団活動中・見守り		園児の皆さんには、異動（歩行等）の際は、「ゆっくり比較的近くに、ゆっくりと落ち着いて動く事と、足元に気をつけて行動する事」を、適宜伝えていき、職員は園児を見渡せる位置で保育する。	1.いつもどおり様子であった	いつもと比べ大きな環境の変化は無く、普段通ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士が対象児の比較的近くに居たが、対象児の動きに合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児の比較的近くにて保育したが、対象児の対応にて、対象児の転倒を防げなかった。

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7775	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	67	5	16	13	15	8	10			16	14	6歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		外遊び（園庭）の時の職員の配置の再確認を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭の見直し	1.集団活動中・見守りあり	活発な園児の為、動きが早い	園児にも園庭での危険等を周知し危険察知等もできるように日頃より指導する。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	活発な活動の為、見落としてしまうこともある。		園児が走っていたために転ぶのを防ぐことが出来なかった。		外遊び（園庭）の時の職員の配置を職員間で確認する	
7776	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	8									2	2	3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙亜脱臼	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	マスクを必要とする状況下での、体調・異変に特に気を付けて見守るよう研修で周知	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	マスクを必要とする状況下での、体調・異変に特に気を付けて見守るよう周知	1.いつもどおりの様子であった	元気にスクーターで遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任2名で8名の子どもたちを見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任2名で8名の子どもたちを見ていた	特になし	怪我が起こりそうな状況が少しでも見られたら、園児の状態を確認する	
7777	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30					12	18			4	4	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	日頃からマニュアルを確認する状況を作っていなかった。	マニュアルを全職員いつでも閲覧できるように、各クラス1冊＋事務室に準備する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	落下による怪我を防ぐための対策をとってなかった。	落下による怪我を防ぐため、鉄棒の下にマットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり	保育士同士の連携が足りず、目が届かなかった。	安全が確認できる環境の中で、遊びを提供する。	1.いつもどおりの様子であった	前回りが出来るようになり、友達に嬉しそうに見せていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のお迎えの対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の場所（至近距離ではあったが）で、他の子ども達の見守りをしていた。	鉄棒から保育士の目が離れた。	遊びを見守る立ち位置については、保育士同士で確認する。	
7778	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	15									3	2	6歳	1.男児	保護者との野外活動はあまりないように感じられる	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置		事故防止委員会に再度取り上げ、報告し、共有することにより、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	遊具の劣化	使用する先には、遊具の劣化がないか確認することで、再発防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	環境に慣れていない・新しい場所での感情の高まり	環境に慣れるため遊び方の説明や準備体操をすることで、再発防止に努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外で真新しいものも多かったので、テンション高めで遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具のゴール地点（ゴール地点には、タイヤでの停がある）で、「手を絶対に、はなさいで」と言葉がけしながら見ている。実際、ゴール付近にくると、遊具の反動もあって、手を放して落ちてしまった。すぐに、子どもにかけより、子どもの様子、身体の状態を検診する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	スタート地点、中間地点にいる。担当職員と同様ことばがけをする。 何事もなく通過することを見届ける。	今までに公園等での（アスレチック関係）遊ぶことが、未経験な為、遊び方を知らないのが要因として考えられる	子どもの様子を見極め、個別的対応をする必要があった。	
7779	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29									3	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員全員で、事故防止のマニュアルを再確認	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年		特に、ハード面での改善はありません	1.集団活動中・見守りあり		園庭での職員配置位置見守りの改善、危ない行動に早く気付くよう改善	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			園児に縄跳びをしてはいけない場所を指導	
7780	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13									2	2	4歳	1.男児	・抜ける前から数本ぐらついている歯があった。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	AB急性外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	担任にも伝えていくべきだが、パート保育士が見ていたので、子どもに注意を早くすべきだった。	トイレ前で、見守っていたが、声かけ、援助を充分にする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし	検討したが、トイレは部屋の前にありハード面の改善点はなし。	3.個人活動中・見守りあり	ポケットに手を入れる、飛び跳ねるの行為を、「安全指導」の中でしているが、その都度身に付くまで、繰り返し言葉かけが必要である。	クラスや全体の安全指導の中で、危険な行為について、話をしていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	ポケットに手を入れて、飛び跳ねていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	数人トイレに行っているので、近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの中で他の子を見ていた。	本児への行動に対する注意が遅かった。	危険な行為を見逃さないようようにする。	
7781	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	46	0	12	13	6	9	6			8	8	2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員間で事故予防マニュアルを再検討し、危険防止の確認を行う	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(312)回/年		クッション材のチップは元々敷き詰めているが、更にチップを増やした。	1.集団活動中・見守りあり		状況に合った遊び方を選び、安全な遊び方を指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも元気で活発な園児である。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	平均的に園児たちの見守りができる場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は他の場所の見守りをしていた。		対象児はいつも動きのある園児なので、なるべく近くで見守るように心掛ける。さらに危険な行動のないように声掛けをしていく。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7796	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	気温の低い時には準備体操など体を温めて活動をする必要があった。	・職員間で事故防止マニュアルの周知を徹底していく。・職員配置は配置基準を満たすため、特に改善点は無し。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年		定期的な施設点検の実施をしており、また遊具や玩具での事故ではないため、特に改善点は無し。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの危険の伴う動きを十分に予測して気をつけていく。	1.いつもどおりの様子であった	・ドッチボールを仲間と共に楽しんでいる時に、本児は夢中で逃げていた。自分の足につまずき転倒。手が出なかったことで、左肘に体重がかかり怪我につながってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・一緒に、ドッジボールを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・すぐ近くで、他児のトイレに付き添っていた。	普段と違う園外での活動は、行動がより活発になることを予測して職員配置することを確認する。	転ぶときは手を出すように声掛けをし、動きに十分気をつけるようにする。	
7797	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	27							0		2	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手親指にひび	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	事例検討が生かされていない	検討内容の充実を図る	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	職員が近くにいなくて、引き戸の開閉を止められなかった	戸に隙間カバーやストッパーの取り付けを検討する	4.個人活動中・子どものみ	トイレの中にいる友達が廊下に出ないように、遊びで戸を閉めたため、挟んだ。	子ども達に戸の開閉について話をする	1.いつもどおりの様子であった	体調に変わりなく元気に登園	4.対象児の動きを見ていなかった	先にトイレに行った園児より遅れてトイレに行った為、けがの場面を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋で保育をしていた	職員の位置、目配り	常に子どもの動きを把握し、声を掛け合う	
7798	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10					4	6			1	1	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	転倒時に骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	園庭で遊んでいて、5時から4，5歳児合同保育の時間帯だった。保育室に戻ろうと声をかけながらすべり台の上にいる本児を確認はしていたが、歯が抜けた園児の対応をしている最中だった。	個別対応が必要な場合は、事務所や他クラスに連絡し、複数での対応をしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	普段使っていない発泡スチロールの箱が午前保育に使用したまま、園庭に出ていた。	園庭の環境整備を見直し、危険のないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	歯の対応をしていたため、滑り台の上の本児を確認はしていたが、対応ができなかった	個別対応が必要な場合は、事務所や他クラスに連絡し、複数での対応をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	発泡スチロールの箱に入ってすべり台を滑る他児の姿を見て本児も同じようにやってみて着地と同時にバランスを崩し、箱ごと転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が滑り台の上にいることは確認していたが、歯が抜けた園児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園舎内で他年齢の子どもを保育していた。	本児が滑り台の上にいることは確認していたが、歯が抜けた園児の対応をしていたため、滑り台の至近距離には保育士がいなかった。	個別対応が必要な場合は、事務所や他クラスに連絡し、複数での対応をしていく。	
7799	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													2歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.基準配置	玄関から駐車場に向かう通路は、保護者と手をつなぐ等、子どもの安全に配慮していただくよう保護者へお願いをしているが、いつもの送迎者とは違う祖母の送迎であった。	いつもと違う送迎者の場合は、安全に降園できるよう送迎者への丁寧な声掛けが必要である。年齢によっては子どもへの指導も行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	通路の広さ、複数の人が通過する場合の決まりなど	通路に危険物がないか毎日目視点検をする。	7.その他		特になし	1.いつもどおりの様子であった			保護者に引き渡した後であったため、職員はついていなかった。		保護者に引き渡した後であったため、職員はついていなかった。		特になし	
7800	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				18	18	17			4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	総合遊具の遊び方は理解できているが、慣れから遊び方が激しくなっていた。見守り側も安全な遊び方をしているかより注意が必要であった	総合遊具での遊び方を再指導。職員への危険性の周知	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年	年齢による遊び方の変化。	年齢により遊び方がダイナミックになったり、好む遊具が変化する為、職員が年齢による遊び方の変化を認識すると共に子ども達への再指導	1.集団活動中・見守りあり	他クラスも戸外遊び	全て自由にするのではなく、クラスで遊ぶ場所を決める	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子ではあるが、お迎え前は情緒的に落ち着かない時間であったと考えられる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	総合遊具は大きい為、子どもの動きをコントロールする必要があった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの担任の為、それぞれのクラスを見守っていたため	お迎えの時間で子ども達が情緒的に落ち着かない時間である	全て自由にするのではなくクラスで遊ぶ場所を決める。全体をみる職員を配置する	
7801	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	54				21	22	11			6	6	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	足指のひび	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	朝、夕の職員配置が換わる時間帯の安全確認が薄くなっていた為。	夕方は送迎時で人の出入りもある為、子どもの遊び場所や時間をより制限し、職員が安全を把握できる範囲の環境を設定する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	1.定期的に実施	実施頻度 (毎日) /年	1.定期的に実施	実施頻度 (毎日) /年	階段裏を雲梯のようにして遊んでいた為。	階段裏は雲梯にしないことをルールとし、雲梯遊びに代わる遊びを提示する。	3.個人活動中・見守りあり	遊び場所の範囲が広かった為。	遊ぶ場所を限定し、職員が安全を把握できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特にかわりはなく、いつも通り元気であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	廊下全体を見守っていたため、対象児の至近で見守ることはしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内と屋外に職員が分かれていたため、室内では対象児を見ている職員は１名であった。	屋外と室内に活動が分かれていたため、複数の職員で見守ることができていなかった為。	活動箇所を１つに限定し、複数の職員で見守ることができる配置にする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
7802	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12									1		5歳	2.女児	
7803	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	16									1	1	4歳	1.男児	今回の意識消失との関係は不明だが、０歳児で入園してきた際には卵アレルギーがあった。２年間園では除去対応したが、H.30.4月（２歳児進級時）に解除になった。その後、摂取しても異常などはなく、普通に摂取している
7804	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	24									3	3	3歳	1.男児	右目が遠視気味であったことから、柱の存在が見えずらかったかもしれない。
7805	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43	3	5	8	12	6	9			6	6	5歳	1.男児	
7806	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	5歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
7802	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左耳挫創	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		強い力でぶつかると裂傷になるということを職員が認識し、室内活動の際、ぶつかる可能性がある場合は、子ども達に事故の危険性について知らせ、怪我のない行動ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用する時等)		机の縁や角は鋭角ではなかったが、ぶつかって切れてしまったので机の縁と角が丸みを帯びているものか、クッション性のあるものにする。
7803	8.その他	1.負傷		1.意識不明		なし	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		原因がわからないままなので、次にあった場合の対応法を保護者に確認し、単数担任のクラスだったので、配置できる時はもう一人保育士を配置し、もしもの場合に備えた。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回以上/毎日		原因がわからないので、次にあった場合を想定し、室内に不要なものや危険なものがないか再度確認をした。遊具からの落下時の衝撃防止マットの不備がないかの確認も行った。
7804	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	眼瞼裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置		事故発生時、どの職員でも瞬時に対応できるようフローチャートを張り紙し、職員会議で説明、周知してもらうようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		鉄柱に凹凸部分がないか確認。目線にはいりやすいよう色テープで柱の存在が目立つようにした。
7805	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	発生時1名の保育士は、他の固定遊具に付き、もう1名はお迎えに来た子の対応中で少し離れてしまったが、担当保育士以外の保育士に声をかけ補助を要請すべきであった。	次の日にすぐに職員で遅番時の職員の対応や約束の確認など遅番体制について検討会議を開き、普通保育から遅番への切り替えの時間は、もう一人つくこと、固定遊具の約束を確認するとともに遅番時に遊べる遊具おもちゃを再検討した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日		バーをよりしっかり安全に掴めるように、雲梯の始まりの所に、階段を設置した。
7806	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折・裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1.2)回/年	2.基準配置	特になし	・遊具の使い方等について、危険な遊び方等について、クラス全体でも話す機会を持つ。（年齢的に理解できる年齢でもあるため）	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	当日は特に問題はなかった。	・早番の職員が、点検して不具合があった場合には、速やかに対処していく。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7802	3.個人活動中・見守りあり	コロナ前は、幾つかの机をつけてグループにして座っていたので、室内の空間は現在よりも広くとれたが、現在は感染予防対策で、机を一つ一つ離して置いている為机の間が狭くなっていた。	子どもの動きを考慮した並びにする。	1.いつもどおりの様子であった	ロッカーにかばんを置き、自分の席の方向に行ったがすぐに椅子に戻らず、かばんを戻して自分の席に戻ろうとした他児とぶつかってしまい、転んだ時に机にぶつかってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	事故が起こった時にいたフリー職員は、担任と交代しピアノの所から掃除機をかけ始めた時で後ろ向きだった。				掃除をするなど子どもの動きが全部見きれない時も、始める前に全体の様子を確認したり、子ども達に声をかける等注意喚起をする。	
7803	1.集団活動中・見守りあり		原因がわからないので、次にあった場合を想定し、近くに危険なものがないか再度確認をした。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子もなく、普段通り元気に遊び、会話していた。保護者からも特段申し送りはなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	給食の配膳をしている最中だったが、意識喪失の瞬間は視界に入っていたため、即座に本児の元にかけつけることができ、すぐに対応し、大声で他の職員に応援を求めた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人担任のため、発生時は担任１人だった		全職員に状況報告をし、本児を含め、園児の体調変化にすぐ気づけるよう普段からの子どもの見方などを再確認した。今回のような重度の病人が出た場合や救急車を呼ぶ状況になった時の職員の行動マニュアルも再度確認した。	
7804	3.個人活動中・見守りあり	前方不注意と右目が遠視気味とのことが判明。見にくさがあったのかもしれない。	園児に滑り台の下には入らない事の約束と怪我についての話をクラスで行った。	1.いつもどおりの様子であった	まだ目的をもって遊ぶことよりも、友達の動きに興味をもって楽しんでいる。	4.対象児の動きを見ていなかった	滑り台すぐ横の砂場、園庭中央、総合遊具の3か所に職員は配置しており、本児が滑り台付近を行ったり来たりしていることを把握はしていたが衝突時は目でおっていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同上	進級したばかりで職員体制が十分でなかったかもしれない。	５月中旬より、遠視用の眼鏡を着用することとなったため、戸外活動や着用無しの時の取り扱いにも十分配慮できるよう全職員に伝達した。職員の配置や新入児への配慮ができるよう職員フォロー体制を見直した。	
7805	3.個人活動中・見守りあり	遅番時間に遊べる固定遊具の数をもう一度確認する。	遅番時間に約束をもう一度、確認するとともに、遊べる固定遊具をさらに制限し別の遊びを検討した。	1.いつもどおりの様子であった	朝の受け入れ時は、熱は平熱で保護者から特に変わった様子の報告はなく顔色もよかった、またクラスでも、給食もよく食べ元気に過ごす。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遅番の時間になり、幼児担当職員2名は、点呼・戸外の約束の確認などを行った後、戸外で自由遊びを見守る。1名が、ジャングルジムにつきもう1名は、迎えの保護者に対応していたため目が離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう1名は、少し離れたジャヤングルにいた子ども達を主に見ていて見ていなかった。	雲梯に職員がつくことができない状況になった場合、一時的に補助職員を要請するなどの配慮が必要だった。	切り替えの時間は、職員一人補助に入る。	
7806	3.個人活動中・見守りあり	普段と変わらない状況であった。	・5歳児の人数的には、保育士一人でも保育できるのだが、支援の必要な子がいるため、常に保育士二人で保育することを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・対象児から、2.3メートル離れたところに、一人の職員はいたが、本児が滑るところは、見ていなかった。滑り台の下にいた子ども達と会話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・もう一人の職員は、滑り台から少し離れたところで、他の子ども達を見ていた。	普段と変わらない状況であった。	・どんぐり山の中では、滑り台のところが、一番、けががあるかもしれない所なので、いつも大丈夫だからと過信せず、職員一人は必ず、そばに付き目を離さないようにする。危険な時には声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7807	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20				11	9				1	1	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	頚椎亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1．2)回/年	2.基準配置	・特になし	・園児が、予期せぬ行動をとることもあることを、部会・職員会議等で全職員が周知する。（特に、支援が必要な園児について）	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	・特になし	・保育室内の机と椅子を増やし、全員が椅子に座って活動できるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	・特になし	・怪我をさせてしまった男児についての保育のあり方等も、めばえや保護者と密に連絡をとりながら対処していく。	1.いつもどおりの様子であった	・生活リズムが整っていないこともあったり、4月になって環境が変わったこともあり、全体的に覇気がない様子が続いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・保育士一人は、本児から2メートルくらい離れたところに座っていて、絵を描き終わった子の名前等を書いていた。視野の中に本児は入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・もう一人の保育士は、給食の準備のため、室内にはいなかった。	・特になし	・めばえに並行通園している男児については、予期せぬ行動を起こすこともあるため、必ず一人職員がつくようにする。	
7808	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				3	3	4			3	2	4歳	1.男児	ガゼルの森児童発達センター利用児(二重籍)。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上前歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士が密集していた。	あらゆる危険を想定した上で、プログラムを組み立てる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	バランスボールが好きで気持ちが高まり、いつもより落ち着きがなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児童と関わりながら全体を見ていた。転んだ瞬間に咄嗟に駆け寄ったが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童と関わりながら全体を見ていた。	本児の動き（飛びつくこと）を含むリスクを想定していなかった。	遊ぶ前に約束事や遊び方を確認し、合間には声掛けを行い、注意を促す。	
7809	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13				13					2	1	3歳	1.男児	ガゼルの森並行通園利用児	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯と口唇打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	なし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室の中で、自由に走ったりバランスボールを使って遊んでいた。	遊びの中での危険や、遊具の正しい使い方を事前に伝える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	遊戯室でバランスボールを出したことで、いつもより気持ちが高まっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児童と関わりながら全体を見ていた。転んだ瞬間に咄嗟に駆け寄ろうとしたが、間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童と関わりながら全体を見ていた。	本児の動き（突然走り出す）から考えられるリスクを想定していなかった。ボールを持って走り出したため、転んだ際に手をつけなかった。	気持ちが高ぶって遊びが激しくなってきている様子が見られたら、個々に声掛けを行い注意を促すようにしていく。	
7810	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23				23	17	23			5	4	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	下の前歯の打撲、ひび割れ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(0)回/年	1.基準以上配置	なし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	子ども達が分散しており、様々な場所で遊びが展開されていた。	遊びの前に、使用しても良い場所を決めて知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	次の遊びに早く移りたくて、急いで三輪車から降りようとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で他児と関わりながら全体を見ていた。事故が起きた際に、すぐに駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童と関わりながら全体を見ていた。	・三輪車での遊び方について、保育者が危険を想定していなかった。	・遊び方について、職員と園児で再確認する。 ・状況によって遊具の制限をし、危険のないように見守る。	
7811	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									4	4	2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回以上/年	1.基準以上配置	本児が遊ぶ前に他学年が遊んでいた為、コンクリート上には、砂が上がっていた。	ハザードマップの見直し、内容検討、周知の確認	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	本児が遊ぶ前に他学年が遊んでいた為、コンクリート上には、砂が上がっていた。	砂があると転倒のリスクが上がるという認識を持ち、遊び終わる時、遊ぶ前に砂の有無を確認し砂を片付ける。	1.集団活動中・見守りあり	本児は乗り物に上手に乗れない理由から集中せず乗り物に乗ったり降りたりを繰り返していた。乗り物に乗乗らない園児は、他児が乗り物に乗っているのを見たりしてしている子もいた。	乗り物で遊べない園児に対して、座って遊ぶ砂遊びなどの遊びを用意しても良かった。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの元気な状態であった。性格は、ふざけやすく注意力が散漫しやすい為、転倒やケガの多い子である。	4.対象児の動きを見ていなかった	狭い範囲で乗り物（キックスクーター・プラスチック製車）で遊んでいる子が多くいた為、乗り物に乗っている子どもの近くにいる職員が多かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	人数分の乗り物が準備されていたが、一つの乗り物に複数人子どもが集まり、対応している職員もいた。	今年度になり初めての乗り物遊びであり、初めて乗用玩具で遊ぶ新入児もいた。	見守り専属の職員を配置する。園庭に設置している防犯カメラを有効に使う。	
7812	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19	0	0	0	6	7	6	0		2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手　尺骨　骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	施設内の事故防止委員会で定期的に話し合いを行うとともに、クラス内ではヒヤリハット等を使い考えられる事故対策を行っているが、子どもの想定外の動きにすばやく判断ができなかった。職員配置は適正であった。	定期的な話し合い以外にも、ミーティングや職員会議で職員全体にマニュアルや遊んでいる時の職員配置を再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	施設、整備は整っていて、遊具の着地面にクッションマットを敷いていた。	定期的に安全点検を引き続き実施する。	1.集団活動中・見守りあり	保育者がどの状況にもすぐに対応できるよう配置の適正化が必要である。	遊具の使い方や遊びのルール等、再度子どもと確認する。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見つつ、遊具やその他の危険箇所を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭全体を見つつ、遊具やその他の危険箇所を見ていた。	職員の配置は十分で、人数が不足ということはなかった。。	今後も予想される子どもの姿を考慮して、職員配置を見直していく。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
							発生時の体制																							ソフト面						ハード面									環境面				人的面								
								人数	異年齢構成の場合の内訳																					マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因																													
7813	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	なし	事故発生時の経緯と事故後の対応の共有、危険予測の意識向上	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(226)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	なし	職員間で危険予測の共有、園内環境の定期的な見直しを行う。	3.個人活動中・見守り	なし	段差や階段のところでは、注意して歩くことを指導する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外で植物に水かけをしていた	2.対象児の近く	竹馬や鬼ごっこで遊んでいる子ともかかわりながら近くで対象児の姿を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各担当の子どもたちの様子を見ていて事子をたので事故の様子は見ていない。	なし	危険が予想されそうな箇所では、子どもの動きに合わせ職員配置をする。	
7814	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折・右距腓靭帯損傷・右足関節皮膚炎	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(224)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	特になし	体を動かす場面において、目を離さずどんな遊び方をしているのかを把握する必要がある。縄跳びエリアを決めておき、ライン等で示しておく。	1.いつもどおりの様子であった	友達がやっていた斜面での縄跳びに興味を示し、やってみようとした。体のバランスが保てず、捻挫につながった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は休憩時間であり、保育から外れていた。助勤にあたった職員は園児の動きや状況を把握しきれていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	5歳児のもう一人担当者は支援を要する園児と行動をともにしていたことから、対象届はできなかった。他クラスの職員においてもクラスの保育をしていたことから見届けできなかった。	特になし	2名での保育であったことから、把握する範囲を決めて見届けていく必要がある。	
7815	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	22									4	4	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		構造物の近くでの遊び方に気を配っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	点検結果を踏まえれば、施設・設備に問題はないと思われる。	毎日の目視と業者による確等の確実な実施の継続。	1.集団活動中・見守り	順次、お時迎えの時間が近くなり、開放感からも注意力も散漫になっていた。	構造物の狭い間隔のところでは、特に走らないよう声掛けが必要だっ	1.いつもどおりの様子であった	小走りで移動する。	2.対象児の近く	遊具の上にいる子から声をかけられたりしていたので、転んだ瞬間は目にしていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	”痛い”という声で主担任もにとくつ下を脱がせ、足の先を確認した。		日頃の子ども様子も考慮しながら保育士の配置が臨機応変に行えるようにする。	
7816	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19	4	5	10	0	0	0	0		5	4	2歳	1.男児	発育・発達状況問題なし（活発）　発生時の天候（晴れ）	8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の神経損傷	3.子ども同士突いるものの衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置		職員会議で怪我や事故の内容を共通理解し、その際の対応方法を知ることで万一の怪我にそなえるよう確認した	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		障害物となる物をないか毎日点検し、危険につながる遊びに対し方に対し指導する	3.個人活動中・見守り		保育者間で連携をとりながら見守り体制を整えていく	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活発で遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	遅番保育担当の5名が、保育室全体を見廻りながら園児と遊び、遊ぶ様子を見守っていたが、衝突の瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし		危険の無いような見守りと、複数で担当している時には特に、落ちが無いよう立ち位置等に十分配慮する	
7817	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の動揺	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員配置に関しては問題なしと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		面積値も規定以上あり、器具の使用方法も問題なし用と思われる。	1.集団活動中・見守り		特に環境は問題はないと思われる。	1.いつもどおりの様子であった	左側前歯はぐらつき始めていたので、7/10(土)にかかり歯科で受診予定でいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スタートの合図を送るため、全員が見渡せるよう3mほど離れたところに立っており、転んだ瞬間には間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団遊びの補助として全見渡せる位置に立っており、本児の近くにはいなかった。		集団遊びを繰り返す中で、気持ちが高ぶってしまうので、特にスタート前など落ち着かせる言葉がけをする。	
7818	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	保護者へに安全面に対する周知徹底がされていない。	保護者へ安全面に対する周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	通路等に少しだが段差がある。	段差があるところ等目印をつける。	7.その他	引き渡しの子子の様子の後のものを把握できていなかった。	引き渡し後は、速やかに帰園するよう促す。	1.いつもどおりの様子であった	鞄を背負ったまま友達を追いかけた。	4.対象児の動きを見ていなかった	引き渡した後だったため様子を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	引き渡した後だったため様子を見ていなかった。	降園後は、遊ばずに帰ることを子どもや保護者に周知徹底されていない。	降園後は、遊ばずに帰ることを子ども保護者に引き続き周知徹底する。	

No	初回掲載年月日	概要/認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期/月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制/発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳/0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの/年齢	性別	特記事項	事故状況/発生時状況	事故の転帰	死亡/死因	負傷/負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析/ソフト面/マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面/施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面/教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面/対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7819	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	23				9	9	5			3	3	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	大型ブロックの扱いについて検討・あそびの検討幼児の保育者配置と乳児の配置検討を行う。	1歳からの使用の見直し（跨いで電車ごっこにするや椅子にするなどブロック自体上って使用しないことで乳児保育より遊びの使用方法を伝えていく。積んで組み立てて遊ぶなどルールを守ってあそぶ）この日は乳児の子どもがすでに少人数になっていたので保育者が幼児の方に回るのも方法だった人員配置をより手厚くするなど声を掛け合う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年			1.集団活動中・見守りあり	保育者は保育を子どもとあそびこむことと考え周りが見えていない	子どもの主体性を伸ばす保育、子どもが集中してあそびこむ保育であって保育者がマンツーマンで子どもとあそぶものではなく見守る保育に変えるていく	1.いつもどおりの様子であった	夕方姉と一緒になって気持ちが高揚	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の様子を見ていたが、他児に話しかけられ他児の背の高さで本児のあそびが一瞬妨げられた時の出来事だった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は当初傍で見ていたが別の場所に移動、本児を見ている保育者が居たので移動してしまった。またもう一人は見守りの必要な子がおりそのことマンツーマンになってしまった。	保育を行う際常に周りに気をかけながら保育を行う。	マンツーマン（集中してしまうことのない様）から全体を見る保育	
7820	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	担任以外の保育士が側にいたが、他児に声をかけられ、その対応をしていた。	体育用具の側にいる保育士はとくに、他児に対応する時も使用している子から目を離さないようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	点検結果を踏まえれば、施設・設備には問題がないと思われる。	毎日の目視と業者による点検等の確実な実施の継続。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒、平均台には毎日取り組むようにしている。	使用している子がいる時は、目を離さないことを再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	頑張って取り組もうとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	知らせを聞き、子どもの様子の確認に行った。子どもから話を聞き、少し座っているよう声をかけ、様子を見るようにした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	落ちた音・声を聴いてすぐに子どもに声をかけ、担任にも知らせた。	かまって欲しい気持ちが強く、大げさに言う傾向があった為、いつも通りの対応で見守った。	本人からの訴えがなくても、こちらからまめに声をかけ、様子の確認をする。	
7821	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	22									4	4	3歳	2.女児	入園前の家庭で保育していた時から肘内障になりやすいと聞いている。また、疲労骨折を起こしやすいと診断された。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(都度)回/年	2.基準配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		着替えに入る・給食片付けをする・トイレの排泄につく・布団の上で午睡をするなど子どもの動きが分散するため子どもの動きを見切れていない所がある事を感じる	片づけを後にして保育に携わる事の徹底	
7822	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	12									3	3	2歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	夕方は、子どもは一日の疲れがあり、集中も切れやすいため怪我をしやすかったと思われる	走ったり、跳んだりするなど激しい動きのある活動は、子どもの状況に合わせて午前中に行う	1.いつもどおりの様子であった	友達や保育士と一緒に、音楽に合わせ体を動かして遊んでいる	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児や他の園児と共に、ダンスに参加していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	学級全体の様子を見守りながら、他の園児と関わっていた	特になし	特になし	
7823	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	21	1	1	3	6	5	5			5	5	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		朝の打ち合わせで死角や、気づかないことなどを話をして、職員同士で声を掛け合う	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		定期的な点検を続ける	3.個人活動中・見守りあり		人数が少なくなると、子どもたちも立ち上がったりする事が多くなるので、更に注意する様、声を掛ける	1.いつもどおりの様子であった	保育室にマットを敷いて、ブロック遊びをする際、正座をして遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が足が痛いと伝えてきたが、様子をみていると、腫れもなく、その後も普通に歩いたりしていたので、そのまま様子をみていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			正座をしたり、座り方や、遊び方が気になる子には、その都度声掛けをする	
7824	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	62					32	30			4	4	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	子どもに体の使い方を知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	園児自らの転倒事故なので、園として改善する要因は見つからなかった。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特に危険個所はなく、日常遊んでいる環境なので、改善する点はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていて、鉄棒の下をくぐり、バランスを崩したようだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見ていたが、くぐって転倒することは予想していなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)		特になし	園側の改善策は特に見当たらなかった。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7830	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	1	6	16	23	24	26	23	6		3	3	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	脛骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.基準配置	本児の保育場所は基本は0歳児保育室であるが0歳児の午睡時に職員室で過ごしている。保育補助が本児と一緒に職員室に移動したが、保育者がトイレに行く間、本児の保育を職員室の職員に引き継いだ。職員室には3名の職員が在中していたが、保育者の特定がされて居なかった為本児の行動から目を離しその際事故になる。	常に本児に付く特定の職員を配置する	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日１)回/年	職員室で過ごす際、本児が動いて当たると危険な所は把握していたが、コピー機の隙間に足が入る予測は出来ていなかった。	職員室で保育する時は、ベビーサークルの中で過ごし安全を確保する	7.その他	コピー機の隙間に足を入れるという行動が予測出来ず、事故が起こった。	周りの環境を見直し、職員室で過ごす時はベビーサークルを設置し、安全を確保する	1.いつもどおりの様子であった	本児は床に寝転がり移動することが多い。当日も横転して移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員室3名で本児の動きを見ていたが、特定の担当者は決めていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の動きから目を離した	本児の近くに居た職員が他の職員の対応で本児の行動から目を離した際、事故が起こった。	本児の行動に対する予測をし、安全な環境を作り過ごす。特定の担当者を決める。	
7831	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									2	2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	担任と支援員の連携不足	保育体制の見直し一日の活動の流れと保育者の位置の確認	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年 職員による点検は毎日実施	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年 職員による点検は毎日実施	園児が約束を理解しているという思い込み想定外の行動をとることへの認識不足		3.個人活動中・見守りあり		担任と支援員で間で連携をとり、見守り体制を整えていく	1.いつもどおりの様子であった	日頃からやや落ち着きに欠け、注意散漫な様子が見られることがある。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は園庭にいる園児の活動を援助し、時折、室内の園児の活動の様子を確認していたが、事故発生時には不在となった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を必要とする園児とともに園庭にいた。		保育者が危険性を再認識し、見守りを怠らないよう配慮する。	
7832	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	5									2	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.基準配置	本児の体づかいの不器用さ・体幹の弱さがある。	体を使った遊びをより多く体験させていく。	1.定期的に実施	実施頻度(261)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(265)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(211)回/年	戸（サッシ）のレールや廊下の落差などでつまずくことがある。	室内・廊下の点検・整備を行う。	3.個人活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	クラスのほとんどの園児が戸外あそびをしていたため、戸外に出ようとしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	担任が本児と一緒に戸外に出ようと、本児の傍を歩いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭であそんでいる園児の保育。		職員間で連携をし園児たちの状況を把握する。（どこで遊んでいるか)	
7833	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３　)回/年	2.基準配置	子どもの動きに対して危険予測が不十分だった。	子どもの姿や遊びを職員間で共有・周知し、どの職員も意識できるようにしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(200)回/年	遊びがさらに楽しめるように滑り台の降り口の砂場に掘った穴が逆にバランスを崩しやすくした。	危険予測を充分に考えた上であそびを提供していく。	1.集団活動中・見守りあり	楽しい遊びではあるが、危険予測を充分に行い遊び方が適切であるか判断する必要があった。	危険予測を充分に行い、あそびを提供していく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わった様子は見られず、元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険も伴うと予想があったため、滑り台から離れずに見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもの人数が少なかったため、担任一人が外あそびについていた。	楽しい遊びではあるが、危険予測を充分に行い場合によっては補助職員に入ってもらう必要があった。	活動の内容によっては職員配置を考えていく。	
7834	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２４　)回/年	1.基準以上配置		保育室では走らない、平均台などを行う時は、職員がいる時に行うことを子ども達に伝え、みんなで確認しあう。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年		次の活動に移る前に歩いて移動することを伝えてから行動する。	1.集団活動中・見守りあり	次の活動に移る際全員一度に呼んでしまった。	朝の受け入れの時間だったので、平均台などは、みんなが来て担任が見れる状態で出す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他の子が平均台の周りでふざけていたので、それにつられその勢いで平均台を渡ってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走りだしたので、止めようとしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	野菜の収穫と水くれに担任と当番が行っていた。	全員を見渡せた保育士が1名しかいなかった。走り出すかもと予測はしていたが、声掛けが間に合わなかった。	運動遊び用具は、担任がいる知己に指導しながら行う。	
7835	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	9									3	3	1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	2.死亡	2.窒息				8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	・離乳食のメニューが1種類しかなく完了期のメニューは作成されていなかった。・離乳食の進め方については、保護者との相談は口頭確認のみで行い、書面で記録を残していなかった。	・離乳食メニュー（初期・中期・後期）及び完了期のメニューを増やして作成。・離乳食の進め方『喫食状態聞き取り』書を作成し、家庭と連携しながら進める。離乳食児に、食札（名前・月齢、献立の配慮したもの等を記載）を使用し、毎日担任と給食室及び園長で確認しながら進める。・保護者には『離乳食の進め方の目安』や『1回あたりの目安量』のプリント文書を配布し、園と保護者の認識とくい違いのないように進める。『離乳食の進め方マニュアル』を作成し、マニュアルに沿って離乳食を進める。	2.不定期に実施	実施頻度(４　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(６　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８　)回/年	特になし	特になし	6.食事(おやつ)中	給食メニューの中の汁物で水分補給をしていたが、さらにお茶での水分補給も加えるとよりよかった可能性がある。	食前、食中、食後にさらによくお茶を飲ませ、水分補給を充分するようにした。	1.いつもどおりの様子であった	食事をしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	3人の園児を担当し、対象児に対面で食べさせていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当の子どもを食べさせていた	苦手な食材を少しでも食べられるようになってもらいたいため、好きな食材と交互に与えていた。	苦手な食材を少しでも嫌がった時は、よく噛まずに飲み込むリスクを避けるため、その食材は残すようにした。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7836	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	6									3	3	1歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上第1歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	食事の時の職員の動き、マニュアルをクラス内で周知できていなかった	食事の時の職員の動きや、介助の仕方、その子に応じた関わり方をクラス内で話し合い、周知しておく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	椅子が後ろにすべりやすい。	椅子を動かすことができないように壁を背にしておく。椅子と机の高さがあっているかもう一度確認する	6.食事(おやつ)中	２人食べをするには早い時期の児を２人食べにしていたために起こった。２人食べをしていて、向かい側にいる児の介助をしていた時目が離れた	壁を背にしておくようにする。１人食べをする。目が離れないようにしばらくの間完食するまで１人食べにする。	1.いつもどおりの様子であった	保育士のひざに座ったり椅子に座ったり行き来していることがある。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	他児と一緒に２人で１つの机に座っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の児の遊びの見守り、他児の食事介助をしていた。	座って食べたり、保育士のひざに移動して食べたり普段からしていた	椅子で食べることができるように「椅子に座ってたべようね。」などと声をかけながら子どもの様子を確認しつつ食事介助をする	
7837	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	腫れがなかったことと、普段通りに生活していたので、お迎えの時にそのことを伝え、夜に担任から電話を入れる。休みに入るため、何かあれば知らせてほしいことも伝えていた。	週末だったので、念のため受診をするべきだった。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	園庭で走っている時の、様子など見守りが必要。どのように転んだのかを把握する。	園庭の整地を行う。	1.集団活動中・見守りあり	友だちと手を繋いで走ったりしていないかの見守りはしていた。	日頃の保育の中で、遊びのルールを子どもたちと確認しておく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃の遊びと変わりはなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	友だちと遊んでいたのは把握していたが、転んだ瞬間は見切れていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだことを伝えに来たので、医務室に連れていき、状況を聞いて、複数で確認し、処置をする。	子どもからの聞き取りとなったため、イメージがバラバラだったことが考えられる。	保護者に伝えて、様子を見てもらったが、月曜日腫れがあったため受診をする。	
7838	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27						27			3	3	6歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり		実施頻度( )回/年	2.基準配置	特になし	職員は全ての子どもが視界に入る様な配置場所を常に考え行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	園庭の見回りの強化	1.集団活動中・見守りあり	特になし	鬼ごっこをする前に、鬼はやさしく他児にタッチする事を子ども達と約束する。ソフトタッチをする理由を子ども達と考える等。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしている時、鬼にタッチをされ左足をひねる様に倒れた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を見ていたが距離があり倒れるのを防ぐ事が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他のグループの遊びを見ていたので対象児が倒れる瞬間を見る事が出来なかった。	特になし	コーナー遊びをしている時も、職員一人一人が出来るだけ全体を見る事を意識する。	
7839	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				3	3	4			1	1	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指、薬指のひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	実施頻度(随時)回/年	特になし	1.集団活動中・見守りあり	朝の合同保育の時に跳び箱を出していた	朝の異年齢児がいる時間は,保育士が一人でも安全確保が出来る遊びの環境を準備する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていたため、跳び箱のそばから少し離れていた		1人で見ていた為、他の職員はいなかった	全体を把握できる場所に職員がいなかった	跳び箱など運動遊びの固定遊具には、保育士が必ず側で見守るようにする。	
7840	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	26				26					2	2	3歳	1.男児	特記なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	遊具の事故予防に関する職員の意識統一ができていない	事故予防に関する意識を高めるために外部の研修に参加したり、園内でも事例をもとに話し合っていく	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	公園内にある遊具が、子どもの遊具ではなく健康遊具であった	散歩先や公園の遊具が、遊ばせる子どもの年齢に適正なものかの確認を行う	1.集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいる公園であり、遊具の制限をかけていなかった	子どもたちへ遊具の使い方の指導を徹底するとともに、散歩に付き添う職員間でも遊具の付き方・遊ばせ方など意思統一しておく	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	公園ということもあり、保育所内での遊びより活発であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊具の側につき、子どもたちが遊ぶのを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊具につき、子どもたちが遊ぶのを見守っていた	遊具の側にはついて見守っていたが、子どもたちの行動が予測できず事故つながってしまった	散歩先での危険なことを具体的に予測し、職員間で意思統一しておく	
7841	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24				8	8	8			1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(複数)回/年	築山の斜面が急である	滑りやすく転倒する事がある為、子どもたちと危険個所を確認し、気をつけてあそぶように声をかける。	1.集団活動中・見守りあり	築山でのかけっこ、跳び下り、駆け下り	築山でのかけっこ、跳び下り、駆け下りを禁止ルールとし、子どもたちとも共通認識とする。	1.いつもどおりの様子であった	他の園児と一緒に遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	1名の保育士が他の園児の対応中であった		事故当時1人であった	職員人数に応じた活動が出来ていなかった	配置職員数に応じた活動を行う	
7842	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				13	15	12			5	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手 前腕2本若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(365)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	砂場のおもちゃの棚の横に本児が取ろうとしたおもちゃを掛けていた。	遊ぶ前に必ず保育士は日常点検を行う。おもちゃ置き場の動線を考えて、片づける場所や方法について子どもたちと相談して危険のないよう見直す。	3.個人活動中・見守りあり	友だち同士であそんでいる子どもにぶつかられて転倒した。	おもちゃ棚の近くで遊ばないように常に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	おもちゃのぽっくりをおもちゃの棚の横から取ろうとしていたときにぶつかられて転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は担当保育士に引継ぎ中で当該児童を見てなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担はしていたものの、他職員は児童のトラブルに対応していたり、トイレに付き添っていたので怪我の状況は見ていなかった。	担任はおもちゃ棚の近くで遊んでいる子どもに気付いていなかった。	長時間での遊び方を再確認し、広い場所を見つけて遊ぶように引き続き伝える。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項
7849	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	24					24	21			3	3	4歳	2.女児	本児の身長106.8cm ぶつかった相手の身長102.4cm 身長差4,4cmあり
7850	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	23									2	2	6歳	1.男児	
7851	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									4	4	5歳	1.男児	発達障害と診断あり、療育への通所もされている。個別支援計画あり。
7852	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	12									4	4	2歳	1.男児	軽度の発達障がいがあり、療育に通っている。

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
7849	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	右顔面打撲傷、右眼窩内側壁骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	特になし。	登園時間が様々なので、当番時間帯を超えても全員が登園するまで自由遊びをしていた。しかし9時からはより安全面を考慮して自由遊びはやめて設定保育に変更した。
7850	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし
7851	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯打撲・下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１４　)回/年	2.基準配置	・自由に動く子ども5人を保育士1人で対応していた・子どもたちの動きの全体把握ができていなかった	・活動内容によって、子どもの人数に関係なく、複数の職員で対応する・上記のことを、活動前に検討して職員の体制を整える・保育の体制が整わない場合は、活動内容を再検討または変更する
7852	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	特になし	特になし

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7849	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	園庭の構造上、Uターンをし走り続けることにより、鉄棒前あたりは加速しやすい状況になっている。	鉄棒前に外用机の配置換えをし、園児の動線を整理する。	1.集団活動中・見守りあり	全員が登園するまでの間、園児が自由に遊び、園庭の色々な場所を走っている。	朝、複数クラスが出ている時は走らないこと等職員間で再度確認し、そのルールについて4，5才児クラス園児に伝えた。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は、砂場に向かって直線に走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	具体的内容記載欄）他児が走り、Uターンをして対象児と衝突したのは見ていたが、距離が離れていたので止めることができなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場前に机をだして他児と砂遊びをしていた。追いかけっこをしている子供がUターンをして走る向きをかえ、対象児と衝突したところをみた。	職員３人で園庭の様子はみていたが、衝突は止められない状況だった。	保育内容の見直しをした。9時までの当番保育の時間帯で複数クラスが同時に園庭で遊んでいる時は、走る遊びをしないようにを指導した。 9時からの設定保育では、リズム遊びなど体を動かす遊びをし、発散できるようにする。	
7850	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	充分に広さが確保できないところや道が悪い場所では、転倒や怪我につながることなどが予想された	歩く時、走る時など場所によって配慮し、子ども達も意識できるように声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	朝は元気に登園し、散歩中も機嫌よく遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ながら、対象児を離れたところで見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子を個別に対応していた。	保育者一人が他の子どもの対応をしていた為、2人で全体の様子を見ることが出来なかった。	保育士同士で声を掛け合い、子どもたちの位置や状況など把握し、一人が対応している時は待つなど連携を図り、保育を進めていく。	
7851	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	・保育室の環境は広さや床の材質を含め、風船遊びには適していなかった	・保育室ではなく、遊戯室で行う（ソフトマット等の使用）	1.集団活動中・見守りあり	・保育室の環境（広さや床の材質等）が風船遊びに適しているかどうかの検討ができていなかった・事前に風船（動きの予測がつかないもの）を使用するときのイメージや遊び方、約束事を子どもたちと確認できていなかったため、子どもが思うままに動いてしまった	・活動に適した場所かどうかについても検討しておく・事前に風船遊びのイメージや、、遊び方のルールを子ども達と確認する（風船が思うように動かないこと、２～３人ずつ順番に遊ぶなど）	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児の希望の活動だったため、風船に意識が行き周りが見えない状況	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の動きに注目していた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	所庭で他１１名の活動を見守る	・少人数なので、担任一人で見守ることができると思った・本児を含め、それぞれの子どもがこの活動時にどのような動きになるか（それぞれが自由に移動する、転倒する等）を予測できていなかった	・担任間でどのように遊ぶのか（動きのある活動をする際は全体を一人で見ることが難しくなるため、２名で保育する、活動場所、保育体制が整わない場合等）詳細をしっかり確認、検討、共有しておく・日頃の様子から、危険につながるような子どもたちが苦手な動きや気持ちが高揚する場面等を読み取り予測して対応していく・今回のようなことは誰にでも、どのような場面でも起こり得ることなので、どのような活動においても、担任間やフリー職員で遊び方や準備など、環境設定を確認し共有したうえで行っていくことを職員間で再確認しあう	
7852	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	対象児を含めて、遊具を使用していたが、使用回数は少なかった。	遊具の使用年齢の確認と、遊具を使用する際の保育者の立ち位置の見直しを行う	1.集団活動中・見守りあり	年齢的に危険と思われる遊具を使用してしまった。	当該遊具の使用について職員間で検討し、子どもたちの発達に応じてあそびを進めていく。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は発達障がいがあり、療育へ通っている。普段より急な方向転換などの突発的な動きをすることがあったため、当時も個別に見守りをしていたが、遊具を使用している時に突発的に方向転換したと思われる。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	個別対応をしていたが、職員が対象児から一瞬目を離してしまい、他の職員に対象児の動きを伝達出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の援助を行っていたため、対象児の突発的な動きに対応出来なかった。	本児の特性を把握して個別対応をしていたが、連携がうまくいっていなかった。	個別対応を徹底するとともに突発的な動きに対応する事が難しい場合は職員間での声掛けを徹底する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7858	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足首)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	7.その他	回転したときにバランスを崩し、体を支え切れなかった様子。	保育の中で体幹を鍛え転ばぬ体を作る活動を取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	部屋を片付けていたので、当該児童がテラスへ出たのを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋を片付けていた。	午睡後、担任は部屋を片付けていて、本児が一人でテラスに出たときにおこったので、気づくのが遅くなった。	一人ひとりの位置や動きを把握すると共に、いつでも痛みがある場合はすぐに伝えるように子どもたちに話をしていく。	
7859	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	適宜な事故予防研修が必要。	全職員で定期的にマニュアルの見直しをする。	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	職員の手作りの遊具の為、安全面が弱かった。	新しい遊びの時はシュミレーションを行う。危機の予測を立てる。	1.集団活動中・見守りあり	遊びの内容と見守りのバランスが悪かった。	職員が連携して遊びの内容を理解し、あそびに応じた職員配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児を見つつ当該児童を見ていたが、目を離す事もあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と同じように当該児童から目を離す事があった。	遊びの内容と見守りのバランスが悪かった。	職員が連携して遊びの内容を理解し、あそびに応じた職員配置を行う。	
7860	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	職員に対して、鉄棒の指導法の周知が完全ではなかった。	職員間で鉄棒の指導法について話し合い、共有し指導にあたる。	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒を始めようとしている当該児童に気づき、補助につくべきであった。	鉄棒を始める際は、保育者に声を掛けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から、鉄棒に意欲的に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の近くにはいたが、一瞬の出来事で落下する当該児童に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	次の活動の準備をするために、当該児童から目を離していた。	当該児童は鉄棒の取り組みを始めたばかりであることから、もっと傍で見守るべきであった。	担任保育士２名が、連携して鉄棒遊びを見守る。事前に子どもたちに鉄棒遊びのルールを伝える。	
7861	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9									1	1	6歳	1.男児	前日夜、自宅にてベッドから落下し、右上腕部外側に打撲と裂傷を受傷してきており、登園時に保護者から その旨の引き継ぎがあり、当該児童も少し元気のない様子だった。負傷した腕を気にしている様子がうかがえた。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	室内で走るっ行為を取り入れた集団遊びを行ってしまった	室内という環境に適した集団遊びを考える	1.いつもどおりの様子であった	前日の家庭でのケガがあったものの、対象児が熱望して始めた遊びだったので、いつも通り元気な様子で遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りながら、速く走らないようになどと声かけをしつつ見守っていた。		事故の際保育士は1名だった	前日に家庭で負傷してきている状況であったが、本児が熱望したので、あそびをしてしまった。	子どもの希望を受け止めることよりも事故の防止を考えて、今後は遊びの内容を配慮する。	
7862	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2-3)回/年	2.基準配置	特に無し	予測不能の事故が起こる事や状況の把握、確認をする習慣の周知徹底。	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	おもちゃを入れているかごが、マットや机の上ではなく、動線上にあったため（安心カメラで確認する。）。	物の整理整頓、及び室内では走らない事を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	足元が確認出来ない状態で走りだした。	環境整備	1.いつもどおりの様子であった	ほぼ1対1の関わりで、落ち着いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	抱っこから降りたいとの事で、降ろした際に走り出した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応及び送迎の対応をしていた。	特に無し	室内は走らず歩くことをこれまで通り伝えていくと同時に、躓く原因等になりうるものは動線に置かないようにする。	
7863	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	9									3	3	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置		ヒヤリハット報告を継続し事故を未然に防げるように努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園外施設のためハード面を改善することはできないが、戸外活動時に現在も行っている活動前の安全点検を継続し事故の再発防止に努める。	3.個人活動中・見守りあり		日々の保育の中で危険予測の力が身につくよう、身近な危険について話をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	木登りをしており、さらに上に登ろうとし木の節に右足をかけたところ滑ってしまい落下。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	木登りをしようとしていた対象児に手を貸し、両足をかけた所で自分で木をつかむように促し、実際掴んだのを確認してから手を離した その後近くで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名は加配児についていた。もう１名は全体を見ていた。		危険が伴う遊びでは、より強く怪我や事故を防ぐ意識を持ち見守るようにしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7864	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									4	4	3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手人差し指 末節骨折、挫創	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1．2)回/年	1.基準以上配置	配置基準は満たしているが、人数だけでなく、移動の際や子どもたちの様子を見て、人数配置を考えていく必要があった。	子どもの人数や様子、移動など人数配置を考えていく。移動は、子どもの人数が減ってから行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1．2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	柵の蝶番の部分は、カバーなどなく手や指が入る状態だった。	柵の蝶番部分にカバーを取り付け手や指が入らないようにした。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの気持ちが落ち着いていない状態だった。	移動や階段使用の際は、子どもたちを落ち着かせ、階段を降りることに集中できるようにする。階段や柵の危険性を子どもたちに伝える。	1.いつもどおりの様子であった	普段から突発的な行動が多く、危険行動も見られていたので、事故や怪我につながらないように気を付けていた。活発で好奇心旺盛な児であり、事故の際も柵の蝶番部分に興味を示し、指を入れ、自分で柵を閉めてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児が階段を下りている最中で、他児に目を向けて、本児から目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は列の先頭についており、全体を見ていたが、一番後方にいる本児の様子に気が付かなかった。	普段の突発的な行動を起こす本児の状況を把握していたにも関わらず、階段で目を離してしまった。	子どもたちから目を離さず、突発的な行動の見られる本児の様子を考慮し列の先頭にするなど対応していく。	
7865	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	16									2	2	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度 (7～8)回/年	2.基準配置	普段から戦いごっこ様の動きが好きで、危険な動きをする事が多い。危険予知能力が未熟である事は保育者も理解していたが、加配レベルではない。	どのような動きをすると、骨や筋肉、関節に異常をきたす危険があるかを、体のしくみのお話を通し繰返し伝えていく。危険な時に自ら体を守れる動きが取れるよう、普段から様々な動きのある遊びを実施し、経験を通し継続的に学べる保育の提供を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故に関しては、ﾊｰﾄﾞ面での要因は考えにくい。	人工芝で足がひっかかり転倒する様な場所ができていないか等、今後も定期的な点検を継続する。（今回の事例では、つまずいていない)	1.集団活動中・見守りあり	晴天の屋上園庭、広く障害物の無い場所なので、開放的な気持ちになり、大きな動きをとりたくなる誘引となった可能性が考えられる。	広く障害物が無い場所で走る時は、最後まで気を抜かず、走りながら危ない動きをしないよう事前に注意喚起をする。	1.いつもどおりの様子であった	体調はいつもと変わらない。この日はプレイランド（室内遊技場）で遊びたかったが、別の用途で準備中にて、ｽｶｲｶﾞｰﾃﾞﾝで遊ぶ事になった。走るまではいつも通りだったが、走りきるまでにジャンプした事だけはいつもと違っていた。（準備運動後に走るのはいつもの流れで、本児もいつもは最後まで走り抜けていた。）	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴール地点で待機中の他児と一緒に担当保育者がいて、本児が走って来るのを見ていた。保育者から3～4mの距離で本児が走りながらジャンプし着地に失敗する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう１名の保育者はスタートの位置で次の遊び（シャボン玉）の準備をしながら見ていた。（反対側にて至近距離ではない)	本児はウルトラマンや仮面ライダーの動きをしてなりきり遊びをするのが好きだった。皆はゴールまで普通に走り抜けていたが、本児は何故かゴール付近で回転するようにｼﾞｬﾝﾌﾟしたくなったのだと思われる。（かっこよくゴールしたかった）普段しない慣れない動きだったため、ケガにつながったと思われる。	走りながら、なりきり遊びを行うと、バランスを崩して転倒やケガの危険がある事を繰返し伝える。	
7866	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60	0	0	0	22	23	15	0		3	3	6歳	2.女児	天候：晴れ	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		左足関節捻挫・左足関節外顆骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	転倒やケガを起こしやすい場所について、職員への周知が不十分であった。	乳児部会・幼児部会で月1回危険個所の確認等をし、注意喚起していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型遊具周囲に敷き詰めていた人工芝を2月5日～6日に張り替えをしたばかりであった。園児たちへ人工芝張り替え後の注意喚起が欠けていた。	鬼ごっこなどする場合は、人工芝内まで侵入しないよう注意喚起する。侵入の無いよう保育士が注視するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	この日は本児クラスの懇談会があり、担任保育士は園庭に出ていなかった。	担任保育士が関わることが出来ない場合は、ケガ等しやすい子について事前に担当になる保育士に情報を伝え、注視してもらうようにする。	1.いつもどおりの様子であった	もともと運動活動は得意ではない。おままごとや砂場遊びを主にするような子である。年長児であり、2月下旬から午睡時間が短縮された。休息時間はあるものの、今までほど睡眠しなくなったことで身体疲労をしていた可能性がある。最近活動的なお友だちと仲が良くなり、この日は一緒にこおり鬼を楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	A保育士：六角ジムと雲梯側におり、遊具を使用する子を主にみていた。こおり鬼をして遊んでいる子について把握していたが、ずっと注視することは出来なかった。本児が足を捻り転倒したことには気づかず、本児の周りに他の園児が集まり、「だいじょうぶ？」と声をかけている様子に気付き、本児のところへ駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	B保育士：鉄棒側におり、主に鉄棒を遊ぶ子をみながら、園庭周囲を確認していた。こおり鬼をして遊んでいる子について把握していたが、ずっと注視することは出来なかった。C保育士：雲梯側におり、ボール遊びをする子と関わりながら一緒に遊んだりしていた。時々、全体を確認していたが、こおり鬼をしている子について注視することは出来なかった。	人工芝を張り替えてから、芝を踏む感覚も以前とは異なる為、園児たちに転倒などに注意するよう注意喚起することが出来ていなかった。	この時期は年長児の生活状況の変化もあり、午後は心身共に疲れやすかったりするため、激しい遊びをする時は柔軟体操をしっかりと実施し、事故が起きやすい場所は遊ぶ前に園児達と確認をし、遊び方に注意していく。	
7867	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									4	4	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第５趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/週	1.基準以上配置	毎週のヒヤリハット検討を行っていたが、はだし保育によるリスクについての検討はされたことが無かった。	各クラスではだし保育による机・椅子等のリスクを出し合い検討を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	園児たちの椅子の間隔が狭く、容易に隣の児の椅子に接触する状況だった。	椅子の間隔を広くする。保育室内の広さを考慮した椅子の配置を検討するべきであった。	1.集団活動中・見守りあり	行事の練習中であり、子どもも、職員も通常と違う動きをしていた。	いつもと違う動きで子ども達が環境に慣れていない事を職員が意識した上で注意して子どもに目を配っていく。	1.いつもどおりの様子であった	集中力が切れており椅子を動かしたり隣の児とお喋りをしている様子が見られていたが、他の卒園児と共に椅子に座っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は17人の園児の端に立ち、次の活動の説明をしようとしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	副主任は卒業証書授与をしていた。副担任は配慮児についていた。主任は一部練習の様子を見に来ていた。	職員はそれぞれの役割についており、全体を観察する職員がいなかった。	全体を観察し危険な場所等に注意をしていく役割の職員を配置していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
7868	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	19									1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
7869	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30	0	0	0	0	20	10	0		2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	前距腓靱帯損傷腓骨骨折（ひび）	8.その他
7870	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18				18					2	2	4歳	2.女児	発育、発達状況良好。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指末節骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの
7871	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18		7	11						9	9	2歳	1.男児	在胎週数３６週、双生児、出生時体重２３０２ｇ。先天性の遠視・乱視あり。右の内斜視強く１歳８ヶ月で手術、矯正眼鏡かけ始める。視力以外の発育・発達で遅れを指摘されたことはないとのことで今年度入園してきているが、入園後不注意や身のこなしの不安定さから転倒や打撲など怪我が多く、園全体で要配慮児に挙げ関わっていた。（移動時は大人が付く）	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第３・４中足部の若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
7872	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7868	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３,４)回/年	2.基準配置	職員がそばで対応していたら、、支えられたかもしれない。	起こりうる事故を予測しながら見守りをしていく。また、活動をする前に準備体操など行っていき、体をほぐす。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	職員がすぐに手が出せない位置にいた。体が十分ほぐれ切れてなかった。	始める前にストレッチ運動などして身体をほぐしてから外遊びを始める。	1.いつもどおりの様子であった	朝、母親からちょっと鼻水が出ていてと申し送りがあった。受け入れ後へやでトランプなどしていつものように遊ぶ。対象児自身がボールを追いかけていたが、他児に比べて落ち着いて追いかけていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・対象児が途中でボールを追いかける速度を少しゆるめたこともあり担任は審判をしていた場所で見守ってしまった。バランスを崩したときにすぐに支えてあげることのできる位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は園庭にいなかった、	職員の見通しが甘かった。	活動に子どもたちが夢中になっているときの保育者の立つ位置など常にシュミレーションをし、咄嗟の時に判断できるようにする。	
7869	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		マニュアルの中に準備体操項目も作り　常に確認していく	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		朝、保育の始まりに、園庭の環境の確認をしてから遊び始める	1.集団活動中・見守りあり		担任間で確認しあい、保育士の立ち位置に気を配り一人ひとりの様子を把握していく	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に４歳児２０名　砂遊び、鬼ごっこ、縄跳びをして遊んでいた。担当保育士１名と非常勤１名で子どもたちを見守り時には　一緒に遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	５歳児１０名ドッヂボールを行って遊んでいた。	登園が遅くなった為　準備体操をせずに遊び始めてしまった	準備体操を必ず行えるよう、担任だけでなく非常勤とも時間をずらりして行った、全員が体を温めてから遊び始めるようにする	
7870	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	担任が１人休みだったが、２人とも同じ方向にむいて立っていた。	保育者の立ち位置や遊べる範囲を決めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４)回/年	重い石を遊びで使うのは危険だった。	重い石は子どもの遊びで使わないようにする。撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	保育者も子ども達も、重い石の危険性を感じていなかった。	重い石の危なさを、お集まりで子ども達に伝えた。ルール確認をその都度行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りのようすであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児のグループの見守りもしていたが、人数の多い方に２人いた。		本児のグループの見守りをしていたが、人数の多い方にいた。	遊び方の危険性を感じていなかった。	重い石を使っての遊びはやめる事を園全体で共有する。また石は撤去した。	
7871	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	例年はリスクマネジメント委員会を設けていたのだが、今年度は設けることが出来ていなかった。（必要性は感じていたが今年度園長・主任が新任に変わり、新型コロナウイルスの感染症等の対応に追われ新体制が整っていなかった）そのため、事故防止対策マニュアルチェックリストを職員に配布はしたものの、その後の確認をしたり、その結果を受けての再周知などは出来ていなかった。今年度、１・２歳児クラスには本児を含め要配慮児が複数人おり、職員は基準以上の配置となっているが、要配慮児を抱えながらの保育それでも現場のマンパワーが不足を感じていた。要配慮児の対応については区の巡回訪問で相談したいと考えていたが、新型コロナウイルスの影響で延期となっており、相談ができず基準以上の職員配置をするまでの決断には至らなかった。複数の要配慮児を抱えながらの保育体制の構築を模索中。	・リスクマネジメント委員会を設けて機能させ、発達年齢毎の基本的な事故予防に関する知識をつける。 ・適切な職員配置や保育体制の検討。 ・要配慮児の保育についての知識と保育技術の向上を図る（研修や療育機関などへの相談）	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	なし		1.集団活動中・見守りあり	なし		1.いつもどおりの様子であった	大人に付き添われ落ち着いて移動しているように見えたが、園庭で遊びたいという気持ちが先走ったり、室内から出て視野が広がったことで注意散漫になっていた状況があるかもしれない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児含め４人の児と移動。途中までは本児の隣についていたが、靴下を取るのは近距離だから大丈夫だろうと思い、後方から見守っていた。またそのタイミングで他児から声をかけられたため、視野には入れていたが注視はできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭に出ている職員は園庭で遊んでいる子どもの安全を守るため、その子どもたちを見ており、テラスの子どもは担当職員に任せていた。室内にいる職員も、自分の周辺にいる子どもの対応をしており、本児は担当職員に任せていた。	本児の体の使い方やバランスの悪さ、不注意などの特性についての理解が足りず、適切な関わりができていなかった。	・本児の特性を理解し、適切な関わり方をする（身体のバランス力や体の使い方が苦手なため、物を持った状態で歩いたり体を屈ませたりする動きなどは他児よりも転倒につながるリスクが高いため、大人が手を伸ばして支えられる距離について見守る。視覚・聴覚など環境の刺激を受けやすく周りに気がとられて不注意になってしまうため、環境の調整や大人が丁寧に言葉がけをすることで、本児が取り組むことに注意を向けることができるような関わりをしていく。） ・発達に関する専門機関に本児に対するよりよい支援方法について相談し、日々の保育に生かしていく。 ・日々の遊びを通して、本児の身体機能や運動発達を促していく。	
7872	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	普段から遊んでいる公園で本児も慣れている遊び	見守ることができる位置に保育士保配置		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり	ぶら下がるためのものではない遊具でぶら下がって遊んでいた	ぶら下がることを禁止することはないが、気を付けて遊ぶよう促す	1.いつもどおりの様子であった	公演の遊具にぶら下がろうとしてジャンプするが、手が遊具にかからず転んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の真横の位置関係だったので、痛がり泣いた直後に駆け寄りけがの状態を把握、患部を冷却するなど応急処置を行い保育所に連絡しすぐに戻った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	各遊びの箇所につき、子どもたちを見守っていた（公園　アスレチック）		子どもたちの遊び方を見直し、どのように遊べばよいのかを一緒に考える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7873	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16			8	8					3	3	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘亀裂骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２　)回/年	2.基準配置	特になし。	事故があった場合は速やかに職員間で情報共有し、再発防止に努める。	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	特になし。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	以前年長児と交流した際に、平均台をジャンプして遊んでいた。本児にやってみたいという気持ちがあった。	年齢が下のクラスとの交流なので、遊具の使い方を丁寧に伝えていたが、思わぬ行動に出ることも考慮に入れ、遊具の配置等考えていく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	友達と並んでルール通り平均台をまたいで乗り越えた後、逆に向き直り飛び越えようとジャンプした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	平均台をまたいだ後、急に向きを変え平均台につまづき転倒した姿を確認しすぐに近寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのコーナーで遊ぶ児童の様子を見守っていた。	平均台はまたぐかくぐると伝え、大人が離れて見守っていたが、思わぬ動きで怪我につながった。	大人が付かないのであれば、平均台での遊びは適当ではなかった。平面のケンパなどを取り入れるなど、遊びの設定に配慮する。平均台使用の場合はかならず大人が付き、危険を回避できるようにする。	
7874	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	4									2	1	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘　上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5~6　)回/年	2.基準配置				実施頻度(月に数回)回/年		実施頻度(その都度)回/年		実施頻度(毎日)回/年			1.集団活動中・見守りあり	雨上がりで活動場所が限られたが、１歳児という年齢を考えると無理に戸外に出ず、室内活動でもよかったのではないかと思う。	資料館での戸外活動という点では、室内活動の配慮を確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から元気に活動する子だがその日は外とは違う環境に嬉しくなりついつい走った感が否めない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども達の至近距離にはいたが、他児の様子も見ながらで走り出したのを止める間がなかった。		他の子どもの動きを注視していた。	園外の活動とはいえ、資料館という種々の資料を展示している場所だし室内なので中での活動を考えるべきだった。	園内外を含めは、走る活動は外（広場など）で行うよう子ども達に簡単な言葉で伝える。	
7875	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置		危険物がないかの点検をしていた、遊ぶ前に準備運動してから遊んでいたため改善点はない	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(常時)回/年		地面の段差や石などもなく、つまづくものはなかったため改善点はない	1.集団活動中・見守りあり		慌てる様子もなく1人で移動するために走ったので改善点はない	1.いつもどおりの様子であった	休みがちで家にいることが多く担任が遊びに誘うことが多い。他児と話している最中に担任の側を離れた後、怪我をした。	4.対象児の動きを見ていなかった	（具体的内容記載9全体を見守っていたが、他児に話しかけられ答えていたため本児から目を離してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスの子どもをみていた	担任が他児と話している最中に本児が側を離れたので、目を離してしまい状況の把握が不十分になってしまった	子ども達が見える位置に体勢を変え全体を見るようにする。	
7876	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	24									2		4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A外傷性打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	落ち着かない園児の行動を予測しきれていない。	保育士の立ち位置を考え、園児の些細な衝突や転倒も見逃さない。	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	1.定期的に実施	実施頻度（毎日）	保育士の視界から死角をつくらず、園児一人一人が把握できる保育環境を設定する。	少人数で遊べるコーナー設定を行う。	1.集団活動中・見守りあり	遊びが展開していく中で、活動が広がっていった。	単数担任になった時の活動の展開を予測し、計画を考える。	1.いつもどおりの様子であった	・母親が育児休暇期間であることや登園の支度準備に時間がかかるとのことで、10時30分以降、はしゃぐように登園することが日常になっている。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・登園後の支度は、保育士の働きかけに応じながら行う。ブロック遊び、プフォーミングでの基地ごっこを転々とし20分程度遊ぶ姿を見守り、片付けを促すと当該児も他の園児と一緒に片付けを行う。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・同学年の他クラスの保育士が、9時30分頃に保育室へ入り様子を見る。園児は、落ち着いて遊んでいたため担任保育士と活動内容を確認し、食事前の活動の切り替えから、複数体制で保育を行う。	・他園児との衝突に確認が取れない。転倒によるものの可能がある。	・園児の些細な行動も見逃さないようにする。	
7877	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47			10	12	13	12			5	4	4歳	1.男児	固定ベルト装着　転んだりしないよう激しい運動は控える	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	危機管理に対する職員意識の薄さ	園内書式による事故報告書の作成・再発防止に向け職員への周知	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２) 回/年			1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ遊びの中で、逃げ場としてアスレチックに登っていた	鬼ごっこ遊びの中では、アスレチックに登らない	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くに居て本児の動きを目で追っていたが、鬼ごっこをしている他児へ目を移した時に転落してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鬼ごっこをしていない子どもの遊びを見ていた	見守りの大人に鬼ごっこをしている時、アスレチックに登る事が危険という意識がなかった	アスレチックでの遊び方を再度、職員内で押さえ、契約職員とも共有していく	

| 初回掲載年月日 | No | 概要 | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 事故にあった子どもの発生時状況 | | 事故状況 | | 負傷・負傷状況 | | 診断名 | 事故誘因 | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7883	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	35					17	18			6	6	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	脱臼、歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	新年度、こどもも大人も落ち着かない状況であった。合同保育に切り替えるタイミングで保育士の見守りが全体に行き届かなかった。	職員の立ち位置や動き、連携の在り方を確認した。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(280)回/年	床で滑り転倒した。	清掃時のワックスを滑りにくいものに変更	1. 集団活動中・見守りあり	クラス保育より移行し、人数が増えたためこどもたちに落ち着きがなくなった	職員の立ち位置を確認。こどもの動きに合わせて見守るポイントを配慮	3. いつもより活発・活動的であった	2～3人で構成遊びをした後、違う場所に移動しようとしたところ転倒。棚に口元を打ち付けた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	全体を見渡しながら本児たちの遊んでいる様子を見守っていた。本児が立ち上がったので移動しようとしたことに気づいた直後転倒。棚に口元をぶつけたので、すぐに本児のもとへ行き、受傷箇所を確認した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児室から5歳児室へ移動する他児の誘導に担任1名、他のコーナーで遊ぶこどものそばについていた担任・非常勤職員3名、夕方の水分補給のため麦茶を提供する非常勤職員1名。それぞれ、コーナーに分かれて子どもの見守り体制をとった。	外遊びから戻ってきた子もおり、室内活動の動きに気持ちの切り替わっていない子もおり、室内の雰囲気が興奮気味になってしまった	外遊びから戻り、一呼吸おいてから合同保育に移る。また、合同保育の開始時間を遅らせる。	
7884	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40			10	7	11	12			4	4	3歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折(上部BAAB下部BAA)	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2. 基準配置	子ども本人が大丈夫だという言葉があったが、患部の状態を観察した際には発赤、腫脹が見られなかったため、様子を見ることとした。	怪我の状態を詳しく観察し、すぐに、看護師、管理職に報告し判断していく。また、時間を追って継続し、様子を見ていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	鉄製の梯子に足をかける時には、靴底に砂が付くことで滑りやすくなる可能性がある	高さのある固定遊具には常に付き添い、声掛けをしていく。また、足元など注意深く観察する。	1. 集団活動中・見守りあり	地面に落下することはなかったが、途中で身体と体がぶつかった	至近距離で見守るようにする	1. いつもどおりの様子であった	遊具に興味を持ち、遊ぶ意欲がみられた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の傍に付き添いながら、見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児を見守りながら全体を見ていた。	園児がはんとう棒を使用する際には、さらなる集中を促すことが必要だと思われる。併せて、遊具使用の際の注意点・遊び方指導を重ねていく必要がある	全員が、全体を見渡し、常に園児を見守っていく。リスクマネジメント研修に参加	
7885	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	4	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	20				9	4	7	0		3	3	5歳	2. 女児	特筆すべきことなし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右腓骨遠位端剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1. 基準以上配置		リスクマネジメント委員が受けた研修をわかりやすく他のスタッフに伝えていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭の地面の材質、砂をかぶせてあり滑ったのかもしれない。	乾燥で滑りそうなら水をかけるなどしてすべりにくくする。	1. 集団活動中・見守りあり		毎朝早番が園庭の安全確認をしているが、使う直前に再び確認する。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもにも関わりながら対象児を見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ている役割をしている。		身体を鍛える運動遊びをカリキュラムに取り入れていく	
7886	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	3	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	9									1	1	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1. 基準以上配置		当日や活動時の配置人数は十分に足りていた。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	3. 未実施	実施頻度( )回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(多数　)回/年	いつもと違った施設での活動のため、本児の気持ちが高まっていた部分があったかもしれない。	今回の事故は園に隣接するフィットネスジムの室内で発生したため、なしとする。	1. 集団活動中・見守りあり	本児は４～５段の跳び箱も跳べるが、この時は他の児達に合わせて２段の設定になっていた。４～５段を跳ぶ勢いで、助走等をしていたと思われる。	普段と設定が変わるため事前に声をかけてはいたが、より丁寧に伝えていく。また、本児も勢いを調整できるようにしていく。	1. いつもどおりの様子であった	跳び箱が得意で、活動を楽しみにしていた様子が見られ、活動中も意欲的に取り組んでいた。	1. 対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱の介助をするため、スポーツ教室のコーチが近くに付き添っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じフロア内で違う活動（手付き開脚ジャンプの練習）をしている子ども達を見守っていた	活動が二手に分かれていたため、コーチや職員がそれぞれ子どもを一人で見ていたため見切れなかった可能性がある。	２グループに分かれておこなう際の職員の立ち位置や子どもの様子に応じた活動内容は一度検討する。	
7887	令和4年3月16日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	63				23	19	21			6	6	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)		下唇貫通創及び下顎部挫創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	2. 基準配置	担任だけでなく、他の職員も含む立ち位置。	声の掛け合いをし、それぞれの立ち位置を確認し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	玩具の損傷はなかったが、フラフープの数が不適切だった。	子どもの人数により、玩具の数を調整する。	1. 集団活動中・見守りあり	3クラスが一緒に園庭で遊んでいたことで、使用していない玩具が地面に落ちていた。	3クラスが一緒に遊ぶ時は使用する玩具を職員同士が確認をする。	1. いつもどおりの様子であった	園庭の端から遠くにいる友だちのところに走って行こうとして、友だちしか目に入っておらず、地面に落ちていたフラフープに気が付かなかった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体を見通せるようにと立ち見守っていたが、砂場横にいた本時が視界に入っていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの担当児を見ていて、本児は見ていなかった。	誰も使用していないフラフープが地面に落ちていたことに、職員が誰も気付けなかったこと。	子どもだけでなく、常に危険はないか意識しながら保育を行うことを検証会議で確認した。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7888	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	2		9						4	3	3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯牙打撲・神経壊死	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	特記無し	特記無し	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	特記無し	特記無し	1.集団活動中・見守りあり	特記無し	夕方子どもたちが心理的にも身体的にも疲れがでてくる時間帯での集団移動という点では、子ども達が危険に繋がる動きを取らないよう、児の行動を注意深く見て保育していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段からの活動の時にも１番になりたい気持ちが強めの児であり、当日も、扉のところに１番に並び、扉が開いてすぐに階段を降りようとして足が滑った。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当は、本児の横についていたが、後続の児を階段へ送る為に目線は廊下のほうに向いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	０歳児クラスと同じタイミングで階段を下りており、パート職員が本児の目の前にいて滑った状況を見たが、一瞬の事で手を差し伸べられる状況ではなかった。		本児の気持ちが先走りやすいことを考慮して、落ち着いて行動出来るよう事前に声をかけていくとともに、危険が予測される場面では、保育者が順番を指定し待つことができるようにしていく。	
7889	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	9									3	3	2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷		上前歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度 (2)回/年	1.基準以上配置		職員数は基準以上であるが、個々の保育士としてのスキルの向上。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日			1.集団活動中・見守りあり		担任だから大丈夫、担任ではないから問題があるというものではなく、保育に携わず職員間で共有や連絡、指示や協力し合うことが不十分だったため、強化する必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と手をつないでいた児が転倒、それにつられて転倒してしまった。転倒しそうな時は手を離すなど判断（対応）も子ども達へ知らせていく必要もあるのかと感じる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	特になし	室内外に関わらず、クラスや子ども達に関わる職員は活動や活動の切り替え時に、注意すべきことや気を付けて欲しいことなどを共有し、リーダーは適宜指示を出せること必要がある。	メンバーは、リーダーに頼りすぎるのではなく、自分自身も保育者の一人として危険や不安があれば共有し、全体で子ども達を見ていくという意識が欠けている。	
7890	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	6歳	1.男児	在胎週数23週　703gにて出生（出生児仮死状態）ＮＩＣＵに5か月入院する。療育にて作業療法等継続中。平成31年4月（本人4歳時）転倒による歯牙打撲にて左上Ａ乳歯亜脱臼にて加療。現在治癒。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	１回/月	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		少人数でスペースにゆとりを持って遊ぶ。	1.集団活動中・見守りあり	ゲーム中の衝突を防止するためコートを広くとった分、外野のスペースが狭くなってしまったことを子どもたちに知らせ、ボールを取りに行く際の注意喚起をした。	ボールを取りに行く際の注意を子どもたちに再認識させた。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りゲームに意欲的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ゲームの審判をしながら当該児を視野に入れていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任が1名のみ。	活動前の準備運動及びルール説明の不足。	ゲーム前の準備体操をより確実に行い定着化させていく（子どもたちにも意識化するように）　全体にだけではなくルールなどは個人の理解力に応じ丁寧に伝えていく	
7891	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	21									15	13	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	月に１回研修を行っていたが、職員の安全管理に対する意識が薄れていた。	研修に加えて、会議を活用して事例を踏まえて安全管理について注意喚起を行い各職員の意識の向上に務める	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			1.集団活動中・見守りあり	傾斜面で子どもが走り出した時に止まりにくく、芝生が生い茂っていたため、子供が転倒しやすい環境だった。	子どもの予測できる行動を考慮して公園で活動する際は、危険予測し安全な場所を選択する。	1.いつもどおりの様子であった	元気よく遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	走ってくる本児を目の前で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	グループに分かれて遊びを行っていた。	傾斜面で子供が転倒しやすい環境であり、保育士の配置としても子供をすぐ支えられる位置にいなかった。	傾斜面で子供が転倒しやすい環境で遊ぶ場合、すぐに子供を受け止められる位置に保育士がいる必要がある。配置が難しいようであれば、傾斜面を選ばず安全な場所を選ぶ。	
7892	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(必要時　)回/年	1.基準以上配置	他児が遊んだシャベルを排水溝の穴に刺したままその場を離れていたことに気づかなかった。	死角になっている場所へ目を向けることが必要だった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	運動会（〇/〇）のため、遊具（太鼓橋）を移動していた。遊びに支障はなかったが、普段と違う配置だったことも要因の一つになったと考えられる。	遊具の場所について検討し移動する。	3.個人活動中・見守りあり	排水溝の穴にシャベルを刺して遊んでいた子どもがいたが、シャベルをそのままにしてその場を離れていた。	シャベル（玩具）の使い方や片づけを徹底する。排水溝まで遊びに使うことがあるため、戸外遊び中は排水溝にシートを敷き、穴をふさいでおく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭を走っていた。狭いところを通り抜けたかったようで、遊具と木の間をすり抜けようとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児が走っているのを見ていた。足元にシャベルが刺さっていることには気づかなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいたのが7名だったため、ほかの職員は残りの園児を連れて、園内に入り、食事の準備や、子どもたちに向けての話をしていた。	年長児なので保育士1人で7名を見れていたが防げなかった。	園庭の死角の安全確認が必要だった。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7893	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	5				5						1	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	事故発生場所が、新型コロナウイルス感染症対策の為に登園してから、保育室へ移動する間に過ごすために設けた場所であった。	保育室以外の設定したコーナーで過ごす時の注意点を職員一同、再確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)			1.集団活動中・見守りあり	子どもが集中して遊べる保育を行えていなかった為、玩具を変える等、落ち着いて過ごせる保育環境を提供するべきであった。	1. 事故発生場所にコーナーガードを設置 2. 座って遊ぶ場所であることを伝える絵を掲示し再認識するよう促す。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	(具体的内容記載 本来なら座って遊ぶ場所であるが、職員に伝えたいことがあって職員を呼びながら走り出してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から約2メートルの場所で「登園簿」を記入していたため、事故発生時に背を向けていた。園児から呼ばれた際、直ぐに反応していなかった。		3歳児5名に職員1名の配置であったため同室には他の職員は居なかった。	職員配置は適切であったが入職したばかりの新卒者であった為、不慣れであった。子どもたちに背を向けて文字を書き、目を離したため、対象児の動きを視野に入れていなかった。	「登園簿」を記入する際、子どもたちが静かに座って遊んでいる状況であることを確認し、なおかつ、記入する際は子どもたちに背を向けずにボードを手に持って記入する。	
7894	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	0	5	5	4	6	6	0		4	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		引き続き職員の安全に対する共通理解を図る。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		引き続き施設、遊具、玩具の管理、点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり		引き続き安全に考慮し保育を行う。	1.いつもどおりの様子であった	朝の保育中、年少児の弟と追いかけっこして遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	安全に留意し、活動を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体が見えるよう、また目を配りながら、個々の園児の動きを見守っていた。	追いかけっこをしていて、咄嗟に転倒をした。	引き続き安全に活動が出来るように配慮し見守る。	
7895	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	5歳	2.女児	事故誘因のその他は「自損・不慮の事故」とする	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指不全骨折 ⇒ 右小指骨折 (令和2年12月28日 病名確定)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	１回/月	2.基準配置	職員配置配、遊ばせ方は問題ないと思っていたが事故が起きたので詳細を見直していく	全職員に怪我が起こった経緯と対応策を周知し情報共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭や環境等についてはなし、園庭のコンディションも良好であった	今後は想定外のケガや事故が起こるかもしれないということを考えながら、環境を整え安全に配慮した保育をしていく. ボールに空気が適正に保たれているか事前に点検をする。やわらかいものに変更する。	1.集団活動中・見守りあり		１. ドッジボール前の準備体操を徹底していく。 2. ボールを取るときは指先ではなく胸でとるように子どもたちに指導した。	1.いつもどおりの様子であった	ゲームを理解し遊んでいた。常にふわふわとした動きで、他児に比べると反射神経や俊敏性に欠ける部分がある。腕の力が弱く、日ごろからぶら下がり・鉄棒・四つ這い等の動きのあそびを積極的に行ってきた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判をしていた担任が事故の状況を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	研修にいくため、先に休憩を取りその場にはいなかった		・ボールに当たるとけがをするということを子どもに知らせていく。 ・けがをしないようにするためには準備体操等が必要であることを知らせ習慣づけていく。	
7896	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	13						8		卒園児5名（小1）	2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首下部剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	なし	職員の基準配置内であるため	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年	なし	公共施設のため	1.集団活動中・見守りあり	すべり台自体が大きなすべり台である為、職員の見守る位置を普段より近くにし、子どもへの安全への声がけ頻度も普段より高めるべきであった	滑る位置で見守り、危険行動がないか近くで確認すべきだった	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	久しぶりに会う友達との交流活動で興奮していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊び慣れている固定遊具であることと小学生がいたことで安全への認識を普段の状況より甘く見てしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	上記同様、遊び慣れている遊具であったため認識が甘くなってしまった	自分もはやくすべりたい、一緒にすべりたいという気持ちが強くなった	どの遊びでも順番やルールの確認の徹底をする	
7897	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	27									4	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	怪我が発生した場所が危険箇所とマニュアルに具体的に明記されていないことから、職員に認識されていなかった	園庭での遊び方や危険箇所や遊具の使い方等を具体的に記載した「園庭での遊び方」マニュアルを5月末までに作成する。作成後は職員へ周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭は砂混じりの土になっている。事故発生場所の正門の前はコンクリートで、園舎に向かって軽度の傾斜がある。正門前と園庭との境には側溝があり、段差もあるため、この辺りはつまずき、滑りやすい状態であった。	怪我を起した場所に園児が侵入出来ないよいうに、コーンポスト・コーンバーを設置する。(4月30日設置)	1.集団活動中・見守りあり	園庭で遊ぶ約束の中に、正門前が滑りやすいと保育士が認識していなかったことから、危険な箇所として園児に知らせていなかった。	園庭遊びのきまりのひとつに正門前が危険箇所であることを園児に知らせ、園児自身も気を付けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	母親と元気に登園する。機嫌よく過ごす。園庭に出ると、仲の良い他児と一緒に鬼ごっこを始め、楽しそうに走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任①：鬼ごっこをしているグループと庭で砂遊びをしているグループがいたため、子ども達が遊ぶ全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任②：園庭で担当職員と共に園児を見ていたが、他の園児の擦過傷の手当をしていたためテラスにいた。担任③：事務仕事をしていた。パート職員：テラスで玩具の消毒をしていた。	対象児が転倒後担任①が駆け寄り声をかける。左腕の動きを確認すると手指が動いていたので大丈夫と思いテラスで休ませるだけにしてしまった。担任②も対象児を引き継いだ後に左腕の動きを確認し、流水で冷やしたところ痛みが引いた様子だったので、打身だろうと思った。その後保育室に戻り着脱動作が出来ず、対象児も「痛い」と訴えたことで初めて打身ではないと気づき看護師・園長に報告する。担任①・②は自己判断したことから受診するまでに時間が経過してしまった。担任②が他児の怪我の手当に追われ、担任①だけで保育する時間が出来てしまい担任③やパート職員へ状況を知らせ保育の交代を頼むことをしなかった。	・園児の怪我は自己判断せず、重症化することも想定して看護師・園長に報告する。 ・園庭活動の際に、他クラスと重なる場合は、クラス間で話し合い安全に園児が遊べる活動の場を確保する。 ・園庭を見守る職員が、その場から離れる場合は、他の職員へ声をかけ交代し、見守り職員を確保し、園児の遊ぶ位置に死角がないようにする。 ・園児には事故発生場所で遊ばないことを、コーンポスト・コーンバーを設置し、視覚で知らせるとともに、なぜ遊んではいけないのか理由をはっきりさせ、きまりごとの1つとして知らせていく。 ◎5月10日主任がリーダーとなり、クラス会議で改善策を話し合う。 ◎5月14日会議にて職員へ報告し他職員へ周知する。 ◎園長は重大な事故が発生した時は、速やかに法人及び私立保育園係へ報告を怠らないこと。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7898	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	30									3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)		4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	アスレチック上部の木製床面の老化によりササクレが発生していた。しかし、床面は滑り止めのため溝切り加工がされており、ササクレを発見しにくい仕様であった。	戸外活動で利用する公園の遊具等について、利用前に状態を注意深く観察する。状態によっては利用を中止する。	1.集団活動中・見守りあり	アスレチック上部の狭い場所に複数の園児が遊んでいた。保育士からの帰園の声掛けを聞いて方向転換した他児と接触して膝をついた。	アスレチックで遊ぶ際、遊び始める前に遊具の確認を行っていく。また、アスレチック上部に複数の児童が集まることのないよう、職員が言葉をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	アスレチック上部で他児と接触し、床に膝をついた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	帰園時間が迫り、アスレチック上部にいる複数の園児に降りるよううながしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰園のため、集合・整列した園児のそばに1名。水分補給のため水筒から給水している園児のそばに1名。			
7899	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	13									3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右肘不全骨折（上腕骨外側上顆のひび)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	前年度は年齢的に小さいことから、ケガが発生した石段の箇所では遊ばないこととしており、4月に進級してから遊ぶようになった場所だった。	これまでの活動状況（本事象が発生した箇所は前年度は使用していなかった）を踏まえ、成長に応じた使用方法を定める。初めて遊ぶ場所においては職員の立ち位置をあらかじめ確認しておく。		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり	雨上がりでぬかるんでいる場所もあり、靴に泥が付いていて滑りやすい状況だった。	雨上がり等いつもと異なる状況のときには、高さのある場所や滑りやすい場所では遊ばない等、天候による影響を考慮し、活動場所を設定する。	1.いつもどおりの様子であった	公園の木の周りに設置されている石段の上で、他児2名と虫を探して遊んでいた時、本児は足を踏み外し、約50㎝の高さから転倒。横向きで落ちてしまったため、右腕を強く打撲。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体をみる役割の保育士が、目の前のトラブルで泣いていた児の対応にあたっていたため、近いところで動きを把握できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の職員1名は、公園から出ていきたがる多動傾向がある児の対応を行い、もう1人の職員は配慮が必要な児と前の石段で遊ぶ3名に目を配っていたため、木の反対側にいた当該児には気を配れなかった。	全体をみる役割であった職員がその他の子どもの対応をしていた状況であったが、本来は他の職員に声をかけ、全体を見守る体制を維持すべきであった。	①高さのある場所は、手を差し伸べられる位置に保育者を配置できる場合に使用する。配置できない場合には中止する。②特定の子どもが集団から外れる時のパターンを予め想定し、声を掛け合いながら配置や全体を見守る役割への切り替えについて共有する。	
7900	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	21									5	4	3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		その他	2.顔面(口腔内含む)	外傷による歯の脱臼・亜脱臼・歯根骨折	その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	担任が変わり、新入園児が入ったことで、まだ子どもの特性や注意点がつかみきれていなかったように思われる。	職員配置は十分されているが、列の間が空いたり、道路を横断するときにあわてさせたりしないように引率する余裕を持つ。職員会議で事故の報告を行い、情報の共有を行う。新年度は新入園児も迎えるので子どもの様子や、子どもが環境に十分慣れるまで活動内容を検討していく。年度の初めに散歩先の選択について、散歩時の注意事項を再確認する。今までの研修のほか、事故予防に関する研修を計画する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	まだ子供それぞれの身体能力に差のある時期なので、考慮し、活動を考える。	年齢に応じた散歩先を確認する。（各クラスで目安になる散歩先の一覧表を作成する。）年度初めに職員間で確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	子ども2人で手をつないでいたため、顔を道路に打ち付けてしまった。新入園児だったので、職員との手つなぎの考慮をするべきだった。	転んだ時に手が出るように月２回の体育遊びで運動機能を養っていく。遊びの中でも散歩の距離を少しづつ伸ばしたり、集団で歩く練習を引き続き行う。新入園児が慣れるまでは職員が手をつなぐようにする。	1.いつもどおりの様子であった	散歩時はいつもと変わらずに歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	道路の中央に立ち、子ども達を誘導していた。左右、前後の安全確認をしている中で前方を向いていたため、転ぶ瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	隣にいた職員・最後尾の職員は前方を見ていた。	４月１日転園児。転園して間もない時期の活動で、職員・本児とも新しい環境に慣れていない状況でのけが。	４月当初は園庭遊び中心で、園外散歩はしていなかった。園外散歩も近い場所を選んでいたが、新入園児に対しては、子ども同士の手つなぎの開始時期・散歩先の選択等子どもの様子を見て慎重に検討する。新入園児は慣れるまで大人と手をつなぐ。職員配置が、前方に正規保育士となっていたため、分散した配置にする。	
7901	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第一中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	職員配置は適切であったが、遊具の扱いの詳細まで確認していなかった。	事故に繋がる遊具の扱い方について検証し、園児の遊び方に留意していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週		日々の安全点検は実施し不備はなかったが、遊具の構造や園児の扱いについて改めて確認する。	1.集団活動中・見守りあり		見た目ではわからないアクシデントに気づけるよう、注意して園児の動きを見るように職員間で周知徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	・コンビカーに乗ることはそれまでも経験していて、本児も普段と変わりなく乗って遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	・遊戯室全体で遊んでいたので、本児が目に入るように近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	・3名の保育士がそれぞれ遊戯室内に分散して園児を見守っていた。	本児が「足が痛い」と何度か訴えていたが、担当3名がそのことを共有できないまま過ごしてしまったため、異常に気付くのが遅れてしまった。	園児に変化があった場合は小さなことでも情報共有して、対処する。	
7902	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	9									5	5	0歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	1.頭部	皮下血種、右測頭部ヒビ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置		事例などをもとにクラスで話し合いをして自分のクラスならどう対応するか意見を出し合いながら安全への意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	マットを遊ぶ場所全面に敷き詰めておらず、マットのない床に転倒し、強打した為、重傷を負った。	マットを敷き詰めることで安全に遊べる環境作り。	1.集団活動中・見守りあり	調乳と排泄で一人ずつ保育室外にいた為保育室にいる職員の人数が少なかった。	保育室外に出る職員は一人にするか、他の職員を呼ぶなどして園児をみる職員を確保する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児を見てはいたが、入眠中の子の様子も見ていた為当該児の見守りに集中できていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の入眠中の子の見守り1名、オムツ替え1名、調乳1名、低月齢児を抱っこする保育者1名	入眠中の園児がいたため当該児への補助に集中できなかったため手を添えるのが遅れた。又立膝ではなかったため間に合わずにいた。	入眠中の子の場所を分散せず一か所にすることで遊び中の子への補助、見守りへ集中できるようにする。又保育者はすぐに動けるように体制を整えていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

| 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | 事故に遭った子どもの | | 事故状況 | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7912	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13	0	0	6	1	5	1	0		2	2	3歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		園庭に出ていた大人の人数、保育士の経験、立ち位置についても特に問題点は見つからない	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	太鼓橋の下にひいているマットに砂があった状態で使っていた為、着地の際滑りやすい状態だった。	使用する際には必ず砂を払う事を全職員と共有した。またすぐに砂を払えるように遊具の側にほうきを常設する事にした。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの人数に対して大人の配置、立ち位置にも問題は無かった	1.いつもどおりの様子であった	特に受け入れ時にも変わった様子はなく、視診の際も気になる点は無かった。太鼓橋であそぶのも本児にとっては日常であり、気になる姿は感じられなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	太鼓橋にいたほかの子どもにつきながら本児の様子を見ていたが、着地で滑ることが予想できず手を出した時には尻もちをついていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	太鼓橋以外であそんでいる子ども(砂場、鬼ごっこ、ボール投げ)を見ていた為、太鼓橋へ意識は向けられていなかった	太鼓橋を登ろうとしている子どもに職員がついていた為、また本児がいつも安定した動きで太鼓橋であそんでいる為、本児に1対1で付いていなかった為、しりもちをつく前に対応が出来なかった。	太鼓橋に子どもがいる場合は、すぐに手が出せる範囲で見守る事を徹底する。	
7913	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29	0	0	0	10	10	9	0		5	5	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第5指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり	本児があえてスペースが狭いほうを通ろうとした際に、積み木の上やその間を歩きつまずいて転倒	さらに十分な場所の確保やスペースにあった積み木の数にすること、時間に余裕を持たせて片付けができるようにするなど改善する	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらずの様子で登園し、積み木のコーナーで遊びを楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士の周囲半径1メートル以内のスペースに本児を含め3～4人遊んでいたが、まだクラスの職員が全員揃っていない時間帯で全体を見守りながら一緒に遊んだり片付けをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の時間のため、お部屋全体の半面づつで子どもたちのあそびに寄り添い、見守っていた	本児が積み木の上を歩いたりなどして起こったケガだが、事故直後に痛がる素振りや訴えることがなかった	保育士がいつも子どもの小さな変化に気づけるようにすることや、ケガをした際には保育士にすぐ教えて欲しいことを子どもにも伝えていく	
7914	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	44				11	17	16			3	3	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(8)回/年	2.基準配置	事故発生後に、対応した職員で話し合いをし、全職員に職員会議等で周知し、事故防止マニュアルに沿っての対策を確認していたが、マニュアルの活用、事故予防に関する研修を実施していなかった。	○事故発生後の検証だけでなく、日頃より事故予防に関する研修を計画的に実施する・事故予防マニュアルの読み合わせを行い、職員間で共有する。・事例等をもとに保育士の位置や連携の取り方などの確認や職員同士で意見を出し合い改善策等共有する。○事故が発生した際は、担任や関係者で現場確認や原因の検証を行い改善策を考え、事故報告書やヒヤリハット記録を作成する。・報告書をもとに、職員会議等で全職員に周知し事故予防、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(211)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(211)回/年	本児が転んだ場所は固定遊具の横で狭く段差もあった	柵などの設置が出来ないので、子どもたちが通らないように目印としてカラーコーンを設置した。また、この場所は狭く危ない場所であることを子どもたちに伝え一緒に確認した。	1.集団活動中・見守りあり	・それぞれの遊びを楽しみ、園庭を自由に走れる環境であったが、子どもたちの遊びの状況により一か所に子どもたちが集まって遊ぶ所ができ保育士が見守りづらい場所ができていた ・園庭で自由に走り回れる環境であったが、固定遊具の後ろや横は、狭く段差もあった。躓くだけでなく他児との衝突にもつながる恐れがある。	・過度に子どもの遊び方を制限するのではなく、園庭を子どもたちが安全に楽しく自由に走り回れるように、固定遊具の後ろや横など狭い場所の方は追いかけっこなどで行かないようにルールを決めた。 ・保育士同士連携をとり、立ち位置に気をつける	1.いつもどおりの様子であった	午後の園庭遊びで友達と普通通りに元気に友達と一緒に走り回って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	同クラスの数名の園児が鉄棒を始めた。担当保育士は見守り場所を離れ鉄棒をしている園児の補助についていたため、本児の動きや転んだ場面などは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	残り2名で園庭遊びを見守っていたが、自分の担当クラス中心の見守りとなっていたため,本児の遊んでいる様子や転んだ場面などは見ていなかった	・職員の位置や場所を離れるときの声掛けなどは、当日していなかった。 ・保育士は、3方向から園庭全体を見ていたが、自分のクラス中心の見守りになっていたので、死角になった場所があった。 ・保育士は子どもの動きに合わせてそれぞれが移動していいたため、園庭全体をみている保育士がいなかった。	・職員が自分の持ち場を離れるときは、必ず他の保育士に声かけをし、見守り作業の継続を依頼する。 ・依頼された保育士は、頼まれたクラスの子どもたちも一緒に見守る。 ・園庭にいる保育士が自分の位置から、死角になる場所を作らないようにするためには、担任の他に園全体を見渡せる保育士を配置する。	
7915	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40				14	13	13			3	3	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園庭からの入室時、3クラスがほぼ同時に入室し、着替えや排泄なども同時であったため、保育士の見守り箇所、役割分担が曖昧で、見守りが行き届いていない場所があった。	園庭からの入室をクラスごとに時間差で行うように見直す。また、全員入室してから着替えや排泄に向かう流れにすることで、室内と戸外とをそれぞれ1名ずつで見守るという役割分担を明確にした。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(60)回/年	下駄箱前の簀子の組み合わせに不具合があり、段差のある箇所があった。	すぐに組み直し、高さを均等に調整する。園庭に出る際の安全確認箇所として周知し、日に一度は必ず点検するようにする。	2.集団活動中・子ども達のみ	現場付近に保育者がおらず、声掛けなど事故を防止する対策をとることができなかった。	クラスの子ども全員が入室するまで下駄箱付近から目を離さない。	1.いつもどおりの様子であった	入室、着替時、その後の室内遊びの場面などをそれぞれ把握はしていたが、痛みを訴えるまでは本児の様子の変化には気づくことができなかった。着替え遊びも自立して行っていたとのこと。	4.対象児の動きを見ていなかった	1名は室内から園庭を見守っており、1名は廊下のロッカー前で着替えについており、もう1名はその奥のトイレにて見守りをしていた。簀子前で過ごしていた本児は、室内から見守っていた大人の死角になっていたと思われる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は廊下のロッカー前で着替えについており、もう1名はその奥のトイレにて見守りをしていた。本児は簀子にいたため、動きは把握していない。	見守りが手薄な箇所(入室時の下駄箱付近)ができてしまった。	クラスの子ども全員が入室するまで下駄箱付近からも目を離さないように意識し、確認もする。また、室内、園庭等、各役割で見守りをしている大人同士が声を掛け合い、子どもの状況を見落とさないように連携していくことをリスクマネジメント会議やクラス打合せで共通理解する。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故誘因	事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名		ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7916	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	1									1	1	5歳	1.男児	本児は体幹が未熟で不安定な動きをしたり、急に倒れこむなど予想外の行動をしたりすることがあるので、保育士は日頃から本児の様子を見守っている。	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上唇裂創、左側上顎 乳切臼と乳側切歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	本児は縄跳びに興味を持ち始めていたが、まだ縄を回すことが難しかった。	子どもが運動的な遊びするにあたり、研修等で段階を捉えた方法を学んでいく。ヒヤリハットを活用し、普段から安全・危機管理について職員間で共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	栽培物のプランターがクラス前の水道の所に前後2列に置いてあった。	子どもの動線を考え、プランターを置く場所や配置の方法を見直す。水道の壁に寄せ1列に並べる。プランターの淵縁にクッション材を付ける。	3.個人活動中・見守りあり	本児は左右に倒れこむなど日常の動作が不安定で身体の動きをコントロールすることが苦手である。	本児の姿を踏まえて、活動内容や場所、方法、時間を考慮していく。普段と違う状況下で園庭に出ることの危険性を再認識し、子どもの様子に適した保育の方法を考えていく。保育の中で体幹が身につくような遊びを工夫する。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	本児は咳が出るために小児科受診後の登園だった。いつもと違う生活リズムに本児も気持ちの切り替えや置かれている状況に対応できない様子があった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	本児が登園をした時は、すでに遊びが終了し、他児は着席していた。本児は「あそびたかった」と残念そうな表情を浮かべていたので、気分転換をするために園庭へと誘う。縄跳びが少し跳べるようになって嬉しく感じている本児は「縄跳びをやりたい」と言い、保育士は回し方のコツがつかめるようにと半分に結んだ縄を本児に渡す。保育士の近くにあった紙が飛び、視線をずらした瞬間、本児が右手の縄を回しながら走り出しバランスを崩して転倒する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は非常食訓練実施日であり、保育室で担任が他児に非常食について説明をしている最中の出来事で、至近距離にはいなかった。	保育士は急に動き出した本児の動きを予測することが難しかった。	職員間で一人ひとりの子どもの様子を共有し、その子にあった対応をしていく。	
7917	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20					20						4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	研修やマニュアル、職員会議で事故防止対策等について共通理解していたが、危険防止について過信していたため配置職員同士の事前の声掛けを行わなかった。実際の場面では園児への声掛けをせず見守ってしまい、事故を防ぐことができなかった。	子どもの発達や特性を再確認し、危険に対する具体的な対応について園内研修で学びなおし、現場に潜む危険を予測するための危険予知力を高め、解決する力を身につけ事故を防いでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	60㎝のフープを4歳児の子どもが、片付けることについて危ないという認識がなかった。	子どもが片づけを行う際、安全に片付けることが出来る玩具を把握し、子どもを見守る環境を作る。4歳児の子どもが60㎝のフープ等玩具を持ち移動して片付けることが危ない時には、保育士が側につき安全に片付けるまで見届ける。	1.集団活動中・見守りあり	本児がフープを持って片付け始めた姿を一名の保育士は見ていたが、危険という認識せず本児から目を離してしまった。全体を見る役割の保育士はいたが、事故は起きないという思い込みがあり、一瞬他児の対応を行い全体に目を向けていなかった。	子ども自身で片付けられる玩具が年齢に適しているか確認をする。片付けを促す際は、複数担任で役割分担をし同じ動きはせず、全体を見守る保育士を明確にし安全に見守る。	1.いつもどおりの様子であった	保育士に片づけを促されたことで、本児はそれまで遊んでいたフープを持ち、走りだした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	これまで事故もなく片付けを行っていたためフープを持って移動することが危険に繋がるという認識が薄かった。保育士は本児に片付けを促したが、他児の様子を見るために本児から目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名は全体を見ていたが、本児の動きは把握していなかった。保育士1名は少し離れた位置で他児と片づけをしていた。	全体を把握する保育士が、子どもたちの行動を予測できず、近くにいる他児に目を向けてしまった。	全体を把握する保育士は片づけ等子どもたちの行動が流動的になることを予測して、全体を見守ることに徹する。	
7918	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24					12	12			1	1	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中指骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	担任や保育環境が変わる新年度だからこそ、職員会議を頻繁に行うべきにもかかわらず、事故防止や保育環境についての会議を行うことが出来ていなかった。	マニュアルを活用し、定期的に研修を行う。(職員間で保育室の使い方、リスク回避のための保育用品の配置、時間帯に応じた職員の配置等リスク要因を含めて話し合う)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故防止チェックリストで保育室の危険箇所を確認していたが、子ども達の行動を予測した上で環境改善が不十分であった。	自由遊び時の保育室の使用方法を日常的に子ども達にその都度伝え、子ども達の行動を考慮したうえで環境改善を行う。(例)コーナー遊びの活用、机等の配置の工夫、職員の立ち位置など。	3.個人活動中・見守りあり	子どもの行動を把握し、危険予測をしていなかった。	普段から室内は歩くよう伝えているが、移動距離が長いと小走りになってしまう様子がクラス全体で見られるので、声掛けの際に移動は必ず歩くことを引き続き伝えていくことと、保育室に死角のある部分があることを再度伝え、園児の中でも共通認識を持ち安心安全に過ごせるよう保育士が声掛けを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	マスクを着け終え、自由遊びスペースまで小走りで移動していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	日課活動(歌唱や机上活動)の際に使用していた机を片付けようと子ども達の様子を見ながら離れたところで片付けを行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担任からの指示を受け、机を片付け始めた時であった。	机を片付ける際に非常勤職員に全てお願いせず非常勤保育者が来るまで担任が片付けに入ったことで子ども達から距離が離れすぐに対応できなかった。また、保育中の優先順位を考慮し行動していなかった。	保育中の優先順位を常に頭に入れ行動する。他のフロアの職員と連携し、掃除のタイミングや掃除に当たる職員などを話し合う。他フロアの職員が補助に入った場合も事故のリスクを認識・回避できるよう情報共有を徹底する。	
7919	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8									2	2	5歳	2.女児	特記なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨、尺骨 骨折(未確定)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)				
7920	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14						14			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(毎回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらぬ様子で園舎下にて遊んでいた。他児が走った際、側に居てぶつかり転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園舎下にて他児の仲立ちをしていた。全体が見える位置に居たため、本児が転倒するところを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配職員が2名居たが、それぞれ担当児を見守っていた為、本児の動きは見ていなかった。	特になし	特になし	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き具体的に何をしていたか	他の職員の動き具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
7921	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22			8	6	8			2	2	3歳	1.男児	特に無し。	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特に問題なし。	特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に問題なし。	特になし。	1.集団活動中・見守り	着地の際にバランスを崩し、怪我をした。	着地の際にバランスを崩し、怪我をしてまう可能性がある保育士も頭ここ育士に入れ、見守る際の注意点を職員に伝えていく。	1.いつもお様子であった	雲梯の一番低い所につかまった。下にうまり降りと手を離し、地面に降りた。	2.対象児の近で対象児を見ていた	本児の側で見守っていた（右斜め前）。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	汽車の遊具側で見守っていた。	特に問題なし。	特になし。	
7922	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21	0	0	0	0	21	0	0	1	1	5歳	2.女児		1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	足関節骨折	2.自ら転倒・衝によるもの突	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2,3)回/年	1.基準以上配置	担任１人（他担任名職員２名休み）でドッジボールの中も子どを見られる体全員を制が確保できていなかった。	職員の立ち位置等その都度検討をして、保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	安全面では問題がない。	他児を避けようとこけたろ、転倒してまったのハードで面について面で、問題はかった。	1.集団活動中・見守り	子どもたが好きちがなしていんた。	ドッジボールのルール説明を改めて行うとともに、進行のなるなども動きをしないなの確認も行う。	1.いつもお様子であった	いつも通り意欲的にドッジボールにして参加した。	3.対象児が離れたところで対象児を見ていた	外野にいた対象児と横並びで見渡せるような位置におり、ドッジボールの審判していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任の職員１名のみであった他職員はいなかった。	担任１人（他担任名職員２名休み）でドッジボール中も見る体制が確保ていの全員ら制できなかった。	ドッジボールなどの運動活動を行う際は、なにかあったらすぐにさ応でき最低でも職員２名の職体制で運動活動を行う。	
7923	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	8								2	2	2歳	2.女児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等の転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回以上/年	2.基準配置	シーソーにスタッフがついていたものの、降りる際に補助がなかった。	遊具に乗りすぎる際には必ずスタッフが補助につくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日朝夕)回/年		実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	遊具を含内公園内箇検底して行っているむ危険の所は徹ためで、問題なし。	1.集団活動中・見守り	なし	見守りと意味いう意味では、児童4名に1名の保育士が見守っていたため、問題なし。	1.いつもお様子であった	体温およびなど食欲生理的面は問題なく、シーツ気持ちがあるほど活気あった。	2.対象児の近で対象児を見た	対象児と他児の間で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童4名にお茶を飲ませた。	なし	二つのグループに児童が分かれていたが、保育士1名ずつ付いて、それぞれの活動を行なっていたため、問題はなし。	
7924	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	23			10	7	6			3	2	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	足関節靭帯損傷、左足果関節面骨端線損傷疑い	2.自ら転倒・衝によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回以上/年	2.基準配置	同隣接した子ども士の間隔が狭いため、逃げる際に切幅がかかる返り多くあった。	①準備体操を行う。②遊ぶ際の環境配置を決める。③遊びコーナーの配置、スタッフ配置を決める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日朝夕)回/年		実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	地面の危険物等の徹確認をして底し行うため、問題なし。	1.集団活動中・見守り	なし	本児ケガすぐ発見したとき、体勢には問題なし。	1.いつもお様子であった	体温、食欲などの生理的面は問題なく、水鬼ができるほど活気あった。	2.対象児の近で対象児を見た	保育者の1名は、対象児の見守り近で守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育者1名は、他児の転倒対応をしており、1名りの見守りを行なっていた。	なし	転倒児に対応していた保育者は、対応しているこの保育者に伝えており、見守りに支障が生じる状況ではなかったため、問題なし。	
7925	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16				12	11			14	13	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		故事に関する研修は、けがが起きたときの初期対応や手当法も含まれている。園内研修等で、子どもの身体のつくりのや特性、子ども怪我しやすいなどについても学ぶ必要があると考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	今回使用ども子用ボリ用ルルルで検ルる用ルルが地に能ど使ンにの目ンルルコ緩ネ箇ア安ま性用トに視点トコ目コ緩ネ箇ア安ま性する際には、目視だけなくがいるッ所定ッ全なる目視なくがいるッ所定ッ全なる目視なくがいるッ所定ッ全なる目視な

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員
7927	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20		9	11						4	4
7928	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	1									0	0
7929	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	19						19			3	3
7930	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	1	0	4	2	2			5	4

No	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
7927	2歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	左耳介の裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの
7928	5歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨肘頭骨折 左橈骨頭脱臼	8.その他
7929	5歳	1.男児	卒園遠足で利用した公園は通常利用している公園とは違って初見の遊具だった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕不完全骨折	1.遊具等からの転落・落下
7930	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの

No	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7927	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	上記ガイドラインが職員のだれでも見られる事務所に設置してあるが確認は各職員による	上記ガイドライン（p35～３７、４１、５０～５３）を1，2歳児担任で再読(7/27)	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年	廊下がランチルームを兼ねているので、食事用テーブルが常に設置してある。食事用テーブルは高さ調節機能がありプラスチックで保護されたネジが机の脚外側にある。本児が転倒した時に足のネジにぶつけた可能性あり。（当該児の説明）	テーブルのネジプラスチックハンドルに布製のカバーを取り付けた。	1.集団活動中・見守りあり	荷物を運ぶ距離がクラス室内からランチルーム所定荷物置き場まで7ｍ７０㎝であった。	荷物の置き場を変更し、改善後２m80cmとした。	1.いつもどおりの様子であった	担任保育士よりお手伝い好きで荷物をしっかり運ぶことができる当該児を含む園児2名に荷物運びのお手伝いをお願いした。	4.対象児の動きを見ていなかった	一緒に荷物(鞄)を運んでいたが、担任保育士はクラス室内に他の荷物を取りに戻って当該児の転倒を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス室内で環境を整えていた。	荷物はクラス室内にまとめてあり、運び終わる度に次の荷物を取りに室内に入る必要があった。	・荷物を運ぶ置き場をクラス室にいても目が届くクラス室前に変更し、園児が運ぶ場合でも職員は園児から目を離さない。	
7928	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	靴箱に足をかけて上がる事が危険であることは2021年5月に行った各クラス保護者会で周知していた。また、登降園パネルの操作は保護者が行うように声掛けしていたが、注意喚起をもっと積極的に行うべきだった。	送迎時の見送りについて保護者への協力を再度声掛けしていき、事故の未然防止をより意識できるように働きかける。幼児クラスに関しては、今回の事故について状況を説明し、危険行動について認識を持つように徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	登降園パネルの操作を保護者が行う事を徹底すべきであった。	登降園パネルの操作を保護者が行う事を徹底し、子どもたちにも自分の行動を考え、危機意識を持った行動をすべきことを知らせていく。	1.集団活動中・見守りあり	子ども自身が常に靴箱を上り、登降園パネルの操作を行う事が日常になっていた。	登降園パネルの操作について、」危険個所について周知してもらえるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から登降園パネルの操作に慣れていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保護者に引き渡しを行っていたため、特に注意は行っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員も各クラスで保育を行っていた。	日頃から、そのような行動、行為を見かけた際は注意していた。子ども達に対しても指導していたが、やはり慣れが起きていた。	危機管理を常に持ち、危険個所を把握し、改善し、認識を職員全員に周知、徹底する。	
7929	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	休憩など入れて活動を考えていたが子どもの動きが想定と異なり、遊びこむ姿が見られていた。子どもの体力を考慮した声掛けが適切に行われていなかった。また職員間での遊びに入るまでの導入（遊具の適切な使い方）が共有できていなかった。	活動を見守る際に想定されることとは異なる動きを子どもが行った時には職員間で体制を立てなおし、その際に考えられる危険性を共有してから見守る。また活動を開始する前には、保育者は遊具の扱い方や危険性を子どもが理解するまでは活動を始めない。激しく体力を消耗する活動を行う際には疲労を考え、活動時間、気温、その日の子どもの体調など把握した上で、活動を妨げないように適切に声掛けを行っていく。見守り者が交代する場合には、その前の子どもの様子を具体的に伝えてから交代を行う。	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	園外の遊具のため、当該児は慣れていなかった。	活動の開始前に保育者は扱い方と危険性を伝える。必要に応じて手本を見せる。	1.集団活動中・見守りあり	園外の遊具のため、本児は慣れていなかった。たくさん遊び、疲労していた。	活動の開始前に保育者は扱い方と危険性を伝える。必要に応じて手本を見せる。適宜、休憩を挟む必要がある。	1.いつもどおりの様子であった	意欲的に挑戦する姿が見られた。頂上まで登って喜んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員２名で遊具の２箇所ABを見ていた。保育士①はカメラを持って子どもを追っていた。撮影を終えAにいる職員へカメラを渡そうと向かった。そのままAの見守りをした。保育士②はカメラを受け取ったもう一人の職員は、Aの場所から子どもたちの活動をカメラで撮影しながらBに近づき、カメラ越しに本児がいることを確認してそのまま上にいた子どもの姿を撮影しようとレンズを向けていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士③は、遊具がある所で荷物の見守りをしていたが、予想外に子どもがあちらこちらへ散らばって行ったため、それらの子どもに付いて行った。	予想外の子どもの動きに対し、打ち合わせができていなく、職員間の思い込みでの連携不足が起きた。後から遊具の場所へ来た保育士①は、先に見守っていた保育士③がいたため、自分は撮影担当だと思っていた。遊具の所で荷物の見守りをしていた保育士③は、自分は荷物と全体見守りの為、その場所の見守り者が来たと思い込んでいた。	その場所の見守りは誰なのか、口頭で確認し合う。先にいた職員はその場の子どもの様子がどのような状態なのか子どもの体力の消耗具合などを共有する。	
7930	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(不定期)回/年	1.基準以上配置		年齢や児童の様子に適した環境や行動を多面的にとらえた安全対策を職員全体で考えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	常に設置してある遊具ではない。	天候に関わらず、様々な遊びが展開できる環境を考えていくことで、運動面の発達を促すとともに、考えながら遊んだり、自ら危険な行動を抑制したりすることに繋げていく。	1.集団活動中・見守りあり	常に設置してある遊具ではない。また、5歳児には容易に遊べる遊具であったため、興奮とともにケガに対する危機感が薄れていた。	不定期、もしくは長期的に使用していない遊具の場合、遊び方を見守るほか、年齢によって設置方法を変えて緊張感を持たせたり、反対に制限をする必要があったと考えられる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	通常、土曜日に登園しない同じクラスの活発な一番仲の良い児が登園したことで、興奮気味に遊ぶ姿があった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	巧技台のほかに、絵本コーナーで過ごしている児がいたため、全体に視線が向くような位置で巧技台のそばにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	乳児用に設置した滑り台の近くで、全体に視線が行く向きで主に1歳児を見守る形でそばについていた。	興奮したままで遊びを続けていた。	興奮している様子から何度か声をかけていたが、状況が変わらなければ落ち着くよう場所を変えて話をするなどの対策が必要だったと考えられる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7931	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20				7	6	7			2	2	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		事故防止に関する研修を定期的に受け、保育士の危機管理能力を高める。		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年	特になし。	発生場所での危険物等の確認、点検は行ったので、これ以上の改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	広場と遊具のある場所の2か所に分かれていたので、保育士が１人しかいなかった。	・走るコースがわかるように、ラインを引く。・遊びを分けず、広場で遊ぶ時間と遊具で遊ぶ時間に分け、常に保育士2人で見守る事ができる状況にする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	リレーの1回戦で本児のチームが負けたので、2回戦目は本児の気持ちが高ぶっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	異年齢でのリレーだったため、年少児への配慮に気を取られていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具のコーナーで遊んでいる子ども達を見ていた。	リレーを2チームに分けて行ったが、チームの間隔が狭すぎて相手チームの子どもがそれて入ってきてしまった。	・2チームの間に保育士が立ち、他チームの方に入ってしまう子どもを他児とぶつからないように防ぐことの出来る位置に付く。・バトンを繋ぐ時に、子ども同士で接触が起きないための方法やルールを事前に伝える。	
7932	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	8	0	0	0	0	0	8	0		1	1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中			2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	事故当日レントゲン検査診断　右上腕骨通顆骨折、7月5日レントゲン検査結果診断　上腕骨顆上骨折となる。	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	体育遊具の使い方、補助の仕方の徹底不足。本児の左側で担任保育士が補助をしていたが、園児が体勢を変えようとしたときは体を支えやすい後ろわきの近い場所で補助が出来ていなかった。ればよかった。	体育遊具の指導マニュアルの作成をし、職員間で実技研修を行い、事故の予測ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	連続使用により、汗で鉄棒が滑りやすくなることもあり、毎回、鉄棒拭き用タオルで拭くようにしていたが、本児が行う前はタオルで鉄棒を拭いていなかった。	運動遊びが集中してできるスペースの確保を行う。運藤遊具の点検は、使用前、使用後に確実に行う。鉄棒拭きのタオルも準備しておく。	1.集団活動中・見守りあり	当日は、午前中より近隣の学校との交流行事があり、また、5歳の新入園児が当日より登園し、担任含め園全体も落ち着かない様子があった。	クラスの状態を見ながら、落ち着いた環境の中で集中して出来るように、自由遊びと混在した集中できないような場合は、取りやめほかの活動に切り替える。	1.いつもどおりの様子であった	雨天の為、室内遊びで、本児が鉄棒をやりたいと希望し、前回り、逆上がり、足掛け周りを楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	マンツーマン指導であったが、危険の予測が足りず、しっかりと補助できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児クラスは、隣の部屋でままごとやブロック、折り紙などで遊び、4歳児担当が保育しており、5歳児のクラスは見ていなかった。	いつも指導している担任ということもあり、過信があった。	こどもの様子は日々変化するので、無理なことはさせないようにしていく。	
7933	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	6歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指薬指第二関節　若木骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2.基準配置	運動遊びの研修に参加し、跳び箱の補助の仕方を学んでいた。子ども達にも跳び箱での体の使い方等、事前に安全教育を行っていた。	個々の運動発達の状態を把握した上で、発達に合った遊具の提供と職員の補助について改めて職員に周知する。	2.不定期に実施	実施頻度(その都度確認　)	2.不定期に実施	実施頻度(その都度確認)	2.不定期に実施	実施頻度(その都度確認)	対象児の体の大きさや運動能力と遊具（巧技台の跳び箱）が適正だったか検証する。	巧技台の跳び箱をする際、いくつか段差の異なる台を設定したり、個々の能力に応じた調節ができるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	跳び箱には、両手をつく位置が視覚で分かるように大きな目印をつけていた。対象児もその位置に両手をつき、跳び越えたように見えたが体を支えきれなかった。	事故の検証を行い、危険と思われる運動遊びの補助には保育士がしっかり援助できるよう職員間で周知した。	1.いつもどおりの様子であった	担任２名と５歳児１７名が遊戯室に設定された巧技台を使って運動遊びを行っていた。本児も一緒に運動遊びに参加していた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	保育士１名が跳び箱のそばで補助についていた。対象児は、一人で跳び箱を跳び越えたが、太ももに右手が当たった様子を目視した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室に設定された遊具（鉄棒）のそばで他児の補助を行っていた。	補助が必要と思われる遊具を実施している時には、個々の発達に応じた援助を行うように心がけていたが、今回は手の付き方がうまくいかず事故につながってしまった。	保育中の保育士の位置や声掛けの仕方について、園全体で考え危険回避の意識を高めていく。子ども達の運動能力向上と安全教育に取り組んでいく。	
7934	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28				7	11	10			3	3	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	保護者の迎えの時間が重なり、保育士の関心が保護者へ向かっていた。	保護者対応時間でもあり、合同保育時における保育士の役割分担を明確にする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年		改善点は特にありません。	1.集団活動中・見守りあり		保育環境の内、コーナー分けをすることで、落ち着いて遊べるようにしているが、コーナーでの遊び方を子どもたちと再確認し、ジャンプしたり回転して遊ぶことのないように話し合い、危険のないようにする。また、保育士間で連携し、見過ごしのないように見守る。	1.いつもどおりの様子であった	座って他児と遊んでいたが、立ち上がり、左足だけで回転した。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のお迎えが重なり、対象児が視界に入っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外を見ていて、気づかなかった。	保育士同士、他の子どもの動きに気をとられ、視野が狭くなっていた。	保育士で役割分担し、絶えず声を掛けあい、子どもに目を配る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	概要 施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7935	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									2	2	5歳	1.男児	右肘の神経が小指を通っている為、小指がびりびりと感じる場合はすぐに病院を受診すること	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘関節内骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	先に並ぼうとした際競争心と、クラス全体での子ども達の気分の高揚の興奮状態での集合の声のかけ方等が整ってなかった分、動きより気持ちが先となり足が縺れ転倒。勢いよく倒れ、右肘を負傷へと繋がってしまった。	集合の掛け声の際、その日の子ども達の心情や高揚感などの判断をしっかりと見極める力を培い、子ども達に競争ではない事を知らせた上で落ち着いて並ぶ事を再度習慣化できるように子ども達に説明する。又、友達に対して譲り合いの気持ちを持って関わる事が出来るよう日々知らせていく事とする。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)			1.集団活動中・見守りあり	他児の注意散漫な行動によるもの又、保育者の子どもの状態の見極め方。	子ども達の高揚状態を見極める力を培い、競争ではない事を知らせ、落ち着いて集まることができるように導いていけるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	室内に入る為入り口方向に向かっ走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内に帰る為、入口の方を見ていたが、遊具の方を振り返ると対象児が入口付近で座り込んで泣いていた。別の子が対象児の腕と足が当たってしまったと報告に来た。対象児を安全な場所に座らせ、話を聞き、痛い部位をタオルで冷やして様子を見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	午後おやつが食べ終わってない子がいた為、その子が食べ終わるのを見届けてから下に連れて行き、、片づけを行っていた。その後下に降りた。	保育者１名での戸外遊びであったこと	保育者２名で必ず監視する事	
7936	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				8	3	9			3	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折（剥離骨折）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3) 回/年	1.基準以上配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年			3.個人活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	鉄棒で前周りができるようになったばかりであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	17：40頃は園児数も減り、全員が鉄棒周囲で遊んでいた為、鉄棒の周囲に当番担当が2名で見守っていた。１名が本児の近くで鉄棒をしているのを見守っていた。本児が落下するのを見たが、手を差し伸べて助けられる距離ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	17：40頃は園児数も減り、全員が鉄棒周囲で遊んでいた為、鉄棒の周囲に当番担当が2名で見守っていた。お互い全体を見れる場所にいた。	本児は当日の午前中、鉄棒で前周りができるようになったばかりであった。その為、鉄棒での前周りが慣れていなかったので手を放してしまったと考えられる。	17:00以降は疲れも出てきて握力や集中力がなくなるので、鉄棒と雲梯はやらないように取り決めを改善。17時まではクラス担当もいて子どもの状況も良く把握できていることもあるため。	
7937	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	6.午睡中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	21			21						4	4	3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		3.火傷	5.下肢(足・足指)	火傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	避難訓練を実施する意味についての理解不足や職員同士の考え方の相違があり、全体的なすり合わせができておらず、安全に子どもを避難させることができなかった。非常階段が混み合うことを想定し、別箇所からの２方向避難の検討ができていなかった。	園全体で避難訓練のあり方、ねらいについて再設定し、誘導方法の手順を見直した。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	建物点検が冬季に毎年実施していたこともあり、金属部分の危険性についての認識が欠けていた。	火傷の原因となった金属のつなぎ目は翌日人工芝を敷き、肌が触れないように環境改善を行なった。	1.集団活動中・見守りあり	定期的な読み合わせや災害時におけるシミュレーションが不足していた。非常階段が混み合うことを想定し、別箇所からの２方向避難の検討ができていなかった。	事前にクラス毎や他クラスとの連携によるシミュレーションを行い、安全に避難するための避難経路の確保を想定する。また、それぞれに設定された各クラスの避難ルートを共有し、混雑を回避する。	1.いつもどおりの様子であった	午睡時間ということもあり、本児自身も覚醒しておらず、クラス担任職員に促されるまま移動する状況であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	各職員が担当クラスの児童の避難誘導に集中し、全体を把握する職員の配置（役割分担）ができていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他職員が担当職員及び対象児童の動きの確認はできたものの、全体を見ながら指示を出すという役割分担が不明確であった。「誰かが見てくれているだろう」という意識から職員それぞれが流動的な配置となり、危険箇所や子どもの様子を常時見守れる職員の固定配置ができなかった。	各担当職員が避難誘導時に他クラスの避難状況の把握意識や、ゆとりが持てず、また状況伝達や誘導指示の職員がいないなど、役割分担が不明確でもあり、声を掛け合うなどの連携（コミュニケーション）が不足していた。	避難誘導については、子どもたちが慌てず落ち着いて避難できるような声掛けや、全体を把握した誘導係の設置を行い、混雑が起きないよう職員間で声を掛け合う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7938	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	8									3	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（6）回/年	2.基準配置	子どもに対する行動の予測の配慮が足りなかった。	ヒヤリハットの会議の際、子どもの行動からどのような事故が予測されるかを話し合い、様々な状況を想定できるよう学びを深められるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	体操教室を楽しみにしているあまりに、興奮して走り回っている子が多く見られた。	活動が始まる前には、子ども達を落ち着かせる様に話をする。また、準備が終わった子は、どのように待っているかを伝える。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	本児にとっては登園した直後の活動であり、クラスの友達に会ったことで、興奮し、走り回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	水筒置き場の近くで、子ども達に一旦座る様、声を掛けていたが、子ども達には伝わっていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その日の、体操教室の様子をビデオ撮影する為に、セッティングを行っていた為、子ども達の様子は注意深く見ていなかった。	体操教室が始まる時には、保育士２名、体操インストラクター１名が配置されていたが、それぞれの役割がはっきりしていなかった為、子ども達に的確な指示が伝わらなかった。	出入口付近に付く職員がいなかった為、全員が玄関から出るまで、職員が付くようにする。職員同士声を掛け合い、役割を明確にする。	
7939	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29				9	12	8			5	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	ボールを久しぶりに使用するにあたり、提供の仕方やルールなど、職員間の情報共有が不十分であった。	遊びを提供する際（特に初回や久々の提供)には、提供の仕方やルールについて事前に職員間で話し合い、共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	ボール遊びとそれ以外の遊びが同じ範囲の中で混在していた。	遊びに合わせて空間分けを行い、子ども達にも丁寧に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	久しぶりのボール遊びで、約束事の確認をせず、自由にボールを扱っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員の勤務交替のタイミングであり、引継ぎの為職員が３人とも集まっていた。そのため、転倒の場面を見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なし	実習生が２名いたことで、大人の人数は多く、安心感からか、職員の意識が弱くなっていた。	引継ぎの間も、子ども全体に目を配り、職員が見ていないという状況をなくす。また、久々に使う玩具はルール確認を行ってから提供する。	
7940	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	7									3	3	2歳	2.女児	2021/7/11保育園で、受診しレントゲンを撮影せずに肘内障の診断で整復する。降園後も気にする様子あり、救急外来受診するが泣いてしまいレントゲンうまく撮影できずその時点では骨折否定される。翌日も右腕を気にする様子あり、保護者の方で東京医科大学病院受診し、右肘骨頭骨折の診断となる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	2021/7/11　右肘肘内障 2021/7/12　右肘骨頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1歳児保育室にて、体操用のマットを２枚使用し、寝転がったり、下にクッションを入れて坂道にしたりして遊んでいた。	マット周辺の空間を、落ち着いて移動出来るような遊びを展開・工夫する。一度終わったら座って待つ。保育士が事前に見本を見せながら約束事を分かりやすく伝えるなど配慮が必要だった。	1.集団活動中・見守りあり	走り出した際に足を滑らせ、右肘が下になり状態で転倒した。	普段の保育の中でハイハイや体幹を鍛える動きを取り入れ、転倒した際に手をつけるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	マット遊びを楽しんでいたが、移動の際に急ごうとした事で、転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	マットにつき、登り降りしている他の園児をみていた為、本児が転倒した際に受け止めることが出来なかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員とマットを挟んで反対側で登り降りしている園児を見ており、本児が転倒した際、咄嗟に手を出すことが出来なかった。	園児数が少なかった為、待ち場所等作らずどちらから進むかは決めていたものの、自由に遊べるようにしていた。	終えた後は１度落ち着いてから、順番に行っていく。	
7941	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	2	2	1	2	0	2			2	2	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.基準配置		事故の内容を職員で共有し、マニュアルの読み合わせと確認を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年		クラス設置の玩具が年齢に適しているか、危険がなく安全に使用できるかの確認を各クラスにて行い、職員会議やミーティングで周知を行う。	3.個人活動中・見守りあり		ウレタンブロックも使い慣れた玩具であるが、使用する際は使い方について、子供たちと一緒に確認を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	怪我の発生直前は他児と一緒に座ってやり取りを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児が遊んでいる場所、内容は確認していたが、バランスを崩して床に手を付いた瞬間は合同保育の乳児の相手をしていたため見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が遊んでいる場所、内容は確認していたが、バランスを崩して床に手を付いた瞬間は合同保育の乳児の相手をしていたため見ていない。		本児の遊んでいる内容は、ほぼ危険性がないと判断し、転倒した瞬間は乳児に注視していまい、目を離してしまっていた。全体が見渡せるような立ち位置にしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7942	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	11									6	5	1歳	1.男児	ミルク、バナナのアレルギーは対応していたが、卵によるアレルギーはなかった。給食で厚焼き玉子約2×3センチ大を2/3程度摂取したところ卵によるアレルギー反応が出た。	5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		1.意識不明		卵アレルギー（疑い）によるアナフィラキシーショック	6.アナフィラキシーによるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	1.基準以上配置	「食物アレルギーマニュアル」を作成し、各クラスに設置。事故防止及び緊急対応に備えて講習会は積極的に行っていた。	○/○職員会議にて事故再発防止に対し、全職員で要因分析を実施した。今後も定期的に講習会を実施し、全職員への事故防止及び危機管理に対する意識向上に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	安全対策において園内でマニュアル化し実施している。	全職員に引き続き、周知徹底し安全対策及び事故防止に努めていく。	6.食事(おやつ)中	アレルギー科を受診したが、診察後も状態があまり改善せず、結果的に救急搬送となった。子どもは急激に悪化する可能性が高く、救急搬送を第一選択とするべきであった。	救急対応についてアレルギーマニュアルの症状チェックリストの再確認を行う。日頃より保護者との連携をまめに行い、アレルゲンとなる食材は少量ずつ慎重に与える。子どもの状態を注意深く観察し、少しでも判断に迷う場合は救急搬送をする。お試しの食材は給食で提供する量を明確に提示し、自宅で問題ないかを確認してもらう。現在、卵のメニューは月に1回程度の提供（25ｇ以内）だが、今後提供を継続するかを栄養士含めて検討する。	1.いつもどおりの様子であった	登園（8：00）時より著変なく、室内遊びにていつも通りに過ごしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	アレルギーがあるため個別テーブルで専用エプロンを着用し、マンツーマンでの食事介助をしていた。異変後、病院受診はクラス主任保育士・看護師が同行した。病院で母親と合流し、帰宅の許可あり、姉のお迎えもあり一旦帰園とした。その後、救急搬送の際は母親のみの同乗となった。救急隊へは時系列で詳細な報告を行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	受診及び救急搬送するまで、園児の側には看護師または担当主任保育士が必ず付き添い状態確認を行った。	受診の際、母親と合流し、状況説明を行ったが、受診後も母親の不安が強く、園児の状態も安定しないため救急搬送の選択をした。搬送時にコロナ禍の人数制限もあり、看護師の同乗はしなかったが、経過を把握している職員が可能であれば付き添い精神的なフォローをする必要があった。	急変時は子どもだけでなく親の不安も強いため、具体的な経過説明や労いの声掛けなど精神的なサポートを十分に行っていく。また、アレルギー児の食事介助は普段の様子の変化に早く気づきやすいクラス担任が引き続き介助する。	
7943	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	22									3	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	運動遊びに関するマニュアルが無い	運動遊びについて職員会議を行い、共通認識をもつ	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	使用したマットがソフトタイプであった事で着地が不安定になった事が要因とも考えられる	着地が安定するようなマットを使用していく	1.集団活動中・見守りあり	日頃、体操教室で行っていた高さであったが、それが要因とも考えられる	不測の事態をさらに考慮し、設定していく	1.いつもどおりの様子であった	繰り返し行っていた活動であったが、3回目にバランスを崩し、前方へ手をついて着地した。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	側にいて、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見守っていた。	慣れた活動であった為、出来ると過信していた	慣れた遊びであっても、様々な事態を想定した補助をしていく	
7944	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	78				25	27	26			8	8	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	1.基準以上配置	今回事故があった場所が危険な場所であったこと、事故が起こるような遊び方だということが認識できていなかった。	ヒヤリ・ハットへの意識不足、それに伴い検討が不十分であることが考えられる。職員のヒヤリ・ハットへの意識を高めていく。また、必要に応じてマニュアルなどの見直しを行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年 毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の遊具は世界で最も権威のある「EN-1176」に準拠して設計・生産されているが、目の前にいる子どもたちの能力に即しているか日々更新していかなければならないと感じた。	ヒヤリハットを積み重ねていくことで危険個所を把握し、施設面で改善できるかどうか、または撤去しなくてはいけないかを職員会議などで検討していく。	1.集団活動中・見守りあり	戸外で体を動かし、いろいろな体の使いかたが経験ができる時間や場所の確保を引き続き行っていく。また、少し先のチャレンジに挑み続けられるような環境を整え見守っていく。	園内研修（OJT）や職員会議など園庭の環境についてリスクアセスメントを行い、子ども自らが危険を察知できる力を培う環境を話し合い整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	今回、怪我に繋がってしまった遊びは今年になって友だちと一緒に何度か行っている姿を見ていた。特に目新しい遊び方ではなく、毎年、年中・年長児ぐらいの子どもが挑戦している遊びであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	発生現場の近くで見守っていたが、高所の場所ではないこと、これまでの経験や本児の育ち（年長児で身のこなしも悪くない）を鑑み、すぐに手の届くところにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3．4．5歳児の合同保育中で、3，4，5歳児の保育者が高所の垂直落下があるなど危険度の高い場所に配置し、それ以外の職員は全体を見ながら子どもたちを見守っていた。	足がはしご部分にひっかかり着地でバランスを崩してしまったこと、手をついたまま跳ね返りによって腕に大きな負担がかかってしまった。	定期的に大型遊具での遊び方のルールを伝えたり、子どもの性格やその時の様子によって、危険に対して意識できるような声かけをしていく。	
7945	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									1	1	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足脛骨の骨折と右足首の捻挫	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	1.基準以上配置	夕方の人手の少ない時間帯で担任も一人だった。それまではアスレチックについていたが、親の対応で丁度抜けてしまったときに事故が起きてしまった。	アスレチック遊びは担任がしっかり見れるときに行う。見られなくなったら、終わりにして用具も片付けるようにする。	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年		日頃より事故防止について研修をもっと行い施設や遊具の点検をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	担任がついてアスレチック遊びを行っていたが夕方になり親がお迎えに来始め、その対応でその場を離れてしまった。お迎えの時間帯には遊びの活動を終了する。	夕方の人手の少ない時間帯ではクラスを越えて職員みんなで子どもたちを見守っていく	1.いつもどおりの様子であった	朝から元気で大好きな友達といつも一緒に遊んでいるが、この時もたまたま担任がその場を離れた時に友だちと一緒に高さのある所から跳んでしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	コロナ対策の為、玄関に親のお迎えがあり、その為ちょっとその場を離れてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ガラス戸越しの隣のホールに他の職員はいたが担当者・対象児の動きに目が行っていなかった。	保育体制が二人から一人になる時の遊びの内容について安全面に気を付けながら行っていく。	アスレチック遊びを行っている時は必ず子どもから離れない。どうしても離れる場合はアスレチック遊びを終了し片付けてから動くようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7946	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３～４)回/年	1.基準以上配置	土曜日で子どもの人数が少なく机と椅子で陣取り遊びを行っていたが、競争になってしまい気持ちが急いてしまって机から落ちてしまった。	遊びや保育活動では落ちたり転ぶなど危険を想定して、できる限り危なくないように内容を考えて遊んだり生活していく。	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(10)回/年	子ども一人一人の運動発達の状況やその日の健康状態をよく観察し遊びの内容を検討して行っていく。	事故防止についてこれからも度々研修を行い、施設や遊具の点検をしっかり行う。	1.集団活動中・見守りあり	この日はお天気が良かったが室内で遊んでいた。子どもたちと椅子や机を一緒に並べたが、その状況を見ながら危なくないか点検をもう一度行うべきであった。	天気の良い日には、室内遊びではなく外で遊んでいく。常に子どもたちの状況を見ながら怪我のないように気を配って活動していく。	1.いつもどおりの様子であった	朝から元気で、いつもとかわりなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児は元気にみんなと遊んでいたが、競争のようになって気が急いてしまい慌てて机から落ちた時に手の付き方が悪かった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ空間にはいたが、違う遊びのところを見ていた。	該当児はクラスの中でも月齢の低い子であるため、遊びの中に無理な所はなかったか、高さや距離など常に気を付けて遊んでいくこと、また競争で行うことで起こりうる危険にも気を配っていく。	遊びを組織するに当たって子どもの発達段階やその日の体調、遊びの内容によって起こりうる危険について先に考えて事故防止に努めていく。	
7947	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	外果剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		走って遊んでいると周りが見えなくなってしまうため、声かけなど行い怪我のないよう注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		定期的に点検や整備は行っているがより一層の園庭整備を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの活動全体を見守れるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	夕方の降園間近の時間帯でぞう組だけが園庭で遊んでおり、いつもより活発であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児は広範囲に活動しており、担当保育士も移動しながら全体を見ながら対応していた。本児が友だちにぶつかった様子は見ていなかったが周りの子どもが「転んだよ」と知らせに来てすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士から連絡を受けた看護師が本児の怪我の状態を確認し応急処置（シップを貼る）をした。		全体の子どもの行動を把握し、危険な行動を予防できるスキルを身につける。	
7948	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	8					5	3			1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員に安全対策マニュアルの周知徹底されていなかった。	安全対策マニュアル周知徹底を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２４０)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	午後３時前で、一日に疲れが出やすい時間帯だった。片付けを終えた子がやることがなかった。	子どもの状態に合わせた、動と静の活動のバランスを考える。	1.いつもどおりの様子であった	いつもより、登園時は落ちつきがない面がみられたが、徐々に落ち着いた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	こども同士で協力して、おもちゃを片づけている様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	間食準備、排せつの補助などを行っていた。	片付けを終えた子どもたちへの声掛けがなかった。	予測されるこどもの動きと声掛けについて確認し合う。	
7949	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	0	0	5	4	5	2	0		4	4	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	混合保育のため、小さい子と遊び、対象児からは気がそれていた。	混合保育の場合は全体の安全を確認する保育士も必要	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	裸足で遊んでいたが、床の湿気でバランスを崩し前へ倒れた。	転びやすいことなど、声をかけて注意を促す	3.個人活動中・見守りあり	小さい子の相手をして遊んでいたので、全体を把握できていなかった	一緒に遊びながらも全体の安全確認が必要、できなければ、保育士を追加する。	3.いつもより活発・活動的であった	同じ年齢の３人で追いかけっこをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児ではない子と遊んでいて、バランスを崩して倒れた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	追いかけっこには参加せず他の子と遊んでいた。	特別保育で、学年の担任がその場にはいなかったので、対象児の普段の様子（走ることが大好き）を十分に把握できていなかった。	保育士は学年の担任を配置する。	
7950	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	子どもの動きに対する危険予防が十分にできなかった。本児から保育者が見える位置で鬼ごっこをしていたが転倒した場面を保育者は確認していなかった。	鬼ごっこなど後方に気を取られ、前方が不注意になりやすい遊びの場合は、保育者はその動きを注視する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	園庭全面芝生が生えているが、その中で転倒した付近を中心に凹凸部が無いかを確認し、あれば整備を行う。	園庭での安全な保育活動について見直しを行う。	1.集団活動中・見守りあり	クラス単独での活動であり、全身を使って思い切り動き遊んでいた。	集団で活動的に遊んでいる時の安全確認、危険予測を十分に行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	室内活動から戸外遊びに移行した時間であり開放感を味わうように活動的にのびのびと遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の様子を見ていたため、本児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外遊びの事故の際、担当職員は一人だった	普段戸外遊びで転んだとしても地面が芝であり大きな事故になりにくかったため予測できなかった。	戸外遊び等、活動の終わりや切り替わり時にその都度体の異変や、体調に変わりがないか子どもに声をかけ確認をする。子どもが異常を訴えた時は、いつから、どのような場所で異変があったかなど丁寧に聞き取りをし、痛みを訴える部位など複数人で確認をする。	

No	初回掲載年月日	概要				発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
								発生時の体制																					ソフト面					ハード面							環境面					人的面							
									人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員												マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所			0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他			年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因																								
7951	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	右頬の裂傷	2.自らの倒れ・衝突による	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	危険予知・危険予知を遊戯室で行う。 防止等研修を常に職員全員で受け、危険を予測する重要性を高めていく。前年ヤリトラブルの事例を見直し、危険予測トレーニングの研修を行う。 遊戯室で行う活動に対する感度を高めていく。 遊戯室では走りまわったり、ボールを使用した遊びをすることが危険であるため、今後は誕生会プログラムとしてステージ納入業者に収納する。 遊戯室では、ピアノの上に物を置かないようにし、ピアノの手前に立っていた。 年長児がフリスビーをキャッチしようと急に走り出した。 ステージ手前に落ちたフリスビーを拾ったが、障害物がないため、ステージにぶつかることを防ぐことができなかった。 遊戯室でフリスビーをキャッチしようとして勢いあまってそのまま滑ってしまった。 ステージの角に頭をぶつけてしまった。 全体を見渡しやすく、また、子どもがぶつからないようにピアノの手前に立っていた。 フリスビーが遊戯室で危険性は思ない。 フリスビーをキャッチしようとして走っていく姿を見守っていたが、障害物で転び滑ってしまうことを予想していなかった。 ステージにぶつかることを防ぐことができなかった。 ステージの角に頭をぶつけてしまった。 障がい加配保育士を含む2名体制で通常の保育は行っているが、遊びなれた活動だった為保育士1人で大丈夫だろうという甘さから、一名が保育室の掃除・消毒の作業にあたっている際に、一人で動きの激しいフリスビーの遊びを始めてしまった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	楽しくて興奮したり、嬉しくてつい力が入ってしまったりと、集中力が欠けることが予想される時間帯である。 楽しくて興奮したり、嬉しくてつい力が入ってしまったりと、集中力が欠けることが予想される時間帯は、特性を考慮し、遊びの活動の落ち着いた環境を作り、遊びを始める前には、危険がないように約束事をしっかりと負担を減らす。

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																										掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷				マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
7954	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									6	2	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(６　)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回以上/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	・保育士がそれぞれ子どもを集めたり、並ばせたりしていて全体の状況を把握する　保育士がいなかった。・ステージの上に対象児が座っていることに気付いていたが降りるように声を　かけなかった。	・保育士の一人は全体の子どもの動きや状況を把握できるようにする。・子どもだけでステージに上がらないということを子どもと確認をしたり、ステージの使い方について再度保育士間で確認をしたりする。	1.いつもどおりの様子であった	・気の合う友だちと会話を楽しんだ後、自分でステージから降りる。・ステージから降りた時に泣いたが、入所したばかりで園や保育士に慣れておらず　痛みを訴えることができなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	・本児が泣いた後、痛がることもなく普段通リに過ごしていた為、ケガを見逃していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・担任がそろわない状況で活動をしてしまい全体を見る職員がいなかった。	・６月２５日より入所で担任との信頼関係を十分に築くことができておらず、自分から　痛みや思いを伝えようとする姿がなかった。	・痛みや何かを感じた時には泣いたり、伝えたりできるように保育者との信頼関係を深める。・思いが伝えれない子どもには思いをくんだり声をかけをしたりして配慮していく。・全体を見る保育士を必ず配置する。・保育者同士がこまめに声をかけあい一人一人の子どもの様子が把握できるようにする。	
7955	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10									2	2	5歳	1.男児	特記事項無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		各遊具での事故を想定して、研修・話し合いを持つ機会が少なかった。	研修・話し合いの機会を持ち、職員間で共通理解し安全保育を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年		実施頻度(毎日)回/年	登り棒の下は砂地のため硬かったので、着地地点の安全性を深く考える必要があった。	登り棒の下にクッション性のマットを敷き、着地、転落時の衝撃緩和に繋げる。	1.集団活動中・見守りあり	事故に対する予測が足りなかった。	繰り返しの活動の際は休息を取り、安全に活動出来るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	総合遊具の上側から数回登り棒を降り、次に下側から登り棒を数回登り、その際左手を離し支えきれず地上約1メートルの所から地面に落下する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	登り棒が２本あり、その間で園児を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具の滑り台を滑っている子どもや離れた所にある渡橋を登っている子どもなど、園庭で遊ぶ全体的な様子を見守っていた。	子どもの動きや事故に対する予測が足りなかった。	子どもの遊び方や動きのイメージを把握し、保育士の立ち位置に配慮したり、事故を予測し未然に防ぐことが出来るよう、職員で共通理解していく。	
7956	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	21									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	複数クラス（1・2・4歳児）が同時刻に園庭に出て遊んでいた。	複数のクラスで園庭を使用する場合には、遊びの内容を考える。職員間の連携をとる。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	それぞれの安全点検は行っていたが、遊具や玩具を用いない遊びの安全への配慮が足りなかった。	園庭使用が集中する場合時間割を決める。第2園庭の利用。	1.集団活動中・見守りあり	複数クラスが園庭に出ている状態で、遊びの内容が適切ではなかった。	集団あそび、動きの激しいあそびをする場合、クラスの使用時間を決める。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り、鬼ごっこに参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと一緒に鬼ごっこに参加していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもたちと一緒に鬼ごっこに参加していた。	担当職員、加配保育士とも一緒に遊びの中に入っていた。	集団あそびをする場合、1人は遊び全体を把握できる位置にいて見守る。	
7957	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	0	0	3	2	1	4	0		4	4	2歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第2中足骨骨折左第３・第4中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/年	2.基準配置	なし	どんな場面において事故につながることを職員間で話し合い、子どもの様子をきめ細やかに観ていくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	畳とクッションフロアを仕切る木枠（２５cmに高さ）をまたぐ際に、左足に何らかの衝撃がかかったと思われる。	畳とクッションフロアを仕切る木枠（２５cmに高さ）の周りにクッション材を貼る。	7.その他	なし	子どもが畳とクッションフロアを仕切る木枠（２５cmに高さ）をまたぐ際には、保育士が傍に付き一人一人の手を添えてゆっくりとまたげるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	特に左足を痛がる様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	患部を確認後、本児の足の動きに細心の注意を払い観察していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員同様、本児の足の動きに細心の注意を払い観察していた。	なし	子どもの動きなど、気を付けて観察し、状況に応じた言葉かけや対応を行う。	
7958	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20	0	1	4	3	4	8			5	4	3歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	なし	日頃の子どもの行動から、常に予測するようにする。危険個所等、話し合っておく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	テラスと園庭の高低差があること	花壇に登り、歩かないように花壇の上面に子ども達の絵を貼った。	7.その他	なし	子どもの様子を見て、声を掛けるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	活発な本児で、常日頃から保護者の前では飛び降りていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見ていたのは門での受け入れをしている職員であり、本児は保護者と一緒に保育士室の方に歩いていたので、その様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の保育をしていたため。	本児は保護者の注意を聞かないことが多いが、保護者もきちんと対応していない。	改善策として、弟の準備中は保護者と一緒に入室し、一人で戸外にいることがないようにすることを本児や保護者に伝え約束し、職員間でも共通理解し周知した。	
7959	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70	2	11	8	20	19	10	0		11	11	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆外骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１８)回/年	2.基準配置	特になし	担任の他に加配保育士を配置し、出勤状況によりフリーの保育士を配置していく。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２９３)回/年	特になし	園庭の凹凸がないか等点検し、地面をならす。点検マニュアル項目をもとにチェックしたり、不具合があれば処分し解決していく。	1.集団活動中・見守りあり	子どもは、鬼ごっこに夢中になると、周りの子どもとの距離間は把握しにくい。	職員間で、子どもの動きや空間スペースに目を配り、安全の配慮を行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしていて足がもつれた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを一緒にしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	砂場遊びをしていた。トラブルのあった園児への仲介をしていた。	鬼ごっこは、ぶつかることや転ぶことがあることを認識する。	子どもが転びそうになったら、手をつくように指導する。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7973	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36					20	16			5	5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	遊具や遊びに保育士がついているが、配置が十分でなかったか	鉄棒についている保育士は、子どもの様子を見て立ち位置を見直す	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	鉄棒下にはゴム製のマットが敷いてあるが、肘から落下したため骨折した	鉄棒やマットの安全点検をしっかり行う	3.個人活動中・見守りあり	近くで見守っていた保育士と、手に汗をかいているという話をしていた	少し休憩するように声をかける	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒が好きなので、普段通りよく遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の近くで、遊びを見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児の様子を見ていたが、咄嗟に受け止めることはできなかった	ずっと鉄棒で遊んでいたので、手足が疲れていたのかもしれない	近くで見守ること。長時間遊んでいる子には、休息時間を作ること	
7974	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16		1		4	4	7			4	3	3歳	1.男児	特になし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折、急性硬膜下血腫	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	保護者と別れがうまくできず、気持ちを切り替えられるように保護者がかかわっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保護者との別れがうまくいくように、様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちを保育していた	受け入れの時には職員一人が対応をしている。別れ際の方法(かかわり方)で事故が起こりそうな行動をしている場合には危ないことを伝える必要があった。	親子のやりとりを大切にしながら、事故を防ぐためには、危険を回避する為に伝えていく。	
7975	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2					1	1			1	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	1.頭部	歯牙不完全脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	トイレは扉が多く,手など挟みやすい。場所も狭く通路をすれ違う際に体や開けた扉にぶつかる。手洗い場の水が零れ落ち、濡れていると滑る危険がある。	扉には手はさみ防止をつけ、開けっ放しにしない。床が濡れていないか常に点検し、濡れているときには速やかに拭く。	3.個人活動中・見守りあり	ぶつかった年長児は担任保育士に黙ってトイレに行っている間の事故であった。	園児がトイレに行く際は保育士が必ず付き添い、危険性を予知し声をかけながら見守る。	1.いつもどおりの様子であった	保育活動中であったが、トイレに行きたい旨を保育士に伝え、急いでトイレに駆け込んだ。	4.対象児の動きを見ていなかった	年中担任保育士は本児からのトイレの申し出に応えながら、おむつ替えをしている年少保育士が見えたため付き添わず、また本児がトイレに行くことや見守りをお願いする旨を連携していなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	年少保育士はトイレにいたが年少児のおむつ替えを行っており、トイレに来た本児の姿を確実に目で追っていたわけではなかった。	年中担当保育士が1名園外保育に出かけたため、担任保育士のほかに部屋にいたのはフリーの保育士であり自身が本児に付き添えないにもかかわらず、付き添いをお願いするなどの連携が取れなかった。また、ぶつかった年長の担任は当日休みであったためフリーの保育士で連携がうまくいかず、園児も保育士に知らせずにトイレに行ってしまったと考えられる。	いつもと違う保育士が保育に入るときには園長か主査が様子を定期的に確認しに行くようにしたり、園児にも困ったことがある時にはなんでも声をかけるように伝えていく。	
7976	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		マニュアルがあることを職員に周知し、いつでも見られるようにしていく。 臨時職員に定期的に安全な保育や子どもへの関わりについて話をする機会をつくる。	1.定期的に実施	実施頻度(12) 回/年 実施頻度(3) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年 実施頻度(48) 回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年		鉄棒の下には、マットを敷く。	1.集団活動中・見守りあり		鉄棒の遊び方を子どもと再確認し、バランスを崩した際は、落下しても怪我を防止できるように鉄棒の下にマットを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	他児と一緒に鉄棒で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れていた場所で他児と遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒で遊んでいることは確認していたが、少し離れた場所で見ていた。		鉄棒で遊んでいる際は、そばにつき見守る。	
7977	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	43									4	4	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	研修を続け、危険予知の能力を高め、危険を回避できるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	引き続き、施設、遊具、玩具の安全点検は毎日する。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒をしているときに、他児が側によって体を支えるような動きをした。	他児が鉄棒をしているときは、離れることを徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	好きでよく遊ぶ鉄棒遊びに友達を誘っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士は、すぐ後ろで2人の様子をみていたが、咄嗟のことで被災を防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭内で、他児と遊んでいたため、被災を防ぐことはできなかった。	本児は鉄棒で手を離すことが時々あるが、保育士が手を添えたり、本児の体を支えたりしていなかった。	保育士は、危険を予知して手を添えるなど危険にすぐ対処できるところに位置する。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7985	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84	0	0	0	25	28	31	0		5	3	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	特になし	鬼ごっこをするときのルールの確認をする	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	園庭の安全確認をしっかり行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危ない遊び方を見かけたら止める	1.いつもどおりの様子であった	園庭に出て、友だちと鬼ごっこをしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこを一緒にしていたが遊びから抜けて、他の遊びをする子のところに行き、鬼ごっこの動きも見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びをする子どもたちを見守っていた	特になし	園庭での子どもたちの動きをしっかり確認していく	
7986	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14									1	1	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	若木骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	なし	なし	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	保育士は遊びに参加しつつも全体が見える立ち位置を意識し、常に全体の姿を把握していく。	腫れや変色など見た目の異常がなくても、被災後の経過観察を丁寧に行い、少しでも気になることがあれば受診をする。	1.いつもどおりの様子であった	鬼にタッチされると思い、すばやく身をかわして逃げようとした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士も遊びに参加しており、２～３ｍ離れた場所から本児の姿は見ていたものの、咄嗟のことで被災がおきたことがわからなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で本児の遊ぶ様子をみていたたが、瞬時の本児の動きに危険を感じなかった。	なし	なし	
7987	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	2	4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎・６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年			3.個人活動中・見守りあり	登園時の園児受け入れをしながらの保育ということで、事故を未然に防ぐ個別配慮がかけていた。	園児の受け入れを行いながらも、危険が予測される個別行動に対する配慮を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			保育士2名体制で保育している際、お互いに声を掛け合い、保育士が園児の様子を見守り対応しやすい位置で保育する。	
7988	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18					7	11			1	1	4歳	1.男児	A整形外科受診後、B病院へ移動し、処置を行う。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	遊具近辺に職員が配置されていなかった。	職員配置の見直し、遊具使用時には必ずそばに保育士がつく。	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	2.不定期に実施	実施頻度毎日	特になし	すべり台にガードを設置する。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が他ごとに気をとられており、子どもたちの動きを把握していなかった。	保育士の立ち位置を考えたり、子どもたちの遊びを見守ったりする中で、危険な行動をしている場合には、声かけや制止をし事故を未然に防いでいけるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	以前からすべり台を逆走する姿がみられた。	4.対象児の動きを見ていなかった	数人の子どもと一緒に園庭の植栽に生き物の死骸を植えていたり、玄関にお茶をとりに行っていたりと、子どもたちの動きに目を配れていなかった。		園庭に他の職員はいなかった。	特になし	遊んでいる子どもが危険な行動をしていたら、制止ができるよう子どもの動きに気を配る。また、遊ぶ前には遊具の使い方や園庭での遊び方等再確認する機会を設ける。	
7989	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	37									2	2	5歳	2.女児	特になし	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手人指し指（ひびが入った）7/19 → 骨折 7/27診断	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2.基準配置	廊下は歩いて行動していく。	子ども達に移動する時には急がず周りを見て、行動することを伝えた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	子どもの移動中は保育士がしっかりと見ていく。	7.その他	特になし	移動前に子どもに伝える（走らない、急がない)	1.いつもどおりの様子であった	日々、どちらかと言えば周りを見ていない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	時々、怪我等につながることがある為、日々気を付けていたがぶつかってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人の職員は近くにはおり、もう一人は離れたところにいた。	移動中はぶつかってしまうこともある。	保育士は一人一人の動きをよく見ていくようにする。	
7990	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	114				0	61	53			10	10	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨幹部骨折 左肘頭部挫傷 左尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	特になし	園児に遊び方を確認し、気をつけて遊ぶよう指導した	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	遊具（雲梯）自体に問題はなし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	保育士の立ち位置を工夫する	1.いつもどおりの様子であった	いつものように雲梯で遊んでいた遊具にも慣れており特に不安な様子はなかった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	特になし	保育士が連携を取りながら全体を見る	
7991	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									1	1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	4.上肢(腕・手・手指)	右中指挫創	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	保育士が子どもの気持ちの内面にも配慮し行動予測する力がついていなかった。	慌てやすい・気が他に移りやすいなどその子の特性を把握した対応をしていくことの必要性について再確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	はさみ（刃先）を人に向ける危険性が理解できていなかった	友だちが持っているものを切ろうとするとどんな危険性があるか実際見せ、子ども自身が考えることができるよう問いかけながら確認し、気を付けて扱えるよう指導した。	3.個人活動中・見守りあり	はさみの扱い方が、身についていなかった。	日頃より、はさみの扱い方・片づけ方など細かく継続的に伝えていくことで、身についていくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	対象児の同意なく他児が対象児の持っていたロープを切ろうとしてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士は他児がはさみを扱っていたことは把握しており見守っていたが、被災した瞬間は2.5ｍ離れたところにいて他児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員いなかった。	はさみ使用時に保育士が子どものそばから離れてしまい子どもの姿が把握できていなかった。	必ずそばで見守るようにし、保育士が離れる際は子どもの姿が把握できるような保育士の位置を意識する。姿が把握できないときは、はさみの使用を中止する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7992	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									2	2	5歳	2.女児	筋ジストロフィーの子どもで、歩行に介助を必要とする。	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	特になし	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	・職員間での共通認識	・個別計画案に介助方法を織り込む	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	・特になし	・特になし	3.個人活動中・見守りあり	雨の日で、朝から室内で過ごしていたため、他児の動きも活発になりはじめ、やや騒がしい状況であった。本児が歩いているすぐそばで、子ども達が遊んだり、動き回っていた。	他児の動きが大きくなっていたり、騒がしい時、込み合った場所は自力歩行しないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	自分で作ったものを自分でロッカーにしまいたいということで、自力歩行していたところ、近くで立っていた友達の足に本児の足が当たった時にバランスを崩した。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	後ろから、本児の作った作品を持ちながら見守っていた。すぐに手の届く距離におり、転倒時に脇を支えたが、支え切れなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	こども用机2台分隔てたところで、全体を見ながら、本児の動きも視界に入れていたが、他児の対応をしていた。	・児童は筋ジストロフィーという持病があるため状況により歩行等に介助が必要	・介助位置を児童の後方ではなく主に横側、前方につくようにした。	
7993	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					9	16			2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨端線離開	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	久しぶりの戸外遊びだったため、周りの様子を見ることなく夢中で走り、友だちとぶつかってしまった。	子どもの動き、遊びの様子を把握する。必要に応じて声をかけたり、子どもたちと話し合ったりして安全な遊び方が身につくようにする。また、全職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	石やマットなど、つまづいて転ぶ原因になる物はなかったか、園庭の整備はできていたか。	遊具の安全点検はしているが、園庭の状態までは把握できていなかったので毎週月曜日に遊具の点検に加え、園庭の状態を確認する。	1.集団活動中・見守りあり	固定遊具での見守りに集中していて、走っている子への配慮が足りなかった。	戸外遊びの際は、園庭全体に目を向けるようにし、保育士同士がお互いの動きを見ながら（把握しながら）連携をとるようにした。	1.いつもどおりの様子であった	特に気になる様子はなかったが、久しぶりの戸外遊びを喜んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の遊び（固定遊具）の見守りをしていたため、対象児の遊びを離れた場所から見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保育士の動き、立ち位置を把握しつつ、固定遊具で子どもの援助をしていた。	保育士が、固定遊具以外の遊び（鬼ごっこ）は、大きな怪我につながらないだろうという気持ちになっていた。	どんな遊びにも怪我をする可能性があるということを認識し、ヒヤリハットなどを職員間で共有していく。	
7994	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	1.男児	事故発生の5カ月前、お休み中に家庭にて右腕を骨折。1カ月後から登園	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折（骨の場所は不明）	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	朝の視診問診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気が付かなかった。防犯カメラにて検証	1.いつもどおりの様子であった	登園の際、右腕が少し曲がっている様子を防犯カメラで気づいた。(事故発生の5カ月前に骨折しており、完治してからもやや右腕を曲げて過ごしているように感じた。)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雑巾がけのスタート地点と反対側の全体が見える場所に待機し、号令をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士補助は子どもたちの近くに待機していた。	遊戯室で雑巾がけを行っていた。少し止まりながら一往復行い、終了後に保育補助に声を掛け、担任保育士に「痛いからやめておく」と伝えに来た。 過去に骨折していたことから負担がかかり痛めたと予想される。	朝の視診問診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気が付かなかった。防犯カメラにて検証	
7995	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									2	2	5歳	1.男児	はしゃぎ出すと、気持ちが高ぶり、落ち着くまでに時間のかかることもある。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.基準以上配置	ヒヤリハットを出し合ってはいるが、全体の職員が意識を持つことがいきわたっていなかった。	ヒヤリハットを出し合うだけではなく、月に１回危険予知トレーニングを行うよう改善した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	使用した経験が少なかった。	子どもの発達の状況に合わせて、経験を増やすようにした。	1.集団活動中・見守りあり	担任保育士が遅番出勤のため、他の保育士が変わって保育をしていた。丁度、入れ替わり時間だったため、引継ぎをしていた。ジャングルジムに、子どもが集まり、危険を感じたため、２人の保育士がジャングルジムの方に動いた。	引継ぎ時にも子どもから目を離さず、手短に行うこと、引継ぎ時、誰が責任をもって保育にあたるのかを明確にすることを話し合った。また、危ないと感じた時、お互いに声を掛け合いその場から離れたり、かかわったりするよう話し合い周知した。	1.いつもどおりの様子であった	かまぼこ型のマットで、ふらふらしながらバランスを取ろうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	不安定さはあったものの、そのスリルを味わっているような様子だったため、視界に入るような位置で、見守っていたが、ジャングルジムに子どもが集中したため、移動した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児がかまぼこ型のマットで遊んでいることは承知しながら、ジャングルジムの方に気を取られ、転倒の瞬間は見ていなかった。	朝の自由遊びに設定する玩具は、その時の担当によって異なる。この日も、通常使っているであろうという事で、代わりに入っていた保育士は設定をしたが、実際には、担任保育士は、あまり使用していなかった状況だった。また、一瞬ではあったが２人の保育士の視線が、同時にジャングルジムにむいてしまった。	担任保育士は、代わりの保育士に遊びの設定内容を伝えたり、子どもの様子を伝え、共通理解を図ったり、クラスの状況がわかるもう一人の保育士が設定を確認したりするようにした。また、２人の保育士でその場から離れるときには、声を掛け合い、連携を図る事を周知した。	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期・月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども・年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析・ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
7996	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	39									2	2	6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左示指基節骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	職員全体で怪我の経緯を共有し、園児の動きに注意を払うよう話をした	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	特になし	ハード面での改善策はないと考えます。	3.個人活動中・見守りあり	遊ぶ子はマットの上で遊ぶルールになっていたが、守れていないところがあった。	マットの上で遊ぶルールを徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	他児に比べよく動くため、怪我につながりそうなこともある	2.対象児の至近で対象児を見ていた	踏まれた時には、怪我までの様子ではなく、指も動いていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1人の職員は近くにおり、もう一人は離れたところにいた	特になし	クラスの部屋以外で過ごしているときは一人一人の行動把握をしていく	
7997	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				11	7	9			2		4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	園内でのヒヤリハットや事故防止策について、定期的に話し合いの場を設ける。	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度()回/年	特になし	園内の安全点検等は毎日行っているが、さらに注意し、引き続き行っていく。	1.集団活動中・見守りあり	雨が続き、全面芝生の園庭の芝が、いつもより伸びていたため足を取られたのではないか。	園庭の芝刈りを定期的に行っているが、生育状態により、よりまめに芝刈りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	特に変化はなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊具等から離れた場所で、危険物等のない、広い場所におり、まわりにも人がいなかったため、離れた場所から見守り、他の園児の対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内にいた園児の対応をしていたため、対象児の様子を確認できなかった。	長時間利用の園児に対し、保育士は定説な人数を配置していたが、園庭と、室内と園児が分散していたことで、見守りも分散していたことが要因の一つと考えられる。	園児の動きを分散させず、保育士の対応ができるようにする。また、動きが分散するような状態の場合は、手の空いた保育士が、サポートしていくる体勢を取る。	
7998	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	10									2	2	2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A左上A歯の脱臼 及び下唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎・6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年			2.集団活動中・子ども達のみ			1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた		2.担当者・対象児の動きを見ていなかった				
7999	令和4年3月16日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57									4	4	6歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頸部骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	運動遊びは危険を伴う遊びであるが、専門の講師からの研修機会が少ない。補助の方法が曖昧な保育士もいる。	年度早々に年長担任は講習を受け、全職員に知識を共有できる機会がもてるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	すぐ側で見守っていたが、いつもは跳べる子だったので油断しており、手を差し出すタイミングが遅れた。	今度は失敗するかもしれないと常に緊張感を持って補助態勢をとる。	1.いつもどおりの様子であった	健康確認表にも特記事項はなく○が打たれていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱は危険な遊びだと認識していたが、本児は既に5段を何度も跳んでいたので、今度も跳べるだろうと油断していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士が付いていたので、任せていた。	いつもは、助走せずに踏切板のところでトントンとリズムをつけて腕の力で飛び越えていたが、この日は、助走をつけて挑戦しており、自分の思う以上に踏み切り板の所で力が加わりバランスを崩した。	側についていた保育士が担任でなかったので、普段の跳び方を把握していなかった。危険を伴う遊びであることを常に意識し即動ける態勢でいる	
8000	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	5	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4		1	3						3	2	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度6回/年	2.基準配置	この度の骨折は、室内にて本人が転んだと思われ、骨折に至りました。発生時刻が夕方であること、転倒前に体を動かして遊んでいたことから、足元にふらつきや、疲れがあったと考えられます。そのためつまずいて転んでしまったと推測されます。	夕方の疲れが出てくる時間帯には、特に子どもの動きを把握し、無理のないカリキュラムを行うことに致します。また、室内の危険個所を見直し、安全に過ごせる環境づくりを行います。	1.定期的に実施	実施頻度12回/年	1.定期的に実施	実施頻度公園へ行く度	1.定期的に実施	実施頻度 1回/週	この度の事故は、ちょうど1つのカリキュラムが終わり、玩具を片付けた後床面には、玩具がない状態での骨折でした。夕方の時間で、保護者のお迎えなどが重なり、バタバタしていた時の怪我でした。	夕方の職員が少なくなり、お迎えの時間が重なる時間は特に,子どもの行動に気を配り座って遊ぶなど配慮を行う。	3.個人活動中・見守りあり	保育士が1名玄関対応の為、室内が数人の園児と保育士となる。少しの間手薄になっていた。	手薄になる時間帯は特に見守りを強化する。また、施設長がいる場合は保育室に出てきて、より安全に過ごせるようにしていく。	3.いつもより活発・活動的であった	事故が起こる前に体を使って遊ぶ遊びを行っていた。また、日中外遊びをするなど活動的に過ごしていた。普段より対象児は走り回ったりジャンプするなど激しい行動を好んでいたため、当日も同じように夕方の時間も過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が数人保育室にいた為、ちょうど中間あたりで、子どもたちの動きを見守っていた。対象児の場所を把握していたが、少し視線を対象児から外した時に怪我が起こった。対象園児は1人でその場所にいて、足をおさえ座り込んでいた為、すぐに近寄り声をかけた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕方の保護者対応のため、玄関へ出たため、担当者及び対象児の動きは見ていない。その時間は、施設長も保育室で作業を行っていたが、対象児の動きは把握していなかった。	玩具を片付け対象児のまわりにも誰もいなかったため、事故が起こるとき予測できず少しの間視線をそらしたため起こったと考えられます。	常に事故が起こることを考え子どもの行動をしっかりと見守る事、又職員間での声がけを徹底することを、職員間でもう1度確認します。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8001	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	6									2	2	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１　)回/２年もしくは不定期	1.基準以上配置	・園外保育での危険個所の把握　・安全面への配慮の共通理解	・園外保育における危機管理の把握と共通理解	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	・園外保育中の事故のため記載なし	・園外保育中の事故のため記載なし	1.集団活動中・見守りあり	・子どもをの発達に合わせた遊びの選択、場の選定	・子どもの発達に合わせた活動の見極め、動きを想定した保育内容	1.いつもどおりの様子であった	公園と団地の境の段差のところを他児と一緒に歩いていた	4.対象児の動きを見ていなかった	・対象児のそばにいたが、他児の行動を追って移動した直後に保育士の背後で、対象児が落下してしまった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・公園内の離れた箇所で、数名の子どもの動きに対応していたため目視できなかった	・他児の動きに気を取られ対象児のそばを離れてしまった	・子どもの流動的な動きを全体的に見渡せる配置につくこと、活動場所での危険個所の見極めと、子どもの動きに合わせた援助や支援の方法や対応の把握	
8002	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	5	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	13	2	8	3	0	0	0	0	0	5	5	１歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯一部欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12　)回/年	1.基準以上配置	園内研修は翌日実施し、発達段階に応じたお散歩コースの確認をする。マニュアル、お散歩マップについても反映済み。	発達段階を踏まえ、お散歩場所を決定する。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	対象児が歩いた個所は傾斜がほぼなかった。落ち葉は多少落ちていた。丸太等は腐食などは特になかったが、対象児が歩いている箇所が石や丸太など多少凸凹していた。	地面をよく確認する。	3.個人活動中・見守りあり	対象児が手を離そうとしても離さないで繋いだまま進んだ方が良かった。	地面が凸凹しているところでは手を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	階段は手をついて登ったり、抱っこされたりしながら進む。斜面が緩やかなところでドングリや葉っぱを手に取り遊ぶ。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	対象児は一人で階段を降りるときは介助が必要と判断したため。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児が階段を降りるのを子ども達の動きに合わせ、見守りながら対象児の動きも見ていた。	対象児が手を離そうとしても離さないで繋いだまま進んだ方が良かった。	地面が凸凹しているところでは手を離さないようにする。	
8003	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	17	0	8	9	0	0	0	0	0	4	4	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上乳中切歯、乳側切歯陥入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	・危険予測をしていなかった。・役割分担が認識されていなかった。	・危険の予測や察知について研修を行い、安全意識の向上を図る。・職員間での役割を明確にし、連携を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	・前日に雨が降ったこと、ほかの保育園児が遊んでいたことで、いつもは遊ばない場所で遊んだこと。	・遊ぶ場所の安全点検を十分に行う。・遊ぶ場所の見直しをし、発達に合った場所を提供するようにする。	1.集団活動中・見守りあり	・遊ぶ場所を広くとってしまったため、走るスペースを多く作ってしまった。	・遊ぶ範囲の制限を行い、児童の状況を見て遊びの提供をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	・受け入れ時、散歩中、ともに変わった様子は見られず、保護者からも特に変わった様子も見られないとのことだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・別の危険箇所を見守りつつ該当児を見たが、該当児が走って移動したさい、別の保育士が死角にはいってしまい、見失ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・該当児が転倒した場所の危険箇所で見守りをしていたが、該当児が保育士の後ろを通って行ったので見ていなかった。	・児童の身体発達、運動能力の把握が不十分であった。	・児童の発達状況、身体能力、日々の様子を職員間で共有する。	
8004	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2.1歳児クラス	5									3	3	1歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1) 回/年	2.基準配置	職員間での危険・安全への認識不足・怪我に対しての判断不足	職員間でのリスクに対しての認識をマニュアルで再度共有し、常に予想される行動の声掛けを行っていく	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年		実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年	階段とスロープの間に手すり等が無く、そのまま転倒してしまった	手すりの設置を調整中	1.集団活動中・見守りあり	保育士間での危険・安全への認識不足・怪我に対しての判断不足	戸外活動前は子ども達の気分が高まり危険が伴う為、子ども達が落ち着いて行動できる様に一斉に戸外に出るのではなく順番にカートに乗せる等、少人数で行動する。また、スロープで遊んでいる姿を見た場合は、連れ戻すだけでなく、すぐにカートに乗せスロープでは遊ばないように保育士は援助をする。保育士間で戸外でのリスクを再度共有する。	1.いつもどおりの様子であった	・本児はいつもと変わらない様子であった。昨年度からの進級でもあり、慣らし保育の子どもに比べると安心感はあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	・保育士が3名保育に入っていたが、1名はカート内の子どもを見ていた。1名はカートに子どもを乗せていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は園のカギ閉めを行っていた。	優先順位は子どもであったが、各保育士との連携がとれていなく「みてくれている」と思って行動していた。	保育士間の連携をしっかり行い、鍵しめは子どもがすべてカートにのってから、遊んでいる子どもがいた場合はカートに乗せる等、対応を行っていく。	
8005	令和4年3月16日	1.認可	7.小規模保育事業	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	2	1		1						2	2	1歳	2.女児	歩行中に転倒して骨折	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	対象児が転倒したときの危険性を予見できなかったために適切な対応ができなかった。	子どもの動きをよく見て、その先の動きに気を付けるためにも、歩行に関するリスクマネジメントの研修を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度( )回/年	床面が滑りやすい部分がある可能性を見落としていた。	毎月の点検項目に床面のチェック項目を追加、点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり		見守りの人数等に配慮しながら、引き続き見守りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	変わりなく過ごす。食欲あり、発熱なし、午睡あり、	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が歩いている近くで座っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事務室へ書類を片付けに行き戻ってくる途中。		職員が一人になる時間をできるだけ短くできるように動きの確認をする。	
8006	令和4年3月16日	2.認可外	10.事業所内保育事業	7	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7				4	0	3			2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	石足、脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	2.基準配置	保育室内で走ることについてはその都度注意していたが、徹底されていなかったことが事故の要因と考える。	児童が室内で走り回ることを防止（厳重に注意）する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	室内にあったおもちゃの消火器を踏んで転倒。	保育室内のおもちゃ等の整理・整頓を徹底する。	3.個人活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	口頭で注意するだけでなく、そばに行き、制止すべきであった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士複数人体制で常時児童の動きを監視。危険な行動があれば即座に制止する。	負傷した児童は普段から活発な児童で、保育室内を走り回っていた。	保育士複数人体制で常に児童の動きを監視。危険な行動等があれば即座に注意（防止）する。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期・月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども・年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8012	令和4年3月16日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)			6	8	14	9	11	6			15	13	16．4歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2回/年	2.基準配置			2.不定期に実施		2.不定期に実施		2.不定期に実施				1.集団活動中・見守りあり			3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段通り	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が階段を下りてくるのを踊り場で見ていたが、階段を踏み外し落下した時には手が出せなかった。				階段を下りる前に、子どもたちと気をつけることを確認する。保育士は落下を想定し、手が届く位置で見守る。	
8013	令和4年3月16日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)		2	1	3							1	1	14．2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり			2.基準配置		新入園児が入園した際は、その都度、職員間で共通理解を行えるよう、研修時間を設ける。	1.定期的に実施	12回/年		遊ぶ前に職員が目視で確認	1.定期的に実施	週に一度玩具の消毒を行いつつ安全点検も同時に実施		公園の地面の状況等、遊ぶ前に職員が点検すること	1.集団活動中・見守りあり	丘の途中で声をかけたことにより、園児がバランスを崩して転倒した。	坂のように不安定なところを歩く場合は、園児同士の手をつながせないことや、保育者がついて1人ずつ登らせるようにする。園児が歩く前に地面の状況の確認を行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段、丘の上り下りを一人で行っており、当日は公園内を仲の良い友達と手を繋いで散策し、丘を登ろうとしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	普段は丘を登る子どもと手を繋いだり、すぐ後ろにいて手で支えられるようにしているが、新入園児の対応で少し離れた場所にいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児の対応で離れた場所にいた。	在園児と新入園児との活動範囲、活動量の違いを予測できていなかった。	新入園児の歩行状況、精神状態などを把握したうえで、園外保育を実施する。新入園児と在園児の活動を区切りする。	
8014	令和4年3月16日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10	2	3	1	2	2				4	3	15．3歳	1.男児	入園前、発達検査を受けています。新版K式発達検査2001　結果：発達指数(DQ)72入園後、気持ちのコントロールが難しいことが時々あり。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～2回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	48回/年	2.不定期に実施	48回/年	1.定期的に実施	48回/年			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児を誘導しながら、対象児の側にいた。こけた瞬間、手を差し伸べようとしたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	次の活動の為の用具の出し入れ、設置を行っていたため。	マットを出た状態で子どもを移動させる時の動線の指示を出せていなかった。	子どもが動くときには、必ず安全な場所を確保する。動線を子どもに伝え、理解させてから動かす。	
8015	令和4年3月16日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	4	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	10	1	3	3	2	0	1	0		5	5	14．2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1～回/年	1.基準以上配置	職員配置数は基準以上ではあったが、怪我をした児のそばに職員はいなかったため怪我を防ぐことができなかった。	異年齢で過ごす際の怪我や事故発生の事例やリスクマネジメントについて話し合いや研修に取り組む。	1.定期的に実施	48回/年	1.定期的に実施	144回/年	1.定期的に実施	144回/年			1.集団活動中・見守りあり	屋外の環境は日ごろ変化していくため、活動の際には都度状況と安全の確認を行う必要がある。	職員の立ち位置や子どもの様子の把握などに加え、普段から遊んでいる場所ではあるが遊ぶ場所として安全であるか、適しているのかこれまで以上の確認と職員間での検討を行なっていく。	1.いつもどおりの様子であった	年下児からの関わりを喜び抱きつかれたことを拒絶する様子も見られなかった。抱きつかれたことで手が思うように動かせず、転倒した際には受け身が取りづらい状態になっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	帰園に向けて子どもたちに声をかけたり他児と関わっていたため近くには居らず転倒を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	帰園に向けて子どもたちに声をかけて回ったり荷物の準備をしていた。	0.1歳児の子どもたちの動きや状況を職員間できちんと共有・把握できておらず、他児に対して抱きつく姿が見られていることを把握できていなかった。	乳児クラスと幼児クラスが同じ活動の場所になったことで職員数が多かったこともあり、責任の所在が曖昧になってしまっていた部分があったように感じる。職員間で声かけを行いその日の子どもの様子やどの範囲を見守ったりどの子につくのかなど相談していく。	
8016	令和4年3月16日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	13	0	0	0	6	6	1			2	2	16．4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折（右）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回/年	2.基準配置	転倒時、手をつけなかったため	保育の中で、体の使い方、手のつき方等の指導。屋外での活動の際に転倒やけがに繋がる落下物への注意及び園児への声かけをより一層徹底していく。	1.定期的に実施	48回/年	3.未実施		1.定期的に実施	240回/年	玩具につまづき、転倒したと考えられる。	使用した玩具、椅子や机は指定した所へ片付け、安全に遊べる環境を作る。角のある設備等には保護テープなどで対応する。	1.集団活動中・見守りあり	転倒時、手をつけなかったため	保育の中で、体の使い方、手のつき方等の指導。屋外での活動の際に転倒やけがに繋がる落下物への注意及び園児への声かけをより一層徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	かけっこの練習に意欲的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	かけっこのスタート時は園児同士の距離を取り、スタートの合図を出し、走行中に転倒したため、本児にすぐ駆け寄る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゴール地点で走り終えた園児の誘導と見守り。	転倒時、手をつけなかったため	保育の中で、体の使い方、手のつき方等の指導。屋外での活動の際に転倒やけがに繋がる落下物への注意及び園児への声かけをより一層徹底していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8017	令和4年3月16日	2.認可外	16.企業主導型保育事業	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	12	2	6	4						7	7	14．2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左鎖骨骨折·左手第3指挫傷·左眉弓部擦過創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回/年	1.基準以上配置	当該児に対しヒヤリハット事例が何度かあった。	ヒヤリハット事例が何度かあり、活発的な子なので、注意して見守るという意識は職員にはあったが事故が起きてしまった。もっとヒヤリハット事例を検討し具体的な対応を考える。	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	使用前	1.定期的に実施	毎日	園から戸外活動で行く公園までの道に坂道が多くある。	坂道や階段等、転倒の危険性がある場所は避けるか、難しい場合は今まで以上に注意をして通るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	転倒した場所が坂道になっていた。	坂道や階段等、転倒の危険性がある場所は避けるか、難しい場合は今まで以上に注意をして通るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	体調不良な様子もなく、普段通り元気に過ごしていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	当該児ともう一人の園児を左右の手をつないで歩いていた。当該児が急に進行方向と逆に走り出し、転倒しないようにしたがこらえきれず担当職員当該園児が転倒。転倒の際、自分が踏みとどまるよりも、当該児ともう一人の園児の上に乗ってしまわないようにした為、担当職員も勢いよく転倒してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員の前後に他の職員も一緒に歩いていたが、バギーを押したり、他の園児と両手を繋いで歩いていたため、支えたりすることはできなかった。	園児の急な行動を予想した対応できなかった	活発的な児童に対しては出来るだけ職員と園児が一対一で対応し、様々な状況に対応出来るようにする。	
8018	令和4年3月16日	2.認可外	17.地方単独保育施設	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11	0	0	0	0	2	9	0	0	1	1	4歳	1.男児	身体的発達に合った活動の為、活動内容により起因は考えらえない動作習得の為、より習熟度を意識した練習内容を検討	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	第五趾末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	その他考えられる起因なし	事故発生状況を整理し、発生状況を取りまとめ発生時状況の理解に努める	1.定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	用具による起因はなし	使用用具の見直し	1.集団活動中・見守りあり	その他考えられる要因無し	危険性のある事象に対しての発信の場を設ける	1.いつもどおりの様子であった	通常通り、体操クラブへ参加していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サーキット指導により、危険性の高い個所の補助を行い、その他個所は見守る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	後転している現場を目撃している。その後本児より痛みの申告あり	担当職員の配置は適正であり、職員の起因は考えづらい	動作に関して、負傷する可能性がある動作を事前に伝え、園児自ら危険性を把握できるようにする。	
8019	令和4年3月16日	2.認可外	17.地方単独保育施設	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5歳	2.女児	動作の習得が行えていたが、精神状況の変化に伴い動作に支障が生じ、発生いたと考えられる	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	第3趾末節骨骨折及び第2趾末節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	園児に対する危機意識の欠如 職員が活動に対する危険の伝達不足	事故状況を共有し、園児職員共に怪我の起こりうる状況を理解し行動していく。	1.定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(150)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	用具による起因はなし	使用用具の見直し	1.集団活動中・見守りあり	他児に成果を発表する場面で、気持ちが高揚し普段とは違う動作を行う	活動に対しての危機意識の改善と伝達 危険性のある事象に対しての発信の場を設ける 動作における適切な距離と用具の設置状況を見直す	1.いつもどおりの様子であった	他児への発表という事もあり、気持ちが高揚し、積極的に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱指導の際、跳び箱の横に立ち補助を行っていた。跳び箱を飛び越す前動作として踏切を行った際に発生	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	発表の場という事もあり、担任も他児と同様な場所から、本児の活動の様子を見守っていた。	担当職員の配置は適正であり、職員の起因は考えづらい	発表の前に危険性を伝える行動をとることが望ましい新年度が始まり、ヒヤリハットを含め一度園内研修を行い、事故発生状況の周知と防止策を講じる	
8020	令和4年3月16日	1.認可	17.地方単独保育施設	7	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	13	0	0	0	0	0	0	0		4	2	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	転ばない。転んでも大けがにつながらないような体作りを保育の中で行っていく。	安全指導で、全児に指導した。職員の見守りもしっかり行うことを周知した。	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年	1.定期的に実施	実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	風船のある場所に他児が集まっており、見守りをしていた。本児は風船と離れた場所に走っていったため見えていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の見守りをしていたが本児とは他異なる場所へ走っており、見えていなかった。	広く全体を見守りをしていたが、他にもいざこざを起こしやすい子が多く、そちらに目がいってしまった。	子どもの動きを注意して見ながら、個々にも注意して見守り、注意喚起をする。	
8021	令和4年3月16日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15		2	2	1	7	3			4	2	5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年	1.基準以上配置	特になし	事故予防マニュアルの整備を行い、研修を実施する。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	トイレの位置について（園舎の奥にあり、年長児クラスからは一番遠く、間に合わない場合、つい走っていく事も多い）	机の配置などを変えることで、廊下を広くとる。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	トイレに行く時は、一人ずつ歩いて行くよう子ども達に指導する。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長児３人を担当しており、職員が不足しているような状況ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		同じクラスのまわりにADHDや特性のある子どもが増えている中での保育の難しさがある。	行政にも支援を求めていく。	
8022	令和4年3月16日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度( )回/年	2.基準配置	跳び箱を跳べるようになったことでうれしくなり、次も挑戦しようと張り切るが、その思いが、次の行動へ慌てることに出、踵を返すように振り向いたことがぶつけて骨折した原因と思われる。	側で見守りはしていたが、児童の安全を先読みできるようにする。一人一人の状態に合わせ、慌てずに行動できるように声を掛けたり、突発な時にはなるべく静止できる位置につくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱運動をする際の跳び箱やマットを置く位置に余裕を持つ。	跳び箱の角にぶつかり防止用のクッションを貼る。	1.集団活動中・見守りあり	年長組に対する安心感と見守りの不十分さ	一人一人の状態に合わせた対応をすぐに取れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	跳べたことや保育士等の応援にうれしくなり、気持ちが高揚していたと思われる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一人ずつ確認しながら器具の周り等は点検し、声を掛けていたが、跳べたことに安心し、次の児童の方に意識が向いていたと思われる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違う遊びをしている他児の方に行き、見ていなかった。	応援や援助も成長につながるため大事ではあるが、跳べたことに安心をせず、離れるまで確認する必要があった。	跳び終えた児童がその場所から離れたことを確認してから、次の児童へ声掛けをする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
8023	令和4年3月16日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	1	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17	3	9	2	2	1	0	0		1	1	0歳	1.男児	
8024	令和4年3月16日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7			2	1	2	2				0	2歳	2.女児	
8025	令和4年3月16日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	24					15	9			5	4	4歳	2.女児	
8026	令和4年11月28日	3.その他	13.子育て援助活動支援事業（ファミリー・サポート・センター事業）	1	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)											援助会員１名	援助会員１名	17．5歳	2.女児	―
8027	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	47							47		5	2	2．8歳	1.男児	―
8028	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	26							26		2	1	18．6歳	1.男児	―
8029	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	49							49		7	4	2．8歳	1.男児	―

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
8023	8.その他	1.負傷		1.意識不明			8.その他	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	3.基準以下		０歳児の受入は極力お断りし、受け入れる場合は人員の補充を行い、配置の見直しを行います
8024		1.負傷		6.その他		腹部圧迫による呼吸停止		2.なし	3.未実施	実施頻度( )回/年			
8025	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度１回/年	1.基準以上配置	いつもの散歩コースではあったが、途中工事中のため、少しコースを変更したことで側溝の蓋が確認できていなかった。側溝の蓋がなかったが、側溝の側を歩かせてしまった。園児も職員も注意が足りなかった。	途中コースを変える時は、園児に注意するようまめに声掛けをする。また、先に行きコースの確認もすることが必要。
8026	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	高エネルギー外傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	１回/年	2.基準配置	送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。
8027	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。
8028	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	マニュアル、研修、職員配置については適切に実施している。
8029	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回	2.基準配置	以前にも同じようなことがあった。痛みに鈍感な子どもは結構いるようである。発達の関係か？十分に気を付ける必要あり。	児童クラブ入会時に、アンケートなどで調べる必要があるようだ。アレルギーなどと同じように対策を考える。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8023		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年		実施頻度(12)回/年			1.集団活動中・見守りあり		常に保育室に職員２名の配置を徹底いたします。	4.具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	鼻水が出ており、、病院を受診し、薬を飲んでいたため。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児童のミルクを温めていたため	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その場に１名しかいなかった。		常に保育室に職員２名の配置を徹底いたします。	
8024		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年		実施頻度( )回/年			2.集団活動中・子ども達のみ	職員２名が約２分間保育室にいなかった。	職員は確実に連携して１名は幼児を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	電話をかけるため保育室を出た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	手洗いに行っていた。	職員２名が約２分間保育室にいなかった。	職員は確実に連携して１名は幼児を見守る。	
8025		実施頻度(１)回/年		実施頻度(１)回/年		実施頻度( )回/年			1.集団活動中・見守りあり	途中のコース変更により、目新しいことでよそ見をしていた為、蓋のない側溝に足を踏み外し、転倒したが手を離さなかった為、本児も引っ張られて転倒した。	急遽のコース変更であっても、先に行って確認をすること。又、側溝に蓋を付けてもらう。	1.いつもどおりの様子であった	手をつないでいた児が、転倒した際に本児の手を離さなかったことで、巻き添えとなってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	車や側溝、段差には気をつけるように心がけていたが、一瞬の出来事で防げなかった。直ちに転倒した児を起こし、怪我の状態の確認を行った。本児が上口唇から血が出ていた為、園に戻り、園長に報告をし、保護者に報告の連絡をして受診できるかの確認を行いお願いした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1名の保育士が、本児と園に戻った為、一緒に転倒した児の怪我の状態を確認した跡、残りの園児全員を園に連れて戻った。	総勢２５名の園児を５名の保育士で引率していたことで、職員一人ひとりの危機管理ができていなかったと考えられる。	今後は、職員一人一人が危機管理能力を身につけ、職務にあたる。	
8026							送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。	7.その他	送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。	1.いつもどおりの様子であった	援助会員の運転する車両の後部座席に座っていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	後部座席に児童を乗せ、運転していた。			送迎活動中運転車両での事故であり、安全運転注意義務がある。	もらい事故であるが、運転中は周囲に注意し、交差点では進入車両に注意する。	
8027	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	―	なし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら、危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き、支援員が適切に児童の遊びを見守るとともに、危険な遊びはしないなど、ルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	―	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラブ内で走り始めた当該児童を注意するとともに、近くで見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ内で別の児童の見守りを行っていた。	特になし	見守り体制については適切に実施していた。	
8028	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	―	なし	施設、設備については引き続き定期的に安全点検を実施し、学校と連携しながら、危険を未然に防止することに努める。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	引き続き、クラブからの移動時には支援員が付き添い、危険な行動はしないなどルールを守るよう指導を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった	―	2.対象児の至近で対象児を見ていた	支援員が決められた立ち位置で見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者と同様の場所で全体の見守りを行っていた。	特になし	見守り体制については適切に実施していた。	
8029	1.定期的に実施	―	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	危険箇所等がないか日常の管理・点検に努める	1.集団活動中・見守りあり	本児については、発達障害の関係を視野に入れて、児童クラブ全体で取り組みたい。	児童の入会時に、アンケートなどで児童の状態を前もって知っておく必要を感じた。保護者の協力が必要。	1.いつもどおりの様子であった	本児はいつもどおり元気だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	体育館内には、児童クラブの女児６名、男児１名で、女児は全員とび箱、男児（本児）は両方を行き来して邪魔をしていた。児童クラブ以外の小学生も多くいて、込み合っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日は、２年生を児童センターで遊ばせていた。体育館が７名、おもちゃで遊ぶ部屋が９名だった。支援員は、体育館１名、おもちゃ部屋１名児童クラブ室から１名の支援員が双方に加わっていた。	当日はかなり混みあっていたので、接触したりぶつかったりしても気が付かなかったかもしれない。	混みあっているときは避け、クラブ室で過ごす。	

| 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
8035	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	29							29		6	4	2.8歳	1.男児	—
8036	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	25							25		4	2	22.1歳	1.男児	—
8037	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	8.学童	33							33		3	2	22.1歳	1.男児	—
8038	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	38							38		4	4	19.7歳	1.男児	—
8039	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	21							21		3	2	19.7歳	1.男児	—
8040	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	99							99		4	3	2.8歳	2.女児	—
8041	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	31							31		3	1	2.8歳	1.男児	—

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
8035	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	右足中・薬指　骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12
8036	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢（腕・手・手指）	両橈骨遠位骨端線損傷（骨折手前）→R3.7.14骨折していたことが判明する	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	遊びの内容に危険因子があったと考えられる。	児童の発達段階に応じた運動機能等を考慮した遊び方を検討し、児童へも注意を呼びかける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12
8037	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—
8038	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右手前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	事故予防について定期的に話し合いが必要。	日々の出来事を伝えることで、子どもたちの様子を共有していき指導を徹底する。事故防止の確認を定期的に行う。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1
8039	7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	帰所後、荷物を置いて手洗いに行く途中に床の段差で転倒	常に走らないように児童に注意をする	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	3
8040	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右腕上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	屋内活動中の過ごし方	・屋内での遊び方や危険に対する注意，呼びかけの徹底 ・あらゆる箇所への巡視	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	随時	1.定期的に実施	毎日
8041	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左手首内側の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	なし	より気を付けて見守りを行う	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8035	なし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	元気に廊下でカラーボールサッカーをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	邪魔にならぬよう少し離れて様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他の児童を見ていた。	特になし	雨が降っていたためいつもより滑りやすい点を考慮し、注意を促す。	
8036	なし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃から遊び方・遊ぶ際に気を付けることについての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を含み同じ遊具で遊んでいる児童たちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる児童を見守りながら、時々、対象児童の様子も見ていたが事故発生時は見ていなかった。	特になし	子どもの様子を注意深く観察し、子どもが遊びに夢中になり活発に行動しているときは、支援員もより一層の注意を払って見守りをする。	
8037	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	支援員の近くでの活動だったが、突然の行動で制止できなかった。	怪我の可能性が無い様、遊びについて、事前に声掛けをする。	1.いつもどおりの様子であった	木登り等、普段からしてはいけない遊びだが、衝動的に藤棚にぶら下がる行為を行う。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐに当該児童にかけより様子を見るが、本児が痛みはあるが、外傷はなく、本児の希望もあり、遊びを継続する。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	外遊びを終え、児童クラブに帰宅し室内遊びでも、本児に目立った変化もなく、見守りを続ける。	特になし	特になし	
8038	シューズを使用しているが床が滑りやすい。	床ワックスの種類を検討する。モップが必ずきれいな状態を保つようにする。	1.集団活動中・見守りあり	床が滑りやすい。	活動前には空拭きをする。子どものシューズも注意して滑りそうなものは、買い替えをお願いする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	個別の指導が必要な児童で、動きが激しくテンションが上がると自分でセーブすることができない。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊戯室（体育館）において、放課後児童支援員２名で１４名の児童と長縄飛びで八の字飛びをしていた。飛び終わって回る時滑って転んだ様子を目視していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、図書室で自由遊びの見守りをしていた。	長なわを飛ぶ時は、慌てたり、急いだりしないように声掛けをする。	常に児童の様子に気を配り、危険になる前に声掛けをする。	
8039	各部屋と通路を出入りする際には、段差があるので転倒する可能性がある	通路、廊下にジョイントマットを敷き、転倒した時のショックを和らげるようにする	1.集団活動中・見守りあり	特に急がせることもなく、走らないように児童全員に声かけをしながら見守っていたが、転倒した	走らないこと、落ち着いた行動を心がけることを常に児童に注意する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	放課後、誰よりも先に手洗いを終わろうとして慌てていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	慌てない、走らないように注意していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	帰所時の検温、手洗い、うがいの指導をしていた	児童の段差による転倒の対策が不足していた	走らないこと、段差があることを児童に認識させるようにする	
8040	支援員を満遍なく配置しているが，隅々までの巡視が手薄だった。	隅々までの巡視を徹底し，見えにくい箇所まで視野を広げる。	1.集団活動中・見守りあり	個々が自由に中遊びしている中で，全員への注視ができなかった。	個々への注視と危険に対する声掛け。	1.いつもどおりの様子であった	普段は落ち着いて遊べているが，低学年との中の遊びの中で気持ちが高ぶっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	渡り廊下での事故であったため，職員の目の届かない箇所での事故であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で分散して見守っていたが，廊下まで巡視ができていなかった。	人員不足	支援員の募集は継続的に実施している。	
8041	なし	障害物等に気を配り、より安全に気を付ける	1.集団活動中・見守りあり	なし	障害物等に気を配り、より安全に気を付ける	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、仲の良いグループと建物外園庭で元気に遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員２名が近くで見守りをしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は室内で遊んでいる児童の見守り、1名は来客対応をしていたため、事故発生の瞬間は見ていない	なし	より気を付けて見守りを行う	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8042	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	6							6		2	2	19. 7歳	1. 男児	―	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左腕の骨にひびが入った	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	―	2. 基準配置	特になし	登録児童数に合った指導員の配置であった。今後、「事故予防マニュアル」については作成を検討していく。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	3. 未実施	―	なし	-	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	冬休みの１日開所にも慣れはじめ、指導員の中でも気のゆるみがみられた。冬季ということで、部屋の中で過ごすことが多く、密になってしまう場面もあるので、一人ひとりを見守り、声掛けをしていくことを再度クラブの支援員同士で確認した。	1. いつもどおりの様子であった	体調不良等の様子はなく、いつもの様子であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	支援員から５ｍ程度離れた場所で、急に児童が泣き出したことでけがを確認した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内で他の児童の保育を実施していた。	特になし	夕方は児童の保護者への引き渡しもあり、支援員の見守りが手薄になる場合も考えられるので、職員の動きについて、クラブ内での再確認をした。	
8043	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	11							11		7	4	2. 8歳	1. 男児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	数回	1. 基準以上配置	子ども達の位置を確認はしていたが、発生時現場近くにいたのはアルバイト生で、支援員ではなかった。	その時の状況を見て適切に職員の複数配置をしたり、遊べる範囲を決めたりする。職員同士の位置が離れている場合、連絡が取れるようにする。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎週	1. 定期的に実施	3	学校の校庭を使用する場合は、学校のルールに基づいて遊ぶ（遊具の利用）ことは認識していたが、朝礼台に上ることは確認できていなかった。	学校の校庭を使用する際のルールを、再度職員で再確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	朝礼台に乗ること自体禁止されていることの把握を職員全体で確認できていなかった。	職員全員がルールを確認すると同時に、子ども達にも学校のルールに従って遊ぶことを認識させる。	1. いつもどおりの様子であった	午前中も本人は好きなぬり絵や工作を楽しんでいた。その続きをするとのことで、校庭に向かった。凧を作っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	本人が朝礼台に乗っていたところを見た職員はいたが、落下する瞬間は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	アルバイト生が近くにいた。他の子どもに声をかけられた時に、本人が後ろに下がり始めているのに気づくも、間に合わなかった。	特になし	朝礼台に乗らないように声かけをすると同時に子ども達自身が学校のルールの中で遊べるよう話をする。職員の危険を予測する視野を、話し合いや研修でより深められるよう努力する。	
8044	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	25							25		5	3	2. 8歳	2. 女児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右足関節捻挫、右足関節外側側副靭帯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守っていた。足を痛めたことを聞いてすぐに室内に戻り処置をした。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数の目で本人を含め、外で遊んでいた児童の様子を見守っていた。	外遊びでの危険個所・安全確認が不十分であった。	学校に報告をし、運動場の整備をしていただく。	
8045	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	62							62		7	6	2. 8歳	1. 男児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	48	2. 基準配置	特になし	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1. 定期的に実施	44	1. 定期的に実施	45	1. 定期的に実施	44	なし	安全点検に努め危険箇所を発見し、修繕等を行なっていく。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	児童の見守りと事故防止のための児童への注意を徹底する。	1. いつもどおりの様子であった	友達とドッジボールをし遊んでいたが右手小指を骨折してしまった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	屋外で見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	クラブ室や遊戯室で児童を見守っていた。	特になし	偶発的な事故を防止するため、日頃から注意を徹底する。	
8046	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	8. 学童	17							17		5	4	24. 12歳	1. 男児	―	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	1. 定期的に実施	24	特になし	遊具玩具等での怪我ではなかった為、改善策は特になし。引き続き、施設等の点検などを行っていく。	7. その他	運動があまり得意でもないこともあってか何もないところでつまづき、バランスを崩して転倒。	引き続き、帰宅時は子供が落ち着いた状態で安全に帰ることができるよう声かけをしていく。	1. いつもどおりの様子であった	ひとり帰りの為、玄関で挨拶。職員とその他17時帰りの子供と一緒に階段を下りる。元気に挨拶して帰室。	4. 対象児の動きを見ていなかった	17時帰りの子供達を玄関に集め、安全に帰宅できるように声掛け。その他17時帰りの子供と一緒に階段を下りる。門の前で再度挨拶。各自が正しい方向に進むのを確認後、配置に戻る。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラブ室に2名、遊戯室に1名、清掃に1名が配置されていた。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8047	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	14							14		2	1	2. 8歳	1. 男児	―	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足関節内果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	ソフト面において問題はない。	児童会の活動において配慮が必要な場合には、随時児童会の支援員等に申し出てもらうよう保護者に周知を図り、配慮が必要なケースがあれば、支援員間で情報共有を徹底する。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	施設面において問題はない。	体育館内ということで、施設内に障害物があるわけでも床面が凸凹しているわけでもなく、施設面において改善しなければならない点は見当たらない。	1. 集団活動中・見守りあり	当初予定していた社会見学がコロナの影響で中止となり、活動が日常と違っていた為、支援員も児童も落ち着きが欠けていた可能性がある。	活動が日常と異なる場合には、普段以上に注意事項の徹底を図り、安全性が確保されていると思われる場所においても事故の可能性があることを再認識する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	当該児童は、日頃より活動的な児童であり、注意をしても興味のある事が優先してしまう傾向にあった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	体育館全体を使い、児童それぞれが自由に各々が遊んでおり、支援員は全体を見まわしていたため、児童の転倒の様子は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童会室において、体育館に移動しなかった児童の見守りを行っていた。	事故発生時は１４人と児童は少数ではあったが、２ヵ所での見守りであった為、支援員１人の見守りとなっていた。	日常とは違う日であった為、見守りの人数を増やすべきだった。	
8048	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	18							18		3	2	2. 8歳	2. 女児	―	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	1. 基準以上配置	特になし	今回発生した状況等を職員間で共有し、今後児童が気になる動きをしていた場合は児童への声掛けを増やす	1. 定期的に実施	1	3. 未実施	―	1. 定期的に実施	―	なし	なし（今回の事故発生に起因している点がないため）	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	利用児童全員への周知、啓発（理由如何に関わらず手を出すことの禁止）	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わった様子は特段見受けられなかった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童たちが遊んでいるところを少し離れたところから見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	―	特になし	遊びに参加したり、途中で抜けたりを繰り返す等気になる様子が見受けられる時は、保育中の児童への声掛け頻度を増やす	
8049	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9. 学童	9							9		2	1	21. 9歳	1. 男児	―	8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の欠損、ヒビ	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	2. 基準配置	分室から本室への移動を支援員1名で引率していたが、途中で転倒した児童がいたため、後ろからその児童についていたため後方に回ってしまった。	分室から本室への移動を職員2名で引率し、その際、職員が先頭に1名、後ろに1名つき、2列に並んで帰ってくることを確認した。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	分室から本室までの移動を足元が暗い状態で帰ってきていた。	支援員が懐中電灯を携帯し足元を照らす。また、施設側の入り口にライトを設置する。	1. 集団活動中・見守りあり	高学年であるため、並ばずに各々が準備ができた順で帰ってきていることが日常化してしまっていた。	列を必ず作り走らずに帰ってくることを子ども達と確認した。	1. いつもどおりの様子であった	分室から本室への移動の際に、本児に対して3年生男児がランドセルを持ち、前後に揺さぶったことにより、転倒し花壇に顎をぶつけてしまった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	17時半帰りの児童がおり、急いでいた。4年女児が分室の玄関付近で転倒したためけがの対応をしていた。先頭の児童らが先に行ってしまい、支援員が追いかける形となった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	分室の片づけができておらず、1名が分室に残り分室の清掃を行っていた。	特になし	分室から本室へ支援員が引率する場合は、子どもたちを列に並ばせて移動する。必ず支援員を2名配置し引率をすること。	
8050	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	9. 学童	33							33		5	5	20. 8歳	2. 女児	―	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	4	1. 基準以上配置	２年間通学している通学路なのだが、その日は姉に置いて行かれると思い走った為、転倒し手をつかなかった為、顔面をうってしまった。	集団下校時に絶対に走らず、下校班でまとまって帰るよう改めて児童全員に注意確認する。	2. 不定期に実施	2	2. 不定期に実施	4	1. 定期的に実施	1	歩道の凸凹や危険な物もなくフラットな路面。ランドセルの重さで前のめりに転倒してしまった。	指導員が下校見守りをする。走らず余裕をもって帰る声かけをする。	7. その他	家に早く帰って遊びたい為、走って帰る児童あり	下校時の毎日の声掛けと見守り	1. いつもどおりの様子であった	集団下校時、おいて行かれると思い走った為,ランドセルの重さも加わり勢いよく転倒	4. 対象児の動きを見ていなかった	児童のみ班で下校。（４～５月中旬の間だけ指導員引率)	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	指導員は児童が下校した後、清掃・消毒作業	冬休み前で荷物が多く、転倒時に勢いがついた、手をつかなかった。	荷物は小分けに持って帰り、走らないことを注意声掛けする。 高学年に見守り確認してもらう。	
8051	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	9. 学童	39							39		7	4	19. 7歳	1. 男児	―	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	両足親指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	準備運動として足や足首のストレッチを行うことを習慣化していなかったこと	遊具の使用法についての確認、遊び前の準備体操の実施	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	その子のボールの乗り方や着地の仕方等に配慮しなかったこと	バランスボールではじめての遊びの場合、職員がしてみせて、乗らせてみせて、確認していくこと	1. いつもどおりの様子であった	体格は良い子だが、体幹が弱く、着地がうまくできずに親指側から着地した	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体的に子どもたちの様子を見守っていたが対象児の動きまでは観察していなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	迎えに来た保護者とその他の子の対応をしていたため見ていなかった	—	—	
8052	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8. 学童	47							47		5	4	18. 6歳	1. 男児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	歯：右上À亜脱臼　唇：下口唇裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	1	2. 基準配置	降りる時に滑ってしまった。	遊具の近くに職員を配置する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	雨が降った後で濡れていた。	遊ぶ前に遊具を拭く。	1. 集団活動中・見守りあり	—	遊ぶ前に気を付けるように声がけをする。	1. いつもどおりの様子であった	遊具から降りる時に、手が滑ってしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の対応をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていた。	—	—	
8053	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	11	7. 午後	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	9. 学童	69							69		9	7	2. 8歳	1. 男児	―	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	—	登館前の事故のため改善策なし。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	—	登館前の事故のため改善策なし。	7. その他	—	登館前の事故のため改善策なし。	1. いつもどおりの様子であった	―	4. 対象児の動きを見ていなかった	登館前のため	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	登館前のため	—	登館前の事故のため改善策なし。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8059	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	64							64		7	6	22.1歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	―	2.基準配置	特になし	情報共有に努め事故防止に繋げる。	1.定期的に実施	毎日	2.不定期に実施	―	2.不定期に実施	―	子どもが腰かけやすい位置と高さに手すりがある。	危険な箇所や間違った使用をしていないかの点検を行う	1.集団活動中・見守りあり	特になし	見かけた際の注意喚起の徹底	1.いつもどおりの様子であった	通常通りであった	4.対象児の動きを見ていなかった	キャッチボールを一対一で行っていたが、転がったボールを職員が取りに行っている際に起こった。	2.担当者・対象児の動き見ていなかった	他の児童の見守りを行っていた。	特になし	校庭全体の状況にも注意して見守る。	
8060	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	16							16		4	2	21.9歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	―	1.基準以上配置	当日の職員配置に関しては問題ないと考えられる。	不測の事態に対応ができるように、安全管理や事故予防について研修を実施する。	2.不定期に実施	―	3.未実施	―	2.不定期に実施	―	今回の事故に関しては、ハード面の要因はなし。	多目的広場の危険個所の再確認を行い、今後は定期的に安全点検を実施する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	多目的広場の危険個所の再確認を行うと共に子ども達と危険個所について話し合い危機管理意識を養う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	気分が高揚していて、いつもより動きが活発だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を見守り中だったが、突然の出来事だったため対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの様子を見ていたため、すぐには気づかなかった。	特になし	外遊び中の指導員の配置の見直しと子ども達の遊びの様子や動きを確認した上で、指導員が声を掛け合いながら見守ることを全員で再認識した。	
8061	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	59							59		6	5	19.7歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	室内：2名　校庭：3名図書室：1名　で支援員を配置	子ども達の人数に応じて、各場所の配置体制を改善していく	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	―	1.定期的に実施	―	コロナ禍の対策と、施設・遊具・玩具の点検	子ども達が安心して遊べるよう、除菌（コロナ禍）と安全点検	1.集団活動中・見守りあり	遊びの中で、接近しすぎていた。	支援員が子ども達にいつもより多く声掛けをして見守る	1.いつもどおりの様子であった	楽しそうに遊んでいて、たまたま上から覗いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	複数人が遊んでいるのを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の支援員は、分散して遊んでいる子どもを見守っていた	楽しくて周りの状況が見えていなかった	子ども達に声掛けを多くする	
8062	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	51							51		7	2	18.6歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	目の横の打撲及び裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	まだ外遊びから帰ってきたばかりで、落ち着かない児童が多い。	外から帰った後の気持ちを落ち着かせる環境づくりを考える。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	なし	設備の不備ではないので特記事項なし。	1.集団活動中・見守りあり	外遊びから戻った後でまわりも少し活発な状況はあった。	外遊びから戻った後の過ごし方について、怪我が起こりそうな箇所の確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	外遊び後で少し活発な部分はあった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の動きは見ていたが、勢いよく動いた際、足を滑らせて転んでしまう。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員は近くにいたが、一瞬で転倒してしまった。	活発な部分の急な動きに注意が必要だった。	普段から外遊び後の状況は室内で落ち着いて過ごせるようにするため、興奮するよう遊びはさけて。全体の見守りの強化が必要。	
8063	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	127							##		6	3	21.9歳	1.男児	―	7.登園・降園中（来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折及び打撲、擦過傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	―	2.基準配置	特になし	降所時に安全に気を付けるよう声掛けをしていく	1.定期的に実施	毎日	3.未実施	―	2.不定期に実施	―	なし	保護者了承のもと一人帰り中の出来事のため、該当なし	7.その他	特になし	保護者了承のもと一人帰り中の出来事のため、該当なし							特になし	保護者了承のもと一人帰り中の出来事のため、該当なし	
8064	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	36							36		4	3	19.7歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左膝剥離骨折	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	児童が怪我をした際の対応について周知しきれていない。	マニュアルの作成、職員間での事故発生時の対応について周知を徹底する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	数回	1.定期的に実施	数回	スペースの使い方について、安全面の配慮が足りなかった	全体の遊びを見てスペースの使い方を工夫する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	違う遊びと遊びの間には安全なスペースを確保する	1.いつもどおりの様子であった	検定の技をクリアできるよう一生懸命練習するため待機していた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児だけではなく他の遊び全体を見守っている	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びに目がいき届いてなかった	特になし	その日の子ども達の様子、その場の状況に合わせた保育（活動）を個々の職員が考えていく	
8065	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	41							41		6	6	21.9歳	2.女児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	―	2.基準配置	意外に芝生の坂の傾斜があった	個々に様子を見ながら無理に滑らずに中間から滑るよう指導する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	皆に合わせようと急いで滑る	自分のペースで滑るよう声掛けを行う	1.集団活動中・見守りあり	滑り終えたところでバランスを崩すと思わなかった	思い込みで見守らず気をつけて見守りを行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	学年行事で公園へ歩いて移動していたため。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	滑り降りたところで全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもの広場方面で遊んでいる児童もいた為、見ていなかった	他の児童も転んでいた為、そんなに大きなケガになると思わなかった	大丈夫だろうと思いこまず、1人ひとり注意して見守る	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8066	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		2	1	22.1歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足人差し指・中指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	特になし	見守りの際の注意するポイントをまとめた、「安全の手引き」を職員全員でもう一度確認しました。	1.定期的に実施	6	3.未実施	—	1.定期的に実施	12	なし	–	3.個人活動中・見守りあり	特になし	-	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところで見守っていたので、一瞬の動きにに対応できなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人の職員が体育館に移動してきたところだった。他の職員はそれぞれのポジションで見守りをしていた	特になし	サッカー等の事故が起こりやすい遊びの際は、可能な限り、職員一人がつくように対応しています。	
8067	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	18							18		3	2	2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第3指骨　骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	特になし	マニュアルを再度確認する	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	1.定期的に実施	—	なし	児童との遊びの中で点検をする。児童が使用する前に安全か確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	死角ができないように見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り外遊びに行く	2.対象児の至近で対象児を見ていた	運動場の全体を見守る。ブランコは注意深く見守り声かけをしていたが、突然の出来事に注意・対応が間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の児童の遊ぶ付近を見守っていた	特になし	外遊びにおける支援員の見守る位置の再検討を行う。外遊びでのルールの確認をする。	
8068	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	25							25		5	3	2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫、右足関節外側側副靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見守っていた。足を痛めたことを聞いてすぐに室内に戻り処置をした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	複数の目で本人を含め、外で遊んでいた児童の様子を見守っていた。	外遊びでの危険個所・安全確認が不十分であった。	学校に報告をし、運動場の整備をしていただく。	
8069	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	8							8		2	2	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第5中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	数回	1.基準以上配置	児童が、怪我をした際の対応について、周知されていない。患部のチェックをしていない。	マニュアルの作成、職員間での事故発生時の対応について周知を徹底する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	年数回	1.定期的に実施	年数回	おやつにスナック菓子があったため、床が滑りやすくなっている箇所があった	脂っこいおやつや買いおやつの後に、床の状態をチェックする	1.集団活動中・見守りあり	特になし	運動遊びと運動遊びの間は、休憩をしっかりとり、少し気持ちを落ち着かせてから、次の遊びに移るようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	遊びの前に、少しゴロゴロし眠そうな姿があった。遊びを始めるころには、目が覚めた様子で、活発に動いていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	遊びに参加せず、全体の様子を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	トイレ掃除をするため、その場を離れていた	この日は、日中に行事があったため、体力もあまり、テンションも高かった。	その日の子ども達の様子、その場の状況に合わせた保育（活動）および保育以外の業務を個々の職員が考えながら指導する。	
8070	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	16							16		3	2	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の打撲、右手首の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	危険な可能性がある場合を想定した研修等を強化する。							なし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.集団活動中・見守りあり	特になし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児等を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童等を見守っていた。	特になし	高い所から飛び降りないように声掛けを行っていく。	
8071	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	27							27		3	3	2.8歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足首亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	—	なし	今回の事故については特に問題なかったと考える	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の捻挫に気付かなかったので、見守りを強化していく。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児等を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童等を見守っていた。	特になし	児童の捻挫に気付かなかったので、見守りを強化していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
8072	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	95							95		6	4	18.6歳	1.男児	―
8073	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	9.学童	25							25		1	1	2.8歳	1.男児	―
8074	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	40							40		5	5	19.7歳	1.男児	―
8075	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	26							26		3	1	21.9歳	2.女児	―
8076	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	6							6		6	5	23.11歳	2.女児	―
8077	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	31							31		4	2	21.9歳	2.女児	―

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8072	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	鬼ごっこ中、職員が遊びにつくようにしていたが、範囲も広く全ての子どもに目が届いていなかった。	遊びの範囲を決めたり、職員の配置や安全管理マニュアルの再確認を行う。	1.定期的に実施	6	3.未実施	―	2.不定期に実施	12	なし	児童との遊びの中で点検をする。児童が使用する前に安全か確認をする。
8073	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	―	3.基準以下	なし	遊びの決まりを見直しする。	1.定期的に実施	280	1.定期的に実施	20から30	1.定期的に実施	約12	なし	引き続き点検しケガしないよう防ぐ。
8074	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	―	1.基準以上配置	職員の配置人数等に問題はなかったが、より事故防止について職員の意識を高める必要があると考える。	-	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	なし	ハード面の問題で発生した事故ではないため、改善策はありません。
8075	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第三四中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	より多くの児童を見守ることができる場所で支援を行う。	2.不定期に実施	―	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施	―	なし	事故誘因は自らの落下によるものであるため、ハード面における特段の改善策はない。
8076	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	事故災害発生時のマニュアルだけでなく、予防のマニュアルを作成し、指導員で共有する。	2.不定期に実施	3	3.未実施	―	2.不定期に実施	3	なし	指導員や家具の配置を工夫し、過度な活動にならないようにする。
8077	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	―	1.基準以上配置	児童本人が遊びに夢中になって注意を怠った	外での冬休みの遊び方について具体的に声掛けをする	1.定期的に実施	1	3.未実施	―	1.定期的に実施	1	なし	-

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8072	1.集団活動中・見守りあり	特になし	死角ができないように見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り外遊びに行く	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	運動場の全体を見守る。ブランコは注意深く見守り声かけをしていたが、突然の出来事に注意・対応が間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児以外の児童の遊ぶ付近を見守っていた	特になし	走って遊ぶ中で転ぶことがあるので、気を付けて遊ぶように声をかけていく。	
8073	1.集団活動中・見守りあり	なし	ケガをする恐れがある遊びの場合、すぐに止めさせる。	1.いつもどおりの様子であった	活発でじっとしていられない子。事故発生日もいつもどおりだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児は動き回っていることが多く担当職員も対象児を気にかけて注意したり等よく見ているが、捻ったところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	違うクラスを担当しているため見ていない。	なし	対象児のような活発な子たちの遊びの監視を強化し、ケガしそうな危ない遊びをしていたらすぐに止めさせる。	
8074	1.集団活動中・見守りあり	-	目の届かない児童がいないよう、児童を集める支援員と見守りを行う支援員に分ける等の対応を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	見えない児童がいないよう、指導員がエリアを分け見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見えない児童がいないよう、指導員がエリアを分け見守りをしていた。	なし	職員の見守り状況等に問題はなかったが、安全な遊び方について、児童への周知徹底を図る必要がある。	
8075	1.集団活動中・見守りあり	特になし	支援員体制は適正であり、特段の改善策はない。	1.いつもどおりの様子であった	同学年友達と外で遊ぶことが多い。他の児童とのトラブルは報告されていない。	4.対象児の動きを見ていなかった	外遊びの見守りでグラウンドで支援を行っていたが、別の児童の見守りを行っており、当該児童が落下した瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援室内で他の児童の見守りを行っていた。	特になし	より多くの児童を見守ることができる場所で支援を行う。	
8076	1.集団活動中・見守りあり	特になし	指導員や家具の配置を工夫し、過度な活動にならないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	感染症予防のため利用者が少なく、施設を広く使うことができ、活動がより身体的になった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	児童の活動に対して、声をかけながら見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別室でほかの児童の学習活動に対応していた	特になし	指導員は、児童の自由な意思を尊重しつつ、過剰な心身の活動になりすぎないよう、今まで以上に観察し、言葉かけなどの指導を行い再発防止に努める。	
8077	3.個人活動中・見守りあり	鬼に捕まらないよう必死で逃げていたところ、バランスを崩して転倒した。	コンクリートや建物周辺は危険なので、走り回る遊びをしないよう声掛けが必要	1.いつもどおりの様子であった	外遊びで鬼ごっこをしていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	外遊びを見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	役割分担をして、見守りを行っていた	特になし	冬休みの遊び方について、子どもたちに具体的に声掛けをする。日頃も伝えてはいるが、さらに一日保育を意識し、声掛けを行う	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況									事故発生の要因分析																								掲載
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	更新年月日
8078	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	24						24		3	1	22.1歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	特になし	3クラブの職員が連携を取り、子ども達の安全を見守る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	グランドの整備(木切れ、石等を見つけ取り除く)	1.集団活動中・見あ守り	特になし	冬場のドッジボール等遊びについては、体や指をほぐしてからにぐしてうように声掛けをする。また、ボールの空気等にも気を配る	1.いつもどおりの様子であった	活発な児童で遊び等に混ざることも多かった。	2.対象児童で対象児を近くで見ていた	ドッジボール以外の子どもも見ながらドッジボールをしている子どもたちの動きも見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	グランドでの立ち番があり、そこを担当しながらその周りの子の様子に気を配っている。離れた全体の様子も確認できる	特になし	今までに以上に子どもの動きに気を配り、職員の連携をとる	
8079	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	3.施設敷地外(園外保育・公園先等)	9.学童	20						20		4	4	21.9歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他		5.下肢(足・足指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	不明	不明	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	不明	不明	1.集団活動中・見あ守り	特になし	不明	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児で対象児を近くで見ていた	見守り、声掛け	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児童見守り	特になし	特になし	
8080	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	20						20		4	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)	右足薬指一骨折、1針縫う右足小指一擦り傷	8.その他	2.なし	2.不定期に実施	1回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	児童が遊具使用中の安全確認の徹底	3.個人活動中・見あ守り	ホッピング使用中の子ども達の距離が近かった	安全な距離を保って遊べる支援よう員が見守る	1.いつもどおりの様子であった	いつも遊び外遊びを楽しみんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児のいい児くに近くが他児の様子をたが見守りだった為、目を離した際にケガをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった		見守りの支援員として対応数が多かった	最初からすべての遊具を準備するのではなく、支援員、児童の数に応じて遊具を増やしていく	
8081	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	30						30		2	2	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		4.上肢(腕・手・手指)	骨折(ひび)	2.自の転倒・突よにるの	1.あり	1.定期的に実施	1回	2.基準配置	屋内での活動中において、環境面の変化により外をする可能性があることを認識していなかった可能性がある。	季節や状況に応じて危険性が変わる認識し、それに応じた対応をすることにより、ケガのリスクを軽減する。	1.定期的に実施	年数回	1.定期的に実施	年数回	1.定期的に実施	年数回	当日は、気温が低いに湿度が高くなっており、育館がすべり滑りやすい。	天候状況に応じて安全確認を行い、必要に応じて床などを拭くの対応をする。	1.集団活動中・見あ守り	広い体育館内でのドッチボール活動の可能性は低い館の支援員が支援員が支援員が

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8083	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	32							32		4	3	22.1歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨内顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	—	2.基準配置	特になし	ソフト面における改善策はなし。	1.定期的に実施	—	3.未実施	—	1.定期的に実施	—	なし	ハード面における改善策はなし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	環境面における改善策はなし。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	とても柔軟性があり、側転が得意で、他学年の子もいたので、馬飛びに遊びが変わったところだった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	子ども同士の接触や転倒には気を付けるよう、声掛けをして見守っていたが、対象者の後方にいたため、着地失敗した瞬間は見ていない。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員と見守っていたが、対象児の後方にいたため、着地を正面から見ていなかった。	特になし	児童全体の様子を見渡せるよう、職員配置の場所を検討する。	
8084	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	28							28		5	5	21.9歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	唇の下を2針縫う、上前歯(右)抜ける、下前歯(4本)グラつく、下歯茎内側に上の歯が貫通	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	アスファルトや段差のある所を走っていたので、注意をしようと思っていた時に、転んでケガをした。	早めに声掛けをして、注意を促せばよかった。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず元気に来所し、外遊びで楽しそうに鬼ごっこをした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子ども達と一緒に鬼ごっこをしていた。事故発生時、鬼から逃げていたため、対象児から離れた所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具で遊んでいる子ども達を見ていたので、事故に気付かなかった。	子ども達が広範囲に動いていたため、1人1人の行動を把握できていなかった。	滑りやすいタイルやアスファルトや足洗い場の段差のある所は走らない等、ルールを事前に決め、早めに声掛けをする。	
8085	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	8.学童	22							22		2	2	19.7歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘の上の骨の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	当日急遽補助員1名が休みとなり，普段より見守り体制が手薄となった。	・急遽欠員ができた時の見守り分担および見守り方法をより細かく確認する。 ・事故発生場所の見守りを強化する。	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	2.不定期に実施	2	児童が欄干の横木に足をかけたり跳び上がったりすれば，東屋欄干の上に登れることができた。	・児童が欄干の上に登らないよう手立てを講じる。（掲示物，転落防止棒等）	3.個人活動中・見守りあり	・当日補助員1名がお休みであり，またおやつ後の後片付けに支援員1名があたっていた。従って事故発生当時は支援員1名が園庭・室内の両方を見守る状況になっていた。	急遽見守りに欠員が出た場合は，児童迎え担当者や関連施設職員に応援を頼み，通常の見守り体制を維持する。	1.いつもどおりの様子であった	・普段通り明るく友達と関わっていた。事故発生時も友達と遊ぶのがうれしく，はしゃいだ状態であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	支援員は，出入口付近においてで室内・園庭の両方を見守っていた。事故発生時は他の児童の対応をしており，対象児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	・1名は急遽休み，1名はおやつ後の後片付けをしていたため，対象児童の動きをみていなかった。	担当支援員に「全体がみえる場所にいれば見守れる。」という危機管理意識の甘さがあった。	・定期的に事故防止研修を行い，職員の危機管理意識を高揚させる。 ・日頃の見守り分担を見直し，手厚く穴のない見守りを行う。	
8086	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	18							18		4	2	2.8歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	特になし	事故予防に関する研修の実施	2.不定期に実施	—	3.未実施	—	2.不定期に実施	—	なし	問題はなかったが、今後も遊具の安全確認を必ず行う	3.個人活動中・見守りあり	特になし	見守りを徹底する	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ドッチボールだったのでコートの端から全体を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ドッチボールだったのでコートの端から全体を見ていた	ボールを取る時に地面に指をついてしまった時と考えられる	外遊び前や後に一旦集めて、怪我をしている児童を確認する	
8087	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	30							30		5	4	19.7歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	児童が走行中に転倒したり、その他変わった様子が見られなかったため、児童が足を挫いたことに支援員が気づくことが難しかった。	体育室遊びの前に、簡単な準備運動やケガをした場合はすぐに職員へ知らせるよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	事故後も特に普段と変わった様子はなかったが、事故者は少し元気がない様子で、体育室の壁際に座り他の児童の様子を見ていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体育室内の児童全体の様子を見ていたが、特に事故者に変わった様子がなかったため、事故者からの申し出まで気が付くことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	館内児童対応のため、各部屋で対応していた。	特になし	遊びに入る前の注意喚起や職員体制の確保を徹底する。	
8088	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	118							##		17	11	21.9歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	尾骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	—	ヒヤリハットを常に意識し事故発生の予防に心がける。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	—	室内で、柔軟体操等、体を動かす遊びはしない。	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気も良く、体調不良は見られなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含めグループ全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各部屋や各スペースにスタッフは配置されていた為、対象児を把握することができなかった。	口頭では注意はしたものの、もっと強く制止するべきだった	離れた位置の場所で遊ぶ子ども達も、できるだけ見守りができるように心掛ける。ミーティング等でも子ども達に伝え、自己啓発を促していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8089	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	9.学童	9							9		5	2	21.9歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3回	2.基準配置	-	-	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	-	-	1.集団活動中・見守りあり	-	-	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	冬休み中でさらにクリスマスに友人と一緒に来館したことで気持ちが高まっていた部分があり、いつもは参加しないドッジボールを行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッジボールの審判	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名事務室で事務作業、1名クラブ室で子どもの見守り、他2名館内外の掃除をしていた。	特になし	普段の遊びで自身の体の使い方、バランス感覚等を養い、ケガのリスクを減らせるよう努める。	
8090	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	8.学童	159							##		18	13	2.8歳	2.女児	—	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨骨折、右手擦過創、顔面擦過創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	登館前の事故のため改善策なし。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	なし	登館前の事故のため改善策なし。	7.その他	特になし	登館前の事故のため改善策なし。	1.いつもどおりの様子であった	走っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登館前だが不審者対策を兼ねて通館路に立っていた。走っている児童には注意等を行っていたが、目の届かない範囲で当該児童が転倒した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登館前のため見ていない	特になし	登館前は慌てず気を付けて登館するよう帰りの会等で繰り返し指導する。	
8091	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	40							40		9	8	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	-	-	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	なし	—	1.集団活動中・見守りあり	特になし	—	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり仲良しの友だちと元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	グラウンドゴルフを安心・安全に遊べるように、遊び方や道具の使い方など教えたり、見守っていたりしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	グラウンドゴルフ以外にボール遊びや鬼ごっこ、ブランコ、鉄棒、砂遊びなどを見守っていた。	特になし	特になし	
8092	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	39							3		3	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3回	2.基準配置	職員体制は見守れるほど充分ではあったが、こどもの特性に合わせて声掛けができなかった。	子どもの特性に合わせた声掛けができるような活動を行うようにする。	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	雲梯の整備については特に問題は感じられなかった。	—	1.集団活動中・見守りあり	児童の特性を見極めての対応ができなかった。	児童の特性にあわせた活動内容を実施すること。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雲梯に上り、鬼ごっこの鬼から逃げる。その日も何度か雲梯から飛び降りており、鬼が近くへ来たため飛び降りた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこに参加しながらも、周りの様子を見守る。ほかのグループでの鬼ごっこも同じ場所で行われていたため、他のグループの児童の様子も見ながら一歩引いて周りを見ながら鬼ごっこに参加。そのため、当該児童落ちた時も目撃し処置を進めた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員２名外遊びへ出ており、他の児童の遊びの対応についていた。	遊びが分散されていた。	遊びをまとめて外遊び担当の支援員が、把握できる位置で遊ぶことが望ましかった。	
8093	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	42							42		5	3	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	マニュアルが生かされていたか。研修内容が自分事として捉えられていたか。	マニュアルを定期的に確認し、すぐに活用できるようにする。マニュアルを自己事例に合わせてシミュレーションする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	毎日	自らが施設や遊具等の点検をしていない。遊具や施設で起こりうる事故を予想していたか。	長期休業前に遊具や施設の点検を自ら実施する。施設や遊具等で発生する事故を様々な観点から予想し、その予防策を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	遊具等で起こり得る事故や予防策について児童に伝達していたか。ミクロ・マクロの視点から児童を観察していたか。	活動の前、児童に遊びで起きる事故について話し、注意を喚起させる。近く、また広域に子どもの活動を観察する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活発に活動していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児童の遊びグループの近くにいて見守っていたが、その瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの支援員が運動場に散らばった近くのグループを中心に見守っていた。	遊びの種類とそれによって起きる事故が想起されていたか。	研修を生かして、遊びの種類による事故防止をシミュレーションする。遊びの種類に応じて適宜児童に注意喚起させる指導を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8094	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	1							1		2	2	19.7歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし		—		特になし	特になし	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	なし	—	1.集団活動中・見守りあり	特になし	バランスの崩しやすい遊具で遊ぶ時は気を付けるよう注意点を伝えておく。特にうんていなどの落ちる危険がある遊具で遊ぶときは気を付ける。 遊ぶ場所は広範囲にならないよう気を付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見渡せる場所で別の児童を対処していた。落ちた時の音で当該児童が怪我したことに気づく。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童2名とクラブに残っていた。	うんていをしていた当該児童から少し離れていたので、声掛けが不十分だった。	落ちることも予測できるような遊具での遊びでは特に低学年であれば傍について声掛けをしながら遊ばせるべきだった。 外遊びに行く際、必ず指導員は2名配置する。児童が広範囲に広がらないようにして、すぐ駆け付けられるような場所で見守る。	
8095	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	17							17		2	2	19.7歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	—	**こども目線での危険予知を行う。**	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	—	玩具が入っている箱を児童が床に置いたまま遊んでいた為。	玩具遊びをする際には，箱や玩具を床に放置することなく，机の上や棚への収納等を行うよう児童への指導と支援員の注意を向けていく。	1.集団活動中・見守りあり	足元を見ていなかったこともあり、下に置いてあった箱に気が付かなかった為。	玩具類を出したら箱は片付ける。 (グループ）場所的にもまとまって使うようにし移動するときは足元にも注意するよう指導する。	1.いつもどおりの様子であった	クラブ室後方から前方に歩いて移動中(足元を見ていなかった)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラブ室前方に立って、本児を含め児童の様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	教卓横で、他の児童と製作物の作製をしていた為、本児の事は見ていなかった。	—	—	
8096	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	58							58		8	7	24.12歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	5.他児から危害を加えられたもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度年1回	1.基準以上配置	PKで近距離から蹴られたボールにより、手に強い衝撃を受けてしまった	支援員等で何が危険だったのかを確認しあい、怪我をしてしまったことの原因を児童に周知した	1.定期的に実施	—	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	50	施設や遊具が直接起因していると思われないが、館庭をサッカーやドッヂボール、一輪車、砂場、複合遊具などがあり、一度に5人程度の人数で遊ぶには狭いと思われる	館庭が拡張されるとよい	1.集団活動中・見守りあり	館庭は狭いがサッカーとドッヂボールコートがとれる。児童が混在して遊んでいると支援員人数や配置等、注意が行き届かないことが起きてしまうことがある	館庭を拡張することは難しいため、子供たちにルールや危険な行為はしないよう周知する	1.いつもどおりの様子であった	普段からサッカーで遊んでおり、負傷した時はゴールキーパーをしていてPKとなった	4.対象児の動きを見ていなかった	施設の形状から、通常館内と館外の2班に分かれて見守り等にあたっている。支援等に1名の欠員がある中で、当日は指定休が1名あり、支援員7名のうち外3名でサッカーやドッヂボールなど見守り等していたが、見守りの目が行き届かなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員等に1名の欠員があり、当日はクラブ事業の予定もあり館内では4名が事業準備と見守りをしていたため、館外での支援員等が3名で対応していた	支援員等の定員が1名欠員状態で、当日は指定休で1名休みだったため所長を除き7名での見守りとなったため	欠員の補充が急務である	
8097	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	28							28		5	2	21.9歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	1.基準以上配置	特になし	事故当日より支援員全員に事故の内容を説明し、この様な事故が今後起きないよう指示を行った。	2.不定期に実施	実施頻度(4)/年	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	当日は晴れており、園庭の地面も乾いていた。	全力で走ってはいないとは言え、児童はバランスを崩しやすいため、児童に注意を促し見守る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	全力で走ってはいないとは言え、児童はバランスを崩しやすいため、児童に注意を促し見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しく遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	痛めた後、直ちに、応急処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐ近くで見守っていた。	児童がつまずいてバランスを崩したとき、すぐ近くに支援員が居たが咄嗟のことで間に合わなかった。	常に周りの状況を確認しながら行動し、危険と思われる場所では児童に注意を促す。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8098	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	9.学童	39							39		3	2	2.８歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	永久歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	特になし	児童に、室内で走り回るなどの危険な行動をしないよう呼びかけを徹底する。	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	突発的な事故	子どもたちの行動を注視し、建物の中で走り回るのを防止する	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	特になし	突発的な事故のため防ぐことは難しいが、職員は子どもたち全体の動きを把握するよう常に見守りの目を向けるようにするとともに、日々の危険行動に対する教育・呼びかけを徹底する。	
8099	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	9.学童	44							44		8	7	19.７歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第三基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	児童に対し、外遊び開始前にマニュアルに沿った危険性の説明が不足していた。	外遊び前に児童達へ外遊び中の注意事項をしっかりと伝える。支援員は、突発・偶発的に事故が起こる可能性を常に念頭に置く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	支援員が事前に小学校校庭の危険個所の確認をするべきであった。	支援員が事前に小学校校庭の危険個所を確認する。安全確認後、遊ぶ範囲を指定する。児童へ危険個所の説明をする。	1.集団活動中・見守りあり	転倒を予測出来なかったため。	転倒を予測した支援員の見守りの位置の配置をする。	1.いつもどおりの様子であった	通常通りの遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒を予測出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童と外遊びをしていて動きの確認をしていなかった。	支援員全員が全体を観られる様な行動がとれていなかった。	支援員全員が全体を観られる様な行動がとれていなかった。	
8100	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	8.学童	41							41		7	3	2.８歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	捻挫　クラスⅢ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	数回	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	廊下の素材が滑りにくくなっているため、上靴を履いているとつまづきやすい。	廊下では上靴を履かないことを徹底する。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	体育室で活動後に上靴を履いたまま、図書室にいる友人に話しかけようと小走りになっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	玄関にて保護者対応終了後、館内へ戻ってきたところであり、転びそうな児童を支えることができる位置ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体育室にて活動終了後の片づけを行っていた職員、保護者対応していた職員、他児童と関わっていた職員もおり、体育室から移動している児童を見ている職員はいなかった。	特になし	体育室より退出する際は、落ち着かせてから上靴を脱ぎ、次の行動に移るよう促す。また、保護者対応等で職員数も取られる時間帯については、お互いの連携を図る。	
8101	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	64							64		6	5	2.８歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	—	2.基準配置	スロープの使用について、くぐり抜け禁止のみにしていた。	スロープでは遊ばないという確認をする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	なし	スロープでは遊ばないという掲示をする。	1.集団活動中・見守りあり	遊んでいる時にスロープを通ることを禁止していなかった。	遊びにスロープは使わない。	1.いつもどおりの様子であった	一緒に遊んでいた児童が転んでケガをしたばかりだったため、走らずに歩いて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちと仲良く歩いていたため、走り回る児童の方へ注意が向いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	なわとびを回してあげながら、もう一人の職員の位置や、他児の行動を見ていた。	特になし	特になし	
8102	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	127							##		13	1	18.６歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1回	2.基準配置	特になし	室内で過ごす時間にテラスに出てしまった際の事故。夕方の過ごし方の確認と徹底、及び職員の配置の仕方についても再度考えていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	階段に背を向けるのは事故に繋がる為、注意を促す。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	職員、児童を含め、センター全体で改めて危険行為の確認、約束、ルールの確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	活発な行動が多く、普段から危険な場面が多い。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラブ室で過ごす時間だったため、大半の児童が居る室内の対応に集中していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれが自分の担当の部屋で学童保育を行っていた為、クラブ室周辺には居なかった。	特になし	職員の全体を意識した見守りの徹底、危険な行為に対し、事故を予測した声がけ。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8103	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	34							34		2	2	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	—	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	—	3.個人活動中・見守りあり	特になし	—	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	いつもより活発に動きながら、剣道ごっこをして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体的な見守りをしつつ、他児童の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体的な見守りをしつつ、他児童の様子を見ていた。	特になし	動きが活発な遊びをしている場合、児童の遊びの様子を注意して見守るようにする。	
8104	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	9.学童	35							35		6	3	2.８歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	今回の事故は不慮の事故であったが、見守りをより強化する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	今回の事故に関しては遊具の不備ではなかったが、日頃から危険な箇所がないかを支援員が点検時以外にも意識をして確認をするようにしている。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	児童の行動のすべてを監視することは困難なため、日頃からクラブでの過ごし方についての話をするなどして注意を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り元気に来所した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	利用児童がサッカー遊び・遊具遊びなどいくつかの遊びにわかれて遊んでいたため、少し離れた場所から見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	特になし	特になし	
8105	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	8.学童	11							11		3	3	2.８歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	—	2.基準配置	室外が女児3人だけだと安心して、事故の時間帯に支援員1人の見守りになった。	支援員同士の意思疎通を諮り、室内と室外の配置を考える	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	2.不定期に実施	—	なし	遊具の不備があった場合、学校へ知らせる。	1.集団活動中・見守りあり	3人だけではあったが、遊びが異なると支援員の見守りが手薄になる。	遊具の遊び方、支援員の見守り方を考える	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	他の低学年の児童が雲梯をするのを補助していて、当該児童がチャレンジネットで遊んでいるほうを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室外で遊んでいたのが女児3人だけだったので、大丈夫だと思い、3人以外の児童、支援員は全員室内に入っていた。	他の低学年の児童1人に集中していたため、当該児童の遊びが見れていなかった。	児童の安全指導に努め、1人の児童につきっきりにならずに、全体が見渡せる位置で児童を見守る。	
8106	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	9.学童	30							30		3	2	2.８歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1回	2.基準配置	廊下と子ども会室には仕切りがあり、見守っていたところから死角になっていた。	廊下と子ども会室の間に必ず指導員を配置する。	2.不定期に実施	12	3.未実施	—	1.定期的に実施	毎日	なし	日々注意深く点検する。	1.集団活動中・見守りあり	初めのうちは走らない条件を守っていたが、遊びに夢中になり慌ててバランスを崩してしまった。	注意をしても遊んでいるうちに興奮し、慌てるため、この日以後はハンカチ落としの遊びを禁止した。	1.いつもどおりの様子であった	遊んでいるうちに興奮し、慌てたためバランスを崩し、滑って扉にぶつかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	2年生5名でルールを守りながらハンカチ落としをしていたので、手のかかる1年生の見守りと兼ねていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当日、他の受け入れする子を確認していた。また1年生(支援級)の子を担当していた。	廊下は少し離れたところで見守っていると死角になりやすい。	廊下と子ども会室の間に必ず指導員を配置する。	
8107	令和4年11月28日	3.その他	15.放課後児童クラブ	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	9.学童	127							##		12	8	23.11歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	舟状骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	—	2.基準配置	無し	体育館は児童館遊戯室と比べ広く児童一人ひとりの動きを把握するのは難しいが、今後も全体を見渡せる位置に立つ等意識を持ち、児童の遊び方も見極めていく必要はある。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	今後も遊び方を見極め安全確保ができるよう見守りと声かけに努める。	1.いつもどおりの様子であった	楽しさから夢中になり周りが見えず他児にぶつかり、反動も大きく、本児の手のつき方が逆手になってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	各職員全体を見渡せる位置には立って見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	児童館内の担当配置場所の見守り等を行っていた。	無し	とっさに判断しての動作になるので予防は難しいが、転びそうになった場合の手のつき方を指導することは可能であり、伝えていこうと思う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8108	令和4年11月28日	3. その他	15. 放課後児童クラブ	8	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	8. 学童	30							30		3	2	2. 8歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折、左側頭部挫創	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	2回	2. 基準配置	日頃より危険個所（マップ作成中）の共有と職員の配置を行い、その日は支援員１名がおやつを提供、支援員1人が２階児童を見ており、その他４名の児童と支援員1名でプールに来ていた。事故当時、児童２６名を２名の支援員で見ていた。	支援員の危険行為に対する児童への声掛け・見守り、職員間の連携不足（トランシーバー）、支援員の児童の特性から行動面の予測	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	—	1. 定期的に実施	12	普段２階柵にボールの転落防止ネットがはってあったが、事故当日は張っていなかった。ひとまとめにしてあり、ジャンプをして柵に上った際、勢いあまって転倒・転落しようとした寸前ネットを掴んでいたが、手が滑りそのまま下へ転落した。	転落用ネットの検討、ハザードマップを作成し支援員・児童で共有	3. 個人活動中・見守りあり	柵が丁度、子どもたちの背丈ほどあり、普段から柵に座っている児童を支援員が注意することがあった。本人の行動の予測不足	柵から高さ１メートル程の所に、転落防止ネットの設置。上りロープの撤去。	1. いつもどおりの様子であった	食事後ということもあり、２階でゆったりと数名で過ごす様子が見られた。友だちの中に入り、遊びに誘っている時の出来事だった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本人の様子と友だちとのやりとりを見ながら、柵に座っている姿も危険な行為も見られなかった為、他の児童に誘われて下へ降りてすぐの出来事だった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	食事を済ませていない児童がいた為見守りを行っていた。職員から転落した報告を受けてすぐに現場へ駆け付け、本人の様子をこども園の看護師に報告し、指示を仰いだ。	当時、１人の職員は４名の児童とプールあそびに出かけており、職員２名で子どもたちを見守っていた。	配置は十分ではあったが、児童がおやつからあそびへと移行する時間帯の場合の職員配置（資格者と補助）の配置の連携・児童への声掛け・危機管理意識の指導徹底	
8109	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	1. 0歳児クラス	55	14	17	11	7	2	4			16	14	16. 4歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	12	1. 基準以上配置	—	異年齢が集まる時間帯は、特に見守りの強化をする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	48	1. 定期的に実施	48	—	実施頻度を増やして、安全確認に努める。	1. 集団活動中・見守りあり	—	夕方はお迎えの時間と重なるため、職員の配置に注意をする。	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	—	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にい	—	—	—	
8110	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	11	5	4	2						8	6	13. 1歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	5. 下肢(足・足指)	右第一指基節骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	毎月	1. 基準以上配置	事故発生時は、0歳児クラスの高月齢児、1歳児クラス、2歳児クラスを同サークル内で集団保育していた。登園児の受け入れは、クラス担任が行うようにしていた。事故発生時は登園が重なる時間帯で、サークル内の保育者の入れ替わりが多くあった。	登園児の対応をクラス担任に限定しないことで、サークル内の保育者の入れ替わりを少なくし、落ち着いて保育できる環境を作る。	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	毎日	サークル内に敷いているジョイントマットのつなぎ目に子どもの指が引っかかるような隙間があった。	登園児の対応をクラス担任に限定しないことで、サークル内の保育者の入れ替わりを少なくし、落ち着いて保育できる環境を作る。	1. 集団活動中・見守りあり	登園児の受け入れは、クラス担任が行うようにしていた。事故発生時は登園が重なる時間帯で、サークル内の保育者の入れ替わりが多くあった。	登園児の対応をクラス担任に限定しないことで、サークル内の保育者の入れ替わりを少なくし、落ち着いて保育できる環境を作る。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌よく登園し、集団保育に参加していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員は普段、対象児とは別のクラスを担当している。事故発生時は登園が重なる時間帯のため担当クラス関係なく保育をしていた。その中で、テレビに近づきすぎていた対象児にテレビから離れるよう声掛けをしていた。声掛けでは移動しなかったため、対象児の両脇を抱えて移動させた。対象児を着地させる際に、足を突っ張るような体制となり、ジョイントマットのつなぎ目に足が引っかかっていた。担当職員は、対象児の足が引っかかっていることに気が付かず着地させた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士1名朝会議、1名保育ルームに移動中、2名登園児受け入れ、保育補助1名登園児の荷物整理、保育士2名とみなし保育士(看護師)1名が保育ルーム内で集団保育。至近距離にいた保育士は対象児とは別のサークルで保育していた。サークル越しに対象児と担当職員の動きが見えていた。職員が対象児を移動させる際に体を突っ張り、マットが一部持ち上がったことを見ていた。その後、対象児が痛いと泣いたことでサークル越しに見ていた状況から、着地の際に足を痛めたのではと考えた。	声掛けの仕方が本児にあっていなかった。園児の移動を行う際の危険予測が不足していた。	園児の移動が必要な際は、本人が自発的に動くような声掛けを工夫する。園児の抱え方を工夫し、着地させる際は周囲の安全に留意する。	
8111	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	7					4	3			2	2	17. 5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	前額部裂傷	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	遊具がある中遊具を使用しながら鬼ごっこをしている	だるまさんが転んだや走る際は、走る場所を区切り、近くに遊具が無いように環境を整える	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	椅子の付近でこけた際角に当たると怪我をする	椅子の角にけが防止パットを貼る	1. 集団活動中・見守りあり	1人のスタッフは砂場で園児とおり、もう一人のスタッフは全体を見ていた	全体を見るスタッフは遊具付近にいながら見守るようにする	1. いつもどおりの様子であった	—	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場で遊んでいる園児のそばで園児と一緒にいた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具側ではなく園庭入口側に居て全体を見守っていた	—	園児との遊びの中でも、遊具エリアと走るエリアを区切るなどして、確実に動きを身を睹さないようにする。	
8112	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19				8	5	6			5	3	17. 5歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	数回	1. 基準以上配置	十分な保育士を配置していたが、合同保育の時間帯であったため、すべての保育士が室内全体をより注視する必要があった。	マニュアルなどの再確認を行い、更に研修やミーティング等を実施する。	1. 定期的に実施	毎日			1. 定期的に実施	毎日	室内は万一転倒しても怪我をしないよう障害物等はなかった。	室内でスキップや小走りなどを避け、必ず歩くように指導する。	1. 集団活動中・見守りあり	3･4･5歳児合同で室内遊びをしている時間だった。室内にいた保育士から少し離れた場所でスキップをした。	室内でスキップや小走りなどを避け、必ず歩くように指導する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	事故発生日当日前の４日間（土日も含める）、弟の体調不良により、本児も休んでいた。久しぶりの登園だったこともあり、気分が向上しているように感じていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担任と会話を交わした後、側を離れたが、同室内であったため、本児のみの行動だけを注視することができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	合同で室内遊びをしていたため、側にいる園児を見ながら一緒に遊んでいた。	本児にスキップ等をしないよう注意する間もないほど、スキップをした瞬間に起きた出来事だった。本児は前のめりの転倒を回避しようと思い、右腕で体を支えようとしたが、支えきれずそのまま転倒してしまった。	保育士は室内全体を注視する。室内でスキップや小走り等を避け、必ず歩くように指導する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8113	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	3			1	2					2	2	15. 3歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 基準以上配置	—	事故予防に関する研修を実施し、保育士間で周知する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	—	手をつないで歩く時のルールを子どもたちと再確認して、その都度声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	—	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	日頃の保育を通し、園児の行動習慣を把握する。そのうえで、事前に防げることは回避できるよう対策を行い、偶発的な事故では、保育士が咄嗟に動けるよう常に注視するようにする。	
8114	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	4. 3歳児クラス	13			6	6	1				3	1	16. 4歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨幹部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	—	子ども同士のかかわりの中でのケガも事例を出しながら、検討する。引き続き、クラスの様子、友達との関係性も会議の中で共有しておく。	2. 不定期に実施	1	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	—	—	1. 集団活動中・見守りあり	事故後の両親との話の中で「慣れない場所ではこける回数が多くなる」とのこと。	保護者から、家での様子や、注意点をもっと細かく聞き取り、保育園の生活の中でも気を付けられるようにする。職員と共有する。リスクのある場合、園外に出る時には、園内で他のクラスと遊んで待っているということも検討する。	1. いつもどおりの様子であった	走ることも楽しくなり、追いかけっこを自分から誘ってすることもあった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	至近距離で見守りはしていたが、こける瞬間は見ていなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近い距離で、他の子たちの保育、対応をしていた。	お弁当を持って行って、食べた後だったので、ただ遊びに行った時とは、動きが違った。	支援のいる子ももちろんだが、集団の動きが大きくなってきたり、関わりの中でのトラブルも予測しながら保育をする。子どもたちが落ち着かない状況の時は、動きの少ない遊びをして待っておく。	
8115	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	3	1	2							2	2	14. 2歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	5	2. 基準配置	マニュアルに記載された事項を遵守していなかったと言わざるを得ません。	①マニュアルの記載事項を再度確認・徹底します。(内容の見直しを行います。)②毎月等定期的にマニュアルの勉強会を実施します。	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	2. 不定期に実施	—	—	各安全点検をチェックシート作成し、毎週等もれなく、確実に定期的に実施します。	3. 個人活動中・見守りあり	—	保護者対応等するとき(園児から目を離すとき等)は、他の保育士にその旨声かけして、園児から注意をそらさない体制をとります。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園児は保育室内で走り回っている状況でした。	4. 対象児の動きを見ていなかった	園児に背を向けて作業をしていました。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児に背を向けてお迎えの保護者対応をしていました。	—	①配置人数の少ない、延長保育では、「体操」は行わないこととします。②保護者対応等するとき(園児から目を離すとき等)は、他の保育士にその旨声掛けして、園児から注意をそらさない体制をとります。	
8116	令和4年11月28日	2. 認可外	16. 企業主導型保育事業	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	42			14	9	13	6			8	4	18. 6歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脛骨下部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	ヒヤリハットの活用、スタッフ間の周知。	現在行っている、瞬時に送っているヒヤリハット報告(LINE)にてスタッフで共有。記録用に保存している。全スタッフが確認できる保育マニュアルへの追加(転倒時に考えられる怪我等)。定期的にマニュアルの見直し。	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	1	床は土よりも固い、子どもたちとも再度確認を行う。	地面の硬さや衝撃を子ども達と確かめ、子どもたちの自衛につなげる。園に合わせた点検リストを作成し、日々の点検状況の記録をとる。	1. 集団活動中・見守りあり	—	転倒時に起こりやすい怪我について理解を深める。遊び方によっては重大な事故につながることを常に頭に置き、子どもの動きにアンテナを張る。	1. いつもどおりの様子であった	特に気になる様子なし。特段、おんぶを頻回にしていることはない。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	廊下の見守りをしながら、トイレで更衣している他児も見ていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当職員の立ち位置は分かっていたが、転んだ瞬間は見ていなかった。(玄関対応)	担当場所を離れる際は、職員間で声を掛け合う。事故発生時は数名で確認する。本児はバランスを崩したとき、背中にいる子も落ちてしまうと考え、転ぶ時に踏ん張った可能性もある。	事故発生時の職員連携を図る。声掛けの習慣をつける。休憩等でスタッフ配置が手薄になる時は、遊ぶ場所を選択し、見守り体制が十分とれるような配置を判断する。園児の泣き方に注意を払う(普段との違いを見る)。スタッフの立ち位置を把握しておく。	
8117	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	361			22	##	##	##			30	28	16. 4歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	切創	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	6	1. 基準以上配置	自由時間・カリキュラム設定時それぞれに応じて職員を配置	怪我のあった場所で監視する職員を増やす。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	デッキの角が滑らかであれば、傷が浅く済んだと思われる。	ぶつけたと思われるところのデッキの角を削り滑らかにする。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし。	転んでもしっかりと手を付けるように、受け身を上手にとれる運動遊びを多く行う。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通り登園し、元気に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	怪我の瞬間は他に目を向けていた為、転んで泣いた声で気が付いた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	怪我をした場所の担当職員は1名だった為、見ていない。	特になし。	職員は配置していたが怪我の瞬間を見ていなかったので人数を増やし、あらゆる所に目を向け、徹底して監視する。	

概要					発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの		事故状況						事故発生の要因分析								
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生時期時間帯	発生場所	発生時の体制構成	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者数 うち保育士・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転機 死亡	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	ハード面 施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析・特記事項	改善策	掲載更新年月日
8118	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	8. 夕方（16時頃～夕食提供前）	2. 施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	13				6	5	2			3	2	15. 3歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢（足・指）	左大腿骨頭部骨折	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	3. 未実施	—	2. 基準配置	事故発生時の職員の認識が現場対応の判断基準となっていなかった。外遊びの保育者配置位置、及び対応についてのルールが曖昧であった。	1. 未実施	1. 定期的に実施	12	3. 未実施	—	1. 定期的に実施	12	3. 不定期	3	2. 不定期に実施	3. 未実施	—	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	3	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12	2. 不定期に実施	12

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8122	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	59				20	19	20			6	6	18.6歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指第２関節剥離骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	ドッチボールが大好きで、楽しく取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	審判をしながら見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の遊具で遊んでいる園児を見守りながら全体を見守っていた。	全体にルールやボールの受け方の話をしたが理解できていないようだった。	外遊びやドッチボールをする前に全体にきちんと話をしてけがをしない、安全に気をつけるようにする。	
8123	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				2	6	7			2	2	17.5歳	1.男児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	肘の剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	―	2.基準配置	―	マニュアルの見直し、周知徹底	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	―	設備面でのケガではない為改善策は必要なしと判断した	1.集団活動中・見守りあり	一斉保育ではなく自由保育の為、同じ場所で違う遊びが混在する状況であった。	異年齢で活動する際の指導計画作成	1.いつもどおりの様子であった	この日は午前中に遠足に行っており、もしかしたらいつもよりも疲れはあったかもしれないが、元気でいつも通りの様子だった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	5～6メートル離れたところで対象児ともう一人の児童を見ており、それぞれに注意を促したが、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広い遊戯室を見守るために、2人の職員がそれぞれ違う所を見守っていた。	―	子どもと遊びながらでも広い視野で子どもを見守る保育を心がける	
8124	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									3	3	16.4歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手中指の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	―	―	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	―	―	1.集団活動中・見守りあり	―	―	1.いつもどおりの様子であった	体操教室に参加し跳び箱に跳び乗る	2.対象児の至近で対象児を見ていた	専任講師の指導のもと、跳び箱の横で補助を行う	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	順番を待つ園児の見守りを行う	補助の仕方についての専任講師との打合わせが不十分であった	事前にその日に取り組む種目の注意点についての打ち合わせを十分に行う	
8125	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30				12	18				3	2	15.3歳	1.男児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	マニュアルの作成をしており、職員の指導は行っている。職員配置にも問題はない。	マニュアルを再度見直し、さらなる事故防止に努める。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	いつもと違った部屋で服を脱いで、多少通常とは異なる雰囲気にはなっていた。（下着のみ着用）	慣れている保育室で受けられるのであればそのようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	服を脱いで開放感があり、やや注意力に欠けてしまったため、転んだ時うまく手をつけなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスの子達は一旦並ばせ座っていた為、他のクラスの子が着替えている方が大変になりかけていて中間で目配せしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任よりも対象児の近くにはいたが、別の子どもの対応をしていた。	通常から動きが多い子どもではあるため気がけて見守る必要があった。	声掛けは行っていたが、更に気がけて見守る必要がある。	
8126	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				11	16	18			9	9	17.5歳	2.女児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	3	2.基準配置	―	事故予防に関する研修を不定期に実施していたため、今後はヒヤリハットを用いての事故防止検討会議を定期的に行う。学期ごとに園内の傷病発生状況を集計し、職員に報告した上で、事故防止意識を高める。	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	53	―	点検方法について教職員で確認し、必要に応じて見直しをした。また、事故防止マニュアルに沿って全職員で危機管理について再確認した。	1.集団活動中・見守りあり	天気が良く、気温も高かったため、日陰で遊んだり、水分補給をしたり、園児は思い思いの場所で過ごしていた。園児の居場所が分散していたため、職員も全体の把握をしようとしていたが、全ての遊具の傍に付いている状況ではなかった。	園児が使用する遊具には、必ず職員が付く。園庭で遊ぶ前に、職員同士で遊具使用について確認し、園児には職員が傍に付いている遊具のみで遊ぶことを知らせる。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り落ち着いて遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員4名のうち2名は遊具から離れた位置にいた。全体を把握しようと、園児のいる場所を行き来していたが、立っていた位置から園児が転倒するのを見かけたので、すぐに駆け付けた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その他の2名は園児の遊びに関わっていたため、泣き声で事故に気付いた。また、園庭にいた4名の職員とは別に、園庭を気にしながら廊下を移動していた職員も泣き声を聞いて駆け付けた。	ブランコや鉄棒などには必ず職員が付いていたが、つり橋は危険の認識が不足しており、必ずしもつり橋に付いていなかった。	どの遊具にも必ず職員が付く。職員会議を行い、どんな事故の可能性があるか、どのような付き方をするかなどを職員全員で共通理解し、安全面について危機管理意識を高める。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8131	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	5	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									25	22	17.5歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左側上顎乳切歯;歯根破折·外傷性亜脱臼右側上顎乳切歯·乳側切歯;外傷性亜脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	子どもの登園後の身支度への取り組み方への言葉かけ不足	巡視の徹底・園児への言葉かけの強化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	特になし	特になし	4.個人活動中・子どものみ	登園後の身支度中遊んでいる子どもに対しての言葉かけ不足	約束事の再確認をクラスや園全体でしっかりと伝える。	1.いつもどおりの様子であった	登園してから15分間友達と戯れて遊び楽しんでハイテンションになっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭・園児の迎え入れ・園バス・園内巡視等に分かれて保育に当たっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭・園児の迎え入れ・園バス・園内巡視等に分かれて保育に当たっていた。	巡視時危険に関して把握や言葉かけができなかった。	「水筒は座って飲む」「ウッドデッキは走らない」「ウッドデッキで水筒を飲まない」などを全園児での朝礼で園長から、また各クラスで担任から子ども達に促し、再発防止の徹底に務めた。	
8132	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	16.4歳	2.女児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	なし	なし	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動き等普段と変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が危険な遊びをしていなかった為、離れた場所から全体の園児の把握をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたため、見ていなかった。	なし	子どもの遊びに応じた配置場所について、職員間で声を掛け合い、連携を取り合い進めていく。	
8133	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25					13	12			3	3	16.4歳	2.女児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左頸椎骨遠位骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	1.定期的に実施	200	なし	なし	3.個人活動中・見守りあり	春季休業中で異年齢構成の保育であったため、通常保育とは異なっていた。	長期休業期間中や教育時間後の預かり保育では、保育の進め方や危機管理について再度共通理解を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌・表情・動き等普段と変わらない様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が危険な遊びをしていなかったため、離れた場所から園児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と関わっていたため、見ていなかった。	なし	なし	
8134	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	2									1	1	16.4歳	2.女児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	300	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	キャスター付きのサイドボードとその横に座っていた友だちの間をすり抜けようと通った。	キャスター付きのサイドボードやピアノの場所を保育室の出入口に移動し、子どもの通り道にならないように改善した。	1.いつもどおりの様子であった	特別教室終了後の降園準備をしている時であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	特別教室終了後の降園準備をしている園児2名を見守っていたところだった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに来られている保護者の対応をしている保育教諭と送迎に出ている保育教諭がいた。	特になし。	特になし	
8135	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25					10	15			2	2	17.5歳	1.男児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具の配置設定の不備。（滑り台から壁面までの距離）	ドアや壁面にぶつからない様な遊具配置。	1.集団活動中・見守りあり	遊具の配置設定の不備。（滑り台から壁面までの距離）見守る職員が同じ方向を見ていた。事故発生場所に背を向けていた。	ドアや壁面にぶつからない様な遊具配置。滑り台の周り（床面）にはマットを敷き転落・転倒防止を行っていたが、滑り台の配置が壁面との距離が不十分であった。	1.いつもどおりの様子であった	開放自由遊び中であったが数人の園児とごっこ遊び（家族ごっこ）をし、落ち着いて遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	開放自由遊び中ホール（2名）保育室（2名）広場・廊下（2名）見守り中であった。ホールでは全体を見ながら2名が見守り中であったが、2名とも事故発生場所に背を向ける形で全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながら園児と遊んでいたが、事故発生場所に背を向けていた。	特になし。	先の見通しを持って危機管理を行う。遊び方に危険がないか常に配慮し、少しでも危険要素がある場合は対応する。遊びを見守る職員の配置。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8136	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	7	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	53					22	31			3	3	17. 5歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	7	2. 基準配置	特になし	その子に応じて、ボールをもってトンネルをくぐる際は、注意をしたり、職員の配置に気をつける。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	295	2. 不定期に実施	295	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	その子に応じて、危険な遊びではないか確認する	アスレチックで遊ぶ場合は、十分気をつけるよう指導し、保育者も更に気をつけて見守る。	1. いつもどおりの様子であった	録画していたカメラで確認したが、いつも通りであった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊んでいる様子をみていたが、事故があった際、その後も特に痛みを訴えることがなかった為、特に声をかけていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	お遊戯室全体を3人で見守っていたが、死角の部分もあった。	特になし	アスレチックで遊ぶ場合は、十分気をつけるよう指導し、保育者も更に気をつけて見守る。	
8137	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	4	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	12									1	1	15. 3歳	2. 女児	—	8. その他	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	A｜A外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	全教職員の危機管理マニュアルの周知・徹底（研修によるアップデート）、保育者個々の経験年数による課題（保育のあり方や安全意識・環境設定等）を会議・園内研修等により共通認識し取り組んでいく	教職員に危機管理マニュアルの研修必要、事故予防する環境設定や保育の取り組みを検討。会議・打ち合わせを定期的に実施。危機管理マニュル・環境等の研修実施。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	点検状況・課題・問題の全職員の周知と検討、研修実施	定期的点検頻度の回数を毎月定めた日に行う・園長と点検集約リーダーの確認・検討→園長・用務員・バス運転手による月末安全点検実施、教員による直視点検実施	7. その他	外遊びから保育室に戻ってきた際の流動的な保育の流れでの安全確認と指導の徹底→事故発生後から保育環境に見直し（とくに机の配置）	保育中の怪我・事故防止の研修、園内研修を繰り返し、安全・安心の実施について周知・徹底を行う（事故を未然に防ぐ保育のあり方の検証）→研修実施、各クラス担任によるクラスでの園児との遊び方等の安全確認	1. いつもどおりの様子であった	外遊びから保育室に入ってきた際、指定されている自分の机に座らず、別の園児の机の間でぶら下がり遊ぶ。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育室で事故発生場所（保育室後ろ）から離れた保育室の黒板の正面入口近くでお帳面を確認していた。他の園児が対象児が泣いていることを伝えてきて気づく。事故発生の様子は見ていない。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生クラスは３人体制であったが、発生時の１３時は、担任：保育室（12名程）、フリー①：トイレ・着替え、フリー②：外遊びと役割分担で場所が分かれていた。事故発生後、職員室で他の職員が確認。	保育者が園児の動きに気づき、注意喚起・指導する必要な環境構成に気づく→事故発生後～人員配置・教職員同士の声かけなど園長が指導	その日の子どもの動きだけでなく、日頃の様子から危険回避できるよう、保護者にも日常を伝える方法を検討し、教職員で共通認識・理解・周知徹底していく。担任からのヒヤリハットを周知し対策していく。検討チーム構築→毎日園長・主任による人的配置・保育の方法の指示・職員の実行の確認	
8138	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	2	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	13				5	3	5			1	1	16. 4歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右第３趾基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 基準以上配置	預かり保育の担当は2名の配置だったが、事故発生時他の1名が別のクラスに行っていて1名しかいなかった。	預かり保育時の保育士の配置人数の改善。園児の導線にじゃまにならないように机、椅子を配置する。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	2	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	保育士の配置が１名であった。	預かり保育は必ず２人の保育士で担当し、保育士が園児の様子をくまなくみるよう注意する。	1. いつもどおりの様子であった	—	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	保育士は至近距離にはいたが、様子を見切れなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	保育士の配置の人数不足	園児の人数にかかわらず、預り保育の担当は２人配置にする。	
8139	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	6	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	17									3	3	17. 5歳	2. 女児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	下顎皮膚欠損層真皮	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	2	1. 基準以上配置	—	—	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	1. 定期的に実施	6	段差がある近くに置く玩具の確認不足	保育環境の見直し、段差、角のある玩具について子どもと一緒に確認する。	3. 個人活動中・見守りあり	マットとカプラの箱の配置に危険箇所があった。	環境を見直し、配置替え、子どもと一緒に危険箇所の確認をする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	機嫌がよく、いつもより活動的であった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	走ると危ないと、声掛けをしていたが、マットにつまずくことまで想定できなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児に声掛けをしていたため、みまもるしかなかった。	普段から機嫌がよくなり気持ちが高ぶると行動が激しくなるので、危険を具体的に伝えておけばよかった。	該当園児を含め全園児と危険個所について日頃から話さなければならない。	
8140	令和4年11月28日	1. 認可	2. 幼稚園型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	127				64	63				6	6	17. 5歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右ひじの骨にひび	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	1. 基準以上配置	当日事前の約束がされていなかった。	園児の約束事などは掲示されていたが、この事故をきっかけに事前の約束ができるよう心がけていく。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	雨で土が流れて、根っこ、石などがむき出しになっている個所が多い。	雨で土が流れてきていることから、もう一度土を入れる工事を行う。	3. 個人活動中・見守りあり	職員は配置されていたが、ドングリがたくさん落ちていた為、人数が2学年と多く、落ち着いた気持ちで過ごせていなかったかもしれない。	なるべく3か所の遊び場に分散できるよう、職員で周知。	1. いつもどおりの様子であった	どんぐり集めを楽しんでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもと一緒にどんぐり集めをしながら見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	池（ザリガニ）、ままごと、色水遊び、各場所（3か所）。時々広く汚れて着替えに付き添う職員もいた。	両手にドングリを持っていたため、転倒した際に手をつくことが出来なかった。	どんぐり、落ち葉等を採集する際には観察カップなどの道具を使用することを知らせていくことを職員間でも周知。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8141	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18				3	7	8			3	3	17.５歳	1.男児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	該当なし	廊下での危険な行為があった場合は、指導をする。病院の受診を勧める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	該当なし	施設・設備の不備ではないため。	1.集団活動中・見守りあり	降園時、保護者が迎えにきて興奮し急いでいた。	落ち着いて行動するように声掛けをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友だちと跳び箱を跳べる話をしていたところ、自分も跳べるところを見せたかったため、かえる跳びをし、着地で失敗した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	玄関で他児の対応をしていた死角での事故により、見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの担当の持ち場についていたため、見ていなかった。	該当なし	玄関先は、お迎えの混雑が起こると目が届きにくいこともあるので、必ず、プレールームの担当の先生が帰りの支度をしてくるようにする。	
8142	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5			1		2	2			3	2	16.４歳	2.女児	―	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	預かり保育は3名で対応しているが、子どもの見守り、保護者への引き渡しなど、係の分担が当日、十分ではなかったと思われる。	事故当時の職員配置の人数は確保できていた。子どもの突発的な思いもかけない行動を予想したり、即時対応したりできるよう、朝の職員打合せ等で常時確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	預かり保育室が工事の為２階ホールを使用していたが、ホールは通常体育遊びで使用する為、突発的に走ってしまったと思われる。	ホールでの過ごし方や室内と同じように歩いて移動することを話した。	1.集団活動中・見守りあり	本児はシューズを履いていなかった為滑って転倒した。	翌日からは必ずシューズを履いて過ごすよう声掛けし、徹底して行うようにした。	1.いつもどおりの様子であった	母親の迎えを喜び、駆け出した際バランスを崩して転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保護者対応で玄関にいたが、本児が転倒した為、すぐに駆け寄り外傷の有無を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	１名は居残り児童３名の見守り、１名はトイレ掃除をしていた。	毎日預かり保育の始まりに、室内での過ごし方を子ども達と確認し合っているが、走っている姿に気付くのが遅れた。	常時室内での過ごし方を子どもたちと確認し合うようにした。	
8143	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	37									2	2	17.５歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	園児の遊びや行動をよく観察して見守ること。	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	転園してきて２度目の外あそびで、当園の遊具に慣れていなかった。	遊具の遊び方やルールを伝え、慣れるまでよく観察し見守ること。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	大型遊具に興味を示し遊んでいたが、自分の気持ちと運動面とのバランスがうまくとれなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が落下した周囲で園児を見ていたが、落下する瞬間に受け止めることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児以外の園児の誘導。降園準備。	特になし	子どもたちが遊んでいる場合、注意を必要とする遊具に手の届く位置で見守ること。子どもたちにたいし，注意を繰り返し促していくこと。	
8144	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30			3	10	3	14			3	2	17.５歳	2.女児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折、左尺骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	―	1.基準以上配置	―	事故予防に関する研修も定期的に行うこととする。	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	190	―	今回の事故に直接起因するわけではないが、芝が濡れていて滑りやすい、地面が凹んでいてつまずきやすいなど転倒につながる要素がある場合は園庭の使用を慎重に検討する。	1.集団活動中・見守りあり	―	ボールに乗ると転ぶ→転ぶと怪我をするという想像が出来るよう、危険予知能力を普段の生活から周知させておく。	1.いつもどおりの様子であった	他の園児数名とボール遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	砂場で遊んでいる園児を監督しながら、同時に園庭（中央付近）でボール遊びをしている園児たちを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコなど他の遊具で遊ぶ園児たちを中心に監督していた。	―	園庭で遊ぶ際、異常や危険にいち早く対応できるよう職員一人が必ず至近にいる状態になるよう遊ぶ種類、コーナーを限定して保育する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8145	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9				3	3	3			3	1	17．5歳	1.男児	―	8.その他	1.負傷		3.火傷	5.下肢(足・足指)	Ⅱ度化学熱傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	自由時間・カリキュラム設定時・預かり時それぞれに応じて職員を配置	園で扱う薬品について、事故があった場合も含め、安全対策について緊急職員会議を７月●日に行い研修及び園内の安全確認を全職員で行った。今後も定期的に研修を行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	薬品の瓶を園児が届かない場所に置いていたが、手が届かない場所であっても、何かのきっかけで、落としてしまう可能性もあったと考えられる。	今後はクレゾール石けん液は園では使用しない。その他の洗剤や消毒液に関しては、園児では絶対に手の届かない鍵のかかる扉のある倉庫に保管することを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	事故は決してあってはならないが、万が一起こってしまった場合の対応に関しては、不十分だった。	1時間以上せっけん水・流水で洗い、当日すぐに救急で診てもらっていれば、軽症で済んだ可能性もあったので、預かりの先生を含め職員全員で研修をしっかりと行い、最善の処置を行うよう徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り登園し、元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	怪我の瞬間は離れたところにいた為、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児やお迎えの保護者の対応をしていた。	薬品に関する研修が不十分だったと考えられる。	全職員が薬品に関する研修をしっかりと行い、適切な処置を速やかに行うようにする。	
8146	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87			13	24	27	23			7	5	16．4歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	職員の配置位置と人数	8:30勤務開始の職員を1名増にする。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	滑り台の滑り降りた地点のみ、衝撃防止対策となるようなマットを敷いていた。	遊具周辺に全体的に衝撃防止マットを敷くなど対策をする。	1.集団活動中・見守りあり	滑り台の正しい滑り方や遊び方を理解するようその都度伝えることができなかった。	各クラスや全体集会等、保育活動の中で安全についての話を取り入れるなど行い、危ないと感じた時には、すぐに声掛けするなど対応をとる。	1.いつもどおりの様子であった	仲の良い友達が登園し、好きな滑り台付近で元気よく友達と走り回って遊んだ。好きな滑り台で友達と何度も滑って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	次々と登園する園児の中には、ぐずって登園する子もおり、その子の対応をしたり隣の遊具で遊んでいる園児への声掛けを行う中で、滑り台が背後に位置し死角になってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の遊具で遊んでいる他の園児への声かけを行っていた。	登園児の対応をしながらの見守りで、園庭全体に目が届かなかった。	持ち場以外の園庭全体を意識することを心掛け、死角になる場所や状況を再確認する。	
8147	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	170				52	64	54			17	17	16．4歳	1.男児	小柄で骨が軟らかい。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	6	1.定期的に実施	236	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	園児が遠足先で同時間帯に遊ぶことを想定した安全対策が不十分であった。	遠足時の園児の行動予測を広げるとともに、園児に対しても注意の促しを行う。	1.いつもどおりの様子であった	遠足時の昼食後の遊びの時間帯で特段の変化なし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を複数の職員が目視確認並びに一緒に遊びながら対応していた。担任は園児と一緒に遊ぶ。補助職員は全体を見る体制であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大勢の園児に対応しなければならず、至近距離で対応することは困難であった。	遠足先で同時間帯に一斉に遊びを行うことで、遊びのエリアが広範囲になった。	職員には本件事故を教訓に、想定範囲を広げて見守るように努めるとともにあそびの時間、場所等が適切であるのかを職員間で話し合い再発防止に努める。	
8148	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	84				17	33	34			4	4	17．5歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	2.不定期に実施	300	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	保護者の対応と戸外遊びの見守りの両方をしていた	4：00に降園する園児を集め　預かり保育担当と別に担当者を設ける	1.いつもどおりの様子であった	いつも元気に遊ぶ園児であるがこの日は気持ちが高ぶっていたようであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れたところで見守り	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れたところで別の園児を見守っていた	立ち漕ぎをしていたのに声掛けができていなかった	危険な遊びに気づいたらすぐに声をかける	

No	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8149	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	29			8	11	10			6		6	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・突衝によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	遊ぶ様子は見守っていた。遊びが、方の指導不足であった。	遊び方に危険がないか配慮し、危険要素がある場合は即座に対応する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	遊具周りの環境設定の不備。(着地場所にマットを設置していなかった)	着地場所にマットを設置。	1.集団活動中・見守り	遊具周りの環境設定の不備。(着地場所にマットを設置していなかった)遊び方の指導不足。	着地場所にマットを設置。危険要素がある遊び方に即座に対応。	1.いつもどおり様子であった	自由遊び時間の際、気持ちが昂る姿も日々見られる。冬休み預かり保育で少人数での自由遊びであったが、気持ちが昂る様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつ後のホールでの自由遊びを2名で見守り中であった。1名が全体を見守る、1名が事故発生場所近くで子どもを見ていたが事故が発生した瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生場所のホール以外の場所にいた。	特になし。	先の見通しを持って危機管理を行う。危険要素がある遊び方に即座に対応。	
8150	令和4年11月28日	1.認可	2.幼稚園型認定こども園	4	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	14								1		1	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨骨折顆上骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	3	2.基準配置	起こる事故に怪我がをしてのりができていなかった	弊項目を定し守る事や見守り工夫をお願いしたい。各遊具にマニュアルを再度作成しなお す。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	227	1.定期的に実施	227	遊具の下に衝撃を和らげるものがなかった	関係下げゴムチェックを予算の後、今年度、遊具(雲梯)の計画にチェックを敷いていく。	1.集団活動中・見守り	職員の見守りの人数不足	年度初めの人数、職員の人数を増やす対応ができればよかった	1.いつもどおり様子であった	進級前より雲梯は行ってきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見るお職員が雲梯をしていることはなかったが落ちた瞬間をみることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名で担当して、他がいなかった。	長年である級で年度は初めて、児童の遊び方に対する遊び方に対する遊び方に対する

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8153	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	8									2	1	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	—	—	—	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	鬼に捕まりたくないため、慌てて逃げてバランスを崩して右肘から転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は一緒に遊びに入りながら他の園児の動きを見守りながら対象児も見ていたが、対象児が転んだ瞬間に手を差し伸べる等の対応は間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は、支援が必要な子についていたため、転倒時の様子は見ていなかった。	転倒時に手をつくことができなかった。	転んだときには手を地面につくように活動内容を工夫し指導をする。	
8154	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	54									4	4	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	研修等、年度初めに行う。園内のどの場所で事故が起きやすいか、予想されるか(すべり台、三角タワー、地球ジャングルなど)の確認が足りなかった。	この場所ではどんなことが予想されるのか、どんな配慮が必要なのか、子どもに伝える遊び方のルールを改めて全職員で確認。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	雨あがりはぬれて滑りやすいこと、木の下にはマンホールがあり固いため、落ちた際の危険性が高くなること、後ろから登って来た人の振動が伝わりやすいため揺れやすくなること。	雨あがりは十分注意して見ること、場合によっては止めること。マンホールの上には落ち葉を積み上げること。先に登っている人のことも考え、「わざと揺らすのは無し、ゆっくり進むことを子どもたちに再度伝えた。	3.個人活動中・見守りあり	子どもたちも遊びに夢中なので、どれくらい高いところが危険か、どんなルールであったか、意識が薄れてしまっている可能性もあった。	今一度、子どもたちに「木を登る際は必ず大人を呼び見てもらうこと」「登る際、降りる際は焦らずゆっくり動くこと」「木の上で押したりけんかしないこと」のルールを確認した。	1.いつもどおりの様子であった	木に登り、途中まで登ると少し高さのあるところから飛び降りる遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	側でぬかるんだ地面の手入れをしながら声をかけて児童を見ていた。対象児が落下する瞬間に間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	屋外の弁当の片付けの声かけや他児のトラブルに対応していたため、見られなかった。	今回は合同であったため子どもの人数も多く注意して見る範囲が広がった。より、職員同士の連携が必要となる場面であった。	保育中、職員同士誰がどこについているか認識できるよう「木登りしている人たちのところにつきます！」「私は～の場所を見ます」「よろしくお願いいします」のやりとりを口頭で必ず行う。これはどの活動においても重要なことなので、今一度他の職員にも共有再確認した。	
8155	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									2	1	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	担任が、園児が怪我をしていることに気付かなかった。	今までの経験や、園医からの指導記録を研修資料としているが、年1回の研修に今回の事例も取り上げて、最悪の事態に備えて複数の目で確認する必要があることを伝えた。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	傾斜地に石畳が配置されているため、スピードが調節しにくい。	石畳の角が鋭角であるため、土で角を保護する。	3.個人活動中・見守りあり	石畳などの段差を乗り越えたり、飛び越える経験が少ない。	足・腰をたくさん使う遊びを活動へ入れていく。子どもが慌てずに付いて来れるようゆっくり見守る。	1.いつもどおりの様子であった	本児は園舎裏の石畳付近で枝拾いをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くで枝拾いをしていた。また、本児が転倒しているところを見た。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	3～4メートル離れたところで枝拾いをしていた。	当該事故について保育後保護者の方へ連絡しなかった。また保育後、電話にての病状の確認の連絡を怠ってしまった。	痛みが治まっている状態であっても、その場ですぐに連絡をすること。担任・補助だけの目で確認するだけでなく、何人かの大人の目で負傷した部分を見る。	
8156	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	118			16	27	33	42			6	6	18.6歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	丸太の遊具の近くに職員の配置が無かった	職員の配置を拡大する	2.不定期に実施	3	2.不定期に実施	3	1.定期的に実施	12	遊具は園庭に総合遊具が一つ・雲梯・砂場・固定された動物の遊具。家型の固定された遊具二つ・クライミング・丸太の集合体の遊具が園庭周りに設置されている。	複数人数で遊んでいる際は、人数の制限をする	1.集団活動中・見守りあり	ほぼ全員の子供たちが遊んでいたために個別の対応ができなかった	全体の確認が不足していたのでエリアの確認を怠らない	1.いつもどおりの様子であった	同年齢の友達と丸太に遊んでいたが複数で一か所に乗ったために、はずみで落下する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	丸太遊具で遊んでいたことは確認していたが、落ちた瞬間に間に合わず援助ができなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	泣いている園児に気付き、泥を払ったり、顔を拭いたりする	当該遊具の高さがあまりないため、ほかの遊具に比べて危険度の認識が足りなかった。	遊具の利用時には職員を配置する	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制										事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
							発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳											発生時状況	事故の転帰						事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面							
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所		人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者のうち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項		死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名		マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8157	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	17.5歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨幹部骨折の再発	2.自らの転倒・突よるの衝	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	同じ保育室内にいたんだが、転倒瞬間を見なかった。	常に保育を見渡し、危機管理に努めながら保育を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	特になし。	今後も危険のないようあそぶ前に、安全点検を確実に行うようにする。	3.個人活動中・守り	教育名、児童の保育室に1つの教室を利用して保育園し園児が自由に行き来することを解放たより、職員の目がとどきなくなる環境を作ってしまったことが、職員の1つの要因のと考えられる。	1.いつもりお様子であった	昼食後、仲のいい友達と一緒に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	教師は同室で保育していた。転んだ瞬間は確認できず、泣きで気が付く。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	隣の保育室に1名配置し、他の幼児の見守っていた。	保育名、児童の遊び状態に応じた保育の工夫や、子どもの遊びに声をかけるなど、子どもの

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	概要・施設・事業所種別	事故発生時期・月	事故発生時期・時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	負傷・受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8161	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	4	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									3	3	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左こめかみ部の裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	ケガを予測した子どもへの声掛け（注意喚起）の不足	令和３年度中にケガ・事故防止マニュアルの見直し及び作成し、室内外における遊びの種類や内容について話し合い、指導についても予め子どもに注意を促す等の声がけの必要性や保育者の配慮について共有していく。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	240	丸太の上部が固く、完全に角が無い状態ではないことから、今回の様なケガに繋がると考えられる。	園児のぶつかった丸太の支柱について、業者による春の点検では危険な状態とは判断されなかったが、丸太の上部にゴム製のカバーをかぶせてケガ防止の対策を図る。	1.集団活動中・見守りあり	様々な遊びが入り混じり十分なスペースが無かった、他の遊びをする子どもが障害となっていたか等話し合ったが、１クラスのみであったことやその場に見ていた保育者がいたことから状況確認ができ、要因となる状況は考えにくいという結論に至る。	保育者が子どもの行動やケガを想定した状況を考慮し、関わりや遊びを展開する上での見守りの仕方が課題であり、様々な子どもの姿から共有し注意していきたい。	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこを友だちと行い、追いかけられる側となり園庭中を走り回る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	１名は鬼ごっこを共に行う。１名は遊具で遊ぶ子の見守り。１名は砂場で園児と共に遊ぶ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で遊んでいたのはケガをした園児の学年のみであったため、他の職員は室内（クラス）において園児と遊びの時間である。	ケガを予測した子どもへの声掛け（注意喚起）の不足	今回のケガを受け、外環境における遊びの種類や内容について話し合い、指導についても予め子どもに注意を促す等の声がけの必要性や保育者の配慮について共有した。	
8162	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	10									2	1	16.4歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足向う脛骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	5	2.基準配置	子ども同士関わる時は、状況を見て安全への支援を行う。	保育者、子どもともに安全への意識付けとその都度安全確認を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守りあり	予想していない状況での事故であった。	人数的に限界はあるが、様々な想定をして、連携して見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は一人で気に入ったことをして遊んでいることが多い。この時は、他児と関わろうと自らだっこしてバランスを崩し転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室にいて、園児の様子は把握していたが、他の活動をしていて、転倒があっという間だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児の活動を支援しており、状況は見ていなかった。	想定していない事故であったが、今後に活かしていく。	可能な限り保育者が見守る。	
8163	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	1	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	—	1.基準以上配置	—	『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』を本務教諭全員が読み直した。	2.不定期に実施	46	1.定期的に実施	4	2.不定期に実施	4	—	総合遊具のはしご部分に、滑り止めになるような加工を検討する。	3.個人活動中・見守りあり	普段であれば、当該遊具から足を踏み外すことはなかったかもしれないが、移動の声かけを聞いて、急ぐあまり足元を確認せずに転落したと考えられる。	自由遊びの際の移動や集合などの声かけは園児の状況を把握してから行う。遊具の高い所に園児がいる場合は「集まる」などの声かけの前に「ゆっくり降りる」などの声かけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	普段から、総合遊具で遊ぶことが多く、高いところを好み、垂直はしごの上り下りも危なげなく一人でできていた。当日は、数人で氷鬼をしていて、垂直はしご部分に一人で登っていた。担任が次の活動を知らせたため、いつもより焦ってはしごを降りようとしたかもしれない。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児の近く（１m以内）におり、視野には入っていたが、総合遊具の別の場所で遊んでいる他児に注視していた。次の活動のために、対象児と反対の方をむき、別の場所に移動するよう全体に知らせた。すぐ対象児側に振り向いたが、すでに垂直はしごから落ちていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が園庭から離れたため、一緒に園舎内（ホール）で過ごしていた。	通常であれば、２４名の園児に対して担任１名、補助２名の体制だが、事故当日は12時で補助１名が早退していたため、担任１名、補助１名だった。	職員が通常より１名少なかったため、範囲を限定して遊んでいた。今後は、職員配置に応じて、範囲と遊び方を限定する。次の活動を知らせる前に、園児の状況を確認し、高いところに登っている場合は、降りてから次の指示を出すようにする。	
8164	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									2	1	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折、右橈骨頭脱臼、右モンテジア骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	—	1.集団活動中・見守りあり	雨が続いた中での晴れ間は全体的に気持ちが高ぶり集中力が低下する。	教師が危険性を再確認し、気持ちを落ち着かせてから外へ遊びに出る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り友達と元気に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児と離れたところで、他児と接していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児と離れたところで、他児と接していた。			
8165	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	25					13	12			4	2	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	200	—	—	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	喜んで集団遊びに参加していた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団遊びのBGMを担当しながら全体を把握していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団遊びの様子を近くで見ていた	友達と手をつないでいたため、転んだ瞬間に手が出なかった。	手をつないで行う集団遊びの場合には、転倒への注意を伝え、十分に配慮して行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8166	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	89				34	29	26			7	7	15. 3歳	1. 男児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	2. なし	3. 未実施	—	1. 基準以上配置	複合遊具の下で職員の配置が一人で、後ろの登り棒のところに目が行き届かなかった。	事故防止マニュアルを策定し、それに沿った保育実施を職員に徹底させる。	1. 定期的に実施	200	1. 定期的に実施	200	1. 定期的に実施	200	遊具の高さ、様式等が20年前の基準でつくられており、近年の遊具より、危険度が高い。	撤去（12月中旬に実施）。3歳児が安全に遊べる高さの複合遊具を令和3年4月に設置。その他玩具は職員により毎日破損・不具合がないか点検を実施。	1. 集団活動中・見守りあり	満三歳からの入園が増える中、園の遊具は年少以上向けにつくられているので、小さい月齢の対応には無理があった。	満三歳、年少の遊べる部分を決め職員を2人かならず配置して遊ばせる。	1. いつもどおりの様子であった	昼食後年長児達と複合遊具へ走っていって、遊具から手が離れて落ちる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	落下の瞬間は見ていなかったが、離れたところから全体を見渡していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児落下後に気づいた。	外遊びの時、外遊びを見守る当番の幼稚園教諭（保育士）の見守りが十分ではなかった。	高さ（1.5～2.5メートル程）のある遊具（総合遊具、登り棒、ジャングルジム等）には、職員を必ず1名配置させる。	
8167	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	7	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	16									2	2	17. 5歳	2. 女児	—	5. 食事中(おやつ含む)	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	末節骨骨折・左中指不全切断	5. 他児から危害を加えられたもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	—	意識を改革し、危険がないか見守りを強化する。再発防止に備え、事故発生に備えた体制を改めて確認し、確立させた。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	机の取扱説明書を熟読しておらず、子どもに机の片づけをさせたこと。	今後、折り畳みの机は一切使用せず、固定式の机を使用する。	1. 集団活動中・見守りあり	一人で見れる人数と思い、保育室には保育者が一人しかいなかった。子どもが片づけられるという職員の認識の甘さが事故につながった。	子どもが片づけているときには他のことをせずに危険がないか注意を払い、援助を行っていく。	1. いつもどおりの様子であった	—	4. 対象児の動きを見ていなかった	横にあった机を拭いている最中に事故が発生し、近くにはいたものの本児が机に指を挟む瞬間を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋を分けて食事をしていたため、各部屋の片づけを見守っていたり、支援の子どもについていたため事故が発生した部屋には一人しかいなかった。	子どもたちが普段通りに机を片付けており、全職員に危険なものを扱っているという認識が薄れていた。	子どもたちが扱っている物に常に留意し、危険がないか注意を払い、責任をもって援助する。	
8168	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	3	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36				10	9	17			4	4	17. 5歳	2. 女児	—	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右すね骨幹部骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	今までも行っていたが、確認する頻度を増やしていく	遊具一つひとつの約束事を全職員で再確認する	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	2. 不定期に実施	12	高さがある所だけではなく着地する地点での確認を行う	グライダーの着地地点に厚めのマットを置く	1. 集団活動中・見守りあり	各クラス月１回遊具の使い方の確認をおこなう	滑り方、降り方について園児と再度確認をする	1. いつもどおりの様子であった	はじめてのことに対しては慎重である。外の遊びでは、友達と走ったり砂場でのごっこ遊びや鉄棒を行うことが多い。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	園児達は砂場・遊具・鬼ごっこで遊んでいた。担当職員は全体を見ながらサッカーを行っていた。該当児がグライダーから降りてくるのは視界に入っていた。グライダーの滑りだしの位置から担任が降りる様子は見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記職員以外の2名については、１名は砂場での遊びを展開、他1名は該当児の場所とは反対方向を向き遊びを展開していた。	至近に職員はいたが、着地地点に職員がいなかった	グライダーを降りてくる場所に職員を配置する	
8169	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	6	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	306				98	##	##			28	22	16. 4歳	1. 男児	—	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	2. なし	2. 不定期に実施	2	2. 基準配置	—	担任が交代で欠席確認などを行い、職員が不在になる場面や時間を無くす体制を作りを行なった	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	159	—	—	2. 集団活動中・子ども達のみ	—	—	1. いつもどおりの様子であった	通常通り元気に登園し、朝の自由遊びを楽しく過ごしていた。その後保育開始後も、いつも通り絵本を読みながら静かに待ち、絵本の出し入れも歩いて行えていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子ども達に絵本で待つように指示をだし、待ち方や安全面への注意点を確認してから保育室を離れた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	順次各部屋を回って安全確認を行なっていた	—	欠席連絡の確認など交代で行ない、見回りの職員と入れ替わるなど職員が不在の時間を作らないような体制を強化する。また、声を掛け合いながら全体で取り組み日々実践の中で改善・見直しを行ないながらこまめに検証していく。	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	概要・施設・事業所種別	事故発生時期・月	事故発生時期・時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8170	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	1	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	10	2.基準配置	日ごろ、ちょっとしたヒヤリハットの事項を安易に考え、見過ごしてしまうことがある。	小さな事故、ヒヤリハットの事項も見過ごさず、職員で共通理解を図り、日ごろ起こりうる事故を未然に防ぐ。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	施設、遊具、おもちゃの点検を的確に行う必要がある。	点検の機会を増やし、活動前にも使用する物のチェックをする。	1.集団活動中・見守りあり	活動内容を把握し、もし事故が起こった時スムーズに対応できるかどうかを考慮した人員配置であったか？	その日の活動内容を、事前に把握、吟味し適切な人員配置を行う。	1.いつもどおりの様子であった	本児は跳び箱に自信があり、家庭（体操教室）・園で何度か経験したことがある内容だった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	担当職員（外部体操講師）が対象児とマンツーマンで跳び箱運動を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	二人体制での運動の時間。二つのコーナーに分かれて活動していたため、担当職員（外部体操講師）以外対象児を見ていなかった。	通常はもう一人補助教諭が保育サポートにあたっているが、当日はサポートにあたっていなかった。	状況により活動時の人員を考慮し、見守りの目を増やす。	
8171	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57									2	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	外遊び後入室時、子どもの移動とお漏らしの対応等で事故現場が手薄になってしまった。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	120	当該園児が太鼓橋遊具の上で、鉄棒のように前回りをして手を離してしまい、転落した。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	1.集団活動中・見守りあり	外遊び後入室時、子どもの移動とお漏らしの対応等で事故現場が手薄になってしまった。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	複数人のお友だちと一緒に太鼓橋で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	様々な遊具がある場所なので、見通しの良いところから職員が見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員が見ていたが至近距離にはいなかった。	太鼓橋遊具の上で、鉄棒のように前回りをしていたこと。	子どもたちにも正しい遊具の使用方法を教えると共に職員にも改めて周知する。	
8172	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									1	1	17.5歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	24	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	7.その他	遊戯室には職員がいない状態であったため、クラスの幼児の様子を他の職員と連携し確認するべきだった。	活動と活動の合間の時間帯は、職員間で連携し、一人一人の幼児の様子を把握するよう努める。	1.いつもどおりの様子であった	登園時から落ち着いて過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	弁当準備のため、保育室で他の幼児とかかわっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスで保育をしていた。	本児の様子を気にした職員がいたが、思い込みにより担任に報告せず、担任との連携が十分とはいえなかった。	思い込みをなくし、少しでも知っていることや気になったことは、すぐ担任と情報を共有するようにする。	
8173	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53				16	19	18			7	6	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	6	1.基準以上配置	特になし	遊具の遊び方の見直しと、園児への指導を行う。	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	5	1.定期的に実施	5	近年の幼児全般の体力低下にもかかわらず、遊具が古いため幼児個人の危険回避が難しかった可能性がある。	8/● 遊具業者Bにより安全確保のための改修等の提案を受ける 9/● 遊具業者A（事故遊具設置業者）より遊び方指導を受ける 9/▲ 理事会にて安全確保策のため安全チップの埋入、遊具の改良のため支出を決定し業者に工事を依頼した	1.集団活動中・見守りあり	対象園児を見ている職員が一名だけだった。	定期的な職員研修で改めて事故回避の指導を行う。特に園庭遊びでは園庭中央で遊ぶ園児を、複数の職員が園庭側面から見ている体制を基本を徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	元気に積極的に遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭にて他の園児に対応しながら、対象児の動きに注意を払っていた。遊具の最上段に登っていたことから、危険回避の指導をするために園児に近づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にて他の園児に対応していた。	保育者は対象児に近づいたものの、対象児が背を向けていたため表情が見えず、緊急性を把握できなかった。	遊具の使用法について見直す他、異常時に園児からも容易に声出しが出来るよう指導する。	
8174	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									2	2	16.4歳	2.女児	—	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上B外傷性歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	—	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	40	床に支度をしている子たちが座っていたり、身支度したものが各所に置いてあることが要因として考えられる。	片付けの際に、支度をする場所を定位置として決める。	1.集団活動中・見守りあり	手助けしている際、個々にかかわっているため、全体を見渡せていない時もある。	一人が個に関わる際は、もう一人の職員は全体を見渡す。	1.いつもどおりの様子であった	特に帰り支度の際も、ぶつけたり痛みを訴えてきたりする様子は見られなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時、全員が帰り支度をしているため、他に助けを必要としていた支援を要する園児についていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援の必要な園児が多数いるため、それぞれに対応していた。	担任に言いづらい状況にあったことも予想される。	困ったことや痛かったことなどは、すぐその場で伝えることや、職員が帰りの際に、個々とやりとりして怪我などの状況を確認して帰ること。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員
8175	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	26									5	3
8176	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	136									10	10
8177	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20					8	12			4	2
8178	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									3	2
8179	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	23									1	1

No	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
8175	15.3歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	—
8176	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	移動の際バランスを崩して転倒してしまった。	周りをよく見て気を付けて歩くよう指導する。
8177	16.4歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし
8178	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	対象児の特性と危険箇所について、職員間の共通理解が十分でなかった。	対象児の特性と危険箇所について共通理解を図った。
8179	18.6歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	—

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8175	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	巧技台の周囲にマットを敷いていなかった。	落下の可能性があることを考え、周囲にマットを敷き、安全面に配慮する。	1.集団活動中・見守りあり	—	—	1.いつもどおりの様子であった	他児と共に楽しんで活動に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	巧技台の場所で安全に登れるよう見届けたり、順番を待つよう指導していた。対象児の体勢が崩れて落下した時、他職員と場を交代しようとしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	巧技台の担当職員と交代しようとしていた。	職員が交代する時に、対象児や、次にのぼる子を制止しなかった。	職員が交代する時には、職員が交代するまで子供に待つよう指示・指導する。	
8176	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	引き続き安全点検を行い、危険がないように確認をする。	1.集団活動中・見守りあり	—	園児の行動を観察し危険予知に充分に配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	歩行中バランスを崩した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた場所で他の園児の世話をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の水筒の片付けを手伝っていた為見ていなかった。	練習を再開するために慌ただしい雰囲気になっていた。	園児に対して必要以上に急がせる言葉がけや雰囲気をつくらない。	
8177	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	45	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ぶつかることを想定した上での見守りやアクシデントが発生することへの意識不足	ぶつかることを想定した上での見守り強化。幼児自身が危険を察知できる力を育てていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に登園し意欲的に活動に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	お祭りごっこの活動を楽しんでいるので、至近で本児の姿を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員も同スペースで本児の動きを観察しており、ぶつかりそうになったことに気づき、声をかけた。	園庭を走っていてぶつかりそうになり、互いに安全回避はしたものの、後方を走っていた幼児がいてぶつかってしまうという、アクシデントが発生した。	本児への見守り関わりを強化する。職員間で、今一度安全強化について、共通理解を図る。	
8178	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	240	段差がある。滑りやすい。	走ったまま、昇降口に走り込まないように見届けと呼びかけをする。	3.個人活動中・見守りあり	次の活動が控えており、急いで室内に戻る必要があった。	ゆとりのある日課の設定を考えると共に、対象児の特性を考慮し、片付けの予告を効果的にする。	1.いつもどおりの様子であった	気持ちの切り替えがうまくできず、戸外遊びを終えることを渋っていた。支援者の「よういどん」の言葉に反応し、走ってそのまま昇降口に走り込もうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	別の園児に関わりながら、室内に戻ろうとしている対象児の様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	気持ちを切り替え、友達と一緒に戻れるように「よういどん」と声を掛けて、後ろから見守りながら、昇降口に向かっていた。	昇降口前は段差があり、砂利も他に比べて多く、滑りやすいが、昇降口手前で止まるよう見届けられる位置に職員がいなかった。	子供が戸外遊びを終えて室内に入る時は、昇降口手前に職員を配置し、昇降口に走り込まず、一旦、止まるよう見届ける。	
8179	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	2.不定期に実施	24	—	—	3.個人活動中・見守りあり	水筒の入れ物を多人数で使用するようになっていたため、人数が集中した。	人数が分散するよう、入れ物を複数用意し、間を空けておくなど人数が分散するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の練習が終わり水筒の置き場所まで走っていき、友達と接触した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	年長児全員に指示をして子どもの後ろから追う形で見守った。対象児が転んだので、すぐに駆け寄り、怪我の様子を確認した。年長児全員に指示をするのではなく、グループや少人数で動くように配慮が必要であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ年長組は先に入室しており、ちょうど担任教諭が一人のときに怪我をした。近くにいる職員に報告や相談をしなかった。	—	—	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8180	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	20				6	11	4			6	2	17.5歳	2.女児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	—	金曜日の午後であり、幼児の集中力や注意力の散漫なども考えられることから、普段以上に保育者の見守りの位置や幼児の様子の把握に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	幼児が遊ぶ環境において、滑りやすい場所や危険な箇所、物などがないか再度確認すること。	3.個人活動中・見守りあり	金曜日の午後であり、一週間の疲れなどが転倒の要因にも考えられる。	幼児の体調など考慮し、遊び方の工夫をする必要があった。（個々のペースで取り組める砂遊びやごっこ遊びなど）または、早めに室内に戻りゆったりと過ごしながら迎えを待つ等配慮を考えていく。	1.いつもどおりの様子であった	長時間保育児の友達とおにごっこをして遊んでいた。転んだ際に手をつき、骨折したと思われる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体の見通しの良いところを幼児の動きに合わせて移動しながら見守りをしていた。本児がすぐに立ち上がり、痛みを訴えることもないまま遊びを続行していたため気付かなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	3歳児と一緒に過ごし、砂遊びの見守りやほかに離れた場所で遊具を使って遊ぶ幼児の見守りをしていた。	—	幼児の見守りをする人数や位置、担当引継ぎ事項を再確認し、幼児の様子に変化があった場合はその状況把握や経過観察に努める。	
8181	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	7	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	273				89	96	88			15	15	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭頂部裂傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	3	1.基準以上配置	特になし	今まで以上に児童の入れそうな場所を想定する等隅ずみにまで意識を持つことをマニュアルや研修等に補足していく。	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	12	遊具に関しては数年前に業者による補修およびリペイントを施工済みであったが経年による劣化で裏側にささくれが数箇所確認された。	ささくれを補修後、児童が低い姿勢で入り込まない高さまで滑り台部分　の下をパネルで塞ぐ。その角の部分には緩衝材を設置した。	1.集団活動中・見守りあり	集団あそび中には児童たちも夢中になり他児を含め周囲が見えなくなることがある。	鬼ごっこ等の集団あそびにおいては、その範囲を限定するなどその日の園全体の活動状況によって変えていく必要性がある。	1.いつもどおりの様子であった	活発な児童でありいつも通り。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任はいつでも声掛けを行いながら児童たちと一緒にあそぶが、この日は保育室内の児童に対応していて、他の職員の一報で駆けつける。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭において他児に対応していたため。	集団で一斉にあそぶ際には実際にはひとりひとりを追って見ていることは不可能に近い。	集団遊び等ではできるだけ直前に児童たちに安全面及び危険回避について伝え、他の職員もその話を聞き周知し、遊び中にも声を掛ける。	
8182	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61				15	21	25			7	3	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折右橈骨遠位端骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり元気な様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応をしていたため、見ていなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児がけがをする直前までの動き（走り出すところ）を見ていた。転倒する瞬間は見ていなかった	特になし	特になし	
8183	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	28									1	1	16.4歳	1.男児	—	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	240	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	引き続き安全確認を行う。	3.個人活動中・見守りあり	机の間隔が狭くなっていた。	これまで以上に全体を見渡せるよう職員の配置を改善し、こまめに机の整頓をする。	1.いつもどおりの様子であった	他児に注意が向いた状態で歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	シール帳の確認をしていて少し目を離してしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	こまめに子供たちの様子を見ていたが、少し目を離していた時もあった。	周りを見ながら歩くよう声をかけなかった。	机の金具の危険性を伝え、狭い場所はなるべく通らないよう指示する。	
8184	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				28	13				5	5	16.4歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	無し	無し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	無し	無し	3.個人活動中・見守りあり	テラスで走り出した際、花壇脇に置いてある鉢植えにつまずき転倒し、左腕を打った。	コンクリート地のテラスで転ぶと怪我をする可能性が高い為、走らないよう声を掛けていく。	1.いつもどおりの様子であった	転んだ時点ではいつもどおりの様子であったが、30分後に泣いて痛みを訴えた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	テラスで全体の様子を見ていた。本児が鉢植えにつまずき転んだため、痛みがないか確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊ぶ様子を見守っていたため、対象児は見ていなかった。	無し	無し	
8185	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	19				5	8	6			2	2	17.5歳	1.男児	—	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨鉤状突起骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	無し	無し	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を含む5人の園児と一緒にサッカーをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の園児の様子を見ていた。	ボールに対して対象児が手を出したところに友達の足が当たった。	サッカーで遊ぶ際は、基本的には足を使い、手を出さないことを園児に伝える。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8186	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13									1	1	18. 6歳	2. 女児	―	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	特になし	―	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	13	1. 定期的に実施	12	特になし	―	1. 集団活動中・見守りあり	上靴が足のサイズより大きめであった。	手に物をもって歩く時に気を付けるよう話し合った。上靴が足のサイズに合うように保護者に調整してもらった。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。遊戯室に移動するために友達と列になって歩いていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	クラス全員が列になって歩いていたので、列の後方にいて、階段を下りる子を中心に見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	―	特になし	―	
8187	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	14									2	1	17. 5歳	2. 女児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨近位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	2	1. 基準以上配置	子どもたちが楽しみにし、取り組んできたクリスマス会の予行練習の日であった。	本年度採用を断念した看護師資格保有者の採用を進める。素早い対応を可能とするため。	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	1. 定期的に実施	3	―	落下地点等へのクッション性のマット等の設置（負傷者の怪我の軽減）	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1. いつもどおりの様子であった	体調不良などの連絡は受けていない。	4. 対象児の動きを見ていなかった	総合遊具が2基あり、各総合遊具毎に監督者1名ずつで分担。他に年少児も複数名いてその年少児たちの対応にあたっていたが「早くして」という声は直ぐ近くできいていて、「止めて」という声を耳にして振り向いた時、落下する様子を目撃し、駆け寄って対応にあたった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担当職員は、園庭の反対側にある総合遊具の監視をしていて、背後に担当者の背後にあたるため目撃していない。	人的配置には限度があり、また、対象児が年長児できっかけを作ったのが年の少児であったことが今後の教育の課題と言える。	園児に対して遊びのルールや遊具の使用方法について指導を徹底する。	
8188	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47					19	28			2	2	16. 4歳	2. 女児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	11	2. 基準配置	職員の見守りが不十分であった。	全体を注意深く見守る必要がある。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	固定遊具の，本来降りる場所では無いところから，本児が降りようとした。	正しい遊具の使い方が出来るよう，子ども達と約束する。	1. 集団活動中・見守りあり	―	落ち着いて約束を守りながら遊ぶことが出来るよう，言葉かけを行う。	1. いつもどおりの様子であった	固定遊具で遊んでいた。本来降りる場所ではないところから降りようとし，バランスを崩して転落した。	4. 対象児の動きを見ていなかった	見守る職員は２人いたが,２人とも対象児の動きを見ていなかった。泣いているのに気付き，話を聞くと「転んだ」と訴えた為，右ほほのみを冷やして様子を見た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りを行っていた。	本児が，事実とは異なることを言っていたため，当日は転落していたことに気付くことが出来なかった。	職員の立ち位置等を配慮し，全体を見守るよう努める。	
8189	令和4年11月28日	1. 認可	5. 幼稚園	10	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	60			6	18	12	24			14	11	15. 3歳	1. 男児	―	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左肘の骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	―	2. 基準配置	―	事故予防マニュアルを作成する。園内研修で職員間で共有する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎日	1. 定期的に実施	12	―	園庭でかけっこをする時に、砂ででこぼこになっていないか注意	3. 個人活動中・見守りあり	園庭がどろんこ遊び等をした後で、凸凹の状態で固くなっていたため、足場が悪くつまずいた。	地面がでこぼこになっていたら、トンボやシャベルで整地する。	1. いつもどおりの様子であった	―	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	リレー遊びを見守った。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	自由遊びの時間は常に複数の教員が園庭を見守る。	―	職員研修でさらに事故予防を周知する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8190	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	45									7	7	16.4歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折(橈骨骨折、尺骨骨折)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	－	－	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	210	2.不定期に実施	12	－	－	3.個人活動中・見守りあり	－	－	1.いつもどおりの様子であった	日本語の理解があまりできないため、他児と関わって遊ぶことは少ない。集団遊びに参加することはほとんどない。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラスの子の大半が集団遊びを行っており、そこについていた。補助教諭は遊具付近に位置していたが、シーソーのすぐ傍にある雲梯に挑戦する園児についていた為、対象児を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自由に遊ぶ子どもを見守ったり、子どもの遊びに参加したりしていた。職員の配置が重ならないように、その時々で入れ替わりながら、園庭での見守りを行っている。	シーソーで遊ぶ子がいる時は、職員がそばにつく。この時の対象児は一人で静かに座っていたため、職員の危険意識は低く、シーソーにはつかなかった。	雲梯、鉄棒に挑戦する子が増え、その援助につくことが多い時期だが、総合遊具付近の見守りを今一度見直し、強化する。	
8191	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									3	2	18.6歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	戸外環境設定について、朝の職員間の情報共有が不十分だった。戸外に出た時の、環境の確認が十分でなかった。	朝の戸外活動環境の準備の時は、必ず担任間で情報を共有する。戸外で活動する時は、環境の確認を行い、安全な遊び方と見守りの必要箇所について、キッズサポーターと共有する。不必要な物は片付けることを徹底するようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	240	－	－	3.個人活動中・見守りあり	年長児のみの戸外遊びの時間であったが、年少児の使った巧技台の環境がそのまま設置されていた。また、戸外遊びの時間が短く、焦って遊ぼうとしている子供もいた。	戸外の環境を出すとき、担任間の連携を十分に行い、学年ごとに必要な環境を再設定する。不必要な遊具の片付けは誰が行うのかの確認を事前に行っておく。戸外遊びの時間を十分に確保する。	1.いつもどおりの様子であった	巧技台と梯子を組み合わせた遊具を、本来の方向とは逆の方向から渡っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児のトラブルに対応していたため、見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	キッズサポーターは自分の判断で安全の見守りをしていたが、巧技台の安全な使い方について担任と共有できていなかった。	担任がトラブルの対応に集中し、周りへの見届けが不十分だった。	トラブルに対応する時も、周りの見届けが可能な配置に配慮する。見届けが困難な場合は、キッズサポーターと連携をする。	
8192	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	5				2	1	2			5	5	17.5歳	2.女児	－	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足下腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	当日は保護者参加の発表会総練習のため、子ども達が教室に入るまでの間、職員が全体を見ていなかったため、事前にマットが設置されていない遊具に児童が登ったことに気が付かなかった。	予想できない動きもある事を認識し、常に全体を見渡すよう意識することを職員間で共有	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	3	子ども達が遊ぶ時間以外は安全対策用のマットを設置していなかった	子どもが登園時間中はマットを常時設置しておく	3.個人活動中・見守りあり	入園してから間もなかったため、子どもの行動傾向の把握ができていなかった	入園して間もない子どもについては、特に注視して見守る	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	あまり登らない太鼓橋に登っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	発表会総練習でもあり、片付けている最中で、本人を見てなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	片づけてない園児に気を取られ全体を見てなかった(至近距離にはいた)	－	入園して間もない子どもがいる場合の見守りについて、事前に職員の役割分担を決めておく	
8193	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29									3	3	18.6歳	2.女児	－	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	－	幼児の人数に対する職員の配置は適切であると考える。	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	1.定期的に実施	11	－	日々の清掃を丁寧に行い、定期的に点検整備を実施しているので適切であると考える。	1.集団活動中・見守りあり	－	－	1.いつもどおりの様子であった	本児はドッジボールが好きで、張り切って参加していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	クラス全員の活動だったので、審判を兼ねて全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちの様子をビデオで撮影していてちょうど本児が転倒した場面も撮っていたので、すぐに対応できた。	－	全体把握及び個々の動きを見るなど、職員の役割は臨機応変に対応しており、適切であったと考える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8194	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	11				6	3	2			3	3	18.6歳	2.女児	―	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	3	1.基準以上配置	課外授業中の様子について、外部講師との連絡が不足していた。	課外授業中の様子について、外部講師との連絡が不足していた。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	6	2.不定期に実施	12	予期せぬことへの配慮はあったのか	あらゆる事態を想定し対策する	1.集団活動中・見守りあり	体操教室後の確認が足りなかった。加えて午睡後は「子育て支援室」で静かな活動が多く異変に気付かない要因がある。	体操教室の後は（特に）異変がないか見守り・観察と共に本人にも問診するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午後からの希望者のみの体操教室に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本人からの申し出がなかったので異変に気付けなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	課外であるため専門講師に教育をゆだねている	異年齢児保育のため年齢が小さい子に手がかかり、年長である本児の異変に気づかなかったのではないだろうか	午睡後はひとりひとりの検温時に体調チェックをしているが、体調だけでなく体の異変を更にチェックする	
8195	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	9									2	1	16.4歳	1.男児	―	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	15	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	20	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	子どもがテラスや廊下を走ること、段差を跳び下りることについては危険を伴うためその都度注意喚起しているが、徹底ができていなかった。	３歳児の身のこなし方を十分に理解したうえで、集団だけでなく個々の幼児への働きかけを行い事故予防に努める。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	もうすぐある節分のために作った鬼のお面が出来上がったことが嬉しくて、弁当後に自分の作ったお面をかぶり遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は保育室で他の幼児とかかわりながら、本児が嬉しそうに廊下からテラスに出ていく様子を見ていたが、テラスから人工芝に跳び下りる様子は見ていない。泣き声を聞きすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は、人工芝の上で支援の必要な幼児の対応をしていたため、本児がテラスから人工芝に跳び下りようとした瞬間は見ていない。泣き声を聞きすぐに対応した。	テラスから人工芝に下りる行為は誰もがいつもしている動きであるため、担任は本児が跳び下りて転ぶことは想定していなかった。	一人一人の幼児のすべての行動を把握することは難しいが、様々なことを想定して注意深く幼児を観察していく必要がある。	
8196	令和4年11月28日	1.認可	5.幼稚園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35				8	13	14			7	4	18.6歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節捻挫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	18	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	13	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	気温が低く、体が温まっていなくて、体のバランスを崩した。	遊びの前に十分準備運動をし、体を温める必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	鬼に捕まらないようよく見ながら逃げていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児とともに鬼ごっこ（増やし鬼）に参加していたため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児とともに鬼ごっこ（増やし鬼）に参加していたため、見ていなかった。	特になし	特になし	
8197	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	62		6	6	20	15	15			7	7	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足下腿骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	職員の配置等は適切だったが、本児のとっさに取った間違った遊び方・行動に対して素早く声かけしやめさせることができなかった。	園庭の遊具について、危険な遊び方・間違った遊び方とはどのようなものかを具体的に意識でき、適切な声かけなどの行動ができるようにする。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	遊びに夢中になり、間違った遊具の遊び方をしてしまった。	園児に対して、遊具の遊び方・危険な遊び方の禁止について、指導を徹底する。また、職員は常に危険な遊び方をすれば事故が起きることを意識して見守る。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鬼ごっこ遊びに夢中になった本児が、大型遊具に上り、上部鉄柵の外側につかまり立ちをして、登り棒に飛び移ろうとした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	日頃より、特に大型遊具の遊び方については危険も伴うことを指導していたが、とっさのことにうまく対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の子どもの動きについては全員が全体を見守るようにしているが、具体的な行動を取れる場所にはいなかった。	特になし	特になし	

No	初回掲載年月日	概要/認可・認可外	概要/施設・事業所種別	事故発生時期/月	事故発生時期/時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳/0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども/年齢	性別	特記事項	事故状況/発生時状況	事故の転帰	死亡/死因	負傷/負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面/マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面/施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面/教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面/対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8198	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									2	1	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	24	2.基準配置	—	研修も行い職員配置も整っていた。改善策は考えられない。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	年1回ワックスがけを行っているが、グリップがききすぎたりすべりやすいようなことはなかった。不要なものも置いていないので改善策は考えられない。	1.集団活動中・見守りあり	—	ホールの大きさに対し園児17名で、十分な広さが確保できている。	1.いつもどおりの様子であった	ボール持ち1人ずつ順番に蛇に見立てた縄跳びを避けながらゴールに運ぶ運動遊を行なっている際、スタート位置に戻ろうとした本児がスピードを落とさないまま壁に向かって走り、少しつまずいた形で壁にぶつかって転倒した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホール中心部に縄跳びをくくりつけた跳び箱を設置。縄跳びを蛇に見立て、ボールを持ってゴールを目指す園児の障害物となる。園児が転倒したことに気付いたが至近で助けられる状況ではなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	並んで待つ園児の補助及び全体の援助を行う。動きは見ていたが至近ではない。	—	ハード・ソフト面共に充分配慮されていたが、管理者への報告まで10分様子視の時間があった為、通院までに時間を要した。最善の判断ができる様ケガや病気の症状について勉強をする。怪我の報告を受け状況を見た際に脱臼を疑い整骨院に受診したが、その後整形外科に通院することになった事から、より重大な怪我であることを想定し、まずは整形外科を受診する。	
8199	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	16									3	3	14.2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	事故予防に関する意識が薄かった。	経験の少ない職員も多いため、マニュアルの再確認と研修（勉強会）の実施を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	240	—	当日の遊具点検からも安全上問題はなかったと思われる。	1.集団活動中・見守りあり	担任同士で、該当児の遊び方の変化を捉えていたが、それを共有できていなかった。それに伴う危険予測を事前に深めることにも欠けていた。	個々の成長を捉え、それに応じた援助の方法について、意識的に共有する。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わったことはなかったため、クラスとして予定していた園庭遊びを楽しんだ。総合遊具のはしごを昇って遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭でクラスの子らが自由に遊んでいた。他児の方に気が向き、対象児が遊んでいる場所は把握していたが、動きの把握までは不十分だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスの職員も担当職員同様、対象児が遊んでいる場所は把握していたが、動きの把握までは不十分であった。しかし、地面で泣いている対象児に初めに気づいたのは他クラスの職員だった。	異年齢が混在して遊ぶことにより、子どもの見守りについて、責任の所在が不明瞭になりやすい。	保育の計画、展開への配慮の他、職員間での声の掛け合い、見守り場所が的確であるかの意識向上が必要。「子どもが遊んでいたら遊具につく」ということを再確認する。	
8200	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	70									5	5	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	危険な遊びを予測しながら、遊びを見守る必要性があることを再確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	52	遊戯の配置、危険防止のマット等、適切に使用できていた。	今後も危険防止に配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	けがにつながるような遊び方をしようとしていることに気づかなかった。	こどもの遊び方の質について、さらに目を配る。	1.いつもどおりの様子であった	—	4.対象児の動きを見ていなかった	目視にて本児が鉄棒で遊んでいるところまでは把握していたが、展示物に触ろうとしている様子に気づけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	目視にて本児が鉄棒で遊んでいるところまでは把握していたが、展示物に触ろうとしている様子に気づけなかった。	—	年齢によっては一人だけを見ていることが難しい状況ではあるが、大きなけがにつながる遊び方に事前に気づき、未然に防ぐことが出来るようミーティング等で研修していく。	
8201	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨幹部骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	マニュアルの再確認。職員の連携の確認。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	2.不定期に実施	12	—	事故の原因の●●を排除する。	1.集団活動中・見守りあり	職員がその場をわずかに離れた間に対象児が予期せぬ行動が起った。	子どもから離れる時は周りの職員と連携をとる。転倒が考えられる遊具は固定しておく。	1.いつもどおりの様子であった	好奇心からこれまではしなかった行動をした。畳んで片づけてある●●の上部に手を伸ばし力が加わり●●がバランスを失い転倒した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が遊戯室から飛び出しがないことを確かめた後、担当職員は対象児が発表会に参加できるよう好きな物を事務室へ取りに出た。すぐに戻ったが●●が倒れた際間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	発表会の練習の準備をしている職員、クラスの園児を見ている職員がいた。	—	場を離れる時は、他の職員と連携をとる。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項
8202	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	9.夜間・早朝（泊り保育）	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	32									11	7	17.5歳	1.男児	
8203	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26									2	2	17.5歳	2.女児	
8204	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	22									2	2	16.4歳	1.男児	
8205	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	18.6歳	1.男児	

No	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8202	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	8/●頭部打撲、嘔吐症、脱水症 8/●右頭頂骨骨折、急性硬膜外血腫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	職員の数は十分だったが、活動の進め方・配置に改善の余地がある	子ども達がバラバラにならないようグループごとに動かす。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	ほぼ毎日	—	ハード面の要因は考えられない。
8203	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	4	1.基準以上配置	子ども自身の危険回避能力が不足している。	遊具や運動用具使用時には、足や手を置く位置等を必ず目視するように指導する旨を職員間で周知。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	—	事故予防を原則とし、常日頃より遊具の不具合はすぐに修理する。
8204	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左腕上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし
8205	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢（足・足指）	左足の中指の骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	事故発生防止の為の指針が活かされていなかった	・保育教諭の日頃からのヒヤリハットに対しての危機管理能力を高める・事故防止マニュアルに沿った安全な教育・保育環境を確保するための配慮を改めて行い、職員間で共通理解を図る。	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	1.定期的に実施	290	衝突した場所は、幅が狭く子どもが密集していた。	人数や状況に合わせた広さを設定し、これまで以上に職員間で危険に対する意識を高める。

No	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8202	1.集団活動中・見守りあり	お泊り保育という普段と違う状況の中、活動の合間に起きた。	興奮気味の子ども達の心情にも配慮した職員の見守りが必要。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	支度が遅れて、グループに戻るのが最後になり焦っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいた職員が走らずに移動するよう声かけしていたが、転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの持ち場にいて、見えない場所もあった。	—	活動の合間であっても、グループごとに動くなど職員の見守りを強化する。	
8203	1.集団活動中・見守りあり	本児が渡りきれた事に安心し、着地までの援助を行えなかった。	雲梯の始・終点は落下以外のリスクがある為、特に重点を置いて援助を行うようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯を渡り切った後、足置きバーに足を乗せられず右脛を打ち、下のマットへ落下	2.対象児の至近で対象児を見ていた	雲梯の中央辺りに立ち、子どもが1人ずつ順番に渡ってくるのを見守っており、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの半数程（１３人）を連れ、別の場所で鉄棒の活動を行っていた。	日々遊んでいる使い慣れた遊具のため、使用している最中は常に危険が伴うという意識が少し薄れていたのかもしれない。	子どもが遊具をやり終える最後までしっかり見届けることを職員に周知する。	
8204	1.集団活動中・見守りあり	いつも遊んでいた遊具であり、本児は慣れた様子で遊んでおり、梯子に掛けた足を滑らせた拍子に手が離れて転落した。	子どもがいろいろな遊具を使って体を動かして遊ぶ中で、安全面を意識したり自分の体を調整したりする力をつけていけるように工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	落ち着いた様子で総合遊具で一人で遊んでいた。他児とのトラブルもなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	離れたところで他の4歳児とボール遊びをしていた為、見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故発生時は、砂場にいた園児の対応をしていた為見ていない。本児の「痛い」という声と泣き声で気付き、傍へ駆け寄った。	園児がそれぞれに落ち着いて好きな遊びを楽しんでいた為、遊具から転落するとは思っていなかった。	あらゆる可能性を考えた上で、個々の園児の子どもの対応をしつつも他の園児や全体に目を向け把握する意識を高めるようにする。	
8205	1.集団活動中・見守りあり	危険を意識する声掛けを、事前にもっと具体的に伝える必要があった	遊ぶ場所の広さや活動に応じた人数を考える必要があった。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は事故当日、体調も変わりなくとても活発に体を動かしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員の内、一人は全体が見渡せるような場所に立ち、子供たちの様子を見守り、1名は主にゲームの進行役を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各クラスで保育中だった為、●階ホールには担当職員以外居なかった	危機管理の意識を、さらに高める事が必要	状況や広さに応じてゲーム参加人数の調整をし、子ども達に日頃から考えて行動するような機会や経験する場を作る。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	概要：施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8206	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	43	2	6	5	6	9	15			7	7	18. 6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左母趾打撲傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	本児が水筒と靴を一緒に持とうとして水筒が滑り右足親指に落ちてしまった。	以上児クラスの集会などの際に、水筒は両手でしっかりと持つ事を繰り返し伝えていく。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	なし	なし	7.その他	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	本児はいつも通りの動きで帽子を被り水筒を持ち園庭に出ようとしている状況であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児の受け入れをしたり、欠席連絡の確認をしながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は園庭で登園した子の受け入れをしていた。	職員は登園してくる子、園庭で遊び始めている子、欠席連絡の確認等しながら、それぞれが子ども達に声掛けや見守りを行っており対象児の近くでの見守りが出来ていなかった。	少し離れた場所からの見守りなかってしまう状況であっても、声かけはしっかりとする。	
8207	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	11									3	3	14. 2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右前腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	前日や、当日の朝の天候により、遊具が濡れていて滑る場合がある。	目視した職員が他の職員へ連絡をして、濡れたところを拭き、滑らないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	なし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず遊んでいたが遊具に慣れてきたのか、気持ち的に緩んだ部分がある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児が遊具の別の部分から登っていたため、そちらの園児の側についていた。(この園児の方が、本児より遊具に慣れていなかった)	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	本児は、普段から遊具に登ることができていたため、保育教諭が大丈夫であろうと思ってしまった。	遊具に慣れてきたところが一番危ないため、保育教諭の立ち位置を再度確認することと、寒さから手がかじかむことも考えられるため、その日の気温等も頭に入れ、園児の遊びを見守る。	
8208	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	52			11	11	13	17			4	4	15. 3歳	1.男児		5.食事中(おやつ含む)	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	ケガの部位の確認を複数で行っていなかった。床が濡れていたことに気づいていなかった。	ケガの部位の確認を複数人で行う。床面が濡れていたらすぐに拭く。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	備品の損傷に気づいていなかった。	備品等の点検時は細かい部分までチェックする。損傷個所の修繕。	6.食事(おやつ)中	食後のお昼寝時間までの間の時間帯で職員の具体的指示が本児に通っていなかった。	身体を動かしていい空間に誘導する。手洗い場に速乾性のマットを設置。	1.いつもどおりの様子であった	—	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	—	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	当該児童の衝動性の高さ	身体を動かしていい空間に誘導する。	
8209	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	99			15	22	34	28			8	8	16. 4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左Monteggia骨折(尺骨骨折＋橈骨頭脱臼)	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	遊具を使用しない遊びの時間で、危険予知が甘かった	子ども達への安全指導の再確認と場面に応じた声掛けを行う	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	—	今後も毎日の点検と遊ぶ前の事前確認を行う	1.集団活動中・見守りあり	2～5歳児が園庭で遊んでおり、一人一人に目が届いていないところがあった	職員配置の再度見直し、子ども達への安全指導の徹底	1.いつもどおりの様子であった	遊具を使用していない時間だったので、友達とかけっこをして遊んでいる様子だった	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児と鬼ごっこをしていたため、対象児の動きが確認できていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周りの職員も担当クラスの園児と遊んでいて、対象児の動きを把握していなかった	子ども同士が周りを見ず行動してしまった	園庭の遊び方（広い場所でも周囲に気を付けながら遊ぶことの大切さなど）や、職員同士の配置や声掛けをその場に応じて行うようにする	
8210	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45					21	24			3	3	17. 5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	4	2.基準配置	—	転倒することも多いので常に気を配ったり声かけを行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	子どもたちにとって危険箇所がある場合はすぐに報告していく。	1.集団活動中・見守りあり	—	縄跳びの安全な遊び方や跳び方、ロープの正しい使い方を伝え、気をつけながらあそぶよう声かけ・見守りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	長縄跳びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	縄跳びを回しながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各場所に分かれ、他児と関わったり、見守りを行っていた。	縄跳びを勢いよく回していたため、ひっかかりやすく足を取られやすかったと思われる。	縄跳びを回すときは、引っかかっても足を取られないようゆっくりと回す。こども達にも安全な縄の回し方を伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8211	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	90					45	45			4	4	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	左眼眼窩底骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	5	1.基準以上配置	—	園の危機管理マニュアルで過去の事例を学ぶ際に、今回の事例を用いて研修する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	園庭等、危険な箇所を点検し、職員全員が周知する。	3.個人活動中・見守りあり	—	子ども達と遊んでいる時も、危険のないよう見守り、個別に声掛けなどをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、複数人の子どもと鬼ごっこをしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	給食の時間を知らせるために、子ども達に声掛けをして回っている時だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の職員が園庭のいろいろな場所に立ち周囲を見守っているが、一瞬の出来事でその時に気づけなかった。	—	保育者の危機管理意識を向上させ、再発防止に努める。	
8212	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	他の学齢の子どもたち大勢が、園庭で様々な遊びをしている状況であったため、広い場所が確保できず、園庭の隅(遊具、手洗い等に近い環境)で行っていた。	広い場所を確保しドッジボールを行うようにする。周りの環境に配慮しコートの設定をする。(向き、大きさ等)子ども達は必死でボールを追いかけるため周りが見えていない。遊具の下、狭い手洗い場の通路など危険な場所でも追いかけてしまう為、事前に安全に遊ぶ為のルールを確認する。必要に応じて、ポールを立てる等危険と思われる個所を視覚で確認しやすいようにする。	1.いつもどおりの様子であった	元気にいつも通り登園	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2mくらいの場所から見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一緒に活動していた他の子を見ていた	担任保育教諭2名の内1名が遅番勤務の為、代替のパート保育者がドッジボールをしている子どもたちを見守っていた。	代替職員についても安全面に配慮事項について、確認、連携ができるように研修・引継ぎ等を行う。	
8213	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	18									4	4	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	バランスを崩した際に、急に支えることが難しい状況がある。	転倒の仕方を練習したが、子どもたちが転倒することを、常に想定しながら対応できる体制を作っていきたい。	1.いつもどおりの様子であった	職員が見守る中、スケート場内で座る・転ぶ・立ち上がる練習を繰り返した後、場内から出口に向かって歩いている時にバランスを崩し転倒。氷の床に肩から体重がのる体勢となった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2m程離れた場所で転倒する児童を目撃する。すぐに駆け寄り場外へ運ぶ。椅子に掛け、児童の転倒時に打った個所の確認をする。腫れはなかったが、痛みが強く動かせない状態のため園へ連絡を入れる。園の職員より病院・保護者へ連絡を入れ受診ができる体制を作った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児につく職員と、活動中の園児を見守る職員とに分かれ、園児の安全を確保できるようにした。　報告を受けた職員は、至急、病院や保護者との連絡を取った。	特になし	特になし	
8214	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	46				14	16	16			4	4	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	なし	毎週●曜日に同じ時間・グループごとの少人数で怪我のないよう配慮し、年間を通して取り組んでいる。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	240	床の状況を始まる前に確認しておく。	床が滑らないように確認しておく。	1.集団活動中・見守りあり	転倒した時に手が出ず、右手の上に身体が乗ってしまった。	毎週●曜日に同じ時間・グループごとの少人数で行う環境は変えず、年間を通して取り組み身体の発達を促していく。	1.いつもどおりの様子であった	リズム運動を楽しみにし、はりきって取り組んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	リズム運動を一緒に行っていた。本児がピアノの音で動き出すところを見ていた。転んだ時、状況を見てすぐに本児に駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が動き出し転倒する様子を見ていた。他の子どもたちが不安にならないように対応した。	素早く動き出すため、バランスを崩した。	ピアノの音を聴き素早く動き出す時の注意事項を集会等の中で子どもたちに伝える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8215	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2	2	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	なし	職員会議に事故報告し再発防止に努める	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		なし	教室から廊下、テラスが見えないため、廊下に出るときは、クラスでゆっくり移動する	1.集団活動中・見守りあり	広場に行く際に職員もついて歩いて行く必要があった	移動の際は、一緒についていき、歩くことを伝える	1.いつもどおりの様子であった	音楽が流れると、園庭に向かうことはいつものことなので、予想はしていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつもと同じ行動だったため、こどもたちと一緒に園庭に行くことが遅くなってしまった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	いつものことという考えが事故を招いた。様々状況を想定し、担任同士確認していく	歩くことを必ず伝える	
8216	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	186	4	11	16	50	52	53			36	26	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	職員は乳幼児がどのような事故を起こしやすいかについて学んでいたが、対象児が転んだときの状況や様子から鎖骨骨折をしているという考えに至らなかった。受傷した時に、骨折等考えうるけがの知識を身につけておく必要があると感じた。	外傷がなくても園児が痛みを訴えるときは骨に異常があるかもしれない等の考えをもって対応していく。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	120	事故発生当日は晴れていたため、芝生で滑るとは考えにくかったが、段差や転倒しやすい箇所等を事前に把握しておくべきだった。	事前に危ないところをチェックし、園児が立ち入れないようにする。また、注意すべき点については、園児に呼びかける。	1.集団活動中・見守りあり	—	普段より集団で遊んでおり、いつもと変わらなかった。	1.いつもどおりの様子であった	対象児は普段と変わりなかった。最近戸外で遊ぶことが増え、事故発生当日も他児と鬼ごっこをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は体育館（遊戯室）前で他児とドッヂボールをしていた。遠くで対象児が転倒するのが見えた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいた保育教諭は周りの子ども達を見守っていたが、対象児は鬼ごっこをしており、保育教諭の背中側で転倒した為、その時の様子を見ていなかった。	対象児が受傷する際の様子を見ることができていなかった。	園児の年齢・月齢に関わらず、そばにいる職員は園児の動きに注意して見守っていく。	
8217	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20	4	16							9	8	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	本児は身体が利くという安易な判断で傍についていなかった。また、バランスボードにまたがると両足が地面につかないことは把握できていなかった。高さ４０～５０ｃｍは1歳児にとって無理があった。	マットを敷いていても、高さのある所には職員が必ず付くようにする。職員の立ち位置など声を掛け合う。セッティングバリエーションを職員間で話し合っていく。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	セッティングに無理があった。バランスボードの取扱についての確認、話し合いが必要。	バランスボードの取扱説明書を確認し月齢に合ったセッティングをする。月齢により発達段階の差が大きい1歳児では、一枚のボード単体での使用から段々と枚数を増やしたり、ブロックの下から2段目までのスリットを使って高さを調節する等環境構成の配慮を行う。	1.集団活動中・見守りあり	・日頃からあそんでおり、危機感がなかった。 ・バランスボードは揺れて動きがあるが近くに職員がいなかった。	楽しくあそびつつ、バランスボードの使い方や特質、遊びのねらいなど職員間で保育計画を立てていく。また、子ども1人1人の発達段階を把握した上での環境構成を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	身体を使ってあそぶことを好み、遊具に上り下りをよくしている。	4.対象児の動きを見ていなかった	子ども達全体の把握はしていたものの、すぐ近くにはいなかった。本児は身のこなしが上手く日頃から安心して様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員が落ちた状況を少し離れていたところからみていた。	0.1歳児の異年齢児を動きのあるホールで見ていくことは難しさはあるが、担当児がどこで何をしてあそんでいるか全体を見る必要があった。	日常的に広い場所や目が行きにくい場所で、子どもの活発な動きをどう対応し把握していくかを話し合いながら、職員の立ち位置・分担を再確認する。手薄の所は声を掛け合っていく。 0.1歳児の異年齢であそぶ際は、興味や身体発達をより理解し、幅広い環境設定や職員の配置に心がける。	
8218	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	56									8	5	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	事故防止に対する研修会を今後増やす必要がある。	事故防止委員会にて改善策をその日のうちに検討するよう改善した。	2.不定期に実施	1	2.不定期に実施	1	3.未実施	0	普段とは違う施設外の環境での保育であったため、公園内の状況や遊具について（年齢に合わせた遊び方など）の事前の情報収集が不足していた。	事前の下調べの際に、園児が遊ぶ遊具についても確認をし、当日はそれをもとに園児と遊び方のお約束をする。	1.集団活動中・見守りあり	事故発生の瞬間を保護者、担任、職員が確認できていなかった。	子どもから目を離さないようにというお願いを活動前に保護者へ向けて周知する。	1.いつもどおりの様子であった	当該児の体調は良好であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	公園の敷地が広く、園児も保護者と様々な遊具で遊んでいたため、担任は公園内の見回りをしており、事故発生の瞬間を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任同様、副担任や他の職員に関しても、見回りをしていた。	決められた見守りの箇所がなく、職員各々がばらばらに動いていた。	各地点に職員を配置し、見守りがされない箇所がないように決めておく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8219	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	29									6	6	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折正中神経麻痺	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	体育教室を毎月専門講師と共に行っていたが、跳び箱の補助方法・留意点を聞くことをしなかった。	運動器具を使った危険予測、危険を伴う子どもの動き、補助方法を体育専門講師の研修受講。事故発生時マニュアルの再検討・作成・改訂。リスク管理の研修受講。月1回事故防止のチェックリストを用いて自己点検・評価・グループ検討を行う。年1回救命救急講習受講。	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	2.不定期に実施		マットが薄い。跳び箱6段という高さであった。	着地する際に使用するマットを厚さのあるウレタンマットに変更する。	1.集団活動中・見守りあり	体育教室を毎月専門講師と共に行っていたが、跳び箱の補助方法・留意点を聞くことをしなかった。事故当日は、専門講師はおらず、担任のみであった。	開脚跳びは専門講師が不在の時は行わない。運動に向かう気持ち・態度を育める保育者の関わりをする。補助方法に少しでも不安がある場合はいかなる運動でも補助方法の指導を徹底的に受ける。研修やチェックリスト、職員間での気付き合いを通して、危険リスクの知識やその関わりを習得し保育にあたる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会リハーサルで多数の職員が見ている中で、子どもたち自身にも意気込みが見られ気持ちが高ぶっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	跳び箱開脚跳びの補助として、保育教諭は横にはいたが、普段跳べている児であること、補助をする認識が欠けていたこと、、開脚した時に足が当たることを懸念し少し離れたところにいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	リハーサルで、客観的に見られる位置に、園長・主任・副主任を含めた保育教諭4人が見ていた。	普段の補助を担任のみで行っていたため、補助方法に疑問を感じた時もあったが普段のようにやった方が良いと思い指導をしなかった。	開脚跳びでの補助は専門講師のみで行う。補助方法の研修を全職員が受講し、職員で気付かせ合いをしていく。	
8220	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	41									3	2	16.4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折→烈離骨折(軟骨)	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	1.基準以上配置	バランスボールから逃げる活動のため、夢中になりすぎて他児とぶつかってしまった	時間を区切って少人数で活動するなど、活動内容の見直しを行う	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	—	特になし	7.その他	体操教室で使用する用具も壁際に置いてあったため、更に狭くなっていた	用具を置く場所を確保する、活動内容の見直しをする、少人数での活動にするなど	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	体を動かすことが好きで、いつものように積極的に参加していて、夢中になって取り組んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	体操教室の講師が操作するバランスボールを視野に入れながら、子どもたちがぶつからないように見守っていたが、本児が転倒した瞬間は目撃できていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	体操教室の講師が操作するバランスボールを視野に入れながら、子どもたちがぶつからないように見守っていたが、本児が転倒した瞬間は目撃できていなかった	転倒直後は痛みや腫れはなく、本児が痛みを訴えたのは16:30だった。足の様子を確認したが腫れがなく、様子を見ていた。17:50父親が迎えに来て、腫れを確認した。赤みや腫れがなくとも、冷やす等の処置や保護者連絡をすべきだった。	本人が痛みを訴えた時点で、いろいろな状況を視野に入れて看護師を含め、複数で確認し、処置を行う。	
8221	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝(始業~午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	48				14	17	17			4	4	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	—	園庭危険マップを再度確認し、記載する。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	遊具に慣れて遊び方が大胆になることを予測できなかった。また、気温が冷えていたため、体が温まっていなかったことや遊具が冷えていたことで手を離してしまったことも要因と考える。	子どもたちのやりたい気持ちを大切にしながら、安全な遊び方を一緒に考え、決まりを守って遊ぶようにする。体が冷えている場合はマラソンしてからなど、体を温めてから遊ぶ。	1.集団活動中・見守りあり	年少、年中、年長クラスが戸外で遊んでおり、各クラスの担当保育教諭が園庭へ出て、全体を見ながら少し離れた場所にいたため、手を差し伸べることができなかった。	雲梯で遊んでいる子どもの見守りを徹底する。雲梯に限らず危険と思われる箇所に必ず保育教諭が見ている状況をつくり、園庭にいる保育教諭同士連携し声をかけながら、子どもの様子を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	徒歩で母親とともにいつも通りに登園してきた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の場所にいて、他児を見ていたため、見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の場所にいて、他児を見ていたため、見ていなかった。	—	いつも通り遊んでいると思っても、危険個所に目が届くよう園庭にいる職員同士が声を掛け合い、子どもの様子を見守る。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8222	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	80				24	27	29			5	5	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	余裕のある職員配置を行い、怪我等あれば速やかに園に連絡を取る	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	整備された公共の公園にいくようにしているが、危険箇所をみつけたときは、管理者に連絡する	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園内園外を問わず、体を動かす機会を増やす	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は、特に問題なく、歩行は通常通りであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	至近で、対象児と一緒に歩いていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離で、担当職員、対象児と一緒に歩いていた。	特になし	つまづいても転ばないように、歩く活動を増やすなどして、体幹を鍛える	
8223	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	37									4	4	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	3.未実施		2.基準配置	職員の配置は基準をみたしているが、園庭が広いため職員の目が行き届かなかった。	園庭で遊んでいる時も常に目を配って安全確認をする、マニュアルの周知	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	重さのあるブロックが園児の目の届く所に置いてあった	危険、事故につながるものは、園児が遊ぶ場所に置かない	1.いつもどおりの様子であった	ふざけた様子もなく、情緒も問題なかった	4.対象児の動きを見ていなかった	常に目を配らせて園児の様子を観察しているが、ウッドデッキにいる子どもの様子を常にみているわけではなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	常に目を配らせて園児の様子を観察しているが、ウッドデッキにいる子どもの様子を常にみているわけではなかった	特になし	園庭遊びのときは、ウッドデッキや別の場所に移動して遊んでいる園児、遊具の裏側にいる園児にも気を配る	
8224	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									3	2	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施		2.基準配置	職員の配置は基準をみたしているが、園庭が広いためサーキットで遊んでいる園児全てに職員の目が行き届かなかった。	転んだり、落ちたりして危険な遊具のそばには、必ず保育教諭がついて安全を確認する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	大丈夫だろうと過信せずに、細心の注意を払う	1.いつもどおりの様子であった	特にふざけた様子もなかった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が平均台からすべった所は発見したが、間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児が平均台からすべった所は発見したが、間に合わなかった	特になし	子どもにも遊具の安全な使い方を再度指導する	
8225	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70				10	20	40			7	7	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	—	定期的にマニュアルを見直すなど、けが防止のための意識を常に持つよう職員間でも心がける。	1.定期的に実施	約300	1.定期的に実施	約300	1.定期的に実施	約300	—	設置しているボールは突き指防止のためソフトなものを購入していた。引き続き今回のような事故を想定し防止できるような素材のものを用意したい。	1.集団活動中・見守りあり	—	周りの遊びの状況や、園庭（地面等）の状況など安全に遊べる状況であるかを見極め必要に応じて判断し対策・実行していく。	1.いつもどおりの様子であった	—	2.対象児の至近で対象児を見ていた	—	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1対1のボール遊びであった。	—	1対1の遊びであったが、子どもの様子をよく見て必要に応じて、ボールの受け止め方などを事前に指導する必要がある。	
8226	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	27									2	2	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	皮膚潰傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	特になし	園全体でもう一度マニュアルの確認を行う。	1.定期的に実施	252	1.定期的に実施	252	1.定期的に実施	252	特になし	園庭の環境の見直しを行い、広い場所が確保できるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	集団遊びは出来るだけ広い場所を確保して楽しむ。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り、母親と登園。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児と一緒にしっぽ取りをしながら指導。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭では、●組のみが活動中だったため、担任、補助職員2名で把握。	特になし	しっぽ取りは、友達と逃げたり追いかけたりすることの楽しさがあるが、眼鏡を着用の園児には特にぶつからないよう配慮する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8227	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	5	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	21									1	1	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	外傷性陰茎挫傷・外傷性左精巣切迫破裂・左精巣委縮・左精巣機能低下	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	12	2. 基準配置	—	お昼ご飯後の自由時間については2名配置とした	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	52	1. 定期的に実施	52	—	今後も施設・設備の点検は週に1回以上行っていく	1. 集団活動中・見守りあり	—	お昼ご飯後の自由時間については2名配置とする	1. いつもどおりの様子であった	帰宅後、痛みを訴えた	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたが、その瞬間を見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	監視カメラより事故発生時と思われる時点を確認したが、発見できなかった	—	事故の発生について職員で共有するとともに、大切な子供を預かっている自覚を再度確認し、子どもたちから目を離さないように、また普段と違う様子に気付けるように話し合いを行った。	
8228	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	20									2	2	17. 5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	2～3	1. 基準以上配置	特にありません	特にありません	1. 定期的に実施	1～2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	毎	特にありません	特にありません	1. 集団活動中・見守りあり	他児と保育室内で動き回り遊んでいた際に転倒し近くにあった椅子に口元をぶつけ負傷した。	使用していない椅子は片付ける。移動の際にはテーブルの足下に一時しまうなど通行の邪魔にならないように、環境構成に配慮する。	1. いつもどおりの様子であった	他児と保育室内で遊んでいた際にバランスを崩して転倒した。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	教育時間終了後の子どもたちの保育を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	・教育時間から教育時間外への移行に際しての引継ぎを行っていた。 ・隣の保育室で他の学年の2号認定の子どもたちの保育を行っていた。	子どもたちの動きや遊びの様子は捉えていたが、動きや遊びから怪我につながらないかの予測が不十分だった。	・子どもたちの遊び方を見つつ適切な声かけを行う必要がある。 ・子どもたちが自身で遊び方に気をつけられるような日頃の指導が必要である。	
8229	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	78			20	20	19	19			4	3	16. 4歳	1. 男児		7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	外傷性歯の脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	コロナ禍において水筒を常に持っている。	水筒を持って歩く上ではさらに注意が必要である。	1. 定期的に実施	毎	1. 定期的に実施	毎	1. 定期的に実施	毎	歩く場所はゴムチップが敷いてあり、特に問題はなかった。	ゆっくり歩くよう、更に指導が必要である。	1. 集団活動中・見守りあり	弟が当該園児の方に振り返ったのがきっかけで転倒する。	引き続き、ゆっくり移動する様、指導する。	1. いつもどおりの様子であった	バスを降り、くつ箱に向かって歩いていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	バス担当、門担当、園庭担当それぞれ見守っていた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園内、それぞれの担当場所で見守っていた	水筒を持っているので、転ぶとぶつける可能性はあった。	ゆっくり歩くように指導する。	
8230	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	6	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	28									2	2	17. 5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	職員の配置により配慮が手薄になってしまう場面がある。	事故発生の際には再発防止に向けた職員配置、ルールの検討を全職員で行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	園庭上に人工芝がしいてあり段差等で躓きやすい。	人工芝を限定的に敷き直し、人工芝の境界面も埋設型のペグでめくれないようにしっかりと固定を行う。	3. 個人活動中・見守りあり	職員による見守りの不足	水分補給の場と園庭それぞれに職員を配置し、子ども達が急いで園庭に戻ることのないように声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	水分補給を行い、再び園庭に戻ろうとしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	水分補給を見守っていた。年長児であったため、水分補給が終わり次第、子ども達を集団で移動させず、個々に園庭に戻していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で戻ってきた子の戸外遊びを見守っていた。	水分補給をしていた場と園庭の中間には監視がいなかった。	水分補給後各自では戻らず、一斉に園庭に戻れるよう声掛けを行う。また職員を配置し危険の無いように努める。	
8231	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	8	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22									1	1	16. 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左第5趾基節骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施		2. 基準配置	—	事故発生の際には再発防止に向けた検討を全職員で行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	扉が中途半端に開いた状態になっていた。	扉は中途半端に開けたままにせず、完全に開けるか、閉めるかを徹底する。	1. 集団活動中・見守りあり	夏期で裸足保育を行っていた。	裸足の利点も考慮しつつ、もう一度裸足保育が必要かを検討していく。	1. いつもどおりの様子であった	トイレに行くため、保育室を出ようとしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	トイレに行きたいという対象児を送り出し、活動中であったため他児の活動の指導を行っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室での活動であったため、他の職員はいなかった。	対象児が前をよく見ず、歩きだしていた。	前を見て歩ける様、声掛けをし、他に集中が削がれないように注意する。	

概要						発生時の施設・事業体制												事故に遭った子どもの属性		事故状況		事故の結果					事故発生の要因分析									掲載更新年月日
初回掲載年月日	No	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	発生時期	発生場所	発生時の体制	事業体制							教育・保育等従事者	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故発生時状況	事故の様態		負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析	ソフト面			ハード面		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他	改善策
							人数	異年齢構成の場合の内訳							うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員					死亡原因	負傷部位				事故発生時の状況	人的面	環境面	遊具の安全点検		施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検			
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他												対象児の動き	教育・保育・成長の状況										
令和4年11月28日	8232	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7. 午後	2. 施設敷地内（園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	63								4	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	2. 顔面（口腔内含む）	左頬骨骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12		
令和4年11月28日	8233	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7. 午後	2. 施設敷地内（園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	49	20	13	16					5	17. 5歳	1. 男児 4歳		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手指）	上腕骨骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	295	特になし	特になし
令和4年11月28日	8234	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7. 午後	2. 施設敷地内（園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	21	10	7	4					2	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹（背・胸部・腹部）	脾臓損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 定期的に実施	1～12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし
令和4年11月28日	8235	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	7. 午後	1. 施設敷地内（園庭）	6. 5歳以上児クラス	17								2	18. 6歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢（腕・手指）	左上肢骨折	1. 遊具から転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	特になし	特になし

機関・職員の動き																																					
職員の配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	職員の配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	開園日数	その他要因・分析、特記事項	改善策	開園日数	その他要因・分析、特記事項	改善策	開園日数	その他要因・分析、特記事項	改善策	職員が何をしていたか	他の職員の動きは具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	職員が何をしていたか	他の職員の動きは具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	職員が何をしていたか	他の職員の動きは具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	職員が何をしていたか	他の職員の動きは具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	職員が何をしていたか	他の職員の動きは具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策
1. 基準以上配置	配置はしていても、外で遊ぶこと自体や危険度で阻止することはむずかしい	・マニュアルの再確認、安全確認、MAPの作成・掲示を行う。職員配置の見直し、職員一人ひとりが十分に配慮するようにした。	1. 基準以上配置	常に広い視野で見渡せる保育者がいなかった	1. 基本的な安全確認、事故防止マニュアルの見直しをする	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	特になし	特になし
2. 補配置	特になし	事故発生時の対応や連絡体制の不足	2. 補配置	特になし	事故の振り返りを行い、研修を行う	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	特になし	特になし	1. 定期的に実施	特になし	複数の環境を提供したことにより、安全面での低下に繋がった。	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	特になし	落下した手が出なかったので、すぐに手が出たり、子ども体重が極めて軽かったりする事がないように遊具を選び入れる。	1. 集団活動中守り	1. 集団活動・見守り	特になし	遊や環境を提供することにより、安全面での意識が低下に繋がった。	開園日数	1. 定期的に実施	特になし	落下した手が出なかったので、すぐに手が出たり、子ども体重が極めて軽かったりする事がないように遊具を選び入れる。	1. 集団活動中守り	1. 集団活動・見守り	特になし	遊や環境を提供したことにより、安全面での意識が低下に繋がった。	開園日数	1. 定期的に実施	特になし	特になし

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8236	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	31									2	2	15.3歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	寝つきに時間がかかり、布団に寝転んでいたが、起き上がった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	眠れない本児に1時間程度関わっていたが、静かに横たわっておくよう声をかけ一旦離れたところ、本児が起き上がり窓に近づいたため迎えに行った。自分の布団に帰ってきた本児が転倒したのを見てすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	眠っている他児の午睡時の見守りをしていた。	いつもは眠れなくても布団で静かにしていることができる本児が立ち上がり移動することを予測できなかった。	起きている子どもは保育教諭がすぐに対応できる近い位置で見守るようにする。	
8237	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)													17.5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	すぐに要因の聞き取りを行い、状況を確認し適切な判断を行った。	降園後、保護者受け渡し後の園内での事故であるため、受け渡し後は速やかに降園し、保護者が安全確認、見守りを行うように徹底、周知を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	37	2.不定期に実施		遊具については安全性は確認されている。トラブルによる誤った使用の仕方が原因である。	特になし	7.その他	教育・保育終了後で園児の気のゆるみによる危険認知が低下していた。	終了後においても家に帰るまでは危険個所や危険なことが生じることもあることを、伝え、安全に対する認識を園児達と再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり降園指導を行い、落ち着いた気持ちで保護者のところに向かった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児引き渡し後のため、事故直前の動きは見ていなかった。事故後は周囲の保護者の声により、園児の状況確認を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員からの通報により、他の職員も怪我の様子や事故状況の確認を行い、適切な対応を行った。	特になし	降園後、保護者受け渡し後の園内での事故であるため、受け渡し後は速やかに降園し、保護者が安全確認、見守りを行うように徹底、周知を行う必要がある。また、保育教諭も園児が園を出るまで、安全確認を行うようにする。	
8238	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	12									4	4	14.2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右前歯欠損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	散歩の際は園舎に入るまで、保育士は子どもと手をつなぐ子ども達が小走りにならないように歩くペースに気をつける	3.未実施		1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	50	—	今回、事故が起きた学齢の園舎は●年竣工であり、園舎の安全点検は各クラス担任が目視で行っている	1.集団活動中・見守りあり	—	散歩での乳母車の活用	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	散歩からの帰り道、園舎が近くなったことに加え保育士が手を離したことで子どもが走り出してしまった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	12名の子ども達を保育士は最前列、中央、最後尾の3人で見守りながら散歩をしていた。手を離した直後の転倒であったので間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩列前後の保育士は自分が担当する子どもを見ていたので、怪我をした子どもの動きを見ていなかった	保育士は自分が担当する子どもだけにしか目を向けていなかった	引率する保育士は担当の子どもだけで無く、全ての子ども達に神経を働かせる	
8239	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35			9	5	12	9			5	4	15.3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性Per	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	障害物の近くを走って遊んでいたため。	お遊戯場で遊ぶ際もコーナーで遊び場所を区切り、体を動かす遊びをできる場所を確保するとともに、ステージやピアノなど障害物の近くを走ることは危険であるということを子どもたちに指導する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1日2回	障害物の近くを走って遊んでいたため。	お遊戯場で遊ぶ際もコーナーで遊び場所を区切り、体を動かす遊びをできる場所を確保するとともに、ステージやピアノなど障害物の近くを走ることは危険であるということを子どもたちに指導する。	1.集団活動中・見守りあり	障害物の近くを走って遊んでいたため。	お遊戯場で遊ぶ際もコーナーで遊び場所を区切り、体を動かす遊びをできる場所を確保するとともに、ステージやピアノなど障害物の近くを走ることは危険であるということを子どもたちに指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもたちと一緒に遊びを展開しながら、全体の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	子どもたちと一緒に遊びを展開しながら、全体の見守りをしていた。	障害物の近くを走って遊んでいたため。	お遊戯場で遊ぶ際も、コーナーで遊び場所を区切り、体を動かす遊びをできる場所を確保するとともに、ステージやピアノなど障害物の近くを走ることは危険であるということを子どもたちに指導していく。	

No	初回掲載年月日	概要/認可・認可外	概要/施設・事業所種別	事故発生時期/月	事故発生時期/時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳/0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況/発生時状況	事故の転帰	死亡/死因	負傷/負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面/マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面/施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面/教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面/対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8240	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	26									5	4	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	5人の配置はあったものの、その園児に対する目の行き届きが悪かった。	職員全体で情報を共有し、安全対策に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	石碑の鋭角な部分が怪我の要因	石碑の鋭角な部分をサンダーで削り、今後の事故防止に努める。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が死角を作ってしまった	必ず危険と思われる箇所について保育士を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	●●に乗って友達と競争をしていた。その中で、石碑の裏の方へ行ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	競争していることをわかっていたが、大丈夫であろうという思い込みで、その園児に目を向けていなかったことが要因。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	競争していることをわかっていたが、大丈夫であろうという思い込みで、その園児に目を向けていなかったことが要因。	”危険であろう”という認識及び声掛けが不足していた	一人ひとりに目を向け、大丈夫であろうではなく、”～かもしれない”という危険認識を一人ひとりの職員が持つようにする。	
8241	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18									2	2	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	切創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	12	1.基準以上配置	保育士を2名配置していたものの、その園児に対する目の行き届きができていなかった。	職員全体で情報を共有し、安全対策に努める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	12	天気が悪く滑る状態である事を把握していなかった。	一人ひとりの園児に目を向け、何をしようとしているかを読み取る。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が目で追っていなかった。	一人ひとりの園児に目を向ける。	1.いつもどおりの様子であった	お絵描きをしていたが、本人が終わった事でカバンに一人で始末に行ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士の目の行き届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	机に座っている園児に目を傾けてしまい、被害者に目を向けていなかった。	”危険である”という認識及び声掛けが不足していた	園児はどの様な動きをするかを把握して、死角部分を作らないように努める。	
8242	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									2	2	17.5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	—	必要性が低い場合は戸外へは水筒を持っていかず、保育室で飲んでから戸外へ行き、戻ってから飲むようにする。	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	2	—	常に子どもの動きに気を配るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	—	水筒にひもを付け、肩にかけて移動する。	1.いつもどおりの様子であった	戸外へ出るために座って並んで待っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	電気を消すため、２メートルほど子どもと離れた時に、鳴き声で気づいて対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を必要とする子を見ていたのでその場は見ていなかった。	—	子ども達全員が水筒のひもを肩にかけたか確認をしてから次の行動をとる。	
8243	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	13									2	2	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右肩鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	保育者の死角に子供がいる時や動いたときの対応	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	12	—	駒回しを行う場所を広い所にする	1.集団活動中・見守りあり	—	駒回しを行う場所を広い所にする	1.いつもどおりの様子であった	—	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	対象児と一緒に遊んでいた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ保育室で他児の保育をしていた	—	保育者の死角に子供がいる時や動いたときの対応	
8244	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	22									1	1	18.6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	48	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	室内で、おもちゃや製作あそびではなく 体を動かしていた。(ジャンプ)	4.対象児の動きを見ていなかった	大きな音や泣き声等なく、対象児が怪我に至るような行動や様子が見られなかったこともあり気が付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	もう一人の職員は休憩時間中で、部屋にいなかった。	床材は、コルクを採用しており怪我がしにくいものとなっているが、不自然な体位で転倒したことによる。	部屋の中で飛び跳ねないように本児に伝えた。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8245	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	36				13	15	8			4	4	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯の脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	2.基準配置	3歳児が進級した年度初めは、3歳児が乗る時には意識的に職員がつくようにしていた。子ども達にもルールが定着してきていた為、鉄棒・ブランコ周辺に一人職員がつくようにしていた。	園庭での見守り方について、職員会で検討を行った。ブランコや鉄棒は大きなけがをするリスクがあるため、園庭で見守る立ち位置とその範囲の確認を共有した。	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	1	2.不定期に実施		ブランコ周囲にプランターで囲いをし、子ども達とも他児が使用している最中にブランコへは近づかない（囲い内には入らない）ようルールを設けていたが、それでも立入ってしまった。	ルールの徹底のため、再度子どもたちに伝えた。プランターの数を増やし、より入りにくいようにした。	1.集団活動中・見守りあり	なし	異年齢で過ごす際に、年齢の低い3歳児がブランコや鉄棒などの事故のリスクの高い遊具で遊んでいる時には、注意を向ける。	1.いつもどおりの様子であった	本児がどうしてプランター内に入っていってしまったのかは不明。	4.対象児の動きを見ていなかった	一番近くにいた保育士は、鉄棒の方についており、ブランコのすぐ近くにはいなかった。ブランコは他の職員が見てくれるとの認識があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その時は、職員がトイレや保護者対応など1対1の対応となっており、また遊具についていた職員は築山を挟んで反対側にいた為、ブランコに注意を向けている職員がいなかった。	その場を離れる場合などは声をかけていたが、誰かが見ているだろうと思いこみなどもあり、コミュニケーション不足・連携不足があった。	園庭で見守る立ち位置とその範囲の確認を共有し臨機応変に対応すること、離れる時は声をかけあい連携を図ることを再度確認した。	
8246	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	20									1	1	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左薬指末節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特記事項なし	危機管理マニュアルを見直し、職員で確認し合う	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	1	1.定期的に実施	3	特記事項なし	ヒヤリ・ハットを活用し、情報を共有して全職員の危機管理意識の向上を図る。	1.集団活動中・見守りあり	倉庫の扉を子どもだけで開け閉めしないという約束の徹底ができていなかった。	子どもに約束を徹底することと、子どもたちの様子を全職員で連携をとりながら見ていき、危険を察知する意識を全職員がもつようにする。	1.いつもどおりの様子であった	昼食後、気の合う友達と普段通り元気に園庭で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	常に全体を把握しながら保育をしているが、倉庫で扉を開け閉めしている状況には気付いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びに関わっていて至近で対象児の動きを見ていなかった。	危険が伴うと思われる倉庫で遊んでいる子どもへの見守りが十分ではなかった面がある。	職員間の連携を図り、全園児の動きを全職員で見ていくようにする。	
8247	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	39	6	9	24						12	12	13.1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	まだ園生活に慣れておらず、子どもがどんな動きをするか職員が予想できていなかった。	子ども達の動きをよく職員間で伝達し合い、突発的な動きにも対応できるように配置の工夫をする。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	柱と窓の隙間が狭い構造になっていて柱はコンクリートなため、ぶつかった時にけがにつながる可能性がある。	柱に段ボールとクッション材を槙、衝撃を少なくした。	1.集団活動中・見守りあり	歩行、バランスが不安定な年齢であり転倒しやすい。	転倒することを想定して柱の側で遊ばない。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児にも声をかけたがなかなか気持ちの切り替えができず、ホールでフラフラしていたので、対象児との距離があった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助教諭が側で見ていた。	ホール全体を見守りながら対象児を見ていた。	いろいろな子どもの動きを想定し、けがや事故が起こりそうな場所には必ず職員を配置し、一人の職員ではなく全職員で共通理解をし子どもの動きに対応できるようにする。	
8248	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	30									2	2	18.6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	1	2.基準配置	サッカーコーチが指導し担任は見守る中での指導であり通常通りだった。	サッカーコーチ２人、担任２人の配置の中で行われており特に問題なかった。	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	1.定期的に実施	300	いつも使用している公園であり整備されていた。	近くの公園で行い特に問題なかった。	1.集団活動中・見守りあり	サッカー試合中のけがであり、特に問題なかった。	サッカーの試合中のけがであり、特に問題なかった。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	サッカーコーチが指導している中で担任は見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ていたため対象児のけがに気がつかなかった。	足を捻った後もそのままを試合を続け変わった様子もなく、本人からの訴えもなかったので対応が遅れた。	ウオーミングアップをしっかりすると共に、運動後にけがをしなかったか声をかけ状況を把握する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8249	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	44				2	9	33			8	8	16. 4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	1	2. 基準配置	本児は跳び箱の６段を跳べるようになり喜んでいたが、嬉しさのあまり慎重さにかけていたことを把握できてなかったことが考えられる。	事故防止について実技研修等を行う。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	随時	跳び箱、ロイター板、マットは特に問題はなかったが、これからもしっかりと確認していく。	各点検に関しては、定期的にしっかりと確認していく。	1. 集団活動中・見守りあり	3歳以上のこども達が自由に跳ぶ中で、年齢や性格、個々の力量に合わせた個別の配慮を常に行うべきだったが、本児が6段を跳べることで怠ってしまった。	異年齢が一緒にあそぶ自由遊びでは、常に個別の動きや一人ひとりの発達段階等をしっかりと把握し指導していく。	1. いつもどおりの様子であった	朝から元気な様子で、跳び箱を跳ぶのを楽しみにしており、母親にも今度見せてあげたいと頑張っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の横につき、すぐに助けることができるように補助役としていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	視診、保護者対応をしていた。また、他の園児の遊びについていた。	朝の自由遊びの際に起きた事故なので、まだ体がスムーズに動けなかったことが考えられる。	跳び箱は朝の自由遊びでは取組まず、午前中の活動ではクラスでの活動で行うこととする。異年齢での自由遊びでは午後のみ行うこととする。	
8250	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46				17	15	14			3	2	18. 6歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	7	2. 基準配置	無し	マニュアルを形骸化させないよう、実例に応じて職員に意識付けする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	頻繁	無し	遊ばせる前に、再度遊具の点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	屋外であるため、園児たちも解放感があり、気持ちの緩みがあったと思われる。	約束ごと等、理解できる年齢なので、事前に説明をしておく。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒にぶら下がって、後方にいる友だちに、「ゆらして」と頼んだようである。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒に職員がついていたが、少し距離があった為、走って手を差し伸べたが落下する瞬間に間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見守っていたため、園児たちの行動、会話に気づかなかった。	年長児であっても、まだまだ何が起こるかわからないこと等、再認識する。	予想外の言動、行動を想定し、注意すべきこと等、再確認する。	
8251	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	40				14	13	13			3	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	7	2. 基準配置	無し	マニュアルを形骸化させないよう、実例に応じて職員に意識付けする。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	1	2. 不定期に実施	頻繁	無し。	遊ばせる前に、再度遊具の点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	屋外であるため、園児たちも解放感があり、気持ちの緩みがあったと思われる。	約束ごと等、理解できる年齢なので、屋外に出る前に鉄棒を勝手に使用しないよう注意をしておく。	1. いつもどおりの様子であった	鉄棒の所に先生がいない時には、してはいけない約束だったのに、ついしてしまった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	園児達が鉄棒をしていることに気づき、注意をしようとした瞬間に落下し、手を差しのべるのが間に合わなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児2人がもめていたので、その対応に追われ見ていなかった。	予測のつかない行動で、動きも素早く制止できなかった。	鉄棒の横には必ず職員配置をし、その時のみ遊ばせる。	
8252	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	24									2	2	16. 4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	3	1. 基準以上配置	配置以上の職員がいても抜けている場所があることを自覚する	研修は行っているものの、常に事故やケガを予測し事前回避することが必要	1. 定期的に実施	10	1. 定期的に実施	5	1. 定期的に実施	3	施設・設備に関する不備は見当たらなかった	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	雪山は冬場だけしかできない山であり、その時の降雪や温度により雪質や斜面も変化する。	その時々の遊び場の環境をチェックする	1. いつもどおりの様子であった	大好きな雪遊びでみんなテンションが多少上がっていた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	そり遊びでの衝突がないように声がけしながら見守っていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	斜面の陰や離れたところで遊ぶ子を見守っていた	複数の職員で見守っていたが止められなかった	遊び始める前に子どもたちと安全に遊ぶための約束を確認する	
8253	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	12	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22									3	3	17. 5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手首橈骨若木骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	3	2. 基準配置	子どもの身体についての確認不足のため	活動する際に自分で危険予測が意識できるよう呼び掛けたり、安全に活動できるよう見守ったりする。	1. 定期的に実施	2	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	24	—	活動する場の環境を整え、十分な見守りの中で安全に取り組めるようにする。	2. 集団活動中・子ども達のみ	手をつないで歩いていたため、何かの要因で躓いた際にバランスが取れなかったのではないか。	移動する時には周囲の様子に気をつけながら歩くよう指導する。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず、機嫌よく元気に登園した。掃除に対しても意欲的に取り組んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育室で掃除をしている園児の指導をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室から玄関へ移動するので、園児を誘導する形で先頭に立ち歩いていた。	—	場所を移動するときには、職員と一緒に行動し園児の様子を見守る。廊下を歩く際の約束などを都度伝え園児の意識を高める。	
8254	令和4年11月28日	1. 認可	1. 幼保連携型認定こども園	11	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	41			19	22					3	3	14. 2歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	１～２	2. 基準配置	—	マニュアルや職員配置などには問題がない。ヒヤリハットを書くこと、それを共有することを徹底する。	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	1. 定期的に実施	12	—	危険個所の確認をし、職員一同で共有していく。	1. 集団活動中・見守りあり	—	廊下が混雑しているときは、少し待ってから移動する。他クラスの状況も把握する必要がある。	1. いつもどおりの様子であった	遊戯室・体操遊びという、特別な時間に、気分が高揚していた。他児も同様の感情であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室がある2階階段に続く廊下に、2歳1クラス全員が集合してから移動しようと、先頭に1人担任が待機。その後ろに1列に子どもが並ぶ。後方より数名の子どもとともに11名の担任が合流する。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	後方から数名の園児とともに合流する。	—	園児に廊下は走らない、周りをよく見るなど声掛けをする。徹底する。３名の担任がいるので、中間に１名配置する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8255	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	3									3	3	15.3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12回以上	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	園庭で年少組全体に雲梯やその他の遊具での遊び方、気をつける事について話した。また、年少児は雲梯と太鼓橋は遊ぶ前に保育者に伝えて許可を得てから遊ぶ事を約束した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	雲梯の高い所からスタートし、二番目の棒を掴もうとした際に上手く掴めず左手でぶら下がりそのまま手を離してしまった。落ちた際に右肘が下となり体を受け止めた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	多くの園児が外で活動していたので、全体を見渡しながら指導をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	多くの園児が外で活動していたので、全体を見渡しながら指導をしていた。	特になし	特になし	
8256	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	19				9		10			2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨々幹部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	職員会等で職員に周知する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		—	特になし	7.その他	—	特になし	1.いつもどおりの様子であった	3人一緒に段ボールに乗って滑った	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は堤防の上にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児もいたため見ていなかった。	今までも複数人で一緒に乗り滑る事があったが、大きな怪我など起こっていなかった為、大丈夫だろうという保育教諭の過信があった。	1人で滑っても危険は伴うが、複数人で滑る事の危険性を認識し、子ども達にも伝える。	
8257	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	18.6歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	毎日	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの姿であったが、保護者の姿が見え、少し急いで保護者のもとに向かおうとした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の降園挨拶を行っていたたが、本児が近くにいた為、つまずく瞬間を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	補助教諭は自転車で迎えに来る保護者の誘導をしていた。	保護者が迎えに来た時に焦って走って転倒した。	保護者が迎えに来た時に焦って走ると転倒する恐れがあるので、落ち着いて歩いて保護者のもとに行くように子どもたちに声をかける。	
8258	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	122				27	57	38			7	6	16.4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨頭骨折・右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	36	2.基準配置	運動面で気になる子の園児の特性に見合った目標設定の把握。	研修により、運動面で気になる子の園児の特性も周知する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	鉄棒はしっかりと固定されており、地面にはクッション性のある芝が敷いてあるため改善の必要はないと思われる。	3.個人活動中・見守りあり	運動が得意ではなく、握力等もまだ弱く、転倒した際などよくケガする園児だった。	本人の体力向上・また、当児の場合は、更に注意深く見守る。	1.いつもどおりの様子であった	お友達の影響もあって、積極的に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	側で見守っていたが、手をさしのべた際には、間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれの担当の場所につき、他児見守りや遊びへの参加	一番小さい鉄棒であるという安心感から生まれた職員の意識	練習の際には更に注意深く見守る。	
8259	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	40									5	5	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨端線の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2〜3	1.基準以上配置	開催通知、内容を文書で受け取り、口頭ではコロナに対する対策を中心に確認したが、実際のゲームに関しては例年行っている為、細密な打ち合わせは実施しなかった	高校教諭との事前打ち合わせで、今年度の経験を活かして危険予測をより細かくした上で交流行事を実施する	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	保幼園で使用しているボールよりも硬いボールだった。	サッカー教室開始前にボールに触れる時間を設けることで、子どもたちが硬さを認識し危険予測ができるようにする	1.集団活動中・見守りあり	日頃保幼園で使用するボールよりも、サッカーボールが硬いことへの受け身の演習が無かった	次年度の交流企画の際、硬いボールに直接手を触れるときの注意喚起を行う	1.いつもどおりの様子であった	他児が蹴ったボールを取りに走って向かっていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ステージ上で、子どもたちの補助をしながらグループの子どもたちの様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の近くには1名のみ。5つのグループに分かれての活動だった為、他の4人の保育者はそれぞれのグループの子ども達の援助をしながら自分の担当するグループを見守っていた。	特になし	特になし	
8260	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	—	全職員が危機感を持って事故防止に努める。事故対応マニュアルの見直し、事故防止について再度共通理解しておく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	手に物を持っていたことで、体のバランスを崩し、転倒する要因になったとも考えられる。	事故防止のための取り組みの「事故防止チェックリスト」をもとに再確認する。	1.集団活動中・見守りあり	自分で必要な物を用意し、意欲的な姿が見られ、出かけることを楽しみにしている姿が伺えた。早く行きたい気持ちから走り出したと考える。	いつも使っている玄関ではないところからの出入りや手に物を持っているときの対応など、何が起こるかわからないので十分に注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり意欲的な姿や活発に遊ぶ姿が見られていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員も子どもたちと同じような動線で動いていたので、対象児の転倒にすぐに気づき駆け寄った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラス全員が保育室から出るのを確認した後、対象児の鳴き声で転倒していることに気づき、周りの子ども達の配慮を行った。	対象児は、●月に不注意による怪我が多くあったことから、落ち着いて行動することが課題となっていた。	子どもの状況に合わせ必要に応じて、慌てず立ち止まり、気持ちを落ち着けて行動できるように関わるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8261	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	32									3	2	18.6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手小指剥離骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	随時	2.基準配置	特になし	遊びの中で安全に気を付けていけるような啓発の仕方をもう一度見直し、研修を進める。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	随時	特になし	ドッジボールはコートを作る場所、コートの広さ、人数も適正だったと思われるので、改善策は特になし。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	危険な遊び方をしていると思われるときは、子ども達とルールの確認をしながら安全な遊び方を伝えるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変りなく過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児がドッジボールをしている場所でゲームを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分のクラスの園児を中心に見ていたので、対象児の動きは把握していなかった。	特になし	ドッジボールをしていた場所で見守りをしながら声もかけていたので、改善策は特になし。	
8262	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	30				10	10	10			3	3	18.6歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	特になし	ヒヤッとした経験を職員間で共有する。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	特になし	配慮事項等を職員間で共有する。	1.集団活動中・見守りあり	走り方が不安定、突然足を痛めるような走り方をしてしまう。	遊びの中に体幹を強くする動きを取り入れてみる。	1.いつもどおりの様子であった	一日元気に過ごす。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任保育教諭も加わってこおり鬼で遊んでいた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至	降園時間なので、3歳児4歳児クラスの降園を待つ	特になし	いつものように遊んでいても、走り方によっては、痛みを伴う怪我があることを共通理解する。	
8263	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				8	12	7			2	2	16.4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	外傷性中耳道炎	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	1	2.基準配置	留意する必要のある本児であったため、もう少し見守りが必要であった。	事故防止マニュアルを再確認し、研修の実施により職員に周知を行う。	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	1.定期的に実施	240	施設整備については特に問題はない。	特になし	1.集団活動中・見守りあり	机と机の間の通路が狭かった。	机と机の間隔をあけ、人が通るのに余裕を持たせる。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおりの登園で、いつも通り昼食を終え午後の活動に入った。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児から離れたところで見守りをしていたが本児の粘土ベラを入れている行為に気づけず、本児が泣いたため気が付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の近くにいたが背中を向けていたため、本児の行為に気づくことが出来なかった。	異年齢保育で普段の担任とは違う保育士が担当をしている。	他クラス園児の性格や行動パターンを把握する。2名以上が担当する場合、役割分担を話し合い保育にする。	
8264	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	7									1	1	16.4歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	4	2.基準配置	事故時、担当者(新任保育教諭)が、「子どもの行動」の予見、観察を的確にしていなかった。	新任保育教諭の安全に対する対応・技術の研修を行う。	1.定期的に実施	4	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	4	トイレの出入口の扉は引戸で、子どもが手を挟まないように扉(引手下部)に隙間がある仕様になっている。引手から上部は隙間がない為手を挟んだ。また、トイレ内の子どもの様子が見えるように窓が上下にはめ込んである仕様。(●製・木製)	扉の開閉は、常日頃より丁寧に行う。	1.集団活動中・見守りあり	保育教諭が閉めかけた扉に子どもが慌てて手をかけた一瞬の出来事。	子どもの行動を予見しながら業務を遂行する。	1.いつもどおりの様子であった	排泄後、部屋には戻らずトイレから隣の保育室へ行き、年少児の遊ぶ様子を見ていた。保育教諭が戻るよう声をかけたが戻る様子がなかったので、トイレの入口扉を閉めようとすると、閉めかけている扉に本児が慌てて手をかけた。その際、扉で左手の薬指を挟んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室にて、朝の準備をしている子ども、準備が終わり机で遊んでいる子ども、トイレに行った子ども等全体を見ながら、本児に声掛けを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士以外保育室にいなかった。	子どもの姿を見ながらドアをゆっくり閉めたが、子どものとっさの行動に対応しきれなかった。	担当保育士はドアの開閉に子どもの行動や危険を予測して行動することを徹底する。	
8265	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									1	1	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の脱臼	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	全体的に見ていく保育者の位置や、各年齢での発達を把握し安全に努めていた。	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	1.定期的に実施	毎日	特になし	安全には心がけており、掃除の水拭き後に転倒しないように子どもに声をかけたり、落ちている玩具はすぐに拾うようにして注意を払っていた。	1.集団活動中・見守りあり	手洗い場付近の空間は開けていたため、数名の子どもたちは走り回る等、落ちついた環境ではなかった。	クラスの机の配置を見直し、椅子に座って落ち着いた遊びができるように整える。（集中して遊べるように遊びこめる玩具を増やしていく）	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	手洗い場で鏡を見ながら踊りをおどっていた。楽しい気持ちから興奮気味だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児のトラブルの対応をしていたため、転んだ物音と泣き声で気づいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	夕方の17:30頃の保育の為、担当職員1名の職員での保育だった。	興奮気味な両者（本児、友達A）を見て怪我につながる可能性を考え声をかけていたが、他児のトラブルの対応に気をとられすぎていた。	全体的にしっかりと遊びの見守りをできるよう落ち着いた遊び（構成遊び等集中しやすい物）の誘いかけをしていく。また、全体的に見れるよう職員配置の工夫をしていく。落ち着かない雰囲気があった場合はすぐに他の職員に声をかけ見守りを手厚くする。	
8266	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15					7	8			1	0	17.5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施		1.基準以上配置	—	ケガにつながる指導がないか外部講師の監督を行う。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	24	—	遊具等の異常での発生ではないが、遊具や教材等について問題がないかは定期的にチェックを行うことを継続し予防に努める	1.集団活動中・見守りあり	—	外部講師の指導中も、どのような内容を行っているのか園として確認を行い、ケガにつながる指導がないか監督を行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り習い事に送り出した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	該当児につき、跳び箱の補助を行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外部講師の指導時間であったため、園の職員は配置されていなかった。	—	跳び箱への練習の段階をそれぞれの児にあった段階であるのか見直しを行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8267	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	1.朝(始業〜午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	48									25	22	18.６歳	2.女児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	ヒヤリハット予防の徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全点検簿にて、毎月確認	7.その他	—	登園の際も、全職員で園児の安全を見守るようにする	1.いつもどおりの様子であった	登園時、2階の教室に行く途中階段で転び、膝と胸を階段の角で打つ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を至近で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	非常勤職員も配置しており、見守っていた。	—	階段で転ばないように、職員が近くで見守り、事故防止に気をつけるようにする	
8268	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	81									13	11	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	—	ヒヤリハット予防の徹底	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	安全点検簿にて、毎月確認	1.集団活動中・見守りあり	—	集団活動中は、全職員で全園児の安全を見守る。	1.いつもどおりの様子であった	預かり保育中、ロープがある固定遊具で遊んでいたところ、手を放してしまい右側にある手すりに肘をぶつけ地面に落下。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を至近で見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	—	—	固定遊具は特に注意して園児の動きを確認するようにする。	
8269	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	89				28	32	29			3	2	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨開放骨折・左肘脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	当該事故に関連する要因として遊具の置き場が離れていたことがあげられる	事故防止について各学級で検討しその結果をまとめ、職員間で協議。改善策として遊具を置く場所が死角にならない場に移動し、さらに職員配置を改善する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施		今回は走って急いで遊具を取りたいということが大きな要因なので、歩いて遊具を取りに行くことの約束化を徹底する。	歩いて取りに行くこと・職員配置の考慮・遊具を置く場所の検討を図り、職員の死角をなくす。	3.個人活動中・見守りあり	午睡後、おやつ終了後で園庭での活動に興味・関心が集中していた。	歩いて取りに行く・職員配置を考え危険を避ける・遊具を置く場所の移動。	1.いつもどおりの様子であった	午睡後おやつを食べ、午後の活動が開始されたので急いで遊具を取りたいとしたことが要因	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	活動開始前に一斉指導をしてから自由活動に入ったので、個別対応にスキがあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年少・年長児も園庭で活動中だったが、学年の園児の指導にあたっていた。	遊具設置場所が一定で、遊具の取り出しが同一方向になり集中しやすいこと。	職員配置場所・遊具設置場所など改善する。走らない(歩きましょう)の指導。	
8270	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	132	3	6	10	39	38	36			19	19	16.４歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	2	1.基準以上配置	—	引き続き、研修を実施する。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	358	1.定期的に実施	358	—	引き続き、点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり	—	その時の状況に合わせて、臨機応変に職員が見守ったり、動いたりする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	外遊びの時間が終わりになり、あともう１回総合遊具ですべり台を滑りたい気持ちが強く、焦って総合遊具に上っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	総合遊具の近くの木の傍で、木登りをしている他児を見ながら本児を見ていたので、落下の瞬間は見れたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員が他にグラウンド側に1人、総合遊具のすべり台側に1人、子どもたちを見守っていた。本児が落下した姿は見えたが、間に合わなかった。	総合遊具の上り口には職員がついていなかった。	総合遊具の上り口にも職員がついて、子どもの遊具の使い方を見守るようにする。	
8271	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			10	18	15	15			6	6	18.６歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘のヒビ	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	2.基準配置	特になし	怪我当時の状況を共有した。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	転倒があった場合にでも怪我につながる事がないよう、今後も充分に配慮していく。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	転倒があった場合にでも怪我のないよう環境を考えながら設定していく。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で元気に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に遊んでおり、本人の遊びを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭あそびでそれぞれの持ち場で保育を行っていた。	特になし	転倒し怪我をすることも十分に考えながら声掛けをしていくことが必要であると考える。	
8272	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	18				6	6	6			4	3	15.３歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	3	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	元気にあそぶ様子がみれらた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	選択あそび中は、数名の保育者でポジショニングしており、他児との関り中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	選択あそび中は、数名の保育者でポジショニングしており、他児との関り中だった。	一瞬の出来事であったりその場にいてもケガを防ぐことは難しかったが、ケガを軽くすることはできたかもしれない。	危険個所への意識向上	

No	概要						発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事士・放課後児童支援員	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育		年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8273	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	28									1		1	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	4	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	48	1.定期的に実施	48	特になし	特になし	1.集団活動中・見守り	職員1人で子どもをみていたが出状況であった。走るもいと子どももと員はのずっきは難状況だった。	遊んでいる子どもの様子や職員の人数により、遊びの内容の変更や遊具を使っての職員の安全に配慮する。	1.いつもおお様子であった	転落する棒前に鉄棒の上に座ったため、担任のは座危ないと声ならが、ま落する	3.対象児の見ていた子どもの様子を確認するために、見ていることを確認するが、他の子どもの見ていることを確認するが、他の子どもの見ていることを確認するが、他の子どもの

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	事故発生時期：時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8277	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	7.午後	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6.5歳以上児クラス	25									2	2	17.５歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面（口腔内含む）	外傷性歯牙脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	6	2.基準配置	・園庭遊びを終えて保育室に戻る際、主担保育教諭ではなく副担保育教諭が声をかけた。副担保育教諭はその時点での園児全体の動きを把握できていなかった。・歯が抜けた際に使用するべき歯の保存液があることを職員が思い出せなかった。	・園児全体への声かけは、１日の流れを把握できている主担保育教諭が行い、園児全員が集まるまで見守るようにする。・こども園職員において、園児の事故や怪我に対しての応急処置の研修を定期的に行っていく。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	・テラス前側溝のふたが赤茶色であり、園庭の地面の色と同化していたため側溝の段差に気づかなかった。・側溝と園庭地面に段差があったことでつまづいてしまった。	・側溝のふたの色を地面と違う黄色に塗り替え、目立つようにした。・週１回の側溝ふた掃除に加え、段差をなくすように園庭の土をならす。段差がないか安全点検の項目を追加する。	1.集団活動中・見守りあり	５歳児は●月から午睡がなくなり、生活リズムに変化があった。事故発生時間は園児の気持ちが落ち着きにくいことや、体力的に疲れやすい時間帯であった。	午睡がなくなってからの園での過ごし方を園児の様子に合わせて見直していき、園児一人一人の状況を見ながら個々に合った休息が十分に取れるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調もよく、普段通り給食後に室内遊びをし、その後休憩タイムをはさみ、砂場で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭遊びを全体が見えるところで見守っていたが、事故発生時には該当児の方向を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員とともに全体を見守っていたが、事故直前にトラブルに発展しそうな園児たちの対応をしていた。	・事故発生時、担任保育教諭が２名とも該当児の方向を見ていなかった。・側溝付近を走ることで、すべったり転倒することを予測できていなかった。	・園児一人ひとりの状況を把握し、転倒するリスクの恐れがある園児について職員が意識するように職員会議で共有を行う。・側溝付近や段差が有るところでは走らないように日頃から園児に安全教育を行なう。	
8278	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方（16時頃〜夕食提供前頃）	1.施設敷地内（室内）	7.異年齢構成	4				3		1			1	1	15.３歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	3	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	活発な男児で、友達と関わって遊ぶことを好む子である。当日は、登園時から教育時間、その後の預かり保育と平常時と変わりなく活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	モップがけをしながら滑り台で遊んでいる４人の子どもの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育の反省・次の日の準備とそれぞれの活動をしており，遊戯室での遊びの様子は見ていない。	あと数人しか残っていないという保育教諭の心の緩みがあり，子どもたちの様子を見ているようで，見ていなかった。	年齢が低く体力のあまりない年少児は，夕方になると気づかぬうちに疲れから注意力・集中力が低下することが考えられる。そのため，遊びの種類や遊び方等細やかに観察して言葉がけなど配慮していく。	
8279	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	6	8.夕方（16時頃〜夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	5.4歳児クラス	25									2	1	16.４歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	左尺骨骨幹部骨折、左モンデジア骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	2.基準配置	特になし	事故当時一番最初に対応した職員、看護師共にマニュアルの動きに沿って迅速に対応出来ており、病院受診によって職員配置に変更が出たが、主幹教諭の指示によって必要数の職員の配置は速やかに手配出来ていた。	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	1.定期的に実施	24	特になし	事故発生において施設・遊具等の不具合は見られておらず、安全点検担当職員によって適正に定期的な点検の実施がなされていた。	1.集団活動中・見守りあり	以上児クラス（３クラス）の園児が園庭に出て遊んでおり、混雑してはいないものの、人数が多く、近くで駆け回るなど違う遊びをする他児が行き来する状況であった。	追いかけっこ等の駆け回る遊びを行う園児には、園庭の中でも走りやすい広いスペースへ誘導し、その他の遊びを行う園児と空間を分ける。職員へも園庭での注意事項を周知徹底し、園児を随時適切なスペースへ誘導出来る様にする。	1.いつもどおりの様子であった	段差は高くなく、本児自身も降りれると考えた為、ジャンプをしている。実際体操の時間等で同様の高さからのジャンプを、難なく降りる事が出来ている。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の体操を担当している職員が至近で見ていた職員であった。体操で難なくジャンプする高さがあった為危険と判断せず、本児が降りようとした時に注意を行わなかった。また、駆けてきた他児が直進していた所から急に曲がった事もあり、衝突の瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	園庭で他の園児の対応をしており、衝突時は見ていなかった。	特になし	普段なら危険のない事でも、多数の子どもが行き交い遊ぶ状況下での危険性を充分理解し、判断する必要がある。様々な状況の予測をし行動出来るよう、実際の事故事例を元に定期的に研修を行い、知識・経験を培う。	
8280	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	8.夕方（16時頃〜夕食提供前頃）	1.施設敷地内（室内）	7.異年齢構成	15				7	3	5			2	2	18.６歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	鎖骨にひびが入る（痛みが出る動きはしないようにとの指導。固定なし、運動制限なし）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	10	1.基準以上配置	きょうだい児のじゃれ合いについて目を配る	職員会議、各種ミーティングで検討を加える	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	1.定期的に実施	10	—	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	—	安全確認と子どもたちの見守りを強化する	1.いつもどおりの様子であった	きょうだい児とじゃれ合っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内の子どもを見守る役目を担っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	—	—	周囲をよく見て遊ぶように促す	
8281	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	2	1.朝（始業〜午前10時頃）	1.施設敷地内（室内）	7.異年齢構成	30				8	11	11			2	1	16.４歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	2.基準配置	登園してくる子もいる中で走る等動きのある遊びをしていたので、静かに遊べる遊びを設定するべきだった。	職員の目が届きやすい動きの少ない、落ち着いた遊びを設定する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	なし	毎月一回安全点検を行っている。改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	友だちと遊ぶことが楽しく、気持ちも高揚し走る遊び等が予想された。	ブロック、お絵描き、ぬりえ等座って落ち着いて遊べる遊びを設定する。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとかけっこやおにごっこをして遊ぶ	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園してきた子の人数を確認しながら対象児が遊んでいる様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	登園してくる子の受け入れをしていたため見ていなかった。	職員間での連携が取れていなかったことが考えられる。	朝保育は担任でない職員が入ることもあるので、職員同士連携をとるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8282	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	40				14	15	11			3	3	17.5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	1	1.基準以上配置	3人の職員が要所ごとに散らばり、園庭の子ども達を見守っていたが、瞬時の出来事で防ぐことが出来なかった。	子ども達に遊具の使い方や安全のためのルールを再指導していくとともに、園庭遊びでの職員の立ち位置を再検討する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	雲梯には問題なし。園庭が広くないので、園児が走り回れるスペースを広く取り、設置には安全面を考慮したつもりであった。	園庭は全面砂場で大きな事故は無かったが、この度のことを受けて雲梯下にクッション性のあるものを考えていく。	3.個人活動中・見守りあり	雲梯の位置が階段下りてすぐ近くにあるため、下りてくる子どもの方に自然に視線が向いてしまいがちになる。	段階を追って雲梯に慣れていくために、ぶら下がり専用の場所を考慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	本児は雲梯にぶら下がることしかできなかったが、同クラスの友達がどんどん前に進むのをみて、自分もやりたいの意欲はとても高かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	自分のクラスの子ども達が雲梯に興味をもってやりたがっていることを知っていたので、見守りはクラス担任がしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は、担任が見守っているので安心して、雲梯で遊ぶ以外の子ども達を見守っていた。	雲梯の近くにいたとはいえ、職員が雲梯ばかりを注視していたとはいえない。	雲梯の傍にいる職員だけでなく、他の場所に立っている職員も広く全体的に目配りすることを再確認していく。	
8283	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45				15	15	15			4	3	16.4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施		2.基準配置	当日の遊具の状態確認についての確認が出来ていないのではないか	毎日の点検の強化	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	2.不定期に実施	1～2	—	固定遊具における安全点検は充分であった	3.個人活動中・見守りあり	駆けおりるかもしれないのに 止められなかった	4歳児の特徴を考えて遊び方のルール等 園児職員で再確認する	1.いつもどおりの様子であった	4歳児クラスの中でも 活発に動く園児である	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	異年齢が活動始める 朝一番の時間であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	異年齢の活動が始まる朝一番の時間だった	活動が落ち着かない不安定な時間帯であった	定期的にマニュアルの再確認が必要である。●職員会議で職員に周知する	
8284	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	1	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	24									4	4	15.3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	12	2.基準配置	予測できない動きを止めることが出来なかった	リスクマネジメントにて検討を行い、職員に周知を行う	1.定期的に実施	36	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	36	なし	床面における欠陥はなかった	1.集団活動中・見守りあり	イスに座らない子に対しての関わりが曖昧だった	集団から離れた子がいる場合傍につくか、声をかけ座るように誘いかける	1.いつもどおりの様子であった	他児とスキンシップをとっていて床に丸まっていた本児の上に他児が乗っかる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他児が本児の上に乗った際に止めに入る。本児の様子を確認した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	1人の保育者は朝の会を行いながら離れた場所にいた。他の2人は朝の会の補佐、もう1人はトイレの介助をしていた。	スキンシップをとりたくて他児が本児の上に乗ってしまった。	他児に職員が個別につき、関わり方や遊び方を伝えていく。	
8285	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57	4	8	12	11	11	11			16	12	17.5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	12	1.基準以上配置	該当なし	該当なし	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	2	1.定期的に実施	12	該当なし	該当なし	1.集団活動中・見守りあり	遅番児童や保護者対応をする職員と、保育を担当する職員の役割分担が明確でなかった。職員間の連携が足りなかった。	遅番保育時の職員の役割、担当の確認を行い職員間で周知をした。	1.いつもどおりの様子であった	大型遊具の滑り台から滑り終わり、着地し次の目的場所に向かおうとした時に左足首を捻った。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遅番担当職員は、本児が5歳児であり園児同士で遊んでいたことから、常に側にいた訳でなく、本児からの申し出や痛がる様子も無かった為、本児が怪我をしたことに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遅番保育中で、子どもの引き渡しや保護者対応をしていた為、本児の姿に気づけなかった。	本児は、日頃から怪我に繋がるような行動が多く見られていた。怪我をした時や困った事があった時に本児から職員に伝える事が少なく、家庭で母に報告をする為、すぐに怪我をしたことを気付くことが出来なかった。	他クラス園児の性格や行動パターンを把握する。2名以上が担当する場合、役割分担を話し合い保育する。	
8286	令和4年11月28日	1.認可	1.幼保連携型認定こども園	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	7									1	1	18.6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上前歯の打撲	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	2	1.基準以上配置	—	再発防止に向けて今後の安全管理の役割について、話合い共通確認する。	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	1.定期的に実施	12	—	保育室の出入り口付近は、保育室からも廊下からも見えにくい為、気を付ける。	1.集団活動中・見守りあり	—	小人数ではあったが、廊下に出ないよう声を掛ける。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わらずいつも通りだった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児全体を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	固定遊具についたり、全体を見守っていたり分担をして配置していた。	—	事故の起こった室内には、職員が1人だったが園児も少なかったので人的面には問題はなかった。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8287	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	9	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	16									2	2	4歳	1. 男児	無し	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左横骨尺骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	固定遊具の網には座らないという思い込みで、子どもの行動に対し危険予測に欠いていた。	危険予測の共通認識を再確認し、徹底する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	無し	事前点検で遊具に破損劣化は無かった。	1. 集団活動中・見守りあり	大型遊具1F、2F共に死角が無いよう使用範囲を制限し、遊具使用について子ども達と約束をし安全に見れるよう連携を取っていた。しかし、部分的に子どもが集中する場所が発生し、保育教諭の視線が子どもの集中部に向きやすい環境が生じた。	子どもの集中を防ぎ、安全に見きれる範囲で大型遊具の使用場所を制限する。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	運動会後、久しぶりの園外保育で気持ちが昂っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	丸太橋付近の子どもたちのトラブル対応を行うため、本児の安全を目視で確認した後、視線を外して他児へ注意喚起している間に落下し事故発生を見逃した。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	2Fから1Fの本児が見える所で、滑り台を中心に子ども達を見ていたが、梯子遊具の子ども達が集中してきたため、1F,2F全体の安全を確認し梯子付近まで移動し子ども達へ声をかけていた為本児が転落するのを見逃した。		子どもが約束を守って遊具を使用し、落ち着いて遊べるようこまめな声掛けをしていく。	
8288	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	37		18	19						7	6	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		6. その他	4. 上肢(腕・手・手指)	右関節肘内障事故	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特段泣くこともなく、遊んだ後に保育士に腕を強く引っ張られたと訴えたことにより、保育士が気付く。	普段の手をつなぐことでも肘内障になることを確認し、当面手をつながない遊びをする。	1. いつもどおりの様子であった	泣くこともなく、女児と仲良く手をつないで遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通り、仲良く遊ぶ姿を確認	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	特に意識はしていなかった。	普段と変わらない状態の中で泣くこともなく、静かに女児に手を引っ張られたと訴えた。	（当面手をつながない遊びをする）	
8289	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	7	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	45			9	11	16	9			5	5	3歳	2. 女児	嘱託医より、レントゲンの結果、上顎左側乳中切歯は陳旧性の破折であり、今回の外傷による破折である可能性は低いと説明有。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上顎右側乳中切歯外傷性歯の脱臼、上顎左側乳中切歯外傷性歯破折	8. その他	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(11)回/年	1. 基準以上配置	職員一人ひとりが、これまで以上に周囲への危険を察知するよう注意を払う。	外部の人が来園した際、事前に園長からこども達との関わりの中で危ないと感じた際は声掛けさせてもらうことを周知する。保育者は外部の方とこども達が遊んでいる様子も視界に入れ、危険を感じた際はすぐに声をかけ危機回避していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日			1. 集団活動中・見守りあり		けがにつながらないように保育者がより注意深く、子どもを見守る。	1. いつもどおりの様子であった	理事長と遊ぶまでは、担任の先生と過ごしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	近くで本児を含むこどもたちと一緒に過ごしていたが、怪我する瞬間は見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離にはいたが、怪我する瞬間は見ていなかった。	保育教諭ではない大人が子どもと関わり、その延長で起きた事故。特に理事長はほぼ毎日、園に足を運び、こどもたちとのふれあいも大事にされていたが、危ないと感じた時に直接伝えられない弊害はあった。	外部の人が来園した際、事前に園長からこどもたちとの関わりの中で危ないと保育者が感じた際は声を掛けさせてもらうことを周知する。保育者は外部の方とこどもたちがあそんでいる様子も視界に入れ、危険を感じた際はすぐに声をかけ危機回避していく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8290	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33				7	11	15			5	5	4歳	1.男児	診断名発達性協調運動障害（運動機能の特異的発達障害）で保育士の加配が認められている。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨若木骨折	8.その他	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置		本児の特性を理解し、安全に過ごせるように会議などで話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり	異年齢で活動していた。本児の動きを規制しなければならなかった。	本児の欲求を満たせるような遊びの空間を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	自分の行動を止められ腹をたてた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が担当職員を蹴ろうと突進してきたが、それをかわすと他児が危険と思い抱えて止めようとした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が怒っているのを見ていたが、担当職員が対応していたので見守っていた。		特になし	
8291	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	33	6	5	6	6	6	4			10	10	5歳	2.女児	鬼ごっこをしている際に、鬼の方に気をとられ、半身になってバランスを崩し転倒したが、左手をついたときに体重がかかったのが骨折の一因と考えられる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第五指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	体重の増加とともに機敏な動きや転倒時の受け身がとりにくくなっていることも事故の要因と考えられる。	遊びののルールやマナーの徹底、危険な行為の確認等を随時行うと共に、十分に児童の様子を観察しながら必要に応じて休憩させる等の配慮を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	転倒した原因が施設の老朽化や不備等によるものではないが、床面と壁面で結露による補修が必要なところが3カ所ある。	補修が必要な箇所の要望を上げる。	1.集団活動中・見守りあり	今回の転倒事故には直接関わらないが、遊戯室周りに配置してある遊具や収納箱等が事故の原因となり得るので遊ぶ範囲等で十分注意する。	特にホールでの遊びの際の見守りには、目を切らさないよう十分に気をつけていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおり楽しく安全に遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児から目を離していたが、転倒にすぐに気づいて対応した。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体の様子を常に見守っている。	担当保育士が全ての子供たちの安全確保が十分できていない可能性もある。	担当保育士が全ての子供たちの安全を確保できるための遊びの種類や範囲を配慮することも必要	
8292	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14				6	8				2	2	4歳	2.女児	出生時より左肋骨5番目に小さな瘤があり4歳になったのを機に病院受診をする。現時点で問題はないが経過観察を行って行く。医師からは転倒に気を付けるよう保護者に助言があり、保育園でも気を付けている。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯陥入	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	危険な行為を伝える事を優先してしまい、他児から離された不安や注意される事への抵抗など本児の気持ちへの配慮にかけていた。	担当児ひとり一人の行動予測を行い安全な状況下で保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	園内の床はウッドフローリングが殆どで一部クッションフロアとなっている。乳児クラスはウッドフローリングの上にジョイントマットを敷き転倒防止をしていたが、廊下や幼児室は固くて滑りやすいウッドフローリングとなっている。	ウッドフローリングに滑り止めワックスを施す。	1.集団活動中・見守りあり	廊下や保育室の床が滑りやすく室内では裸足で生活をしているのだが、園外活動時は靴下を着用している。園外活動から帰ったばかりで靴下を着用していた為滑るリスクが高かった事に対しての環境の見直しがなされていなかった。	幼児クラスは園外活動をする際、玄関内で靴下を着脱する。	1.いつもどおりの様子であった	保育士が手すりを使いゆっくりと上るよう声掛けしたが、本児は聞き入れず我先に階段を一段飛ばしで上っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	危険な行為を伝える為他児から離して保育士の側に移動させ、他児がトイレに行くのを見守っている間、本児が保育士の右腰を強く押し足が滑って転倒したが、転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスごとに階段を上ることになっていた為、園児8名と階段下で待機していたので状況は見えていなかった。	複数人を担当している中での個別対応は他職員との連携が必要となるが、担当人数が少なかったことや、他児が落ち着いてトイレに移動していたことで一人で対応ができると思っていた。	個人対応をする時、他の保育士のサポートを得ながら行う。サポートが得られない場合は、落ち着いた環境の中で対応をする。	
8293	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	3				13	12	14			3	3	4歳	2.女児	当所短期間の通院見込みだったが、経過観察の都合上、治療に要する期間が1ヶ月以上となった。	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	斜頸	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	特になし	事故防止意識向上の為、職員が危険と感じる場面・解決策を会議で話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	万が一薄暗くなってから移動する場合は、園舎横門を使用せず、園庭から裏口を使い園舎へ入る。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	狭い通路は一人ずつ歩く。子どもへの注意喚起の声掛けも行う。	1.いつもどおりの様子であった	友達と手をつなぎ列の後方を歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	転倒していない状況は把握できたが、暗がりの為子どもの足元の状況や、体勢が不安定になる事での危険予測まで出来ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分の引率していたクラスに集中していて、前方にいた本児達の動きには全く気が付かなかった。	狭い通路を2列で手をつなぎ歩かせていた。保育士の目が行き届かない所があった。	狭い通路は一人ずつ歩く。保育士が1クラスずつ目を届かせるようにする。	
8294	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	4	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26				10	10	6			2	2	3歳	1.男児	1歳児頃から、家庭で転んで顔をぶつけやすかったことから歯の根と歯茎が弱っており、抜けやすい状態であったことが、受診した際に指摘される。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の完全脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	鉄棒の見守りは出来ていたが、園児によっては補助の必要性の把握や配慮が必要だった。	職員間で子どもの育ちや特性を共有し関わり方の配慮を深める。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	特になし。	使用する前に、鉄棒とマットを確認して問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒をするにあたり、動き次第ではケガに繋がることを周知してから行うべきであったが、周知が出来ていなかった。	鉄棒を出す際には、使用方法等や注意事項を伝え、年齢にあった声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	随時登園してくる友だちと仲良く遊べ、楽しくすごしている。鉄棒はあまり得意ではないが周りの園児たちと同様に興味を持ってチャレンジしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	本児の鉄棒する姿を見てはいたが、斜め後方にいて、ぶつけた瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遊びを見守っていたため、見ていなかった。	２階ホールを２人体制で見守る中で、鉄棒を出した際の立ち位置などに配慮が必要だった。	鉄棒の見守り位置を、逆側にして視野を広げるようにする。朝の受け入れ体制によっては、鉄棒を出さないようにするような対応にする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員
8295	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	21	1	6	3	4	3	4	0		4	4
8296	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	6. 5歳以上児クラス	17									2	2
8297	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	29	1	2	6	8	8	4			8	8
8298	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	19				7	6	6			2	2
8299	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	12									2	2
8300	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	22									2	2

No	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
8295	3歳	1. 男児	なし	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	左上前歯脱臼	2. 自らの転倒・衝突によるもの
8296	5歳	1. 男児	普段から転ぶ時、手のつき方が特徴的で内側に巻き込むようにして転ぶことが多かった。医師が骨が曲がっていると診断した時も、以前に大きな怪我をしていないか確認する。普段からよく転ぶ子なので今回のことだけでないかもしれないが判断が難しいといい、曲がりが治るまではギブスで固定することにする。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの
8297	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手小指骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの
8298	4歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨遠位骨端線損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの
8299	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右手人差し指第一関節骨折	8. その他
8300	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右の鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8295	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（4）回/年	1. 基準以上配置	なし	様々な状況下で事故が発生することを学ぶ機会を増やす。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床に傷みはなく材質には問題なし	設備等、問題なし
8296	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 基準以上配置	園長も同行し、先頭と最後尾で保育士がついていた。滑りやすいから走らないように声を掛けていたが友だちに追いつこうと走ってしまった。	走らないように声掛けする。中間地点にも保育士がつくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし
8297	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置		事故予防に関しての研修を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	ボールに乗る行為を止めなかったこと。	ボールに乗るとどうなるか再度確認注意していくこと。
8298	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	雨天時の公園内の危険個所を職員が把握していなかった	危険個所の情報を職員間でしっかりと共有する	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(使用前)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	地面に埋め込まれている木が濡れていて滑りやすかった	雨天時は滑りやすい芝生等を避け、砂地になっている公園を使用する
8299	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（2）回	2. 基準配置	特になし	事故防止意識向上の為職員が危険と感じる場面・解決策を会議で話し合う。	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		空間を広く展開し、可能な限り間を開けるようにする。
8300	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（2）回/年	1. 基準以上配置	特になし	事故防止意識向上のため、危険個所や職員が危険と感じる場面について解決策や対応方法を会議で話し合った。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	冬期は特に園庭の状況を確認する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8295	7. その他	土曜日で、かつ登園時間のピークを過ぎていたため、廊下に人がいず、自由な空間だった。	保護者には準備中も子どもから目を離さないことや準備をともにすることを周知。子どもには、廊下は歩くこと、荷物の準備をともにすることを話す。	1. いつもどおりの様子であった	活発なところがあり、保護者と一緒でも園内を走っていることがある。	4. 対象児の動きを見ていなかった	土曜日、かつ登園時間のピークを過ぎていたため、保育士は保育室の活動に集中し、廊下や保護者がいた３歳児室には職員がいず、状況を把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で保育中であった。	登園後、準備を済ませ、保護者と保育室に来て受託するという意識があり、周囲への注意が不十分であった。	保護者と一緒のときであっても、危険につながることが予測される場面では、声をかける。	
8296	1. 集団活動中・見守りあり	予定より早く雨が降り、足元が滑りやすくなっていた（午後１時過ぎから雨予報が出ていたが、山登りは●時４０分には下山予定だったので決行した）	雨天順延日も作っていたので、天気が怪しい時は無理せず延期も考える。	1. いつもどおりの様子であった	普段から転びやすく、手を内側に織り込むように転ぶことがあった。友だちに追いつこうと走って転んだときも右手が下敷きになってしまった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	雨が降って滑りやすくなっていることは全体的に声掛けし、走る子には個別に声掛けをしていた。転んだ時もどこが痛い？とすぐに聞いたが本児もはっきり答えることが出来ず、泣き止んでまた走っていったので、大丈夫だと思ってしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	列の先頭を歩いていたので、その瞬間は見ていなかった。	本児が泣き止んだので手の状態をきちんと確認しなかった。雨も降っていたので、急いで下山することに気を向けてしまった。	事前に危険があることをもっと伝えていく。気持ちが高まると事前に話すだけでは忘れてしまうのでその都度しっかり伝えていく。転んだ時にどの部位を痛がっているのか、状態をきちんと確認し患部を冷やすなどの処置をしていく。	
8297	1. 集団活動中・見守りあり	ボールに乗る行為を止めなかったこと。	ボールに乗るとどうなるか再度確認注意していくこと。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りであった。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ており、対象児童を見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の児童を見ており、対象児童を見ていなかった。	一瞬の出来事ではあったが全体様子が確認できていなかった。	二人体制ではあったが様子を見きれないのであれば活動方法を変える。	
8298	1. 集団活動中・見守りあり	園児に滑りやすい場所の周知をしていなかった	遊ぶ前に雨天時の危険個所を周知して、その場所には近付かない等のルールを定める	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこ等の遊びには加わらず、公園内を歩いていた	4. 対象児の動きを見ていなかった	離れた場所から対象児がいる場所は把握していたが、転倒した瞬間は見ていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員から離れた場所にいる他の園児を見ていたため対象児を見ていなかった	特になし	職員間の連携もとれていて、対象児のいる場所も把握していたため問題はなかった	
8299	1. 集団活動中・見守りあり	おやつ後の本児の活動内容の認識はしていたが怪我の瞬間は把握していなかった。	子どもの傍で見守り、危険への周知を徹底する声掛けを行う。	1. いつもどおりの様子であった	遊具のコーナーに座り、遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遊びや片付けの動きは認識していたが、怪我の瞬間は把握していなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の児童の見守り活動を行っていた為、本児の様子は把握出来ていなかった。	遊具設定の環境構成と安全面への配慮がなかった。	空間を広く展開し、保育士１名が必ず子どもの見守りに付く。	
8300	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	子どもへの定期的な注意喚起の声かけを行う。	1. いつもどおりの様子であった	築山で滑って遊ぼうとしていた。すべる順番で本児が一緒に居た子を押し、押されて転んだ。	4. 対象児の動きを見ていなかった	保育士１人は少し離れた所で子ども達を見ていた。もう1人は対象児と至近の距離に居たが対象児の動きを見ていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスは園庭に居なかったので、見ていない。	他クラスが遊んだ後で雪の状態などが思いのほか滑った。子ども達の動きを確認するポイントをもっと増やした方が良い。	子どもの動きを確認するポイントをもっと増やす。クラス単独で園庭遊びをしない。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8301	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	7	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	10									1	1	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	4歳児の園庭での活動時に担任のみで活動していた。複数で行うように改善したい。	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の木の根っこが少し盛り上がっている所に足を踏みはずして転んだので、でこぼこを平らにする。	園庭の点検表に「地面のでこぼこ」とあったが気づかずにいた。しっかりと点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	でこぼこがなければ、転ばなかったのでは。	地面のでこぼこをなくす。こども達には気を付ける事も教える。	1. いつもどおりの様子であった	本児がカブトムシに興味があり、いるかと上を見ながら歩いていて、根っこに引っ掛かる。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	担任は見える位置にいて、本児が転んだ瞬間をみていた。転んだので本児に寄添うと手がぶらりとしているため事務所に連れてくる。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には、担任のみであった。	複数見守りがあるとよかったのでは。	園庭での活動は複数で見守れるようにする。	
8302	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	14				2	6	6	0		1	1	4歳	2. 女児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		3. 火傷	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	2度熱傷(腰、臀部、右足)	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	衛生安全のマニュアルで身近に起きる事故について事故予防や対策の確認はしていたが、火傷については想定しておらず、事故が起こってしまった。	今後は火傷の事故予防についても職員全体に周知していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(清掃時)回/年	特になし	改善点は無かった	6. 食事(おやつ)中	配膳台を保育室の真ん中においてしまった。配膳台のストッパーをかけていなかったのでタイヤの向きが不安定だった。配膳中だったため、配膳台の扉が開けたままになっていて不安定だった。	配膳台は不安定にならないよう壁につけて置き、配膳台の扉を開けたままにしない、室内には台を入れず廊下に置き、ストッパーをしっかりかけ事故が起こらないようにする。配膳台の周りに子どもがいる時は触らない等の約束を伝えていく。	1. いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で昼食の準備をしていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	昼食の準備をしていた為、他の子ども達等、全体を見ながら配膳していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	午睡準備のため保育室を離れ、2階でコットを敷いていた。	配膳台を室内に入れ、子ども達が食事の準備をしている中で熱い汁物を盛り付けてしまった。	子ども達がおしぼりを完全に絞りおわり、落ち着いて全員が着席してから配膳を始める。厨房では汁物を保温機に移す際は温度設定を60度にし、注意して配膳する。	
8303	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	2	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	9									3	3	3歳	1. 男児	元々体幹が弱く、時々転倒したり、転倒時に手が前に出ないときが多々あり。また、周囲の空間認知力が弱く、棚などに顔を打撲する場面が時折みられていた。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上顎前歯損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	本児の運動能力を把握はしていたが、個別性に応じた危険予測が不足していた。安全管理マニュアルを十分に把握する機会が少なかった。	安全管理マニュアルを熟読する機会を設ける。研修頻度を増やし、危機管理能力の技術向上に努めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(20)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	点検だけではなく、玩具の特性を話し合い、玩具の使用時に起こりうる危険予測を培い、危機管理能力の技術向上に努めていく。	1. 集団活動中・見守りあり	見守りがあったが、保育士の配置が本児から離れていた。月齢にあった大型ソフト積み木を玩具として何度も使用して遊んでいたが、本児の運動能力を鑑みて不測の事態に対する予防環境構成が不足していた。	本児の運動能力を考慮した上で、玩具の環境配置によっては保育士が傍に付き、見守る体制をとっていく。	1. いつもどおりの様子であった	事故当時は健康状態、心理的状態ともに通常通り。複数の友達といつものように大型ソフト積み木を組み合わせ、家に見立て遊んでいた。同じ遊びの経験はあり、大型ソフト積み木の構成も保育士と友達と一緒に行い楽しんでいた。後半、遊んでいた子が数名別な遊びへと移動したが、当該児は留まり遊びを継続していた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	ホールを走って楽しむ子どもも居て、衝突等が起きないように、本児以外の子どもたちに付き、離れた距離ではあったがすぐに駆け付けられる距離には配置していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	大型ソフト積み木の遊びを、新たに展開し始めた子どもにつきながら当該児の見守りをおこなった。また、ホールを走って楽しむ子どもが居たので、もう一人の保育士が鉄棒と跳び箱の片付けを行っていた。	担任がリーダーとなって、保育にあたる職員に、本児の個別情報をしっかりと伝えて保育に入る確認が欠けていた。	打合せの際、子どもの運動機能など話し合い、共有していく。担任以外の職員が保育に入る際は、特に細かく職員に注視する子どもを伝えてから保育に入ってもらう。	
8304	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	18									0	0	6歳	2. 女児	該当無し	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 基準以上配置	特になし	降園後の園庭遊具の使用について、職員が認識を共有し、遊んでいる場合は声がけをする。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊具を使用しても良いかどうかの掲示を行うべきであった。	保育士の見守りができない保育活動以外の時間帯は、遊具に使用禁止の札をつける。雪が溶けたら雲梯の下にクッションになるような敷物を敷く予定である。	7. その他	特になし	送迎の際は、園庭の遊具で遊ばないことを保護者にお便りで伝え、掲示する。園児には口頭で伝える。	1. いつもどおりの様子であった	祖母が迎えに来て、園庭で祖母と一緒に遊んでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	遅番職員は園内で保育中だったため、園庭の様子は分からなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	遅番職員は園内で保育中だったため、園庭の様子は分からなかった。	特になし	遅番の職員が、園児が遊具を使用しているのを見かけたら注意を促す。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8305	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	18									1	1	5歳	2.女児	該当無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし。	事故の経緯を職員間で共有し、子どもを見守る時の注意点について、共通認識をもつ。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし。事故現場のグラウンドは芝生になっていて、周囲に障がいになるものも目視では確認できなかった。	遊ぶ前に危険がないかどうかを職員があらかじめ確認してから、安全に遊べるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	保育士は、子ども全員が見える所にいて遊ばせていたが、手を引っ張ったり転んだりした瞬間を確認できていなかった。	遊ぶ前に友だちを押さない、引っ張らないことを伝えたり、押したり引っ張ったりすると、お友達はどうなるのかを伝えてたりして、遊ぶ際には必ず子どもたちへの注意・喚起を促している。	1.いつもどおりの様子であった	グラウンドで走って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が1人でクラス全体を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任が2人いるうち、もう1人のクラス担任は勤務時間前だったので、外遊びの時は、もう1人の担任が1人で様子を見ている状況だった。	育休明けの担任で、まだ復職からの日数が少なかったため、クラスの子どもの特性をまだ捉えきることができず、気をつけてみることができていなかった。	子どもの動きをよく見て、少しでも危ないと判断した場合は、個別に対応したり、声がけをして注意を促す。	
8306	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									2	2	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	転びやすい園児もいるので配慮していく	見守りの配置人数を増やす	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	床、柱、壁等に危険がないか見る	見守りの配置人数を増やす	1.集団活動中・見守りあり	転倒、衝突などないよう見守る	見守りの配置人数を増やす	1.いつもどおりの様子であった	自ら走って逃げて滑って転倒	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ近くにいた保育士がけがの様子を見る	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と一緒にしっぽとり遊びをしていた	転倒、衝突などないよう見守る	走っていて転ぶ園児もいるので転倒に気をつける	
8307	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35		18	17						6	6	2歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	左上唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	危機管理マニュアルは整備しており、職員の対応はマニュアルに沿って行われていた。保育士は配置基準を満たしていたが、遊び始めたところで遊びが定まらず、職員も落ち着いて見れる状態でなかったと考えられる	配置基準は満たされていたが、全体をよく見て危険を予測してどのような状況でも応じられるよう、職員の動きや配置場所等に配慮をしていく。年齢や発達に合わせた環境を整えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(294)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(294)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(294)回/年	ステージの高さは30cm、木製で角は丸みがあったが、転倒した先にステージの角があったと思われる	あそび時の転倒も考えられる為、ステージ近くにはコーナーを設定しないようにする	1.集団活動中・見守りあり	ステージ上、ステージ下それぞれにコーナーを設けて遊んでいたが、遊んでいないボールも転がっていた	あそび時の転倒も考えられる為、遊んでいないおもちゃは片づけておく	1.いつもどおりの様子であった	ホールに遊びに行き、ボールで遊び始めた直後であった	4.対象児の動きを見ていなかった	ステージ上では遊戯、ステージ下ではボールと平均台のコーナーで遊び、本児がボールで遊んでいることは把握していたが、事故時は目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ホールには6名の職員がいたが、他の子どもと遊んでいた	ホール全体の子どもの動きを確認している職員がいなく、それぞれが側にいる子どもの遊びを見守っていた	全体の遊びを見守る職員を置く。目の前の子どもだけに対応しながらも、周りの様子にも気にかけていく	
8308	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	12	6.午睡中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10		6	4						2	2	2歳	2.女児		4.睡眠中(うつぶせ寝以外)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足小指骨折(左足小指基骨骨折)	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		布団に横になる子供達の対応に2名つき、当該児童の見守りをしていたが実際に側につく職員を配置するように瞬時に対応する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	障害物の無いフローリング部での転倒。日頃よりつまずき転倒が多く歩行が不安定な時もあった。	活動し動いている時は歩行時も含め側で対応できるようにする。	5.睡眠(午睡)中	午睡の為一度横になったが何か思いついたらしく立ち歩きをして保育士の手の届く範囲からはなれた。	立ち歩きをしている子入眠準備をしている子に対応する役割分担をし安全確保出来る様にする。	1.いつもどおりの様子であった	一度布団に横になったもののフローリング部のテーブルに置かれて物に強い興味を持ち確認したかった様だ	2.対象児の至近で対象児を見ていた	横になっていた為他児対応していた際に立ち歩き始めていた。側に向かおうとしたが他の子たちも追いかけようと動き出したので落ち着かせてから対応しようと目線を一度下に向けた所目を上げた時には転び始めで間に合わなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	布団に横になっている子と当該児を交互に見守っていたが転びかけの際は目線を下にしていた	声を掛けて対応の役割分担を明確にしていなかった	子供全体の動きを瞬時に確認し声掛け対応する。子供を明らかにし配置できるようにする。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項
8314	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	48	0	0	0	16	20	12	0		6	3	4歳	1. 男児	特に無し
8315	令和6年3月4日	2. 認可外	18. その他の認可外保育施設	2	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	4					3	1			1	1	5歳	2. 女児	
8316	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	17									4	4	3歳	1. 男児	
8317	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	9									1	1	6歳	1. 男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
8314	2. 室内活動中	1. 負傷		6. その他	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	脾臓損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置	特に無し	事故の検証と職員への周知。検討会議（予防策検討～園児への園内の安全に関する啓蒙と新たな掲示で可視化する。）
8315	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	鉄棒の安全な使い方や注意点はマニュアルに記載されていたが、職員での徹底の意識が低かった。	マニュアルの徹底をする為に、事故予防に関する研修をする。
8316	2. 室内活動中	1. 負傷		4. 創傷(切創・裂創等)	2. 顔面(口腔内含む)	顎の裂傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置	ヒヤリハットや軽傷事故報告の検討が活かされていない。職員の配置場所に配慮が必要だった。	検討内容の充実を図る。遊びの様子を職員間で把握する。
8317	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	第４・５中足骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	今回のようなことは初めてだったので椅子の取り扱いのマニュアルは作成していなかった。	事故防止委員会で事故発生の要因分析を的確に行い、椅子を運び出すときは職員が見守り補助をする等、安全対策の重要性を周知徹底する。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8314	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年・随時	特に無し	保育室、廊下、遊戯室とつながり広いスペースとなっているので、保育室前や廊下にストップマークを貼り、子どもの目の届く位置に廊下は走らないとわかる絵や図で示したポスターを掲示した。
8315	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	前回りの途中で手を放してしまい、頭から落下すると察知した本児が咄嗟に手を突こうとしたが上手くつくことができず、右腕から落ちた。マットは敷いていたが手をついた時に予想外の負荷がかかったと思われる。	遠くから見守っていたが、鉄棒等の遊具がある時は、必ず保育士がつくようにする。
8316	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	子どもの通る場所に水筒が入ったカゴが置かれていた。安全確認が細かいところまで出来ていなかった。	子どもが通る場所の環境を整え、スペースを確保する。水筒のカゴの置き場所を考える。
8317	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	椅子を重ねての保管は取りにくく不安定。１脚を取り出すとき下の椅子が引っかかってしまう。	椅子を買い換える。椅子を重ねないで保管するスペースを確保する。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8314	1. 集団活動中・見守りあり	合同保育室（３歳児保育室）から本児の保育室（４歳児保育室）へ移動し、戻る際に走り出したため。（ステージの上で遊んでいる子どもはいなかった。合同保育は３歳児保育室・遊戯室入口のコーナー遊びスペース。）	「ステージの上では遊ばない、歩かない」ことを日頃から伝えていたが、改めて各クラスでのルールの確認をし合同の保育の際も再度確認をする。ストップマークの意味と、廊下は走らないことをクラスで再確認をする。降園の荷物準備の際にステージに上らないよう、子ども達の動線を考え、荷物の置き場所をステージから離れたところ変えた。	1. いつもどおりの様子であった	お迎えの時間が近づくとそわそわして日中よりも落ち着きがなくなる。お迎えの時間が近くなり、他児が忘れていった作品を気にして「クラスに置いてくる」と言ってクラスへ行き、ステージ反対側の合同保育室へ戻る際、ステージ階段を駆け上がろうとし、1段目の階段に躓き転倒した。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	4歳児クラスでお迎えを待っている子ども（3歳児）のトイレに引率（保育補助職員）し、保育室へ戻ろうとしていたら本児が急に保育室から飛び出してきて、声をかける間もなかった。本児が転倒し泣いたため、ぶつけた箇所を確認し本児を担任のもとに連れて行った。担任は普段あまり泣くことのない本児の痛がる様子がいつもと違うため、事務室職員へ報告し母親へ連絡し様子を伝えた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の遅番担当職員は、他児の保育をしていた。（玄関対応3名、3歳児クラス2名）3歳児クラスに配置されていた職員1名（保育士）は、トイレに行く子どもに付き添う途中で4歳児クラスに行くと言った本児を見送った。その時はステージに上がらず下を歩いて行ったことを確認。ちょうど合同になる子ども達が移動してきたため、子ども達の荷物の整理をして本児の様子を見に行こうとした時に事故が起きていた。	特に無し	特に無し	
8315	3. 個人活動中・見守りあり	少人数で楽しそうに遊んでいたことの安心感と見守りの不十分さ	遊具には必ず職員がついて十分な見守りをする。	1. いつもどおりの様子であった	帰り際、最後に鉄棒の前回りに挑戦してみたくなり、気持ちが急いでいたと思われる。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員1名は、離れた所から見守っていたが、楽しく遊び片付けもしようとしていたことと、普段より前回りができることに安心し、鉄棒があることへの注意の意識が薄れていたと思われる。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	現場にいなかった職員2名は、事務室で日誌を書いていたり保育室で明日の保育の準備をしていた。	危険があることは意識していたが、楽しそうに遊んでいた姿を見てもう少し見守ってみようとした。鉄棒の側には、保育士が必ずつく必要があった。	運動器具で遊ばせるときは、保育者が必ず側にいる。また、運動器具の側に他のおもちゃ等は持ちこまない。	
8316	1. 集団活動中・見守りあり	いつでもお茶を飲めるよう、水筒のカゴを床に置いていた。次の遊びに早く行きたく、小走りで移動した。	水筒をカゴに入れず、自分のロッカーに掛ける。日頃から室内では走らないよう声をかける。	1. いつもどおりの様子であった	普段から活発で、この日もいつもと変りない様子だった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	咄嗟のできごとで防げなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ部屋の各コーナーで見守りをしていた。	全体的に落ち着いて遊んでいたので油断していた。	事故について様々な想定を考え、事故防止策を職員間で確認し合う。	
8317	1. 集団活動中・見守りあり	重ねた状態の椅子から１脚を取り出し、廊下から教室へ運ぶという流れで、対象児に安全に椅子を持ち運べるような指導が不足していた。	日頃から正しい椅子の扱い方を指導する。	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わりなく活動していたが、他の子より遅れをとったことで焦っていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は５メートルほど離れた教室から、廊下にいる対象児を心がけて目配りをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	活動区域を分担して保育に当たっていた。隣のクラスも同様に朝の会の準備をしていたため、対象児の動きは見ていなかった。	対象児が重ねてある椅子を取り出す際、他の園児より出遅れたことを気に掛け、急いでいて動きが雑になってしまい椅子から手が離れてしまった。	焦らずゆっくり活動できるような時間の確保と、椅子を運ぶ際は声かけをしながら傍で補助をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項
8318	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	78	0	2	16	18	21	21	0		8	8	3歳	1.男児	なし
8319	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	29			1	10		18			3	2	3歳	1.男児	
8320	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	35	0	0	6	10	7	12	0		3	3	5歳	2.女児	なし
8321	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	49	0	0	0	17	18	14	0		3	3	5歳	2.女児	なし
8322	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	33	0	0	0	0	14	19	0		2	2	4歳	1.男児	特になし

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
8318	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右恥骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	1歳児2名、2歳児16名で保育者3名、残り5名は幼児組担任やフリー保育士であった。幼児組担任は幼児組の子ども達についており、1.2歳児担当保育者の一人は室内に入るために子ども達の誘導もしており、十分に目が届いていなかったことが考えられる。	クラスの枠にとらわれず、全体で子どもを見て保育するということを徹底していたが充分ではない状況であった。声を掛け合い、引き続きこのことを意識していく。
8319	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部顆間骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	本児の運動能力に対する共通理解不足	保育者が園庭で遊ぶ際の危険性を再認識し、見守りを怠らないようにする。
8320	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右第5趾付け根付近の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし	発生した事故について、再発防止策を職員間に周知するとともに、必要に応じて保護者とも共有を行う。
8321	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左足靭帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	広場で職員一人が全体が見える立ち位置にいたが、他の子の対応をしていた為その時全体を見る事ができなかった。	他の保育者の立ち位置も含め、全体に目が届くよう配慮する。
8322	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右踵靭帯損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	危険の要素がある時は速やかに状況を見守れる位置に移動して配慮する必要があると思われる。	発生した事故について、再発防止策を職員間に周知するとともに、必要に応じて保護者とも共有を行う。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8318	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	砂場の裏側はとても狭いため、乗用玩具は持っていかないようにしていた。スペースの改善は難しいため、保育者がしっかり目を届かせるべきであった。	砂場の裏側、砂場内に乗用玩具を持っていかないよう繰り返し子ども達に伝える。また、保育者が子ども達の動きを予測して危険のないようにする。砂場近くに乗用玩具置き場を設け、そこに置いて遊ぶことができるようにする。
8319	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	満３歳にはなっていたが十分慣れていない遊具だった。	年齢と発達に応じた遊具の使用方法を徹底する。
8320	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	特になし	随時点検を行っていた為、施設、設備等に異常はなかった。また、本児は玩具を使用していなかった。
8321	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設、遊具、玩具等の安全については問題なかった。	今後も定期的な安全点検を実施していく。
8322	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	危険の要素がある時は速やかに状況を見守れる位置に移動して配慮する必要があると思われる。	外部施設であるため特になし

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8318	1.集団活動中・見守りあり	砂場の裏側という状況によっては死角になりがちな場所であるため、意識的に見守ることが必要である。	保育者間の連携を十分に取っていく。	1.いつもどおりの様子であった	運動会練習後、園庭での自由遊びとなり、いつも通り元気に体を動かして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	一人は子どもたちを室内に誘導しており、2名は他児に関わったり別の場所で子どもたちを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	幼児組担任は幼児組の子どもについており、1，2歳児担任は室内に入る子（テラス）、室内に入ってきた子（保育室）に4名の保育者がついていた。	園児の人数から見ても、保育士の配置基準は充足されていたが、子どもの動きを予測し、目を離さず見守るということが不足していた。	子どもの様子から行動を予測し、安全面に留意する必要があった。	
8319	1.集団活動中・見守りあり	それまで雲梯で遊ぶ経験が少なかった。	一人ひとりの発達を認識し見守り、援助を行う。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	年長児と遊んでいて年長児に連れられるように雲梯にいった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	両手を雲梯につかまり、両足をはしごに掛けた状態で手を離してしまい受け止める態勢を取ったが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に残っている子どもたちを見ていた。その他園庭で遊んでいる子どもたちを随所で見守っていた。	雲梯を自力で進めるほどの経験はなかった。	できない子や不安定な子には必ずすぐ受け止められるようにする。	
8320	1.集団活動中・見守りあり	本児は年中児であり、危険を伴うような遊びをしていたわけではなかった為、注視して見守るような状況ではなかった。	特に危険な状況ではなかった。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室のステージ付近で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	降園時の挨拶を行ったり、保育者の近くで遊ぶ子どもたちの様子を見ていたりしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児も見えるような位置で遊戯室全体を見守りながら保育を行っていた。	特になし	状況に合わせて職員間で連携を取りながら、子どもの様子を把握できるようにする。	
8321	1.集団活動中・見守りあり	大縄、鉄棒を出して遊んでいたがその周りで走っている子たちもいた。子ども同士がぶつかって怪我をするということを予測することができなかった。	子ども達の遊びを分けたり、時間を分けたりする工夫が必要だった。	1.いつもどおりの様子であった	遊戯室で大縄跳びをして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	遊戯室で大縄跳びと鉄棒の遊びについてた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室で保育していた。	職員がついていたが他児に関わっていたことで、全体を見ていない時間があった。	全体を見ることが出来る職員が必要だった。	
8322	7.その他	スイミングスクールにて更衣室で着替えをした後に捻ったらしく、痛いと訴えるとスイミングができないと思い保育士に伝えなかった。その後夕方になるまで痛みは感じなかったかもしれないが、夕方右踵が腫れて痛み出したようだ。	特に危険な状況ではなかった。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	スイミングに参加することで気持ちが高まっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	スイミングスクールでいつも同様の準備であったため、安全であると判断し全体を見渡せる位置から危険のないように見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	着替えた子どもと共に更衣室内の他のコーナーにいた。	危険の要素がある時は速やかに状況を見守れる位置に移動して配慮する必要があると思われる。	気持ちの高まりを沈め、落ち着いて行動するように促す。	

	概要				発生時の施設・事業体制								事故に遭った子どもの		事故状況							事故発生の要因分析										掲載更新年月日
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時月	事故発生時期	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の原因	負傷の状況	受傷部位	診断名	事故の誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 事故予防研修実施【回/年】	事故発生の要因分析 ハード面 施設の安全点検実施【回/年】	事故発生の要因分析 遊具の安全点検【回/年】	事故発生の要因分析 玩具の安全点検【回/年】	事故発生の要因分析 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成長支援の状況	事故発生の要因分析 その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																
8323	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	13	0	0	0	0	0	2	2 5歳	1. 男児	園内行事前日という事で園全体が気忙しい雰囲気だった。なかなかイライラしがちで、そのイライラ感が保育士に伝わってしまい、子どもたちに優しく接するなどして自分のイライラをぶつけてしまう。	8. その他	1. 負傷	1. 意識不明	霊息	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	自分で床に頭を打ちつけすぐ用意のタオル布、布団を敷い	床の上にクッションマットを敷き、頭をぶつけないようにしたい。	状況によってはパーテーションで区切り、他の保育士と体制で本児の保護にあたっていく。	4. 具合が悪い子・特に配慮・要配慮・要観察・要注意を配慮)	食後、眠い子、遊び中の午後、前後担当の保育士が不在だった内行事主催者が出かけないと、ある担当イライ担当者が共にあった。	1. 対象児とマンツーマンの対応をしていた)	抱いて便所へ連れていくようと思代弁をしたがなかなかスムーズに行かず、手で叩くなどして泣き喚き、暴れまくるなど本人を止めようとした。	当	1. 担当者が対応していた	1. 担当者・対象児の動きが速かった	1. 担当者・対象児の動きが速かった	1. 担当者・対象児の動きが速かった	1. 担当者・対象児の動きが速かった	1. 担当者・対象児の動きが速かった	1. あり	状況によってはパーテーションで区切り、他の保育士と体制で本児の保護にあたっていく。	1. 集団・活動・見守り	7. その他	担当保育士せっきであった	状況によってはパーテーションで区切り、他の保育士と体制で本児の保護にあたっていく。	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施	1. 定期的に実施

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8332	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25	7	16	24	22	23	25	0		2	1	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右モンテジア骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置		職員配置について跳び箱の両側に職員が付くようにすることで、二人の目で見守り、素早く受け止めることができるのではないかと考える。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎回)回/年		特になし。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの練習したいという気持ちを受け入れ、夕方という時間帯の考慮不足	疲れが出やすい時間帯であることから、子どもたち一人一人の様子を把握し、やりたいという子供たちの気持ちを組み込みながら危険を伴う活動は避ける。	1.いつもどおりの様子であった	何度も繰り返し跳び箱を飛んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	失敗せず何度も挑戦し跳べていたので、大丈夫だろうという油断もあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	跳び箱以外の場所で遊んでいた子どもと一緒にいたため、見ていなかった。	この子は大丈夫という油断	大丈夫であろうと油断せず、安全に行えるよう全体に話したりその場その場での跳び方を細かく声かけながら進めていく大切さがあると考える。	
8333	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	25									2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭蓋骨骨折・目と鼻を繋ぐ骨の骨折（2か所の骨折）	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(月１)回/年	2.基準配置	事故予防マニュアル・ヒヤリハット等の確認	保育活動等の職員の配置をしっかりと行う	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	ヒヤリハットの確認	園庭の確認等を怠らない	3.個人活動中・見守りあり	遊びの活動内容の認識	外部講師の指導の下、保育士は活動の補助となり、ひとりひとり園児の活動の様子を把握する。	1.いつもどおりの様子であった	サッカー教室を楽しみにしていた様子。コーチ（外部講師）の話をよく聞き、サッカーに興味を持って楽しみながらサッカー教室に参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	サッカーに興味が持てるよう子ども達に声掛けや指導を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	コーチの声掛けに園児の動きや様子を見て、言葉を掛けたり補助を行っていた。	ボールを一生懸命追いかけることで、ボールだけしか見ていなかった。周りが見えてなかったと感じる。試合の中でボールを5個使ったことで、園児の動きが1個のボールより交差する事が多くなり、衝突が多くなりケガ等の危険が起こりやすくなった。	交差する事で衝突が多くなる事の危険性を事前にしっかりと理解する。	
8334	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	23				7	8	8			4	4	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	鉄棒から落下した時に近くにはいたが、鉄棒付近での見守りができていなかった。	園児が鉄棒で遊び始めたら、職員はすぐに近くまで行き見守る。それが出来ない場合、使用しないよう声を掛ける。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具（鉄棒）で遊ぶ際に注意すべきことの指導を行う。	安全のように思えても、必ず園児へ注意事項の説明をする。	1.集団活動中・見守りあり	いつも鉄棒で遊んでいた為、安全だと思い込んでいた。	遊具には必ず職員が付くようにし、職員配置が出来ない場合は遊具は使わない事を子ども達に伝えて、事故防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	普段と変わらない様子で、戸外遊びを行なっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒の隣のブランコで子ども同士のトラブルがあった為、対応しながら視界に入るよう近くで見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	どの職員も遊具で遊んでいる子どもは視界に入っているので、落ちた時に駆けつけていた。	他の箇所でトラブルが起きていたので、対応に当たる時には遊具から離れる旨を伝え、他の職員に引き継ぐようにする。	遊具には必ず職員が付くようにし、職員配置が出来ない場合は遊具は使わない事を子ども達に伝えて、事故防止に務める。	
8335	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	3									3	1	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どもたちが、サッカーという競技を十分に理解できてなく、ボールを取ることに夢中になってしまった。	サッカーという競技についてしっかりと説明し、子どもたちの理解度に合ったサッカーの楽しみ方を考える。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年玩具によっては毎日	園庭に石、凹凸等危険物なし。	定期的に石や危険物、凹凸等点検している。定期的に砂を入れるなど整地している。今後とも続けていく。	1.集団活動中・見守りあり	サッカーのゲーム中、誰もがボールを取りたくて1つのボールに群がり、転んでしまった。	もっと競技参加の人数を少なくして、サッカー特有のパスなどをしてゴールを決めるなど、ゲームの進め方を工夫する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの体調および、サッカー教室への参加対応であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に向かって、回廊で応援していた女児たちと一緒に男子たちのゲームを見守る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	常勤保育士担任1人とサッカー協会の講師2名、合計3名が園庭に出ており、他の職員はいなかった。	普段の遊びでも何もないところで転んだりすることが多い子ども達。群がったことで動きが制限され、転びやすくなっている状況での声かけが足りなかった。	しっかりと準備運動をするとともに、群がりを避けるための声掛けをしっかりとし、転びやすい状況にならないよう努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8336	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	44	0	0	12	15	0	17			7	7	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（4）回/年	2. 基準配置		週１回月曜日に実施している「園庭遊具の安全点検票」の項目に園庭整備を入れ，定期的に園庭を管理・整備していくこととする。	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/週	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/週	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		今回の事故を受け，常勤保育士全員で防犯カメラ映像を確認。すぐに園庭整備を行うと共に，事故を未然に防ぐ策を職員で話し合う。	1. 集団活動中・見守りあり	避難器具を覆っているマットは以前から敷いてあり，園庭整備のたびにその下を平らに均していた。今回盛り上がっていた様子はなく，直前までその場所も含めて５歳児が鬼ごっこをしていたこともあり，いつも通りだった。	月１回行っていた園庭整備を月２回に増やすようにする。避難器具の場所はもっと大きなマットで覆い，マットの上では走り回らないよう職員へ周知した。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	七五三を控え，母方の実家へ帰省することもあり，いつもより気持ちが高揚していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	朝から本児の気持ちが高揚していることを心配し，その都度本児には声をかけ気を付けて遊ぶよう注意を呼びかけていた。転倒した際も，近くで蛇鬼をする子ども達の様子を見ていたが，本児の突然の行動だった（横跳びで列から飛び出る）ので対応ができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭全体に子どもが遊んいたため，保育士も広範囲に広がり子どもの様子を見ていた。		子どもたちが遊ぶ様子をそばで見守っており，転倒した瞬間担任が近くにはいたが，手が届く範囲にはいなかったので，間に合わずケガをしてしまった。保育士の配置・動きには問題はなかった。	
8337	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57	2	11	8	10	9	17			12	12	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足くるぶしの骨（成長軟骨）のひび	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(50)回/年	2. 基準配置	年長児同士で落ち着いて遊んでいたことから、近くでの見守りが十分ではなかった。	児童に対しても、安全に関する指導を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	けがをした付近は、緩やかな斜面になっている。また、石や木の根による突起が見られた。	今までも砂を入れて安全を確保していたが、今後も続けていく。木の根がある部分にベンチを置き、つまづかないよう対策を取った。	1. 集団活動中・見守りあり	至近距離での見守りが不十分であった。	職員の見守り位置の再点検や児童への安全指導を実施する。	1. いつもどおりの様子であった	気の合う友だちと、テーブルに座りながらままごとを楽しんでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	固定遊具のそばで他児の安全確認をしながら、本児たちの様子を遠くから確認していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	庭で遊んでいる際は、自分の担当の児童ばかりでなく他の児童にも目を配っているが、今回は近くに保育士がいなかった。	保育士がバケツを持って歩く姿を確認していたら、注意を促す言葉をかけられたかもしれない。	職員がバランスよく配置し、見守りを徹底していく。	
8338	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	64	3	9	11	12	13	16	0		9	9	3歳	2. 女児	事故誘因を自らの転倒・衝突と記入してあるが、状況から判断。録画等確認できるものはない。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨遠位端骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	見守りの体制の不足	動静把握	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日実施，業者点検は１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	見守りの体制の不足	動静把握	3. 個人活動中・見守りあり	全体を把握できていない。	動静把握	1. いつもどおりの様子であった	不明	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児の動静把握ができていなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を把握する職員を明確に特定していなかった。	園庭内それぞれのコーナーに職員は配置していた。砂場付近にも職員は見守りを行っていたが、たまたま別の子の対応や、保育者の視界から外れたタイミングだったため、本児の怪我がいつどういった形で起こったか分からなかった。	目の前の子どもの対応だけでなく全体を把握することも重要。そもそも何人配置しても全員の視界からその子が外れてしまう瞬間があることを再認識し、できる限り空白の時間を埋める努力をする。万が一事故が起きた時の検証ができるよう園庭の録画（台数を増やす）も検討する。	
8339	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	100	12	13	18	18	22	17	0		33	30	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（3）回/年	2. 基準配置		研修で学んだことが日々の保育に活かされるように確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	1. 定期的に実施	実施頻度毎日		引き続き日々の安全点検を行い危険な所は全職員で共有して速やかに改善していく。	1. 集団活動中・見守りあり		今回の事故では環境に明らかな要因はなかったが、日ごろから安全を第一に考え、地面に転倒に繋がるような段差ができていないか確認し、あった場合には速やかに改善していく。	1. いつもどおりの様子であった	活動開始後園庭で見つけた木の実を大切そうに手に握っていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	対象児が視界に入る場所で他児と砂遊びをしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児から離れた場所で他児の遊びを見守っていた。	転んだ際手に木の実を握っていたため、とっさに手をつくことができず肘を地面にぶつけてしまった。	園庭へ出る前には、約束の一つとして手に木の実や玩具等を持ったまま遊具に乗らないことを伝えていく。	
8340	令和6年3月4日	2. 認可外	10. 事業所内保育事業（認可）	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	26	0	0	0	13	7	6	0		3	3	3歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置		再発防止のための職員研修をした。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	業者実施頻度（１）回/年 職員実施頻度（１）回/週	2. 不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		園庭整備に努める。	7. その他		芝生上であっても常に注意を払い、走り出す際は周りをよく見るように伝える。	1. いつもどおりの様子であった	普段から、活発である。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	すぐ近くにいて、対象児が走り出す瞬間から転ぶ瞬間までを目視していたが、手を差し伸べる事が出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間は見ていなかったが、泣き声ですぐに気づいて対応した。		職員間で、普段から活発な子の情報共有をし声掛けを強化する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8341	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	36					18	18			3	3	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右前腕両肩骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 基準以上配置		テーブルには三輪車を乗せないということを、子どもに伝える。	1. 定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		職員会議で危険個所の確認をする。	3. 個人活動中・見守りあり		危険個所には、必ず職員を配置する。	1. いつもどおりの様子であった	いつも三輪車でよく遊んでいた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭に見える廊下でおやつの片づけをしていた。使用した机椅子を片付け、掃き掃除をしていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた職員が注意をし、かけつけたが間に合わなかった。	5才児だったので、注意すれば大丈夫だと思ってしまった。	見守り要員が増やせるとよい。	
8342	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58	6	11	8	14	11	8	0		11	10	6歳	1. 男児	追いかけっこ時にたまたま相手の児童（逃げていた）が身をかわしてしまったことにより、勢いを抑制できずにタッチしようと手を伸ばしたそのままの姿勢で転んでしまった。	7. 登園・降園中(来所・帰宅中)	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	子ども達の理解力や発達・発育状況、危険認識力等は月齢はもとより個人差も大きいため、遊びに対するルールのみでなく、ケガ等に至らないためのルールも子ども達自身で考えるよう促すことも大切。事故予防や様々な危険な場面について子どもたち自身が考え危機回避できる力を付けられるよう保育の中で指導していく必要がある。	職員が継続的に監視できない時間帯については、その時間帯に行ってもよい遊びを選定する。また、園児を監視する際にどのような遊びに重点をおいて監視すべきか、職員全体で再考、徹底する。	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故の有無に関係なく、常に子どもたちの生活に使われる物、場所の点検、整備が必要である。	今回はハード面に関わる事案ではなかったが、運動場の地面のコンディション等も点検し、滑りや躓きを引き起こす可能性がある場合には対処していく必要がある。	3. 個人活動中・見守りあり	確実に園児たちがその遊びを完了するまで見守りが滞らないよう、職員の配置や、どもたちへの声掛け、遊び始める前の声掛けが必要であった。	個人活動の見守り時は、職員同士しっかりと声を掛け合い、活動の内容について必ず監視が必要な遊びについては見守りが途絶えることの無いように職員に周知徹底を行う。	1. いつもどおりの様子であった	普段から活発な児童である。体を動かすことが好きであり、特に駆けっこは本児の得意とするところである。	4. 対象児の動きを見ていなかった	事故直前までは追いかけっこの中心部で見守りをしていたが、他の児童の送り出し（保護者対応）のためその場を離れた時に発生した。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	当該児童らの至近距離にいた職員は自らが担当するクラスの子どもの動きを見守りながら、近くで追いかけっこをしている児童が未満児等にぶつかることが無いよう声掛けをしていた。	見守りの場を離れるときの職員の連携、コミュニケーションを徹底する必要があった。	見守りの優先順位やゾーン分け等、異年齢児を全体で見守る場合においての留意点やルールを職員全体で再考し、徹底する。	
8343	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	25									2	2	5歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	小指基節骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2. 基準配置		ヒヤリハット活用し、保育士の安全意識を高める。危険を感じたときや見守りの保育士がその場を離れるとき時には必ず声をかけあい、複数で子どもを見守る。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		階段の昇降時には１列だったが、保育士の目が届くように列の長さを短く（2列）にする。落ち着いて行動できるように昇降時には言葉をかけ一呼吸置くようにする。	1. 集団活動中・見守りあり		環境には起因しないため、未記載。	1. いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子ではあったが次の活動に向け気持ちが焦り気味だったのかもと推測される。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	列の真ん中に位置し全体を見ていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員は各クラスで保育に当たっていて、担任一人は遊戯室の片づけを行っていた。		危険性が高い場所、子どもの気持ちが高まっている時には複数で子どもの様子を見ていく。	
8344	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	12									8	8	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛骨折（全治約４週間）	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（4）回/年	1. 基準以上配置		安全管理やフローチャートの見直しを定期的に行う。怪我や事故の原因を再確認し、今後の活動に生かせるようにする。ヒヤリハット報告書の作成。	1. 定期的に実施	実施頻度（4）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		引き続き、定期的に施設・遊具の安全を徹底していく。	1. 集団活動中・見守りあり		引率職員全員で所児の安全確認、行動の姿を捉え、危険な行動を想定した事前指導、配慮に努める。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から散歩に行くことを楽しみにし、職員にも今日は頑張ってお山に登るんだと張りきっていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	いつもより歩くペースが速く張りきっていたため、職員が至近で見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	異年齢児一緒の散歩だったため、他のクラスの職員も本児の後方を歩いていた。		所児の行動をきめ細やかに確認し、援助や配慮が必要な所児には、保育者が寄り添って行動する。	
8345	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	2									2	2	5歳	2. 女児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	3. 未実施	実施頻度（0）回/年	1. 基準以上配置	休暇の職員が多く、担任以外に補助にまわれる職員がいなかった。	フリー保育士の配置	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	なし	引き続き危険箇所を確認し、事故予防を図る。	2. 集団活動中・子ども達のみ	1つの活動が終わり、担任２人が片付け、準備に入ってしまったので、1人は園児につくべきだった。	必ず職員1人は園児から目を離さないようにする。	1. いつもどおりの様子であった	次の活動を待つ間、ブランコの近くで待機していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	次の活動にうつるため、片付け、準備をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	外に出ているクラスは５歳児のみだった。	担任以外で補助できる職員がいなかった。	片付け、準備等が必要な場合は他の職員を配置する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8346	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	70				27	19	24			8	7	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員の人数配置については問題ないが、職員の意識改革と共に子ども会議にて一人ひとりの身体的状況、及び運動発達面において情報共有を徹底した。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年		遊具については、月2回安全点検を行い異常がないことを確認している。	3.個人活動中・見守りあり		固定遊具については必ず職員が付くことになっているが、会議においてもう一度周知徹底した。	1.いつもどおりの様子であった	最近雲梯に興味を持ち頻繁に挑戦していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児を見ていたが落下する瞬間に手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の固定遊具に付いていたため、落下する瞬間は見ていなかった。		全職員において、子どもの遊びを見守る際には常に危険を予測しながら見守ることを徹底した。	
8347	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年事故後すぐにも行う	2.基準配置	急に走り出すことによる回避、危険性を想定して配置できていなかった。	事前に急に走り出したり体制がかわる遊びを想定し、回避したり助けられるような職員配置や声掛け、見守りを今まで以上にしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	準備運動が不十分だった可能性もある。	ゲーム遊びが始まったことを確認後、回避できる体制をとる。	3.個人活動中・見守りあり	園庭で他児のトラブルや、育成加配児と一緒にいたため近くにいられなかった。	回避ができるよう園児の遊びを把握し瞬時に体制を整えられるようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	一緒にゲームに参加しながら児童を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	３人の保育士が園庭で全員の動きを把握できるように分散して来ていた		他児のトラブルの対応の際も、他の職員に声掛けをし全体を見て目を離すことのないようにしていく。	
8348	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	14									3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		職員配置基準には達しているが、子どもの遊ぶ様子で配置の確認をしながらが注意深い保育をしていく	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		使用する遊具の安全確認や、使用する子どもの体格なども考慮して遊具を選び、安全確認をしながら保育をおこなう。	3.個人活動中・見守りあり		異年齢クラス（特に未満児クラス）と共に園庭で遊ぶ際の遊び方や気を付けるべきことなどを、子供達と一緒に確認・周知	1.いつもどおりの様子であった	前方不注意で他児と衝突した	4.対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で他児と関わっていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内を消毒清掃中であった	未満児との身体や動きの差から生じる危険の予測が甘かった。危険を予測した上で、遊び方の工夫を子供達に伝える等の配慮に欠けていた。	状況に合わせた遊び方を判断し、都度子供達に知らせていく。子供達自身が注意すべき点などを自分で気付き、行動できるように日々の保育の中で働きかけていく。	
8349	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	17									3	3	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)			3.個人活動中・見守りあり	運動遊びが出来るように平均台を出していたが、いつもより遊具が1つ多かったため、遊ぶ範囲も広くなった。また、平均台活動をしていた子どもに気を取られていた。	園児の体調や状況を把握し、園庭の固定遊具以外の遊具の数や配置を見直す。また、事前に死角になる場所を確認しておく。	1.いつもどおりの様子であった	本日は機嫌もよく、園庭に出ると好きな築山に登って保育者に手を振ったり築山の周りを走り回ったり、トンネルの中を通って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育者は築山を囲むように子ども達の見守りをし、対象児が築山の周りを走っていたことや築山に登って手を振っていることに対して、手を振り返し行動を把握していた。トンネル内を走っていることは把握しており近くにいたが、手を差し伸べられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の担当者は砂場を中心に見守り、平均台や鉄棒を中心に見守りをしていた。	築山のトンネル内は、保育者の立ち位置によっては死角になることがある。	園庭に出る前に環境を見直し、適切な位置に保育士を配置し、子どもの動きを見ながら臨機応変に角度を変え、見守りや援助をする。また、築山の見守りの際には死角になる場所を把握し、トンネル内が見える位置に保育者が見守りにつくようにする。	
8350	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	40		1		11	15	13			2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園内研修で話し合いはしていたが、色々な場面を想定しておかなければいけなかった。	外部の研修に積極的に参加し、一人一人が意識して保育を行っていく	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		引き続き、毎朝の確認を継続していく。	1.集団活動中・見守りあり	滑り台の上におままごとの玩具を並べて遊んでいた為、足場が不安定であった。	滑り台や固定遊具の上には玩具を置かないように徹底する。滑り台をコンクリートの上に移動させないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台を家に見立てて遊んでおり、数名の園児がいる中にいた。1歳児の子の近くにいて面倒をみていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭の砂場で他児と遊んでいた為、対象児が転落し激しく泣いたことで気付いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭でおでこを鉄棒にぶつけた他児の対応をしていた。	全員の子どもが見える位置にいなかった。他児の対応をしていた為、その場を離れた。	園庭遊びの際は常時2名以上で保育を行う。他児の対応で離れる時は、他の職員に声をかけ他の職員に替わってもらうなど、連携をしっかり取る。	
8351	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	5歳	1.男児	ー	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	ー	ー	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日	ー	ー	1.集団活動中・見守りあり	ー	ー	1.いつもどおりの様子であった	一人ずつの走り縄跳びで、2/3程走った時点で転倒する	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	順番待ちの他児童の傍につきながら、対象児が競技を続行したためゴールまで見守った	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児がゴールするまでは見守り、ゴール後に患部を看護師と共に確認し、冷やした	運動会当日ということで通常よりも気持ちが高ぶっていた可能性がある	張り切る気持ちは受け止めつつも、落ち着けるような声かけをする	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8352	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	12									4	4	6歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置		鉄棒等の際に予測される事故について、フルタイム、パートタイム保育士の研修を行う。	2.不定期に実施	実施頻度（５０）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		マットが古くなってきてクッション性が落ちてきてしまっている物は、新しい物と交換する。	1.集団活動中・見守りあり	前回りができるようになった喜びからいつもより勢いがついてしまったのか手が離れてしまった。踏み台があった為対象児が回るときに見えたことで不意にぶつかると思ってしまったかと思う。	鉄棒に取り組む前に遊びの中でぶら下がりやマットでの前転等を繰り返し行い回転の感覚を養う。子どもの背の高さにや熟練度に合わせた鉄棒を使用する。又はマットの高さを挙げる等する。	1.いつもどおりの様子であった	運動会で行う鉄棒前回りの練習をしていた。出来るようになってきた本児は自信を付けたせいか、見守っていた担任保育士に見ててと言い鉄棒に向かった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士は対象児が鉄棒の手前で飛びつく様子を見守っていた。しかし、片手が離れたことに気づき手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同じ保育室内で他児の様子を全体的に見ていた。又は、跳び箱をしている子どもの見守りをしていた。		鉄棒を使った活動のケガの予測を事前に行い、鉄棒をする際にはマットを厚くするなど落下してもケガをしないような準備をする。	
8353	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	17					6	11			2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肘関節脱臼、左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	散歩先の公園は市内の公私立の保育園が利用している。	散歩先の公園が他園も利用して混みあっていたら場所を変えるなど工夫する。	1.定期的に実施	実施頻度（週１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（週１）回/年	事故が発生したのは丘の上ではなく斜面であったため、地形の安全面も考慮する。	予め危険を予測して遊ぶ場所などを選択する。	1.集団活動中・見守りあり	他園の園児とぶつかっている為(相手は走っていた)他園の子どもの動きも把握しておく必要があった。	他園の子どもも含め、園児の動きをしっかり観察・把握する。	1.いつもどおりの様子であった	本児は特に体調面の問題はなく、公園でも動きはおとなしい方	4.対象児の動きを見ていなかった	丘の上で遊び終えて、丘から斜面を降りるところで声をかけながら先頭で全体を見回していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離ではない。もう一人の職員は子どもたちの後ろの方から、遊びに夢中になっている子に帰るよと声をかけながら降っていた。	今回の事故は遊び終えて帰る自園の子と、これから遊ぶ為に丘を上がって来た他園の子との斜面ですれ違い時に起きた事故だった	安全面を優先して、保育園同士の出会いがしらの事故を防ぐ為、他園の子どもが上がってくることが解ったら下る時間をずらす。	
8354	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	8									1	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足踝下の剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置		ヒヤリハット等を職員で見直し共有する。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	タイヤを端に寄せたり、活動の妨げにならない様に配慮が必要だった。	砂場のシートを抑えるためにタイヤを使用していたが撤去をした。	1.集団活動中・見守りあり		タイヤについては安全を考え撤去し、園庭の安全確認を行った。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	1週間休み、友達と会った嬉しさから活動的だった。久しぶりの戸外活動であったこともあり、体がついていかなかったり気持ちがはやり、いつもなら目に入るものが入らなかったのではないかと考えられる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	戸外遊びで見守りは行っていたが、砂場から少し離れた他児がままごとをしている場所で保育していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１クラスが外にでていたので、他の職員は室内で保育をしていた。	1クラスのみが園庭活動をしていた。	複数のクラスで園庭で遊ぶことにより大人の目が増え、安全への気配りがよりできたのではないか。	
8355	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									3	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	すい臓損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	2.基準配置	事故防止マニュアルには予想される行動,事故の欄にも竹馬でバランスを崩して倒れるとの記載があるが、その点の意識が十分ではなかったかもしれない。	年1回の見直しだけでなく活動に即した確認やヒヤリハット報告書を利用しての、全職員の情報共有やケースカンファレンスを行う。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	今回は遊具や施設は影響していないものの、園庭の状態等にも気を配らなければ危険はあることを再確認させられた。	定期的な点検と共に、子ども達の使い方等によっても事故に繋がるので、日常の様子をしっかり見ていくことも事故防止につながると感じた。点検と合わせて確認と伝達をしていく。	3.個人活動中・見守りあり	本児のこれまでの竹馬への取り組みの経緯、当日の気持ち、コロナ禍が続いている事での子ども達へ体力等へのの影響等、複合的な誘因が重なってしまった可能性も考えられる。	これまでの保育経験に捉われず、現状の環境を十分理解し適切な対応が取れるよう、個々の子どもの状況を職員がしっかり理解していくことを確認した。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段乗りこなしているよりも少し高い竹馬に挑戦していた。いつもは他児に先を越されて使えなかったものが、この日はまだ残っていたため本児が手にして挑戦してみようという気持ちが強かったのではないか。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児とマンツーマンではなかったが至近距離で様子が見られる位置で見ていた。本児とは離れた位置でも竹馬をしている複数の他児もいたため、合わせて状況を把握しながら見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員はまだ園庭に出ていなかったり遠足に出かけてしまっていたりして、担当者・対象児を近くで見ているものはいなかった。	いつもより高めの竹馬を使っていたことも担任は把握していたが、本人の頑張りを認めてあげることはできていたが、事故に繋がるリスクが高くなったことは意識していなかった。また本児のみならずコロナ禍という中での子ども達の体力低下や、咄嗟の身のこなしなどが上手にできない状況だったかもしれないと思われる。	本児に限らず、昨年・今年と活動が制約されたことで、子ども達の体力や対応力等が以前と比べて育っていなかったかもしれないことを念頭に置いて保育すべきだった。今後その点に十分注意しての保育計画や活動の選択、保育士の対応を見直していくことが必要である。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8356	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	17									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝の複雑骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置		職員の意識向上に向け研修への参加及び職員会議での共通理解を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年		片付けの際にはゆとりを持った時間を設定し、慌てることのないようにしていく。	1.集団活動中・見守りあり		担任間だけではなく、職員間で三輪車の扱い方を再度確認し、安全への配慮を徹底していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子どもの動きを見ていた為、本児から離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具の補助についていた為、対象児の様子は見えていなかった。		園児の行動をよく観察し、適切な行動が取れるよう声をかける。園庭遊びでの危険な事例を把握し十分注意を払う。	
8357	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	1	2	2	6	2	2			6	5	3歳	1.男児	―	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左上歯茎外傷・上唇帯断裂	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	配置確認の確認	外に出る際の先生の位置を確認する	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	水道周りが濡れていた	水回りなどが滑らないかを確認する	1.集団活動中・見守りあり	カメの水換え後で水道の周りが濡れていた	滑るかもしれない事を子どもに周知させていく	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない姿だった	4.対象児の動きを見ていなかった	固定遊具で遊ぶ子を中心に見ながら全体を見守る体制になっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ゆったりと数人で遊んでいたため、先生はいる場所は把握しつつ低年齢児中心についていた。	発生場所の周辺は死角になっていた。	職員の配置の見直し、職員間の連携を確認	
8358	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4	1	0	1	0	1	1	0		1	1	4歳	2.女児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外果剝離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		室内では走らないよう引き続き伝えていく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		転倒などの危険性に配慮し傍につくようにする	1.集団活動中・見守りあり		普段から運動遊びの前には準備体操やストレッチ等で体を解して怪我防止に努めてきた。コロナ感染症拡大防止で保育園自粛中に運動不足になった子どもが多いからか、体のバランスが取り辛かったことが考えられる。今後も子ども達が動いたり歩いたりする際には転倒や怪我の危険性に配慮し、保育士等が傍についてすぐに対応できるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	他の園児と一緒にままごと遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士2名での保育体制時間であり、1名は園の戸締りと見回りの実施、1名は保育に従事し当該園児の見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園内の見回りを戸締りをしていた。	夕方になり寂しい気持ちが出て保育士に甘えようと急に立ち上がったと思われる。	安全面には十分注意をしていたが、ままごと等活動の切り替え前に約束事を決めてから始める。子ども達の人数により遊びの工夫で集中できるようにしていく。保育士等が常に寄り添い声をかけ、急な動きにも対応できるようにする。	
8359	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	1.0歳児クラス	9									6	6	0歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	1.頭部	頭頂骨骨折外傷性帽状腱膜下出血	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(18)回/年	1.基準以上配置	研修としてヒヤリハットの報告後改善点を話し合っているが気を付けましょうで終わっていることがある。	気を付けましょうで終わらず具体的な改善策を話し合う。	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	東廊下と下の土の間に10cmの隙間があった。園庭、園庭の遊具のチエック表以外がないので個人によってチェックがまちまちになる。	隙間に衝撃吸収材を貼り付け挟まらないようにした。施設、玩具についてその内容が含まれたチェック表を作成して点検する。	3.個人活動中・見守りあり	対象児よりも動く歩く子への対応を優先していた。全員で全員を見てる状態であった。	声をかけあい誰が誰をみるかを明らかにする。	1.いつもどおりの様子であった	ござの上でずりばいをしていた。自宅で高いところから落ちたと保護者から聞いていたのでござの上で遊ばせていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	他児の着替えをしていたので、対象児が落ちた際手を差し伸べるのが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の歩く児童を見ていた。	対象児の板につかまろうとする動きを予測できず、ござの上であれば落ちる心配はないと思っていた。	対象児の運動発達の状況を把握しクラス職員で周知する。	
8360	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	87	6	14	13	19	16	19	0		12	12	4歳	2.女児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母指基節骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	鉄棒の上に座って瞬間的に拍手をして鉄棒を掴み直すという行為は、今まで鉄棒の1つの技として許可していたが、保育園で認める行為ではなかったかもしれない。	今回の行為を禁止とする。その他の禁止事項の確認。その子のその時のレベルに適しているか等の見極め、情報を共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(296)回/年	ハード面の原因は特に無し	ハード面での改善は不要	3.個人活動中・見守りあり	環境面の原因は特に無し	環境面での改善は不要	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒をやっている子を専任で見守る職員はいなかったが、離れたところで見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の危険個所（ハシゴ）付近で遊ぶ子をメインに見守っていた。	年度も後半になり子どもの成長とともに出来ることも増え、危険行為の確認、議論、見直し、が減っていた。	鉄棒だけでなくブランコ、すべり台、斜面、はしご等のルール、マニュアルの見直し、共有。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8361	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	14				7	7				2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部外傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	園周辺マップが作成されており、周辺の様子や公園等の把握もできていた。戸外活動中の危機管理や事故対応についても研修が行われていた為、対応について保育士間で確認できていた。	事故発生時の対応の仕方をクラス間、園全体で確認し合う。（常にお散歩バックの中身の確認や緊急連絡の手順、事故内容からの判断基準の確認、対象児、他児への対応について等）	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	遊び始める前には危険物や破損個所がないか確認し、発見した場合は遊ぶ場所を変更したり、園内でも他職員に共有し合っている。	危険個所を発見した場合には園長に報告し、行政等へ連絡してもらうなど安全な環境で遊ぶ事ができるよう対応する。	1.集団活動中・見守りあり	遊び慣れている公園でもあり、当日は特に地面がぬかるんでいたり危険個所等の問題もなかった。日頃から遊び始める前には、子ども達と遊具の使い方、危険個所の確認など約束事を交わしている。	遊び始める前に、口頭だけではなく危険個所を子ども達と共に直接確認し合い、どこの何がどうすると危険なのか等、具体的に伝え知らせていく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	仲の良い園児の保護者が保育参加で公園に出かけ一緒に鬼ごっこを行ったことで、友だちも本児もいつも以上にテンションが高くなっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	何か所かに分かれて子ども達の遊びが行われていた。固定遊具付近での追いかけっこや鬼ごっこは普段から危険であることを伝えており広場で鬼ごっこをする様子を他児の遊びも見える位置で見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	広場付近に保育士が1名いた為、少し離れた砂場で子どもたちの様子を見守っていた。保育士間で声を掛け合える距離でもあり、離れていても子どもたちの様子は確認できる範囲内ではあった。	固定遊具やアスレチック側ではなく比較的安全な場所での活動ではあった。園児14名に対し保育士2名と十分に見守ることができる状況ではあった。保育参加保護者がいたことで子どもたちの気持ちが高揚して怪我に繋がったのも要因としてあると感じる。	子どもの遊びを見守りながら、水分補給や休憩タイム等で一旦個々の様子や状況を改めて確認、把握するようにしていく。	
8362	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	22									2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足くるぶし隆起骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置		子どもの特性を十分に理解したうえで職員一人ひとりが事故予防に心がけ、気配りをしていくことで、起こりうるリスクを減らしていく。所長とリスクマネージャーが一体となって、事故に発展する可能性のある問題点を把握し事故予防に取り組んでいく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園外保育先の安全確認は、年度当初または定期的に実施しているが、引き続き実施していく。	1.集団活動中・見守りあり		子ども自身が自分のみを守る意識が持てるよう、日頃の保育の中で取り組んでいく。	1.いつもどおりの様子であった	子ども同士で鬼ごっこをしていて転倒するが、保育者に伝えた後、また走って参加した。その後もいつもと変わらず歩いて帰園した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の子どもの動きを見守っていた。本児が痛みを訴えてきたので確認をするが、腫れてくる様子が無くすぐに遊び始めていたので様子をみていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた（至近距離にいた）	公園内の固定遊具近くにいて見守っていた。		子どもの特性、動きに配慮し、職員は危険時にすぐに動ける立ち位置につき対応する。	
8363	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	1									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（６）回/年	1.基準以上配置	職員の経験値・危険予知不足	経験値を補うため今回の経験生かし全職員に周知。研修の見直し。	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	玩具や遊具の破損などではないことからの油断。	危険箇所の見直しと周知。	1.集団活動中・見守りあり	経験値がないことから、危険予知が出来なかった。	子どもの年齢や発達、人数に合わせ、活動の場を分けるなどの対策をする。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず登園。体調も良好。豆まきをした後で、興奮していた様子で余韻を楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこに夢中になり、本児が転んだ後に気が付いた。砂場の木枠の側で転んで泣いていたのですぐに傍に行き、木枠に躓いたと本児から聞き取りをした。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員なし	なし	危険箇所の見直し、活動の場所を考え全体を把握できるようにする。	
8364	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	1.朝(始業～午前10時頃)	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	17									5	5	2歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1.2)回/年	2.基準配置	近くに担任はいたが、危険性を把握していなかった。	子どもの遊び場所として適しているか担任間で合意する必要がある。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	年齢による子どもの運動発達面を把握しきれてなかった。	年齢によって運動の発達面を考慮して子どもの行動に注意する。	1.集団活動中・見守りあり	安全に見える環境の中にも危険な場所が潜んでいることがある。	散歩先の場所をあらかじめ、下見し危険な箇所がないか点検する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段は飛び降りないが、この時は飛んでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいたが、止められなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	気になっていたが、それぞれ他の子とかかわっていた。	危ないと思っていた職員もいたが担任同士の連携がうまくできてなかった。	担任間で確認しながら子どもを見ていく必要がある。	
8365	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第4指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１）回/年	2.基準配置		マニュアルなどを読み合わせ年齢ごとの身体的動きなどを把握する	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		活動前に目視で安全点検を行う	1.集団活動中・見守りあり		危険箇所を回避するよう声かけをしていく	1.いつもどおりの様子であった	慣れ親しんだ公園でいつも通り遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで走り降りる対象児を見ていて、転倒してしまったのですぐ声をかけをした	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具で遊ぶ他児を見ていたので対象児を見ていなかった		慣れ親しんだ公園でも常に環境を把握し事故の内容配慮する	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8366	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									2	2	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘脱臼、左腕尺骨骨折	1.遊具等から転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置		遊具を使用する人数や時間帯など子ども達の様々な状況を考慮したうえで安全に使用する。遊具を使用する際は子どもの特性を把握した保育者が目を離さず見守り、危険に繋がるようなことは未然に防げるようにする。所長やリスクマネージャーを中心として、事例検討や改善を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具の点検や保守整備を常に意識して行い、安全を図る。安全マットは敷いていたが安全性を考慮して安全マットの使用は敷いていたが安全性を考慮して安全マットの使用は敷いていたが安全性を考慮して安全マットの使用は

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8371	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	21									1	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士がすぐにはつけない状態だったので遊ばない約束をしていた。	口頭だけの約束ではなく札をつけて誰からも遊ばないことがわかるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	遊び方によっては高さがある。また、落下面が固い。	子どもの色々な遊び方に耐えうるような落下面の環境整備（マットを敷く）	1.集団活動中・見守りあり	やってみたい気持ちがあり遊んだ。	保育士がそばにつけない時は札をつけてわかるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	男児2，3人とスクーターに乗って広場を動き回っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	直前までスクーターで遊んでいたのを確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	２歳児クラスの職員がいたがクラスの子どもと遊んでいた。	遊具を取りに行く子どもに対応していた。	常に全体を見ていくようにする。他のクラス職員と声を掛け合う。遊びの約束等は子どもにわかりやすく話をしていく	
8372	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	38	0			3	5	30			2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左中足骨骨折（第4)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	築山から見守る職員が子どもが残っているか未確認のまま、移動してしまった。	危険場所の優先順位を各保育士が常に考え、子どもの動きに合わせ立ち位置を変化させる。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	保育士の配置はされていたが、タイヤトンネルに対し危険意識が低かった。	ジャンプをしている場面を見たら、職員がすぐに側に付き介助できる体制をとる。	1.集団活動中・見守りあり	着地時、着地場所が山の傾斜部分となり不安定であった。	遊具の危険予測の確認、共有。着地点を平らにする。	1.いつもどおりの様子であった	友達と戸外を走り回り、虫探しをし、遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	片付けが始まっていた為、築山から下りていき他児に片付けをするように促していたことで、実際に着地した様子を目視することが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにはいたが、他の遊びを見守っていた。	着地する際、トンネルの上に立っている時の危険予測が足りなかった。	最後の一人が入室するまで、築山上で見守る職員は持ち場を離れないようにする。	
8373	令和6年3月4日	2.認可外	11.一時預かり事業	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	1									1	1	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外側上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	年1回	1.基準以上配置	児童の所在を常に把握することができていなかった。	保育室内でも児童から目を話すことはしてはいけないが、特に戸外については児童の所在を常に把握する体制を確保する。	1.定期的に実施	実施頻度（300）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	公園に隣接する住宅の石垣は一部低くなっていて、幼児でも上がれるが高さ150ｃｍを超える箇所もある。	子どもの所在の把握・大きなけがに繋がる危険が予測される箇所は児童と手をつなぐ等の配慮を行う。	3.個人活動中・見守りあり	小学校が休み中で多くの小学生が公園にいたため、少し外れたところでで虫を探しをした。石垣は高いところでは150cmを超えているが、低い箇所は本児でも容易に登ることができる高さ（数10cm）のため登ることは予想される。	散歩先の危険個所の把握をする。	1.いつもどおりの様子であった	2週間ぶりの登園。喜んで散歩に出かけた。児童Aと一緒に虫を探すことに夢中になっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に当日の保育を報告するために●●を使用しており、掲載する写真を撮っていた。その際本児から目を離した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当保育士のみ	2週間ぶりの登園だった。本児の気持ちが高ぶることや活動的になることを予想し、普段より安全面に配慮することが必要だったが、本児から目を話す等安全に保育をする対応が不足していた。	児童の心身の状態を把握し、児童の動きを予測する。保育中は常に児童の所在を把握することが必要だが、特に戸外は徹底する。	
8374	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	26	0	0	0	4	8	14			4	4	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度12回/年	2.基準配置	鉄棒に職員がついていたが、すぐに対応出来る位置にはついていなかった。	子どもが鉄棒で遊ぶ際は、落下に備えて、必ず職員がそばにつく。	1.定期的に実施	実施頻度（12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(291)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(291)回/年	所外であったが鉄棒の高さには問題はなかった。所内の際は下にマットを敷いているが、所外だったため敷くことができなかった。	所外の場合は高さが子どもに合っているか確認する。鉄棒で遊ぶ際は落下に備えてマットを敷いたり、すぐに対応できる位置に職員がつく。鉄棒に遊びが集中しないよう、他の遊び等準備したり誘いかけたりして工夫をする。	1.集団活動中・見守りあり	高さの違う鉄棒が3ヵ所あり、3ヵ所とも子ども達が遊んでいた。	戸外で遊ぶ際は、事前に準備体操を取り入れ、体をほぐしてから遊び始める。腕で支える、ぶら下がる等支持力をつける遊びを多く取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	保護者からも朝の登所の際に、特に引継ぎはなく、怪我が発生するまでも、室内では、粘土遊びなど、じっくり遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	隣にあるもう一つの鉄棒で遊んでいた子どもについていた為、落下を防ぐことができなかった。	担当者・対象児の動きを見ていなかった	鉄棒以外に虫探しや探索活動をしていた子ども達についていたため、すぐにかけつけることが出来なかった。職員のうち1名は落下した対象児の様子を目撃したが遠くにいた為、間に合わなかった。	鉄棒を行う時に、親指をかけて鉄棒を握るように声をかけていきたが、きちんと握っているかの確認ができていなかった。	鉄棒の握り方を子ども達に知らせ、きちんと握っているかの確認ができてから行うようにする。	
8375	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	35									2	2	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	散歩の危機予測の不足。散歩時のマニュアルの習熟度が低かった。	散歩時の予想される危険に対して安全対策を立て熟知し実行する。散歩時の園独自マニュアルを作成し再発防止を強化する。日々の保育の中で歩き方、交通ルールを子どもたちに伝えていく。法人のマニュアルを再確認、習得する。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	散歩中、周囲の安全確認をしながら歩いていたが転んだ。危険予測が足りなかった。子どもたちペースに合わせた歩き方の配慮が足りなかった。	散歩時の歩き方や安全確認について話し合い見直し共有。子どもの人数に対する保育士の人数についての確認と共有。	1.集団活動中・見守りあり	子どもたちの歩きに合わせてスピードをコントロールできていなかったため、散歩の列が長くなり、子どもたちが走る場面があった。	園独自のルールを作成し園外散歩に出掛ける人数を上限20名引率職員を3名とする。	1.いつもどおりの様子であった	会話や景色を楽しみながら歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	列の前後に職員を配置し、子どもたちの様子や周辺の安全確認を行っていたが最後尾の職員が気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先頭を歩いていた保育士は前方の安全確認をしていた為、気付かなかった。	靴が脱げ、履こうとした時に手を付き転んだ可能性が高い。	職員が声を掛け列を止め負傷したであろう児の状況確認を速やかに行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8376	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	頭蓋骨骨折／急性硬膜下血腫	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園児の履いていた靴のサイズが少し大きめだった	保護者皆様には、靴のサイズがお子様の足に合っているか日々確認して頂く	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	A公園内に少し傾斜があり、園児が転んだ所は雨水が流れた跡で地面が削られ窪みが出来ていた。さらに大き目な石が無数転がっており足場が悪かった。	市役所へ連絡し、整地してもらう	3.個人活動中・見守りあり	遊びだす時に、遊具へ向かって走り出した	遊び始める時は焦らず歩いて遊具へ向かうよう指導していく	1.いつもどおりの様子であった	早く遊びたいと気持ちが焦っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	公園に到着後、子どもを集めいつものように公園内での遊び方の確認や注意事項を伝えた。子どもの様子を全体的に見て、子どもが多く行く所に見守りに向かおうとしていたところ、対象児が転んだ姿を見た	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びだす前に公園内の安全確認。危険物撤去を行う。他の子どもらに草むらに移動したので対象児とは別方向へ移動していた	なし	危険予知の意識を常に持ち、危機管理を怠らない	
8377	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	90	0	13	15	21	21	20			15	12	5歳	1.男児	特に無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕部（肩と腕のつなぎ目）骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（5）回/年	2.基準配置	夕方の保育おいては、清掃と重なる時間やスタッフのシフト連絡の引継ぎ、降園のお迎え時の保護者への伝達等、スタッフ間の動き多く手薄になる時間帯があった。	夕方の保育内容、スタッフ間の動き、危険個所の安全管理配置の再度の見直し等マニュアルを改善し、職員全員への周知を徹底して事故対象児の保護者に内容を開示する。	1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（2）回/年	定期的な安全点検は行われていたが、一時的であれ滑り台から離れる場合の他のスタッフへの声掛けが出来ていなかった。	その場を職員が離れる時はスタッフ間で声を掛け合い、危険箇所に必ず人員を配置をする。	1.集団活動中・見守りあり	近くにいた乳児部スタッフが気付いたが、倒れ落ちる場面で危険を知らせる声掛けや補助が出来る距離ではなかった。	大型滑り台の近くには常時必ずスタッフが１名つくようにし、夕方の降園時と重なる時間帯における園庭遊具の職員配置の人員を十分に確保する。	1.いつもどおりの様子であった	本児を含む3名で滑り台にて繰り返し遊ぶ。最初は上から滑り降り遊んでいたが、途中で降り口から登ろうとし、バランスを崩して横から落ちる。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	下から50㎝ほどの位置から横に落ちる。近くにいた乳児パートスタッフが気付き、幼児スタッフに報告する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応などで滑り台の近くに職員がついておらず、降り口から登っていることに気付かなかった。	本児を含む3名で滑り台にて繰り返し遊ぶ。最初は上から滑り降り遊んでいたが、途中で登ることに先を争って本児は気持ちが急ぎ降り口から登りはじめた。	滑り台の降り口から登らないなど、滑り台の使い方のルールを今一度子どもたちと確認をする。	
8378	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	42				21	21				5	5	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	普段は園庭で遊ぶことが多い為、園児たちが公園遊具に不慣れであった。また、保育士も補助の仕方など想定が甘かったことが考えられる。	３，４歳児合同で園外保育を実施した為、保育士が各所に分散し事故を防ぎ切れなかった事が考えられる。今後は一クラス毎に園外保育を実施し、遊べる遊具の範囲を限定し時間で遊具を入れ替える等対応する。下見の際、道中や公園内の危険個所の確認だけでなく、子どもの姿を想像しどのように安全にサポートすべきかも想定しておく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	園外保育下見の際には、使用予定の固定遊具の状態も確認し、破損箇所やゆるみ、ぐらつきがない事も確認済。	固定遊具の管理状態に問題はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	6段ジャングルジムだった為、3歳児は2段目までと事前に周知していた。皆そのルールの中で楽しんでいたが、大きなジャングルジムであった為、下から潜り込んで中央付近から上がっていく子がいることまで想定できていなかった。	園外保育下見の際に、園児の想定される動きに対しての対応策をリストアップし、保育士同士で共有していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	園外保育ということもあり、対象児の気持ちもいつもより昂揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ジャングルジムには2人の保育士が対角線上に配置についていたが、中央付近にいる対象児にまで手が届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	固定遊具3か所に分散して遊んでいた。保育士も必要箇所に分かれて対応していた。	慣れていない遊具の為、保育士の配置に余裕が無かったことが考えられる。大きいジャングルジムだった為、中心付近から上がる園児に対して保育士の手が届かない状況にありすぐにサポートすることができなかった。	園児の遊ぶエリアを限定し、保育士の配置を厚くする。ジャングルジムの外側から乗り降りするように指導していく。	
8379	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	6									2	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	該当なし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	該当なし	3.個人活動中・見守りあり	特になし	該当なし	1.いつもどおりの様子であった	保育室のロッカーから荷物を取ろうとした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	出入口で当該児童を含め、延長保育の部屋に移動する児童数名を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育室内で当該児童を含め、延長保育の部屋に移動する児童数名を見守っていた。	児童の身体や様子の変化について、注意が不足していた。	排泄後の身だしなみを整える時や延長保育に移行する時等活動が切り替わる際は、一層児童の様子に注意を向けるよう職員間で意識を共有する。	
8380	令和6年3月4日	2.認可外	10.事業所内保育事業（認可）	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	4		1	2			1			3	3	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置		年齢別に部屋を分ける	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/日	マットの一番高い部分ではなく傾斜部分の不安定な所に手を着いてしまった	手を着いても安全な箇所に印(カラーテープ等)を付ける	1.集団活動中・見守りあり	マットを複数枚使用する際は、マットの配置を工夫する	マットの位置は適切か、安全に配置されているかの確認を十分に行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	初めて会う友だちを真似て、いつもと違う無理な跳び方をした(手を着いてから跳ぶ)	2.対象児の至近で対象児を見ていた	いつもより楽しそうな様子で跳ぶ姿を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	慣らし保育中の子、入所間もない子、この日初めて登園した子の対応をしていた	事故発生時、他３名のお子さまの方に目が行くことが多く本児にあまり手をかけてあげられなかった	年齢別で部屋を分け、担当職員を決める	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8385	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									1	1	6歳	2.女児	過去に家で右足首を剥離骨折をしたため，足首のひねり癖があるのではとのことだった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		寒くなるので準備体操を行い体を温めてから遊び始める。	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.不定期に実施	実施頻度()回/年		安全点検は定期的に行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		段差などないように地面を均しておく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと映画館ごっこを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	友だちと遊んでいたので，様子を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の離れた場所にいたので，見ていなかった。	特になし	遊び始める時は手足，足首などをほぐしてから遊び始める。	
8386	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	4	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	26	0	0	0	0	9	17	0		1	1	5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕肘の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	準備中に、体育館内に園児を入れてしまった事	準備完了まで、体育館内に園児を入れずに準備を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	職員の準備をもう少し早く行えばいい	職員が10分前行動を心掛ける	7.その他	子ども達が準備を手伝おうと体育館内にいた。	準備完了まで、体育館内に園児を入れずに準備を行う	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	準備を手伝っていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の準備を行っており、対象園児の動きを見てはいたが、声掛けを怠っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の準備を行っており、その場を見ていなかった。	子供に手伝いを行わせており、声をかけていなかった。	手伝わせるなら声をかける。無理だと判断した場合、中には入れない	
8387	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	13				4	4	5			2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上A歯根歯折、右上B亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/2年	1.基準以上配置	特になし。	保育士が前後の両方に対応できるように本児の横側につくように配慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	特になし。	外遊びが安全にできるように施設や遊具の安全点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり		職員が園児の特性に配慮した環境調整を行う。	1.いつもどおりの様子であった	本児がイメージしていた旅行ごっこの続きで、手押し車にボールを５個載せて後方に引っ張るように斜面を登って遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児と少し距離をとり、遊びを見守るようにしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	職員Aは、園庭の子ども達を見るために別の位置に立っていた。	前回のあそびの続きであったため、本児の危険のないよう側についていたが（以前は後ろに倒れないように本児の後方についていた）前に転倒する予測ができていなかった。	遊びの中で転倒の予測をしていたが、前に転倒することが予測できなかったため、今後は前・後の両方に対応できるよう本児の横側につき、いつでも手が出せるようにしていく。本児の遊びのタイミングを見ながら、別の遊びに誘うことも視野に入れて対応していく。	
8388	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22	0	0	0	7	8	7	0		1	1	5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足第5趾基節骨骨端線損傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	1.基準以上配置	該当児が担任に伝えられなかったこと。気づきがなかった。	危険個所の周知。ガードを付けて事故防止を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険個所にガードを付けて事故防止を行った。また、棚の上に植物を置き視界に物が入るようにした。	3.個人活動中・見守りあり	該当児は、次に遊びたいコーナーの事に夢中になって考え、急いで向かった。	子ども自身が体調や怪我等、変化があった時は職員に伝えるように話した。	1.いつもどおりの様子であった	好きな遊びを選んで自由遊びをしていた。次に遊びたいコーナーの事を考え、急いで向かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体の動きを見ながら、迎えが来た時には保護者対応をしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ部屋には、他の職員はいなかった。		職員周知をし、子ども達には集まりの時間に再度遊び方のルール確認を行った。体調の変化があった時や怪我等をした時には近くにいる職員に伝えることを話した。	
8389	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	14									3	3	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	上左前歯及び上唇の打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		その日の子どもの情緒にあった関わりをし、保育士が一緒に手を繋いで歩く等の配慮をする	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園内の保育でできることとしてホール等で体幹を鍛えるような遊びを日頃から取り入れる	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士で手を繋いで歩いていた	手を離して列になって歩行する	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	登園時より機嫌が悪く、保育室内で床に寝転んでいる様子が見られた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の近くを歩いており、転倒する際に手を差し伸べようとしたが間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児の前方を歩いていた為、本児の動きは見ていなかった	本児の機嫌が悪いことを把握していたが、普段通りの対応をしてしまい、個別の配慮が足りなかった	機嫌が悪い時は子ども同士で手を繋いで歩かせず、個別に対応し保育士と手を繋いで歩くなどの配慮を行う	
8390	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20					14	6			2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	骨端線損傷(右足首)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危機管理について定期的に職員全体での話し合いをしてこなかった。運動遊びについての事故危機管理マニュアルでのルール＝環境整備・保育者の立ち位置・役割分担・子ども一人ひとりの情報共有をする。園でのルール＝安全第一に子どもの様子を気にかけながら運動遊びをする。このルールが浸透していなかった。	危機管理マニュアル・園でのルールを会議などで職員に浸透させる。危機管理については月1回、職員会議にて話し合いをしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(通年)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(その都度）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(通年)回/年		子どもの遊びをよく見ながら、保育内容を考えていく。	1.集団活動中・見守りあり	部屋の中を走るのに14名で走らせた。中央に大きなマットを置いたので部屋の広さがせまくなった。	子どもから目を離さず危険予測を絶えず行う。今後はマットを置かないか、もしくは10人以下で走るようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	普段から活発であるが、この時は走っていたため、いつもより活発であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当保育士が見守り・指導を行っていた。指導の内容・・・お友達にあたらないようまわりをみてよけて走る。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当保育士と協力し、見守り・指導を行っていた。指導の内容・・・お友達にあたらないようまわりをみてよけて走る。	走る前はその場でジャンプして準備運動している。この時はマットすれすれを走っていて、急な方向転換で足を痛めた。通常は体を動かす際に、ふざけない・私語をしない・体を動かすことに集中する等指導をするが、この時は走って遊ぶだけの活動だと考え、しっかりとした注意喚起をしなかった。	マットを大回りし、急な方向転換をしないよう走り方の指導をする。体を動かす前は必ず、最初にふざけない・私語をしない・体を動かすことに集中すると注意喚起をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8391	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	7	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	1.0歳児クラス	3									3	2	1歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	職員は３名いたが、夕方の保護者対応やオムツ交換等で一時的に保育士が１人になる状況が予想される時間帯に行ったこと	大型遊具を使用する際は、職員が十分な体制できちんとついていられる時間帯に行う（午前中など）	2.不定期に実施	実施頻度(１０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(その都度)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(その都度)回/年	２種類の大型遊具を同時に出していた	子どもの人数が減ってきたら１種類にするなど状況に合わせていく	1.集団活動中・見守りあり	安全対策にマットを敷いていたものの、マットとマットの間に、怪我をした右肘をぶつけていた	隙間がないようにするなど環境設定に配慮する	1.いつもどおりの様子であった	楽しくなりすぎて、喜びを体で表現していた（体をゆらしたり）	2.対象児の至近で対象児を見ていた	階段下にも１名園児がいたため、低い姿勢で見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１名はお迎えの保護者対応、もう１名はオムツ交換中だった	結果、職員１名で遊具についており、事故発生時は一時的に保育士１人で子ども５人を見守る状況になっていた	保育士が保護者対応から戻ってくるまで、本児を下におろすか、階段の１面を壁につけ、もう片方に保育士がつく、もしくは、おもちゃを減らす、変更するなど状況に合わせ臨機応変に対応する	
8392	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	30			15		15				6	6	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨尺骨骨端部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	急遽、異年齢保育となった場合の職員間の連携・情報共有が曖昧だった。（園児の様子や注意すべき園児の共有）	急遽の場合、職員間での園児の情報共有、活動を見守る方法（配置等）を必ず声を掛け合い確認をおこなう。園舎が離れている為、職員同士の面識がない場合もある事を考慮する。	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	木の根っこが多い公園という事は散歩マニュアルで把握していたが、草に隠れた切り株まで注意がいかなかった。	草に隠れた木の根や石等の障害物を確認し、周知し合う。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢で手を繋いでの歩行が、体格差もあり危険ということ。	異年齢の際は特に注意し、周囲に危険な個所がないか確認を行う。	1.いつもどおりの様子であった	同クラスの友達の妹だった為、顔見知りであった事から手を繋いで、遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2歳児と手を繋いで遊んでいる事を認識し、見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	2歳児クラスの担任も手を繋いで遊んでいる事を認識していた。	担任と２歳児クラスの担任が注意を向けており、事故に繋がるかもしれないという予測はあったが、大怪我に繋がるとは思ってなかった。	予測を持てた事に関してはリスクを回避するような声掛け・注意を行っていく。	
8393	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32	0	0	0	13	12	7			4	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折全治5週間	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	体制は組んでいたが、迎えが重なった場合や危機管理スキル取得が未熟な職員配置時の対応等が不十分であった	①降園前の園庭担当を増員し5名の配置を行った②夕方3～5歳児園庭活動見守り職員は常時3名とし、保護者への引き渡し職員1名、保護者へ直接報告が必要な場合は見守り職員の人数を確認し、引き渡し職員が見守りに戻った後保護者対応を1名が行うことを全職員に朝礼で報告し確認を行った	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	園庭の広さと活動内容、園児の動線を踏まえた状況の判断不足であった	園児の自由遊びの姿から、危険個所の確認と改善を行う	3.個人活動中・見守りあり	実態に応じた人員配置と担当職員の役割の確認不足	園庭見守り配置職員の役割確認の徹底及び施設全体の人員配置バランスの工夫を行う	1.いつもどおりの様子であった	同年齢児と鬼ごっこをしていた	4.対象児の動きを見ていなかった	他児からポリ袋を求められ後方のカバンにとりに向かった直後に泣き声で気付いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	①保護者対応中、②トイレへ行きたい幼児を集め誘導中	夕方の自由保育見守り時の状況を踏まえ、優先すべき行動の選択ミスであった	①各職員が事故防止の意識と緊張感を持ち保育を行う自覚を持つことを確認した②子どもの動きを予測し、子ども達へ注意喚起や活動の内容の変更を促すことを職員間で共有した	
8394	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	16									34	27	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腕尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	マニュアルがあるが、徹底不足の可能性がある	全職員にマニュアルの徹底を行う	2.不定期に実施	実施頻度(頻)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(頻)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(頻)回/年	木製アスレチックハウスの全体高さは155cmであるが、壁面に上り飛び降りることが出来る遊具である。一般的には50~60cm程度の高さで飛び降りることが多く、今回の事故の場合も本児が飛び降りた高さは同程度である。事故の要因とは考えにくく、本児が飛び降りた時も地上には人工芝が敷いてあった。右足の脛を骨折した要因がわかりにくい。本児は飛び降りたと言っているがその時にアスレチックの突起物に脛を当ててしまい、骨折したのではないか。遊具の使い方が決まっているが、子ども独自の使い方をしている場合があるので、そのことも誘因の一つと考えられる。	遊具から飛び降りる場所の人工芝の確認をし、遊具の壁面の突起物(子どもたちが手で掴み、上るための突起物)の安全確認を行い、遊具の周囲に他の遊具等が置いてないことを確認した。また子どもたちに遊び方の内容について改めて指導を行いたい。	3.個人活動中・見守りあり	事故を起こした時の本児の遊びの様子を担任保育士が十分に確認していなかったことが分かった。全体的把握と共に個別的把握の必要性。	園庭での園児の自由遊び中の見守り確認の徹底。全体的把握と個別的把握の両面について。	1.いつもどおりの様子であった	園児の健康状態その他特に問題点はなく、園庭での遊び中も特に変わったことはなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見ていたが、本児がジャンプした瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいなかった為、本児の様子は見ていない。	４歳児全員が園庭に出ていなかった為、２人の担任職員のうち１人のみ園庭にいた。	１人での全体把握が難しい為、見る事ができる範囲での遊びとするべきだった。また、今後は一人での見守りがないようにしたい。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
8395	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75	0	16	17	12	15	15			10	8	6歳	1.男児	なし
8396	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	2									2	2	4歳	2.女児	
8397	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									3	3	6歳	2.女児	特になし
8398	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	22									3	2	6歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】
8395	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左肩鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	ガイドラインが職員の誰でも見られる事務所に設置してあるが確認は各職員による	ガイドライン（p35～37、41、50～53)を幼児担任で再読した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年
8396	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆状骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	活発に遊ぶことは少なく、体の使い方が未熟なこともあった。	散歩マニュアルの定期的見直しや振り返りを行う。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（4)回/年
8397	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	練習前の準備体操等を行い、児童に対し跳び箱をする上での注意喚起を行った上で練習開始したが、児童の気持ちの高まりを抑えきれなかった。児童の実力の把握が十分ではなかったことも要因として考えられる。	職員業務マニュアル内の「事故防止のための活動別配慮事項」の見直し・追記を行うとともに、今回の事故を踏まえた専任講師による指導を実施する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年
8398	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	遊具に付いていた職員は、園児には遊具から離れるよう伝えてからその場を離れたが、園児が再度遊具で遊ぶことを予測できなかった。	事故に繋がる遊具の扱い方について、検証し、園児の遊び方に留意していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週

No	ハード面 その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8395	園庭は花壇や砂場、倉庫の軒下以外、全面人工芝が敷いてある。当該事故以前は園児の転倒で怪我があっても擦傷程度であったため、人工芝は柔らかく安心という過信があった。	園庭の安全チェックを行う。危険な場所や地面の固い柔らかい、不安定な場所など幼児担当職員間で共有し合った。再発防止を心がける。	1.集団活動中・見守りあり	異年齢、スペースの関係で遊べる内容が限られていた。	午後の園庭での保育に於いて、園庭にコーン（ライン）を置き乳児・幼児クラスを区切った。また幼児クラスで室内遊びを同時に行い園庭に出る園児数を制限し、遊べるスペースを十分に確保した。	1.いつもどおりの様子であった	人間関係の幅を広げたグループを作り、主体的に遊びを展開していた。5歳児男女10名でルールを決めて鬼ごっこ（どろけい）を遊んでいた。鬼役の園児から逃げていたところ後方から左肩を押されて前方に転倒した。その際両手を地面に着かなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	当該児がグループ活動をしていたことは把握し、年少児にぶつからないかを気に掛けて見守りをしていた。しかし担当保育士は他の園児に目を向けており当該児の転倒を見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該児がグループ活動をしていたことは把握していたが、保護者伝達と全体に目を向けていたため当該児の転倒を見ていなかった。	午後の園庭での保育に於いて、保護者伝達する職員、全体を観る職員は決まっていたが、普段と違う職員体制だったことで動きの連携が不十分となってしまった。	午後の園庭で保育を行う職員同士、役割や立ち位置を確認し合うようにした。またいつもと違う様子の園児がいれば職員間で共有し、必要に応じて介入するようにすることを担当職員で確認した。	
8396	久しぶりに広い公園で本児の周囲への安全の意識が薄くなっていた。	日頃から公園等の状況把握、点検をする。子どもにも地面の傾斜など丁寧に伝え気をつけるよう促す。	1.集団活動中・見守りあり	公園での遊び方など伝えてはいたが、身につくまではいっていなかった。	公園内の起伏など子どもたちと確認したり、体の使い方を学べる機会を意識して取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	体調や機嫌など普段と変わらず良好だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	公園内全体を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児が走ってくるそばにはいた。	他児と共に楽しみながら走っていたため足元への注意が薄れ、普段以上の速さで走っていたと思われる。久しぶりの散歩だったため、子どもの気持ちも高揚していた可能性がある。	地面の様子（起伏等）や周囲の状況を見ながら遊ぶなど子どもへも注意を促すとともに、子どもの全体の様子を職員が把握していく。	
8397	今回の事故時に使用していた跳び箱・踏切板についてはSGマーク取得済みの教具であり、破損・劣化もなく、ハード面として安全性に問題となる箇所は見当たらない。	現在使用しているマットを衝撃吸収するウレタンマットに変更することを検討。	1.集団活動中・見守りあり	運動会を目前にクラスの児童全員が意欲的になっており、ケガをした児童もいつもも以上に力が入っていた。	児童への注意喚起の方法について、工夫を検討する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱への自信をもちはじめていたところ、気持ちと力が比例せず、勢いからの着地の際バランスを崩し転倒	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	職員1名が補助に付き、もう１名の職員が補助の見守りを行っていた。園児の手の付き方を見守りの職員が見て、直ぐさま看護師の所へ連れていき、看護師が観察・応急処置を行った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	その場にいた職員は至近距離にいたが、事故を防ぐことはできなかった。	今回の事故による診察で、児童が側弯症であることが分かった。	児童の実力が上がるにつれて危険性も増すと考えられるため、再度職員間で補助のつき方や補助方法についての見直しを図る。また、児童に対しては基礎トレーニングを充実させるとともに、腕支持の強化を図れる取り組みを行っていく。	
8398		日々の安全点検は実施し不備はなかったが、遊具の構造や園児の扱いについて改めて確認する。	1.集団活動中・見守りあり	園児は遊具の遊び方を理解しているが、自己の力を過信して一人で遊んでしまった。	職員が遊具から離れるときには、今まで以上に職員間で声をかけて園児の動きを確認して危険回避をする。	1.いつもどおりの様子であった	普段から鉄棒は、職員が見守る中で遊んでいて、本児もいつも通り遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	危険が無いよう本児と他１名が遊んでいた鉄棒の傍についていた。その場を離れる時園児にも離れるように伝え、離れたことを確認してから離れた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	鉄棒から離れることを告げられていたので、本児が鉄棒から離れたことを目視して、他の遊びをする園児に付きながら園庭全体を見守っていた。	再度、ひとりで鉄棒で遊ぶことを予測できなかった。	５歳児だから大丈夫であると過信しすぎず、固定遊具等危険を伴う遊びには充分に目を向ける。	

No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8399	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	9	0	0	8	1	0	0	0		2	1	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	上前歯2本の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	危機管理マニュアルを普段見返す時間を取ることが現実的に難しい状況がある。	ヒヤリハットを多くあげ定期的に回覧し事故防止に繋げている。怪我や事故報告書も職員会で共有し、事故の起きた要因や再発防止策について話し合う時間を設ける。ヒヤリハットや怪我の共有を行うときに職員会で危機管理マニュアルを読み合わせする時間をとるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(多数)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(多数)回/年	マットの山、跳び箱の2か所で子どもが跳び降りた際やにけがをすることが考えられた。	その場につける職員が一人の場合には転倒や跳び降り後の事故を想定し、ダイナミックな危険が伴う運動遊具は一か所にするなど運動遊びを行う子どものメンバーの発達に合わせて環境を作る。	1.集団活動中・見守りあり	子ども主体の保育を実践する中で、本児が希望して2歳児クラスの運動遊びに参加していた。本児も発達課題はあったが2歳児と比べても転倒や怪我をする可能性は低いだろうという過信があった。	異年齢の子どもが運動遊びに参加するときには、一人ひとりの発達課題を的確に捉えて必要に応じた援助ができるように職員会等で共有しておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝は母とバイバイが出来なかったことに対して機嫌が悪かったが、運動あそびでサーキットを楽しんでいるうちに興奮状態になった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	マットの山の先に跳び箱のジャンプ台を設置していたため、(跳び箱からジャンプする子を援助できるように、またトンネルが倒れないように持つ)そこについて本児の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内で、サーキットあそび以外の遊びをしている子どもたちを保育していた為その場にいなかった。	保育者のすぐそばには、子どもがいない状況であったが保育者はつく位置を変えずに子どもがいない場所に留まって子どもの様子を観察していた。	転倒をした時を想定し、すぐに手を差し伸べられる場所へ保育者が子どものサーキットの進み具合に合わせてその都度、移動する。	
8400	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			9	2	1				2	1	2歳	1.男児	夕方保育の時間と週末だったことから、疲れから注意力が散漫となっていたこととテンションが上がっていた可能性がある。負傷した前歯が虫歯になっており、うち1本は神経が溶けていた。(生活習慣が原因であると医師より)	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/月	2.基準配置		その活動を行う時に、子どもの人数に対して体を動かすスペースが適切かどうかを考える。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/日		今後も現状通りの安全点検を行っていく。	1.集団活動中・見守りあり		夕方の2歳児保育の中に異年齢児も加わっていたため、小さい子の集団に対する安全対策を意識していく。	1.いつもどおりの様子であった	音楽をかけると他児と一緒に踊っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が動き出したことや転倒する瞬間も見ていて、すぐに抱き起した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内に当番保育士1名がいたが、廊下での様子は見ていなかった。		子どもは疲れると注意力が散漫になったりテンションが上がってしまうため、子どもの心身の状態を把握し、特に夕方保育は保育内容と環境を整える。	
8401	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨・尺骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	舞台使用に関する事故防止のためのマニュアルがなかった。	舞台使用に関する事故防止マニュアルを作成する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	子どもたちには発表会の練習時以外舞台には上がらないよう注意していたため、片付けの時間に子どもたちが舞台上でケンカをするとは想定外だった。	柵を置くなどして、発表会の練習時以外は舞台に上がれないようにする。	3.個人活動中・見守りあり	発表会に向けて、通常はない舞台が長期間、５歳児保育室に設置されていた。	柵を置くなどして、発表会の練習時以外は舞台に上がれないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	片付けようと思っていた自分が作ったブロックを友だちが持っていってしまい、「僕の！」と訴え、取り返そうとしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちに片付けを促していたため、舞台の方に目が届いていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	舞台奥にある棚に、子どもたちを背にして物をしまっていたため見ていなかった。	特になし	職員は、子どもに対して背を向けないよう気を付ける。	
8402	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17				9	8				4	2	4歳	1.男児	スライディングが好きで、時々していた。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上左右乳中切歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	規定の人数は満たしているが､怪我をした時クラス職員はベランダにいて､本児に着いている加配の職員が周りの年少児に目がいっていた。	加配職員が本児に専念出来るよう、職員が先に入り、他の補助職員と連携を取りながら気を付けていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	換気の為、ドアが開いていて、廊下へ自由に出られるようになっていた。	廊下へ出られないように鍵をしておくべきであった。	1.集団活動中・見守りあり	帽子が思いの外、滑った。	帽子を滑らせないように、注意して見守る。	1.いつもどおりの様子であった	衝動的に動くことが多い。この頃、スライディングのような動きを好んでしている。	4.対象児の動きを見ていなかった	傍にはいたが､他の年少児に目がいっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスリーダーは他クラスの手伝いをし、もう一人の担任は最後尾から戻ってきてベランダに居た。補助職員は子ども達の昼食の準備をしていた。	この頃、スライディングのような動きをすることを好んでしていて今回もしていたが、帽子を持っていたので、思いの外､滑ってしまった。	動きのある時には､必ず大人が本児の傍にいる。そのために他の子達を担任や加配職員以外の大人が見れるように､連携を取っていく。	
8403	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	1									8	6	0歳	1.男児	なし	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	受け入れ室を使用するにあたり、施設の使い方を丁寧に説明することが必要だった。	使い方を丁寧に説明する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	ベビーベッドを置いていて、柵ができないようになっていた。	ベビーベッドを撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	引き渡し後の保護者に注意を向けていなかった。	保護者に引き渡した後も、注意を向けておく必要がある。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後だったので、対象児は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者に引き渡した後だったので、対象児は見ていなかった。	保護者が本児をベッドに乗せたまま目を離した。	子どもからは常に目を離さないように声をかける。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳								教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰				診断名	事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位			マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8404	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	11									2	1	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	事故当日は、欠席児はおらず保育士１名補助１名で適切な配置。事故発生の連絡を受け園から園長と主任が現地に向かい救急車の要請を行う。	救急車の要請について緊急性が高いときは、加勢人員を待たずに必要に応じて担任保育士が行うことを園内で周知することでより早く救急搬送が可能になる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	今回の事故においては、大型遊具を使って鬼ごっこをしてはいけないルールが、子どもたちに周知できていなかった。	今後の改善点は、鬼ごっこをするときには大型遊具を使わずに土の上だけで行うようにする。	1.集団活動中・見守りあり	前年のクラスでは、園外保育の大型遊具を使って鬼ごっこをしてはいけないルールになっていたが、進級しルールの確認と周知ができていなかったことが原因。	年度の代わりで担任が変わるときは、必ず園外保育のルールを周知し徹底する。	1.いつもどおりの様子であった	ルールが、周知されていなかったために事故につながってしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	大型遊具の近くに担任保育士が配置されていたが、手を伸ばせる距離ではなかったために転落を防ぐ事ができない状況であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	全体と対象児を見ていたが、転落が防げる距離ではなかった。	対象児は足腰の筋力が弱いところがあるので、踏ん張ることができず滑り台の不規則な階段から転落してしまったことも要因となる。	日頃より、体操などの運動遊びを取り入れる際に足腰の筋力が鍛えられるような遊びを取り入れていく。	
8405	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	44	9	12	15	15	15	15	0		3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕上顆剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		子どもの状態(健康状態や動き)を良く知る(把握する)保育士が援助、補助する。ヒヤリハット・怪我報告書の検討内容を多くする。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年		園児たちが遊ぶ場所の下見を更に重点的に行い、遊び場の確保、またボール遊び等、集団で遊べる設定をしていく。	園外保育中の出来事		個々の園児の運動能力を十分に見極め、少しでも不安がったり怖がっていたらすぐ手を差に延べたり、ジャンプをしたい子どもには低い所からと誘導したり安全第一にする。年齢にあった遊びを考え実践していく。	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	そばで見守っていたが、他児と他の遊びをしたり話していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった			全園児の活動(行動範囲)が見えるように職員配置をして、また高い所から飛び降りたりしている際にはすぐに止めたり、活動に合わせた援助をしたり職員間で園児の危険行動についてのロールプレイングを再認識していく。	
8406	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	14									2	1	2歳	1.男児	個別対応が必要な子ども	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	前歯骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	手が付けないため顔面を床にぶつけたので、手をつくことが出来る経験が出来る活動を入れていく	子どもの得意不得意を見極め何が現在いる子ども達に対していい必要な活動のなのかを話し合い、活動に組み込んでいく	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	職員の膝に座らせるのではなく、着脱用の椅子に座らせる	着脱用の椅子に座らせ後ろから介助をしない	7.その他	着脱に気持ちが向けば行うことが出来るので途中まで手伝おうと職員も思っていたため、ズボンに職員の手もかかっており助けることが出来なかった	本人の気持ちを落ち着けることと介助の仕方の工夫をしていく。	1.いつもどおりの様子であった	午睡後、排泄に促す為、気持ちを盛り上げており、直前までズボンを揚げたり下げたりして職員の膝の上でふざけていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児を膝の上に座らせていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	至近距離にいたが他児の誘導をしていた	直前まで子どもがふざけていたため気持ちが高ぶっていた。	メリハリをつけるように促す	
8407	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	10									2	2	2歳	2.女児	活動中転倒しやすい	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	危険がないよう常に声掛けを行っていたが、転倒しやすい児で瞬時に保育者が手を出して受け止めることが出来なかった。	転倒した際や危険な場合は、保育者が手を出して受け止めたり差し伸べたり出来る距離で活動を見守る。	3.未実施	実施頻度()回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	少し凹凸のある滑り台がある。	対象児のような転倒しやすい児がいる場合は使用する遊具を考えてから活動を始める。	1.集団活動中・見守りあり	少し凹凸のある滑り台で遊んでいた。	子ども達が滑り切る最後まで見届け、危険な際はすぐに手を差し伸べることが出来る距離と態勢で見守る。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子で友だちと楽しく活動をしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	小さい凹凸のある滑り台で遊んでいる際、右側近くで子ども達の様子を見るようにしていた。	本児を含めて滑り台で滑る全体の子どもの様子を見ていた。	他児が滑る大きい滑り台右側近くで活動様子を見て、危険な際は声を掛けたり援助したりしていた。	対象児を見ていたが、転倒する瞬間に手を差し伸べることが出来ず間に合わなかった。	いつでも手を差し伸べることが出来る態勢にしておく。	
8408	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	15									12	12	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		1.意識不明	1.頭部	急性脳症	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１～２)回/年	2.基準配置	-	今回の事例を職員間で話し合い、フローチャートを作成。実際に起きたことを想定した研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	-	-	3.個人活動中・見守りあり	-	-	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	事前に運動会の練習を行っていたため、疲れている様子が見られた。担任が呼びかけると反応があったが、座ってじっとしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任が退勤時間だったため、5歳児クラスと合同保育を行っている最中であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	4歳児と5歳児クラスが合同保育をしていたため、5歳児担任1名で保育をしていた。	-	-	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8409	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	19					4	15			2	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	職員配置については問題ないが、子供の行動についての認識が薄い。危機管理マニュアルは作成しているが事故予防対応についての周知がきちんとできていない。	園内での研修を定期的に行い、マニュアルの作成や見直しなど職員が話合い決めることで周知をしっかりしていく	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(365)回/年	環境面の危険個所については、気付いた時に改善しているが、日頃起きそうもない事故について予想をして事故防止を考えていない	事故対応についての研修や話し合い、確認を資料を使い周知していくことが必要。ヒヤリハット報告書を活用、事故後の対応についてきちんと実施できているかなどの振り返りを定期的に行う	1.集団活動中・見守りあり	4～5歳児のため考えて行動はできる年齢だが、遊ぶ際の注意・約束をしてからの活動ではあるものの子供の行動の意外性など予測をせずに保育をしていたことが事故に繋がった原因であると考える。また、職員が1名保育室を離れることがわかっていたが、子供たちを自分の目が行き届く範囲に移動させる、注意を促すなど対策を取らなかった。	職員間の連絡をしっかり行い、対応について意思を統一し安全に過ごせる環境を整えることを徹底する。急な対応が必要になることもあるため他の合同保育の担当とも連絡を取り合って行動する	1.いつもどおりの様子であった	同年齢の園児と遊び基本いつもと代わらない様子。事故直前は2～3名の同年齢の園児と絵本を読んでいた状況	4.対象児の動きを見ていなかった	常勤保育士1名は、保育室入口にて園児の様子を見ながら保育を行う。子供の要望により絵本コーナーの使用を決め遊び始めるが、園児お迎え連絡を1階エントランスの職員から内線にて受けながらの保育状況。他1名（常勤保育補助）も同室内で子供と遊ぶなどして保育をしていたが一時退室をする際においても、残った担当常勤保育士は2名で保育をしているような体制で子どもを見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えに既に来ていた園児が忘れ物をしたため、1階エントランスに荷物を届けに部屋を出ていく。残る職員にもその旨は伝え保育室を退出した。事故当時の様子は見ていない。	園児の人数が少なく、子供たちが静かに遊んでいたため安心感もあったのか事故の起きた絵本コーナーをしっかりと見ていなかった	保育者の人数が少なくなる段階で、自分の見える範囲に一時的にでも子供を移動させる、声掛けをして注意を促すなどの対応を必ず行う。職員数がやむをえず少なくなった時の対応についても研修や話し合いを行う際に周知徹底をしていく	
8410	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	20				5	10	5			4	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕全腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育士の危機管理意識の欠如	マニュアルは再度全職員で読み直しを図り、危険個所の見直し、使い慣れた安全な遊具による事故発生の可能性の再認識を行い、事故の未然防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度使用の都度	1.定期的に実施	実施頻度使用の都度	遊具の使用年齢は3歳～12歳用であった。	引き続き、遊具の使用前には遊具本体や周辺の地面等も点検を行い、怪我につながる箇所がある場合は、排除や中止を検討する。	1.集団活動中・見守りあり	うんていを行っている本児の前に他児が現れていた。	遊ぶ前にお話や約束ごとを伝える場で、雲梯をしている児がいる時は近寄らないことや順番に行っていくことを伝えていく。活動中で怪我に繋がるような危険な関わりが見られる場合には、保育士から声をかけ安全の確保を図っていく。	1.いつもどおりの様子であった	自ら遊具を選び挑戦を試みていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	雲梯に向かっている本児については確認できていたが、他児の補助や見守りを行っており、発生直前の本児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをおこなっており、発生時点の本児の動きを見ていなかった。	日常的に遊んでいる遊具であり、危険度の認識が薄れていた。	各所で活動している児に対して保育士の見守りに死角ができないよう、職員同士の配置を互いに共有し、声をかけ合いながら遊びのサポートを行っていく。	
8411	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	23									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1～２)回/年	2.基準配置	特になし。	事故があった場合は速やかに職員間で情報を共有し、対策を立てるなど再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(適宜)回/年	屋上遊技場が濡れているようなことはなかった。	特になし。	1.集団活動中・見守りあり	2つの遊びを設定するには、十分なスペースとは言えなかった。	氷鬼など集団遊びをする時は十分な広さを保ち参加する人数に留意すると共に、職員も複数で見守れるような体制をつくる。フェンスがあることを子どもが意識できるよう、フェンスの手前に目印をつけスピードを落とせるような環境設定を行う。	1.いつもどおりの様子であった	日頃の様子と変わりなし。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体把握しながら、ウエイブバランス平均台の方に付いていた。ぶつかった瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	氷鬼についていたが、ぶつかった瞬間は見ていなかった。	特になし。	全体把握が十分に取れるような体制で、適宜危険がないか、職員同士、声をかけ合い確認する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8412	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	15									3	3	2歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置			1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(適宜)回/年	走りまわりやすい導線や転倒した時に、怪我につながりやすい室内環境になっていた。	室内の導線を確認し、子どもに合わせた環境構成に変える。タイルマットを敷き、転倒しても怪我に繋がりにくいような工夫をする。	1.集団活動中・見守りあり			1.いつもどおりの様子であった	体調もよくいつも通りの様子で過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	1人の保育士は排泄で保育室から抜け、1人の保育士は別の園児が玩具の取り合いでトラブルになっていたので、その対応を行っていた。トラブルになっていた園児は最近噛みつきやひっかきが多く見られたためその園児の近くに行って対応を行っていた。しかし怪我をした対象児が部屋内を走っている姿は視界にとらえており転倒してすぐ対応を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援員は造形コーナーで他児童の遊びを見守っていた。	保育士がそれぞれほかの子ども同士のトラブルや排泄に集中しており視界にはとらえていたものの、走り回っている子どもを注意する保育士がいなかった。	子どもの動きを確認しながら保育士同士が声を掛けあい、子ども全体を把握する。	
8413	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	3	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	なし	本件を全職員に周知し、床面の整理整頓を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(53)回/年	なし	児童活動場所の床面に、転倒を誘発するようなものが落下していないかどうか確認を徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	机や周りを片付けていた為、床に服(衣装)を置き、着替えをしていた。	児童が踏まないよう机等の片付けを終えてから、服を机の上に置いて着替えを行うこととする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から動きが活発であり、日常通りであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士2名が複数児童を確認していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士1名おやつの片づけをしていた。	なし	片付けを終え職員が揃ってから着替えを始める。当該児の動きを予測し、着替えが終わるまで必ず職員の手が届く所に付き、見守りや声掛けを行い危険なく着替えられるようにする。	
8414	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	19									4	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１）回/年	2.基準配置	道路の歩き方において列の間延びやトラブルが発生した際の保育者同士の注意や声掛けができていなかった。	戸外活動に関する安全対策及び職員同士の役割について、研修を今年度中に実施する。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年		特なし	1.集団活動中・見守りあり	園児同士のペアリングと配列、体格・体力の差など考慮する必要があった。	担任以外の先生が保育に入っても十分に安全対策を見据えた活動計画を共有する。活動後の子ども達の体力に合わせ帰園時間の見通しを立てる。	1.いつもどおりの様子であった	公園の活動を十分に楽しんだ。本児の気に入った友達とペアになったことで満足して歩いていたが緩い傾斜のついた登坂で疲れが出てしまい歩くペースが落ちてしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	先頭で園児を引率し、安全確認のため配列の修正をしたり自動車の往来に注意を払い、補助に入った保育士や補助員に声掛けを促していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児と手を繋ぎながら本児の後ろについて歩いていた。前との距離が開くたびに子ども達に声掛けをしていたが、先頭で引率している担任や配列の中央にいる補助員には声掛けをしなかった。	手伝いに入る先生と園児との間に信頼関係が構築できていない。安全対策に対する役割を十分に果たしていなかった。	手伝いに入る先生と一緒に子ども達へ安全指導を実施する。職員同士が役割を遂行できるように安全対策・緊急時の対応について共有する。	
8415	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	4	3	7						4	1	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上ＡＡの脱臼	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.基準以上配置	夕方保育は異年齢保育であり、体格や遊びが違うので十分な配慮が必要である。	年齢に合わせた遊びの設定、保育する際の職員の位置や全体把握など、各々で意識しながら視野を広げて保育していくことを全体周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり	0，1歳児クラスの児の遊びを保障することで、目の前のことに気を取られている職員も多かった為全体把握という点で手薄になり、状況を予測したり声を掛けることができなかったと考える。	全体の状況把握という面で、保育に当たる職員一人ひとりが意識していくことを職員間で確認した。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった。他児とぶつかった直前は歩いていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児、他児の２名とも視野に入っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児、他児とは瞬間は関わりはなかったが、視野には入っていた。	異年齢保育であり、身長や体重の差はあったが、歩き始めた方向から、衝突も予測するべきであった。	衝突することを予測し、事前に声を掛けるようにする。	
8416	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業〜午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	9									1	1	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左中指の中節骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	事故の起きやすい時間帯や状況を保育士が把握していなかった可能性がある。	事故の起きやすい時間帯・状況等を話し合い注意出来るようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１／日)回/年		園児同士が距離を保って遊べるように保育者が見守り・声掛けを行う。	1.集団活動中・見守りあり	園児同士の遊んでいる距離が近かった。	園児同士が距離を保って遊べるように保育者が見守り・声掛けを行う。	1.いつもどおりの様子であった	活発で注意力が散漫になりやすい対象児であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育室にはいたが、対象児が事故を起こした場面を見てはいなかった。	他の部屋にいてその場にいなかった	職員は１名体制であった。	対象児が活発に動くため注意が必要な時がある。	活動的な園児に対しては気にかけて保育者で共有し見守るようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8417	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	4	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3. 2歳児クラス	16									3	3	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	遊びの展開から行動予測が出来なかった。	今後は、事故予防について毎月1回クラス会議で周知し合い、予防に努めていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(48)回/年		今後も継続的に保育園の事故防止表・安全点検表などを続けていく。	3. 個人活動中・見守りあり	狭い小屋の空間、２歳児という運動の発達を考えると小屋に足をかけられると分析される。登って転倒の恐れもが考えられる。	子どもたちが小屋に入り（逃げ込み）窓枠に足をかけた時点で危険を察知するべきであった。危険を予測した時点で、子どもに声を掛けるだけでなく近くに行き行動を抑止することが大切。日頃から子ども達に遊具の使い方を知らせていく。	1. いつもどおりの様子であった	本児はいつもと変わらない様子であったが、おおかみごっこをしたことによって楽しさと捕まりたくないと思いから興奮していた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	クラスの子3人と保育者1名が園庭でおおかみごっこをしていた。子どもが小屋の中に入った時（逃げ込み）声掛けの注意でだけで、本児が窓枠に足を掛けるのを止められなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ違う遊具の所で複数の子どもたちを見ていた。	園庭でおおかみごっこをし、捕まらないように小屋の中に入り（逃げ込み）２人が窓枠に足をかけ跨ごうとしていた。２歳児という年齢から興奮をして危険な行為になる可能性が起こりうる。危険を感じ、窓枠に足をかけていることを注意すると子どもの1人は足を降ろしたが、本児は足をかけるのを止められず、危険を回避することが出来なかった。	足をかけている時点で危険を予測したが、もっと早い段階で声をかけ、すぐに子どもの近くに行き行動を抑止する。保育士の注意する声の掛け方や大きさにも気をつけていく。子どもの突発的な行動を日頃から予測するよう子どもの行動をみる。会議などで職員に周知していく。	
8418	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	9		6	3						3	3	2歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	下前歯２本脱臼	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	砂場の遊びの様子を見ていた保育士が園庭に残る等、職員配置に細かい配慮が必要だった。園庭の使い方の職員の共通認識が曖昧になっていた部分があった。	職員配置を考える際、遊びの様子を見ていたのか等も考えて配置するよう改めて意識する。再度園庭の使い方の園全体での見直しと確認を行う。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(数十)回/年	当該児の発達状況は２歳０ヶ月、運動面でバランスに不安定さを感じる場面もある。ポールについては腰かけられる高さである。	職員間で危険箇所の再確認を行う。「のらない」の表示をつける。	1. 集団活動中・見守りあり	園庭で自由に好きな遊びができるように活動を設定していたが、当該児は探索遊びをしていたため、砂場の周りを歩いていた。	一人ひとりの動きを細かく把握する。好きな遊びが見つけられるように環境を整え、援助していく。	1. いつもどおりの様子であった	体調面は変わりなし。普段は幼児クラスの姉が園庭に出ていることが多く一緒に遊ぶ姿が多い。この日は姉が園庭におらず保育士と砂場で遊んだり周囲を観察していた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	当該児の所在は確認していたが、砂場の中に園児が多かったため、そちらに付き砂場の玩具を片付けるよう声を掛けており、当該児から目を離していた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他担任は室内に戻るために離れていた。	当該児が数回ポールに乗っていた姿を担任間で共有できていなかった。ポールが危険であるという認識が薄くなっていた。２階に上がる子ども、園庭に残る子どものメンバーの設定を遊びの様子に合わせて決める配慮が足りていなかった。	場面の切り替え時子どもの所在と遊びの様子を担任同士で確認する。砂場のポールは危険であることを職員が常に意識し子ども達に繰り返し伝えていくようにする。担任が少なくなる際には、周りにいる職員に声を掛け協力してもらう。	
8419	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	18				18					3	2	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右下腿骨骨折	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	特になし	安全に遊べるよう、常に子どもの動き、大人の動きを意識する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	定期的に破損などないか点検を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	限られたスペースでの外遊びということの意識付けが足りなかった。	子どもたちの動きを見ながら、ぶつからないように注意してボール遊びを行うか、状況によっては、違う遊びの提供を行う。	1. いつもどおりの様子であった	クラスの友達とともに園庭で遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	他の子どもたちと関わりながら、対象児を含めた全体的に子ども達の動きを見守っていた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の子ども達と関わりながら、対象児を含めて全体的な子ども達の動きを見守っていた。	職員がボールを止めた（押さえた）ところへ本児が走りこんで来て、ボールを蹴ったがボールは動かず、その衝撃がすねに加わってしまった。	瞬間的な出来事ではあるが、ボールを抑える力加減を注意する。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

概要					発生時の施設・事業体制								事故にあった子どもの		事故状況		事故の転帰					事故発生の要因分析						掲載更新年月日
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳					教育・保育等従事者	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故発生時状況	事故の転帰 死亡	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故ソフト面マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析・特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	うち保育士・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員												
8425	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食時頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	39				21	18	2	2. 女児	2. 5歳	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	5. 下肢(足・指)	左足関節外側靭帯損傷 骨挫傷 骨折	1. ありの他	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	3. 基配置			
8426	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	11	0	3	1	2	2	3	0	3	1. 男児	3. 3歳	2. 室内活動中	1. 負傷	右母指末節骨骨折	2. 自らの転倒・転落によるもの	1. ありの他	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 基配置以上配置	木箱の取り扱いが原因で指を挟まれ骨折した。	箱の取り扱いについて個別に声掛けをする。その後、アップデートされたマニュアルを設計。事故予防のためあっての事故発生の一つとも言える。	
8427	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	46						4		4	1. 男児	3. 5歳	1. 屋外活動中	1. 負傷	2. 骨折	4. 上肢(腕・手・指)	右上腕骨折	2. 自らの転倒・転落によるもの	1. ありの他	1. 定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	1. 基配置以上配置	事故予防のため日頃から子どもの様子を見ておくことが大切。事故発生の一つとも言えると思う。	園庭での自由遊びにおいて、鬼遊びの中で、鬼に捕まえられる子どもが多くいた。鬼ごっこ

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8429	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34				16		18			3	3	6歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨外果部裂離骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	外遊びについてのマニュアル等は作成していたが、危険個所や使ってよい遊具についての職員同士の共有ができていなかった。	外遊びについてのマニュアルを遵守し、職員間で共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	３歳児クラスの職員がてんぐぽっくりを出し遊んでいたが、遊び終わった後も出しっぱなしでいた。	てんぐぽっくりの保管場所を決め、使用する際は保育士が出し、使用後は所定の場所に戻すことを徹底する。	1.集団活動中・見守りあり	クラス別の活動と違い、合同になる時間帯があったため、どこで誰がどのような遊びをしているか職員間での情報共有が不足していた。	合同保育に限らず、戸外活動での職員配置については、必ず事前に遊びの内容や立ち位置を確認し、職員間で情報を共有する。	1.いつもどおりの様子であった	木の回りにある縁石付近でてんぐぽっくりを使用し遊んでいたが、バランスを崩してんぐぽっくりから飛び降りた際に、縁石に踵をぶつけるように着地した。その時は保育士に痛みを訴えることなく、その後室内で劇遊びのムササビ役で跳んだり跳ねたりしている。劇遊びの終了後、足が痛いことを訴えたが腫れや発赤はなく保冷剤で数分間冷やしたのちに普段通り遊ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当保育士は、別の場所でその他の園児と遊んでいた。該当園児が足の痛みを訴えたことで、いつどのようにして足が痛くなったのか聞き取りし、複数の職員で視診を行い看護師にみせる。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	看護師が触診し左踵部内側の痛みを確認したが、腫れや発赤はなく保冷剤で冷やし様子を見るように伝える。	どのタイミングで該当園児がてんぐぽっくりで遊び怪我をしたのかを把握していなかった。	遊びの内容や遊び方に危険がないか、全体を見る職員を必ず決めてから遊ぶ。	
8430	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	26						26			2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	グランドの広さと年齢を考慮すると、さらに人数を増やした配置をとることができるとよかった。	１クラスのみでは職員配置に余裕を持てないため、5歳児クラスにもさらに配置できるように活動時間等を工夫する。	1.定期的に実施	実施頻度(２４)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	グランドを使用する際は、保育者が活動前に目視で異物や危険な物が放置されていないかを確認し、大きな石等も目立つものは撤去していた。しかし、今回のような小さな石までは撤去していなかった。	引き続き子どもが遊びに入る前に、保育者が遊ぶ範囲を目視と実踏で確認し、危険物を除去する。	1.集団活動中・見守りあり	広いグランドのため、子どもの年齢が高くなるほど活動範囲が広がる。そのため、保育者が個々の子どもの様子を把握しにくい状態になっていた。	必ず複数の保育者がいるので、それぞれの役割分担を明確にし、全体を見る保育者を配置する。	1.いつもどおりの様子であった	転倒前は特に変わった様子もなく、いつも通りであった。転倒後も鬼ごっこに参加するなど、子どもに通常の動きがみられたことで受傷の程度の判断が遅れてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒した場面を見守ることはできていたが、保育者が手を伸ばせば届くほどの位置にはいなかったため転倒を防ぐことはできなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた場所で他の複数の子どもの見守り中だった。	本児が以前にも同じような痛みを訴えたことがあったが、その際は本児の機能面の問題ではなく気持ち面での影響が大きかったように保育者側からは見受けられた（本児は特段の通院をしていない）。このため今回の事案発生時も、保育者側に前回の状況と同じように気持ちの問題ではないかという思い込みが強くなった。	先入観をもたずに冷静に状況判断する。転倒等のあとに痛みを訴えた場合、どのような状況であっても、機能面の問題がない事を確認するために活動を切り上げ、すぐに保護者に連絡し受診をする。	
8431	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	29	0	0	0	10	9	10	0		3	3	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	散歩に行く際は、手をつないで歩いており、走ることがないよう、伝えていたが、当日、走り始めた際、止めることができなかった。	散歩マップに、公園までの経路の状況（歩道の幅、段差の有無、信号切り替えの長短、危険個所）を追記し、児童が走ることのないよう、職員間で確認を行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		２クラス以上の合同で散歩に行くことをやめ、スタッフが常に側につけるようにした。	1.集団活動中・見守りあり	散歩時に歩いていた歩道は、排水溝の段差があり、道幅も狭かった。	今後も散歩で使用する道路であるため、段差や狭い歩道の安全な歩き方を伝えていく。また、狭い道路を通る際、先頭を歩く職員は、全体の歩く様子を確認し、歩くペースを高慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	通常どおりの様子であった。当日、異年齢との手をつないでの歩行をしており、歩調や、歩幅にばらつきがあった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	児童の列の中間地点で、一緒に歩き、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	先頭を歩く職員は、全体の確認をしており、当児童の様子を十分に把握していなかった。	異年齢と手を繋いで歩行しており、歩調や歩幅にばらつきがあった。児童の列の中間地点で歩行する職員は、道路の段差について気を付けるよう児童に声をかけていなかった。先頭を引率スタッフの歩行速度がやや早かった。	手をつないで歩く際には月齢や体格などを考慮する。先頭を引率する保育者は、常に子どもの歩行状況を見守り無理のない速さで歩く。段差等がある場合は声がけで注意を促し、子ども自身が意識して歩けるようにする。全スタッフの散歩移動時の危険予測の意識を高めるため、振り返りを2回実施した。全ての公園において道路状況により発生する事故の可能性を想定し、危険個所をマップに記載する。安全な歩行ができるよう交通ルールも合わせ、子どもたちに安全教育を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8432	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	20									2	2	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	亀裂骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置		日頃から、ケガなどに対するヒヤリハットを職員全員で共通認識し、事故防止に勤める。	1. 定期的に実施	実施頻度（１)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/月		三輪車での遊び方の再確認を行い、不適切な遊び方をしていた際には、すぐに注意しやめさせる。	1. 集団活動中・見守りあり	三輪車の乗り方の約束の徹底が出来ていなかった（勢いよく漕いでいた）	遊び方の約束ごとの徹底を図る。	1. いつもどおりの様子であった	登園時より、普段と変わらない様子で過ごしていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	１人はお迎えの園児がいた為保護者へ引き渡している数分目を離してしまった。もう一人は全体を見守ってはいたが対象児からは離れた場所にいた為、事故を防ぐことが出来なかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他クラスは室内にて過ごしていた		降園する園児を保護者に引き渡す際も、園庭全体の様子を把握できるよう留意する	
8433	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5. 4歳児クラス	14									1	1	5歳	2. 女児	保育者一人しかいなかった為、もっと多くの目で見るべきだった。正しい遊び方のルール約束を伝えていなかった。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	3. 体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(３)回/年	2. 基準配置	ハザードマップを作り予測される事故などを明確にしていたが、丁寧な周知ができていなかった。遊びの前に職員間で声かけをしあう等注意喚起をするべきだった。	ハザードマップの見直しを行うとともに、異年齢が園庭を使う際の遊び方のマニュアルの作成を行っていく。事故・怪我が起こった時、ヒヤリハットがあった時に情報の共有を図る。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	芝山の広さに対し子供の人数が多かった。	芝山だけでなく、複数の人数が遊べる環境をつくる。遊具を使わない遊びの提供もしていく。	1. 集団活動中・見守りあり	他学年が水遊びをしている時間の為遊べる空間が少なかった。	全体が見渡せる場所で位置での見守り、他の職員の連携をとる。また自分の足元など死角ができることも把握しておく。	1. いつもどおりの様子であった		2. 対象児の至近で対象児を見ていた	複数児童をひとりで見ていた状況であった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数児童をひとりで見ていた状況であった。	芝山の広さに対し子供の人数が多かった。普段から遊んでいる場所の為注意が足りなかった。	遊ぶ前に子供に遊び方のルールを指導できるようにする。危険を予測し子どもの動きを把握する。	
8434	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	3. 2歳児クラス	11									19	13	3歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	上前歯打撲	2. 自らの転倒・衝突によるもの	2. なし	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	保育場面の研修やマニュアルがないため、見守り方等の整備がされていない。	今後、事故防止マニュアルの作成を検討する	1. 定期的に実施	実施頻度(298)回/年	3. 未実施	実施頻度()回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(298)回/年	基準は満たしているが、物品の配置・スペースを考慮していなかった	新型コロナウイルス感染症対応もあり、現在はペーパータオルを使用し、タオル掛けの設置は撤去する。歩行スペースの確保をする。	1. 集団活動中・見守りあり	実際はタオルがたくさん掛かっており、足元が子どもからは見えにくい状態であった。	子どもの目線を考慮し、つまづきやすい物は取り除き、環境整備をする。	1. いつもどおりの様子であった	バケツに入っていた色水を水道にすて、両手でバケツの取っ手を持っていた	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた)	園児の側にいたが、転倒を防ぐことはできなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスで過ごしていたため、気が付かなかった。	職員一人だけが見守っている環境・職員配置が短い時間だったがあった。また、園児の身体面を考慮していなかった。	子どもによってバケツを持たすことを見極め、大人は側で見守る	
8435	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	41				14	13	14			4	4	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右肘外果骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 基準以上配置	幼児クラスは隣接する学校校庭をお借りして遊ぶことが多い。校庭での保育士のつき方や約束事は毎年幼児担当で確認をしている。	マニュアル、職員の配置等については現在のものを再確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２００)回/年	地面の凹凸の確認不足（霜が溶けた際についた足跡が乾燥して固まることで凸凹ができる）。乾燥していると滑りやすい状況になる。	地面の凹凸がある場合には平らにならすか、その場所は避けて遊ぶ。乾燥している場合には水をまく等の配慮をする。	1. 集団活動中・見守りあり	転倒の際に手が出ないことで大きな事故につながる。	日頃から四つん這いの動きなどを遊びに取り入れる等、身体の使い方を身につけられるような活動を取り入れていく。	1. いつもどおりの様子であった	氷鬼に夢中になり、思い切り走っていた際に手が出ず、肘が曲がった状態で転倒した。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と一緒に氷鬼をしており、鬼から他の園児と一緒に逃げていた。走って逃げていた為、転倒した瞬間は担当職員は見えておらず振り返ると本児が転倒していた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転倒した本児の近くで他の子どもとドッヂボールをしていた保育士が転倒の瞬間を見ていた。	人員配置としては十分であった。	スペースも広く、職員配置としては十分であったと考える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8436	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	5									2	2	2歳	1.男児	内反膝	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母足趾基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	子どもの状況とケガのリスクについて職員の危険予知能力の向上が必要	危険予知トレーニングの継続と強化	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(54)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	動物の形状をしたウレタン製のクッションを遊具として提供した。ウレタン製クッションは非常に柔らかく、よく沈み、抵抗力がなかった。	発達年齢に合った玩具選びと遊ばせ方を、実施する前によく検討する。予定していない遊びは実施しない。	1.集団活動中・見守りあり	園児数が少人数で目は行き届いていた。玩具の素材が柔らかいため骨折の可能性に結びつかなかった	玩具に対する危険度を考え、遊ばせ方を職員間で周知する	1.いつもどおりの様子であった	本児は夢中で遊んでおり、受傷したタイミングに気付くことがなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育室内には職員3名が3カ所に点在おり担当職員は決めていなかった。職員3名が取り囲む範囲内で園児達はクッションに跨りながら移動していた。職員の目が届かない所に移動することがないよう見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	補助職員1名はガラス越しの隣の部屋を掃除していたため、本児の様子を見ていなかった	玩具の使い方、遊びのルールについて、職員間で確認をしないまま提供していた	見守り時は担当児を決め、注意して観察する。玩具の使い方を職員間で周知した上で子ども達へ遊び方の指導を行う	
8437	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	23									4	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	（右）第一中手骨基部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	・特になし	重大なヒヤリハットと事故報告書を確認し、全員で認識を深めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	事故当日までの1週間、晴天のため園庭の砂地は乾いていた。外遊び遊具や落葉・ゴミで滑った形跡は無かった。おままごとや外遊び遊具で地面が削られたり、土が盛ったりしていた可能性はある。	ある程度の凸凹地面は身体教育上必要だと考えられるが、転倒事故が予想される時は、早めに気づいて地面を均しておく。	1.集団活動中・見守りあり	1階フロアの3クラスが分散して園庭で遊んでいた。16時以降お迎えで人数は少しずつ減っていたものの、3歳児クラス22名、4歳児クラス15名、5歳児クラス19名の計56名が最多人数である。計算上、園庭の面積が●●●㎡のため、園児一人当たりの最小面積は●●㎡。保育室よりも一人当たりの㎡は広く確保できている状態であった。	あえて園庭で走る環境を設定して、走りたい欲求を満たしていく。	1.いつもどおりの様子であった	事故当時、身体可動域に制限がかかるようなジャンパーは着用しておらず、薄手の長袖シャツとズボンだった。外靴は履きなれた物だったが、これまでにも何度か転倒して膝に傷を負ったことはあった。体操教室に通っており、走るといった得意な動きに対しては活発になりやすい。情緒面は安定している。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児は転倒する前（午前中）から狭い保育室で走り回っており、担任が何度も声掛けしていた。事故当時、園庭には6名の職員（内担任4名）が立って見守っており、当該児の近くで様子を見ていたためすぐに受傷時対応できた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	タイヤ遊び、マット、おままごと、といった別の遊びをしていた園児を見守っていた。	特になし	園庭だけでなく室内（ホール）でも今以上に運動遊びをして運動量を増やし、走る以外の楽しみを見出せるように導く。転び方の練習をする。（指間を狭め手のひら全体を使い、手と腕の支持基底面を広く使うような形で受け身をとれるように）職員全員で走りがちな園児の状況を共有していく。	
8438	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15									4	4	3歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第三中足骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	なし	テーブルや椅子などは片付け、危険物のない環境を整えていた	1.集団活動中・見守りあり	午前中に誕生日会があり、活動の中で体を動かすことがなく、活動量が少なかった。	少しの時間でも体を動かす活動を取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	読み聞かせの絵本の内容が難しく集中できていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	消毒や掃除をしながら離れたところから対象児を見守っていた。走り出したため口頭で注意をすると、一度は座ったが再び走り出し転倒してしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	そばで様子を見ていたが、介助につく児をみていたため、止められなかった。	対象児自身の多動性	対象児の特性を踏まえ、口頭での注意だけではなく、そばについて対応する。	
8439	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	20					10	10			2	2	6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右下肢脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		危険のないよう、周辺の環境を整備する。	1.集団活動中・見守りあり		子ども達の動線を把握し、密集しないように指導する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であったが、おやつ前手洗いに行こうと走ってしまい、立っていた友達の足に躓き転倒してしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの対応をしており当該児が転倒した瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	加配児担当職員で、担当児の対応をしており当該児の動きを見ていなかった。	活動の切り替えの時間帯に担任が席を外しており、子ども達がそれぞれに移動した為見守りが行き届かず事故が起きた。	担任が席を外す際は、子ども達が着席し落ち着いている状態にした所で、代わる職員に申し送りを行い見守りの徹底に心掛ける。離席する必要性についても再考しタイミングを考える。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
8466	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス						17				2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの
8467	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	2.1歳児クラス	17									5	5	2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上唇裂傷/4週間後歯の神経の損傷が見られた	8.その他
8468	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14									1	1	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	右上乳前歯亜脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの
8469	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15									3	3	2歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右第三指末節骨骨幹部骨折	8.その他
8470	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	5.4歳児クラス	20									3	1	5歳	1.男児	無	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8466	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		職員の立ち位置など都度検討し保育を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		園庭はフラットであり、安全面では問題ない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	体操するなど準備運動を行い、活動を始めている。引き続き遊ぶ前には、準備運動を行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わりない様子であった。家庭からも特に連絡はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と共に準備運動を行い、その場から動きながら、走り出す対象児や他の園児を見守った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	準備運動やフープの場所を見渡すことができる場所から、園児たちを見守っていた。		遊び始める際には、周囲の様子にも意識を向けられるように声掛けをしていく。	
8467	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		子どもたちのスピードに合わせて無理なく歩いていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		子どもたちのスピードに合わせて無理なく歩いていく。	1.集団活動中・見守りあり	歩行のスピードが合っていなかったのではないか。	子どもたちのスピードに合わせて無理なく歩いていく。	1.いつもどおりの様子であった	手をつないで歩く際、保育者との間にいた他児がつまづいたことで、本児が転倒してしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	2人1組のペアを2組手をつないで歩いていた。対象児をみていたが転倒する際、すぐに手が出ない状況だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の園児と手をつないで歩いていた。	少し坂道になっていた為つまづきやすくなっていた。	事前に「坂があるよ」や段差がある時には声を掛け注意できるようにする。	
8468	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		その活動を行う時に、子どもの人数に対して体を動かすスペースが適切かどうかを考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年		常に子どもたちが見え場所に立つようにする	3.個人活動中・見守りあり	室内で走っていた。	声を掛けたり見守りするだけでなく、落ち着いて座って遊べるような遊びに誘い掛ける。また、危険な行動や激しい遊び方が見られた際はすぐに声を掛け、事故、怪我を防いでいく。	1.いつもどおりの様子であった	本児を含めた3名でマグフォーマを使い、戦いごっこをしていた。本児がひとりでに走りだし、何もないところで滑り転倒。	4.対象児の動きを見ていなかった	職員は本児と離れた所で5名と制作を行っていた。事故前にも事前に約束事を確認したり走らないよう声を掛けていたが、事故の瞬間は本児の様子を見ていなかった。※ビデオカメラにて事故状況を確認。	他の場所にいてその場にいなかった	職員は１名体制であった。	床のすり減りや乾燥により、転倒した場所の床が少し滑りやすくなっていた。	昼や夕方の清掃の際等に床の滑りやすさも確認し、安全点検を怠らない。又、滑りやすい箇所があれば、床にテープで×を貼り、注意できるようにする。	
8469	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	園児の発達を考慮した上での起こりえる事故を想定した安全管理ができていなかった。	発達による行動パターンを再度確認し、個々に応じた安全指導を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	次の活動前に排泄を済ませておくため、テラス遊びと並行して合同保育室内のトイレを使用していた。構造上、園児の往来を想定していなかった扉（指挟み防止カバーなし）を開閉し、園児の往来をさせていた。	該当箇所の扉は施錠し、園児の往来をさせないこととした。	1.集団活動中・見守りあり	保育士3名のうち、扉付近に1名いたものの、扉開閉の安全のためにしっかりついていたわけではなかった。	扉の開閉が伴う際は必ず職員が付き、その都度必ず施錠する。	1.いつもどおりの様子であった	排泄誘導の順番待ちをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	近くに職員がおり対象児が視界に入ってはいたが、動きを見ているには至らなかった。トラブルも少なく、落ち着いて遊べている状況から安心し、それが油断につながった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	排泄に入っている際は普段は担任がドア側に立っていたが、フォローの職員がドア付近にいたため、担任がドアから離れて遊びに誘いかけていた。	保育内容や動線、環境など慢性的に過ごして疑問視することがなかった。	職員同士、日々のミーティングで危険箇所や保育の流れを共有していく。	
8470	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	職員配置はお互いの位置を確認しながらできていた。公園内の危険物チェックは、到着時にマニュアル通り行った。事故発生後の対応において、特定保育者のみの判断で対応を行っていたため、看護師や他保育者の見解を合わせて判断することが重要であった。早期に、怪我の対応に繋がったと考えられえる。また視診や触診をする際、子どもへの聞き取りの仕方で「大丈夫?」と聞いていたため子どもの返答も「大丈夫」と応答的なものになっていた。その後の判断材料として有効なものを引き出すための声掛け、視診、触診方法についての理解やスキルが不足していたようにも考えられる。	触診の際、子どもが患部を動かせるか否か、本児自身に行ってもらい確認する。声掛けの際に患部に触れながら「ここはどう？」と触れながら確認する。他職員と話し合い、見直し点や共有事項を具体的に確認する	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(都度)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	ぶつかることを事前に子どもが予測して行うことができればリスクは減らせたと考えられる。	日々の活動や遊びを行う前に子どもと遊び方や起こりうる危険についての話をする。	1.集団活動中・見守りあり	遊びを行う前に子どもと走る際の注意喚起を行い怪我発生のリスクを軽減することもできたと考えられる。	起こりうる重大事故につながる行動を子どもと事前に確認したり、遊びの途中に、危険を察したら、行動を止めて落ち着かせる。	1.いつもどおりの様子であった	後方から追ってくる子どもを見ながら走っており、前方を確認していなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	後方から走ってきていたためにぶつかることを防ぐことができていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見る職員がいたが本事故は確認していない。	事故発生後の子どもへのアプローチや判断をより的確に行うことができていなかった。	職員間で怪我をした際の子どもへの聞き取り方法を確認、共有する。	

No	概要						発生時の施設・事業体制														事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制		人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	その他	年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡	死因	負傷	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面	マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面	施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面	教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面	対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
										0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童																																																	
8471	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成		16		7	9					4		4	2歳	2.女児	1,2歳児ｸﾗｽ合同で一時保育室にて遊ぶ.部屋を柵で3ｺｰﾅｰに区切りそれぞれのｺｰﾅｰに保育士が分かれて過ごす。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折		5.下肢(足・足指)	右第1中足骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	職員配置ではあった目の児童を当該倒れる瞬間を見逃しまった。	子ども、保育士の人数、用具に合わせて全体が見やすい環境を設置する。また、保育士一人ひとりに全体を見る意識していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ないも転こ測もマッを応く何所倒すとし、必要にすようる。	床が固い為、マットなどをいて全トト敷くが、てではない。	何所で行とし、必要にすようる。	1.集団活動中・見守り	ゆったりすごす時間ではあったが、中には走りもしう見ておりつかってしまうこともある。	仕切られた空間を走ることは危険という意識を保育者が意識し、子どもたちが激しくもたもたしくない遊びや環境を設定する。	1.いつもお様子であった	当該児童は抜けソフトブロックのコーナーへ移動してきたところ転倒する。自ら転倒したのか、他児とぶつかったのかは不明。ソフトブロックのコーナーには2名の保育士がいたが、それぞれ別の児童を見ていた。	4.対象児の動きをみていなかった	それぞれのコーナーには保育士がついていたが、それぞれ全体を見ていなかった。当該転倒したコーナーの保育士は移動してきたことに気付いなかった。	2.担当対象児の動きをていなかった	コーナーは自由に行きやすくできるため、児童の入り口の動きを見ていなかった。	子どもに向けようとしても意識はしていたが、高く積み上げたトックをるため、該児童の動きを落とした。	要因、分析を向ようとしても意識はしていたが、高く積み上げたトックをるため、該児童の動きを落とした。	子どもに向けようとしても意識はしていたが、高く積み上げたトックをるため、該児童の動きを落とした。	要因、分析を向ようとしても意識はしていたが、高く積み上げたトックをるため、該児童の動きを落とした。	子ども背を向けない

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員
8481	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方（16時頃～夕食提供前頃）	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	7.異年齢構成	17	0	0	0	0	9	8			3	2
8482	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6.5歳以上児クラス	10									1	1
8483	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内（室外・園庭・校庭等）	6.5歳以上児クラス	21									2	2
8484	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝（始業～午前10時頃）	1.施設敷地内（室内）	7.異年齢構成	38	1	3	6	9	9	10			12	10

No	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置
8481	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢（足・足指）	右足くるぶし下の骨にひび	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度（1～2）回/年	1.基準以上配置
8482	6歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	右橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置
8483	5歳	1.男児	医師･保護者によると、当該児は、鎖骨の骨折は2～3回目とのことであった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹（首・胸部・腹部・臀部）	左鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置
8484	5歳	2.女児	登園後、朝の支度を子ども達が行っているが、右手で引き出しをしまう際に左手小指も一緒にしまってしまった。左手の小指に赤みがあり、ｱｲｼﾝｸﾞを行って様子を見たが「痛くない」と午前の活動（園庭での異年齢）に参加をした。本人からのその後も痛みの申告はなかったが、念のために整形外科を受診することにした。	7.登園・降園中（来所・帰宅中）	1.負傷		2.骨折	4.上肢（腕・手・手指）	骨折（「分類でいえば、骨折かな」という判断でした。）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置

No	ソフト面 その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8481	職員ひとりひとりが、同じ対処ができるようにDVD研修にして良かったと考えられます。	定期的に視聴していくことで、事故防止を心がけていきます。	1.定期的に実施	実施頻度（毎）/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎）/年	1.定期的に実施	実施頻度（毎）/年	点検チェックで気づいたことを職員で把握して注意していくことが必要と考えられます。	また、点検チェックで改善したことも昼礼で全体把握していきます。
8482	事故予防の研修等を実施している。	研修等の実施があり、改善点なし。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	施設、遊具、玩具は適切に点検している。（園庭は人工芝が敷き詰められており、濡れている状態ではなかった。）	施設・遊具・玩具の破損による怪我ではないので、改善点なし。
8483	コロナ禍の影響もあり、職員配置がギリギリの日が多く、なかなか外部の研修に出せない状況がある。	過去の研修報告等を再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/日	園庭の構造上、全てを見渡せない場合がある。	職員と子どもの位置を再度確認する。
8484	子ども達に、引き出しのしまい方について、4，5歳のクラスは改めて見本を見せながら、お話をする機会がなかった。朝の支度は、3～4歳児中心に職員が見守る体制になっていた。	年齢に関係なく、職員の見守り体制を行う。朝の支度方法についても、確認と指導をその都度、行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	5歳児には、無理のない引き出しの作りで、角は丸角になっている。手をきちんと取っ手に添えられれば、問題はない。押す際に空いている手を添えないように声を掛ける。	引き出しの不具合がないか、安全点検を行う

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8481	3.個人活動中・見守りあり	園庭遊びの前、子ども達に注意する点を確認していく事が必要とも考えられます。	実際に起きた事故について子ども達にも伝えて、注意換気していきます。	1.いつもどおりの様子であった	特にいつもと変わった様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	人数も10名以下となり、鉄棒やジャングルジム等の使用もなし。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は保護者対応の為、その場を離れていた。１名は4歳児を主にみていた。	午前中のお散歩先で、50～60㎝の高さからのジャンプを数回楽しんだ。	少し体をほぐしておくという意味から、今後遊びの前の準備運動や体操等が必要であると考える。	
8482	1.集団活動中・見守りあり	園庭の広さは、10名が鬼ごっこをするのには適当であり、人工芝を敷いている。	今後も継続して環境を整えていく。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく、他児と一緒に鬼ごっこに参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鬼ごっこをしている園児全員が見渡せるように位置し、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭には、保育士1名であった為、他の職員は対象児の動きは見ていない。	本児が園庭で時々同様の動きをすることがあり、特に制止することなく見守っていた。鬼ごっこをしながらであった為、本児が動きに集中出来ていなかった。	鬼ごっこに集中できるような方法を考える。鬼ごっこの仕方を子ども達と考えていく。	
8483	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをするには充分な広さがなく、鬼ごっこで遊ぶ子と、鬼ごっこに参加せず砂で遊ぶ子の動線が入り混じていた。	園庭での「鬼ごっこ」（設定保育以外）の禁止	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこには参加せず、立ち止まっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの多い場所に移動し全体を見ていたが、すべり台付近に及び裏側に子どもが多くいた為、事故の瞬間を見ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すべり台下を中心に見ていた。	事故の起きた場所よりもすべり台の方がより危険であると判断したため、そちらに目が行っていた。	可能であれば、保育補助等の配置を行う。	
8484	7.その他	登園した順に朝の支度を行っていた。	朝の支度を（引き出しのしまい方）一緒に見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	保護者確認の際も「体調は、変わらないです」との報告を受けていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	幼児クラスの合同の時間のため全体の子ども達の動きが見守れるような立ち位置にいた（2名）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	部屋の仕切りの部分を開放して、乳幼児の活動の様子は、分かる状態であったが、登園している乳児の子ども達を見守っていた。	職員の配置人数について問題はなかったが、個人的な見守りは行わなかった。	子ども達の得意不得意を共有理解し、見守りの配慮を行う。	

No	初回掲載年月日	概要：認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期：月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制：発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳：0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの：年齢	性別	特記事項	事故状況：発生時状況	事故の転帰	死亡：死因	負傷：負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析：ソフト面：マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面：施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面：教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面：対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8485	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	3	3歳	2.女児	土曜日保育の日は鼻水が多く出ていたが、当日は鼻水に加えて咳も見られた。事故前に園庭で活動していたが、転倒する姿があった。	8.その他	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	顔面打撲・顔面挫滅創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	3ヶ月に1回、安全チェックリストと危険箇所記入シートを各クラスに配布し、担任がチェックしている。クラス会議の中で園舎の危険箇所を担任同士、日常の保育の中で個々の気付いた事を確認し合っているが、業務が多忙で時間が取れず、実際に担任が複数人の目で確かめながらシートに記入するという事ができていなかった。今回事故の原因となった便器当たり止めのゴムが取れていた事は、風景化してしまっていた事と、担任の危険予測ができていなかった可能性があると考えられる。	安全な保育環境を整える事は、保育を行う上で基本中の基本である。その事を職員全員に改めて意識付けを行い、月に1回程度、必ず担任同士で実際に目で見て、手で触れて保育環境の安全性を確認する事を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(296)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(296)回/年	園舎の老朽化に伴い、園の設備の劣化が著しい。その為に、今回原因となった便器当たり止めのゴムキャップが取れてしまっていたと考えられる。また、2歳児クラスのトイレは毎日使用していたが、便器当たり止めのキャップがいつから取れていたのか把握できていなかった。ゴムキャップが取れている事が風景化しており、危険な事に気付かずに過ごしていたと考えられる。	事故当日、園内のトイレを点検し、便器当たり止めのゴムキャップが取れている物に関しては、幼児椅子のゴム製脚キャップの予備を取りつけ、同じ事故が起こらないように対処した。また、老朽化に伴う園内の劣化している部分が多い為、各クラス担任が再度危険箇所を点検して修繕すると共に、主任と看護師で再点検する事でダブルチェックを行い、安全に保育が出来る環境を整えている。	1.集団活動中・見守りあり	トイレにいる子どもの様子が保育室から見える範囲ではあったが、トイレの環境が危険であるという認識がなかった為に、トイレに保育士が必ず付き添うという事は考えていなかった。	今回本児が使用した便器のもう片方の便器の水洗レバーは、老朽化の為、大人でなければ押す事が難しい為、便器当たり止めが修理された後も子どもがトイレで1人になる事が無いように必ず職員が付き添う事とした。	2.いつもより元気がなかった(理由を記載)	鼻水と咳が見られていた。また、園庭活動時、2回ほど転倒している姿があった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもの制作をしながらトイレの方を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任2人は園庭で他の子どもを見ていた。	人員配置は適度であったと考えている。	トイレが老朽化している為、子どもがトイレを使用する際は、必ず職員が付くようにする。また、園舎の老朽化をふまえ、日常の保育の中で危険予測をし事故を防止できるように職員の意識付けをしていく。	
8486	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	8									2	2	3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	現地は斜度もなくどんぐりによって滑りやすい場所との認知はあったが、雨上がりで落ち葉がふかふかした状態で、転んでも怪我に至るまでの予測はできなかった。	マニュアルを再検討する（タイムリーなヒヤリハットの活用、慣れと大丈夫からの脱却、危険箇所や自然環境下における活動場所の情報収集と共有による活動場所の選定、状況に応じた保育士の立ち位置、活動や目的に応じた職員配置や協力支援、予測しながらの保育の実施等をマニュアルに追記し、周知徹底する。）	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/毎日	野外での転倒は、大きなケガになる事がある。	野外での遊びは、転倒等危険性が常にあり、通常の保育活動と異なることを再確認し、現地の状況を把握し、その情報を園全体で共有する。	1.集団活動中・見守りあり	園活動中、子どもの行動を予測することは難しく、また子ども自身での潜んでいる危険性を察知することは難しい。	園外活動を通して、転びやすい、つまずきやすい、足が埋まりやすい。滑りやすい等の現地特有の危険性を子ども達に認識させていく。坂であったり、蛾がいたり、車があったり日頃より注意喚起し園外活動にあたる。	1.いつもどおりの様子であった	坂道を駆け上がり保育士声掛けにより引き返し転倒する。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	落ち葉が積もった坂の上り下りを5名の子ども達が楽しんでいるのを、危険がない様見守っていた。本児は、この保育士の前を通過し6～7mほど坂道を駆け上がり戻り途中で転倒する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	坂道の上り下りに興味を持たなかった、他3名の見守りを行っていた。	転倒した子どもの行動予測はしていたものの、坂を走って下った為転倒時の負荷がかかり骨折に至ってしまった。	坂道途中や上部に保育士がおらず、全体や子どもたちの行動を考慮したバランスの良い立ち位置、見守り位置を常に意識する。本クラスには、こだわり等が見られる児童もおり目的、活動に応じた職員配置や園長等の支援を求めること。	
8487	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	34				10	12	12			6	6	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	唇と歯茎の炎症、右上前歯のぐらつき	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	保育士の立ち位置が重なっていなかったか。	保育士のお互いの立ち位置、状況の把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭内の狭く袋小路の場所であった。ストライダーのハンドルが曲がっていたこともうまく曲がれなかった要因の一つと考える。	乗り物の遊具点検の定期的実施。園庭内の袋小路の場所には乗り物で立ち入りができないようにした。	3.個人活動中・見守りあり	園児や保護者の出入りが多く、職員、園児共に落ち着かない時間帯であった。	保護者対応を行う職員と、保育に入る職員間の声掛けや連携をとっていく。	1.いつもどおりの様子であった	登園から降園まで園児はいつもどおりの様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任は他児に関わっていたため、対応が難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	そばにいた保育士が転倒を目撃したが、手を出せる距離ではなく、間に合わなかった。	特になし	保護者対応を行う職員と、保育に入る職員間の声掛けや連携をとっていく。	
8488	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31	0	0	0	10	11	10			6	5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右ひじ骨折（ひび)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	慣れ親しんでいる遊具ではあったので、気が緩んでしまったことも考えられる。	子どものとっさの行動に対応できるよう、職員一人ひとりが「～かもしれない」という意識をもつようにしていきたい。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(ほぼ毎日)回/年	鉄棒や地面が水滴でぬれていることはなかったが、手を離してしまうことを想定せずに、油断してしまった。	その都度、遊具の使い方、また危険を回避できるように子どもたちに伝えていく。	1.集団活動中・見守りあり	朝の時間帯、受け入れもあるので、気持ちがそちらに取られてしまったことも考えられる。	職員間で話し合い、しっかりと役割分担を行っていく。また、排せつの付き添いなど、急にその場を離れるときなどの対応も再確認する。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの様子であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りをしていたが、転落することを予測できなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の固定遊具で遊ぶ子どもの見守りをしていた。職員が登園してくる園児の対応に気を取られ、意識が薄かった。	園庭で遊ぶ際は、大型の遊具（複合遊具や鉄棒、うんていなど）での約束事などを子どもたちに話をしていたが、もっと、具体的に注意喚起をするべきであった。	状況に応じて、固定遊具などに職員がつけなかった場合など、職員間で声を掛け合ったり、場合によっては遊びを中断することも考える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8489	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	27				8	11	8			7	7	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(都度)回/年	1.基準以上配置	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、絡まないように片側で引っ張る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、絡まないように片側で引っ張る	1.集団活動中・見守りあり	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、絡まないように片側で引っ張る	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	翌日が運動会ということも有り、より真剣に、意気込んで活動に取り組んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	ゴールテープを持ち、ゴールで待機していた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	待機児童を見守ったり、コース上の見守りをしつつ、担当者や対象児の動きを見ていたが、至近距離ではない	ゴールテープをフェンスに結び、担任1人で張っていたこと	ゴールテープはフェンスに結ばず職員2人で持ち、絡まないように片側で引っ張る	
8490	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	竹馬が得意な子であったため、他の子より高く設定していた。竹馬の高さに関するルールが決められていなかった。	竹馬の下からの高さを決め、それ以上は上げないとするルールを作り、職員会議等で周知徹底する。	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	特記事項なし	施設や遊具等の不具合はなく、また当該事故との関係性はないため、ハード面での改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	保育の状況との関係性はないため、環境面での改善策はなし	1.いつもどおりの様子であった	一旦竹馬をしまい、集合しようと声をかけたが、すぐに集合せず、竹馬を続けていた	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員が年長クラス全体を見ていたため、対象児からは離れていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園長及び主任が近くにいたが、別な作業をしていた	特記事項なし	クラス全体の見守りであり、個別に手を差し伸べる等の動きは難しいため、人的面での改善策はなし	
8491	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	60				23	17	20			4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊具についていた職員から離れたところで、子どもが遊具に飛び乗ってしまった。	遊具に職員がついてから遊び始められるように約束をしてから遊ぶ。	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	固定遊具の使い方が不適切だった。	適切な使い方を子どもにも知らせ、落ち着いて取り組めるように声掛けする。	3.個人活動中・見守りあり	鉄棒についていたが、離れていたところだったので、間にあわなかった。	所定の位置に職員がついてから遊び始めるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	１人で自分の好きな遊びをしていた。階段を上ったり下りたりして遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子の対応をしていて、対象児の動きを見ていなかった。場所を離れる時に他の職員に言葉掛けがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ自分の周りの子どもの対応に追われ、対象児の動きに気付かなかった。	職員間の連携がうまくとれていなかった。言葉に出して状況を伝え合う事が足りなかった。	固定遊具から職員が離れる時には子どもに今は使えない事を伝える。	
8492	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	28	0	0	0	14	0	14	0		2	2	6歳	2.女児	元気に松林を走っていた	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	●月●日捻挫、●月●日別の病院に再受診し剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	特記事項なし	本児が自分で足を捻った為、改善策は特になし	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	松林にて遊んでいる際、自分で足を捻った	遊び始める前に準備運動をし、体をほぐしてから遊ぶようにする	1.いつもどおりの様子であった	松林で遊んでいる際、他児と遊んでいて自分で足をひねった	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	松林や子ども全体を見渡せる位置で、子どもの遊びを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	松林や子ども全体を見渡せる位置で、子どもの遊びを見守っていた。	子どもが足を捻った際、すぐに気付けず、本児も気にせず遊び続けており、公園を出る際に痛みを訴えに来た。	保育士が見てないところで転んだり、痛みを忘れて夢中で遊ぶ事もある為、保育士が異変に気づいた時は、子どもに必ず声を掛けるが、幼児の場合は子どもからも言いに来てもらうように伝える。また、痛いところや怪我をしたところはないか、子ども全体に問うようにする。	
8493	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	11	4	7		0				保護者	11	10	2歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	初めての行事の形式。	待機時間帯の短縮、待機時間時の過ごし方の工夫。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	あそび慣れていない部屋を使用した。	普段から活用し、特に行事前には場慣れしておく。	1.集団活動中・見守りあり	保護者に任せてしまった。	待機時間プログラムを実施。	1.いつもどおりの様子であった	運動会の時間を楽しみ、両親がいる、他保護者がいるという事で多少の興奮状態であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	同じ室内には、１１名の職員がおり撮影・誘導全体を見る等の役割はあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じ室内には、11名中１１名の職員がおり撮影・誘導・全体を見る等の役割はあった。	保護者の元に戻した後と考えられる、全体が進行の方に気持ちが行っていた。	待機の親子の過ごし方を入れる。集まってわらべうたあそび等。	
8494	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	13									7	6	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	モンテジア骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	子どもの体の使い方についての把握不足	研修の際に個々の子どもに結び付け、リスクを把握する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	跳び箱、マットのずれについて、一人一人跳んだあとの確認に不足部分があった	一人一人が跳んだあとの、跳び箱、マットのずれについて確認を行う	3.個人活動中・見守りあり	職員は飛び箱横についていたが、事故への予測が出来ていなかった	子ども一人一人について、起こり得るリスクを想定して見守る	1.いつもどおりの様子であった	保育参観日であり、少し興奮した様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱のすぐ横で対象児が跳ぶ様子を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	音響担当、他の競技箇所の介助職員は至近距離におり、対象児の動きを見ていた。	運動を行う前の事前運動の不足と、子どもの力量に合わせた跳び箱の段数の提供が出来ていなかった	跳び箱を跳ぶ段数について、個々の子どもの力の入れ具合や勢いなどを見極め介助する。参観当日の子どもの精神状態に考慮し、動きを予測したうえで介助する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8495	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	25	0	0	0	0	12	13			3	3	5歳	2. 女児	視力矯正のため、眼鏡を使用している。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	本児は砂場の周辺を歩いていた。普段から室内・戸外ともに弾むように歩いてまわる姿がある為、いつもの様子として見ていた。子どもの視野の広さから、地面の凹凸に気づく事が難しい可能性、また歩き方の特徴から地面の接着部位が少なく、形状を把握しにくい可能性があった。研修にて、全身の怪我の調べ方を学んでいたため実践したが、ポイントで痛がる箇所がなかった。	いつもと同じ姿と見ていたため、結果を想定出来ていなかった。本児に限らず誰にでも起こりうる事として、園全体で危機管理の意識を高めていく。靴があっているか確認。(底の厚さはどの位のものが本児にとって適切か療育センターのスタッフとも確認する。)改めて子どもの視野の広さについて学び、確認する機会を保育研修の中で作る。	1. 定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	地面は土であるが、直径3cm位の石がいくつかあった。地面が少し傾斜していた。	公園内の地面の形状については改善することが難しいため、子どもの状況、発達に合わせて遊ぶ場を考えていく。	1. 集団活動中・見守りあり	アップダウンのある散歩道だったため、足がもつれやすかった可能性あり。	子どもの発達状況に合わせた、公園先、遊ぶ場の確認を再度行う。お散歩マップ(危険ヶ所なども記入いているもの)の更新をし、周知する。	1. いつもどおりの様子であった	どこかへ移動する等の目的ではなく、砂場の周り、周辺をいつもと同じようにリズムに乗って歩いていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	少し離れた場所で正面から本児の動きを見ていた。転んだ瞬間、手のつき方など踏まえて全身を確認した。(服をめくり傷の有無。1か所ずつ圧迫しながら怪我の場所、手を握れるかの確認。)	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り台に1名、どんぐり拾いに1名。滑り台についていた保育者は本児が歩いていた方向に向かって立っていた為、転んだ所を見ていた。どんぐり拾いについていた保育者は他の配慮児をみていた。	散歩に同行した職員は、担任1名、非常勤1名、派遣1名。当クラスに入ることが多い職員である。	配置的には問題はなく、普段入っている職員であった。また、どこに付くかはその日の子どもの様子に合わせて声をかけあっていた。お互いに顔を見合わせることが出来る範囲、位置で遊ぶようにしていた。	
8496	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	9				2	1	6			1	1	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		3. 火傷	4. 上肢(腕・手・手指)	火傷	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	アイロン使用後のコンセントが抜けているかの確認不足。危険なものを使用しているという意識の低さが事故をもたらした。	保育室内でアイロンを用いることを中止する。棚の上のものを整理し、危険物がないかを再確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	設備等の安全確認は日々行っているが、保育中に棚の上に重い物を置くなど、危機管理能力が低かったことが考えられる。	職員研修を用いて保育室内で考えられる危険なもの、要因を全職員で出し合い、安全な保育環境づくりを行っていく。	1. 集団活動中・見守りあり	お迎え対応のため、アイロンの電源を切り、ノートをノートかごから取り出そうとしていた。	保育室には担任保育士1名のみ	1. いつもどおりの様子であった	自分のアイロンビーズの作品を片付けるため、お道具箱の引き出しを開けた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	お迎え対応のため、アイロンの電源を切り、ノートをノートかごから取り出そうとしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室には担任保育士1名のみ	保育室に担任が1名という状況でアイロンを使用し、使用後も棚の上に置いたままにしてしまった。	保育室に担任が1名という状況ではいつも以上に安全に留意し、少しでも危険と思われるものを持ち込まず、使用もしない。	
8497	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	5	0	0	2	2	0	1	0		4	4	2歳	1. 男児	お預かり園児が少なくなり、3歳児クラスで2歳児2名・3歳児2名・5歳児1名が過す。	2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	打撲・前歯の欠損	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	子ども達が過す場所を明確にしていなかった。転倒した場所が油分があり滑りやすくなっていた。	異年齢児が過す空間を明確にし、保育士の目が行き届くようにする。午前午後の安全チェックで、床が滑りやすいところは念入りに拭き滑らない事を確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/月	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/日	フローリングの床が滑りやすくなっていた為。	床が滑りやすい箇所は、中性洗剤を使用し拭き掃除を行う。全クラスの安全点検で床の滑りやすい箇所がないかを確認し、滑りやすい箇所は念入りに拭くように伝える。	1. 集団活動中・見守りあり	3歳児クラスにごみ箱があったが、本児が鼻水を拭き取ったティッシュを隣りの2歳児クラスのゴミ箱へ捨てに行ったことで、保育士から一瞬目が離れてしまった為。	異年齢児が戸惑わずに過ごせるよう空間をパーテーション等で仕切る。怪我に至った原因を振り返り、職員間で子どもを安全に見守る為の環境設定を共有した。	1. いつもどおりの様子であった	保育士が見守っていたが、一瞬目が離れてしまった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	鼻水をかんだティッシュを2歳児のゴミ箱まで捨てに行った為、保育士から3m程離れてしまった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスの清掃や片付けを行っていた。	子どもの行動から怪我が起きるかもしれないと危険を予知し、子どもを見守る事が出来ていなかった為。	異年齢児が過す空間では、子どもの発達や姿に合わせた保育士の援助や言葉掛けを行い、行動範囲を知らせ、目を離さない。	
8498	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	2. 1歳児クラス	19									6	5	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	歯の損傷	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置	当該児が周囲が気になり集中が途切れた様子があった。	階段を降りる際は、保育士の人数に対して子どもの人数を更に少なくして対応していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/日	階段の縁は滑り止め材でカバーされていたが、固い部分にぶつけた。	階段の縁にクッション材を取り付ける等、環境面の見直し・安全対策を行う。	1. 集団活動中・見守りあり	階段を降りる際にスピードに個人差もあり、周囲の他児が気になりやすい状況だった。	個々の降りるスピードを把握し、さらに少人数ずつで階段を降りる様にする。	1. いつもどおりの様子であった	園庭に出る事を楽しみにして笑顔も見られて落ち着いていた。階段を四つん這いで降りるのも意欲的に行っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	3人の子どもが階段を降りている際、前方向に回り手を広げて落下防止の体勢を取っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は先に行った4人の子ども達の先導を行い、子ども達を安全に座らせていた。もう一人は最後に来る子ども3人が安全に降りられるよう見守りを行っていた。	前方向にいたのでバランスを崩した上半身を支える事が出来ない状況だった。	今後は子どもの機嫌や様子に応じて抱っこで降ろす等対応を変え、保育士が前後で安全を見守れるようにする。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8508	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	21				10	11				3	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸骨骨折（ひび）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	2.基準配置	特になし	事故発生の状況（時間や生活場面など）を分析し、事故が起きやすい状況への意識を高めていく。	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	数年前に伐採された樹木の切株が残っている。以前からあるものではあるが、サイズが小さいので目に入りずらい。	切株の除去を実施予定（抜けなければ、地面より低い位置で切り、埋め直す）	1.集団活動中・見守りあり	特になし	生活場面が切り替わるタイミングは、保育士の動きも多くなるが、より注意して子どもを見守り、保育士同士の連携を図ること。	1.いつもどおりの様子であった	もともと活発に活動する子だが、当日はいつも通りの様子であった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	隣のクラス（3歳児）の、入室へのタイミングであり、3歳児を含め、全体把握に努めていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊具の片づけや入室の促しをしながら、該当の児童を近い距離にて視野に入れていた。	特になし	配置や役割分担に問題はなかったが、引き続き、クラス間の連携を図りながら、児童を見守っていく。	
8509	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44									2	2	5歳	1.男児	発生後事務所に連れてくる。病院と保護者に連絡、12：35病院に移送レントゲンを撮り右鎖骨骨折と診断サポーターをつけて治療母も一緒に診断を聞く●月●日再受診受診後園に連れて帰り、保育を継続祖母が早目のお迎えをしてくれる	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	活動的であり、防ぎようのない怪我もある。なので、怪我がおこった後の対処をいかに早くするかが大事なのだと職員間で周知している	遊ぶ時の約束ごとを子どもたちと再確認する	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	些細な状況から大きな怪我へと結びつく転び方など、運動神経面で発達できていない	保育の中で今まで以上に体育的遊びの重要性を感じる	1.いつもどおりの様子であった	他児にちょっかいをだしたりすることが、多い。トラブルにはならないが、ふざけ合うことが多い	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ドッチボールをしていたので、至近で見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のところで遊んでいる子を見ていた	子ども達が遊びの中で一瞬でも集中する場面があったら、配慮が必要	遊ぶ時の約束ごとを再確認する	
8510	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				1	23	26			3	3	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	第5指基節骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園庭遊びのリスクについての把握不足	研修の際に、園庭遊びで起こり得るリスクを把握する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	フェンス付近で走る等、勢いがつくような遊びを行っていた	大型遊具やフェンス付近で走る等の動きを伴う遊びをしない	3.個人活動中・見守りあり	職員が子どもに対し、フェンス付近で遊ばないよう働きかけをしなかった	走る等の動きを伴う遊びは大型遊具やフェンス付近で行わないよう、職員間で再度共有し、子ども達にも伝える	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当諸君は、対象児が他児と行っていたしっぽとりゲームの様子を見守っていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の職員は、園庭で他児と関わったり、他児の遊びについていた	子ども達の遊びの状況からリスクを把握することと、リスクを回避するための子どもへの声掛けが出来なかった。	職員全員がリスクを承知出来るよう周知を徹底し、子どもへの事前の働きかけを行っていく。	
8511	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	14			8	2	4				4	4	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨の骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	1.基準以上配置	特になし	園外活動の時の注意事項を職員間で確認し共有する。	2.不定期に実施	実施頻度（日祝日、年末年始６日を除く全日）	3.未実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎週金曜日)	特になし	同じ公園でも変化があった場合や危険個所がみられた時は速やかに状況を把握し職員間で共有する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	合同保育での状況確認を事前にしっかり行い、環境下での園児の動き職員の動き等を把握していく。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこをしている途中で夢中になって走り、ベンチがある事に目が入らず右足をベンチにぶつけて転んだ。その際に左腕が下敷きになるように転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任の保育士が全体を把握しながら見ている時に、近くに走ってきた本児が転んでしまう。近くにいる保育士に応援を要請し2人で対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はそれぞれのクラスの子どもの動きや遊具の安全確認を行っていたので見ていなかったが、怪我をしたことで担当者に一人呼ばれ、２人で患部の確認を行う。それ以外の職員２人はその他の子どもを集めて人数確認をし待機した。	普段と違う公園や鬼ごっこをして気分も高揚していた事に併せ、身のこなしも十分でない事への配慮や注意の喚起に欠けていた。	園外活動の危険個所の確認は事前に行い、年齢に合わせて子どもへの注意喚起も行う。又、保育士間の連携を行い迅速な行動が取れるように平時より確認しておく。	
8512	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26	3	9	14	0	0	0	0		9	9	2歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母指基節骨骨端線離開骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	特に無し	職員に対して情報提供したりヒヤリハットを出し合ったりし、共有を図るとともに意識をもって保育できるよう改めて周知した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特に無し	設備の問題は無いと考える。改善点無し。	1.集団活動中・見守りあり	早朝保育の時間帯での事故であったため、人の出入りが多かった。	登園時の受入れが多い時間帯は、落ち着いて遊べる環境を準備する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転倒する直前まで保育士の膝に座っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	登園していた子どもの受け入れ・検温を行っていた。	早朝保育の時間帯のため、落ち着いて保育に従事できる職員が少なかった。	登園時の受入れが多い時間帯は、落ち着いて遊べる環境を準備する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8513	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	43		11		12	11	9			7	6	5歳	1.男児	既往症なし。発育や発達状況は問題なし。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	日頃から職員が危険予測をしながら保育が出来る様、職員全員で園内研修や過去の事故報告、ヒヤリハット等から学んでいる。今年度も具体的な事例を挙げて危険予測をする園内研修を2回行っている。事故当日は園舎建て替えの工事に伴い園庭が狭くなっており、通常の園庭ではなかった。園庭が狭くなっている事は事前に全職員に周知はしていたが、園庭の変化に伴う安全な遊びの確認と提供ができていなかった。	今後も定期的に危険予測の園内研修を行うと共に、それぞれの職員が経験した事故やヒヤリハットを全職員で共有し、知識を得ていく事を続けていく。●月中は、工事に伴い園庭の広さが変化する事が予想される為、随時職員全体に周知すると共に、提供する遊びの安全性も確認していく事を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(296)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(296)回/年	事故当時、園舎の建て替えに伴う工事の為、園庭が通常よりも狭くなっていた。園庭の環境が変わったばかりであった為、園庭が狭くなっている状況での危険に対する職員の認識が甘かった。	今後、園舎の建て替えに伴い、園庭をはじめ、園舎等の保育環境が変わる事が予定されている。また、工事のスケジュールに従い、保育環境が日々変わる事も予想される。職員がこの事を踏まえて日々の保育を安全に行えるよう、随時環境の変化を全職員に周知し、安全にできる遊びの提供を考え、確認していく。	1.集団活動中・見守りあり	新型コロナウイルスの影響で自主的に家庭保育をしている家庭があった為、人数は少なめではあったが、通常より狭くなっている園庭で3クラスが過ごしていた。その中で男性職員が子どもと遊び込む中で、勢いよく走っていたのは危険が伴いやすいと考える。	思い切り走る活動をする場合は、子どもが多くいる狭い園庭ではなく、広いスペースで行う。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、元気に過ごしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児と他児数名と一緒にかけっこ遊びをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もう一人の担任と他クラスの職員が近くで担当児の保育をしながら、本児がかけっこ遊びをするのを見ていた。	子どもと遊び込む事は必要な事であるが、今回は子どもの不意な動きに対応できず、子どもを避けたり受け止めたりする事ができなかった為怪我に繋がったと考える。全職員で保育環境と安全に遊びを提供する事の関係を考え確認していくと共に、保育中の危険予測力をつけていく必要がある。	子どもが急に心変わりする事や、不意に大人が予測しないような行動をする可能性がある事を今回の経験から学び、常に危険予測をしながら保育に当たる様、意識付けをする。また、全職員が、今回の事故を踏まえて保育環境と安全に遊びを提供する事の関係を常に考えて確認し、保育に当たるように周知し、意識付けを行っていく。	
8514	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18		8	10	.					4	3	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	一人の職員が保育室にいたほとんどの子供と片づけを始めていたにも関わらず、その他の3人の職員がそれぞれ1~2人の子供と遊びに集中していた為、片付けに参加していた子供全員に目が行き届かなかったことが原審と考えられる。	職員全員が常に全体を意識して保育を進める。活動内容と人数に応じた配置が保てるよう声をかけあう。保育者が活動内容、場所を分けて遊ばせる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	部屋面積に対する子供の人数は満たしている。ただ、面積の余裕はあまりなかった。床が滑りやすかったのか、床暖房がついていて、床が乾燥していた可能性がある。	子供の人数と活動内容を考える。適宜ぬれ雑巾で床を拭いたり、足裏を拭いたりすることで滑る可能性を低くする。	1.集団活動中・見守りあり	活動の切り替え時のため、まだ活動をしていた子供や本児がいるところと別の箇所を片づけている職員がいて、子供に視線が行っていなかったことが考えられる。	活動の流れを作り、まだ遊びたい子供と次の活動(片づけを)する子などを分ける。保育者の中で全体を見守る人が常にいるよう、互いに気を配り連携を図る。	1.いつもどおりの様子であった	室内を走り回ったりすることなく、玩具や新聞紙の上を歩くこともなかった。	4.対象児の動きを見ていなかった	比較的傍にいたが、転倒するところは見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内の為、他職員3名も割合近くにいたが、転倒したところは見ていなかった。	職員が自分の近くにいる子供を見ていて、全体を見る職員がいなかった。	自分の傍にいる子供のほかに、全体も見ようとする意識が必要のためスキルを磨く。	
8515	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									1	0	6歳	1.男児	園庭にて友達とサッカーを行っている際に、友達の蹴ったボールが右手に当たり負傷。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	保育士が、保育中の危険を予測し、事前に回避できなかった。	子どもの行動を予測し、危機回避できるよう、定期的に職員間で情報共有を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	特になし	ある程度の広さがある園庭なためハード面での改善策は見当たらない	1.集団活動中・見守りあり	行事等もあり、職員が分散していたために園庭には一人だった。	できる限り職員が一人にならないよう配置をしていく	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらずに友達とサッカーを楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体を見守っていたため、児一人のみを見ることは難しい。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員はその場にいなかった	保育士が思っていた以上にボールを蹴る力がついてきていたために制止するタイミングが遅れてしまった	ボールの扱い方や力加減等も子ども達に周知すると共に職員も遊び方を把握し見守っていく。	
8516	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	8.夕方(16時頃~夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	7				3	4				2	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	活動時間の配慮…週末、夕方の疲れていると考えられる時間帯の活動。また、長期休み明けの活動により、体力が落ちていたことが考えられる。活動内容…3名が順番に跳び箱を跳んでいたため、インターバルが短く体力が落ちていたことが考えられる。	子どもの心身の状態を考える。跳び箱を午前中の主活動に取り入れる。余裕をもったインターバルを入れる。休息と活動のバランスを考える。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱・ロイター板・マットの安全点検後使用。破損等の不具合なし。	使用する玩具や遊具の定期点検と、使用前の安全点検を引き続き徹底していく。	1.集団活動中・見守りあり	5歳児保育室スペースに跳び箱を1つ設置する。半径3メートル以上棚や他児が接触しない環境で、3名の園児が遊ぶ。他4名は、4歳児保育室スペースで製作とコマ回しのコーナーを作り遊ぶ。子ども一人一人が自分で選んだ遊びに熱中して楽しんでした。	引き続き、安全を確保した環境設定と子どもたちが落ち着いて遊び込めるコーナーづくりを工夫して作っていく。	1.いつもどおりの様子であった	新型コロナウィルス感染に罹患し12日間園を休み、復帰後4日目の事故。復帰後、対象児はいつも通り活発に過ごしており長距離のお散歩にも参加し特に変わった様子はなかった。事故当日も、活発に過ごし変わった様子は見られなかった。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱を跳ぶ対象児の補助についていた。ロイター板でジャンプをする対象児の胸とお尻に職員の手を添えて、対象児の体の安定を図る。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	製作とコマ回しコーナーにいた4名の園児を一人の職員が見守っていた。	長期休み後だったので、対象児の筋力が落ちていたことが考えられる。短いインターバルで繰り返し跳んでいたので体力低下をしていたことが考えられる。跳び箱を跳び超える補助方法を体操教室講師から指導を受け実践しているが、跳び越えた後の補助方法を知らなかった。	長期休み後は、子どもの体力等を考慮した保育を設定する。近距離のお散歩。運動遊びは午前中の主活動に取り入れる。運動遊びに余裕を持ったインターバルを取り入れ、動と静のバランスを考える。跳び箱を飛び越えマットに着地するまでの補助方法を体操教室講師に確認して取り入れる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8517	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	18									3	3	4歳	2.女児	園庭にて複数クラスで遊んでいる中、双方走っていた子ども同士がぶつかり、転倒して左上腕部に痛みを訴える。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外上顆骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	遊び方の確認が不足していた。	遊びのスペースの確認。テラスで遊ばないという約束の徹底。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	テラスにコーンとポールを設置し、目で見て遊ぶ空間がわかるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	テラスは遊ぶスペースになっていないが、テラスを走っている園児がいた	園児への遊び方の再周知、職員間での園庭での遊び方の再確認。目で見て分かるように絵や文字、色で目立つような表示をする。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒にお花をつみ、他児が走っていったため、追いかけるように後ろを走っていく。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の職員と遊びの体制を確認していた。対象児を話題にしていたこともあり転んだことにすぐに気が付き、声をかけ体の状態を見る。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員と遊びの体制を確認。個別配慮児につく職員と、全体把握の職員とその他で分けていた。	特になし	遊びの内容に応じて子どもたちと約束を確認する。遊びの内容（スペースや周囲との状況など）様子を見て声掛けをする。	
8518	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	7	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	53	0	0	0	0	25	28			26	26	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈尺骨骨折（保護者と同行職員が医師より説明を聞く）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	1.基準以上配置		事故防止マニュアル、保育士の配置について再確認を行う。クラス担任間での保育中の役割分担、安全確認を徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	アスレチックのネット部分での遊び方（座る、寝転ぶなどの姿もあるが、ひっかかる、他児の動きに巻き込まれる可能性もある）	アスレチックのネット部分の遊び方、怪我の可能性について話し合い、職員で共有し状況に応じて対応する。子どもにも分かりやすく、怪我につながる可能性ある遊び方について伝え、安全についての意識を高める。	1.集団活動中・見守りあり	保育士が見守る中、鬼ごっこをしていた。全体を見ていた保育士が他児の対応をしている際、把握できていない所ができてしまった。	個別の対応を行う際等は、他の保育士と連携して、全体の把握に漏れがないようにする。遊びの様子により、把握しきれない時は遊びを制限することも検討する。	1.いつもどおりの様子であった	友達と一緒に鬼ごっこを楽しんでいた。鬼に追いかけられ、逃げていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	アスレチック付近での鬼ごっこの様子も把握していたが、遊具の陰になり見えない場所もあった。他児の対応をしており、転倒の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	個別支援の必要な児の対応、他の遊びの見守りを担当していた。	戸外での遊びの開放感や5歳児クラスだけで思い切り身体を動かして遊ぶ楽しさを感じていた。	子どもの遊びや、動きを把握し、様子にあわせた見守りと、危険についての想定、子どもへの声掛けなどを適切に行う。様子や見守りについて職員間の連携を見直す。	
8519	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	57	5	10	9	11	12	10	0		14	14	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	顆上骨折（上腕）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	特になし	遊具の遊び方、ルール、範囲等、マニュアルを園全体で会議にて確認、共有した後、幼児組、乳児組分かれ再度確認する。その後、子どもにわかりやすいように伝える。	1.定期的に実施	実施頻度(246)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(246)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(246)回/年	特になし	遊具や玩具、遊びの環境について再度確認しあい、危機管理の意識を園全体として捉えていく。	1.集団活動中・見守りあり	三輪車で遊ぶ子と追いかけっこをしている子とが、園庭で混在していたので、環境を整え安全に過ごせるよう配慮すべきであった。	乗っていない三輪車や玩具は片付け、園庭の使い方を整理していく。三輪車が乗れる範囲と追いかけっこの範囲は分けて過ごせるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	友だちと鬼ごっこをしており、鬼役で友だちを追いかけたり、探したりしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児が三輪車に足をかけ、乗ろうとする瞬間を見たが、転倒する時に声かけや、体を支える事が間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で保護者対応をしたり、他児の様子を見守ったり、子ども同士のトラブルに対応していた為、転倒時に対応できなかった。	特になし	役割分担を確認し、連携を図る。子どもの行動や様子から目を離さず、転落等ないよう配慮する。	
8520	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	36					18	18			3	3	5歳	2.女児	普段は4歳児ｸﾗｽでの保育だが、この日は5歳児ｸﾗｽと合同で園外保育をしていた。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足踝剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(月2～3)回/年	2.基準配置	本児が怪我をした際、痛めた右足を押さえていたが、ベンチで安静した際には、落ち着いた様子で両足も地面につき歩いていた。帰園中も、右足を気にしていたが、痛めていない左足をひきずったり、普段通りに歩いた事で、骨折を疑わず打撲と予測してしまった。	怪我をした時点で、持参した無線に連絡を入れ、園長先生の判断を仰ぐべきであった。報告と連絡、相談を怠らないようにする。足のひねりは打撲ではなく骨折のリスクが高い事再認識し、安易に判断せず、病院を早めに受診をする事。普段とは変わりない様子であっても、我慢をする子もいるので、個々の既往歴や動きを常に把握する。	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	木のあるところでは木の根が出ている。木の根が出ている事で段差があり、転びやすい環境である。	木のあるところでは木の根が出ていたり、段差ができてしまうことがあり、転倒したり、怪我をしてしまうことがあるということを子どもたちにも伝え、注意喚起を促す。	1.集団活動中・見守りあり	一人遊びの子はそれぞれ落ち着いて遊んでいた為、目視で確認する程度であった。広場付近…全体の動きを見る保育者がいたが、他園の子も入れ交じっていた。遊歩道付近…それぞれの遊びの中で、かくれんぼに保育者が参加していた。隠れた際には全体の動きを見る事にも意識していたが小集団遊びが広がっていた為、範囲が広すぎてしまった。	公園内の広場の遊歩道は、木の根で盛り上がっている箇所もある為、遊ぶ際に注意事項として話をしておく。公園内の危険箇所を把握し安全の為、遊び場も職員が見れる範囲内にしておく事が必要である。一人遊び…常に動きを見守り、目が離れない場所で遊べるようにする。広場付近…他園の子がいる場合は、遊びの範囲をあらかじめ決めておき接触事故を防ぐ。又は場所の変更をする。遊歩道付近…集団遊びは安全面を考えて平地の場所で行う事。根っこがある箇所が多い所を把握し、危険な箇所に入らないようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達同士の集団遊びに日頃参加しない本児がこの日は友達に誘われ参加していた。普段慣れない場所で鬼ごっこをし、鬼から逃げようとした際、木の根っこが多い所に入ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	A保育士…本児がマラソンごっこに参加後、友達と鬼ごっこに参加している際、遊歩道付近を走る姿は見たが、動きまでは把握出来ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	B保育士→加配児が4歳児にいる為、その子の好む遊びに付き添いながら、鬼ごっこに参加していた。C保育士→広場周辺で全体な様子を見ていたが、転倒した箇所から少し離れた場所にいた為、気づけなかった。	異年齢児合同保育の為、人数が多い事と遊ぶ範囲が広かった為、全体の動きが見きれなかった。	2クラス合同での園外は、細心注意を払い全体の様子や個々の遊びの様子を見ながら場所や遊ぶ範囲を決めておく。木の根っこ等転びやすい場所には注意を払い、事前にその場所には行かないように話をしておく。集団遊びに参加する児の中には、普段から遊び慣れていない児も混じる事がある為、予期せぬ怪我にも繋がる場合もある為、職員で周知し怪我を未然に防ぐようにする。	

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況						事故誘因	事故発生の要因分析																								掲載更新年月日
			施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事者		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰						ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
		認可・認可外		月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8521	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	7. 異年齢構成	22					11	11			2	2	5歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	2. 基準配置	担任は同行していなかった。	担任からの子どもの様子についての引継ぎが不十分であった可能性が考えられるので、個々の姿、集団での姿、関わりについてより密な連携をとる。	1. 定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(５０)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(１００回/年	園外保育先の安全点検については不十分であった面がある。	今回事例を踏まえ、わずかな段差等も意識して確認、共有に努める。	1. 集団活動中・見守りあり	人的面での記述の通り	人的面、その他の記述の通り	1. いつもどおりの様子であった	本児に特にトラブル等なく、楽しげな姿が見られていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の転倒後のケア、その複数確認等で、視線が離れた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他職員がいなかったため、故に見ていない。	基準通りの配置で、トラブル時の対応には不十分さがあった。	距離のある園外保育でもあり、余裕を持った配置で同行すべきであった。	
8522	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	49				12	18	19			6	6	4歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左小指基節骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 基準以上配置	保育士の立ち位置が園庭が見渡せる立ち位置ではなかった	保育士のお互いの立ち位置、状況の把握する。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	特になし	特になし	3. 個人活動中・見守りあり	園庭にいる保育士が隅々まで見回せていなかった。	保育に入る職員間の声掛けや連携をとっていく。	1. いつもどおりの様子であった	登園から降園まで園児はいつもどおりの様子であった。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は固定遊具についていた、ケンカの対応が遅れた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育士がけんかを目撃したが、手を出せる距離ではなく間に合わなかった。	特になし	特になし	
8523	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22									2	2	5歳	1. 男児	特になし	2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	1. 基準以上配置	特になし	今回の例は根本改善策はないが今後も定期的にマニュアルを読み返し、改正を加える.	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	大ホールの床面などに剥がれや突起などの異常がないか使用前に確認する。	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	障害物など活動に適した環境になってるか確認、活動中も全体を見渡し環境の変化に気付ける様に注意する。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこの為、箸っていて足がもつれた様子。振り返りぎわに転倒した為、やや横向きに倒れ肘を打ってしまったとの本児と周囲にいた子どもの談。	4. 対象児の動きを見ていなかった	一緒に鬼ごっこをしていたが、大ホールの対角線の位置で鬼から逃げていた為発生時は見えておらず、本児と周囲の子の訴えで気付く。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	クラスの内でおやつが食べ終わっていない子の対応とおやつの片付け清掃を行っていた。	特になし	保育士も安全に配慮し、全体を見渡しながら共に遊びに入り保育を行う。	
8524	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	23	0	0	0	6	11	6	0		3	2	5歳	1. 男児	普段から転びやすく、怪我をすることが多い。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 基準以上配置	遅番担当保育士が、園児の対応をしており、全体を見る役割が欠けてしまった	保育士間で連携をとり、各役割が欠けることのないように、目視、声掛けをする	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	滑り台が高く勾配が急であり、身体づかいに課題のある児にはリスクがある	固定遊具は換えられない為、遊具の遊び方について幼児組園児と再確認した	1. 集団活動中・見守りあり	戸外から、室内への切り替えの時間帯で、園児の落ち着かない姿もあった	落ち着かない姿がある時は、一度集合させて、次の活動について予告をする	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	片付け開始となり、戸外あそびが終了となることで、行動と気持ちが慌ててしまった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	喧嘩の仲裁対応中。対象児らの滑り台への動きは視界に入るが、途中で落下する予測がつかなかったことや、距離があった為、落下時に身体を支えに行けなかった	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児と片付け、送迎保護者への声掛け対応中。落下の予測はつかなかった	各対応中、対象児らの行動を気には掛けてはいたが、落下の予測に至らなかった	各対応中も、全体把握が欠けないように職員間で連携していくようにする	
8525	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	9	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	5. 4歳児クラス	22									3	2	4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 基準以上配置	今回の事故発生状況を職員間において周知を行い、今後同様の事故が発生しないよう注意喚起を行う。	クラスでは、園外保育前で落ち着きのない様子の子どもがいるため。静かに話を聞くよう注意する必要がある。	1. 定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(３００)回/年	床には何も落ちていない状態で整理整頓された保育室であっても、床が滑りやすくなっていないかなど、常に確認を行う。	周りに玩具や物が無い状態にあっても、怪我に繋がることがあるという事を子どもたちと話し合い、一緒に考えながら保育を進めて行く。	1. 集団活動中・見守りあり	片付けも終わり、床には何も物がない状況。周りの子どもたちも落ち着きがなく、動いている状況だった。	保育室という限られた空間において走ったり飛び跳ねたりすることにより、どういう危険性があるかを子どもたちと話し合い、一緒に考えて生活を送るようにする。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	その日は楽しみにしていた園外保育ということもあり、気分が浮かれていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	片付けも終わり、テーブルを動かす職員と、椅子をかたづけるよう言葉掛けしていた職員にわかれていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	出ている椅子をかたづけるよう言葉掛けしていたため。	園外保育出発前で片付けも終わる頃、園外保育準備もあり動き回っている状況だった。	園外保育でも時間に余裕をもって落ち着いて過ごせるように子どもたちに声をかける。	
8526	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	28									9	8	6歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足小指骨折→左第5趾基節骨骨端線損傷	8. その他	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2. 基準配置		広い視野で保育し、危険を予知して動くように職員に周知した。	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年		十分な間隔を取って遊具を配置して保育する。	1. 集団活動中・見守りあり		交錯しないような競技の設定にする。	1. いつもどおりの様子であった	運動会ごっこの障害物走で、一番に走って競技を進めていた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児のサポートをしていて、本児が後ろから走ってきたことに気づかなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くで見ていたが、あっという間のことで、対象児もすぐ走り出したので、外傷に気づかなかった。		保育補助の保育士に加え、全体を把握する保育士を配置し、場面に応じた声掛けをする。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因
8533	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2	1	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下
8534	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	0	0	5	0	5	5	0		5	5	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足第3中足骨骨折	8.その他
8535	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下
8536	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	17			9	8					4	3	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	外傷性歯の亜脱臼・歯肉切創	2.自らの転倒・衝突によるもの
8537	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	24	0	5	7	4	4	4			8	8	5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの

No	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8533	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		定期的に事故防止マニュアルの確認や事故事例について職員間で共有し、対策を検討する。また、子どもの個々の活動や行動の特性を把握し、職員間で共有していく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日		日頃から利用している施設や遊具の点検は確実に行い、安全上危険がある箇所があれば、改善策を講じる。	1.集団活動中・見守りあり		突発的な行動によるケガを防止するため、適宜園児が落ち着けるタイミングをとる。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	気持ちが高まり落ち着かない状態であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ステージ上は危険であることを繰り返し伝えていたが、突発的な行動に対し即時対応できずに対応が遅れてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	ステージ上は危険であることを繰り返し伝えていたが、突発的な行動に対し即時対応できずに対応が遅れてしまった。		園児の状態と危険の可能性を判断しながら、園児に指示を出すようにする。担当保育士同士で連携しながら、クラス全体に目が届くようにする。	
8534	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	節分の行事に向け鬼退治の遊びをしていたため、興奮した様子が見られた。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児が職員の背中側から不意に足に飛びつくという行動予測ができていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	遊びの様子は見ていたが離れていたため対応ができなかった。	周囲の刺激に興奮しやすいという特性に対する理解が不足していた。	職員間で特性を共有し支援方法を徹底する。	
8535	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	危険予測が不十分だった。	様々なリスクがあることを意識する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	跳び箱やマットにほつれや傷みがなく、手をつく位置をテープで示していた。	設備面での安全対策を施していたため、改善策なし。	1.集団活動中・見守りあり	遊戯室中央に跳び箱・マットを置き、児童にとっても周りにゆとりがあり跳びやすかった。	児童が跳びやすさを感じている分、傍らについていた職員は転落防止を意識していた。手の付き方等も危険意識をもつようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	以前から跳び箱を跳んでいて自信をもっていた。繰り返し練習していたことから当日ランクアップをしたいと言っていた。	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	跳び箱の傍らについていた。本児の手が滑ったときは一瞬で支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大縄跳びをしている児童の近くにいた。	本児が楽しんで跳び箱を繰り返していた。意欲を大切にしていた。	体を休めながら取り組めるよう休憩を促す。	
8536	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		ヒヤリ・ハット事例の振り返りを積極的に保育に活かしていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊びの内容や子ども達の状態により、不要な遊具を片付けたり床に散在することが無いよう一か所にまとめ、ケガにつながらないようにする。	1.集団活動中・見守りあり		子どもの特性による行動を予測し、職員間で声をかけあい子どもから目を離さないようにする。	1.いつもどおりの様子であった	午前10時頃から遊戯室で自由遊びを楽しむ。本児は、保育士や他児５～６人と一緒に、ソフト積み木（ウレタン製）を並べてお家ごっこをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近で対象児も含めて一緒に遊んでいたが、他の園児に目をとられた一瞬に起きた事故だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室内に離れて存在し、それぞれが子ども達と遊んだり動きを見守ったりしていた。対象児は落ち着いて遊んでいたこと、近くに担当保育士がいたことで特に注意を払っていなかった。		子どもの特性を把握したうえで、クラス保育士の誰か一人が必ず目を離さないようにする。	
8537	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(5)回/年	2.基準配置	ヒヤリハット事例はクラス会議で検討されているが、以上児クラスが集合した時や延長保育時間の事故対策が弱い	事故の分析について具体的な事故事例からどのような事故が想定されるかを研修に入れる。複数クラスの保育時の職員の配置と子どもの遊びの見取り方を研修に入れる	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1.定期的に実施	実施頻度(1)/週	点検等がマンネリになりがち	月末に園長または主任の点検を加える	1.集団活動中・見守りあり	遊びの設定がボリュームがありすぎて職員が対応できない可能性がある	遊びの設定を職員人数に合わせたボリュームに変更	1.いつもどおりの様子であった	朝登園してすぐ運動遊びのアスレチックコーナーに来て遊び始める。他児が軽々と行っているのを見て自分もできると思いチャレンジ。ハードルに足が引っかかり転倒した際慌ててすぐ立ち上がろうとして絡み合った腕を無理に起こそうとした	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の担任ではないため、どの程度の運動能力か把握しきれず見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	連絡帳出しやカバンの整理などに手が取られていた	遊びの設定が職員人数や個別配慮の必要性などを考えた遊びの設定になっていない	朝の受け入れ時間は子ども人数に合わせ職員が多くいると考えず目配りをする目配りできない環境をつくらない	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修 実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検 実施頻度【回/年】	遊具の安全点検 実施頻度【回/年】	玩具の安全点検 実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8554	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	3.昼食時・おやつ時	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	11									2	2	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		6.その他	2.顔面(口腔内含む)	下顎乳側切歯1本損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	子どもの生活動線上に布団を敷かれていたこと。パジャマのズボン長いのに、着替えさせたり折り曲げてあげられていなかったこと。布団の傍で絵本を選んだ事。	子どもの生活動線状に布団を敷かない。布団の上で遊んだり、活動をしない、遊ばない。パジャマが大きい時は、保護者に伝え縫い上げしてもらったり、折り曲げて足、手がきちんと出ている事を確認する。	1.いつもどおり様子であった	お友達4名と、午睡前に読む絵本を選んだあと、一人ずつ絵本を選んだ、だけの場合は離れていった。	4.対象動児のきを見ていなかった	園児4名を絵本を選んだあと、他の園児と話している時に、対象児が移動し、対象児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児のきを見ていなかった	対象児や担当職員と離れたところ（ままごとコーナー・着脱コーナー）で他の子ども達と関わっていた。	対象者から目を離した。	色んな危険を想定し、常日頃より子ども達を見て、声かけしていく。	
8555	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	15									1	1	6歳	1.男児	乳糖不耐症	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手指)	右上腕骨通顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	歩いているこかったと	ソフト積み木の上を歩く場合は、保育者は側にいるようにするなどの工夫をするが、要い場合は遊び方を変更するなど	1.定期的に実施	実施頻度(1２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1２)回/年	ソフト積み木の歩いて際、積上てブをうパをしたソフト積み木の上てブをうパをしたソフト積み木の上てブをうパをしたソフト積み木の

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	概要・施設・事業所種別	事故発生時期・月	事故発生時期・時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制・発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	事故予防研修・実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8559	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									3	3	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘、左上腕骨２か所骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.基準以上配置	園独自の事故防止マニュアルがない	園独自の事故防止マニュアルを作成する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度毎日		特になし	1.集団活動中・見守りあり		特になし	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の園児と一緒に遊具の片付けをしてい為、とっさの出来事に対応できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園児と一緒に遊具を片付けていた	遊戯室での遊びについては園庭と同じように監視や見守りを重視しているが、片付けの時は、園児と一緒に片付けていたので見守りができていなかった。	活動の最中はもちろん、それ以外の時間も園児の行動を見守り、園児にも気を付けて行動するよう話をする。	
8560	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	1	5	2	19	14	15			11	11	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折右肘・右肩打撲	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	鉄棒の下にマットが薄いものであった。	安全マットの厚いものを設置する。	1.集団活動中・見守りあり	夏のお昼寝が終わり、運動会練習も入ってきて保育環境の変化が見られて２週間が経ち、慣れてきたところであった。本児もできる事が増えてきて、挑戦したい気持ちも芽生え始めてきたところでもあった。	できるようになったと過信せず、鉄棒等での安全指導を行いつつ、見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	鉄棒での前回りができるようになったことで、やりたい気持ちも強くなり、鉄棒遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒の隣にある雲梯の場所で雲梯で遊ぶ子を見守りつつ、鉄棒で遊ぶ対象児も見守っていたが、また別の園児に声をかけられたため、そちらに目を向けたため、落下の瞬間に手を差し伸べることができなかった。	なし	園庭で、他の保育士はなく、担任一人で見守っており、別の園児の対応していた。	鉄棒の握り方の確認は以前話してあったが、この日は見過ごしてしまった。園児に対しても注意喚起する必要があった。コロナ禍で、クラス別で園庭遊びをするため、１人担任の場合は見守るにあたり十分でなかった。	園庭にある固定遊具や園内での危険個所や危険性があることを職員全員で再確認し、見守り方のポイントや固定遊具の扱い方等園児にも指導するように話し合い、保育士の安全保育に対する意識を高めて保育にあたるようにする。園庭遊びの際には複数で点在して見守るようにし、午後からは未満児クラスの先生の応援も借りるようにする。	
8561	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	56	1	8	6	17	9	15			12	12	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	雲梯の下には、５センチのマットを引いてはあった。	現在のマットの上にもう１枚引いた。	1.集団活動中・見守りあり	運動会練習も入り、活動的になってきて、本児もできる事が増えてきて、やりたい気持ちも芽生え始めてきたところでもあった。	雲梯等では、手を放す場面がある為、持ち方の指導を個人的に行い、見守るようにする。	1.いつもどおりの様子であった	雲梯に興味を持ち始め、できるようになったことで、やりたい気持ちも強くなり、雲梯遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雲梯とアスレチックの間で全体を見渡しながら、雲梯で遊ぶ対象児を含む数人の子を見守っていた時、別の園児に声をかけられそちらに対応していたため、落下する瞬間に手を差し伸べることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任保育士２名で見守っており、もう一人の担任は、別の園児の登園受け入れをしており、園児玄関付近にいた。	雲梯の握り方の確認は話してあったが、十分ではなかったと思われる。園児に対しても、注意喚起する必要があった。コロナ禍でクラス別で園庭遊びをするが、年少組は２人担任で見守っていたが、登園時と重なり登園児の対応に１人がかかってしまい、一人では十分に見守ることができなかった。	固定遊具からの落下事故が相次ぎ、再発防止のために再々度、職員全員で確認。園庭にある固定遊具や園内での危険個所や危険性があることや適正な見守り方や見守る位置や固定遊具の扱い方等、園児にも指導するように話し合い、保育士の安全保育に対する意識を高めて保育にあたるようにする。登園時間には、２クラスで園庭に出て保育士の見守りの人数を増やし、危険個所から離れる際は、別の保育士に必ず声をかけるようにする。雲梯等を行う際にどうしても見守りができない時は使用しないようにする。マットが有っても、落ち方や拍子が悪いと大きなケガに繋がるので、過信せず、安全な遊び方を教え込んでいく。	
8562	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	14	0	3	1	3	4	3			9	9	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	アコーディオンカーテンが奥まで入りきっておらず(奥に物は入っていて)、いつもより前に出ている状態であった。	アコーディオンカーテンをきちんと入れておき、突起していない状態にしておく。アコーディオンカーテンの下から階段の床面がコンクリートであるため、転倒防止対策として、マットを敷くなど安全面を強化する。	1.集団活動中・見守りあり	ハードな遊びはしていない。	引き続き、降園前なので、落ち着いて遊べる遊びを選択するようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	特別、変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室内で玄関に近い場所から、奥も見渡せる位置で年中児が絵本を見ているのを見守っていた。	なし	遊戯室の玄関に近い場所から、他の保育士はおらず、１人で見ていた。	１人の保育士だけで見ており、別の子と関わっていたため、見守りが十分でなかった。激しく動き回ったり、走り回る遊びをしていたわけではなく、単独の衝突だったようなので、気づき付きにくかった。	園児数が少なくても遊戯室では、複数の職員で見守るようにする。遊戯室は広いため、見守りと園児の送り出しの体制がとれるようにする。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項
8586	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業〜午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	14									1	1	4歳	1.男児	
8587	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	30									5	5	2歳	1.男児	特になし
8588	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	50				19	15	16			4	4	6歳	1.男児	月曜日から雨や曇りで外遊びが制限され、体を十分動かすことができていなかった。今朝は晴れて、嬉しい気持ちが先にたっていた。
8589	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業〜午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64				20	22	22			5	5	6歳	1.男児	
8590	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	6									2	2	1歳	1.男児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策
8586	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	5.下肢(足・足指)	左第2趾挫創左第２趾靭帯損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	2.基準配置	危険予知能力が低い	危険予知トレーニングをする	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日２)回/年	保育室が狭い	必要面積は満たしているので施設の改善は検討していない。
8587	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	滑り台の上と下にしか職員が付いていなかった。	滑り台中間付近にも職員をつけるべきだった。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	思いのほか滑りがよかった。	滑り台中間付近にも職員をつけるべきだった。
8588	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2〜3)回/年	1.基準以上配置	対象児が年長だったので、職員の危険要素の認識が甘く、遊びを止めるまで至らなかった。	園庭での遊び方を職員で確認し、子どもたちへの説明、注意を周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(350)回/年	特になし	特になし
8589	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園庭の見渡せる場所に設置されており監視はしていたが、手の届く範囲ではなかった。	全体を把握し、バランスのよい配置がとれるよう行動する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(240)回/年	遊具に問題はなかったようだが、降り方に問題があったのでは。	遊具の使用方法・遊び方を指導する。
8590	2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	下口唇裂傷外傷性歯牙打撲	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		職員配置に関しては問題なしと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日		面積値も規定以上あり、問題なしと思われる。

No	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8586	1.集団活動中・見守りあり	上履きを履いていなかった。支度をするため気ぜわしく動いていた。	上履きを履くことを徹底させる。室内では走らない。落ち着いて行動出来るようにする。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体が見える位置で、子どもたちが朝の支度が出来るように声掛けをしながら見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児のいるクラスは１人担任。隣りのクラスの職員は気付かなかった。	上履きを履いていない子がいることを見落としてしまった。日常的な朝の支度の中で危険を察知するアンテナが低かった。	どこにでも危険は潜んでいることを再認識して注意してみる。	
8587	1.集団活動中・見守りあり	滑り台と玩具の両方で遊んでいたため、反応が遅れた。	どちらか一つの遊具、玩具で遊ぶ。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児と共に順番で滑る。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	ホール滑り台の上と下に職員が一人ずつ付く。声を掛けながら順番に滑らせる。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	滑り終えた子どもが、次に滑り降りてくる子どもと接触しないよう声を掛けていた。	対象児が途中で体制を変えることが予測できなかった。	遊ぶ前に滑り方や遊び方をしっかり伝える。滑り台中間付近にも職員をつけるべきだった。	
8588	1.集団活動中・見守りあり	園庭で遊ぶ人数が増え、鬼ごっこで逃げるスペースが限られてきていた。	園庭での状況を確認し、安全な遊び方を園児に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらず健康状態は良かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児と他児が鬼ごっこをしている姿を見守っていた。築山へ走り登る姿を見て注意の声かけをした。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の姿は見ていたが、他児の遊びの対応をしていた。	早番から普通保育に移った時間帯で友だちが増え気持ちが高揚し、鬼ごっこで捕まりたくない気持ちが大きくなった対象児の危険度を予測できなかった。	事故事例を振り返り、危険を予測する。園児に、園庭での遊び方を伝えてから遊ぶ。鬼ごっこを始める前には築山へは行かないことを伝える。	
8589	1.集団活動中・見守りあり	数人で楽しく遊んでおり、本児の気の緩みもあったのではないか。	遊びの中にも危険はあることの促しが必要である。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り集団で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	少し離れた所にいた担当職員が、すぐに駆け付け手首の具合を確認する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児を見ており、本児の動きは見ていなかった。	起きないだろうという油断があったのではないか。	集団での活動中、注意深く監視するよう心掛ける。	
8590	3.個人活動中・見守りあり	床におもちゃが置いてあった。	床におもちゃが散らからないよう、使っていないおもちゃは片づける。	1.いつもどおりの様子であった	お気に入りのおもちゃを使えたことが嬉しく、おもちゃを持って走り始める。日頃からおもちゃを踏んで遊ぶことがあり、その日も走りながらおもちゃを踏もうとし転倒する。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児に声をかけ、走るところを止めに行こうとしたところであった。転倒の際、手を差し伸べたが間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とおもちゃであそんでいた		日頃より座って遊ぶよう声かけや習慣づけをする。走り始めたら、すぐに保育士が対応する。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

概要						発生時の施設・事業体制										事故に遭った子どもの		事故状況						事故発生の要因分析								掲載更新年月日
No	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳							教育・保育等従事者	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故発生時状況	事故の転帰 死亡	負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故ソフト面マニュアルの有無	事故予防研修実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面施設の安全点検実施頻度【回/年】	遊具の安全点検実施頻度【回/年】	玩具の安全点検実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面対象児の動き	担当職員の動き具体的に何をしていたか	他の職員の動き具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
								0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他																										
8597	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1 2. 午前中	2. 施設敷地内（園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	16			6	7	3				2	2 4歳	2. 女児	特になし	1. 昼外活動中	1. 負傷	6. その他	4. 上肢（腕・手・指）	左示指基部不全骨折	1. 遊具等の転落・落下	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（6）回/年	1. 基本以上配置	なし	1. 定期的に実施	実施頻度（240）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（240）回/年	なし	特になし	1. 整団活動・見守りあり								掲載更新年月日
8598	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8 7. 午後	1. 施設敷地内（園庭）	7. 異年齢構成	81	3	11	15	15	18	19	0		14	14 4歳	2. 女児		2. 室内活動中	1. 負傷	5. 口腔内受傷	2. 顔面（口腔内含む）	外傷性歯の打撲	2. 自らの転・衝倒・突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）～2）回/年	2. 基本配置		1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/週	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（240）回/年	1. 整団活動・見守りあり								
8599	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9 7. 午後	2. 施設敷地内（園庭・校庭等）	7. 異年齢構成	62	11	11	17	12	11				23	19 2歳	2. 女児		1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 顔面（口腔内含む）		2. 自らの転・衝倒・突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）～2）回/年	2. 基本配置	転倒等の顔にみ行っ（）ケガ（）棒診を視診をいなかった	1. 定期的に実施	実施頻度（2 4）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（3）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度（32）回/年	どのような場合でも、外部に振っては身の伸ばすことを行う意識	1. 整団活動・見守りあり	3. 個人活動中	1. 昼外活動中	1. 負傷		2. 顔面（口腔内含む）	外傷性歯の打撲

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8602	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	4	0	1	2	0	0	1	0		2	2	1歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園児が少なく気のゆるみがでた。砂場の砂の減少に伴い危険がある事を職員に職員会議にて報告、砂が入るまで砂場の中に保育士が入り園児の安全を守る確認が守られなかった。	事例検証後、再発防止に向けたとりくみ。年齢別安全マニュアルの作成。リスクマネジメントの研修。	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(40)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	砂場の砂の減少により深い穴になってしまった。	砂場の砂を定期的に補充する。すぐに補充出来ない時があるのであらかじめ予備をおいておく。	1.集団活動中・見守りあり	当該園児を保育していた職員は、ぐずっていた園児にどう対応すべきか困っていた。	砂場の砂を定期的に補充する。すぐに補充出来ない時があるのであらかじめ予備をおいておく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	保育士と砂場まわりで砂遊びや虫探しをしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当を決めていなかったが、そばで一緒に過ごしていた。しかしもう一人、園庭に降り踊り場にてぐずる園児の対応に他の職員に声掛けせずその場を離れて行ってしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児2名を見ていた職員は当該児童に背中を向けていたため、当該児童と一緒にいた職員の動きを気にかけていなかったので、移動した職員の動きに気づかず、当該児童に目配りしなかった	園児が少なく気のゆるみがでた。砂場の砂の減少に伴い危険がある事を、職員に職員会議にて報告、砂が入るまで砂場の中に保育士が入り園児の安全を守る確認が守られなかった。	事例検証後、再発防止に向けたとりくみ。年齢別安全マニュアルの作成。リスクマネジメントの研修。	
8603	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	42					21	21			2	2	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手首亀裂骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		子どもの人数に対する必要職員数は配置できていた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年		施設や遊具、玩具の不備で起きた事故ではなかった。	3.個人活動中・見守りあり		延長保育の戸外遊び中だから起きた事故とは言えない。	1.いつもどおりの様子であった	母親が迎えに来たことに気付き、シャベルを手に持ったまま走って行こうとした。	4.対象児の動きを見ていなかった	別の保護者の対応をしていて、対象児が転んだことに気付かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	ブランコについていたため、対象児の動きを見ていなかった。		どんな時も全体に目を配りこども達の様子を把握するよう努める。手に物を持ったまま走ると危険であることを子ども達に伝える。	
8604	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47					22	25			5	5	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットを活用し、日常の保育の中の危険を職員全員で共有していく	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊具・施設は定期的に点検を行っており、不備はない。	1.集団活動中・見守りあり	子どもの運動能力が育っていない	日常的に戸外での活動を増やし、運動能力を高めていけるように配慮していく。	1.いつもどおりの様子であった	保育士は片付けの声掛けを行ったいた。本児は太鼓橋にぶら下がっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭全体の子どもへ声掛けを行っており、ブランコ付近にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ園庭全体に散らばっていたが、太鼓橋付近にはいなかった。	保育士の見守り、片付けの役割分担がはっきりしていなかった。	片付け時は子どもの見守りと片付けの援助を行う保育士に分かれ役割を明確にする。	
8605	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	27									1	1	6歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手中指末節骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	職員研修(危機管理)の実施から時間が経っており、意識に欠けていた。	大型積み木を使って遊ぶ際は保育士が側に付き、危険がないように見守ったり、安全な運び方を共通理解する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	大型積み木大サイズ（120×30×15）中サイズ（60×30×30）小サイズ（30×30×30）単位はｃｍ素材は木製	保育士が大型の積み木遊びのそばに付けない時は積み木の使用を控える、または小さいサイズを限定して使用する。	1.集団活動中・見守りあり	朝の受け入れ時と重なったため園児の動きが多かった。	ケガの発生を受け大型積み木の使用を職員会議で協議する	1.いつもどおりの様子であった	友達とのトラブルもなく遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	積み木で遊んでいるところは目視確認をしていたが、すぐそばにはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室前のテラスに職員はいたが保育室の方は見ていなかった。	大型積み木の遊びのそばには保育士が付いていなかった。	大型積み木を出す際は担任が付くか他の保育士の応援を依頼する。	
8606	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	57									2	2	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	転倒からの骨折を想定し、全身チェックする訓練を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)/年	特になし	初めの転倒の原因となった地面のへこみを平らにした。	7.その他	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	保育室に戻った後、いつも通り元気な様子であった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の対応で見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	玄関内の他児を見ていたため、事故の瞬間は見ていなかった。	本児は口数が少なく状況等言葉で説明することが苦手なので、全身をもっとよく見て触れるべきであった。	けがの程度に関わらず、全身を見て触れて確認をする。	
8607	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									1	1	5歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨複雑骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	園児に対し、縄跳びをもったまま走らないと注意喚起した。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	園庭での自由遊びは遊びごとに範囲を決めて行う。	1.集団活動中・見守りあり	園児が多数出ている時間に縄跳びを自由に使用していた。	園児が多数出ている時間には縄跳びを使用しない、または範囲を決める。	1.いつもどおりの様子であった	縄跳びをしたまま場所を移動しようと、走りとびをしかけた時に転倒。縄跳びを持っていたので、手がつけず、肘をついてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士も一緒に縄跳びをしていた。本児が転ぶ姿を目撃し、すぐに向かう。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体の様子を見守ったり、子ども達と遊んでいた。	特になし	できる範囲、多数の保育士を配置する。	

No	概要					発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																											掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	発生時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰 死亡	死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8608	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	19									2	2	3歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・指)	右上腕骨骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(常時)回/年	2.基準配置	特になし	職員配置基準に問題はなく、マニュアルに沿って対応していたため、改善策はなし	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(14)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	芝生の園庭で、園児が物を投げ場所で事故があり、改善策はなし。	3.個人活動中・見守りあり	担任は部屋に入る準備をするのみとなり、子どもの対応をしており、当該園児の目を離れ、他の子に向けていなかった。	目が行きまだまだ遊んでいるこの時間は、職員に声をかけ連携をとって、子どもたちの状況を把握する。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り登園し、体調不良も無く、遊び外出ていも戸をした。	4.対象児の動きを見ていなかった	室内へ入ると玄関付近で部屋へ入る準備をしていた為、子対応をしていた為、子対応していた為、子対応していた為、子対応してい

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要					発生時の施設・事業体制												事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
		認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制										教育・保育等従事		年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面						ハード面								環境面			人的面								
				月	時間帯			人数	異年齢構成の場合の内訳									うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員						死亡	負傷		診断名		マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	施設の安全点検		遊具の安全点検		玩具の安全点検		その他要因・分析、特記事項	改善策	教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	対象児の動き		担当職員の動き		他の職員の動き		その他要因・分析、特記事項	改善策	
									0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他								死因	負傷状況	受傷部位					実施頻度【回/年】					実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】		実施頻度【回/年】							理由		具体的に何をしていたか		具体的に何をしていたか			
8617	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	53									4	4	6歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	園内で起こった事故やヒヤリハットを共有することで、事故防止について全体で検討することを普段から行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	敷いてあるマットは幅が狭く劣化しているため運動用マットで対応し、その後幅の広いものに買い換える。(本児はマットの敷いてある外へ落ち怪我をしている)	登り棒については棒付近にマットを2枚敷き、転落した時の衝撃を和らげることができるようにする。しかし、マットが敷いてあることで逆に飛び降りようとする子どもも一部いた。マットは安全にために敷いてあるもので、飛んでもよいものではないことも併せて伝えていく。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	子ども達にはそれぞれの遊具について正しい遊び方を知らせ、正しい遊び方での楽しさが伝わるようにする。また、子ども自身でも安全に気を付けて遊ぶ意識を持つことができるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中は交通安全教室があり、普段よりも集中して話を聞く時間が長かった。そのため普段よりも遊びの時間が待ち遠しく感じており、活発になっていた。友達と繰り返し登り棒を楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	リレーをしようとしている子どもたちを見ていた。そのため、手の付き方までは、確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	環境準備をしていたり（交通安全教室があり事前に環境準備ができなかったため）、それぞれの固定遊具付近で見守っていたりしていた。	特になし	保育中、保育者の立ち位置に配慮し、子どもの行動や異変にすぐに気付き対応ができるようにする。また、他クラスの子どもにも同様、職員全体で目を配り、対応ができるようにする。	
8618	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10		3	7						3	3	2歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨頸部外側骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	引継ぎの時間というよりも保育士が一人多くなり、お互いに担任が戻ったから、フォローの保育士がいるからと依存し責任ある保育下である意識が低くなってしまっていた	人数はいても引継ぎ内容によっては子どもに目が行き届かなくなるので、保育から目を離さなくても簡潔に引継ぎができるように意識の改善と方法を変更する	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	太鼓橋の下のマットの固さや厚み、マットまでの距離はどうだったか	マットの固さが適切だったか業者や商品の検討し、マットの変更を検討	1.集団活動中・見守りあり	太鼓橋という登る、下りる、ぶら下がるという遊具であるが、子どもが乗っているにも関わらず、すぐ近くで見ている保育士がいなかった。	遊具に乗っている園児がいる時は目を離さない。その場を離れる時は、担任同士で声の掛け合いをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	機嫌よく楽しそうに遊んでいた。挑戦したい気持ちが芽生え、いつもはあまりやったことのない太鼓橋に乗ってみたいという気持ちになったと思われる。	4.対象児の動きを見ていなかった	出席確認作業の確認をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	もうひとりの担任は太鼓橋とジャングルジムの間にいたが、泣いている子を抱っこをし、気持ちの切り替えの為に話かけていたため当該園児から背を向けていた。クラスフォローの保育士は当該園児から少し離れた所におり、他の園児が遊んでいるのを見ていた。担任が園庭に戻って来たので、片付けになったと声をかけながらジャングルジムから他児が下りてくるのを見守っていた。	泣いている園児だけに気をとられ、そばにいた保育士も、その他の園児の動きの把握ができていなかった。	遊具を利用している時は、子どもの動きの想定をし、子どもから目を離さない。他の保育士がいるからいいという意識を持たず、子どもを守るという共通認識を持つ。	
8619	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	73	0	0	0	0	37	36			9	9	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折（左橈骨）	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（3）回/年	2.基準配置	1人に関わって視線をはずす時は、待ってもらうようにする	順番を待ち、保育士が見てる状態で行う	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		鉄棒下に敷いているマットの下の土が削れていないか確認する。	1.集団活動中・見守りあり	1人に関わって視線をはずす時は、待ってもらうようにする	園児に遊ぶ時の約束を確認するとともに、保育士は今まで以上に子どもの状態をよく見て保育を行っていく	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り変わらない様子であった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の至近距離にはいたが、他児の鉄棒の介助をしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの立ち位置で子どもの様子を見守ったり、一緒に遊んだりしていた		介助が必要であれば、１人ずつ行う。1人に関わって視線をはずす時は、待ってもらうようにする	
8620	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				15	10	16			6	3	5歳	2.女児	今年●月に同じ部位を骨折している	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	特になし	事故報告、ヒヤリハット報告を毎回行い、事故防止につなげる	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（５０）回/年	特になし	施設設備が原因ではないため、改善策はなし	1.集団活動中・見守りあり	鉄棒下のマットが気温の低さから硬化している	遊具の安全点検の際に遊具下のマットの状態についても確認する	1.いつもどおりの様子であった	友だちと一緒にボールや縄跳び、鉄棒などで活発にあそんでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒に他の職員がついていたので、離れたところで対象児の様子は見ていたが落下した瞬間は見ていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の隣にいたが、他児に話しかけられ視線を離した瞬間に対象児が落下した	日差しがなく気温が下がった時間帯で、体の動きが鈍くなっていた。鉄棒を多くの園児が使っていて、十分なスペースがなかった。他クラスの園児や保護者が多くいて職員の注意も散漫になっていた	気温が下がってきた時間の固定遊具の使用を中止する。鉄棒を使う園児の人数を制限する。園庭に多く園児や保護者のいる時間帯のあそび方について確認する	
8621	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12			3	4	1	4			3	3	2歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	亀裂骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	記入なし	降園後挨拶をしたらすぐに帰るように指導した	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	記入なし	園舎外壁塗装中で、歩く場所が狭かった	7.その他	ぶっかった園児が、走っていなければ事故は起きなかった	園舎外壁塗装中で、歩く場所が狭かった	1.いつもどおりの様子であった	母親と一緒に降園する途中	4.対象児の動きを見ていなかった	挨拶をして降園する時間なので、対象児を見る事が困難であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記の職員と同様である	対象児にぶつかった園児もすぐに降園すべきだった	園児、保護者にも降園後はすみやかに降園する事を掲示等で啓発する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8622	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	7	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	20									2	2	5歳	1.男児	令和●年●月●日お休み中に家庭にて右腕を骨折。約1か月後から登園。医者より本事故は●月の骨折の再発の可能性もあるが、●月の骨折とは別の部位の骨折の可能性もあると伝えられる。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	朝の視診問診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気が付かなかった。防犯カメラにて検証	1.いつもどおりの様子であった	登園の際、右腕が少し曲がっている様子を防犯カメラで気づいた。(●月●日に骨折しており、完治してからもやや右腕が曲げて過ごしているように感じた。)	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	雑巾がけのスタート地点と反対側の全体が見える場所に待機し、号令をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士補助は子どもたちの近くに待機していた。	遊戯室で雑巾がけを行っていた。少し止まりながら一往復行い、終了後に保育補助に声を掛け、担任保育士に「痛いからやめておく」と伝えに来た。過去に骨折していたことから負担がかかり痛めたと予想される。	朝の視診問診をしっかり行わず、右腕が少し曲がっていることに気が付かなかった。防犯カメラにて検証	
8623	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	27									1	1	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨折、外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	外遊びをする時の子どもの動きにばらつきがあり、衝突、転倒等にすぐに対応できない。	遊ぶ前、遊ぶ途中でも全体に目を向けるとともに声を掛け注意を促す。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度毎日	同じ方向、間隔を空けて走るようにする。	動きの流れを決め、柵なども活用する。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	ボールや三輪車で遊ぶスペースは分けていたが、今後は走る為のスペースを作る。再度、園庭で遊ぶ時の注意事項を園児に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	運動会のかけっこで負けないようトラック内を元気よく走っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	トラックの外で遊んでいる子がトラック内で走っている子にぶつからないよう両方の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任以外の職員はいなかった。	担任1人のみしかおらず、直ぐに手を差し伸べることができなかった。	他に職員を配置し、直ぐに対応できるようにする。	
8624	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	45									2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	基準配置は満たしているが、見守りができる職員がいると良かった。	休憩時間であるが、できるだけ見守りの職員配置ができるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎)回/年	総合遊具は高さがあるが、子どもの発達には必要な遊具である。	戸外遊び中、総合遊具で遊ぶ時には必ず保育士が見守るようにする。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達に正しい使い方を伝えてはいたが、遊ぶ前には毎回伝えていなかった。	遊具の使い方を子ども達に周知できるように、遊ぶ前に確認できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	普段通り給食後戸外で自由遊び中、友達と一緒に総合遊具で遊んでいたが、前の子が滑り台の途中で止まって滑ってくれなかったため、滑り台の途中で飛び降りてしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	総合遊具の所ではない場所で子どもと関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	総合遊具の所ではない場所で子どもと関わっていた。	総合遊具のところで保育士が見守っていたら、個別に声を掛けることはできていた。	戸外遊び中は、総合遊具で遊ぶ時には必ず保育士が見守るようにする。	
8625	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	31									3	2	3歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘骨折(ひび)	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	担当職員が、外傷もなく腕や足を動かしても痛みを訴えなかったことから、骨折や怪我はないと判断してしまった。	怪我には痛みがでにくいものもあり判断が難しいことを認識し直し、念を入れた対応を取るようにする。また、「一般的な症状」についても認識を深める。	1.定期的に実施	実施頻度毎日	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年毎日	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年毎日	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	一緒に遊んでいた他児が、自分もタイヤに乗りたくて当該児をどかせようと押してしまうことを未然に防ぐことができなかった。	固定遊具の使い方や約束事を子どもに再度伝え確認し、安全に使えるようにする。固定遊具を使う際には保育者はそばにつくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	本児はタイヤに乗り遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	長時間保育児の全体の様子に目を配りながら担当年齢の子どもと遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	長時間保育児の全体の様子に目を配りながら、担当年齢の子どもと遊んでいた。	タイヤに乗っていることは認識していたが、「気をつけてね」と声を掛けただけでそばにつくことはしなかった。	固定遊具を使用している際は必ず子どものそばにつき、安全確認をする。	
8626	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	10					6	4			2	2	5歳	2.女児		8.その他	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯の亜脱臼	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	2.基準配置	子どもの特性や性格から適切な声かけが不足していた。	子どもの特性や性格を把握し、適切な声かけや遊び方を知らせる。	1.定期的に実施	実施頻度(毎週)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	一人一人の子どもの性格や遊びの内容から危険の予測が足りなかった。	危険につながる行為を予測し、保育士が声をかける。	1.集団活動中・見守りあり	園庭の広さや人数に対して遊びの場が十分に分けられていなかった。	園庭の広さや人数に対して安全に遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	腹部から後方へ垂らしていた縄跳びの紐を後ろから急に引っ張られたため、手をつかずに転んだ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の動きは、４メートル離れた場所で別の遊びをしながら見ていたが、距離が離れていたため、被災の瞬間には傍へ行けなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の職員は園庭にいなかった。	声をかけられているということに気がついていなかった。	子ども達一人一人の遊びの様子や立ち位置を把握し、複数の保育士で声をかけ合ってみていく。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8632	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	26									1	1	6歳	1. 男児	なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(130)回/年	2. 基準配置	早延長保育士へのヒヤリハットの周知不足	早延長保育士への周知徹底と、今後も日々細やかなヒヤリハットの情報共有を事故予防として続けていく	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(48)回/年	一階テラスがコンクリートで階段がある	施設の安全点検は年1回ではあるが、日々、職員全体で気を付けていき安全に過ごせるようにする	7. その他	サッカーゴールの設置場所がテラス付近にあった	サッカーゴールの位置を反対側に移動させた	1. いつもどおりの様子であった	普段と変わらず友達とサッカーをして遊んでいた	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	離れた所で他児と大縄跳びをしながら、全体を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれ担当年齢児についていた	延長保育士が担当年齢児以外に目が向いていない	延長保育中、担当年齢児だけでなく戸外にいるときは職員みんなで安全に遊べるよう気を付けて全体を見るようにしていく	
8633	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	33	1	9	23						9	9	2歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		5. 口腔内受傷	2. 顔面(口腔内含む)	右上A外傷による歯冠・歯根破折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１０)回/年	2. 基準配置	子どもの行動に対する危険予測ができていなかった。	子どもの行動の先にある危険を予測していく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	使用していない玩具を片付けていなかった。	使用していない玩具は片付けるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり	複数の遊びコーナーが交差していた。	一度にたくさんの遊びを出さず、子どもの興味に応じて遊びコーナーを変えていく。（ボールコーナーとフラフープコーナーを交互に設定する）	1. いつもどおりの様子であった	戸外遊びでボール蹴りをしており、蹴ったボールを追いかけることに夢中になっていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児から離れたところで他児とキャッチボールをしていたときに、本児がボールを蹴りながら走っているのを見た。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	フラフープ、バスケット、砂場の各コーナーに保育士がいたが、コーナーで遊んでいる他児を見ており、本児の様子を見ていなかった。	本児は日頃から多動で突発的な動きの多い子どもであったにもかかわらず、行動把握や危険予測ができておらず、本児への働きかけができていなかった。	突発的に激しい動きをする子という認識を持ち、保育士間で連携を取って本児の行動を常に把握し合い、見落としのないようにし、必要に応じて働きかけをする。	
8634	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	46	5	15	7	19	0	0	0		7	6	3歳	1. 男児	昨年度、疾病により長期入院しており、発達に遅れがある。発達援助のため保育所を利用している。	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足脛骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2. 基準配置	ひとり一人の特性や今までの経験を考慮して見ていなかった。	マニュアルにもひとり一人の特性や今までの経験を考慮して、事故につながる跳ぶ、登る、跳び降りる等の活動は、注意してみていくという記載を含める。	1. 定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度毎朝	1. 定期的に実施	実施頻度毎日	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	対象児の担任保育士が遅い勤務だったため担任保育士以外の職員が見ていた。対象児の特性や今までの経験等をきちんと把握していなかった。	定期的に気を付けて見ていきたい人の情報を職員間で共有する。	1. いつもどおりの様子であった	普段通りに過ごしていた。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児を含め3歳児を見ていたが、他児の行動が荒っぽかった為離れたところから見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭トイレ工事中だったため園児がその周辺に行ってしまい、その対応に職員2名が行っていた。遊具の近くに2名職員が付き、残りの職員で0歳児の保育と全体の把握を行っていた。	子どもの人数に対しての職員配置だけではなく、全体の環境等も含めて考慮しなければいけなかった。	人数だけではなく、環境、活動内容等により、職員配置を考慮していく。	
8635	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	58	0	0	0	29	29	0	0		5	5	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右腕上腕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2. 基準配置	特になし	園内での危険個所についてを第3者評価を行っていく。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	畑の囲いとして使用していたタイヤが年々劣化していたにもかかわらず、子ども達にタイヤの上には乗らないことを伝えつつ、そのままの状態になっていた。	畑の囲いとして利用していたタイヤを全て排除した。	1. 集団活動中・見守りあり	子どもに危険な遊び方の周知の徹底ができていなかった。	なぜ危険であるかを子ども達に伝え、安全な遊び方が身につくよう常日頃から繰り返しクラス全体で確認していく。また、子どもにとって危険なものでありかつ必要のないものは撤去していく。	1. いつもどおりの様子であった	他児の遊び方を真似て自分もやってみようと思った。	4. 対象児の動きを見ていなかった	担当保育士1名が保育室に必要な物を取りに行っており、もう一人の保育士は砂場で遊んでいたが、本児の姿は視界に入っていなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの子ども達に関わっており、本児の様子は視界に入っていなかった。	園児が保育士に伝えたけがの状況と、家庭で保護者に伝えた内容が異なっていた。保育士が全体を見れていなかったため、危険な遊び方をしていることに気づけず状況把握ができていなかった。	どのクラスの保育士も視野を広げて事故防止に努める。また、必ず他保育士に伝えてから、その場から離れ、保育士間で連携を図りながら、全体が見れるようにする。	
8636	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	11	7. 午後	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	19									1	1	6歳	1. 男児		8. その他	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左甲側面骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	3. 未実施	実施頻度()回/年	2. 基準配置	特になし	保育室に戻る際に「歩いて戻ります。」とルールを子どもたちに再確認する。	1. 定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	特になし	階段とテラスをつなぐ扉を閉めておき、体の動きを一旦止められるようにする。	1. 集団活動中・見守りあり		走らないように常に声かけをして注意喚起をおこなう。	1. いつもどおりの様子であった	室内活動が終わり、戸外で自由遊びができると開放感を持って嬉しくなり、テラスを走ったこと	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	一緒に1階におりて、走らないように本児に声をかけた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	戸外での自由遊びを行っている時間帯なので、戸外の子どもたちの安全見守りを行っていた	特になし	保育士が常に列の先頭を歩く事で、スピードをあげずにテラスを歩いて保育室に戻れるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8637	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	53									4	4	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		園内で起こった事故やヒヤリハットを共有することで、事故防止について全体で検討することを普段から行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	敷いてあるマットは幅が狭く劣化しているため、運動用マットで対応し、その後幅の広いものに買い換える。	登り棒については棒付近にマットを2枚敷き、転落した時の衝撃を和らげるようにする。しかし、マットが敷いてあることで逆に飛び降りようとする子どもも一部いた。マットは安全にために敷いてあるもので、飛んでもよいものではないことも併せて伝えていく。	3.個人活動中・見守りあり		子ども達にはそれぞれの遊具について正しい遊び方を知らせ、正しい遊び方での楽しさが伝わるようにする。また、子ども自身でも安全に気を付けて遊ぶ意識を持つことができるようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	午前中は交通安全教室があり、普段よりも集中して話を聞く時間が長かった。そのため普段よりも遊びの時間が待ち遠しく感じており、活発になっていた。友達と繰り返し登り棒を楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	リレーをしようとしている子どもたちを見ていた。そのため、手の付き方までは、確認できなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	環境準備をしていたり（交通安全教室があり事前に環境準備ができなかったため）、それぞれの固定遊具付近で見守っていたりしていた。		保育中、保育者の立ち位置に配慮し、子どもの行動や異変にすぐに気付き対応ができるようにする。また、他クラスの子どもにも同様、職員全体で目を配り、対応ができるようにする。	
8638	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16	3	3	0	4	3	3			4	3	1歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	単G	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	階段で子どもが足を滑らせてしまったのではないかと思われる。	階段のステップ台に滑り止めを付ける。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	3.個人活動中・見守りあり	足が滑り、滑り台の階段を踏み外したのではないか。転倒防止の為子どもの後ろにいたが、前へ倒れた為補助できなかった。	転倒防止は後ろだけでなく前もありえること、滑らないように滑り止めを付ける。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り、活発に滑り台に上り繰り返し遊んでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児の後ろに付いていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の各箇所で他の園児の保育をしていた。補助職員が、滑り台の反対側で、他の子どもが逆から上らないように見ていた。	特になし	特になし	
8639	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	72	0	0	0	0	36	36	0		4	4	4歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	常にけがを未然に防ぐ努力はしているが、スコップが転がっていることが重大事故につながるという意識はあまりなかった。	スコップが地面に転がっているだけでも骨折につながることもあることを園内研修を通して職員間で共通認識をもつ。	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	使い終わった砂場遊び用のスコップが砂場周辺に転がっていた。	使い終わったらその都度片づけるようにし、片づけ忘れているものは職員が気づいたときにその都度片付けていくようにする。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	特になし	1.いつもどおりの様子であった	興奮していたり、危険な行動をしたりすることはなく、砂場付近を歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	特に危険な行動はしていなかったため、他の園児とかかわっており、本児を注意して見てはいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近を歩いていることは把握していたが、特に注意しては見ていなかった。	特になし	危険な動きをしていなくても怪我につながることもあることを常に意識し、職員間の連携をとりながら、全体に目を配れるようにしていく。	
8640	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	2	4	0	4	3	2			5	3	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左大腿骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	鬼ごっこをしている子と他の遊びをしている子と同じ場所にいたから。	遊びの内容により、場所の確保をする。俊敏性を身に付ける遊びをする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	鬼ごっこをしている子と他の遊びをしている子と同じ場所にいたから。	遊びの内容により、場所の確保をする。俊敏性を身に付ける遊びをする。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りの動きで活動の移動中であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児とぶつかった子と鬼ごっこをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭の別の場所で他児の保育をしていた。	特になし	特になし	
8641	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61				20		41			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	園内で事例検討は行っていたが、事故が起きてしまった。	全職員に事故報告はしているが、短時間の職員に対しても、短い時間で園内研修を行う	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	転落した時に左腕が体に挟まれてしまい、骨折となった。	これからも施設、遊具、玩具等に不備がないように点検を行い、○○を敷くなどの対策を引き続き行う。	1.集団活動中・見守りあり	寒い時期は手が冷たく思うように動かないことが考えられる。	これからも季節を感じられる遊びや子供の発達にあった遊びを提供していく。寒い時期に体育遊具で遊ぶ場合は、準備運動など体を柔軟にしてから遊ぶように促す。	1.いつもどおりの様子であった	普段は、○○や○○で遊ぶことが多いが、事故当日は、○○で友達と遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	○○の所で、子ども達が縄跳びを○○にひっかけて、ブランコのようにして遊んでいたのを補助していたため、対象児の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は鬼ごっこ、一人は泣いている子の対応をしていたため、見ていなかった。	泣いている子への対応を一人の職員がしていたため、園庭で遊んでいる子どもを見るのが手薄になった。	職員室に声を掛ける等、連携を取り、安全に配慮していく。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8647	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	16				6	6	4			2	2	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	前額部挫傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１)回/年	1.基準以上配置	担任が公園から園にすぐに連絡せずその場で自分で判断してしまい、園長への報告が帰園してからになったことが要因。	職員会議で怪我の程度に関係なく、怪我をした時は園長に真っ先に報告するよう徹底する指示を出した。保護者宛てに怪我をした時の対応について手紙を配布。	2.不定期に実施	実施頻度毎週	2.不定期に実施	実施頻度毎日	2.不定期に実施	実施頻度毎週	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	手を繋いでいた友だちが境界ブロックの上に乗って歩いていた。	ゆるやかな下り道ではあったが道がでこぼこしているので、手を離して歩くようにする。	1.いつもどおりの様子であった	遠足で朝から機嫌も体調も良かった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	集団の先頭を歩いていた。担任は後ろ向きに歩き、境界ブロックに乗って遊ぶ数名に気づき、すぐに降りるよう声を掛けた。友だちと本児が一緒に転倒する様子を見た。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	集団の最後尾を歩き、担任と同じく注意しており、転倒する瞬間も見た。	特になし	特になし	
8648	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	7		2	5						3	2	2歳	2.女児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	予想される子どもの行動をより細かく計画する必要がある。	転落の可能性がある遊具を利用する時は必ず付き添う。出来れば使用を控える。	3.未実施	実施頻度()回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特記事項なし	特記事項なし	1.集団活動中・見守りあり	特記事項なし	特記事項なし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	母親の姿を発見して急いで降りようとした。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	急がないように言葉掛けをしたが届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の見守りをしていた。	特記事項なし	可能な限り同伴して遊具を使う。	
8649	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	14									1	1	3歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右指骨骨折（第4指)	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	危機管理の認識の甘さがあった。	室内での過ごし方について再確認する。安全マニュアルを再確認し危機管理意識の向上を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年 （１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年 （１）回/年	2.不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	施設、整備等に不備はなかった。	施設、整備等に不備はなかった。	1.集団活動中・見守りあり	対象児が自分の体を手をついて上手く支えられなかった。	室内での過ごし方について再度考える。怪我から自分の身を守れるように、運動遊びを取り入れるなどして身体面の発達を促す。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりの様子であった	4.対象児の動きを見ていなかった	他児の午睡準備を援助しながら対象児、友達の動きを制止していた。結果的に2人の動きを制することができず、怪我を防ぐことができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当者一人で保育をしていた為、担当者以外の職員は対象児の動きを見ていなかった。	対象児は友達といつもじゃれ合いのような戦いごっこをしていたが、制止しても行動をやめないことが常習的になっていた。	子ども達の危機管理意識を高め、保育士の指示を守れるようにする。	
8650	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	12		1	4	1	4	2			3	3	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（３)回/年	1.基準以上配置	具体的な事例により検討することが今後必要である。	今回のケガについて職員会議で話し合いをする。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	園庭の広さ、カーブの角度の調整	カーブの角度について職員で話し合い緩やかにする	1.集団活動中・見守りあり	カーブで曲がった際、並走して走っていた保育士の右足と衝突、反動で転倒。	保育士もカーブのことを考え、並走する際には注意をする。	1.いつもどおりの様子であった	保育士に負けないようにと張り切っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにおり、一緒になって走り込んでしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	すぐに本児に駆け寄り、対応をした。	職員の人数的には問題なかった。	今後もこれまでのように一人ではなく二人以上で見守っていく。	
8651	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	130	0	0	0	39	44	47			8	8	3歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１)回/年	2.基準配置	特になし	鉄棒で遊んでいる時には、必ず保育士が傍に付き、落下しないように援助する。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	低中高の3連の鉄棒であるため、年齢児、身長に合わせ安全に使用できるような配慮、見守りが必要。	鉄棒の下には安全マットが敷いてあるが、さらに厚手のマットを敷くようにする。	1.集団活動中・見守りあり	児は鉄棒の遊びの経験が少なく、常に見ていないといけない状況であったが、担任が他児と違う遊びをしていて担任以外が傍で援助していたが連携不足で児に適切な対応ができなかった。	児の遊びの様子を共有し、どの職員でも対応できるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく友だちと誘い合って遊び出し、順番を守って傍にいた保育士の援助の下、前回りをして遊んでいた.	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	鉄棒で対象児ともう一人の児童を見ていたが、対象児が落下する瞬間に手を差し伸べたが、頭は守れたが腕をついてしまった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他児以外の児童の対応をしていたため、対象児が落下した時に間に合わなかった。	鉄棒に対して不慣れなため、鉄棒に上がった際にバランスを崩してしまった。	必ず保育士が手を添えるなどの援助の下で経験を重ねて慣れていくようにする。	
8652	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	9	1	8							2	2	2歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（１)回/年	2.基準配置	特になし	職員への周知、遊び方の園児への指導等	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	・特になし	継続して点検を実施する。	3.個人活動中・見守りあり	園庭全体に子どもが広がって遊んでいたため、時折保育士の視界に入っていないことがあった。	子どもの動きを把握できるような立ち位置及び動きをとる。	1.いつもどおりの様子であった	本児が乳児用滑り台に上り始めた時本児の後ろに立っていた0歳児に対して登ってこないように抵抗するかのごとく左右に腰を振っていた。保育士が目を離した時に階段で足を踏み外して転落。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児が滑り台階段に上る姿を近くで見守っていたが、近くにいた0歳児の方へ目を移した際の転落だったため、本児の体を支えることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	乳児用滑り台と反対側にあるジャングルジムやブランコの方で遊んでいた子どもたちを見守っていたため、見ていなかった。	本児が階段を上っているときに目が離れてしまった為。	子どもが階段を上っている間は必ず側につき、見守っていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8653	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	33									3	3	6歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右足靭帯損傷、剥離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1. 基準以上配置		定期的にマニュアルの確認をする	1. 定期的に実施	実施頻度（毎日）	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（毎日）	特になし	施設や設備（遊具等）に大きな不備や問題は見られない。	3. 個人活動中・見守りあり		環境等には不備や問題は見られない。	1. いつもどおりの様子であった	対象児は他児と一緒に遊んでいた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	園児が遊んではいけない	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児の近くに保育士がいたので他児の遊んでいる様子を見ており、対象児の姿をあまり意識していなかった。	特になし	集中力が低くなりがちな午後からの活動内容や時間の見直しをする。再度、園内外の危険個所の確認と話し合いをし、改善する。	
8654	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	44				17	15	12			3	2	4歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折、左第１中足骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/年	2. 基準配置	特になし	特になし	1. 定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(毎日)回/年	くすの木の根が隆起しており、足元が引っかかりやすい状態であった。	隆起した辺りを立ち入り禁止にしたり、隆起箇所に人工芝等を敷いて躓き防止策を行う。	3. 個人活動中・見守りあり		特に無し	4. 具合が悪かった(熱発・腹痛・風邪気味等理由を記載)	約2か月前に左足を骨折し、今月に完治したが、ギプスをしてしばらく歩いていなかったため、歩行が不安定であった。	1. 対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	母親からの要望で、リハビリを兼ねて歩く経験をして欲しいとのことであったため、保育補助が手を繋いで歩いていた。一方に本児、もう一方に別の3歳児が手を繋いでいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児の遊びの対応をしていた。	骨折をすると、受傷箇所を固定することによるバランスの取りづらさがあったり、完治後も以前のような動きができるまでに時間がかかることを認識する必要があった。	完治直後は、さらなる配慮（特に段差や地面の凹凸）が必要となることを職員で周知して、誰もがすぐに対応できるようにする。	
8655	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	3. 昼食時・おやつ時	1. 施設敷地内(室内)	4. 3歳児クラス	15									1	1	4歳	1. 男児	なし	8. その他	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右下髄挫傷、右足関節捻挫、右下髄骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	なし	なし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(60)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	なし	なし	6. 食事(おやつ)中	なし	なし	1. いつもどおりの様子であった	普段から落ち着いている子	4. 対象児の動きを見ていなかった	気にはしていたが、他児と関わっていた	なし	他の職員はいなかった	片付けの際に子どもたちへの声掛けが足りなかった。職員の立ち位置が全体を見渡せずにいた。	子どもたちには他事をしないよう予め声を掛けたり、歩いて行動するよう声を掛ける。保育士は他児と関わっている中でもまわりに気を配るようにする。	
8656	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	42				16	12	14			6	5	4歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	橈骨遠位端骨折	1. 遊具等からの転落・落下	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1. 基準以上配置	本児はバランスが悪く、よく転ぶ。	鉄棒で遊んでいる子には、必ず職員がそばにつき目を離さない。	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度（2）回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(50)回/年	特になし	特になし	1. 集団活動中・見守りあり	特になし	鉄棒の下に必ずマットを敷く。	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒で前回りができるようになり、嬉しくて午前中からも何度も行っていた。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	鉄棒を何度もしていたのでそばにはいたが、他児の鉄棒を見ていたため落下する瞬間を見ることができなかった。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他の子どもの保育をしていたため、見ていなかった。	何度も鉄棒をしていたので、握力がおちていた可能性がある。	鉄棒をする時は、鉄棒から手を離さないことを知らせる。	
8657	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	1	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	136				32	54	50			11	11	5歳	1. 男児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右橈骨骨幹部骨折右尺骨骨幹部骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	防ぎようがなかったと思われるため特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	園庭の広さは十分であるため特になし	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	保育士の立ち位置を工夫する	1. いつもどおりの様子であった	子ども達で鬼ごっこを進めていることが出来ており、保育士は一緒にいなかった	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の遊びを見ていた	特になし	保育士が連携を取りながら全体を見る	
8658	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	154				52	52	50			11	11	5歳	2. 女児	特になし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右くるぶしはく離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2. 基準配置	特になし	全体が見られる職員配置を工夫する	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	縄跳びに適切な場所を提供する	3. 個人活動中・見守りあり	特になし	子どもの異変に保育士が気づけるように気を配っていく。	1. いつもどおりの様子であった	コンクリートの狭いスペースで一人用の縄跳びを跳んでいた	4. 対象児の動きを見ていなかった	他児と一緒に縄跳びで遊んでいた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	転んだ瞬間は他の遊びを見ていた	特になし	安全な場所で遊ぶよう指導する全体を全保育士で見る	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	概要					発生時の施設・事業体制													事故にあった子どもの			事故状況							事故発生の要因分析																									掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員		年齢	性別	特記事項	発生時状況	死亡 死因	事故の転帰 負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	マニュアルの有無	ソフト面 事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き 具体的に何をしていたか	他の職員の動き 具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	
8665	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15			7	8			2		1	4歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	保育士の人数、配置人員の見直しを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	いつもっていスベンチのため、気を付けて降りようとしなかった。	ベンチの上には立ったりしないことを伝えていく。低い場所からでも気を付けて降りる伝えていく。	1.いつもお様もりの子であった	普段から着き行き落ちない動きをすることがある。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	紙芝居を見終わったところで、他児が動き始めていた気を付けてよか降りるかと声をかけることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が動いていたので、ほかの子の対応をしていた。	特になし	特になし	
8666	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	28				14	14		2		1	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左小児肘内障・左上腕骨顆上骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	常に話し合い、報連相を大切にし、必要な保育士の調整を行う。常に正しい保育体制が取れているか確認するし合う	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/週	室内のコーナーは設定はよかったのか、遊び空間は確保されていたのか見直しが必要だったのではないか	遊びのコーナー、環境のしをする	1.集団活動中・見守りあり	大好きなとったり実習生と気持ちの関わりを受け止め、遊び方に、巻きなどの工夫をし、体に付けのスキンシップは控えるようにするべきだった	室内にふさわしい遊びを提供する	1.いつもお様もりの子であった	友だちやと実習生と楽しくしていた	2.対象至児の近で対象児を見た	子どもたちと実習生の様子を視野に入れながら、他児遊の室内様子を見てた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各々の担クラスに保育ていたかった。	実習生と子どもと丁寧にもう少しの関わりをもう一度子どもの姿を見守るべきだったのではないかと考え、保育者士が落ち着いた遊びを提供するべきだった	実習生と予子ども想される子ども姿を考え、保育者士が落ち着いた遊びを提供するべきだった	
8667	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58			7	13	17	21			12	6歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	0、1歳児以外の全児園児は全園庭で基準の職員配置でも見守りは全ことはかっしの職員配置でも見守りは全ことはかっしの職員配置でも見守りは全ことはかっしの

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8676	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	47									3	3	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(10)回/年	2.基準配置	なし	なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	園庭にはグレーチングの転倒怪我防止の人工芝は敷いてあり、安全に走れる状況であったが、人工芝と土の段差や園庭自体に凸凹が生じている場所が数か所あった。	人工芝との段差や園庭の凸凹を見つけたら速やかに整備していく。	1.集団活動中・見守りあり	子ども同士で誘い合ってひたすら追いかける遊びであった。ルール的要素があると静の時間ができ、追いかける際も加速し過ぎなかった。	子ども同士の遊びであっても様子を見守り、状況に合わせて声をかけていったり、自分自身でも衝突したり、転倒したりしないように気を付けながら走るように知らせていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつも鬼ごっこをしている数人の子どもたち同士で誘い合い本児も「泥棒と警察」に参加した。	4.対象児の動きを見ていなかった	担任保育士は園庭で他の子どもたちと羽根つきをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	年長担任保育士は、遠く離れたところで、他の子どもたちと関わって遊んでいた。園庭で園児の遊びを見守っていた幼児主査はトイレにいく園児の補助を行っていた。	園庭には3人の保育士がいたが、トイレに行く園児の補助のため一時園庭からいなくなった時間があり園庭での全体の遊びの様子を見る存在の人が欠けてしまった。常に全体を見ながら危険な行動に声掛けをしていく必要があるため、保育士の人員が足りない時には適切に声を掛け合い体制を整えていく。	園庭での戸外遊び時には、保育士の配置に余裕を持ち、もし緊急で継続できない場合には声を掛け合い、残っている保育士が園全体をに気を配り子どもの遊びの様子を把握していく。常に全体を見ながら危険な行動に声掛けをしていく必要があるため、保育士の人員が足りない時にはほかの保育士の手を借りるなどし体制を整え常に安全に留意していくようにする。	
8677	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	17									3	3	2歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右母趾基節骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置	特になし	両手に玩具を持った子どもに対して保育士が配慮するように全職員に周知した	1.定期的に実施	実施頻度(４８)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(５０)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	床の段差や滑りやすような状況ではなかったため、改善策はない	1.集団活動中・見守りあり	子どもが両手に車を持ち、床に走らせていたことに対しての保育士の危機意識が足りなかった	子どもに両手に玩具を持って遊ぶことは危険につながることを知らせる	1.いつもどおりの様子であった	迎えがくるまで、好きな車の玩具で遊んでいた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	室内の遊びのコーナーごとに保育士がいたが、部屋の中央の床で本児が車を四つん這いで動かしていたので少し離れた状態であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2か所の遊びコーナーで他児と遊んでいたため、見れない状況であった	特になし	配置人数も達しており、人的に防げない状況であったので改善策はない	
8678	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									2	1	4歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	外果骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(園開所日数)回/年	滑り台の下にマットが敷いてなかった。	落下するかもしれない場所にマットを敷く。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	３人で滑り台の踊り場にいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	滑り台の踊り場にいた一人がすべり面から体を乗り出していたため危険と思い、近づいて下から声をかけるが改善する様子がなかったため階段より登っていった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他の保育者がその場に向かったので他児との遊びを続けた。	特になし	滑り台の踊り場にいるのは一人ずつとするルールを職員・子どもともに徹底する。落下の危険がある場合は、子どもの動きに対応できるように、遊具等の下から声をかける。	
8679	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	32					15	17			4	4	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	寒くなってきて、体の動きが鈍くなっている。子どもたちがルールはわかっていても守れない。	遊びを始める前にみんなで体を温める活動を入れる。遊びを始める前に、ルールを子どもたちと確認。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	コンクリートの角は保護されているが、側面は保護シートがない。芝生の生えている所が少し段差になってしまっている。	園庭の走ってはいけない所が視覚でわかるようにラインを引く。コンクリート側面を保護する。	1.集団活動中・見守りあり	年長児が出てきて園庭真ん中でクラス遊びを始めた。自由遊びをしていたのは年中児だけだったが、子どもの数が増えたことで保育士の視界が行き届かなくなった。	今一度、職員の立ち位置の確認、見届けの仕方について共通理解を図る。	1.いつもどおりの様子であった	数人の友だちと園庭の真ん中にてボール遊びをしていた。本児はケガをした時は別の遊びをするところだったと話すが、一緒に遊んでいた友達はボールを追いかけていって転んだと話す。	4.対象児の動きを見ていなかった	4歳児が自由遊びをしていたため、遊びの場所や内容が様々だった。本児の遊びは把握していたが、本児の怪我の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	大縄跳びの縄回しをしていたため、全体を見れていなかった。5歳児の担任はクラス遊びについていた。5歳児と出てきたフリー担当は、支援児についていた。	いつも、全体を見る担当とそれぞれの遊びにつく担当と分かれているが、もう少し立ち位置や見届け方を考えるべきだった。	戸外遊びでは保育士の人数に応じて遊びを工夫する。保育士同士の連携し合って全体の把握をする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8680	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15	3	12							4	4	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		子どもの人数に対する必要職員数は配置できていた。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	段ボール製のハウスのカウンターの部分に乗り、足を滑らせて落ちた。	カウンターの用途はままごとのための台であることを伝え、本来の遊びがこどもたちにとって楽しいものにしていく。	3.個人活動中・見守りあり		子どもの動きに合わせ、死角がないように遊びを見守る。	1.いつもどおりの様子であった	保育室の段ボール製のハウスの中に入り、カウンターの部分に乗っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ながら近くの子どもと遊んでいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見ながら近くの子どもと遊んでいた。	保育士は本児がカウンターに乗っているのを把握していたが、高さ的に大丈夫と思い、離れたところから見守っていた。	大丈夫と思いこまず、常に危機感を持って子どもを見守るよう努める。	
8681	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	24									4	4	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	保育士の補助の仕方	安全に運動遊びが行えるよう、保育士の補助の仕方を確認し周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(240)回/年	慣れている跳び箱で段数を上げていく必要があった。	使用する跳び箱に慣れる。	1.集団活動中・見守りあり	園児２４人と担任保育士１人、主査保育士１人、副園長１人、加配保育士１人で跳び箱をしていた。	跳び箱を跳ぶ際の手の付き方、目線の置き方などの声掛けをしていく。	1.いつもどおりの様子であった	いつものと違う初めて使う跳び箱で何度か跳んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	跳び箱の傍につき、跳ぶ際の補助をしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	跳び箱の傍につき、跳ぶ際の補助をしていた。加配保育士は対象児についていた。	本児がバランスを崩し際に、補助ができなかった。	着地前に補助できるように、傍でつく保育士は態勢をとり補助していく。	
8682	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	44									4	4	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし。	職員が見守る中の事故で、対応も適切であったと思われる。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(5)回/週	特になし。	障害物のない園庭の真ん中で自分で転んだ事による事故であったため、防ぎようがなかった。	3.個人活動中・見守りあり	特になし。	特になし。	1.いつもどおりの様子であった	元気も良く友達と誘い合ってのドッジボールでチーム分け後、場所を移動する際の事故であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担当職員もドッジボールの見守りをしている中の出来事。怪我をした場面も見ており、手が体の下敷きになるような変な転び方であったと報告があった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	転んだ付近に保育士は3人おり、担当保育士が転んだ子に対応した時も他の子のフォローにすぐに入れる状態であった。	特になし。	特になし。	
8683	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	41				9	12	20			3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右小指基節骨骨折・右手部挫傷	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	1.基準以上配置	特になし	今後も研修の中で、いろいろなパターンを想定し、事故予防に努めていけるようにする	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	跳び箱の設定や置き方、マットの場所についても確認してあったため改善策はない	3.個人活動中・見守りあり	自分でできるようになったことが嬉しくて、何度も繰り返しているうちにより活動的になった	器具遊びは危険が伴うことを伝え常に落ち着いて取り組むように声掛けをする	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	補助なしで跳び箱ができるようになったことが嬉しく、いつもより気分が高まっていた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	跳び箱が園庭に設定されていたために保育士が近くにつく前に遊び始めており、離れた場所から様子を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が遊んでいるところを見守ったり、一緒に遊んだりしていた	転んだ時にすぐに補助できる位置に保育士がいなかった	跳び箱はできるようになっても危険が伴う遊びなので、保育士が近くにつける状態になるまでは遊び始めないようにマットを被せて子どもたちにも知らせておく	
8684	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	26									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足首剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		保育士は子どもの様子を気にかけ安全に留意しながら見守ることを再確認した。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		園庭の整備は定期的におこなっている。遊び方を検証していく	1.集団活動中・見守りあり	逃げる事に夢中になり、足元への注意が十分でなかった。	子どもの様子を見守り、声をかけていく。	1.いつもどおりの様子であった	日頃から活発に友だちと追いかけっこを楽しんでいる	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭全体を見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場付近で子どもの様子を見守っていた		戸外遊び前には遊具の配置場所や園庭整備の安全確認をしてから遊ぶ	
8685	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	3									3	2	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	特になし	外の時間は職員を遊具付近に配置及び、ミーティングを通じて周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(４６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４６)回/年	特になし	注意喚起標識設置。	1.集団活動中・見守りあり	中へ誘導する職員、下駄箱で補助する職員、教室内で対応する職員に分かれており、外で子どもを監視する目が不足していた瞬間があった。また入所間もない子どものため、とっさの行動が予測できない場面もあった。	子どもの室内へ順番に誘導する体制をとっていたが、下駄箱付近で子どもを集め、その後一斉に室内へ誘導することにより、危険箇所（遊具付近等）の監視体制を厚くする。	1.いつもどおりの様子であった	滑り台の階段からジャンプして降りようとして、着地に失敗し、足をひねった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭対応の職員は、他の子どもへ対応するため、すべり台から少し離れていたため、ジャンプする瞬間を見たが、子どもの素早い動きに対応できず、止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は、教室内で戻ってきた子どもの対応をしていた。もう一人は、下駄箱付近で、教室に入る子どもの対応をしており、ジャンプする瞬間は見ておらず、対応できなかった。	教室に戻る時間、園庭での子どもの監視体制が不十分になっていた。	子どもの室内へ順番に誘導する体制をとっていたが、下駄箱付近で子どもを集め、その後一斉に室内へ誘導することにより、危険箇所（遊具付近等）の監視体制を厚くする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8686	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	143	3	22	21	30	31	36			11	11	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨外上顆骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（４）回/年	2.基準配置	活発に遊ぶ児であるが、行動を注視できる職員の配置が適切でなかった。	リスクの高い箇所には、児の行動が注視しやすい職員配置を行う。	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（２４）回/年	なし	施設、整備面につき改善策なし	1.集団活動中・見守りあり	砂場の縁の上に砂が残っていたため、滑りやすかった。	砂場の縁に砂がのっていないかを適宜観察し、必要時に砂をはらう。	1.いつもどおりの様子であった	いつも友達の刺激を受けやすく、活発に遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	普段と変わらず遊びを始めた為、目を離してしまう時間があった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもをみる担当場所や、おおよその範囲など職員間の連携はあったが、全てのカバーまで至っていなかった。	児の行動を把握し、見守りができていなかった。	行動予測を行い、危険な行動を起こす前に声をかけ、安全に遊ぶ。	
8687	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	22									5	5	6歳	1.男児	自閉症スペクトラム	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	2.基準配置	複数の職員で確認したが、本児の気持ちの崩れに重きを置いていたため、怪我の度合いを想定できていなかった.	憶測ではなく、様々な結果を予測して、複数の職員で全身の観察・視診を入念に行う。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	入場門の固定用として、１０Ｌのポリタンクを使用したが、可動可能な状態であった。	入場門に紐でくくり確実に固定する。	1.集団活動中・見守りあり	待機時間中の出来事であり、配慮不足であった。	目を離すことなく見守りだけで良しとするのではなく、気持ちが安定する玩具を持ち込んだり、待ち時間を少なくするプログラムにする。	1.いつもどおりの様子であった	他児の様子に興味をもち、同じように遊びたくなった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児ともう一人の児童を見ていたが、対象児が倒れた時手を差し伸べても届かなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	転倒し擦り傷のあった部位の確認しかできておらず（抱っこで競技に参加したのも）転倒した痛みで気持ちが崩れてしまったという職員の思い込みで鎖骨骨折していることに気付くことができなかった。	危険予知が十分でなかった。	転倒した時の状況を詳しく聞き取り、あらゆる可能性を考慮する。担任・看護師と連携し受傷後の状況を再確認する。	
8688	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	20									2	2	4歳	1.男児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.基準配置	マット遊び時、マット上でしか遊ばせないルールを周知していなかった。	マット遊びのルールを職員・子どもたちに周知徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度（１）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	2.不定期に実施	実施頻度その都度	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	1.いつもどおりの様子であった	気分の高揚などなく、いつも通りに遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	マット上で前転をする子どもの補助中だった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	サーキット遊びの平均台遊びを補助をしながら全体を見守っていた。	何回か経験しているので安全と思い込み、見ていても注意しなかった。	幼児の特性で突発的な行動をすることを理解し、危険な遊び方やルールが守れていない現場を発見したら、すぐに声かけし危険を回避させる。	
8689	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	28									2	2	6歳	1.男児	アレルギー疾患や持病等なし	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	5.下肢(足・足指)	右足関節外側靱帯損傷右足関節腓骨剥離骨折の疑い	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（２）回/年	2.基準配置	なし（職員の配置等十分で、瞬時に対応できた）	なし	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	なし	なし	1.集団活動中・見守りあり	なし	なし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	幼児でリレーに一生懸命になり、勢い余ってバランスが取れなかった。また、幼児の身体的特徴によりバランスがとりにくい。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	そばで見ており、児が転倒し泣き出したので、すぐに駆け寄った。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいて、児が転倒し泣き出したので、すぐに駆け寄る。	リレーに夢中で勢い余ってバランスを崩した。	家庭と園とで連携しながら、普段から身体づくりに努める。	
8690	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	17									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(通年)回/年	2.基準配置		今後もヒヤリハットや園児の怪我の情報共有を図り、危機管理意識をもって園児の遊びの様子に応じた職員の立ち位置や見守りを強化していくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（２４）回/年	2.不定期に実施	実施頻度（１２～１５）回/年		クッション材の役割ができるよう芝生の上に設置している。	1.集団活動中・見守りあり	一段目なので自分で飛び降りてみようとしたり、足元を見ていなかったり、バランスをくずしたのかもしれない。	総合遊具の安全な遊び方について、今後も引き続き子ども達にわかりやすく伝えていく。	1.いつもどおりの様子であった	総合遊具が出来るようになり、最近自ら喜んでこの遊具で遊んでいたこともあり、当日も友達と楽しんでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	もう一人の担任がついていることを確認しながら、他の遊具で遊んでいた他児の動きを見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	総合遊具に担任の１人はついていたが、その時同じ遊具で遊ぶ他児の動きを見ていたため、対象児の動きを見ていなかった。		遊ぶ園児の様子を全体的に見ていくように一層気を付ける。	
8691	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	14									4	4	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置		事故防止に関する研修に積極的に参加する。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	児の気分が高揚していつもより動きが激しかった。	園児一人一人の様子を捉え、特に固定遊具で遊んでいる時にはケガにつながる動きがないか近くで見守る。	3.個人活動中・見守りあり		特になし。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)		2.対象児の至近で対象児を見ていた	本児の遊ぶ遊具の横で、見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊具の反対側や、園庭の他の遊びの子どもたちと遊んだり、見守りをしたりしていた。		園庭での活動の時には、一人でも多くの保育士が出て児の動きを見守るようにする。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8697	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75	5	12	16	7	21	14			17	15	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	遊具の正しい使い方について、指導、確認	事故予防について職員研修を行い、共通理解を深めるとともに、遊具の正しい使い方を子どもたちと一緒に再度確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/使用時		点検時以外でも、職員間で気づいたことは情報共有している。今後も徹底を図る。	1.集団活動中・見守りあり		戸外での安全確認を保育士間で連携し、徹底する。子どもの発達に応じた遊具の使い方を職員で研究協議する。	1.いつもどおりの様子であった		2.対象児の至近で対象児を見ていた	登り棒の下で、本児を含め周辺の遊具で遊ぶ数人の活動を見ていたが、保育室へ入る時間となり他児に片付けを促すため目を離した直後、本児は再び登り棒に登り落下した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	支援を要する児童の対応をしており、見ていなかった。		遊具の安全な使用方法を子どもに伝え、その都度、声掛けをする。	
8698	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃〜夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	30									18	18	3歳	1.男児		7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	園内ということで、保護者も安全であるという意識がある。	事故原因を全職員で共有し、保護者と帰園時であっても走り回るなど危険なことなど声かけを全体でする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保護者と一緒に登降園する時などは、子ども達も走らないなどの中を聞かず制止出来ない姿がある。	ホールと通路が一緒になっているので、登降園には職員が立ち声かけをしていく。	7.その他	園内ということで、保護者も安全であるという意識がある。	保護者にも安全に対する意識を高めていく声かけをする。	1.いつもどおりの様子であった	送迎時4歳児の部屋を出てホールを走ってホール入口に向かっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	2階の保育室を出て帰る準備をして保護者監理下の状況であった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2階の保育室を出て帰る準備をして保護者監理下の状況であった。	園内ということで、保護者も安全であるという意識がある。	送迎時など日頃からホールを走らない様声をかけていたが、再度児童・保護者にも声をかけホールを走らない様声をかけていくようにする。	
8699	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	3									3	3	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	職員がトイレの入口にはいたが、トイレの中までついて行っていなかった。	オムツ交換する職員やトイレ介助する職員と分ける。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	トイレ掃除のあとだったので水分が残っていて滑りやすくなっていたのかもしれない。	トイレ掃除のあとは床の水分をしっかり拭き取り安全を確保する。	1.集団活動中・見守りあり	いつもであれば職員の内、1人はトイレ介助に入るが一緒についていなかった。	園児がトイレに行くときは必ず職員が付き添う。	1.いつもどおりの様子であった	自分からすすんでトイレに行った。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守っていたがそばについてはいなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	オムツ交換や着替えを手伝っていた。	職員がかたまることなく、安全に子どもたちを見守れる位置にいること。	オムツ交換する職員やトイレ介助する職員と分ける。	
8700	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12				8	3	1			2	1	4歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨近位端骨折・右肘関節捻挫・右肋間筋挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報提供するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備の影響はなく、改善の必要はない。	4.個人活動中・子どものみ		おやつを食べる部屋に荷物を移動させておき、片付けの際に別の部屋に行かなくてすむようにし、子ども達の行動を見守れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	おやつを食べた後、コップを片付けに自分の教室に行った際に他児と保育室のロッカーの上に登り、飛び下り滑って腕を打った。	4.対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている子ども達への声かけや片づけをしていたため、違う保育室へコップを片づけに行った児への見守りがなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	おやつを食べている子ども達への声かけや片づけをしていたため、違う保育室へコップを片づけに行った児への見守りがなかった。		事故の可能性を考え、子ども達の動きを見守る。移動や片付けのタイミングを工夫し子ども達の行動を見届けるようにしていく。	
8701	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	11									3	3	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第4趾基節骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	保護者から状況を聞いた時に自分で判断してしまい、すぐに職員室に連絡が行われなかった。	保護者から連絡をうけた時にはけがの状況に合わせ職員室に連絡するようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭の少しのでこぼこがあったりする。	つまずいたりするようなとこがないか再度確認していく。	3.個人活動中・見守りあり	こけていなくてもひっかかったりしてけがすることがあることも想定しておくようにする。	こけていなくてもひっかかったりしてけがすることがあることも想定しておくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で自由遊びをしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭で子ども達の様子を見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	周りの子ども達の様子を見ていた。	こけていなくてもひっかかったりしてけがすることがあることも想定しておくようにする。	こけていなくてもひっかかったりしてけがすることがあることも想定しておくようにする。	
8702	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	51				16	18	17			8	5	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節外果裂離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報提供するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備の影響はなく、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり		同じ場所で同時に遊び、予定よりも人数が多くなった時には、子ども達の遊ばせ方を考える。	1.いつもどおりの様子であった	園庭で氷鬼をして走っていて転倒し左足をひねる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	氷鬼以外に、かくれんぼや砂遊びなど各々で遊びを楽しんでいた為、それぞれの動きを順に見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	氷鬼以外の遊びを楽しむ子どもたちと関わっていた為、対象児の遊びへの見守りが少なかった。		事故の可能性を考えて子ども達の動きを見守る。ケガをした場合に時間の経過により症状等が表れることもあるため、ケガをした部位の変化にも注視していく。	
8703	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									4	1	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨遠位端剥離骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報提供するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備の影響はなく、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり	慌てて逃げるために、禁止している土管からの飛び降りをしてしまった。	土管から飛び降りないように子ども達に伝える。	1.いつもどおりの様子であった	逃げるのに一生懸命だった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育士は全体を見るために端の方から見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	保育士は一緒にゲームをしていた。	2時から3時の間休憩なしでドッジやバナナ氷おになど遊びが続いていたので疲れが出ていたと思われる。	休憩も取り入れ、子どもの様子をみながら遊びを進めていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8704	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	30									3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足関節骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		事故が発生する可能性について職員間で共有する子どもたちへの安全に関する職員の意識向上を図る	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		日常の子どもたちの動きへの留意	1.集団活動中・見守りあり		活動内容に合わせ、事前に準備体操をする	1.いつもどおりの様子であった	通常通りに登所・特に変わったことはなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	とび箱の側に付き、一人一人の子どもに声を掛け、跳ぶ様子を見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	担当保育士の後ろで、とび箱を跳び終わった子どもに対し声を掛け様子を見守っていた。担当保育士とは反対側で、跳び終わった子どもの側で声を掛け見守っていた。		移動遊具（とび箱）を使用する際の注意点や、立ち位置等職員間で共有する	
8705	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	11									1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(毎朝)回/年	2.基準配置	助走に勢いがあり、子どもの身体を受け止められなかった	補助する立ち位置を確認してから始める。(跳び箱の横に立ち、手を伸ばせば子どもの胸の辺りに届く位置)	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	跳び箱、ロイター板、マットの点検	跳び箱、ロイター板、マットの備品を正しく設置し、周囲も確認し十分なスペースを確保する	1.集団活動中・見守りあり	勢いよく跳びすぎ跳び箱の手を突く位置を超えてしまった	助走の勢いに負けて転落しないよう、子ども自身の体重を支える腕の力、腕を軸にして重心移動が出来るよう段階を踏んで進める	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	跳び箱が跳べる自信から他児に見せる為、張り切っていた	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	勢いが有り跳び箱を超えてしまい、身体を支えたが肩から落下した	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	泣き声に気付き状況確認し、他児を座らせ落ち着かせる。	跳ぶ前には健康状態を把握し、環境を整える	子どもの様子や状況を確認し、跳ぶ前には必ず危ない使い方などルールを決め説明してから始める	
8706	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									1	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右手薬指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		事故が発生する可能性について職員間で共有する子どもたちへの安全に関する職員の意識向上を図る	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		日常の子どもたちの動きへの留意	1.集団活動中・見守りあり		安全確認と子どもたちへの見守りの強化	1.いつもどおりの様子であった	通常通りに登所・特に変わったことはなかった	2.対象児の至近で対象児を見ていた	おやつ後の清掃等をしながら子どもたちに帰りの準備の促しをしていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	事故が起こった時、本児の近くにいたため状況を確認し、職員室に報告した		安全確認と子どもたちへの見守りの強化	
8707	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	4									3	1	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左第２趾末節骨骨折左第２趾挫傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1.2)回/年	2.基準配置		事故マニュアルを、全職員に周知する事と事故予防に関する研修を通して全職員における事故予防の意識を高める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(通期)回/年		建付けの問題もあり、保護テープを貼るなどの対策が出来ない為、声掛けでの改善策としている。	7.その他		慌てずに、周りをよく見て歩くことを再度指導する。	1.いつもどおりの様子であった	骨折をしていたが、園では走ったりいつもどうりの姿であった。降園して自宅の風呂に入っていた際に疼痛を本児が母に伝えた。	4.対象児の動きを見ていなかった	目撃した保育士はいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	見ていなかった。		延長保育の時間帯でもあり、人の出入りも多いため落ち着いた環境で過ごせるよう声掛けしていく。慌てずにトイレに行くことがないように、適宜園児たちにはトイレ誘導をしていく。	
8708	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	47									18	18	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右くるぶしの剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	2.基準配置	子ども達が遊んでいるところを見守ってはいるが、職員の立ち位置を見直す必要があった。	事故原因を職員全員で共有し、子どもたちの食後の過ごし方や遊び方など見直していくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	遊ぶコーナーの配置（物的・人的）の仕方。	遊ぶコーナーの配置（物的・人的）の見直し。	1.集団活動中・見守りあり	給食後の自由遊びで、友だちとポルカの動きをして遊んでいた。転んだ時に違和感があったものの担任には伝えることがなかった。	給食後は落ち着いて遊ぶように子どもたちにも伝えていく。また、転んだり何か起こった時には、子どもたちが自己発信できるような保育をしていくようにする。	1.いつもどおりの様子であった	給食を食べた後、片づけをして好きな遊びを見つけて遊ぶ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	食べ終わった後に遊んでいる子どもたちを見守り、一緒にブロックやカルタで遊ぶ。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食を食べている子どもと終わった子どもをわかれて子どもを見ている状況。	本児がバランスを崩したが痛がる様子がなかったが、注意深く子どもの様子を見守ることをしっかりと行っていく。	給食後ということもあり、落ち着いて遊べるように環境の設置や配置を十分に行うようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8709	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	33									6	5	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第4指中節骨々折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員間で今回発生した事故について情報提供するとともに、事故の状況を分析し、再発防止に努める。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		今回の事故に関して、施設・設備の影響はなく、改善の必要はない。	1.集団活動中・見守りあり		活動を実施する際には、園児に注意点を伝え、準備体操も行う。普段の保育の中から跳び箱に慣れていくようにする。一人ずつ動きを確認し、事故の危険性について意識を持っておく。	1.いつもどおりの様子であった	運動会に向けて、対象児は意欲的に取り組んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	マットと跳び箱の境目辺りの位置で、跳び箱をとび越える姿を右側から危険のないように見守っていたが、対象児がとび越える際、とび越える瞬間の姿勢や着地の際の危険がないように見守っていた為、対象児の手の動きを注視していなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	跳び箱と鉄棒を続けて順番に練習していた為、跳び箱以外の所にいた職員は、跳び箱に取り組む対象児の動きを見ていなかった。	特になし	事故の可能性を考え、子ども達の動きを見守る。	
8710	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	15				4	5	6			2	2	5歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	ダイナミックな動きになることが予想できたにも関わらず、事前に靴下を脱がせ忘れていた	必ず靴下を脱がせてから活動する	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	動物（トラ）になりきって遊んでいたため、気持ちも高揚し、動きもダイナミックであった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	約５０cmの高さからのジャンプで床にマットを敷いており、マットが動かないよう立って押さえていた。着地時すぐに助けられる状態ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児が並んでいる列についたり、配慮を必要とする子どもと一緒に活動していた。	本人の運動能力を把握していたのに、それに合った補助はしていなかった。（一回目のジャンプの着地も不安定だった）	不安定な着地でもすぐに手をだせるように心構えや体制を整えておく。	
8711	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	5	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	21									3	3	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯上2本外傷性歯牙破折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(３～６)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	天候が雨で湿度が高く廊下が湿気ていたと思われ,廊下全体には滑り止めマットを敷いていたが、部屋の入口まで敷けてなく、その確認が不十分だった。	安全確認をし、その都度丁寧な対策をとる。	1.集団活動中・見守りあり	該当児童が廊下に設定をしたトランポリン遊びから室内遊びへの移行時に、早く行きたい気持ちが強かったように思われるが、室内と廊下の段差・ゆっくり移動するなどの安全面の言葉がけがなかった。	子どもの行動を予測しながら言葉がけをする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	トランポリン遊びを楽しんでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	当該児童の様子を見守れる場所にいたが、止められなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内と室外に分かれて遊びをみていた。	遊びに入る前に遊びのルールを全体に伝えているが、その場の該当児童に該の状況に応じた言葉がけがなかった。	児童の状況を把握し、安全に気を付ける言葉がけをする。	
8712	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	24									1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	2.顔面(口腔内含む)	鼻骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	職員が安全管理に関するマニュアルを確認できていなかった。	全職員で安全に関わるマニュアルを定期的に見直し、事故予防に関する研修を定期的に行っていく。	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(48)回/年	見守りがない状況で当該児童がうんていに登っていた。	子どもたちがうんていで遊んではいけない時には登らないなどの貼り紙をする。	1.集団活動中・見守りあり	当該児童が集中できずに遊びだしていた。	狙いを持った活動を行い、遊び始める前に約束をするなど遊び方を工夫していく。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	鉄棒をするために並んでいたが、並んでいる列の隣にあった、うんていに登っていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の子どもの鉄棒の練習に付き添っていたため、当該児童の動きを見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人担任であるため、担任以外に当該児童の動きを見ていた職員はいなかった	鉄棒をしている間、当該児童から目を離していた。	集団活動中に、抜けている子どもがいないかなど常に人数確認しながら、危険な行動を予測して指摘できるようにする。	
8713	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	9									1	1	6歳	1.男児	前日夜、自宅にてベッドから落下し右上腕部外側に打撲と裂傷を受傷してきており、登園時に保護者からその旨の引き継ぎがあり、当該児童も少し元気のない様子だった。負傷した腕を気にしている様子が覗えた	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	室内で走る行為を取り入れた集団遊びをおこなってしまった	室内という環境に適した集団遊びを考える	1.いつもどおりの様子であった	前日の家庭でのケガがあったものの、対象児が熱望して始めた遊びだったので、いつも通り元気な様子で遊んでいた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	見守りながら、速く走らないようになどと声かけをしつつ見守っていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	事故の際、保育士は１名だった	前日に家庭で負傷してきている状況であったが、本児が熱望したので、遊びをしてしまった	子どもの希望を受け止めることもよりも事故の防止を考えて今後はあそびの内容を配慮する	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8714	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	10	2. 午前中	1. 施設敷地内(室内)	6. 5歳以上児クラス	18									1	1	5歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	粉砕骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(1～2)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	机の下に椅子を直して机の横で着替えていたが、椅子がまっすぐ入っていなかったため、体が当たった際に椅子が倒れそうになったのを止めようとして、ケガをしたと考えられる。	着替えを含め席から立った際には、正しく椅子を直すよう、習慣をつける。	1. いつもどおりの様子であった	他児と同様、自席にて服を脱ぎたたんでいた。	4. 対象児の動きを見ていなかった	全体の動きを観察しつつ、シャワーを先にする児童数人を出入り口付近で誘導していた	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	一人担任であるため、担任以外に当該児童の動きを見ていた職員はいなかった	特になし	1人担任で全体を見渡す場所にいたため、特に問題はないと思われる。	
8715	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	8	1. 朝(始業～午前10時頃)	1. 施設敷地内(室内)	7. 異年齢構成	10				6	2	2			2	2	4歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右環指基節骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(3)回/年以上	2. 基準配置	マニュアルを行動化できていなかった	マニュアルの内容、発生時に各々が行動ができるように実施研修を充実する。	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2. 不定期に実施	実施頻度(12)回/年以上	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	走り回る園児もいて落ち着きのない状態であったため、トラブルがおこりやすい環境であったと考えられる。	園児たちが落ち着けるように、走っている子どもには、一緒に遊んだり座って落着いて遊べるよう働きかけていく。	1. いつもどおりの様子であった	健康観察表と口頭で保護者と健康等に変わりがないことを確認する。	4. 対象児の動きを見ていなかった	子どもを見ながら保育室のことや保育の準備、連絡帳の確認などを2人の職員が同時に行っていた。走り回っている園児に対し口頭で制止を行った。ぶつかったのは本児が泣いて気が付く。その時両手を後ろについて膝を立てた状態でいた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	上記と同様の動きをしており、子どもの見守りを分担することなく、本児が泣いて気が付く。	室内で子どもが走りまわるなど落ち着きのない状態をすぐに止めさせることができなかった。また、2人いる職員間で、安全管理の分担がスムーズでなかった。	2人同時に業務を行うのではなく、お互いが声をかけながら意志をもって見守りを実施する。	
8716	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	47					22	25			2	2	5歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	降所時間に近くなり、児童全体の気持ちが浮足立つ姿が見られたので、遊びを止めて話す機会をつくったが、その後の姿は変わらなかった	児童の姿が改善されない時は、気持ちを落ち着かせる時間を設定する	3. いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	友達と走りながら気持ちは高揚した状態だった	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	4歳児担任が所庭全体を見渡し、ぶつかった瞬間を見ていた	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	降所時間に近いので保護者の対応を行っていた	職員間の連携をとりながら所庭の遊びを見守っていたが、保護者対応にあたる職員もいたため遊びに応じた保育士の配置場所、人数が不足していた	保育士の配置場所を考慮した遊びの種類や遊び方を決めるなど、職員間の連携を密にとるようにする	
8717	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	9	7. 午後	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6. 5歳以上児クラス	23									4	4	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足脛骨骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(1)回/週	1. 定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1. 集団活動中・見守りあり	子どもたちが砂場で遊んだ後の穴がそのままになっていた。	今後も砂場は足元が悪いので、落ち着いて行動をするように伝えると共に、大きな穴については片付けの際に埋める。	1. いつもどおりの様子であった	とくに変わりなく元気に過ごしていた	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	砂場にシートをかけて玩具を片付けながら、くぼみがあるので気をつけるように声をかけていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	竹馬に取り組む子どもの補助や、他の子どもたちと片付けなどを行っていた。	担当職員はくぼみがあることを子どもたちに伝えていたが、埋めて事故が起こらないようにするなどの配慮に至らなかった。	危ない部分があると気付いた時点ですぐに対応する。日ごろから事故防止の意識を高く持つよう努める。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8718	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	25				10	13	2			2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左ひじ上部骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(5～6)回/年	1.基準以上配置	活動時、配置していた職員２名のうち１名は園児につき、もう１名は全体の見守りについていたが、降園時間でもあり保護者の対応も行っていたため全体を見守れない時間があった。	可能であれば職員数を増やすなどの対応を行い、必ず１名は全体の見守りに当たれるように配置していく。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	3.未実施	実施頻度(0)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	限られたスペースの中で、異年齢活動で鬼ごっこのように体を動かす保育を行う場合の配慮がより必要であった。	スペースを確保するため、１度に活動する人数を分け、グループを決めるなどの対策を取っていく。	1.集団活動中・見守りあり	通常の１クラスの人数より多い人数となり、また異年齢での活動である為、こども達の動きに合わせた活動内容を適切に行う必要があった。	大型遊具などがない分、活動スペースが広がる為、走るスピードが通常より速まったり動きが大きくなるなどのことが予測されたので、活動内容によりコーンを使用し場所を分けて活動していく。	1.いつもどおりの様子であった	体調も問題なく活動していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園児と一緒に遊びにはいりながら他児も見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園児が全員見渡せる場所についていた。	園児の見守りを行っていたが、保護者に申し送り等があり、子どもたちの動きを察知しづらい部分があった。	その日の申し送りの内容や配置の人員、子どもの人数に応じて立ち位置なども考慮していく。	
8719	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	18									3	1	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	保育計画を立てる際に事故の可能性を考えるべきだった。	安全マニュアルの再確認/保育計画を立てる際に、事故の起こる可能性はないかよく検討すること。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	施設外の公園で発生した事故のため、ハード面での要因はない。	引き続き子どもたちの様子をしっかりと見守り、事前に危険なものはないかを確認する。	1.集団活動中・見守りあり	落ち葉拾いを行う目的で公園に行ったが、子どもたちの年齢を考えると少し早い計画だった。公園へも下見に行くべきだった。	今後事故の起こった台の近くに職員が必ず立ち、登ろうとする園児を制止する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から落ち着いた性格で、保育室内で走り回ったりする様子はなかった。事故当日も登園時普段と変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見渡せるように、広場の中心に立っていた。対象女児が台の近くになっていることは確認していたが事故の瞬間は見られていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象女児の近くに立っていたが、ほかの園児の様子を見ていたため事故の瞬間は見れていなかった。	子どもたちが公園内の様々な場所に行ったため、見守る目が足りていなかった。	公園内で遊ぶエリアを決め、事故に繋がる可能性のある場所やものには近寄らないように工夫をする必要がある。	
8720	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28					14	14			1	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		職員配置を話し合い、外遊びも複数で見守るようにした。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	側溝蓋の上が雨上がりで滑りやすいのではないかという危機意識が薄かった	危険箇所の環境整備	1.集団活動中・見守りあり	水たまりの残る園庭で、範囲の指定なく鬼ごっこをした為	園庭の環境整備をする。遊びに適した環境整備を行う。	1.いつもどおりの様子であった	友達と鬼ごっこ中に側溝蓋の上で滑って転倒	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊び全体を見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	散歩の引率と室内遊びの見守り	複数人数での見守りが連携不足で、できていなかった。	鬼ごっこをする時は、範囲をきめる。複数人数での園庭見守りと、職員の立ち位置の確認を行う。	
8721	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	19									4	3	2歳	1.男児	特にありません。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎両側乳中切歯外傷性歯牙破折・脱臼下口唇裂傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	子どもをよく見るように気を付けていたが目を離した。	想定外の事が起きても慌てないように日頃から訓練を行い保育室を点検する。ケガの発生後は会議を行い、他クラスは事故報告書を回覧して情報を皆で共有する。	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	転んだ所に絵本棚があった。絵本棚については、安全に配慮して面取りをしたものを購入し、コーナーに設置しているので場所も適切だった。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	躓くなど、転ぶような物は何も無かった。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わりなし。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	転んだ瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	朝の受け入れや排泄介助をしていた。	慌ただしい時間なので子どもの見守りが不十分で、転んだ瞬間を見れていなかった。	予期せぬ事から怪我に繋がるため、子どもの様子をよく観察し声掛けなどを行って、落ち着いて保育をするよう心掛ける。	
8722	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	16									4	3	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	捻挫→後に骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度()回/年	1.基準以上配置	布団での遊びの１つとして、１歳児が行うには危険な行為だったと思われる。	１歳児の遊びとして適切だったのか再度確認をし、職員内で話し合いを行った。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	布団での遊びの１つとして、１歳児が行うには危険な行為だったと思われる。	事前にどんな遊びをするのか確認を行い、保育士全員でお互いに意見を出し合い、少しでも危険だと思われる行為はやめるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	室内遊びを楽しんでいた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	本児の前にいて、尻もちをつかせる遊びを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	長く敷いた布団に対して等間隔で保育士を配置し、子どもを見守っていた。	補助に園児を支える保育士をつけていなかった。	園児を支える保育士がもう一人補助に入る。遊びの内容に対して職員配置について考える。	
8723	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	22					14	8			3	3	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	亜脱臼（前歯）	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	各グループ間は十分スペースを確保しており、密集状態ではなかった。	引き続き自由遊び時には活動可能な十分なスペース確保をこころがける	1.いつもどおりの様子であった	立ち上がって移動しようとする際に一緒にブロックをしている園児の足に引っかかり転倒した。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	上記各グループを全体的に見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子供と遊んでいた	特になし	そばに保育士がおり、密集した状態でもなかったため、特にないと思われる。	

| No | 概要 | | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8730	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	12									3	3	2歳	1.男児	生まれつき関節が柔らかく歩行に少しだが支障をきたすため、A病院に定期的に通院している。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	特別な様子はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで見てはいたが、転んだ時に体を支えたりすることはできなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れたところで、他の子ども達を見ていたが、転ぶところは目に入った。	特になし	そばで見守る職員がいたため、人的環境に問題はないと思われる。	
8731	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	3.2歳児クラス	5									3	3	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯脱臼	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	雨上がりなど園庭が凹凸している所があった。	定期的な整地の必要がある。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	連休明けということもあり、横を向いて走っていて気持ちが高ぶっている様子だった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の園児がすべり台で遊んでいるのを側で見守っていたため、対象児の近くにいなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の園児と遊んでいたため見ていなかった。	広い園庭の中、保育士の目が十分行き届いていなかった。	担当の保育士が注意して見守る。担任間で子ども一人ひとりの遊びの様子、注意点を周知し合う。	
8732	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	105				35	35	35			8	7	6歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肩あたりの骨折・すり傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	自由遊びの中の出来事で、各々好きな遊びに集中していたため、周囲に気づけなかった。	鬼ごっこなど走る遊びには場所、範囲を定めるなど、ぶつかり合うことのない様、ルール作りを行っていく。	1.いつもどおりの様子であった	前を見ないで移動することがある。	4.対象児の動きを見ていなかった	活動の変わりめで全体誘導を行っていたので本児の様子はみていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊びを継続している子の対応や自分のクラス児童の誘導を行っていた。	全園児が園庭に出て自由に遊びはじめた。	職員の全体配置を決めて、走っている子には特に目をくばり、気をつけるよう言葉がけをしていく。	
8733	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	28				6	13	9			2	1	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右肩鎖骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(３～４)回/年	2.基準配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	長時間の時のルールが統一されていない。	職員間で長時間の時のルールを再度確認し、子ども達にも伝える。	1.いつもどおりの様子であった	何事に対してもせっかちになることが多い。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	テラスに座りに行こうとする姿を確認した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂場辺りに残っていた子どもをテラスへ誘導していた。	早く座りたい場所があり、いそいでしまっていた姿をみて、声かけができていなかった。	方向転換する子とぶつかるなど予期せぬ動きを子どもたちはするので、そのことを想定しながら見守る必要がある。テラスへ座りに行く際は、クラス単位で動くようにし、子どもたちには前を向いて歩くなど声掛けを必ず行う。	
8734	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	65				20	20	25			3	2	6歳	1.男児	特記事項なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2～3)回/年	1.基準以上配置	対象児を含むドッジボールの様子は園庭に配置していた各職員は把握していたが、本児が転倒した瞬間を見ていた職員はいなかった。そのため、入室後の本児の異変が、転倒による痛みからくるものであることに結びつかず、骨折に気づくことが遅れてしまった。	様子がおかしい時は、発熱、腹痛を疑うだけでなく、身体に直接触れて痛みなどがないか確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特記事項なし	担任の確認だけでなく、他クラスの職員による点検をすることで、見落としに気づいていけるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	基準を下回る職員配置はしておらず、園内で周知している園庭の配置に従い、全体の様子を把握できるようにしていたが、職員が途中で入れ替わっていた事と、危険察知の視点で見る事、またその後の確認の仕方が十分でなかったため、ケガの発見が遅れてしまった。	時差出勤で職員が入れ替わる時は、その時の児童の様子を丁寧に引継ぐ。また、児童の様子が通常と違う時には、身体を直接触り、発熱、痛み等がないか丁寧に確認を行うことを全職員に周知する。	1.いつもどおりの様子であった	園庭でドッジボールをしている時は、いつもどおり元気で最後まで参加していたが、入室後元気がなく涙目になっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ドッジボールに参加していることは、把握していたが、転倒の瞬間は見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭にいた他の職員も対象児がドッジボールに参加していることは把握していたが、固定遊具について見守りをする等それぞれの持ち場で安全確認をしながら、全体の動きも見ていた。	ドッジボールをしている児童をそれぞれの持ち場から職員は見ていたが、ボールを複数名で拾いに行く時などは転倒や接触の危険があるので、遠くからの見守りであってもそのような状況が起きそうな時には、注目して見る等見守り方の視点が欠けていた。	安全確認の方法をや危険を事前に察知する視点を全職員で確認する。	
8735	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	7.午後	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	9									4	4	3歳	2.女児	特記事項なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	骨折(左足母指第一末節骨)	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特に該当するものはない。	2歳児の職員配置の基準を満たしており、対数的な問題はない。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	3.未実施	実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特に該当するものはない。	上記の理由により、該当なし	3.個人活動中・見守りあり	普段は午睡後に布団のシーツ外しはないが、受傷した日は布団のシーツ外しをしていたため、十分なスペースが確保できていなかった。	午睡後は起きた子の布団からシーツを外し布団を速やかに片づけ、安全に遊ぶことができるスペースを十分に確保する。	1.いつもどおりの様子であった	普段から落ち着いて行動できる子で歩行もしっかりしているが、他児が遊んでいた電子レンジが気になりそこへ行こうとした時に左足を痛めたようだが、保育士はその状況を見ていなかった。その後本児は変わりなく過ごしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	いつも落ち着いて行動できる子のため、自由遊び中骨折に至るような怪我をする予測ができなかった。担当保育士は他児2名のトイレ引率から帰ってきたところで、よく見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くにいた保育士は本児の傍でシーツを外していたが、左足を痛めた時に転倒や痛がる様子がなかったため、受傷したことに気づかなかった。保育士1名は他児1名のトイレ引率に行っていたため見ていなかった。他保育士は本児に背を向けたかたちで他児2名に本の読み聞かせをしていたため見ていなかった。	シーツ外しの日だったため、いつもより子どもから目が離れていた。	午睡後の布団のシーツ外しは保育士が起きた子どもの所から順次布団を外し、また保育士同士で声かけを行い、どの子どもにも保育士の目が届くようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8736	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	3.2歳児クラス	12									3	3	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	前歯２本破損	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		実施頻度()回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	体のバランスをとりにくい遊具だったのでバランスを崩し顔面を打ち付けた。	子どもが安全に遊べる遊具であるのかを複数保育士で確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	戸外に出ると楽しくなりはしゃいでしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	観ていたがうごきをとめられなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもを見ていた	特になし	そばで見守る職員がいたため、人的環境に問題はないと思われる。	
8737	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	6	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	20									3	2	3歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左腓骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	特になし	マニュアルあり、研修実施、配置基準を満たしているため、特になし	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	特になし	施設。遊具・玩具の安全点検は定期的に行っているため、特になし	1.集団活動中・見守りあり	特になし	活動中、見守り体制があったため、特になし	1.いつもどおりの様子であった	雲梯を行っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	当該児童を視野に入れながら、他児とボール遊びをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	滑り台で遊んでいる子どもの見守り。	雲梯で遊ぶ当該児童のそばに保育士がいなかった。	雲梯に保育士配置。いつも遊んでる遊具であっても、どんな危険があるかを考え子どもを見守る。また、保育士の数で見切れない場合は遊ぶ場所を限定する。	
8738	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	8	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	15									2	2	5歳	1.男児		6.水遊び・プール活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手首骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	保育・教育を行うにあたって、園児たちへの声掛けや立ち位置など、移行期の順序が上手くできていなかった。	保育・教育を行うにあたっての研修を行い、職員に周知を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年	普段、使用しない固定遊具付近で水遊びを行っていた。	安全に遊ばせるための声掛け、立ち位置など、再確認し、実行していく。	1.集団活動中・見守りあり	保育場面の移行期に、保育教諭と園児との距離ができてしまっていた。	園児が移動する際に予測される行動や事故から、保育教諭の立ち位置を決め事前の園児への声かけを意識して実行する。	1.いつもどおりの様子であった	バス登園時から、良好で、元気に水遊びを楽しむ様子があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	水遊びを終了し、他の園児を、誘導中であった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	移動していく園児たちを見守りつつ、残りの園児、本児を見守っていた。	保育場面の移行期の保育教諭の立ち位置が、留意できていなかった。	保育場面、また移行期でも、保育教諭の立ち位置を明確にしておくとともに、声の掛け合いを行い、園児をしっかりと見守る。	
8739	令和6年3月4日	1.認可	4.地方裁量型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	71	0	0	3	20	18	30	0		5	4	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員配置について、人数だけでなく場所やクラス担任なども考慮する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	側溝には蓋・グレーチング等の転倒予防対策は取られていなかった	排水の妨げにならないような蓋を設置することの提案	3.個人活動中・見守りあり	バスの運行や行事リハーサルの準備でいつもと違う人員配置だった	各担当場所の園児の動きをよく確認し、危険な場所で遊んでいる場合は声をかけて遊ぶ場所を変えることも必要	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ園庭にはいたが、別の５歳児とサッカーをしていたため当該園児が転倒したことには気が付かなかった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員が近くにいたが、年少クラスの子どもと遊んでいたため当該児の動きをずっと見ていたわけではなかった	特になし	いろいろな遊びを展開する子どもたちの様子をよく把握し、危険がないかを確認したうえでの見守りを行う	
8740	令和6年3月4日	1.認可	4.地方裁量型認定こども園	9	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	71	0	0	3	20	18	30	0		5	4	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右示指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員配置について、人数だけでなく場所やクラス担任なども考慮する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	柵には触らないようには言っているが固定等は行っていない	改めて柵には触らないように園児に周知。	3.個人活動中・見守りあり	行事のリハーサル終了後でほっとした気持ちから気が緩んでいることがあったかもしれない	各担当場所の園児の動きをよく確認し、危険な場所で遊んでいる場合は声をことも必要	1.いつもどおりの様子であった	いつもと変わらない様子で遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	同じ室内にはいたが、別の作業をしており当該園児が転倒したことには転倒時の物音で気が付いた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	給食当番の準備をしていたり、別の園児と遊んでいた	特になし	いろいろな遊びを展開する子どもたちの様子をよく把握し、危険がないかを確認したうえでの見守りを行う	
8741	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	18		6	5	7					4	4	1歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	擦過傷	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置	トラブルが起きたときに保育士が離れた場所にいたため、2歳児が『取らないで』を意味する「やーめーてー」という言葉に保育士が気付かず、危険な行動を止めることができなかった。	職員間で声をかけ合い、連携をとりながら死角がないように職員の配置も工夫する。また、トラブルが起きたときにはすぐに保育士が仲介に入り、危険な行動を未然に防いでいくようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		一つの遊具・玩具に集中してしまわないように十分な数を用意したり、選んで遊ぶことができるような遊びの種類の工夫をしたりする。	3.個人活動中・見守りあり		3歳児が1，2歳児と合流する時間を従来より遅くし、夕方の一部屋に集まる人数を減らすことで、落ち着いた雰囲気の中で遊ぶことができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いろいろな人や物に興味を持ち始め、関わろうとしている。友達が遊んでいて楽しそうにしていると、近づいたり使っている物を触ったりしている。	4.対象児の動きを見ていなかった	他児と関わっていたため本児の動きを見ることができていなかった。また、離れたところにいたためトラブルが起こったときにすぐに止めに入ることができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1～3歳児が合同になったばかりで全体に目が行き届いていなかった。また、職員間の声掛けも十分ではなかった。	よく他児を噛んでしまう子ども、よく噛まれてしまう子どもに目が向いていたため、トラブルへの気付きが遅くなったと考えられる。	職員間で言葉を掛け合い、誰がどこを見るのか、子どもが何をしているのかなど、その都度情報の共有をしていく。	
8742	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	2.1歳児クラス	10									2	2	2歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	左前歯陥没	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		ヒヤリハットの活用を徹底していく。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		足を使った運動あそびを多く取り入れていく。	3.個人活動中・見守りあり		フローリングの面にマットを敷く。	1.いつもどおりの様子であった	元気な様子で登園する。検温３６．７度	2.対象児の至近で対象児を見ていた	歩いて移動していた時に転倒するが、手を差し伸べたが間に合わなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	同保育室の各コーナーで見守りをしていた。		今後は、両手に玩具を持った状況で歩かないよう一緒に座って遊ぶようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故月	発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8743	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	16					8	8			2	2	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	転んだ時に咄嗟にうまく手をつくことができなかった。	転んだ時の適切な手のつき方が身に付くよう意識して運動遊びに取り組む。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		不要物が落ちていないか確認すること。子どもの導線からぶつかりそうな物やつまづきそうな物がないか点検すること。	1.集団活動中・見守りあり		外遊びの時間帯は子ども達の活動も様々であるため、担任および周囲の職員全員で子ども達を見守る体制をとる。	1.いつもどおりの様子であった	外遊びの準備をし（靴を履き帽子をかぶる）階段を降り園庭へ出る。その後遊び始めようと駆け出した。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭でそれぞれ遊び始めるクラスの児童を全体的に見ていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で遊んでいる子ども達を全体的に見ていたため、児の様子に気づき声をかけた。		夕方の外遊びの時間帯は他クラスの児の活動も把握し、危険のないよう環境を整える。	
8744	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									1	1	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	集団での活動が苦手な子ども（A児）がいる為、平時は2名の保育士で13人の3歳児を保育している。この日A児が屋上に行くことを頑なに拒みA児と保育士一人が残り、もう一人の保育士が12名の3歳児を屋上で保育した。	「事務職員に屋上に上がって保育補助をしてもらう方が良かった」と思われるので今後はそのように改善していく。	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(24)回/年	特になし	屋上は少しだけクッション性の有る塗料で塗装しており、特にハード面で問題があるとは思えない。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ禍でも体操教室や外遊びを充実させるよう努力したが、変異株が子どもにも感染すると言われた今年の夏、マスクを付けた子どもを長時間戸外で遊ばせる事が出来ず、運動能力が落ちていると考えられる。	運動能力が落ちていると考えられるので、子どもの状態に合わせて体を動かす活動を多く取り入れる。	1.いつもどおりの様子であった	朝元気に登園し、いつも通り屋上でもボールをバウンドさせて取る遊びをしていたが、ボールを置いて友達の傍に行こうとしてたまたまバランスをくずして転倒してしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全園児が見渡せる屋上の入り口付近で、ボールをバウンドさせて取る遊びをしている子どもを見守っていた。	障害の認定は受けていないが配慮の必要な子どもが1人、屋上に上がるのを嫌がったので、保育室で個別対応をしていた。	屋上に保育士一人の為、他の職員なし	特になし	保育経験のある職員が担当していたが、休み明けで有ることを十分に考えて砂遊び等の外遊びをする。（本園では休み明けは子どもが休日の疲れから注意散漫になる為、散歩は控えているが、園内での外遊びは禁止していなかった）	
8745	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	35				12	12	11			3	3	5歳	2.女児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足関節外果骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		再発防止に向けて職員間で検討し、共通確認をする。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年		タイヤを３～４列に配置しており、幅が広くなるため、危険な場面ですぐに援助できない。自由に遊ぶときは、2列の配置にしすぐに援助できるようにする。	3.個人活動中・見守りあり	安全のためにタイヤを高く積まないようにしており、本児が使用している時は、すべて1段で平坦だったため、タイヤ近くで登園児の受け入れをしていた。	子どもたちにもタイヤの使い方を知らせていき、１段でも油断せず見守る。	1.いつもどおりの様子であった	タイヤの上で、繰り返しジャンプしていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の近くで見守りをしていたが、１段で跳んでいたため、大丈夫だろうと思い、近くで登園児の受け入れをした。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子たちの見守りをしながら、別の登園児の受け入れをしていた。		タイヤ一段でも今回のような事故につながるので、保育士が側に付き安全確認を行う。	
8746	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	64	0	0	5	19	23	17	0		7	7	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	剥離骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	コロナ禍にあり子供の活動量が減少しているのではないかと思われる。	戸外遊びや園外保育で日ごろから体を動かす遊びを行っていく。また活動的な遊びを行うときは、事前に柔軟性を高めておくよう配慮するとともに、遊んでいる子供の動きに十分注意を払う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	業者による園庭整備も行われており、園庭地面には特に凸凹等、転倒の要因となるものは見つからなかった。	週１回保育所職員が行っている園庭整備を今後も継続して行い、子供が安全に遊べるように十分注意する。	1.集団活動中・見守りあり	地面が乾いていたので、子供が足を滑らせないよう水を撒いてから遊びを始めた。	今後も、滑りにくくするために地面が乾いているときは、よりこまめに水を撒く。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態は良好であった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	集団遊びが行われているすぐそばにおり、子供たちの動きを見守っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	少し離れた場所にいたため、事故が起きたときは目を離していた。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲を広げていくことが求められる。	職員間の連携を深め、保育士自身の見守りの範囲を広げていくために、職員間での声の掛け合いを増やしていく。	
8747	令和6年3月4日	1.認可	4.地方裁量型認定こども園	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									4	3	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨近位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		職員の配置は問題なく行うことができていても、不意な子どもの動きは見逃さないように職員間で周知、徹底する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		転倒のきっかけになるような石などがないか、遊び前に環境を確認する。	3.個人活動中・見守りあり		行事と通常保育の気持ちの切り替えができるように、子どもたちにきちんと説明するなどの関わりを持つ。	1.いつもどおりの様子であった	いつもより遅い時間に登園し、その日初めて体を動かし始めたところだった。自由遊び時間でサッカーが始まる前に仲のいい年長児同士、数人でボールを蹴って遊んでいたところであった。	4.対象児の動きを見ていなかった	保育士たちはサッカーを始めようと準備に動いており、その横で数人の子どもたちがボールを蹴って遊んでいた。年長児ばかりでボールに慣れた子どもたちだったため、保育士は少し離れたところから見守りながら、他の園児に声をかけるなどして過ごしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	別の保育士とともにサッカーの準備をし始めていたところで、ボールを蹴りあっている子どもたちの近くにいて、視界の中には入っていた。	体を動かし始めたところで、サッカーをするにあたっての体と心の準備が整っていなかった。	勝手に子どもたちが動き出すのではなく、先生も交えて会話をしたり体操をするなど、次の動きに向けた準備を整える。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項
8748	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	2	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	45					25	20			5	5	5歳	1.男児	
8749	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	12									1	1	6歳	2.女児	
8750	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	12	1	2	0	4	2	3			5	4	3歳	1.男児	
8751	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	5歳	1.男児	
8752	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	8	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	24									2	2	5歳	2.女児	
8753	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	5歳	2.女児	

No	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策
8748	8.その他	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	保育・教育を行うにあたって、園児たちへの声掛けや立ち位置など、移行期の順序が上手くできていなかった。	保育・教育を行うにあたっての研修を行い、職員に周知を行う。
8749	8.その他	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足腓骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		事故予防マニュアルの周知徹底と、日頃より事故予防について、職員間で話し合う機会をもち、危険個所等の情報共有に心がける。
8750	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		今回の事例は、毎月ある職員会のヒヤリハット報告時に、もう一度事故報告し、今後の改善点をみんなで話し合った。
8751	1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左肘関節骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		特に遊具を使用する時には必ず補助するような位置にいて安全により配慮する
8752	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨端線損傷	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし(職員の配置等については問題はなかったと思われる)
8753	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位骨端線損傷	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.基準以上配置		久しぶりに出かける所は、予め下見をする。またそこの最近の状況など確認してから出かける。

No	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策
8748	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(96)回/年	ボール使用時の園庭の使い方を伝えたが、周知できていなかった。	安全に遊ばせるための声掛け、立ち位置など、再確認し、実行していく。	1.集団活動中・見守りあり	保育場面中、保育教諭と園児との距離ができてしまっていた。	園児が移動する際に予測される行動や事故から、保育教諭の立ち位置を決め事前の園児への声かけを意識して実行する。
8749	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/日	設備面には問題点や不備は見られない。	今後も、安全点検を行い、不備があれば、即対応する。	3.個人活動中・見守りあり		日頃から危険が生じやすい場所について職員間で話し合い、子どもにも注意を促すようにする。
8750	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		遊戯室の広さから、トラックを使ってのかけっこは、4歳児以上が2人ずつで走ることに決めた。	1.集団活動中・見守りあり		初めてトラックを走る3歳児に対して、担任が子どもたちと一緒にゆっくりトラックを走ってみることを事前にすべきだった。今後初めてのことは、保育士と一緒に経験してから、実施する。
8751	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年		落下予防でゴムマットを敷いてあるが、それだけで事故を防げない。人的な見守りと合わせることが必須	1.集団活動中・見守りあり		事故のリスクを常に考え、何かあった時にすぐ補助できる位置に保育者がいなければならないということ
8752	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	特になし	特になし（施設や設備が要因となるけがではなかったため)	1.集団活動中・見守りあり	相手が衣類が汚れていたため着替えて廊下にある洗濯物入れに入れて走って戻ってきたために部屋の入り口付近にいた本児と勢いよくぶつかった。	日頃から保育室や廊下は走らないよう子どもに伝え、その都度職員が見守り、声をかける。
8753	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		出かける場所の環境について、子どもたちが通るのに大丈夫か、また施設なら使用しても大丈夫かを確認する。	1.集団活動中・見守りあり	久しぶりに歩く所（斜面など）は、予め保育士がその場所を確認してから通らせるべきだった。	子どもが活動する際には、その場におけるあらゆることを想定しておくことが必要と思う。

No	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8748	1.いつもどおりの様子であった	登園時から、友達や保育教諭と会話や遊びを楽しんでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で４・５歳児の園児を５人の保育教諭で分かれて、見守っていった。他児とボール遊びをしながら、全体の様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児とボール遊びや長縄で遊びながら、全体の様子を見ていた。	保育場面の移行期の保育教諭の立ち位置が、留意できていなかった。	保育場面、また移行期でも、保育教諭の立ち位置を明確にしておくとともに、声の掛け合いを行い、園児をしっかりと見守る。	
8749	1.いつもどおりの様子であった	足元を見て歩いていなかった。日頃よりよく転ぶ。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は対象児より離れた処から様子を見ていたが、対象児が階段を突然ふみはずしたため、防げなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	それぞれのクラスで保育を行っている。		保育者は全児の動きに気を配り、危険を早めに察知し、子ども達に知らせていく必要がある。	
8750	1.いつもどおりの様子であった	はりきってかけっこに参加していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任は全体を見ながら、保育を行っていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	テープ貼りをしながら、保育の様子も見ていた。		職員全員が本児のケガについて共通理解を行い、保育所での生活が問題なく過ごせるように対応をしている。	
8751	1.いつもどおりの様子であった	特にはしゃいでいた様子ではない。鉄棒からの着地の時に保育者が側にいれば防ぐとこが出来たと思う。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体を見ようとはしていたが、結果的に防ぐことが出来なかった。遊具を使用する時の見方や援助について職員で話あっていった	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	他には気づいていない状況であった		遊具を使用する時の保育者の位置や見方について再確認していく。	
8752	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子はなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	身体計測中だったため、対象児とは離れた場所にいた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保育室内のできごとだったため、担当職員以外は見ていなかった。	身体計測中だったため、相手の園児は急いで活動に戻ろうとしたと考えられる。	日頃から保育室や廊下は走らないよう子どもに伝え、その都度職員が見守り、声をかける。	
8753	1.いつもどおりの様子であった	園外での保育で、他の子どもたちと同じようにやりたい気持ちで登っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の子どもも含め、子どもたちが登っていくのを見守っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	子どもより先を歩き、子どもが通る場所が安全かどうか確かめながら子どもたちの様子を見守っていた。		そのような活動を行う時は、保育士２人でお互いに子どもの様子をしっかり見守れる位置にいるべきだった。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8760	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									2	2	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	運動会前の時期で、運動会の時に跳び箱を跳ぶことになっており、最近跳べる異様になって嬉しくなっていた本児が、給食後も園庭のタイヤ跳びをしようとした時だった。気持ちの高ぶりもあったか、手をしっかりつかない状態で跳んでしまったと思われる。	職員配置は基準以上にしていたが、給食後に友だちと園庭に飛び出していった直後に発生しており、職員がそばについていなかった。年長児であり、自主的な行動もする年齢であるが、子どもたちは予測できない行動をとることがあるので、心身の状況は常に把握しておく事が大切である。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	園庭では、園児が転ぶことも予想できるので、浜砂を敷いている。また事故の起きたタイヤ周辺は特に砂を柔らかくしているので、転倒防止に対しての配慮はしている。	今後も予想外の転倒を予測して常に園庭の砂を敷いておく。遊具周辺の砂は特に柔らかくしておく。	3.個人活動中・見守りあり	運動会で取り組む予定の跳び箱が最近跳べるようになり、その嬉しさから気持ちの高ぶりがあったと思われる。	5才児であり、自主的な行動もするが、予想できない行動をとる事もあるので、園児の心身の状態は常に把握しておくことが大切である。	1.いつもどおりの様子であった	普段通りに登園し、いつもと変わらない様子で友達と元気に過ごしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	給食後の片づけをしながら、園庭に遊びに行った子どもたちの様子を見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの様子を見ながら、給食の片づけをしていた。	運動会に向けて取り組んでいた跳び箱が飛べるようになって、本児が喜んでいた事を担任は知っており、自主的にタイヤ跳びに向かおうとした本児の姿を評価していたが、気持ちの高ぶりを察して、少し落ち着かせてから向かうような手立ては不足していた。	5才児であり、さらに高みを目指して自主的に取り組もうとするようになるが、予想できない行動に発展する事もあるので、園児の心身の状態は常に把握し、落ち着いて向かうような手立ても必要な時がある。	
8761	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	8									1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右外踝骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置		けがをした子どもへの対応について研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約280)回/年		園庭が転びやすくなっていないか定期的に点検を行う。	1.集団活動中・見守りあり		夕方の保育士の人数の確保、すぐに対応できる距離に配置。	1.いつもどおりの様子であった	夕方子ども8名で園庭でドッジボールをしているときに転倒。対応した後再び遊びにいき、痛みを訴える。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児から2～3m離れたところで見守り、泣いている対象児の対応をする。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	それぞれの担当クラスの子どもの近くに立ち全体を見守る。		事故が起きた後、また遊びに行くと言う対象児を止め、別の遊びや室内への移動をして様子を見る。	
8762	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	6歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足中指骨折の疑い	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		危機管理マニュアルを再度整備、事故防止についての研修等にも積極的に参加し、園内研修等も実施しながら職員に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		一度に移動すると混雑するので、複数担任でもあるので少人数づつで移動する。また、年長児でもあるので、活動前後でしっかりと話をし混雑させない。	1.集団活動中・見守りあり		遊戯室での活動後の解放感もあり園児の気分も高揚しているので、十分気を付け保育者同士声を掛け合いながら、十分注意し子どもから目を離さないように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	健康状態良好	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	遊戯室から屋上までのスペースは園児の様子が見えるため、保育者は片付けをしながら園児の様子を見ている。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	遊戯室での活動であったため、遊戯室の掃除をしていた。（モップがけ）		複数担任であるから、一人は全体を見守るように、お互いに声を掛け合いながら保育をする。	
8763	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									3	3	4歳	2.女児	先天性欠歯（下顎右乳中切歯、下顎左乳中切歯）	1.屋外活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	上顎左乳中切歯歯根破折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（6）回/年	1.基準以上配置		定期的に、園、職員全体で、保育活動における安全確保についての認識を共有する。定期的に、起こり得る怪我や事故について積極的にヒヤリハット報告を行い、職員の安全管理意識を高める	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年		引き続き、施設、設備等の危険個所、破損、劣化等の点検を行う。点検箇所の確認方法や管理方法について職員間で共通化していく	1.集団活動中・見守りあり	3クラスが入り組んで複数の遊びを展開していたこと。園庭が東西に長く、一方向、または双方向に走りやすい環境であったこと	クラス間で遊びの状況を共有すること、職員間で声を掛け合い、時間やスペースを分けて園庭を使用すること。3歳以上児は、3歳未満児が同時に園庭に出ている時間帯には、鬼ごっこやリレー、サッカーなどの激しい運動は控えること	1.いつもどおりの様子であった	体調は良好で、心情面もいつも通りの様子であった。園庭では、鉄棒をしたりままごと遊びの様子を眺めたりしていた。事故発生前には、近くにいる担任保育士Bに「寒い」と言っていた	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任保育士Bは、本児も含め、数名の子どもとままごと遊びに加わったり、本児の鉄棒遊びの見守りと補助をしていた。本児が、「寒い」と訴えた際に、「走ったら体が温まるよ」と声かけ、一緒にかけっこを始めた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担任保育士Aは、子ども1名とともに個別の関わりのため職員室で主任保育士と話をしていた。フリー保育士Cは、複合遊具で遊んでいる子どもの見守りと補助をしていた。他クラスの担任保育士は自クラスの子どもと関わっていた	本児と担任保育士Bがかけっこを始めた場所が鉄棒付近で、同じ場所で年長児が鬼ごっこをしていた。場の状況をみて、かけっこに適したスペースで遊ぶべきであった。担任保育士は、自クラスの子どもの動きには目を配っていたが、他クラスの子どもの動きについては配慮不足であった	クラス間で遊びの状況を共有すること、職員間で声を掛け合い、時間やスペースを分けて園庭を使用する。3歳以上児は、3歳未満児が同時に園庭に出ている時間帯には、鬼ごっこやリレー、サッカーなどの激しい運動は控える	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8769	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	13									3	3	3歳	2.女児	骨形成不全症の診断あり（行動制限は特になかった）	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左手部圧挫傷左第４中手骨骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１０)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度（３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（３６)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	ままごとあそびのコーナー用マットを２枚敷き遊んでいたが、ままごと遊具を並べていたため、遊びの場所が狭くなっていた。	遊びの場のスペースを広くとる。興味のある遊びを他の場所にも設定し、子ども達が分散して遊べるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	マットの上に座り、ままごと遊びをしていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	担当職員は、保育室の廊下側に位置しており、保育をしつつ全体を見守っていた。テラス側に座っている本児が視界に入っていた。踏まれたのを見てすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	一人は支援の必要な子どもを中心に保育し、もう一人は他の子ども達の保育をしていた。	本児や他児の成長が進むにつれ、活発に行動するようになってきている中で、骨折の危険性が増す可能性があることを今まで以上に考えて保育をする必要があった。	子どもの状態等を踏まえ危険な動きや怪我が起こりそうな事を予測し、職員の連携を密にする。また当該園児の保護者とより一層連絡を密にし、必要な安全管理に努める。	
8770	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	15									2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（1)回/年	1.基準以上配置		園庭で自由遊びの見守りは、保育士がどの位置にどの方向に向いていればよいかを全職員共通理解するため園内研修を行う。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年		対象年齢も3～5歳児が使う雲梯であるが、思わぬ落ち方をすることもあるのですぐに対応できる位置に見守りの体制が必要。	3.個人活動中・見守りあり	運動場に設置されていたので、靴の裏に真砂土の小石がついていて階段を滑ったことも考えられる。	遊具付近に足の泥を取るマットを敷いたり、遊具下のマットをこまめに掃除をしたりする。	1.いつもどおりの様子であった	本児は、雲梯ができなかったが、最近ぶら下がれるようになったことを喜んで繰り返し練習をしていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の遊具で遊ぶ子どもの見守りを行っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	砂山で遊んでいる子どもの見守りを行っていた。		全体の子どもを見守れる位置に立ち、保育士が子どもたちに背を向けない。また、雲梯は、今の時期に必ず子どもたちが挑戦するので、保育士はそばにいること。	
8771	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75				20	27	28			4	4	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（3)回/年	2.基準配置	子どもの発達段階と危険予測についての認識。	子どもの運動発達について再確認。	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１３)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２)回/年	鉄棒の高さが園児の身長にあっていなかった。	挑戦する際は、保育士が補助をする。	1.集団活動中・見守りあり	同年齢の男児数名と鉄棒付近におり、鉄棒にぶら下がり、逆上がりのような体勢をとっていた。年齢、運動発達の未熟さ。	遊具の安全な遊び方を再度確認する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	年齢以上のことに挑戦していた。	4.対象児の動きを見ていなかった	至近距離ではあったが、たまたま対象児を見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭のそれぞれの配置についていた。	固定遊具からの落下の危険を認識し、安全に活動できるように見守りをする。	挑戦意欲は認めつつ、見守り補助の下で挑戦するようにする。	
8772	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	18									1	1	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左モンテジア骨折	3.子ども同士の衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置		特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	3.個人活動中・見守りあり		本当に転んだだけでも骨が折れる事があるという事を、職員で共有するとともに、保護者にも伝えていく努力をする。	1.いつもどおりの様子であった	特に変わった様子もなく、普段通りであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	全体を見ながら、本児が転んだところも見ていたが、骨折をするような転び方ではないと思ったが、念の為、副主任保育士に見てもらった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児が少し痛がっていたので、骨折も視野に入れて添え木の代わりになるもので固定し、腕を吊って応急処置をした。		特になし	
8773	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									3	3	5歳	2.女児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足背部打撲傷左第5中足骨骨折両足痛	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（１４)回/年	1.基準以上配置	子どもの混雑が予想される時間帯と場所に、不要なカバン掛けがあることに対し、職員の危機管理意識が薄かった。	全職員対象に、保育の日常における危機管理に対する意識を高める取組を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(36)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	カバン掛けが倒れる際、脚が折れていることから、カバンかけを立てた時に脚のロックがきちんとかかっていない状態だったのではないかと推測する。	カバン掛け使用の際は脚のロックをきちんと確認するように職員に周知するとともに、すべてのカバン掛けを再点検し、必要であれば買い替える。	1.集団活動中・見守りあり	午睡前に使ったカバン掛けを片付け忘れ、廊下に置いたままになっていた。	子どもの移動する動線を考慮し、不要なものは使用後すぐに片付ける。	1.いつもどおりの様子であった	午睡から機嫌よく起き廊下に出て上靴を履いていたところ、他児のぶつかったカバン掛けが本児の左足の上に倒れてきた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	すぐそばで、午睡前に使ったカバン掛けが廊下に置いたままになっていたことに気付き、もう一つのカバン掛けをたたんでいた。本児の足にカバン掛けが倒れたのを見てすぐに対応した。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児の保育や支援を要する子どもへの対応、また午睡後の布団の片付け、おやつの準備等を行っていた。	片付け忘れていたカバン掛けの危険性に気付くのが遅れた。午睡後子どもが移動し始めた時点で気づき片付けていたが間に合わなかった。	全職員が安全意識を高め、危険を予測し対応できるようにする。また気付いたことは職員間で共通理解し連携を密にとるようにする。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8774	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	2									3	3	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置		普段より、子ども達が遊ぶときは職員の配置に留意している。各クラスでヒヤリハット発生時には、記録をつけ職員間で回覧し起こりやすい事故を意識している。また、全保育所でも把握し、話し合うことはできている。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(約260)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		引き続き安全点検を行い、ヒヤリハット研修をすることで職員間で起こりやすい事故を未然に防ぐための共通認識を図る。	1.集団活動中・見守りあり		遊びのルールや内容について子ども達と確認したり、遊びの振り返りをしたりして職員だけでなくクラス全体で気をつけて過ごすことができるようにしていく。	1.いつもどおりの様子であった	追いかけっこをしていたため、転倒するかもしれないという予測をして声かけをするべきであった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	職員の配置は、適正だったと思われるが、本児の行動から目を離すことはあった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	複数の遊びが展開していたため、職員は各所に配慮してはいたが、本児の転倒した場面は見ていなかった。		子ども達の人数、遊びの内容、場所などを工夫していく。	
8775	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	19									13	13	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	安全柵の高さは50センチ	遊具・園庭器具は用途外の使い方をしないように子ども達に周知する	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		特になし	1.集団活動中・見守りあり		より安全に見守るために、配置基準の改善	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	落下の瞬間は見ていなかったが、安全柵の近くにいることは認識していた。通常の遊びの範囲内であれば安全柵にもたれかかったり、安全柵の近くにいるときには見守りの範囲として妥当なため、特段の注意を払っていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	至近距離で見ていたわけではなかったが、遠くから他児と一緒に安全確認を行っていた。		特になし	
8776	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	29									22	16	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左尺骨肘頭骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		付き添いの職員が全体をしっかり見渡し、危険を察知できるよう、職員間で再度確認を行った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		渡り棒の下にクッション性のあるゴムチップを張っているが、定期的に点検を行い、けが防止への有効性を保っていく。	1.集団活動中・見守りあり		職員の意識を高め、引き続き見守りをしっかりと実施していく。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	外遊び中に園児が広く散らばっている中で、全体を見渡していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	外遊び中は、担当職員2名に業務を任せ、施設内にて各自の業務を遂行していた。		外遊びの範囲が広い場合は、他の職員の応援を仰ぎ人員を増やす。	
8777	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	5	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15				3	6	6			3	1	4歳	1.男児	なし	7.登園・降園中(来所・帰宅中)	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨転子部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置		送り迎え時における職員の配置について、全職員と話し合い再度繰り返さないように徹底した	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年		施設回りの危険箇所についての点検を日々の生活の中でも行っていき、その都度、スタッフ同士で共有する	7.その他		送り迎えの混雑時に起こったこともふまえ、落ち着いた行動をとるように子どもや保護者に促す	1.いつもどおりの様子であった		4.対象児の動きを見ていなかった	児童を保護者に受け渡した後、他の保護者と応対していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の保護者と応対していた。		子どもから目を離さないこと、子どもが見えないところにいないかどうかを確認し合うなど、スタッフ間でのやりとりを丁寧にする	
8778	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	37		16		21					4	4	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右橈骨尺骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1～2)回/年	2.基準配置	多数の遊具の中、担任1名は保護者とのお迎え対応をしており、残りの職員で全体を見守らなければならない状況であった。その為、対象児の傍についてはいたが、他園児に目を移してしまったタイミングで事故がおきてしまった。	使用する遊具を多数にせず、遊具をしぼる。危険を伴う遊具には、必ず直ぐに手が出せる至近距離で1名つく。基準以上の職員配置を検討する。	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		衝撃が、より軽減できる保護マットを導入する。	1.集団活動中・見守りあり	比較的運動能力が低い対象児だった為、傍について見守ってはいたが、普段から鉄棒にぶら下がったりの経験はあったので、援助を伴う見守りではなかった。	日頃から鉄棒の握り方やぶら下がり方の指導はしているが、今一度正しくできているかの確認と、できていない園児については手が外れても直ぐに対処できる場所で、見守り援助をしていく。基準以上の職員配置を検討する。	1.いつもどおりの様子であった	午後からのおやつ後、普段は帰りの会をした後保育室で過ごすが、この日はおやつ後久しぶりに遊戯室で遊んだ。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児が、朝から他児に手を出す事が多かった為、数人で鉄棒で遊んでいる際には、至近距離でみ守っていたが、その内対象児が一人で鉄棒に残ってぶら下がっていたので、安心して多人数の遊具の方へ目を向けてしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎え対応や他園児の見守りをしていた。	多数の遊具の中、担任1名は保護者とのお迎え対応をしており、残りの職員で全体を見守らなければならない状況であった。その為、対象児の傍についてはいたが、他園児に目を移してしまったタイミングで事故がおきてしまった。	使用する遊具を多数にせず、遊具をしぼる。危険を伴う遊具には、必ず直ぐに手が出せる至近距離で1名つく。基準以上の職員配置を検討する。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	事故発生時期 時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8779	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	38									2	2	5歳	2.女児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	コーナーでの転倒による骨折も想定しているが、直後の児からの痛み等の訴えやその後の様子に変化がなかったので、対応が遅れた面がある。	転倒などが生じた場合は、その後の経過に注意する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	3.未実施	実施頻度)回/年	コーナーの曲率が大きくとりにくい。	かけっこのコーナーについてなるべく曲率を大きくとるようにする	1.集団活動中・見守りあり	コーナーでの転倒は予想しており、すぐに対応できるようにコーナー地点に保育士を配置していた。	児の全力走行中の転倒であり、予防は困難と考えるが、その後の処置と保護者への連絡を密にする。	1.いつもどおりの様子であった	張り切って、運動会の練習に参加していた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	かけっこのスタートの合図をおこなっていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	コーナー部分で見守っていた	スタート地点、コーナー地点の各保育士はかけっこ中の子どもの動きを注視していたが、転倒は防止できなかった。	転倒は生じるものとして、職員全員の対応力をより強化する。	
8780	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	20									2	2	4歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右大腿骨骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		職員会議において事故予防対策を行う	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		ハード面の要因は考えられないので特に改善点はなし	1.集団活動中・見守りあり	代替の職員が担当していたので子どもたちもいつもより落ち着かない様子(保育士に甘えたり、立って遊ぶ等)があった。	代替保育士が入る場合の注意点(子どもの様子や対応について)の意識を高める	1.いつもどおりの様子であった	代替保育士に甘える様子がある	1.対象児とマンツーマンの状態(対象児に接していた)	当該園児を含む2名の園児をかわりばんこにおんぶしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	休憩時間中であった		保育室から離れる場合の職員同士の意識(状況把握、コミュニケーション)を高める	
8781	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	21									2	1	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	7.その他	遊戯室ステージのカーテンが開いていた。	カーテンが開いていることで、上がりやすくなっていたので、常に閉めておくようにする。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	朝から興奮気味で午睡をしておらず、気持ちが高ぶっていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	保育室を行ったり来たりしながら、対象児に声をかけていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児への対応をしていた。	特になし	朝からの子どもの状態を把握し、行動を予測し危険な行為に繋がらないかを常に意識し保育する。また職員間で連携を図り、声をかけあうようにする。	
8782	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	4	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	61				21	20	20			6	6	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	左鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	特になし。	特になし。	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	砂場に遊んだ後の穴が数カ所あった。	遊んだ後、必要のない穴は埋めておく。	1.集団活動中・見守りあり	砂場の穴に足を取られ、転ぶことはあまりなかった	砂場での遊び方を子どもたちと再確認した。	1.いつもどおりの様子であった	事故発生時、本児は数名の友達と砂場で遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	当番保育士は各配置場所近くで子どもたちと関わっていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	居残り当番の正規保育士は全体の様子を把握しながら、降所する子どもや保護者に対応していた。	事故発生時、本児は数名の友達と砂場で遊んでいた際、砂場を移動していた。	子ども達に砂場での遊び方を伝えるとともに、砂場の状況を把握し、危険個所があれば改善する。	
8783	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	26				16	4	6			3	2	5歳	1.男児	天候は晴れで、園庭は湿っていなかった。	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘内側骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	特になし	再度、事故防止マニュアルの確認を行うよう全職員に周知	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(1 2)回/年	園庭には所々に芝生やクローバー等の草が生えている。当日、草は湿っていなかったが、カーブを曲がる際にそこで滑ったとも考えられる。	園庭の芝生や草の状況についても、安全点検時には確認をするよう、安全点検簿の項目に追加する。	1.集団活動中・見守りあり	保育士の見ている所で起こったが、他児との接触があったわけでもなく、一人で転倒したのでその時はどうする事もできなかった。	子ども達の間でかけっこをして遊ぶ姿がよくみられ、この日も走って保育室の方に向かってきたが、その時にあわてなくても良いことやカーブになっている所は気を付けるように言葉かけをしておけば良かったように思われる。	1.いつもどおりの様子であった	運動会でかけっこを経験してからは、走るのが早くなり自信もついてきたようで、よくかけっこをしている姿を見かける。ただ、かけっこでは直線を走っていたので、カーブを曲がることには慣れていなかったと思われる。スピードにのったまま右カーブにさしかかり、足がもつれたような形で転倒した。その時右肘が体の下敷きになっていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	片付けを終え、走りながら靴箱の方に向かって帰ってくる子どもたちをテラス付近で待っていた時、間近で対象児が転倒するのを見たがどうする事も出来なかった。対象児は転倒しても泣くことも無く自分で立ち上がり「血は出てないから大丈夫」と担当職員に伝えに来たので、外傷や痛い所が無いか等を確認した。特に異常も見られず、他の子どもたちと一緒に変わりなく保育室に戻って行った。（転倒した時に近くに子どもはおらず、接触をしての転倒ではない。）	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	対象児を含む５名以外の子どもたちは、園庭遊びを終えてすでに保育室に戻っていたので、職員２名も一緒に部屋に戻っていた為、対象児の動きを見ていなかった。	かけっこをするときは直線コースを走っており、カーブを走り慣れていないことも原因かと思われる。	遊びの中でいろいろなコースを走る体験をしたり、カーブを曲がる時の体の使い方等を伝えるようにしたい。（体幹を鍛える遊びを取り入れる等、工夫をする。）	
8784	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	58				15	18	25			6	6	5歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	特になし	1.集団活動中・見守りあり	遊具からジャンプして降りようとしたとき、着地に失敗し、肘を打ち付けた	安全に遊べるよう遊具の下にマットを敷く	1.いつもどおりの様子であった	鬼ごっこで逃げているとき、遊具からジャンプした	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園庭で鬼ごっこの様子を見守っていたが、対象児との距離があり、対応が間に合わなかった	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	園庭で他児と一緒に別の遊びをしていたため、見ていなかった	鬼につかまらないよう、少し慌てていた	鬼ごっこの時は、遊具には上がらないよう約束をし、周知する	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要／認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期／月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制／発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳／0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子ども／年齢	性別	特記事項	事故状況／発生時状況	事故の転帰	死亡／死因	負傷／負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析／ソフト面／マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面／施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面／教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面／対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8789	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	59									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右撓骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(6)回/年	2.基準配置	特になし	園庭全体の子どもの動きに目を向け、危険を予測したときには声をかける。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	鉄棒の下にマットを敷いているが、衝撃がもっと柔らかくなる物を検討している。	3.個人活動中・見守りあり	特になし	年長児で活動範囲も広く人数も多いので、見守りのもう1人保育士を増やす。	1.いつもどおりの様子であった	活発によく動き、あちらこちらに興味を示している。鉄棒に座る動きは、今までも行っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くにいて、鉄棒をしていることは知っていて気を付けていたが、集団遊びに参加しており特に声はかけなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	少し離れたところで他児の見守りをしていた。	保育士達は、本児が、今迄何度も同様の遊びを行っていたため、「大丈夫だろう」という気持ちがあった。	鉄棒をしている時は子どもには必ず側につく。鉄棒の時間を決める。	
8790	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	75			20	15	19	21			6	6	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	1.基準以上配置	園庭にいる保育士全員が、全体を見ることができていなかった。	クラス関係なく全体に目を向け、危険を予測し行動、声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	特になし	子どもの遊び方を想定して物の設置を考える。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達の導線を考慮しての物の設置の不足	子ども達が過ごす場においては、子どもの遊び方を想定して物の設置を行い、実際にその付近での遊び方等を保育士が個々に確認・理解し、危険があれば設置場所を変更する。また、それぞれの場所で実際に遊ぶ子供たちの様子を都度確認し、危険が予測される場合は声を掛けを行い事故防止に努める。	1.いつもどおりの様子であった	通常通り、変わりなく元気に園庭遊びを楽しんでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児の友達とのかかわりを近くで見て確認していたが、特に声をかけることはなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当クラスの園児を中心に、遊具等で遊ぶ様子を見守っていた。	砂場横でごっこ遊びをしている対象児達への声かけの不足	その場にいる保育士全員が、あらゆる箇所に目を向け、クラス関係なく危険を予測して都度声掛けを行う。	
8791	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	3	13							4	4	1歳	2.女児	畳の部屋であるが、４０センチほどのカラーボックスをおき、マットも敷いていた。カラーボックスからの飛び降りをしたがった本児が、着地した際の、保育士の支えが十分でなく、転倒してしまい、未然に防ぐことができなかった。	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨折亀裂骨折（ひび）1ヶ所右橈骨亀裂骨折（ひび）1ヶ所	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2～3)回/年	2.基準配置	子どもの発達段階を把握しづらい状況だった。	園内研修により、リスク管理、日頃の遊びの中での危機意識の高揚を図る。	1.定期的に実施	実施頻度(５００)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(４８)回/年	飛び降りるという遊びが、２歳になっている子どももいたが、本児にとって、適切な遊びではなかったかもしれない。	カラーボックスから、飛び降りるという遊び方が、１歳児にとっては、子どもによって無理な場合もあると考えられるので、年齢に応じた適切な安全な遊び方の、再考が必要。	1.集団活動中・見守りあり	本児にとって適した遊びではないのではという職員間での判断や連携がとれていなかった。	１歳児であったので、しっかりと両脇を支えて下に降ろすべきだった。または、他のトンネルくぐりなどの違う遊びに誘うべきであったかもしれない。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	他児が、カラーボックスより、飛び降りているのをみて、自分もしたいとカラーボックスの上に上がったので、支えてすれば大丈夫だと思った。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	カラーボックスの横につき、対象児に対しては、マンツーマンで接していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	１人は、他児のおむつを替えており、３人で見守りをしていたが、対象児の動きは、担当者しかみていなかった。	落ち着いた気持ちで、じっくりと関わっていれば動きへの対応もできたのではないかと思う。	全体を見守り、気になる箇所に、職員がつかなければならないので、危険予知訓練等を行い、子どもの動きに絶えず目を向けることを周知徹底する。	
8792	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	40									6	6	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	衣服のフードが枝にひっかかるという発想がなかった。	柵の外に出て飛んだので、柵からは出ない事、どうして出てはいけないかを子どもたちと話し合った。また、滑り台付近にあった立ち木の枝を切った。子どもたちの服装についても、フードつきの衣類を着用しているときには気を付ける等、事故発生の原因を職員に周知して、それぞれが意識できるようにしていった。どんなことも事故につながるという危機意識をもつことを話し合った。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(293)回/年	立ち木の枝が伸びていた。	立ち木の手入れをしていく。	1.集団活動中・見守りあり	おやつの時間を知らされ、一緒にいた友だちが先に飛び降りたので、同じように飛び降りた。いつも通りで特に周りに何があるかということは気にしていなかったと思う。	子どもたちがどういう行動をとるか見極めて声掛けをするようにする。	1.いつもどおりの様子であった	いい天気だったので、普段どおりの様子で、園庭に出て見晴らしのいい石垣のところに上がり遊んでいた。園庭で遊んでいたのは5人くらいになっていた。他の子ども達はおやつの準備を始めていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	担当職員は、休憩中だった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同じクラスの加配保育士３名と年長児のもうひとクラスの職員が計７名が連携をとりながら休憩をとっていた。事故発生時は、室内には４名、園庭には2名の保育士がいたが、一人はおやつの声をかけてから室内にはいるために後ろをむいていた。もう一人は、片づけをするため倉庫に向かっていた。その時に飛び降りた。	年長児ということもあり、本児にとっては飛び降りれる高さだったので、声をかけたまま見届けないで片付けに行ってしまった。	職員同士がお互いに声掛けあい子どもから目を離さないようにする。年長児だから大丈夫という過信をしないで見届けをする。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | |

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8804	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	29					15	14			1	1	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左母親基節骨骨線損傷	4.玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	2.なし	1.定期的に実施	実施頻度(４)回/年	2.基準配置	事故予防に関して報告、改善はしていたがさらに検討が必要であった。	報告だけでなく、事例や過去の事例の見直しを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	活動に参加する人数に対して活動の場の面積が適していなかった。	密になりにくように、活動人数に応じて活動の場をその都度見直し対応していく。	1.集団活動中・見守りあり	近距離から蹴ったボールが本児は避けたつもりが避けきれず偶然手に当たった。	サッカーをする際のコートの面積の見直し、ルールや遊び方を再度伝えキーパーがボールを蹴る際他児はコート半面離れるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	日頃より活発に体を動かして遊ぶのを好み巡回サッカー教室を通してサッカーへの関心が高まりサッカーを好んで遊んでいる。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	視界に入っていたもののすぐにかばえる位置にいなかった。経過観察をし、腫れ、痛みもある為担任が母親へ連絡する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	すぐさま看護師へ状況を伝え冷やしながら経過観察を行う。	１つの園庭で複数の活動（遊び）をしていた。	活動（遊び）の内容について見直しを行い見守りがしやすいように改善していく。	
8805	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	3.昼食時・おやつ時	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	39	1	10	7	7	8	6			11	11	4歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置		研修については引き続き積極的な参加をしていく。また、早急にマニュアルを作成するようにしたい。	1.定期的に実施	実施頻度(４０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(４０)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(随時)回/年	落下したところが硬くなってしまっている土面であった。	ゴムチップ舗装を行うようにした。	1.集団活動中・見守りあり		昼食後の集団活動中であったが、特に環境面で問題はなかった。	1.いつもどおりの様子であった	通常の方法で遊んでいたので特に問題はなかった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	少人数であったため、担当保育士は至近距離でこどもの動きを見ていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	その他のこどもの保育を行っていた。		至近距離で見ていたため、細かな事故報告ができた。特に今回問題点は見当たらない。	
8806	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	12									1	1	3歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置		事故防止マニュアルを周知徹底する。予想される危険を察知し、職員配置を決める。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(随時)回/年		今後も安全点検を徹底し、危険な箇所等があれば至急改善する。	1.集団活動中・見守りあり		活動内容を振り返り、疲れが出たり、注意力が落ちる状況だったかを反省し、活動計画の改善を図る。	1.いつもどおりの様子であった		3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	対象児から離れたところで対象児を見ていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他のクラスはまだ園庭に出ていなかったので、ほかの職員は園庭には不在。	散歩後すぐの園庭遊びだったため、休憩を取らせて体力、集中力の回復を図った方が良かった。	子どもの特性を知り、ケガや事故に合わないように細心の注意を払う。	
8807	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	37				10	13	14			12	11	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左足骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	危険な遊びをしていないか目を配る	職員全員が全体に目を配る	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	三輪車の走行場所を決めていなかった	夕方の遊具の使い方、遊具の使用台数を見直す	1.集団活動中・見守りあり	予想がつかない行動をとった	三輪車の乗り方、スピードの出し方等を話し合う	1.いつもどおりの様子であった	変わった様子はない	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	いつも通り全体を見ていた	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	いつも通り全体を見ていた	目の届かないところで遊んでいた	職員全員が全体に目を配る	
8808	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	4.3歳児クラス	10									2	2	4歳	1.男児	なし	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	2.顔面(口腔内含む)	額挫創	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(3～4)回/年	2.基準配置	公園に着いてからの活動内容や注意事項を保育士間や子どもと共有することが不足していた。	散歩のねらいや注意事項を事前に保育士間や子どもと共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(3)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(49)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	石畳のため凸凹している。	目的地に着いたら子どもたちに走ると滑りやすいことを知らせるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	通常あそび慣れた所ではなかった。	園外に出るときには、注意事項を子どもと共有する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	公園に着いて興奮して保育士の手を振り切って走ったので注意の声が聞こえず、足元の安全にも注意がいかなかったと思われる。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	公園に着いて本児が手を放して走り始めたので、注意するよう声をかけたが間に合わなかった。他の子どもたちを集めて落ち着かせ座って待機させた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	本児に注意する声が聞こえたので振り向くと、滑って倒れていたので、抱き起して応急処置をした。保育所にケガをしたことを電話連絡し、応援の要請をした。	本児は気持ちが興奮すると注意の声が耳に入らなくなるので、特に注意して個別の配慮をする必要があった。	目的地に着いたらまずは落ち着かせて、危ない所や石畳の上は走ると滑りやすいことを知らせるようにする。	

| No | 初回掲載年月日 | 概要 | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載更新年月日 |
|---|---|---

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 掲載 |
|---|---|---

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8819	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	2.午前中	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	16									2	2	6歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右肘骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置		職員体制等はしっかり行っていたが、今回コンクリート上での怪我が生じたので今後コンクリート上は危険個所と認識し子ども達に声掛けをしていきます。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年		雨で水溜まりが出来滑る場所に修繕としてコンクリートを張り水の流れを良くし転倒を防いでいたが遊ぶ場所としては危険個所として認識しました。	1.集団活動中・見守りあり	コンクリートの地面の上に木材の家造りを行ったことが要因と考えられます。鋼管パイプのポールにぶら下がることも危険と判断致します。	コンクリート地面の上では家造りは行わない。鋼管パイプのポールにぶら下がらないことをルールとして決めた。	1.いつもどおりの様子であった	特に日常の姿と変わりなくいつも通りに遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	園庭でいつも通り子ども達の動きを観察していたが、対象児がジャンプする一瞬の出来事であり止めることが出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他の子どもたちの動きを観察していた。	コンクリート地面の上での遊びに関しては特に注意しておく必要がある。	コンクリート地面上では如何なる状況であれ危険があるということを認識園庭での土の上の状況と同じと考えないように予測する。	
8820	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	1	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	59	3	9	12	10	13	12			9	9	5歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左第５指骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	2.基準配置	行事中の園児への配慮(平常保育より園児がはりきって行動するため)	リズム室内での保育士の位置や園児への配慮を確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	特になし	廊下は木製であり、建築以降ワックスなどの処理は施していない。	1.集団活動中・見守りあり	特になし	毎月行う通常の行事である。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	誕生者であった為、気分が高揚していた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	保育士1名が誕生者10名を誘導していた。転んですぐ手を差し伸べた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	近くで見える位置にはいたが、他の園児を見ていたため当該園児を見守ってはいなかった。	保育士１名が誕生者１０名を誘導していたが、並びながら歩きだした。	きちんと並び揃ってから歩き出す。列の後方に保育士を配置する。	
8821	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	20									1	1	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.基準配置		定期的にマニュアルの読み合わせを行い確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(数)回/年		園庭整備、整地をこまめに行う。	1.集団活動中・見守りあり		園庭整備、整地をこまめに行う。	1.いつもどおりの様子であった	友だちとおうちごっこ中、手をつないで歩いていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	園庭で全体の見守りをしていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	園庭で全体の見守りをしていた。本児の泣き声に気づき声をかける。		今まで以上に子供の動きに目を配る。	
8822	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	11									1	1	5歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	橈骨の関節側が骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	当日は、園児11名に対し担任1名の保育士を配置。5段が跳べるようになった本児。マニュアルや園内研修において、遊具についての保育士の立ち位置についても確認をしていたが、当日は子どもの思いを優先にしてしまい、保育者1名に対して3台の遊具を出していた。	跳び箱が2台と鉄棒も出ていたので、跳び箱一台にし、低い段から進めていき子ども達の様子を見ながら段を重ねていく方法をとるようにする。再度、職員全員でマニュアルなど、園内研修で取り組んできたことを確認し実践する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室、屋上、園庭などにおいては、安全チェックシートがあったが、プレイルームにおいては、隣の4歳児保育室のチェックシートと一緒にしてチェックしていた。	再度、プレイルームのみの安全チェックシートを作り、一人ひとりの危機意識を高めていく。	1.集団活動中・見守りあり	園児は11人だったが、配慮すべき遊具の数が多いのではと考えられる。保育者の他の遊具で遊ぶ子ども達への気配り等もあり、万一鉄棒や跳び箱4段で遊ぶ子どもの何かあると対応が出来るか	運動遊びをする場合は、配慮すべき遊具（跳び箱5段）ひとつに絞り、短時間で楽しむ	1.いつもどおりの様子であった	本児なりに出来なかったことが出来るようになり、張り切っていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	積極的に取り組む本児の援助にあたっていた。しっかりと跳んでいたので滑り込むように着地をした時には、驚いた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	—	事前に運動遊びに入る前に子ども達と共に起こりうるケガなどについて話し合う。保育者に対して「分かっているだろう」の過信があった。	事前に跳び箱などで起こりうる事故などを子ども達や保育者間で確認する。跳び箱は、一台のみ置き段階を経て一段ずつ重ねていくようにする。保育者間の危機意識を高くもち、注意を払うことを再確認する。	
8823	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	10				5	5				3	3	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	左母趾中足骨骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(6)回/年	1.基準以上配置	園児10名に対し1名の保育士を配置。休憩時間を設けつつ遊びを楽しんでいたが、4歳児クラスのもつ大縄跳びの記録を目指し、挑戦する本児の姿がみられたので本児の思いを優先にしてしまった。回数多く跳んでいた本児の体力や足などにかかる負荷について配慮すべきだった。また、マニュアルはあるものの発達に応じた配慮が足りなかった。	子どもの思いを受け止めつつ危ないことなどを明確化（運動靴を履くなど）し伝えていく。「今日は、こんなに跳べたからこれで終わりにしようね。今度挑戦しようね」などと声をかけ、適度なタイミングを図り終了する。また、職員等と子どもの発達について再度確認をしていき、実践していく。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	保育室、屋上、園庭などにおいては、安全チェックシートがあったが、プレイルームにおいては、隣の4歳児保育室のチェックシートと一緒にしてチェックしていた。	再度、プレイルームのみの安全チェックシートを作り、一人ひとりの危機意識を高めていく。	1.集団活動中・見守りあり	数人の子ども達が大縄跳びを楽しんでいたので、順番が回ってくることが早かった事で、益々張り切り対象児自身と保育者も体（足）の異変に気付かなかった。	休憩時間を確保しつつ安全に遊ぶことを伝えゆったりと楽しめるように配慮する。	1.いつもどおりの様子であった	4歳児の大縄跳びの記録を超えることに本児も張り切っていた。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	対象児が大縄跳びをしている際の縄を回している。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	各コーナーの専属となり、他の子ども達の遊びを援助していた。	子どもの思いを優先にしてしまい、普段の対象児の遊びが静的遊びを好むことから体力的なことも含め運動遊びの安全面について認識不足があった。	子ども達と共に予測される事故等について話し合う。職員全体で危機意識を高くもち、注意を払うことを再確認する。また、専門の先生（体育講師）からの講座や園内研修を計画し、日頃の保育に活かしていく。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8824	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	1.朝(始業～午前10時頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	49		11	7	12	10	9			6	2	4歳	1.男児	通常通り、園庭自由あそびをしていた時のことで、職員の数も十分ではあったが、担任が来客対応中で見守りが十分だったとは言えない。その旨保護者にも伝え、謝罪。翌日、傷の状態を確認するため受診し、さらに、5日後に抜糸。痂皮形成しているので、それが剥離すれば完治となる。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部外傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	普段なら園児に直接声をかけて防げている事だが、来客もあって見落としがあった。	来客対応に入る職員は、必ず他の職員を代わりに見守りに入るよう声をかけ、人員確保してから来客対応すること。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	ベンチそのものは後部にあるフェンスに紐で結んで倒れないように対策していたが、地面に多少の傾きがあり、グラグラしていた。その上、背もたれに座った園児がバランスを崩して事故につながったと思われる。	当日はベンチの足にぐらつきがないように、スポンジマットを入れて傾きを調整。園児(特に年長児)にも、危険な座り方をしないように、その日のうちに事故防止のための共有をした。その後、ベンチは撤去した。	1.集団活動中・見守りあり	普段から自由あそびの際には職員が一か所にとどまらず、離れてまんべんなく見守りに徹するようにはしているが、この日はいつもとは違う「来客」があった。結果、見守りが徹底できなかった。	担当職員が見守りに困難さがある時には他の職員(園長含む)に応援を頼む。	1.いつもどおりの様子であった	ベンチ近辺で虫探しをしたあと、何気なくベンチの座面に立ち、背もたれの上に座ったら、バランスを崩して後方に倒れた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児を全体的に見ながらの来客対応をしていたが、当該園児の動きまで視野には入っておらず、危険回避のための声かけが難しかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	当該園児の担任も同じ園庭に立っていたので、年少クラスの園児の動きに注意を払っており、危険回避のための声かけまでには至らなかった。	他の職員は、年少クラスの園児の安全確保を優先しなければならず、年長児の動きまで配慮することが難しい状況だった。	これ以上の職員の人員確保が難しいので、常に危険がないかを各自で気を付けて見守ることに徹する。園庭では職員は接近せず、各自の持ち場で、まんべんなく見て、危険を予測し、園児に声をかけられるように意識する。	
8825	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	9	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	80				25	31	24			8	8	5歳	2.女児	障がい児支援保育対象児１対１の対応。癇癪を起こす状況を避ける・注意をひきつける等の配慮を行っている。	2.室内活動中	1.負傷		5.口腔内受傷	2.顔面(口腔内含む)	歯牙打撲・上口唇裂傷	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/年	1.基準以上配置	―	マニュアルには事故の原因が園児同士でも園児本人の不注意であっても言及しないとあるので見直しすべきか指導を仰ぐ。これまで同様配置基準の徹底・マニュアルの読み合わせで共有する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	―	改善点なしこれまで同様点検を欠かさず行う。不備があれば瞬時に対応する。	3.個人活動中・見守りあり	―	改善点なし。これまで同様活動の前後の慌ただしい時間は園児の様子を確認しながら自分の持ち場を守り役割りを遂行する。	1.いつもどおりの様子であった	５歳児が練習ができるように舞台上に和太鼓が２台置かれている。触って良い時間ではないことを知らせるために×印があるが本児にはそのルールの遂行は難しいので片付けておくべきだった。	1.対象児とマンツーマンの状態（対象児に接していた）	おやつ後の顔拭きがまだなので太鼓をたたくのを止めさせ誘うが、嫌がった為手を繋いで舞台から保育教諭は後ろむきになり降ろし部屋へ移動させようとする。他の保育教諭から後ろに園児がいることを聞いて安全確保のために足を上げた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児を担当している加配保育士が後ろを見ていなかったので声をかけて安全を知らせた。	―	後ろ向きは危険なので行動を改善する。事前に次にすべきこと伝え手をつないで部屋まで移動すべきであった。	
8826	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	4.3歳児クラス	26									3	2	4歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右脛骨骨幹部骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/月	2.基準配置	遊具の片づけの際中は子どもの活動を見る	遊び方の見直しが必要。遊び方のルールを定める	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/月	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	ソフトブロックの片づけの最中、ブロックの上に登っていた。	片づけの時は遊ばないように声かける	1.集団活動中・見守りあり	ソフトブロックの片づけの最中、ブロックの上に乗った。	片づけの時は遊ばないように声かける	1.いつもどおりの様子であった	日頃、使用している遊具であるが、片付けの合図をしたが、本児は未だ遊んでいた	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具を片付けている最中であった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	離れた所で子ども全員をみていた	他の職員は子ども達全体を見ていた	他の職員は近くで子どもを見守り声掛けを行う	
8827	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47	2	8	4	10	14	9			2	2	2歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左上腕骨顆上骨折の疑い	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	2.基準配置	―	園内研修では実際園で起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測について話し合い危機管理の意識を高められるようにしたい。安全管理についての研修の回数を増やし、定期的に見直していく。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	―	園庭の固定遊具が年齢に合っているものなのかを改めて見直し、今回の事故から危険だということで判断したので、そこに登ろうとする園児（特に年少児）がいれば、必ず職員がそばにつくことを徹底する。遊具の劣化や破損による危険箇所がないか毎日の安全点検でケガへのリスクを抑えるようにする。	1.集団活動中・見守りあり	―	子どもの成長に伴って行動範囲が広がるなか、安全に見守れる範囲を考える。場合によっては、固定遊具の使用を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	身体的にできることが増え、固定遊具に積極的に登ろうとする姿が見られた	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	他の固定遊具に他児がいて、そこについていた為、本児の側につくことができなかったが、本児の動きを見守り「危ないよ」と声をかけていた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	上記と同じく、他の固定遊具に他児がいて、そこについていた為、本児の側につくことができなかったが、本児の動きを見守っていた。	―	固定遊具に保育士が必ず配置するようにする。見守りだけでは支えてあげられないので、配置が難しい状況であれば、固定遊具の使用を制限する。職員同士の連携、声の掛け合いの徹底。	

No	初回掲載年月日	概要・認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期・月	時間帯	発生場所	発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳・0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況・発生時状況	事故の転帰	死亡・死因	負傷・負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析・ソフト面・マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面・施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面・教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面・対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8828	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	1.施設敷地内(室内)	3.2歳児クラス	29									5	5	3歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	睡眠、食事、水遊びに関する事故防止マニュアルはあるが、全体的な事故予防マニュアルは作成されていない	全体的な事故予防マニュアルを皆で検討して作成し、職員に周知する	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(52)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(580)回/年	玩具の点検は日に2回に行っていたが、要因となった牛乳パック台が、子どもが立つ位置によっては多少滑りやすくなっていることに気付いていなかった	台の下に滑り止めを敷き、滑らないようにするまた他玩具に対しても、これまで以上に危険がないか点検し、必要があれば改善する	3.個人活動中・見守りあり	台の高さはさほどないものの、運動があまり得意ではない本児が、他児がジャンプしているのを見て、「やりたい」と思って挑戦したと思われる	個々の運動能力を十分に見極め、不安な様子があればすぐ近くで見守ったり、必要であれば手を添える等、安全第一の援助をするまた子どもの挑戦したい気持ちも大切にしたいことから、さらに低い台を用意して徐々に高くするなど、発達相応の高さの遊具を使用する	1.いつもどおりの様子であった	元気に登園し、活動している。食欲もいつもと変わりなく、15時頃検温36.4度。特に変わった様子は見られない	2.対象児の至近で対象児を見ていた	近くで他児を含めて本児のことも見ていたが、ジャンプするその瞬間は見ていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同保育室の各コーナーで見守りをしていた。1人はお迎え対応もしていた	保育士1人がお迎え対応をしていたため、残り保育士4人で28人を見ている状況4人で保育室全体を見渡せていなかった本児が台の上に立っている段階でジャンプすることを想定すべきだった	保育室全体を見渡せる職員配置をするまたお迎え対応で園児から目が離れる場合は、必ず、保育室にいる他職員全員に聞こえるような声で伝える	
8829	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	11									4	4	6歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	胸腰椎圧迫骨折	5.他児から危害を加えられたもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	お迎え時間で、保育士が保護者対応等を行っており見守りが不十分であった。また、怪我をした場所は避難経路であり遊ぶ場所ではなかった。	保育士同士が声を掛け合い安全に留意し保育を行う事。遊ぶ場所ではないところに園児が行かないよう園児にも丁寧に伝えていく。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	ー	避難経路の階段でありその場では遊ばないようにする。	1.集団活動中・見守りあり	保護者対応の為、園児への見守りが不十分になっていた。	避難経路の階段なので、その近辺に保育士を配置し安全を見守っていく。	1.いつもどおりの様子であった	遊ぶ場所ではない、避難経路である階段に座り遊んでいた。	4.対象児の動きを見ていなかった	保護者対応中で対象児から目を離していた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別の園児のトラブルに対応しており見ていなかった。	降所時間で、保護者対応もしながらの保育であり、職員間の連携が必要だが連携不足があった。	安全に遊ぶため全職員・園児で遊ぶ場所、危険について確認し再発防止に努める。	
8830	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	11	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	25									31	21	6歳	1.男児	無し	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	不明	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1.集団活動中・見守りあり		利用定員の減少と保育士配置基準の見直し	1.いつもどおりの様子であった	元気で登園している	4.対象児の動きを見ていなかった	日課として遊戯室でリズム運動を一緒にしていた	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	2階にある大ホールで普段と同じようにピアノに合わせたリズム運動を楽しくしていた。	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	
8831	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	4.3歳児クラス	27									31	21	4歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	不明	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	2.基準配置		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(300) 回/年		保育士配置基準の見直し希望、利用定員の減少希望	1.集団活動中・見守りあり		利用定員の減少と保育士配置基準の見直し	1.いつもどおりの様子であった	元気で登園している	4.対象児の動きを見ていなかった	園児の行動も把握しながら他の園児のお迎えの対応	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎えの対応もしながら園児たちと共に遊んでいた（保育する）	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	利用定員を減少、保育士配置基準の見直し	
8832	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	6.5歳以上児クラス	24									3	3	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右腕ヒビ	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(3)回/年	1.基準以上配置		予想される子どもの行動について把握し、気を配って見守る。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		当園外施設の為、改善策なし	1.集団活動中・見守りあり		職員の見守る配置	1.いつもどおりの様子であった	楽しそうに遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	子どもの動きを見ていたがすぐに助けられる距離ではなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	周りの子どもに目を配りながら写真を撮ったり、見守っていた。		上り降りする際気をつけるとの声かけ、子どもの動きやその時の子どものテンションから考えられる注意を予想する。危険だと思う場所に職員の立ち位置の確認。	
8833	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	3									1	1	6歳	1.男児	当日の朝、母親の不注意で車のドアに側頭部をぶつけた為、様子を見るようお願いされていた。一日通して変わった様子はなく、本人も「全然大丈夫」といい元気だった。	1.屋外活動中	1.負傷		4.創傷(切創・裂創等)	1.頭部	頭部外傷	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	3.未実施	実施頻度(0)回/年	2.基準配置	ー	園庭遊び及び遊具での危険な箇所を探したり、遊び方、使い方を職員同士で話し合う機会を設けてもよいと思う。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	危険な箇所を見落としていた。	遊具を固定している金具の為、動かす事が出来ないので飛び出ないよう覆いかぶせるなどの対策が必要だと思う。	1.集団活動中・見守りあり	狭い空間と足場が悪いといった環境が重なったと思う。	子どもの遊びの姿を見ながら、危険な動きまたは遊び方をを見かけた際は、声を掛ける。遊ぶ前に、遊具の安全性や周りに怪我に繋がる物がないか確認する。	1.いつもどおりの様子であった	怖がる様子もなく、両手両足を使い、壁をよじ登っていた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	落下し転倒する様子も分かるが、遊具の外側で遊びを見守っていたので手が届かず受け止める事が出来なかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	室内遊びと園庭遊びの二つに分かれていたので、他の職員はクラス部屋にいた。	本児から距離がある場所で見守っていたので、支える事が出来なかった。	子どものやってみたいという気持ちも大事にしたいので、環境面が整っていない場所では、落下、転倒しないよう支えるなどの配慮が必要である。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8834	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	34					20	14			4	4	5歳	2.女児	―	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左腕の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(2)回/年	1.基準以上配置	特にソフト面での不備は考えられない。コロナ渦により、子どもの運動発達の低下が要因と考えられる。	子どもの運動発達を促す遊びや環境つくりの研修を多く取り入れる。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	特にハード面の不備は考えられない。コロナ渦により、子どもの運動発達の低下が要因と考えられる。	管理人もいらっしゃってしっかりと管理されており、年齢相応の遊具を設置していて、遊具の下も砂場になっていて万が一転落しても衝撃が吸収されるようになっているので、ハード面での問題点は思い当たらない。	1.集団活動中・見守りあり	コロナ渦により戸外遊び等で身体発達を促す保育があまりできていなかった。	コロナ渦により園外保育の機会が減り、子どもたちの身体能力もやや低下しているので感染予防に気をつけながら戸外遊びを多く取り入れていく。	1.いつもどおりの様子であった	公園内では２か所（駐車場側とプール側）の遊具遊び場があるが、そのうちのプール側遊具エリアで遊んでいた。プール側エリアには、幼児用アスレチック遊具とブランコ、ターザンロープがある。本児は幼児用アスレチック遊具で遊んでいた。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	幼児用アスレチックが見渡せる場所に立ち、全体を見守っていた。本児の遊ぶ姿は見ていたが、落下時にすぐ手が伸ばせる場所にたっていなかった。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	職員は、ターザンロープ、ブランコ、幼児用アスレチック遊具にそれぞれ一人ずつ付き、もう一人は水分補充をしながら全体を見守っていた。	特に人的面の不備は考えられない。コロナ渦により、子どもの運動発達の低下が要因と考えられる。	今回も担任２人＋フリー保育士２名が引率していて、各遊具に一人ずつ、なおかつ死角がないような箇所で見守っていた。今後も園外保育の際は引率の職員は基準より多く配置していく。	
8835	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	2	7.午後	1.施設敷地内(室内)	6.5歳以上児クラス	21									2	2	6歳	1.男児	特になし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（2）回/年	2.基準配置	園児と共に活動する中で、目を反らした一瞬の事故だった。	活動における保育士の全体把握と、園児自身の安全管理意識を高めるようにする。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度（1）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（290）回/年	今回のケースに遊具の要因はみられない。	―	1.集団活動中・見守りあり	遊びの環境構成として、ござをコーナー作りに使用。そのござに上がる為に上履きの着脱があり、その際靴下のまま走り転倒へ繋がった。	遊びコーナーの作り方を工夫し、上履きの着脱なしで遊べるようにする。また、子ども達自身への安全管理意識を高める投げかけを行う。	1.いつもどおりの様子であった	ゴザに上がる為に上履きを脱いで、履かないまま遊具の片付けに走ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	園児と一緒に室内を片付けながら、次の活動の為のテーブルセッティングをしていた。同じ室内での活動だったが、当該園児の方向を向いていなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	同室内にて園児と一緒に片付け。他児への対応をしていた為、当該園児のケガの瞬間は見ていなかった。	上履きを履いていない事に気づいていなかった。その為注意の促しが足りなかった。	クラス全体の把握（上履きの有無）が出来ていなかった。共に活動しながらも、俯瞰で園児を見守れるようにする。複数担任による役割分担を今一度確認する。	
8836	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15	3	12							4	4	1歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	3.体幹(首・胸部・腹部・臀部)	右鎖骨の骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度（1）回/年	1.基準以上配置	マニュアルに沿った研修不足	マニュアルの読み合わせ等を行い、事故予防に対する知識を深める	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	1.定期的に実施	実施頻度（４８）回/年	遊具の手すりの高さが低かったため	手すり位置の部分に網を取り付け、高さを出した	1.集団活動中・見守りあり	夕方、初めての合同保育でもあり、職員間の連携不足	遊ぶ前だけではなく、毎朝の遊具の安全点検を行い、園庭等に出る前には立ち位置、声かけの確認をする。職務会等においで、振り返りをし、声かけや立ち位置の再確認をする。安全のために大型遊具の下にマット等を敷く	1.いつもどおりの様子であった	遊具手すり部分で立ち止まり、前傾姿勢になった	4.対象児の動きを見ていなかった	遊具の手すり近くにいた職員が他の子のおむつ替えのため室内に戻った	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	立ち位置を変えずに目の前の子ども達の見守りをつづけた	初めての夕方の合同保育で子ども達の動きが予測できなかった	持ち場を離れる際に、残った職員で、持ち場を離れた職員がいた場所の子ども達の安全確認をし見守る。	
8837	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	15		3	4	1	5	2			2	2	4歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨顆上骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度（6）回/年	1.基準以上配置		お迎え対応時の職員配置を考える。マニュアルの周知、徹底をする。	1.定期的に実施	実施頻度（１２）回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(200)回/年		遊具の危険性、扱い方を職員で共有する。	1.集団活動中・見守りあり		職員の人数に合った遊びの場所、遊びを考える。	1.いつもどおりの様子であった	５歳児が鉄棒をしている様子をみていて、真似をしてみたとみられる	4.対象児の動きを見ていなかった	鉄棒の近く（少し前の方）で見ていたが他に走る子がいたのでそこに目を向け、再び鉄棒の方を見た時には対象児が落ちる瞬間で間に合わなかった	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	お迎え対応でその場を離れていた。		遊具側での活動は職員配置の人数が必要になるので、職員数が少ない場合は広場側で遊ぶようにする。	
8838	令和6年3月4日	1.認可	7.小規模保育事業	3	1.朝(始業～午前10時頃)	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	16	4	6	6						6	4	3歳	1.男児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)		2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	職員の見守りの配置が固まっており、十分な見守り、声かけができていなかった事	すぐに子ども達に対応できるよう配置場所を決め見守りの強化を行う。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	転倒事故の為、床の滑りや床の硬さなども要因となる事が予測できる。	床の滑りには定期的にワックスをかけ滑りを強化する事や、スポンジマットやクッションを使用し安全強化を行う。	1.集団活動中・見守りあり	遊び終わった玩具が片付けられることなく放置されていたため、それに足を滑らせて転倒してしまった。	遊び終わった玩具を片付けてから次の遊びに移行する事を教える事、保育者は常に環境整備を行い安全に子ども達が活動する事ができるようにする。	1.いつもどおりの様子であった	気に入った場所で遊んでいたが、忘れた玩具を取りに行こうと思いつき急に走りだしたこと	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	登園時の受け入れを行っていた事、いつも安全に遊んでいる事や他の職員も見ているため少し離れても心配ないと思い込んでしまった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	全体を見守りながらも、いつも安全に遊んでいるため他の気になる子を見ていた際に発生した。	職員の見守りの配置が固まっており、十分な見守り、声かけができていなかった事	すぐに子ども達に対応できるよう配置場所を決め見守りの強化を行う。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの 年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8839	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	47	2	8	4	10	14	9			11	8	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		6.その他	4.上肢(腕・手・手指)	左小児肘内障	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	―	園内研修では実際園で起きた具体的な事例等をあげて、予防策や危険予測、事故後の適切な対応を共通理解し危機管理の意識を高められるようにしたい。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	―	固定遊具の安全チェック、転倒につながるものはないかを確認する	1.集団活動中・見守りあり	―	最近は夕方の子どもたちの様子に落ち着かない状況が見られたことから、園庭に出る前にお約束事を再確認して遊ぶなどの工夫を行う。	1.いつもどおりの様子であった	お友だち同士、追いかけっこなどをして活発に遊ぶ姿があった。	4.対象児の動きを見ていなかった	他の場所に立ち全体を見守ったりお迎えに来た保護者対応をする動きではあったが、本児の衝突の瞬間は見ていなかった。他職員から衝突の報告を受け、冷やして様子を見る処置を行った。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	別のトラブルに対応していた際、近くで大きな声で泣いた本児に気付き、本児と他児が転倒した状態を発見する。二人に話を聞き、衝突したことが分かった。本児が左腕を押さえて泣いていたので、担当保育士を呼び状況を説明した。	―	トラブル対応時は出来るだけ子どもに背を向けず、いつでも全体が見渡せる状態でいること。園児の体にケガがないか詳しく視診を行う。（今回は本児が左腕を押さえていたので、腕の曲げ伸ばし、上がり下がり、手の開き具合を見る必要があった。）	
8840	令和6年3月4日	1.認可	3.保育所型認定こども園	12	7.午後	1.施設敷地内(室内)	5.4歳児クラス	17									1	1	5歳	2.女児	なし	2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	5.下肢(足・足指)	右足小指骨折	8.その他	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(4)回/年	2.基準配置	特になし	特になし	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(292)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(48)回/年	ロッカーの上に玩具箱を置いていた	施設の安全チェック内容の再確認。ロッカーの上に置いて危険な物を見つけた時には、その都度下ろしていく。ロッカーの上には落下して危険な物を置かないよう全職員へ周知。	1.集団活動中・見守りあり	食後の時間で、担当職員は全体的に部屋の様子を見守っていたが、掃除中で対象児を注視してみていなかった。	部屋全体の危険確認を丁寧に行う。掃除をしていても、子ども達一人ひとりに目配りを行う。	1.いつもどおりの様子であった	対象児がロッカーの上の玩具を取って良いか保育士に尋ね、「いいよ、待っててね」と伝え、保育士が取ろうとしたが、「いいよ」の言葉でOKと思い、先に取ってしまった。	4.対象児の動きを見ていなかった	全体的には見ていたが、対象児を注視して見ていなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	特になし	スイミングの際には、コーチがいつもと違うことで、子ども達のテンションが高く、ふざけることが多かった。プールサイドからは保育士が目線を送っていたが、ふざけてしまっていた。	一人ひとりの子ども達の動きをしっかりとみる。スイミングでは、子どもが落ち着かない時には、必ずそばまで行って子どもへ行動を促していく。	
8841	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	9	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	22				11	11				4	2	5歳	1.男児	ギプス固定	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右尺骨骨幹部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/年	2.基準配置	事故報告書を記入し、職員で共有している。	走る際は前を見るなどの注意事項を確認する。	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(290)回/年	―	園庭に危険物がないか、普段から確認する。	1.集団活動中・見守りあり	周りに歩いているお友達がいる中で、蛇行して走り、前から歩いてくる職員を咄嗟に避けたが、避けた先に友達がいることに気が付かず衝突した。	走る時には周りを見ながら進むよう伝える。	1.いつもどおりの様子であった	走ることに夢中になり周りが上手く見えていなかった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	近くにはいたが他児への対応をする為支える事ができなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	保護者対応や衝突した場所とは離れていた為支える事が出来なかった。	―	遊びを始める前に、走る時は周りを見て進むなどの約束事を確認する。	
8842	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	11	7.午後	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	7				3	1	3			2	1	5歳	2.女児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨遠位端骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	2.基準配置	傾斜を駆け下りるときとコンクリート面の危険性を伝えていなかった。	危険性を職員、児童に周知する。	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２)回/年	小高い丘から駆け下りた先がコンクリート面だった。斜面は芝が生えており、平地ではなかった。	児童が走る際は、保育士が配置する。	1.集団活動中・見守りあり	小高い丘を勢いよく駆け下りたため	公園での危険個所について改めて職員間に周知。見守りと声掛けの強化。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通り活発に駆け回っていた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	対象児と他児童が遊んでいるところを見ていたが、対象児が転んだ時には間に合わなかった。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	他児童の様子を見ていて、気がついた時は対象児は転倒していた。	危険があると考えられる場所なのに職員がその場にいなかった。（少し離れた場所にいた）	危険個所（転落、転倒の可能性がある）所に人を配置する。	
8843	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	10	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5.4歳児クラス	10									1	0	4歳	1.男児	特になし	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	3.未実施	実施頻度()回/年	2.基準配置	ブランコを使用できるようにしていなかったため、本児が無理な遊び方をした。	座面を梁に括り付けているのは、ブランコの周囲に保護柵がなく、園児のケガを心配したためだが、保護柵を設置するなどして、遊具として本来の形で使用させたい。	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(2)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(12)回/年	無し	無し	1.集団活動中・見守りあり	無し	無し	1.いつもどおりの様子であった	降園を前に、本児を含め、園児たちはわくわくしながら遊んでいた。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	担任のスタッフは、至近距離にはいたが全体を見渡す位置に立っていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	本児から近い距離にいたが、他のグループの園児を見守っていた。	ブランコがあった場所には人工芝が敷いてあり、ブランコの高さもあまり高くはなかったので、担任の保育スタッフは本児がケガをするとは考えられなかったという油断があった。	今回の事故を教訓にして、さらに園児の行動に注意を払いたい。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8844	令和6年3月4日	2.認可外	10.事業所内保育事業（認可）	11	2.午前中	3.施設敷地外(園外保育先・公園等)	7.異年齢構成	9	1	1		3	1	3			3	2	4歳	1.男児	無し	1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	上腕骨骨折	1.遊具等からの転落・落下	2.なし	2.不定期に実施	実施頻度(1)回/2年	2.基準配置	子ども9人の遊ぶ範囲を限定せず、6種類の遊具で広域で遊ばせていたため。	保育士の目の届く範囲で、遊具を限定して遊ばせる。	2.不定期に実施	実施頻度(２４)回/年	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	遊具ではなかったので危険性を確認できていなかった。	遊具に限らず、公園内の設置物全体の点検をする。	1.集団活動中・見守りあり	子ども達がそれぞれ遊びたい場所(遊具)で遊ばせてしまったため。	その時の子ども達の状態や保育士の人数に応じて遊具を制限する。	1.いつもどおりの様子であった	前回りが出来るようになり、保育士に見て貰いたがっていた。	4.対象児の動きを見ていなかった	ブランコを勢いよく漕いでいる他の児童に気を取られていたため。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	自分が担当していた子どもを見ていたため。	公園での遊び方を徹底していなかった。	遊具でない物で遊ばないなど、事前に園児に危険な事をしないよう伝えていく。	
8845	令和6年3月4日	2.認可外	18.その他の認可外保育施設	8	7.午後	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	5	0		1	1		1			4	4	6歳	2.女児		2.室内活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左橈骨頚部骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	2.不定期に実施	実施頻度(24)回/年	1.基準以上配置		改善点なし	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	使用の都度	1.定期的に実施	使用の都度	カーテンの裾が床に触れる長さであったため、カーテンを踏みながら転倒した可能性も考えられる。	仕切りのカーテンの裾上げ縫いをし、床につかないサイズへ改善した。	3.個人活動中・見守りあり	普段はカーテンを暖簾のように引き上げて入室していたが、覗いたり隠れたりするあそびを発見して気分が高まり、頭でカーテンを押しながら前方が見えない状態で入室してしまったと考えられる。	全員入眠中の時間帯のみ、仕切りカーテンを使用するようにする。	1.いつもどおりの様子であった	機嫌よく過ごしていたが、カーテンを利用しての遊びにテンションが高まり、いつもと違う行動を起こしてしまった。	2.対象児の至近で対象児を見ていた	午睡室内（幼児室）で他の子の着替えの見守りをしていた。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	1名は、調理室にておやつの配膳準備、他の1名は室外の清掃作業中。	対象児の行動から起こりうる危険を予測することができなかった。	事故発生翌日に現場検証を行い、事故についての詳細を全職員で共有した。また、再発防止のための意見交換を行い再発防止に努める。	
8846	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	3	ー	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7.異年齢構成	31					17	14			2	1	5歳	2.女児	診断等はないが、発達面で支援が必要なため個別に見守りを行っている。	8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	骨折	8.その他	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(２　)回/年	1.基準以上配置	特になし	正規保育士と保育補助を配置しており、加配対象として常に至近距離で見守りを行っているため。	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１２　)回/年	事故がどこで起こったが不明である。	施設設備に危険な場所がないか職員全員で点検を行った。	7.その他	普段から怪我をした場合は、思い込みがないよう、本児と話をし納得できるように説明しているが、帰宅前に痛がって泣いた際に、本児から理由を聞きとれなかった。	子どもが痛みを訴えて来たときは原因や理由を聞き、注意深く確認しておく。また、配慮が必要な児童について職員全体で共有しているが、再度話し合いを行う。	1.いつもどおりの様子であった	登所してから長時間保育に至るまで、泣いたり、トラブルになったり、痛みを訴えてくることはなく、普段と変わりなく過ごした。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児は集団から外れたり、いつまでもテラスにいて部屋に入ってこないこともあるので、全体の子どもを見守りつつ、対象児から離れたところからでも常に意識して本児の行動を把握していた。	1.担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	日中は支援の必要なこどもと一緒に保育補助が本児の様子を至近距離で見守っていた。集団から外れやすいことを職員全体で共有しており、長時間の時も全体を見守りながらも意識的に行動確認を行っていた。	痛がった時に保護者と確認し保冷剤で冷やして帰宅してもらったが、「なぜ痛くなったのか」や「指が曲げられるかどうか」等の確認をしなかった。	子どもが普段と違う姿であったり、怪我の可能性がある場合は、注意深く原因を確認する。保護者に対して説明できるような確認を必ず行う。	
8847	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	10	2.午前中	1.施設敷地内(室内)	7.異年齢構成	30	1	4	3	6	10	6	0		6	6	5歳	1.男児		8.その他	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	左前腕骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(4)回/年	1.基準以上配置	・職員同士の連携不足。	・土曜保育の職員配置の見直し。 ・職員同士の立ち位置や声掛け等の連携の取り方の確認。 ・園内の危険個所の再確認と周知。	1.定期的に実施	実施頻度(12　)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(１)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(使用の都度)回/年	子ども達が、土曜日という事もあり気持ちが高揚しいつもと違う行動をしてしまった。	・子ども達と階段の上り下りの仕方を再確認する。 ・土曜日保育の引継ぎの仕方を確認し周知する。	1.集団活動中・見守りあり	いつもと変わらずに階段を上っていたが本児とその周りの子の気持ちの変化に気付けなかった。	・当たり前に行っていることであっても、子ども達と定期的に確認し周知する。	3.いつもより活発で活動的であった(理由を記載)	階段を上っている際に気持ちが高揚してしまい、一段抜かしして上ってしまった。	3.対象児から離れたところで対象児を見ていた	３人の保育士が先頭、階段の踊り場、最後尾に分かれて子ども達の様子を見ながら対応する。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	集団で一斉に階段を上っていたため、一人ひとりの動きを見られなかった。	・本児と周りの数人の気持ちが高揚していた。 ・階段を抜かして上るとは予想できなかった。	・子ども達と階段の上り下りの仕方を再確認する。 ・以前よりも職員間で立ち位置に気を配り、連携を強化した。 ・土曜日保育を行うにあたって子ども達について情報の共有（一人一人の性格、その週の様子など）をして保育にあたる。	
8848	令和6年3月4日	1.認可	6.認可保育所	5	8.夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	6.5歳以上児クラス	49									2	2	5歳	1.男児		1.屋外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	右上腕骨外顆骨折	1.遊具等からの転落・落下	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(１　)回/年	1.基準以上配置	今まで事故や怪我もなかったことから危険箇所という認識がなかった。	危険箇所としての認識を持ち、同じようなことが起こらないように努めていく。	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/月	1.定期的に実施	実施頻度(２)回/月	高さがあるので複数人が登っているとより危険である。	登って遊ぶ場合には、人数の制限やすぐそばでの見守りが必要である。	1.集団活動中・見守りあり	職員の見守りが適切ではなかった。	職員が見守り出来る範囲で遊ばせる。	1.いつもどおりの様子であった	いつも通りオブジェに登っていたが、足を滑らせて落下した。	4.対象児の動きを見ていなかった	対象児から少し離れたところで別の園児達を見ていたため落下した時は見ていない。	2.担当者・対象児の動きを見ていなかった	担当職員よりも近くにいたが、対象児が落下するところは見ていない。	対象物が園庭の端の見えにくい場所にあること。職員が園児の見えていない位置での見守りを行っていた。	対象物は使用しない。職員は園児がしっかりと見える位置で見守りを行う。また、見守りできる範囲で遊ばせる。	

No	初回掲載年月日	概要 認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期 月	時間帯	発生場所	発生時の施設・事業体制 発生時の体制	人数	異年齢構成の場合の内訳 0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他	教育・保育等従事者	うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	事故にあった子どもの年齢	性別	特記事項	事故状況 発生時状況	事故の転帰	死亡 死因	負傷 負傷状況	受傷部位	診断名	事故誘因	事故発生の要因分析 ソフト面 マニュアルの有無	事故予防研修	実施頻度【回/年】	職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面 施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面 教育・保育・育成支援の状況	その他要因・分析、特記事項	改善策	人的面 対象児の動き	理由	担当職員の動き	具体的に何をしていたか	他の職員の動き	具体的に何をしていたか	その他要因・分析、特記事項	改善策	掲載更新年月日
8849	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	12	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	57	2	10	12	16		17			9	9	4歳	2. 女児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	右上腕骨顆上骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度(2)回/年	2. 基準配置		遊具の安全な使い方を再度職員で周知し、事故への認識や危険に対する知識を共有すると共に子どもの行動を予測して注意深く見守る。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日・1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日・3)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年		今後も点検を継続していく。	1. 集団活動中・見守りあり		園庭が狭小のため、園庭活動時間をクラス毎に重ならないよう時間配分を行う。	1. いつもどおりの様子であった		3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	担任は離れたうんていの側で他児を見守っており、本児が転倒した際はすぐに駆け寄ることができなかった。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	近くにいた職員が本児の泣き声で転倒に気付き、対応した。		固定遊具には必ず職員が付くよう職員同士で声をかけあい、鉄棒付近に入らないように赤線で目印をつける。	
8850	令和6年3月4日	1. 認可	3. 保育所型認定こども園	10	2. 午前中	3. 施設敷地外(園外保育先・公園等)	5. 4歳児クラス	21									3	3	4歳	1. 男児	先天性内反足（左脚）※日常生活において問題なし	1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	右脚部脛骨骨折	3. 子ども同士の衝突によるもの	1. あり	1. 定期的に実施	実施頻度（1～2）回/年	1. 基準以上配置		安全に対する意識を高く持ち、リスク回避のための検討会議を頻繁に行う。	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/日	1. 定期的に実施	実施頻度（1）回/日	日常的に使用している●●公園について、利用前には慣例的に安全点検を行っているが、きちんと業務化がされておらず、安全点検チェックリストが未作成。	●●公園の環境や遊具の安全点検チェックリストを作成する。	1. 集団活動中・見守りあり	鬼ごっこ遊びをしている園児は、広場を自由に走り回って遊んでいた。	広場で遊ぶ際の使用方法や子どもの人数を再考する。	1. いつもどおりの様子であった	普段と特に変わった様子なし。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	園児が各々に好きな遊びを楽しむ時間であったことから、本児から４～５m程の距離で本児や他児を含め、全体的に動きを見守っていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	公園内でポイント毎に保育士を配置し安全確認の上で見守っている。	本児の動きを事前に予測し、危険を回避できなかった。	鬼ごっこ等の接触の危険がある遊びは、保育士主導の下で行う。その際は、子ども達にもしっかりと遊びのルールを伝える。	
8851	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	2	2. 午前中	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	2. 1歳児クラス	10									2	2	2歳	1. 男児		2. 室内活動中	1. 負傷		2. 骨折	4. 上肢(腕・手・手指)	左示指末節骨骨折	4. 玩具・遊具等施設・設備の安全上の不備によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度２回以上/年	3. 基準配置		保育園内で事故・けがの起こりやすい場所、時間など過去の事故報告、データーの報告について、研修の実施。自園のヒヤリハット報告の閲覧実施後の検討会実施。	1. 定期的に実施	業者による実施頻度　１回/年 保育士による実施頻度　朝夕/毎日	1. 定期的に実施	業者による実施頻度　３回/年 保育士による実施頻度　朝夕/毎日 主任保育士による実施頻度 １回/月	1. 定期的に実施	保育士による実施頻度　朝夕/毎日 主任保育士による実施頻度随時/毎日 保育士による実施頻度　４回以上/１年	子どもたちの見える、手に触れることが出来る場所にある事や、止水栓の場所の確認の為に、止水栓の蓋の上のカバーを外していた。その後、カバーをしていなかった。	子どもたちの目に触れたり触ることが出来たりしないように、止水栓の蓋の上にカバーをする。	3. 個人活動中・見守りあり	何にでも興味関心を持った物に対して、見たり触れたり確認したい年齢であった。	子どもの年齢発達的な興味を理解し、安全面から危険と予測できる物には、目に触れることが出来ないように、カバーをしておく。また、保育士は連携を持ち子ども達に手を伸ばしたら届くような位置に居ながら見守る。	1. いつもどおりの様子であった	機嫌の悪さがあった。次の活動への切り替えがしにくい。	3. 対象児から離れたところで対象児を見ていた	本児の機嫌が落ち着くまで見守りながら、他児の部屋に入る為に靴を脱いだり靴箱に入れたりの援助をしていた。	2. 担当者・対象児の動きを見ていなかった	テラスにて、他児の靴を入れる援助や、手洗いの援助をしていた。	本児に対して保育士は、手を伸ばしたら届く位置ではなかった。また、止水栓を職員や業者が確認する必要があり、以前に蓋の上にカバーがされていたが、確認後カバーがされていなかった。	子どもの目線から考え、危険に繋がることはないか、常に安全の目線を持って環境整備に努める。活動前には保育環境を目視したり実際に活動の場所に行き確認したりする。保育士が声を掛け合いながら、適切な位置で子どもたちに援助をしていく。靴箱の位置を乳児園庭の近くに移動し、子どもたちの動線が室内に入る際に最短になるようにする。	
8852	令和6年3月4日	1. 認可	6. 認可保育所	3	8. 夕方(16時頃～夕食提供前頃)	2. 施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	7. 異年齢構成	32				10	10	12			5	5	6歳	1. 男児		1. 屋外活動中	1. 負傷		2. 骨折	5. 下肢(足・足指)	左足関節外果裂離骨折	2. 自らの転倒・衝突によるもの	1. あり	2. 不定期に実施	実施頻度２回以上/年	4. 基準配置		職員同士で情報共有を行い、子どもが安全に遊べるよう、子どもの行動を注意深く見守っていくようにする。	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日・1)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日・３)回/年	1. 定期的に実施	実施頻度(毎日　)回/年		今後も点検を継続していく。	4. 個人活動中・見守りあり		職員間で十分連携をとり、築山から降りる際はスピードが出ることもあることを共有し、そのような場面を見たときは声をかけるようにする。	1. いつもどおりの様子であった	鬼ごっこをしている時、築山から駆け下りた。バランスを崩し、足首をひねった。	2. 対象児の至近で対象児を見ていた	鬼ごっこを一緒にしていた職員が本児の泣き声に気づき、すぐに駆け寄ることができた。	1. 担当者・対象児の動きを見ていた(至近距離にいた)	対象児とは少し離れたところで他児の様子を見守っていたため、駆け下りてバランスを崩したときはすぐ駆け寄ることができなかった。		子どもが活動している時の保育者の立ち位置や連携の取り方について、園全体で話し会うとともに遊具などの使い方によっては事故につながることを意識して見守るようにする。	

| No | 概要 | | | | | 発生時の施設・事業体制 | | | | | | | | | | | 事故にあった子どもの | | | 事故状況 | | | | | | | 事故発生の要因分析 | | | | | | | | | | |

No	概要						発生時の施設・事業体制											事故にあった子どもの			事故状況								事故発生の要因分析																															掲載更新年月日
	初回掲載年月日	認可・認可外	施設・事業所種別	事故発生時期		発生場所	発生時の体制		異年齢構成の場合の内訳							教育・保育従事		うち保育教諭・幼稚園教諭・保育士・放課後児童支援員	年齢	性別	特記事項	発生時状況	事故の転帰					事故誘因	ソフト面																																	
				月	時間帯			人数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳以上	学童	その他							死亡	負傷					マニュアルの有無	事故予防研修		職員配置	その他要因・分析、特記事項	改善策	ハード面																													
																							死因	負傷状況	受傷部位	診断名				実施頻度【回/年】					施設の安全点検	実施頻度【回/年】	遊具の安全点検	実施頻度【回/年】	玩具の安全点検	実施頻度【回/年】	その他要因・分析、特記事項	改善策	環境面				人的面																
8857	令和6年9月10日	1.認可	6.認可保育所	12	7.午後	2.施設敷地内(室外・園庭・校庭等)	5歳以上児	21								2	2		6歳	1.男児	なし	1.昼外活動中	1.負傷		2.骨折	4.上肢(腕・手・手指)	鎖骨骨折	2.自らの転倒・衝突によるもの	1.あり	1.定期的に実施	実施頻度(1回/年)	1.基準以上配置	転倒した状況が死角のため目撃できなった。	園庭の状態を踏まえ、死角による危険性や事故を防ぐために、保育士の配置場所の確認等を保育士間で共有するとともに、おお友達との遊びの範囲について園児に声掛けを行う。	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(週1回)回/年	1.定期的に実施	実施頻度(毎日)回/年	霜が溶けて泥となった園庭に足跡が凹となっている状態の危険性を認識できなかった。	直ぐに園庭に平ぐにならすことは困難なため、遊びが可能な範囲に園児に声掛けをする。	1.集団活動中・見守りあり	園庭での自由あそび(14人)、「鬼ごっこ」遊び。	園庭の状態を説明し、遊びが可能な場所の範囲や遊びに園児たちが約束する。	1.いつもどおりの様子であった	いつもどおりで、特に変わった様子はなし。(日頃から活発な子ども)	4.対象児の動きをみていなかった	築山で死角になっていた。	2.担当者・対象児の動きをみていなかった	保育室で卒園アルバムの制作活動の保育にあたったため。		死角による危険性や事故を防ぐことが出来るように、複数の職員で保育士で配置場所の確認等行うとともに、保育室の保育士とも共有する。	